

四を示し、温度の如きも平均七七%にして多少北陸型を帯ぶ。本市は中仙道分

す。同三十年市制を布き長野市となる。大正十二年隣接せる吉田町・三輪村・芹

都度再建せらる。武田信玄の遺を略す

釋迦堂、源義經の忠臣佐藤嗣信・同忠信

等あり。「花岡平」善光寺の北方、大峰

て、建保二年遷にこゝに入寂、のち遺念

玉鶴の爲に本寺を創建す。寺寶に善光寺

布引山脈の東斜面にて西南端上に堂取山

部。大和川の支流石川上流の谷に位し、面積僅に四・三五方軒、ほぼ人字形をなし東北富田村と相臨する約六軒、南は三日市村・高向村に、西は天野村に接す。部の南境を東西に連る葛城山脈の北麓にて、その紀伊見峠より下る石川、蔵王峠より北流する西條川の複合扇状地に位し、土地概ね平坦、水田と果樹園よく拓く。米を主とし葡萄・蜜柑・梨等の果實の産少からず。石川に沿ひて南下する東高野街道・社線大阪線、電車と堺市より天龍川谷を経て来る西高野街道・社線南海線(電車)高野線との二街道・二電車線の接合點をなし、長野驛(明治三十一年開業)あり。部の南部の物資の集散地たり。この地は和名抄、錦部郡百濟郷の内にして中世は高向庄と稱せし地なり。往時、百濟人の聚落この附近にあり、中世に高野街道の要衝として行旅の客に賑へり、上原の八幡宮の傍に用明天皇の孫高向王の墓あり。(格樂寺)大字吉野にあり。融通念佛宗、錦山。元亨元年、時宗中興法明、宗門弘通のため富國巡攝の御、攝河二州に建立せし六別寺の一。いま富國中本山にして郡内の名刹たり。寺内に奉齋堂あり、聖徳太子開創の温泉寺の遺蹟なりといふ。

九年まで長野村と稱せり。仲哀天皇の遷我長野西陵は藤井寺町に存す。【長野村】和歌山縣紀伊國西牟婁郡の西北部。田邊町の東北方約八軒の山村にて、これと高向・三橋二村を隔つ。面積二二方軒餘。東境の横山・七九六米、西境の高塚山(六〇六米)の山地にて、合津川の支流三橋川北境に發し西南流して西部の山谷を下り、西南部に小低地をつくる。米・繭・柑橘等の農産あるもその額多からず、外に林産あり。田邊町より東方に向ふ熊野街道の中途路は東南部の山背に通じ東隣栗柄川村に出づ。交通概して便ならず。【長野】豊前國(福岡縣)の古地名。和名抄に企救郡長野郷あり、その地今の小倉市の一部及び曾根町の邊に當る。【長野】筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に怡土郡長野郷あり、奈加乃と訓す。その地今の錦島郡長野村の邊に當り、大字長野はその遺蹟なり。【長野村】續紀、聖武紀に見ゆる筑紫賀島の古村名。天平十二年十一月太宰府にありて叛きたる藤原廣嗣が逃れて捕へられし地。賀賀島とは今の五島列島の總稱なるが、長野村は何れの邊なるか明かならず。

互る。東は砂嘴の南東より平出する夜見ヶ濱半島により美保灣を蔽て、俄に島根半島との間なる中江瀬戸により外海に通ず。西は大橋川により突進湖に通ず。湖岸線の延長九五・八三軒、面積一〇・一六方軒。もとは美保灣より西方弁港灣に通ずる海峡の一部なりし、其後、地盤の運動、河川の沖積作用、波浪の堆積作用等により現在の形をなし、中に玄武岩の噴出により生ずる大根島・江島浮ぶ。湖の西岸より北岸に沿うて湖盆は急斜し、湖畔に接し深度六米に達する溝状の區域あり、中江瀬戸にも深度七・九米の深溝あり、中海の排水及び潮流の遺流により割られ局所的に深さ一四米の處あり。水温は夏季表面二九度、底部二五度。鹽分は中江瀬戸にて直接外海に通ずるを以て海水は常に往來し従つて鹹水なるも、突進湖の排水を受けるを以て大體海水の三分の二位といふ。透明度は三・四米。プランクトンは多く夏には赤潮を生ずといふ。水産物としてはオゴノ・アカガヒが主なるもの、底質は黒色泥泥なり。湖奥に米子、排水口に境の港あり、湖上の舟楫盛んなり。【中海】中海、(後)。

【中海】中海、(後)。

【中海】中海、(後)。

て神野々・野上中の二群(大正五年設置)ありて交通便なり。本村出身の歴史的人物に、井澤彌兵衛(贈五位)あり、江戸中期の水利家にして徳川吉家に仕ふ。武藏國足立郡見沼澤井の新田開發を命ぜられ、周圍十餘里の酒地の水を引用に通じ、新田を開き利根用水を引きて灌漑の大工事を起し遂に竣工す。其他に中川の開墾、美濃・越後・近江・下總の諸國に開發疏水の工事をなす。

【長野】河内國(大阪府)の古地名。和名抄に志紀郡長野郷あり。今の南河内郡藤井寺町より中河内郡の裏我村・松原村の邊に亘りしものか。藤井寺町は明治二十年

村の中央部を南北に通ずる交通便ならず。いま東川村と組合村をなし役場を本村に置く。【中ノ川温泉】無色透明の食鹽泉。療養向。瀧谷川の兩岸に湧き、神ノ湯・中ノ湯・瀧ノ湯・下ノ湯・新湯・老湯・養老・芝湯等に分る。

【中ノ川】中ノ川、(後)。

【中ノ川】中ノ川、(後)。

【ナカノカミ】長上(郡) 遠江國(靜岡縣)の古地名。續紀、和銅二年紀に長田部を割きて長田上・長田下の二郡とせしこと見え、更に六年詔して田の字を省き長上郡とす。和名抄は長乃加美と註し茅原・碧海・長田・河邊・鯉沼・豊志の六郷を管す。地は天龍川の下流に沿ふを以て郡城屋を變化し、郡名もまた中郡と稱せし事ありしが、近世、長上に復して明治に至りし、固より和銅の舊城にあらす。同二十九年大部分を濱名郡に入れ一部を磐田郡に併せ郡名を失ふ。

【ナカノカミ】長上(郡) 遠江國(靜岡縣)の古地名。續紀、和銅二年紀に長田部を割きて長田上・長田下の二郡とせしこと見え、更に六年詔して田の字を省き長上郡とす。和名抄は長乃加美と註し茅原・碧海・長田・河邊・鯉沼・豊志の六郷を管す。地は天龍川の下流に沿ふを以て郡城屋を變化し、郡名もまた中郡と稱せし事ありしが、近世、長上に復して明治に至りし、固より和銅の舊城にあらす。同二十九年大部分を濱名郡に入れ一部を磐田郡に併せ郡名を失ふ。

【ナカノカミ】長上(郡) 遠江國(靜岡縣)の古地名。續紀、和銅二年紀に長田部を割きて長田上・長田下の二郡とせしこと見え、更に六年詔して田の字を省き長上郡とす。和名抄は長乃加美と註し茅原・碧海・長田・河邊・鯉沼・豊志の六郷を管す。地は天龍川の下流に沿ふを以て郡城屋を變化し、郡名もまた中郡と稱せし事ありしが、近世、長上に復して明治に至りし、固より和銅の舊城にあらす。同二十九年大部分を濱名郡に入れ一部を磐田郡に併せ郡名を失ふ。

【ナカノカミ】長上(郡) 遠江國(靜岡縣)の古地名。續紀、和銅二年紀に長田部を割きて長田上・長田下の二郡とせしこと見え、更に六年詔して田の字を省き長上郡とす。和名抄は長乃加美と註し茅原・碧海・長田・河邊・鯉沼・豊志の六郷を管す。地は天龍川の下流に沿ふを以て郡城屋を變化し、郡名もまた中郡と稱せし事ありしが、近世、長上に復して明治に至りし、固より和銅の舊城にあらす。同二十九年大部分を濱名郡に入れ一部を磐田郡に併せ郡名を失ふ。

【ナカノカミ】長上(郡) 遠江國(靜岡縣)の古地名。續紀、和銅二年紀に長田部を割きて長田上・長田下の二郡とせしこと見え、更に六年詔して田の字を省き長上郡とす。和名抄は長乃加美と註し茅原・碧海・長田・河邊・鯉沼・豊志の六郷を管す。地は天龍川の下流に沿ふを以て郡城屋を變化し、郡名もまた中郡と稱せし事ありしが、近世、長上に復して明治に至りし、固より和銅の舊城にあらす。同二十九年大部分を濱名郡に入れ一部を磐田郡に併せ郡名を失ふ。

【ナカノカミ】長上(郡) 遠江國(靜岡縣)の古地名。續紀、和銅二年紀に長田部を割きて長田上・長田下の二郡とせしこと見え、更に六年詔して田の字を省き長上郡とす。和名抄は長乃加美と註し茅原・碧海・長田・河邊・鯉沼・豊志の六郷を管す。地は天龍川の下流に沿ふを以て郡城屋を變化し、郡名もまた中郡と稱せし事ありしが、近世、長上に復して明治に至りし、固より和銅の舊城にあらす。同二十九年大部分を濱名郡に入れ一部を磐田郡に併せ郡名を失ふ。

【ナカノカミ】長上(郡) 遠江國(靜岡縣)の古地名。續紀、和銅二年紀に長田部を割きて長田上・長田下の二郡とせしこと見え、更に六年詔して田の字を省き長上郡とす。和名抄は長乃加美と註し茅原・碧海・長田・河邊・鯉沼・豊志の六郷を管す。地は天龍川の下流に沿ふを以て郡城屋を變化し、郡名もまた中郡と稱せし事ありしが、近世、長上に復して明治に至りし、固より和銅の舊城にあらす。同二十九年大部分を濱名郡に入れ一部を磐田郡に併せ郡名を失ふ。

【ナカノカミ】長上(郡) 遠江國(靜岡縣)の古地名。續紀、和銅二年紀に長田部を割きて長田上・長田下の二郡とせしこと見え、更に六年詔して田の字を省き長上郡とす。和名抄は長乃加美と註し茅原・碧海・長田・河邊・鯉沼・豊志の六郷を管す。地は天龍川の下流に沿ふを以て郡城屋を變化し、郡名もまた中郡と稱せし事ありしが、近世、長上に復して明治に至りし、固より和銅の舊城にあらす。同二十九年大部分を濱名郡に入れ一部を磐田郡に併せ郡名を失ふ。

【ナカノカミ】長上(郡) 遠江國(靜岡縣)の古地名。續紀、和銅二年紀に長田部を割きて長田上・長田下の二郡とせしこと見え、更に六年詔して田の字を省き長上郡とす。和名抄は長乃加美と註し茅原・碧海・長田・河邊・鯉沼・豊志の六郷を管す。地は天龍川の下流に沿ふを以て郡城屋を變化し、郡名もまた中郡と稱せし事ありしが、近世、長上に復して明治に至りし、固より和銅の舊城にあらす。同二十九年大部分を濱名郡に入れ一部を磐田郡に併せ郡名を失ふ。

【ナカノカミ】長上(郡) 遠江國(靜岡縣)の古地名。續紀、和銅二年紀に長田部を割きて長田上・長田下の二郡とせしこと見え、更に六年詔して田の字を省き長上郡とす。和名抄は長乃加美と註し茅原・碧海・長田・河邊・鯉沼・豊志の六郷を管す。地は天龍川の下流に沿ふを以て郡城屋を變化し、郡名もまた中郡と稱せし事ありしが、近世、長上に復して明治に至りし、固より和銅の舊城にあらす。同二十九年大部分を濱名郡に入れ一部を磐田郡に併せ郡名を失ふ。

【ナカノカミ】長上(郡) 遠江國(靜岡縣)の古地名。續紀、和銅二年紀に長田部を割きて長田上・長田下の二郡とせしこと見え、更に六年詔して田の字を省き長上郡とす。和名抄は長乃加美と註し茅原・碧海・長田・河邊・鯉沼・豊志の六郷を管す。地は天龍川の下流に沿ふを以て郡城屋を變化し、郡名もまた中郡と稱せし事ありしが、近世、長上に復して明治に至りし、固より和銅の舊城にあらす。同二十九年大部分を濱名郡に入れ一部を磐田郡に併せ郡名を失ふ。

【ナカノカミ】長上(郡) 遠江國(靜岡縣)の古地名。續紀、和銅二年紀に長田部を割きて長田上・長田下の二郡とせしこと見え、更に六年詔して田の字を省き長上郡とす。和名抄は長乃加美と註し茅原・碧海・長田・河邊・鯉沼・豊志の六郷を管す。地は天龍川の下流に沿ふを以て郡城屋を變化し、郡名もまた中郡と稱せし事ありしが、近世、長上に復して明治に至りし、固より和銅の舊城にあらす。同二十九年大部分を濱名郡に入れ一部を磐田郡に併せ郡名を失ふ。

【ナカノカミ】長上(郡) 遠江國(靜岡縣)の古地名。續紀、和銅二年紀に長田部を割きて長田上・長田下の二郡とせしこと見え、更に六年詔して田の字を省き長上郡とす。和名抄は長乃加美と註し茅原・碧海・長田・河邊・鯉沼・豊志の六郷を管す。地は天龍川の下流に沿ふを以て郡城屋を變化し、郡名もまた中郡と稱せし事ありしが、近世、長上に復して明治に至りし、固より和銅の舊城にあらす。同二十九年大部分を濱名郡に入れ一部を磐田郡に併せ郡名を失ふ。

【ナカノカミ】長上(郡) 遠江國(靜岡縣)の古地名。續紀、和銅二年紀に長田部を割きて長田上・長田下の二郡とせしこと見え、更に六年詔して田の字を省き長上郡とす。和名抄は長乃加美と註し茅原・碧海・長田・河邊・鯉沼・豊志の六郷を管す。地は天龍川の下流に沿ふを以て郡城屋を變化し、郡名もまた中郡と稱せし事ありしが、近世、長上に復して明治に至りし、固より和銅の舊城にあらす。同二十九年大部分を濱名郡に入れ一部を磐田郡に併せ郡名を失ふ。

【ナカノカミ】長上(郡) 遠江國(靜岡縣)の古地名。續紀、和銅二年紀に長田部を割きて長田上・長田下の二郡とせしこと見え、更に六年詔して田の字を省き長上郡とす。和名抄は長乃加美と註し茅原・碧海・長田・河邊・鯉沼・豊志の六郷を管す。地は天龍川の下流に沿ふを以て郡城屋を變化し、郡名もまた中郡と稱せし事ありしが、近世、長上に復して明治に至りし、固より和銅の舊城にあらす。同二十九年大部分を濱名郡に入れ一部を磐田郡に併せ郡名を失ふ。

ナカノ

南に接す。南側に上田富士(一一二米)...

ナガノシモ

高知市へ至る国道は西部を縦貫し、東部...

ナカノシヨ

中庄・中之庄 廣島縣後國御調郡の南方...

ナカノマタ

中ノ又山 越後山脈守門火山群に属する一山...

ナカノホ

中之方村 岐阜縣美濃郡恵那郡の西部...

ナカノマタ

中ノ俣岳・中俣岳 日本北アルプスの一山...

ナカノマタ

中野俣村 新潟縣越後郡古志郡の南部...

ナカノマタ

中ノ俣岳 越後山脈守門火山群に属する一山...

ナカノ

長野原町 群馬縣上野郡香妻郡の南部...

郡生口島の名村へは渡船の便あり。...

ナカノシヨ

中之條町 群馬縣上野郡香妻郡の東部...

ナカノマタ

中ノ又山 越後山脈守門火山群に属する一山...

ナカノホ

中之方村 岐阜縣美濃郡恵那郡の西部...

ナカノマタ

中ノ俣岳・中俣岳 日本北アルプスの一山...

ナカノマタ

中野俣村 新潟縣越後郡古志郡の南部...

ナカノマタ

中ノ俣岳 越後山脈守門火山群に属する一山...

間、平地には水田拓け、米・蕎麦を主産物...

ナカノセキ

中關 山口縣佐波郡にありし町...

ナカノチヨ

仲之町 江戸、新吉原遊里の中央を貫き...

ナカノマチ

中ノ町村 静岡縣遠江國濱名郡の東部...

ナカノユ

中ノ湯 安曇村(長野縣)...

ナカノハギ

中萩村 愛媛縣伊豫國新居郡の東部...

ナカノ

中ノ俣岳 越後山脈守門火山群に属する一山...

ナカハ——ナカハ

神。古くより本村の領守なり。例祭、十一月六日。

ナカハシ 中橋

【中橋】 東京市東橋區の地名。いま中橋和泉町・同慶小路町と稱する地。往昔は橋ありて日本橋と京橋の中間なるより起りし名稱。江戸時代既に橋なく地名のみ存す。日本水代蔵・六、愛に通町中橋の邊に錢見世出して若いものあまたつかへる人有、日來はし末第一の人なれど一兩式歩の調を調てみびすの祝儀をわたりしけるに。

ナカハシ 長橋村

【長橋村】 青森縣陸奥國北津輕郡の東南部。五所川原町の東方約六新。東北は東津輕郡に接す。東北境に馬神山(五四九米)ありて西南方に傾斜し、村の東北半部は山地なるも、西南半部は津輕平野に属して平坦なり。村の中央部には所々に池沼あり。米・蕎麥を産し、又松茸の産あり。道路は村の中西部を南北に通ずるもの及び西南部を東西に通ずるものあり、西方の五能線五所川原驛へはバスの便あり。東南方の奥羽本線大野驛へは約八軒あり。

ナカハタ 中畑

【中畑村】 福島縣磐城國西白河郡の東北部。矢吹町の東南に隣る。西南部及び東北部には二百一三百米餘の丘陵起伏し、阿武隈川の一支泉川は南部を北流し、西北部丘陵間にある池より發する小川を合し、中部丘陵の末端、館山の裾にて流路を東南に變ず。流域に低地ありて田圃開

け、米・蕎麥を産す。矢吹町に至る縣道は中部を通じ、また省線東北本線は西部を接め、矢吹驛(矢吹町)へはバスを通ず。此地は中世に石川庄行方野の内に於て、秀郷流の白河氏の一族、この地に中島氏を稱す、白河氏没落の後には蒲生氏郷に従ふと云ふ。

【中畑】 愛知縣幡豆郡にありし村。明治三十九年に外一町および西野町村の大字貫・奥津村大字七と共に合併し、新たに平坂村を置き、平坂村は大正十三年町制を布く。

ナガハタ 長橋村

【長橋村】 埼玉縣武蔵國児玉郡の西北部。本庄町の西方約五軒、兒玉町の北方約四軒にて、神流川の東岸にあり。西は川を隔てて群馬縣多野郡の一部と隣す。全村平地にて畑地多く中部に水田あり。米・蕎麥を産す。縣道は本庄町及び兒玉町に通じ、南隣丹沢村には省線八高線丹沢驛ありて縣道を通ず。此地はもと長橋郷丹之庄に屬せり。(菅原神社) 大字帯刀に鎮座。地社。祭神、武夷島神・火雷神・菅原道真公。天曆三年の創立と傳ふ。地頭伊東氏の崇敬あり。建武二年再建す。もと天満宮と云ひ、明治維新の際に現社に改む。

ナカハマ 中濱村

【中濱村】 鳥取縣伯耆國西伯郡の西北部。夜見ヶ濱半島の中部を占め、東は美保灣に、西は中濱に面し、北は餘子村に、南は大橋津村に界す。面積六・五六方軒。夜見ヶ濱半島は殆ど砂質

中島となし三條の砂丘併列す。本村はその一部を占めて市約三軒、東より西に防砂林・街道・省線・堤防・海岸街道石垣等ならび、その間に桑畑・水田廣く拓かれて墾殖發達す。また水産業行はれ鯛・鰻等の漁獲ありて、半農半漁の村なり。北方の境地にバスを通ず。(日御時神社) 大字小津津に鎮座。祭神、大日靈貴尊外二神。古くより附近四ヶ村と共に當村の氏神として崇敬せらる。例祭、十一月十九日。

【長濱郡】 樺太大泊支廳三郡中の一。中知床半島の大部分を占め、南北約七〇新あり。西北部は鈴谷山脈の南縁に當り臥登山(四七二米)・奥鉢山等聳え、東部には知床山脈走り、北嶺に三角ヶ岳(五〇三米)ありて漸次南方へ廣泊山・釣鐘岩山・金華山(五四五米)・知床山等を起して中知床岬に盡く。これ等兩山地帯間は即ち遠近低地帯にして池・沼・和愛・遠泊の三大湖を始め多数の小湖・沼澤連り、土地豊饒にして農牧に適し、一部開墾せらる。河川は知床山脈を分水嶺として西に内音川・赤岩川・彌瀧川等、東に皆別川・乳根川等あるも流程は長きものも二〇軒に過ぎず。海岸は東岸に皆別岬・乳根岬等の突出ある外は、單調にて泊津に乏しく、殊に中知床岬附近は顯著なる岩石海岸を成す。また此岬の附近に寒暖兩海流の衝突によりて波濤起り、夏期三個月の

ナガハマ 長濱

【長濱村】 樺太大泊支廳長濱郡の西北部。亞庭岬の北岸にて、大泊町の東方約二〇軒。海岸に臨みて鈴鹿山脈に属する奥鉢山・臥登山等聳え、西部は山地丘陵連るも、東中部は遠近低地帯の南縁にて池・沼・和愛の二大湖あり、湖畔に低地拓く。池邊湖は南北へ袋状をなし、湖口によりて大小の二湖に分たる、湖畔の長さ約二〇軒、面積一・二方軒、最深處七・七米。朝日川・瀧岩川・花江川等これに流入し、湖尻は亞庭岬と相通じ湖海抜〇米にて鹹水なり。和愛湖は前者の東に横ばり、湖畔の延長約三〇軒、面積三四方軒餘にして最深處六・四米。農業は湖畔低地及び西部の鹽水別種植地等を中心に行はれ、蕎麥・馬鈴薯・豌豆等を出し、また馬・牛の飼養行はる。亞

海霧日數五十六日及び、樺太にて最も多量なる地域の一とす。産業は農業主とし蕎麥・豌豆・馬鈴薯等を産し、半島中央部には炭田炭坑ありて石炭を出し、知床半島の海岸には石灰岩露出しパルプ製造用として採掘せらる。水産は亞庭岬の鯨・鰻・蟹・昆布等を主とす。道路は大泊より亞庭岬に沿うて長濱・遠泊・彌瀧に至る幹線道路あり、彌瀧より東方約一〇軒の美田炭坑へ炭坑用馬車軌道を通ず。墾殖は亞庭岬の北部に散在し、東海岸の謂はゆる外知床地方は人煙最も稀薄なり。行政上、長濱・遠泊・知床の三村に分つ。

【長濱村】 樺太大泊支廳長濱郡の西北部。亞庭岬の北岸にて、大泊町の東方約二〇軒。海岸に臨みて鈴鹿山脈に属する奥鉢山・臥登山等聳え、西部は山地丘陵連るも、東中部は遠近低地帯の南縁にて池・沼・和愛の二大湖あり、湖畔に低地拓く。池邊湖は南北へ袋状をなし、湖口によりて大小の二湖に分たる、湖畔の長さ約二〇軒、面積一・二方軒、最深處七・七米。朝日川・瀧岩川・花江川等これに流入し、湖尻は亞庭岬と相通じ湖海抜〇米にて鹹水なり。和愛湖は前者の東に横ばり、湖畔の延長約三〇軒、面積三四方軒餘にして最深處六・四米。農業は湖畔低地及び西部の鹽水別種植地等を中心に行はれ、蕎麥・馬鈴薯・豌豆等を出し、また馬・牛の飼養行はる。亞

伏見殿舎の遺構なりといふ。(大瀧寺倉山軒及び關亭庭園) 指定名勝。室町年代不詳なるも江戸初期なるが如し。倉山軒庭園は枯山水庭にして空池を作り、池に中島を置き石橋を架け歩石を配す。池の東北隅には石を組み空池を現はす。まつばき・かし・れすみち等の枝を摘めて園の中央に見透線を作り伊吹山を借景とす。園實なる倉山軒の庭園にして枯山水庭として優秀のものなり。關亭庭園は小面積の地に池を置き石橋を架す。池の周圍に石を組み園の東南隅に近く壁石を用ひて庭景の焦點たらしめ、此上に石燈籠を配す。まつ・もくせい・れすみちも・うめ等を主要なる庭木とす。園實なる關亭の庭園なり。(知喜院) 大字相生にあり。天台宗眞盛派。實生山と號す。もと東津井郡湯田村にありしが、のち羽柴秀吉の長濱城に入るや、これを現地に移し寺領三十石を寄す。内藤豊前守信成また本城に入るや崇徳厚く、彦根藩主井伊氏は本寺を菩提所となす。觀音堂に安置せる十一面觀音坐像(木造)一軀は運慶作と傳へられ、鎌倉時代のものにて、國寶なり。

【長濱(縣)】 近江國の北部にありし彦根、山上・宮川・朝日山の四縣を明治四年十一月に廢して新たに長濱縣を長濱に置き、近江國の神崎・愛知・大上・坂田・淺井・伊香六郡を管せしが、翌五年二月大上縣と改稱し、同年九月滋賀縣に合併す。

【長濱村】 山梨縣甲斐國南都留郡の西部。河口湖西岸に臨む。南北に山地を負ひ、湖岸に備かの平地あり、湖岸線は比較的長し、農業・養蠶を主産業とし蕎麥・玉蜀黍・馬鈴薯・大豆・蕎麥等の高地耕作を主とし、柿の特産物あり。山地には林業も多少行はる。村のほぼ中央・河口湖と西湖の水を結ぶところに發電所あり。南北に貫通する道路あり、社線富士山麓電鐵下吉田驛へ約一五軒。湖上を對岸船津まで乗合モーターの便あり。本村は富士箱根國立公園の内に於て、西湖村と共に組合町村となして役場を本村に置く。村内に夢窓國師の居住地と傳ふところあり。

【長濱町】 滋賀縣近江國坂田郡の西北部。琵琶湖の東北岸にて、近江盆地北方の中心地なり。土地平坦にして面積一・八二

ナカハ——ナカハ

方軒に過ぎざれども、町は商業區にして濱田の産を以て著る。省線北陸本線と北國街道南北に貫通し、長濱驛(明治十五年設置)あり、縣道は四方に通ず。濱田に實野中に東津井郡大里村大字藤波の人中村林助・乾庄九郎の二人が丹波を巡回し、その製紙法を習得して村民に傳へ製紙を京郡に賣出せしに始まり、寶曆九年以後は彦根藩の保護を受け大いに發達し製紙の多くは長濱に集まり、こゝより輸出さるるを以つて、長濱濱田また濱田濱田と稱せらる。年額約六百萬圓。長濱はもと今領と云へるを、天正中に羽柴秀吉この地を領するや長濱と改むといふ。爾來城下町として榮え、徳川氏の頃は内藤氏五萬石の城下町たり。(長濱城) 永正年中、京極高基の將上坂登重初めて當城を築き、のち淺井亮政は攻めて之を抜く。天正元年織田信長の淺井長政を滅ぼすや、此地を羽柴秀吉に與ふ。秀吉の中國經營に赴くや、天正十年本能寺の變に乗じ、淺井長政の舊臣阿閉長之は長濱を襲ひてこれを奪ひ、以て明智光秀に應ず。光秀敗死の後、信長の遺臣等織田氏の遺領を分ち、長濱は柴田勝家これを收め、義子勝登をして守らしむ。秀吉、勝登の勝家と隙あるを見、勝登を招致し、賤ヶ岳の戦となり、遂に秀吉の大勝を以て終る。徳川氏統一の後、慶長十一年内藤信成長濱五萬石を賜はり、城地の改築をなす。寛永五年信成、陸奥會城に

移るに及び、長濱城ついに廢墟に歸す。

【長濱八幡宮(八幡神社)】 神前に鎮座。祭神、足仲彦彦彦・磐田別尊・息長足姫尊。後三條天皇の勅願により延久元年に源義家の創建に係る。往時は坂田八幡・坂田別八幡と稱し、又一に新放生寺八幡とも稱せしは、清水水八幡と同様に毎年放生會を修するを以て佛者の名づけしところと傳ふ。創建の際に此地を選定せしは、神功皇后の御父なる息長宿禰王は坂田郡の人、皇后も亦この地に降誕し給ひし緣故に基くと云ふ。義家以來源家の崇敬厚し。例祭、十月十五日。(豊國神社) 南奥郡に鎮座。祭神、豊臣秀吉・事代主神。慶長五年の創建。後隔成天皇より下されし「豊國大明神」の宸筆額を掲ぐ。大坂落城後は徳川幕府の恩誼を慮れ社殿を縮小し神體額を撤し、更に商家の神としての事代主神(惠美須宮)を併祀し、元和元年には蛭子神を當社の前立とし秀吉の神像は厨子内に藏め、神號も西ノ宮または蛭子宮と稱せり。例祭九月十八日。(長濱別院(大通寺)) 御堂前にあり。眞宗大谷派。無礙智山。東本願寺十二世教如の時、坂田・淺井・伊香三郡の門徒、堂宇を建立し、以て地方當宗の中心道場となせしに始る。爾後漸次興隆し現在に至る。いま二支院並びに崇徳寺院三百八十四箇寺を有す。堂宇十數字を運搬輸送を極む。殊に本堂・廣間・客室は國寶たり。本堂及び廣間は舊

ナカハ——ナカハ

【長濱(縣)】 近江國の北部にありし彦根、山上・宮川・朝日山の四縣を明治四年十一月に廢して新たに長濱縣を長濱に置き、近江國の神崎・愛知・大上・坂田・淺井・伊香六郡を管せしが、翌五年二月大上縣と改稱し、同年九月滋賀縣に合併す。

【長濱(縣)】 近江國の北部にありし彦根、山上・宮川・朝日山の四縣を明治四年十一月に廢して新たに長濱縣を長濱に置き、近江國の神崎・愛知・大上・坂田・淺井・伊香六郡を管せしが、翌五年二月大上縣と改稱し、同年九月滋賀縣に合併す。

【長濱(縣)】 近江國の北部にありし彦根、山上・宮川・朝日山の四縣を明治四年十一月に廢して新たに長濱縣を長濱に置き、近江國の神崎・愛知・大上・坂田・淺井・伊香六郡を管せしが、翌五年二月大上縣と改稱し、同年九月滋賀縣に合併す。

【長濱村】島根縣石見郡那賀郡の西北部。日本海に臨める一鎮地。濱田町の西にあり、美川村の北に位し、西は周布村に隣す。面積四・六一方軒。一方軒六三二人を算し、本郡中第三位の人口稠密なる村なり。高取約三〇〇米の山地を以つて三方を囲まれ、傾斜稍々急にして海岸に可せる所に僅に低地を開く。よりて殆ど平地なし。農業は丘陵地耕作を営めど盛ならず、米・蕎麥等を産す。山地よりは木材を出しまた牧牛を営む。舊は日本海に臨む小港に過ぎざりしが明治五年の中國大地震に依り良港となり、漁船輻輳す。従つて水産業盛にして鯛・鱈・鰯・柔魚等の魚獲多し。濱田町より来る國道(山陰道)は海岸を沿り西走し、それに交錯して省線山陰本線西走し、石見長濱驛(大正十一年設置)を設く。

【長濱町】愛媛縣伊豫國喜多郡の西部。鮎川河口の右岸にあり、北方約一三軒の海上にある青島(青島島)を含み、西北は伊豫灘に臨む。面積二・〇一方軒の本郡最小の町なり。三・四百里の山地は海・河岸に迫り平地に乏しく、西部に僅に低地ありてここに墾殖發達す。なほ鮎川河口に臨む所は船舶の碇泊に適し、その長濱港は内務省指定港となる。本町は魚業・商業相半ばす。特に鮎川上流は木材の集散地として知られ松・杉・檜・楡等の木材を主とし、年産額は百七八十萬圓に達す。この外主要物産に砂利(一九・五萬圓)・製材(一六・八萬圓)・木炭(一〇萬圓)・清酒(八萬圓)・鯛(五萬圓)・其他の魚類(五・五萬圓)あり(以上昭和十年)。長濱港は瀬戸内海交通の要衝に當ると共に、大洲・内子町等の後背地を有するため、商港として取引頗る盛にして、移出總額は約七三七萬圓、移入總額は六四七萬圓餘に達す。移出の主要物産は生糸・木材・木炭・牛・木製品・蠟・鮮魚介・和酒・乾鰯・鰯・砂利・和紙等にて、主要移入品は硝油・綿織物・機械類・人造肥料・金屬・絹織物・米・化粧品・酒類・セメント・砂糖・豆糟・石灰等なり。鐵道は鮎川に沿うて通じ、省線豫讃本線は大正七年に開通し、伊豫長濱驛(大正七年設置)を置く。なほ鮎川の水深、長濱港による瀬戸内海の交通よく開き、人口も大正九年四八八八人、同十四

年五二五六人、昭和五年五三一八人、同十年五九七一人と増加し、同十年の一方軒の人口密度は二九七一人にして、縣下にて最も稠密度を持つ。町内に島坂城址あり、永祿十一年、村上河内守吉繼これを守りし際、土佐一統頼房は伊豫より本城を攻めしことあり。

【長濱町】高知縣土佐國吾川郡の東南端。高知市の南に接し、南は土佐灣に面す。面積一・〇一平方軒。東は浦戸灣に臨み、海岸の出入發達し龍王岬海中に突出して、對岸三里村の嶺崎と相對して浦戸灣口を抱く。防波堤の頭部に長濱港燈臺あり。南部に平地を存し、北城に鷲尾山(三一〇米)ありて東南に傾く。中部に長濱川東流して浦戸灣に注ぎ、流域に耕作行はる。米・蕎麥・酒類・醬油等を産し、また鱈・鰯・鰺等の漁獲あり。海岸平野は蔬菜の産成栽培盛なり。鐵道四通し高知市にバス通じ、浦戸灣に巡航船の便あり。明治二十二年長濱・横濱・瀬戸・瀨田灣の四村を合併して長濱村となり、昭和四年町制を布く。(「若宮八幡宮」長濱に鎮座。神社。主祭神、應神天皇、市杵島姫神外三神。相殿神、慈源太義平外一柱。創建年代不詳。社傳には石清水八幡宮を勧請後に義平を合祀すと云ふ。東藏・文治元年二月三十日の條にも石清水を勧請し、中原貞元弟秀嚴開闢を別當に任ぜし事見す。中世に社僧を置き別當を若一山長樂院と稱す。天正十九年

長曾我部元親の新願所と定め、社領を寄せ、文祿三年社殿を建立す。慶長五年山内氏は社領・祭米を寄せ、造替等すべて落費を以てし、その新願八社の一に加ふ。例祭、六月十五日、十一月六日。(「雪隠寺」大字長濱にあり。臨濟宗妙心寺派。高福山或は小林山と號す。四國八十八所第三十三番札所なり。延暦年間空海の草創に係る。のち一時廢絶せしが、慶長年中、領主長曾我部元親伏見に卒するや、盛衰その遺骨を當寺に葬り、月峯を請じて中興の祖とし、寺領百石を寄進す。本尊藥師如來(木造)及び日光・月光兩脇侍像三軀(附十二神將立像十軀)・毘沙門天および脇侍吉祥天・尊嚴童子立像三軀は何れも國寶たり。御詠歌「旅の道うへしも今はかうふく寺後のたのしみ有明の月」。

【中芳養村】和歌山縣紀伊國西牟婁郡の西部。田邊町の西北約三軒にて西は日高郡南郡町・上南郡村に隣接す。西部及び東部南北に百一二十米の丘陵性山地連なり。中部を芳養川曲流して南に流れ、流域に低地ありて耕地開く。米・蕎麥の外に蜜柑を産す。街道は芳養川に沿うて南北に通ずるも交通便ならず。中世の芳養莊の一部にして湯淺氏の所領たり。

ナカハ

中原

【中原】神奈川縣橋本郡にありし村。大正十四年、本村と佐吉村を以て中原町を

設き、昭和八年に中原町は川崎市に編入さる。

【中原村】岐阜縣飛騨國益田郡の南部。下呂町の西南に接し益田川に沿ふ。西の一部は美濃國郡上郡に、東南の一部は美濃國加茂郡に界す。東西に山脈連なり、ほぼ中央を北より西南に益田川貫流し、中山七里谷溪谷の一部をなす。益田川および東より合流する一支流に沿ひ僅かの平地ありて芝草・蕨科行はる。益田川右岸を鐵道、左岸を省線高山本線南北に走り、焼石驛(昭和四年設置)を置く。別に東方へ一條の鐵道を分岐す。村内に益田川を利用せる瀬戸水力発電所あり。

【中原村】三重縣伊勢國一志郡の東南部。松阪市の西北に近く、これと米之庄村を隔てて、北は豊田村、西と南は阿坂村に隣る。面積五・二一方軒の小村なるも、伊勢平野の南部を占めて地形平坦、地味肥沃、田畑よく拓げ、西北隅に隣接地村に互る嶺野の一部にて松林あり。米・蕎麥を産し綿布織業も盛なり。東北部に鐵道走りて東方天白村にて參宮道に連絡し、社線參宮急行電鐵はこれと交又して東部を通過し、大字津屋城に參宮中原驛(昭和五年開業)あり、また省線名松線の權現前驛(豊田村内)にも近く交通便なり。この地古くは和名抄、壹志郡須可郷に屬す。

【中原村】廣島縣安藝國安佐郡の東部。太田川の中流に沿ふ可部町を抱き、東北

は三入村に、東南は深川村に、西南は八木村に、西北は龜山村に界す。面積八・七五方軒。北及び東は數百米の山地連なり、西境を南流する太田川流域に神積平野ありて耕地開く。太田川と東方より来る三條川は南端にて合流し水利交通共に便なり。農業盛にて米・蕎麥・粟・蕨等の産多く山地は好牧場をなして良牛を飼育す。また蠶桑・養蠶農田等の工業も少からず。省線可部線は村を貫通し安藝中島驛・可部驛にて省線バス廣瀬線に連絡し、鐵道は中部を南北に通じ、西隣龜山村方面に至る鐵道を分ち交通便なり。

【中原村】佐賀縣肥前國三養基郡の西北部。久留米市の西北方約六軒、東は鳥栖町との間に置村を隔て、西部は神埼郡香根村に、北は福岡縣筑紫郡南郷村に界す。土地南北に長く一九方軒。香根山塊の東南面に、東境はその石谷山(七五四米)、西境は坂本峠の山脚共に南方に延び、村の北半は山地なるも、南半は筑紫平野の一部を占めて地形平坦にして田畑よく拓く。米産額多くまた蕎麥・蕨類等をも産す。南部には長崎街道と省線長崎本線東西に走り、後者は中原驛(明治二十四年設置)を置き交通便なり。古の驛部にして、長崎街道の小驛とす。古くは東肥前に於ける要塞の中心地帯たり。大字原古賀字驛部に後部城址あり。延元元年、仁木義長が足利尊氏の命を受けて始めて

ここに城を築き、肥前西部の官軍に備へしところにして、その後長久しく一色・今川・澁川等の九州探題の本據となれる所なり。

【中原村】熊本縣肥後國鹿野郡の西部。白川の河口にあり、熊本市西南約五軒、小島町の南に隣接す。面積一・五六方軒の小村。全村土地低平、熊本平野の西邊に當り田畑よく開け、米・蕎麥・蕨類を産す。街道は白川に沿うて走りバスを通ず。人口は大正九年八五四人、同十四年八七五人、昭和五年九〇六人、同十年八三六人と、昭和五年までは増加を示せしも其後は減少し、昭和十年には一方軒の人口密度は五三六人、全國平均一八一一人より遙かに多し。中島村・神新村と共に組合村を成して、中島村に役場を設く。

【ナカハラ】永原村 飯沼縣近江國伊香郡の西南部。琵琶湖北岸を占め西は高島郡に、西北は越前國敦賀郡に界す。南は湖に臨み、西に大崎、東に高尾崎の突出ありて中央は深く村内に穿入し、湖岸は概ね階層崖をなす。東・西境は何れも五〇米前後の山脈南北に走り中央に細長き平地を挟む。農業を主産業とし米を産し、山地には森林多し。琵琶湖には淡水魚の産もあり。中央の谷には南北・東西に鐵道走り、湖上には舟楫の便あり。中世の邊を大浦庄といふ。大浦(「福福寺」大字月出にあり。眞宗本願寺派。朝日山無量光院と號す。仁治二年信願房

教念上洛の途次、此地に留錫して一燈寺を再興して眞宗の道場となせしに始る。近世寺領四十石。(「長樂寺」大字山門にあり。眞宗佛光寺派。天文十四年僧普隆の創建といふ。寺寶中、佛頭(木造)一箇は悉く阿彌陀如來像の頭部なるべく、藤原末期の作に依り國寶。(「和藏堂」大字山門にあり。眞宗佛光寺派。村内長樂寺所屬。寺寶中、十一面觀音立像(木造)一軀は弘仁期の作にて國寶たり。)

【ナカハ】中原村 熊本縣肥後國球磨郡の西南部。球磨川に跨りて人吉町の西、渡村の東に接す。南北に細長く、面積約二四方軒。北部は白岩山の南段にて東境には照岳(五〇六米)、西境には鏡山(五五一米)あり、南部にも高取八百米臺の山地あるも、中部の球磨川の北岸は人吉盆地の西端を占め、その支流萬江川南流し概ね平坦にて田畑よく拓かる。米・蕎麥を産しまた木材・竹材を出す。鐵道中央を横斷して東西にバス往來し、省線肥後線人吉驛・渡村にも近し。明治十年西南ノ役の古戰場なり。(「林温泉」大字林、球磨川の川畔に湧出す。食鹽性アルカリ含有炭酸泉。)

【ナカハ】仲原村 福岡縣筑前國糟屋郡の西部。西南は福岡市の東部と志免村を隔て、西は筑前町に接す。面積六・七方軒餘。東北部は小臺地をなすも地形概して平坦にして、中部は須恵川西北流す。東北部に湖沼あり。耕地よく發達し

米・麥等を産す。福岡・飯塚兩市を繋ぐ...

ナカハ

福岡市の式内神社も昔は宮區にあり...

河床に残したるものにして、河水の侵蝕...

ナカフカ

東は上廣川村、西は下廣川村なり。面積...

ナカフシキ

新築町の大字。新築橋の中伏木群(大正...

ナカフジシマ

井藤越前國吉田郡の中部。南は福井市と...

東は上廣川村、西は下廣川村なり。面積...

ナカフカ

福岡中魚沼郡の南部。信濃川の支流中津...

東は上廣川村、西は下廣川村なり。面積...

ナカフ

東は上廣川村、西は下廣川村なり。面積...

東は上廣川村、西は下廣川村なり。面積...

ナカフ

東は上廣川村、西は下廣川村なり。面積...

福岡市の式内神社も昔は宮區にあり...

福岡市の式内神社も昔は宮區にあり...

福岡市の式内神社も昔は宮區にあり...

福岡市の式内神社も昔は宮區にあり...

福岡市の式内神社も昔は宮區にあり...

ナカム

ら。社殿東端の武蔵驛へ出づるを最し候とす。古くは和名抄、岡崎郡武蔵郷の内となす。大字吉原はもと吉弘と稱し、中世に田原直貞の第二子又三郎この地に居して吉弘氏を稱す。

ナカムトへ 中六人部村

京都府丹波國天田郡の東南部。福知山市の東南方にてこれと北隣の下六人部村を隔て、東は上六人部村、西は水上郡の東北部と界す。面積一三方軒餘。南境の山地は高度五百米内外ありて北方に緩く傾斜し概ね山地なるも、北部には西隣竹田村より来る竹田川ありて、その附近に田畑拓く。米・麥を産し兼葦行はれ、また薪炭・木材を出す。北部に道路ありて上六人部の山陰道に連る。此地古くは和名抄、天田郡六部郷に屬す。

ナカムラ 中村

【中村】 出羽國(羽後國、秋田縣)の古地名。和名抄に雄勝郡中村郷あり、其地は今の雄勝郡横堀町・院内町・須川村・小野村・秋ノ宮村の邊に當る。【中村町】 福島縣磐城國相馬郡の東北部。本縣領通りに於て平市に次ぐ名邑。阿武隈山地の太平洋斜面に屬し、西部に低き山地ある外は概ね平坦なり。宇多川は町の南部を東流し、沿岸はその沖積平野にして耕地拓く。米・麥を産す。また製絲業行はれ、中村製絲場あり。名産に相馬焼あり。陸前濱街道は町の東部を南北に通じ、市街はこの街道に沿ふ。北方宮城

ナカム

縣、南方原ノ町へはバスの便あり。省線常磐線中村驛(明治三十年設置)を設く。人口密度一方軒につき八一人なり。此地は山上村・八幡村と共に和名抄宇多郡中村郷にて、本町名は郷の遺稱なるべし。相馬氏の城下町にして名所舊蹟多く、舊郡役所のありし所なり。この松川浦は景勝の地にして謂ゆる十二景あり。また原釜は海水浴場として知らる。(相馬焼)慶安年間藩主相馬義胤の臣田代源五右衛門(後に清治右衛門)の創始。砂質の素地に湖藍色のひびを掛けたるもの。二代目に赤野野村の描きし時表の走馬を寫し取りしと傳へらる。駒焼の名ある所以なり。(中村城) 妙見山にあり。足利氏の頃、相馬氏ここに據り、近隣の敵と争ふ。天正十八年、相馬氏、豊臣氏に通じて封を全し、徳川氏の時、また此地を安堵し、子孫相繼ぎ明治維新に至る。藩校、育英館は文政五年に相馬益胤の創立なり。(中村神社) 大字中村に鎮座。縣社。祭神、天御中主命。平野門或は相馬郡常の勧請する所と傳ふ。古は下地國相馬郡守屋城に鎮座ありし相馬家累代の鎮守なりしを、のち慶長十六年相馬の中村氏に入るに際しこの地に遷座す。相馬氏の舊村なる宇多・行方・標葉三郡の總鎮守にして、社額十六石餘を有せり。例祭、七月十一日より三日間。(八幡神社) 大字坪田にあり。北島縣家の營、白川道忠、城使臣討のため此地に八幡神を勧請

せりと傳へ、今の社殿は元禄八年に相馬昌胤の改築せしものなり。(二宮尊徳墓) 碑並に曾孫隆基(隆徳)の墓碑は安政四年に中村藩士が其の遺徳を慕うて營みしもの。墓碑は日光山の僧にして幕末多事の際、中村藩に聘せられ隆徳の遺教を弘め文武の講習に努め、維新の際に富落をして歸順せしむ。

【中村】 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に鹿島郡中村郷あり、その地今の鹿島郡中野村の邊に當る。

【中村】 武蔵國(埼玉縣)の古地名。和名抄に秩父郡中村郷あり、その地今の秩父郡秩父町の邊に當る。

【中村】 下地國(千葉縣)の古地名。和名抄に匝瑳郡中村郷あり、その地今の香取郡中村の邊なるべし。

【中村】 相模國(神奈川縣)の古地名。和名抄に餘部郡中村郷あり、その地今の足柄上郡中井村の邊に當る。

【中村】 加賀國(石川縣)の古地名。和名抄に石川郡中村郷あり、その地今の石川郡中村・中興村・中興村・松任町・一木村の邊なるべし。

【中村】 山城國(京都府)の古地名。和名抄に綴喜郡中村郷あり、その地今の綴喜郡香谷村の邊に當り、大字中村はその遺稱なるべし。

【中村】 大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に忍海郡中村郷あり、其地今の南葛城郡忍海村の邊なるべし、續日本紀に葛下

【中村】 陸奥國(陸中、岩手縣)の古地名。和名抄に磐井郡中村郷あり、其地今の西磐井郡涌津村・花泉村の邊に當る。

【中村】 陸奥國(陸前國、宮城縣)の古地名。和名抄に新田郡中村郷あり、その地今の栗原郡高清水町、清瀧村・慈里村の邊に當る。

【中村】 讃岐國(香川縣)の古地名。和名抄に多度郡中村郷あり、其地今の多度郡仲村郷と合して今の仲多度郡筆岡村となす。

【中村】 土佐國(高知縣)の古地名。和名抄に吾川郡中村郷あり、その地今の吾川郡長濱町・浦戸村・御懸瀬村・諸木村の邊なるべし。

【中村】 伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に安濃郡長屋郷あり、奈加也と訓す。いま長屋の地名なし、安濃郡に長野村あれば、或は長野の誤なるべし。

【長屋】 大和國(奈良縣)の古地名。萬葉集卷一に、和銅三年春、奈樂宮に遷りま

す。伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に安濃郡長屋郷あり、奈加也と訓す。いま長屋の地名なし、安濃郡に長野村あれば、或は長野の誤なるべし。

【長屋】 大和國(奈良縣)の古地名。萬葉集卷一に、和銅三年春、奈樂宮に遷りま

す。伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に安濃郡長屋郷あり、奈加也と訓す。いま長屋の地名なし、安濃郡に長野村あれば、或は長野の誤なるべし。

【長屋】 大和國(奈良縣)の古地名。萬葉集卷一に、和銅三年春、奈樂宮に遷りま

す。伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に安濃郡長屋郷あり、奈加也と訓す。いま長屋の地名なし、安濃郡に長野村あれば、或は長野の誤なるべし。

【長屋】 大和國(奈良縣)の古地名。萬葉集卷一に、和銅三年春、奈樂宮に遷りま

す。伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に安濃郡長屋郷あり、奈加也と訓す。いま長屋の地名なし、安濃郡に長野村あれば、或は長野の誤なるべし。

【長屋】 大和國(奈良縣)の古地名。萬葉集卷一に、和銅三年春、奈樂宮に遷りま

す。伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に安濃郡長屋郷あり、奈加也と訓す。いま長屋の地名なし、安濃郡に長野村あれば、或は長野の誤なるべし。

【長屋】 大和國(奈良縣)の古地名。萬葉集卷一に、和銅三年春、奈樂宮に遷りま

す。伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に安濃郡長屋郷あり、奈加也と訓す。いま長屋の地名なし、安濃郡に長野村あれば、或は長野の誤なるべし。

【長屋】 大和國(奈良縣)の古地名。萬葉集卷一に、和銅三年春、奈樂宮に遷りま

す。伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に安濃郡長屋郷あり、奈加也と訓す。いま長屋の地名なし、安濃郡に長野村あれば、或は長野の誤なるべし。

【長屋】 大和國(奈良縣)の古地名。萬葉集卷一に、和銅三年春、奈樂宮に遷りま

す。伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に安濃郡長屋郷あり、奈加也と訓す。いま長屋の地名なし、安濃郡に長野村あれば、或は長野の誤なるべし。

【長屋】 大和國(奈良縣)の古地名。萬葉集卷一に、和銅三年春、奈樂宮に遷りま

す。伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に安濃郡長屋郷あり、奈加也と訓す。いま長屋の地名なし、安濃郡に長野村あれば、或は長野の誤なるべし。

【長屋】 大和國(奈良縣)の古地名。萬葉集卷一に、和銅三年春、奈樂宮に遷りま

す。伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に安濃郡長屋郷あり、奈加也と訓す。いま長屋の地名なし、安濃郡に長野村あれば、或は長野の誤なるべし。

【長屋】 大和國(奈良縣)の古地名。萬葉集卷一に、和銅三年春、奈樂宮に遷りま

す。伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に安濃郡長屋郷あり、奈加也と訓す。いま長屋の地名なし、安濃郡に長野村あれば、或は長野の誤なるべし。

【長屋】 大和國(奈良縣)の古地名。萬葉集卷一に、和銅三年春、奈樂宮に遷りま

す。伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に安濃郡長屋郷あり、奈加也と訓す。いま長屋の地名なし、安濃郡に長野村あれば、或は長野の誤なるべし。

【長屋】 大和國(奈良縣)の古地名。萬葉集卷一に、和銅三年春、奈樂宮に遷りま

す。伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に安濃郡長屋郷あり、奈加也と訓す。いま長屋の地名なし、安濃郡に長野村あれば、或は長野の誤なるべし。

【長屋】 大和國(奈良縣)の古地名。萬葉集卷一に、和銅三年春、奈樂宮に遷りま

す。伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に安濃郡長屋郷あり、奈加也と訓す。いま長屋の地名なし、安濃郡に長野村あれば、或は長野の誤なるべし。

【長屋】 大和國(奈良縣)の古地名。萬葉集卷一に、和銅三年春、奈樂宮に遷りま

す。伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に安濃郡長屋郷あり、奈加也と訓す。いま長屋の地名なし、安濃郡に長野村あれば、或は長野の誤なるべし。

【長屋】 大和國(奈良縣)の古地名。萬葉集卷一に、和銅三年春、奈樂宮に遷りま

す。伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に安濃郡長屋郷あり、奈加也と訓す。いま長屋の地名なし、安濃郡に長野村あれば、或は長野の誤なるべし。

【長屋】 大和國(奈良縣)の古地名。萬葉集卷一に、和銅三年春、奈樂宮に遷りま

す。伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に安濃郡長屋郷あり、奈加也と訓す。いま長屋の地名なし、安濃郡に長野村あれば、或は長野の誤なるべし。

【長屋】 大和國(奈良縣)の古地名。萬葉集卷一に、和銅三年春、奈樂宮に遷りま

す。伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に安濃郡長屋郷あり、奈加也と訓す。いま長屋の地名なし、安濃郡に長野村あれば、或は長野の誤なるべし。

【長屋】 大和國(奈良縣)の古地名。萬葉集卷一に、和銅三年春、奈樂宮に遷りま

す。伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に安濃郡長屋郷あり、奈加也と訓す。いま長屋の地名なし、安濃郡に長野村あれば、或は長野の誤なるべし。

【長屋】 大和國(奈良縣)の古地名。萬葉集卷一に、和銅三年春、奈樂宮に遷りま

す。伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に安濃郡長屋郷あり、奈加也と訓す。いま長屋の地名なし、安濃郡に長野村あれば、或は長野の誤なるべし。

【長屋】 大和國(奈良縣)の古地名。萬葉集卷一に、和銅三年春、奈樂宮に遷りま

す。伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に安濃郡長屋郷あり、奈加也と訓す。いま長屋の地名なし、安濃郡に長野村あれば、或は長野の誤なるべし。

【長屋】 大和國(奈良縣)の古地名。萬葉集卷一に、和銅三年春、奈樂宮に遷りま

す。伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に安濃郡長屋郷あり、奈加也と訓す。いま長屋の地名なし、安濃郡に長野村あれば、或は長野の誤なるべし。

【長屋】 大和國(奈良縣)の古地名。萬葉集卷一に、和銅三年春、奈樂宮に遷りま

す。伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に安濃郡長屋郷あり、奈加也と訓す。いま長屋の地名なし、安濃郡に長野村あれば、或は長野の誤なるべし。

【長屋】 大和國(奈良縣)の古地名。萬葉集卷一に、和銅三年春、奈樂宮に遷りま

す。伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に安濃郡長屋郷あり、奈加也と訓す。いま長屋の地名なし、安濃郡に長野村あれば、或は長野の誤なるべし。

【長屋】 大和國(奈良縣)の古地名。萬葉集卷一に、和銅三年春、奈樂宮に遷りま

す。伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に安濃郡長屋郷あり、奈加也と訓す。いま長屋の地名なし、安濃郡に長野村あれば、或は長野の誤なるべし。

【長屋】 大和國(奈良縣)の古地名。萬葉集卷一に、和銅三年春、奈樂宮に遷りま

す。伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に安濃郡長屋郷あり、奈加也と訓す。いま長屋の地名なし、安濃郡に長野村あれば、或は長野の誤なるべし。

【長屋】 大和國(奈良縣)の古地名。萬葉集卷一に、和銅三年春、奈樂宮に遷りま

す。伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に安濃郡長屋郷あり、奈加也と訓す。いま長屋の地名なし、安濃郡に長野村あれば、或は長野の誤なるべし。

【長屋】 大和國(奈良縣)の古地名。萬葉集卷一に、和銅三年春、奈樂宮に遷りま

す。伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に安濃郡長屋郷あり、奈加也と訓す。いま長屋の地名なし、安濃郡に長野村あれば、或は長野の誤なるべし。

ナカム ナカヤ

す。明治二十三年郡制の施行され郡役所の所在地となり、次いで郡制廢止にあたり橋多支廳を置き今日に及ぶ。明治三十一年町制施行す。(一修神社) 縣社。祭神、一條牧房・同房家・同房冬・同房基・同兼定・同内政および夫人。牧房は太政大臣一條兼良の長子、長祿元年左大臣に、同二年關白となり從一位に陞る。應仁の亂を兵庫に避け文明十年土佐に下り、翌年土佐同司宣下あり。房家は其の第二子父に從ひ土佐豐岡城に赴き、のち同司に補せられ中村城を治む。權大納言正二位に進む。土佐一條氏の祖たり。房冬はその第一子、父の後を承けて同司となり、のち權中納言左近衛大將正二位に進む。房基は其子、右近中將に任じのち從三位に進み天文十八年夭折す。兼定その後を嗣ぎ、從三位左近衛中將より權中納言に陞り、天正元年職を子吉房に譲り、割愛して豊後臼杵に至り大友宗麟に依り、其地に歿す。内政は父吉房の後を承けて同司となり長門郡大津の城に移る。世に之を大津御所と稱す。左近衛中將の時、夫人の實家長曾我部氏と嫁ありて遂に伊豫邊浦に移る。以上を世に一條氏五世と稱す。例祭、十二月二十六日。(不破八幡宮) 不破に鎮座。縣社。祭神、品陀和氣命・玉依姫命・息長足姫命。一條家の崇敬社として祭日には國司の参拜あり。山内氏も厚く崇敬して必ず代参ありしと云ふ。當郡の總鎮守にして正八幡宮また廣

ナカム ナカヤ

橋八幡宮と稱せしが、明治初年に近世鎮に改稱。例祭、九月二十五日。(太平寺) 大字右山にあり。臨濟宗。神護山。應永年間惠心老尼の開創に傳るといふ。寺寶中、海峯性公坐像一軀・泉慶堂坐像一軀(共に木造)は何れも鎌倉期の作にて國寶なり。【ナカムラ 仲村】 陸奥國(陸中、岩手縣)の古地名。和名抄に磐井郡仲村郷あり、其地今の西磐井郡涌津村・花泉村の邊に當る。【仲村】 陸奥國(陸前國、宮城縣)の古地名。和名抄に新田郡仲村郷あり、その地今の栗原郡高清水町、清瀧村・慈里村の邊に當る。【仲村】 讃岐國(香川縣)の古地名。和名抄に多度郡仲村郷あり、其地今の多度郡仲村郷と合して今の仲多度郡筆岡村となす。【仲村】 土佐國(高知縣)の古地名。和名抄に吾川郡仲村郷あり、その地今の吾川郡長濱町・浦戸村・御懸瀬村・諸木村の邊なるべし。【ナカモクライテン 中目來田】 新潟縣南魚沼郡にありし村。明治三十九年に外一町五箇村と共に合併して鹽澤町を建つ。【ナカモズ 中百舌鳥】 大阪府京北郡にありし村。大正八年に西百舌鳥村と共に廢され、その地城を以つて百舌鳥村を建つ。

ナカム

郡國中村とあるも、同じ地なるべし。【中村町】 高知縣土佐國橋多郡の中部。四万十川下流左岸に位し、下田町の西北に接す。川に沿うて細長き地形を有し西と南は川を界して具岡村・八東村に、東北は東山村に隣接す。面積五、三八平方軒。西境を四万十川、東境をその支流なる後川南流して村の東南にて合流す。二川に挟まれし狭長なる地城は平地に富み肥沃なり。街路四通して市街發達し商工業盛なり。酒類・醬油・絲等の工産物を最もに米・麥・粟・瓜・豆類等の産出多し。縣道二線通じバスの便あり。四万十川は舟の往來繁し。町内に橋多支廳・中村刑務支所・中村區裁判所・縣立中村中學校・縣立中村高等女學校・縣社一條神社・縣社不破八幡宮等あり。市街は大ならざるも新町・京町・紺屋町・一條通・愛宕町・天神橋通・小姓町・下町の數町に分れ郡の主邑たり。文明の昔、一條氏下園として府を開きてより五代百年間中村御所として西方の要領たりしが、一條氏滅びて泰氏の世となるに及び、その老臣桑名彌次兵衛は城代として此處に居住す。泰氏亡びて山内氏となるや、藩祖一豊の弟康登ここに封ぜられ、采邑三萬石を領し支藩の委をなせしが、元和年間に一國一城の定ありてより城を廢し、土居となし引續き四代を経て封を撤せらる。爾來、藩政中なほ國內西部の要所として郡方を置きこれを支配せしが、明治維新の際に廢

【中村町】 高知縣土佐國橋多郡の中部。四万十川下流左岸に位し、下田町の西北に接す。川に沿うて細長き地形を有し西と南は川を界して具岡村・八東村に、東北は東山村に隣接す。面積五、三八平方軒。西境を四万十川、東境をその支流なる後川南流して村の東南にて合流す。二川に挟まれし狭長なる地城は平地に富み肥沃なり。街路四通して市街發達し商工業盛なり。酒類・醬油・絲等の工産物を最もに米・麥・粟・瓜・豆類等の産出多し。縣道二線通じバスの便あり。四万十川は舟の往來繁し。町内に橋多支廳・中村刑務支所・中村區裁判所・縣立中村中學校・縣立中村高等女學校・縣社一條神社・縣社不破八幡宮等あり。市街は大ならざるも新町・京町・紺屋町・一條通・愛宕町・天神橋通・小姓町・下町の數町に分れ郡の主邑たり。文明の昔、一條氏下園として府を開きてより五代百年間中村御所として西方の要領たりしが、一條氏滅びて泰氏の世となるに及び、その老臣桑名彌次兵衛は城代として此處に居住す。泰氏亡びて山内氏となるや、藩祖一豊の弟康登ここに封ぜられ、采邑三萬石を領し支藩の委をなせしが、元和年間に一國一城の定ありてより城を廢し、土居となし引續き四代を経て封を撤せらる。爾來、藩政中なほ國內西部の要所として郡方を置きこれを支配せしが、明治維新の際に廢

【中村町】 高知縣土佐國橋多郡の中部。四万十川下流左岸に位し、下田町の西北に接す。川に沿うて細長き地形を有し西と南は川を界して具岡村・八東村に、東北は東山村に隣接す。面積五、三八平方軒。西境を四万十川、東境をその支流なる後川南流して村の東南にて合流す。二川に挟まれし狭長なる地城は平地に富み肥沃なり。街路四通して市街發達し商工業盛なり。酒類・醬油・絲等の工産物を最もに米・麥・粟・瓜・豆類等の産出多し。縣道二線通じバスの便あり。四万十川は舟の往來繁し。町内に橋多支廳・中村刑務支所・中村區裁判所・縣立中村中學校・縣立中村高等女學校・縣社一條神社・縣社不破八幡宮等あり。市街は大ならざるも新町・京町・紺屋町・一條通・愛宕町・天神橋通・小姓町・下町の數町に分れ郡の主邑たり。文明の昔、一條氏下園として府を開きてより五代百年間中村御所として西方の要領たりしが、一條氏滅びて泰氏の世となるに及び、その老臣桑名彌次兵衛は城代として此處に居住す。泰氏亡びて山内氏となるや、藩祖一豊の弟康登ここに封ぜられ、采邑三萬石を領し支藩の委をなせしが、元和年間に一國一城の定ありてより城を廢し、土居となし引續き四代を経て封を撤せらる。爾來、藩政中なほ國內西部の要所として郡方を置きこれを支配せしが、明治維新の際に廢

【中村町】 高知縣土佐國橋多郡の中部。四万十川下流左岸に位し、下田町の西北に接す。川に沿うて細長き地形を有し西と南は川を界して具岡村・八東村に、東北は東山村に隣接す。面積五、三八平方軒。西境を四万十川、東境をその支流なる後川南流して村の東南にて合流す。二川に挟まれし狭長なる地城は平地に富み肥沃なり。街路四通して市街發達し商工業盛なり。酒類・醬油・絲等の工産物を最もに米・麥・粟・瓜・豆類等の産出多し。縣道二線通じバスの便あり。四万十川は舟の往來繁し。町内に橋多支廳・中村刑務支所・中村區裁判所・縣立中村中學校・縣立中村高等女學校・縣社一條神社・縣社不破八幡宮等あり。市街は大ならざるも新町・京町・紺屋町・一條通・愛宕町・天神橋通・小姓町・下町の數町に分れ郡の主邑たり。文明の昔、一條氏下園として府を開きてより五代百年間中村御所として西方の要領たりしが、一條氏滅びて泰氏の世となるに及び、その老臣桑名彌次兵衛は城代として此處に居住す。泰氏亡びて山内氏となるや、藩祖一豊の弟康登ここに封ぜられ、采邑三萬石を領し支藩の委をなせしが、元和年間に一國一城の定ありてより城を廢し、土居となし引續き四代を経て封を撤せらる。爾來、藩政中なほ國內西部の要所として郡方を置きこれを支配せしが、明治維新の際に廢

【中村町】 高知縣土佐國橋多郡の中部。四万十川下流左岸に位し、下田町の西北に接す。川に沿うて細長き地形を有し西と南は川を界して具岡村・八東村に、東北は東山村に隣接す。面積五、三八平方軒。西境を四万十川、東境をその支流なる後川南流して村の東南にて合流す。二川に挟まれし狭長なる地城は平地に富み肥沃なり。街路四通して市街發達し商工業盛なり。酒類・醬油・絲等の工産物を最もに米・麥・粟・瓜・豆類等の産出多し。縣道二線通じバスの便あり。四万十川は舟の往來繁し。町内に橋多支廳・中村刑務支所・中村區裁判所・縣立中村中學校・縣立中村高等女學校・縣社一條神社・縣社不破八幡宮等あり。市街は大ならざるも新町・京町・紺屋町・一條通・愛宕町・天神橋通・小姓町・下町の數町に分れ郡の主邑たり。文明の昔、一條氏下園として府を開きてより五代百年間中村御所として西方の要領たりしが、一條氏滅びて泰氏の世となるに及び、その老臣桑名彌次兵衛は城代として此處に居住す。泰氏亡びて山内氏となるや、藩祖一豊の弟康登ここに封ぜられ、采邑三萬石を領し支藩の委をなせしが、元和年間に一國一城の定ありてより城を廢し、土居となし引續き四代を経て封を撤せらる。爾來、藩政中なほ國內西部の要所として郡方を置きこれを支配せしが、明治維新の際に廢

【中村町】 高知縣土佐國橋多郡の中部。四万十川下流左岸に位し、下田町の西北に接す。川に沿うて細長き地形を有し西と南は川を界して具岡村・八東村に、東北は東山村に隣接す。面積五、三八平方軒。西境を四万十川、東境をその支流なる後川南流して村の東南にて合流す。二川に挟まれし狭長なる地城は平地に富み肥沃なり。街路四通して市街發達し商工業盛なり。酒類・醬油・絲等の工産物を最もに米・麥・粟・瓜・豆類等の産出多し。縣道二線通じバスの便あり。四万十川は舟の往來繁し。町内に橋多支廳・中村刑務支所・中村區裁判所・縣立中村中學校・縣立中村高等女學校・縣社一條神社・縣社不破八幡宮等あり。市街は大ならざるも新町・京町・紺屋町・一條通・愛宕町・天神橋通・小姓町・下町の數町に分れ郡の主邑たり。文明の昔、一條氏下園として府を開きてより五代百年間中村御所として西方の要領たりしが、一條氏滅びて泰氏の世となるに及び、その老臣桑名彌次兵衛は城代として此處に居住す。泰氏亡びて山内氏となるや、藩祖一豊の弟康登ここに封ぜられ、采邑三萬石を領し支藩の委をなせしが、元和年間に一國一城の定ありてより城を廢し、土居となし引續き四代を経て封を撤せらる。爾來、藩政中なほ國內西部の要所として郡方を置きこれを支配せしが、明治維新の際に廢

【中村町】 高知縣土佐國橋多郡の中部。四万十川下流左岸に位し、下田町の西北に接す。川に沿うて細長き地形を有し西と南は川を界して具岡村・八東村に、東北は東山村に隣接す。面積五、三八平方軒。西境を四万十川、東境をその支流なる後川南流して村の東南にて合流す。二川に挟まれし狭長なる地城は平地に富み肥沃なり。街路四通して市街發達し商工業盛なり。酒類・醬油・絲等の工産物を最もに米・麥・粟・瓜・豆類等の産出多し。縣道二線通じバスの便あり。四万十川は舟の往來繁し。町内に橋多支廳・中村刑務支所・中村區裁判所・縣立中村中學校・縣立中村高等女學校・縣社一條神社・縣社不破八幡宮等あり。市街は大ならざるも新町・京町・紺屋町・一條通・愛宕町・天神橋通・小姓町・下町の數町に分れ郡の主邑たり。文明の昔、一條氏下園として府を開きてより五代百年間中村御所として西方の要領たりしが、一條氏滅びて泰氏の世となるに及び、その老臣桑名彌次兵衛は城代として此處に居住す。泰氏亡びて山内氏となるや、藩祖一豊の弟康登ここに封ぜられ、采邑三萬石を領し支藩の委をなせしが、元和年間に一國一城の定ありてより城を廢し、土居となし引續き四代を経て封を撤せらる。爾來、藩政中なほ國內西部の要所として郡方を置きこれを支配せしが、明治維新の際に廢

【中村町】 高知縣土佐國橋多郡の中部。四万十川下流左岸に位し、下田町の西北に接す。川に沿うて細長き地形を有し西と南は川を界して具岡村・八東村に、東北は東山村に隣接す。面積五、三八平方軒。西境を四万十川、東境をその支流なる後川南流して村の東南にて合流す。二川に挟まれし狭長なる地城は平地に富み肥沃なり。街路四通して市街發達し商工業盛なり。酒類・醬油・絲等の工産物を最もに米・麥・粟・瓜・豆類等の産出多し。縣道二線通じバスの便あり。四万十川は舟の往來繁し。町内に橋多支廳・中村刑務支所・中村區裁判所・縣立中村中學校・縣立中村高等女學校・縣社一條神社・縣社不破八幡宮等あり。市街は大ならざるも新町・京町・紺屋町・一條通・愛宕町・天神橋通・小姓町・下町の數町に分れ郡の主邑たり。文明の昔、一條氏下園として府を開きてより五代百年間中村御所として西方の要領たりしが、一條氏滅びて泰氏の世となるに及び、その老臣桑名彌次兵衛は城代として此處に居住す。泰氏亡びて山内氏となるや、藩祖一豊の弟康登ここに封ぜられ、采邑三萬石を領し支藩の委をなせしが、元和年間に一國一城の定ありてより城を廢し、土居となし引續き四代を経て封を撤せらる。爾來、藩政中なほ國內西部の要所として郡方を置きこれを支配せしが、明治維新の際に廢

【中村町】 高知縣土佐國橋多郡の中部。四万十川下流左岸に位し、下田町の西北に接す。川に沿うて細長き地形を有し西と南は川を界して具岡村・八東村に、東北は東山村に隣接す。面積五、三八平方軒。西境を四万十川、東境をその支流なる後川南流して村の東南にて合流す。二川に挟まれし狭長なる地城は平地に富み肥沃なり。街路四通して市街發達し商工業盛なり。酒類・醬油・絲等の工産物を最もに米・麥・粟・瓜・豆類等の産出多し。縣道二線通じバスの便あり。四万十川は舟の往來繁し。町内に橋多支廳・中村刑務支所・中村區裁判所・縣立中村中學校・縣立中村高等女學校・縣社一條神社・縣社不破八幡宮等あり。市街は大ならざるも新町・京町・紺屋町・一條通・愛宕町・天神橋通・小姓町・下町の數町に分れ郡の主邑たり。文明の昔、一條氏下園として府を開きてより五代百年間中村御所として西方の要領たりしが、一條氏滅びて泰氏の世となるに及び、その老臣桑名彌次兵衛は城代として此處に居住す。泰氏亡びて山内氏となるや、藩祖一豊の弟康登ここに封ぜられ、采邑三萬石を領し支藩の委をなせしが、元和年間に一國一城の定ありてより城を廢し、土居となし引續き四代を経て封を撤せらる。爾來、藩政中なほ國內西部の要所として郡方を置きこれを支配せしが、明治維新の際に廢

【中村町】 高知縣土佐國橋多郡の中部。四万十川下流左岸に位し、下田町の西北に接す。川に沿うて細長き地形を有し西と南は川を界して具岡村・八東村に、東北は東山村に隣接す。面積五、三八平方軒。西境を四万十川、東境をその支流なる後川南流して村の東南にて合流す。二川に挟まれし狭長なる地城は平地

ナカヤ

約七軒。南と西は兵庫縣米上郡及び朝来郡に界す。南部には五〇〇米程度の山脈東西に連り、東北部にも三〇〇米程度の丘陵がある。西北方より来る由良川支流の牧川中央を東南流し沿岸に積平地あり、西北部には平野あり。米等の産外、養蠶盛にして繭を出し、また工業・林産・畜産もあり。中央には山陰道及び省線山陰線東西に通過し、西北約一軒に後者の上夜久野驛ありてバスを通す。この地は和名抄、天田郡夜久郷の内なり。

ナカヤス

【中山】川上線の一驛(大正十一年設置)。【中山村】長安 島根縣那賀郡にありし村。大正十一年に高城村と共に廢しその地域を以て安城村を建つ。【中山】川上線の一驛(大正十一年設置)。【中山村】長安 島根縣那賀郡にありし村。大正十一年に高城村と共に廢しその地域を以て安城村を建つ。

ナカヤマ

【中山】川上線の一驛(大正十一年設置)。【中山村】長安 島根縣那賀郡にありし村。大正十一年に高城村と共に廢しその地域を以て安城村を建つ。【中山】川上線の一驛(大正十一年設置)。【中山村】長安 島根縣那賀郡にありし村。大正十一年に高城村と共に廢しその地域を以て安城村を建つ。

ナカヤ

【中山】川上線の一驛(大正十一年設置)。【中山村】長安 島根縣那賀郡にありし村。大正十一年に高城村と共に廢しその地域を以て安城村を建つ。【中山】川上線の一驛(大正十一年設置)。【中山村】長安 島根縣那賀郡にありし村。大正十一年に高城村と共に廢しその地域を以て安城村を建つ。

ナカヤ

【中山】川上線の一驛(大正十一年設置)。【中山村】長安 島根縣那賀郡にありし村。大正十一年に高城村と共に廢しその地域を以て安城村を建つ。【中山】川上線の一驛(大正十一年設置)。【中山村】長安 島根縣那賀郡にありし村。大正十一年に高城村と共に廢しその地域を以て安城村を建つ。

ナカヤ

【中山】川上線の一驛(大正十一年設置)。【中山村】長安 島根縣那賀郡にありし村。大正十一年に高城村と共に廢しその地域を以て安城村を建つ。【中山】川上線の一驛(大正十一年設置)。【中山村】長安 島根縣那賀郡にありし村。大正十一年に高城村と共に廢しその地域を以て安城村を建つ。

ナカヤ

【中山】川上線の一驛(大正十一年設置)。【中山村】長安 島根縣那賀郡にありし村。大正十一年に高城村と共に廢しその地域を以て安城村を建つ。【中山】川上線の一驛(大正十一年設置)。【中山村】長安 島根縣那賀郡にありし村。大正十一年に高城村と共に廢しその地域を以て安城村を建つ。

ナカヤ

【中山】川上線の一驛(大正十一年設置)。【中山村】長安 島根縣那賀郡にありし村。大正十一年に高城村と共に廢しその地域を以て安城村を建つ。【中山】川上線の一驛(大正十一年設置)。【中山村】長安 島根縣那賀郡にありし村。大正十一年に高城村と共に廢しその地域を以て安城村を建つ。

ナカヤ

【中山】川上線の一驛(大正十一年設置)。【中山村】長安 島根縣那賀郡にありし村。大正十一年に高城村と共に廢しその地域を以て安城村を建つ。【中山】川上線の一驛(大正十一年設置)。【中山村】長安 島根縣那賀郡にありし村。大正十一年に高城村と共に廢しその地域を以て安城村を建つ。

ナカヤ

【中山】川上線の一驛(大正十一年設置)。【中山村】長安 島根縣那賀郡にありし村。大正十一年に高城村と共に廢しその地域を以て安城村を建つ。【中山】川上線の一驛(大正十一年設置)。【中山村】長安 島根縣那賀郡にありし村。大正十一年に高城村と共に廢しその地域を以て安城村を建つ。

ナカヤ

【中山】川上線の一驛(大正十一年設置)。【中山村】長安 島根縣那賀郡にありし村。大正十一年に高城村と共に廢しその地域を以て安城村を建つ。【中山】川上線の一驛(大正十一年設置)。【中山村】長安 島根縣那賀郡にありし村。大正十一年に高城村と共に廢しその地域を以て安城村を建つ。

ナカヤ—ナカヨ

七里の勝なり。この地域は花崗岩質斑岩の卓越せる地方にて、釜田川は之を侵蝕して峡谷をなし、兩岸の絶壁愈々高く、河床には花崗岩質斑岩の侵蝕に抗せしもの亂立して白池を離らせ、或は深淵をなす、沿岸の老杉影を投じ、秋は紅葉にまじり、殊に崖根に石を置きたる民家の點綴する景観は將に天下の絶勝にて、三淵附近はその最たるものなり。

ナカヤマジユク 中山宿 勢越西線の一驛(明治三十一年設置)。福島縣安達郡高川村大字中山にあり。

ナカヤマタイラ 中山平 福島縣東部の一驛(大正六年設置)。宮城縣玉造郡鳴子町大字中山にあり。

ナカヤマテラ 中山寺 福山山嶽の一驛(明治三十年設置)。兵庫縣川邊郡長尾村にあり。

ナガユ 長湯村 大分縣豊後國直入郡の北部。竹田町の北方約一〇軒、西は都野村、東北は下竹田村にて大野郡西大野村に接す。南部は龜ヶ岳西北面の山地にて、北中は久重火山群の一峰なる里嶽(一五五六米)東側の傾斜面にて高原状をなす山地なり。中央部の谷地を芥川東北流し、こゝに巾狭き耕地あり。米を主とし、蕎麥・甘藷・粟等の農産、木材・竹材等の林産あり。久住より大分方面への中部を西南より東北に通じ、芥川岸の湯原温泉より長野を経て竹田町へハスの便あり。古くは東原郡(一に形勢)の内とす。

古くは日高郡と稱す。豊神の長江津津彦神は元天皇の御子武内宿禰の子にして、玉手臣・的臣阿蘇郡區が祖なりと古事記にあり。さればこの何れかの族人が當地に居住して其祖神を祀れるものならん。例祭、十月十六日。

ナガラ 長良

【長良川】 岐阜縣を流る木曾川の一支流。源を美濃・飛騨の境なる大日岳(一七〇九米)の東北麓に發して古生層山地を南流し、右岸より板取川・武儀川、左岸より古田川・津保川等を合せ、流路を西南に轉じて濃美平野に出で、岐阜市の北部を迂回し、更に南流に轉じ、羽島・安八兩郡及び愛知縣中島郡との境に於て木曾川に入る。下流をまた濃美川ともいふ。流路延長一三〇軒、其間、約〇〇軒は山地を峡谷をなして流るるも左岸に八幡町・美濃町・關町等あり、此等を連れて越美南線および越前街道通じ、岐阜市の下流約三〇軒には舟楫の便あり。古來水害のため下流の河道屢々變じて現形に至る。岐阜市附近の鶴岡は有名にて、古く延喜年間に行はれたるもの如く、其後、幾變遷を経て仁平年間よりは大いに盛となり、鎌倉時代には毎年幕府に鮎鮎を獻する例あり、永祿七年には織田信長、元和元年には徳川家康この鶴岡を觀覽せしことあり、禁裏及び江戸幕府へも鮎鮎を獻せり。明治以後は明治天皇の天覽を始め、各宮殿下の台覽、外國皇

ナカラ—ナカリ

と徳原村と稱し、のち長湯村と改む。いま村の一部は阿蘇國立公園の一部とす。【長湯(湯原)】 海拔九五〇米の久住高原の裾野に在り。泉質炭酸泉。温泉は御前湯・榮師湯・長生湯・不老湯・天満湯などに分け、夏は蚊の棲息せざる好適なる避暑地とす。

ナカユキ 中結城村 茨城縣下總國結城郡の中部。結城町の南約六軒。東は眞壁郡川西村に接す。鬼怒川と飯沼川の間中にあり、西南部にやや高きも土地平坦、鬼怒川の分流は北東部を貫流してその流域に瀧田あり、西南部は未だ雑木林残る。縣道は中部を東西に通じハスの便あり。讀日本紀に見ゆる小鹽郷は蓋し此地とす。

ナカユベツ 中湧別 名寄本線の一驛(大正五年設置)。北海道北見國紋別郡上湧別村にあり。

ナカヨ 長吉 肥前國(佐賀縣)の古地名。和名抄に基津郡長谷郷あり、長谷は長吉郷の誤なるべし。いま三榮基津郡代町大字に未吉あり、即ち此地なり。

ナカヨ 長興村 長崎縣肥前國西彼杵郡の中部東端。南は長崎市の北部との間に西浦上村を隔て、北は大村津南岸に臨み、東は伊木力村、西は時津村なり。面積二八方軒餘。東境に琴尾山(四五一米)・猪見岳(三六四米)の山嶺連り、南境にも丘陵東西に延び、南部と西端に市界を低地開けて耕地あり。林尾山の北長

の觀覽あり、益々盛となりて現在に至る。鶴岡に使用する船はもと愛知縣藤島河原にて捕獲せしが、近年は茨城縣多賀郡那形村の海岸にて捕獲せるを用ふ。鶴岡漁業は鮎のやや成長を遂げた頃、五月十一日より十月十五日まで、満月の夜と前後濁水の時を除く外、毎夜これを行ひ、上流には月の入るを待ち、下流には月の出でざるに先ち、上流より漸次下流に降り下すものにして、船一艘には船匠一人、中船使一人、船夫二人乗組み、船先に篝火を焚きて水面を照し、船匠は鳥帽子を冠り腰裏につけ船先において十二羽の鶴を使ひ、中船使は中央において四羽の鶴を使ふ。鶴岡觀覽の遊覽船は岐阜市直營にて、金華山の麓より出發し長良橋まで下る。

ナガラ 長柄

【長柄】 岐阜縣稲葉郡にありし村。昭和七年に岐阜市に編入さる。抄に邑樂郡長柄郷あり、この地の邑樂郡小泉町・長柄村の邊に當る。【長柄(郡)】 上總國(千葉縣)の古郡名。萬葉集卷二十にも延喜式神名帳にもその名見ゆ。和名抄は奈加良と註し刑部・菅見・車持・兼隆・柏原・谷部の六郷を管す。平安時代の季、私に南北に分け長南・長北といひ、鎌倉時代の記録には長南・長北の字を充つ。近世に至り舊稱に復す。明治三十年四月に上埴生郡と合し

は堂崎鼻、西端は馬込鼻となり、西北部丘陵の突端崎野ノ鼻との間に長興浦ノ淵入を抱く。米・麥等の外に東隣伊木力村と共に蜜柑の産地をなす。省線長崎本線は南部を東西に通じ、中央部の吉無田郷に長興驛、西部の高田郷に道ノ尾驛(共に明治三十年設置)を置く。村内に道ノ尾温泉あり。泉質はラザラム含有泉。長崎市民の行樂地として賑ふ。

ナカヨカワ 中吉川村 兵庫縣播磨國美祿郡の東北部。加古川支流美濃川上流の地に在り、東は奥吉川村、西は國吉川村に接す。面積一七・八方軒餘。東北には細長く延びて北隣北谷村と奥吉川村の北部とを隔つ。南中部と東北・西北の村界部には低き丘陵ありて臺地性をなし、中部を東西に貫流する美濃川沿ひには低地開けて、水田・畑よく發達し米産多し。蕎麥・粟・蔬菜・食用農産の外、皮革製品・薬製品・木製品・竹製品等の工業あり。縣道放射状に通じて四方の町村と結び、東北は名稱龍山嶽の三田・廣野・相野の諸驛へ、南は淡河、西南は三木、西北は天神(上東條村)等へ何れもハスの便あり。この地は和名抄、美濃郡吉川郷に屬す。(細田神社) 大字長谷に龍座。神社。祭神、天兒屋祖命・住吉三神。白雉二年の創立と傳ふ。元祿十三年に再建す。例祭、陰曆七月三十一日・十月初五日。(新宮神社) 大字山之上に龍座。神社。祭神、住吉三神・素戔嗚命等

て、長柄を建てて今日に至る。【長柄村】 千葉縣上總國長生郡の西北端。長原町の西北方に間に二宮本郷村を挟み、北より西は市原郡の一部と隣す。全村丘陵地にて西南部に長柄山あり。一帯に森林多く林産あり。丘陵間の狭き耕地に農業行はれて米を産し、蕎麥・粟も行はる。縣道は長原町に通じハスの便あり。此地は和名抄、長柄郡管見郷の内。もと上長柄村と稱せしが明治三十年現稱に改む。大字國府里は往時に長柄郡家のありし地なるにより此名あり。後人、文字により上總國府のありし地なりと解くは誤なり。

【長柄橋】 ↓大阪市(一〇四二頁) 【長柄】 丹波國(兵庫縣)の古地名。延喜兵部省式に、丹波國長柄驛々馬八疋とあり。其の地詳かならざるも、多紀郡城南村の大字野中(同稱を長柄といへりといふ。さすれば野中凡そ此の邊に在るべし)と云ふ。夫木集卷三二に見ゆる鳥羽天皇天皇仁の大嘗會主基方の歌に「はる／＼と年とほるかに見ゆるかな長柄の村のなかひの稻 藤原正家」とある長柄も、また此地なるべしといふ。

【長柄】 大阪市東淀川區の東南部。新淀川と大川との分岐點附近の地名。もとは攝津國西成郡豐崎町と稱し中津川即ち古の長柄川の南に在り。孝徳天皇の長柄豐崎宮に因みて建てし名稱なり。舊中津川の河邊に通じる新淀川の橋を今も舊名を

六注。例祭、十月廿日。【ナガヨシ 永吉村】 鹿児島縣薩摩國日置郡の西部。鹿児島市の西約一〇軒、西部は海に臨む。東西約九軒に及ぶ細長く、百乃至二百米の丘陵性山地連なり、東部山中に發する水吉川は中部をほぼ西流し、流域に低地ありて耕地開く。米・蕎麥・甘藷等を産し木材をも出す。縣道は西を南北に通じ、社線南薩鐵道これに並走し永吉驛(大正三年設置)を置く。此地は舊日置南郷の地に在り、近世、國主の一門島津中務の邑邑たり。村内に南郷城址あり。桑波田氏世々の居城なりしも、大永年中に出水の島津實久に當りて島津忠貞に抗敵せしため、天文の初め遂に忠貞のため撃破せられて亡ぶ。(久多島神社) 大字吉永に鎮座。神社。祭神玉依姫命。天文十七年島津久光の創建といふも詳ならず。例祭、十一月九日。

ナガヨシ 長吉村 大阪府河内國中河内郡の南部。西北には大阪市住吉區の東南隅に接し、北は龍華町に隣り、南は大和川によりて隔らる。地形極めて低平にして、面積僅に三・七五方軒。多くは水田をなし、米を主としその他の農産あり。大阪市に接し近時は工業も榮えて各種の工業少からず。東南方古市町方面へ延びる府道中央を通過し、大阪市へハスを通じ、北は奈良街道にも近く交通便なり。(志紀長吉神社) 大字長原に鎮座。神社。祭神、長江津津彦神・事代主命。

【長柄川】 淀川下流の一支の古名。今の大阪市を流るる新淀川の河道に當る。淀川即ち山城川は河内川を入れて後、堀江川(いまの天満川・大川)及び長柄川(中津川)に分れて藤波の海に入る。のち三國川(神崎川)を淀川に通じ即ち三派となる。長柄川は長柄豐崎宮(孝徳天皇の皇居の附近を流る)こと恰も唐都長安城の附近を流る、渭水の如きなるべし。こゝに架けたる長柄橋は有名なり。長柄川即ち中津川は明治に至りて新淀川の開鑿せらるるや大部分その河道となる。【長柄社】 ↓吐田郡村(奈良縣) 【長柄】 櫻井驛の一驛(大正三年設置)。奈良縣山邊郡朝和村長原にあり。

ナカリユーモン 中龍門村

奈良縣大和國吉野郡の東北部。上市町の東北約三軒、西北部は宇陀郡戸村に接す。西北境に龍門岳(九〇四米)あり、東南境には三百乃至五百米の山嶺連り、吉野川の小支山間を何れも西南に流れるも、概ね谷深く、僅に沿岸に低地ありて耕地開け食用農産物を作り、外に木材・木炭の産あり。街道は龍門岳の麓を繞りて定りハスを通ず。古くは和名抄、吉野郡賀

ナクサ—ナコ

利高氏の時南宗徳の領地となり代々その所領たり。南氏は紀州名草より起りしものといふ。もと北郷村の大字なりしが、大正十一年獨立して名草村を建つ。

【名草(郡)】紀伊國(和歌山縣)の古地名。書紀神武紀に天皇皇野に向はせ給ふ時、名草邑に於て名草戸時を討平げ給ふとあるが最も古く、國郡制定の時、名草郡置かれ國府の所在地たり。續紀養老七年紀に郡名はじめて見ゆ。和名抄は奈久佐と註し大屋・直川・菟部・大田・大宅・忌部・藤金・藤家・野鹿・大野・且来の十二郷及び津麻・有野・大屋・日前・須佐・鳥の神戸を置く。中世には郡内神地・神戸たきを以て神郷とも云へり。

【名草郡】紀伊國(和歌山縣)の古地名。日本後紀、弘仁三年四月、廣紀伊國名草郡、更置菟原郡、と見ゆ。名草郡は和名抄に見ゆる名草郡菟原郡の地名なるべく、中世には山口郡と稱せり。いま海草郡山口村大字里はその地にして、雄山峠の南麓にありしを、平安通都以後雄山道を廢して専ら紀見峠越の新道、即ち高野街道を通過せしを以てかくは名草郡を廢して菟原郡を置かれしなり。

【名草邑】 ↓名草(郡) 【名草山】 ↓紀三井寺町(和歌山縣) ナクサ 名種山・七草山 兵東縣神崎郡神崎町に屬する山。標高六八一米。山麓石英粗面岩より成る。山中に七草池等の遺跡ある。西北方より夢前川源流し

て南流し、東麓は同じく南流する市川の流域地たり。

【名倉村】 愛知縣三河國北設楽郡の西北部。田口町の北に隣る。西境に岩岳(一〇五九米)・雲峯山(九四五米)・東境に高山(一〇五四米)等の連峰は共にほぼ南北に走り、西境山地の傾斜急なるも東境山地は傾斜緩やかにして、中部を名倉川南に流れ、その流域に扇状地に田畑開けらるも、田畑は東部山地によく発達す。米を産する外に木材・木炭あり。街道は名倉川に沿うて南北に走りバスを通す。

【八幡神社】 大字東納庫に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。古米、本村の産土神として崇敬せらる。例祭、九月十五日。 【名倉】 和歌山縣伊都郡にありし村。明治四十三年高野町と改む。

【名倉村】 神奈川縣相模國津久井郡の西部。古野町の西南にある小村にて桂川の南岸にあり、面積四・三五方軒、西に山梨縣北都留郡の一部と隣す。關東山脈中の一部を占め、森林・草地あり。北麓を東流する桂川の谷沿ひに稍耕地ありて米・甘藷・馬鈴薯等を産し養蠶も行はる。川沿ひに村道ありて山梨縣に入り、北都留郡上野原町に通す。(石橋尾神社) 郷社。祭神、日本武尊。式内小社にして當國十三社の一。例祭、九月一日。

【名倉村】 埼玉縣秩父郡の西部。北に北の大河、南の觀音崎を以て扼され約六軒、野入約五軒の大洞なるも、水淺く泊舟に便ならず。 【ナクリ】 名栗村 埼玉縣秩父郡にありて、北より西は秩父郡、南は東京府西多摩郡の一部と隣す。面積五八・七二六方軒。關東山脈中の一部を占め、西南境には有間山(一一一四米)、その東北に巖山(一〇三三米)あり。また東北境には伊豆ヶ嶽(八五一米)あり。村の東部はこれ等兩山地の組合にて名栗川東南に流る。山地一帯森林多し、木材の産出多し。また

山脈連なりて併走して西方に傾斜し、區崖を以て海に臨み、西北端海岸には遠嶺山屹立して小磯鼻・モドロ岬・大平瀨・ビツヤ岬等の岬角を突出し附近は絶壁をなす。その南方古港附近は良好な灣入をなし漁港發達す。大字奈古附近には平地稍々ありて耕地拓かれ米・麥・蕎麥等の産あり。山地は林産に富み海岸は漁業盛にして鯛・鮎・柔魚等の漁獲多し。縣道は海岸に沿うて走り表市に至り、バスを通す。省線山崎本線本線(昭和六年設置)奈古驛(昭和四年設置)あり。また北方須佐村へは海上一四哩、定期の便船あり。この地古くは和名抄、阿武郡阿武郷の内に屬す。和歌の名所として知らる。源其彦は大字市部の地といふ。夫木・森よき夜ふけて誰其彦のほととぎす名のりかけても過ぎぬかな 行家(八幡宮) 大字奈古に鎮座。郷社。祭神、品陀別尊・帶仲津彦尊・息長足姫命。天曆年間、山城國石清水より分配すといふ。例祭、九月二十二日。

【名越切通】 ↓鎌倉町 ナゴエ 名越 愛知縣八名郡にありし村。明治二十三年に大野村を分割して本村を置き、同三十九年に外六箇村と共に廢されて七郷村を置く。

【勿來町】 福島縣磐城國石城郡の東南端。植田町の南方約四・五軒。東は太平洋に面し、南は茨城縣に接す。面積一八・八

二方軒。地形南部に高く北方に傾斜し、北部は平坦なり。窪田川は町の略中央部を東流す。海岸はいま松川磯と稱し登陸の地たり。米・麥を産し石灰を出す。また魚業行はる。陸前濱街道は海岸を南北に通じ、北方植田町へはバスの便あり。これに並行して常磐線通じ、勿來驛(明治三十年設置)あり。此地は和名抄、菊多郡酒井郷の内にして、勿來開地あるを以て知らる。もと窪田村と稱せしが、大正十四年勿來開地の歴史を重んじ勿來町と改稱す。大字窪田に長者屋敷と呼ぶ地あり。上古、菊多國造の治所ならんといふ。(日支勿來炭山) 鐵區は勿來町の内において二十二萬六千二百坪。昭和十年の産額は塊炭二、九六三三噸、粉炭二二、五〇一噸、切込炭五、四九九噸、粗炭四、二〇五噸にして、この總價約十七萬八千圓、我國の準重要鐵山に屬し、同年六月末現在の使用鐵夫二五九人にして日支炭礦汽船株式會社の經營たり。(東海炭山) 鐵區は勿來町・川部村・錦村の三箇町村に跨りて六十九萬餘坪、昭和九年の産額は三一、二六七噸にて我國の準重要鐵山に屬し、現在大日本炭礦株式會社の經營とす。(勿來炭礦) 福島縣石城郡の勿來町・川部村・錦村の三箇町村に互りに互り約九十九萬坪とす。炭礦區は常磐炭田の略中央に位し、地層は第三紀層に

通す。主なる産物は之に當りて發達す。省線磐城西端また之に當りて町内に詳なく、北隣船形町の南部に那古船形郷を置く。此地は和名抄、平群郡長門郷の内なり。明治二十六年に風原村を那古町と改稱す。古米、那古寺あるを以て知らる。(諏訪神社) 大字正木に鎮座。郷社。祭神、武御名方尊。延喜元年、信濃國の諏訪大神を勧請せるところといふ。例祭、九月二十七日。(那古寺) 大字那古にあり。新義真言宗智山派。補陀落山千手院と號し坂東三十三所第三十三番札所。養老元年行基の草創、承和十四年圓仁の再興と傳ふ。建久年中、源頼朝平家討滅新羅成就の報賽として講堂建立す。善寺領百九石。詠歌「補陀落は餘所にはあらし那美の寺岸うつ浪も法の聲々」

【名兒山】 萬葉集に見ゆる地名。いまの福岡縣宗像郡田島村と勝浦村との間の丘陵にして、即ち官幣大社宗像神宮の西に當る。萬葉六「大汝 少彦名之神こそは 名づけ始めめ 名のみを 名兒山と負ひて 吾が戀の 千重の一重も 慰めなく」

【名護】 土地にてはナゲと呼ぶ。沖縄縣國頭郡の中部。本部半島の南部より名護灣に沿うて西南に彎曲する地を占む。面積約六七方軒。人口約一萬四千。北部には沖繩島最高の八重岳(於茂登岳、約五〇〇米)と古来より琉球第一峰を以て

ナコ—ナコン

【名護町】 土地にてはナゲと呼ぶ。沖縄縣國頭郡の中部。本部半島の南部より名護灣に沿うて西南に彎曲する地を占む。面積約六七方軒。人口約一萬四千。北部には沖繩島最高の八重岳(於茂登岳、約五〇〇米)と古来より琉球第一峰を以て

【名倉村】 愛知縣三河國北設楽郡の西北部。田口町の北に隣る。西境に岩岳(一〇五九米)・雲峯山(九四五米)・東境に高山(一〇五四米)等の連峰は共にほぼ南北に走り、西境山地の傾斜急なるも東境山地は傾斜緩やかにして、中部を名倉川南に流れ、その流域に扇状地に田畑開けらるも、田畑は東部山地によく発達す。米を産する外に木材・木炭あり。街道は名倉川に沿うて南北に走りバスを通す。

【八幡神社】 大字東納庫に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。古米、本村の産土神として崇敬せらる。例祭、九月十五日。 【名倉】 和歌山縣伊都郡にありし村。明治四十三年高野町と改む。

【名倉村】 神奈川縣相模國津久井郡の西部。古野町の西南にある小村にて桂川の南岸にあり、面積四・三五方軒、西に山梨縣北都留郡の一部と隣す。關東山脈中の一部を占め、森林・草地あり。北麓を東流する桂川の谷沿ひに稍耕地ありて米・甘藷・馬鈴薯等を産し養蠶も行はる。川沿ひに村道ありて山梨縣に入り、北都留郡上野原町に通す。(石橋尾神社) 郷社。祭神、日本武尊。式内小社にして當國十三社の一。例祭、九月一日。

【名倉村】 埼玉縣秩父郡の西部。北に北の大河、南の觀音崎を以て扼され約六軒、野入約五軒の大洞なるも、水淺く泊舟に便ならず。 【ナクリ】 名栗村 埼玉縣秩父郡にありて、北より西は秩父郡、南は東京府西多摩郡の一部と隣す。面積五八・七二六方軒。關東山脈中の一部を占め、西南境には有間山(一一一四米)、その東北に巖山(一〇三三米)あり。また東北境には伊豆ヶ嶽(八五一米)あり。村の東部はこれ等兩山地の組合にて名栗川東南に流る。山地一帯森林多し、木材の産出多し。また

山脈連なりて併走して西方に傾斜し、區崖を以て海に臨み、西北端海岸には遠嶺山屹立して小磯鼻・モドロ岬・大平瀨・ビツヤ岬等の岬角を突出し附近は絶壁をなす。その南方古港附近は良好な灣入をなし漁港發達す。大字奈古附近には平地稍々ありて耕地拓かれ米・麥・蕎麥等の産あり。山地は林産に富み海岸は漁業盛にして鯛・鮎・柔魚等の漁獲多し。縣道は海岸に沿うて走り表市に至り、バスを通す。省線山崎本線本線(昭和六年設置)奈古驛(昭和四年設置)あり。また北方須佐村へは海上一四哩、定期の便船あり。この地古くは和名抄、阿武郡阿武郷の内に屬す。和歌の名所として知らる。源其彦は大字市部の地といふ。夫木・森よき夜ふけて誰其彦のほととぎす名のりかけても過ぎぬかな 行家(八幡宮) 大字奈古に鎮座。郷社。祭神、品陀別尊・帶仲津彦尊・息長足姫命。天曆年間、山城國石清水より分配すといふ。例祭、九月二十二日。

【名越切通】 ↓鎌倉町 ナゴエ 名越 愛知縣八名郡にありし村。明治二十三年に大野村を分割して本村を置き、同三十九年に外六箇村と共に廢されて七郷村を置く。

【勿來町】 福島縣磐城國石城郡の東南端。植田町の南方約四・五軒。東は太平洋に面し、南は茨城縣に接す。面積一八・八

(年一十和昭) 場工別数工職

Table showing industrial employment statistics by sector (紡績工業, 金属工業, etc.) and age group (工場, 職工, etc.) for the year 1917.

多し、商業一二%餘にてこれに次ぐ他は之等に比し遙に少し。これを東京・大阪・京都の三大都市に比較すれば工業は東京(一四・三%)・京都(一六・四%)・大阪(一六・七%)に比し工業率よく、これに反し商業は東京(一三・二%)・京都(一四・二%)・大阪(一四・八%)よりもその率悪く、即ち本市は東京・大阪・京都の三市よりも工業化著しきを認す。市の生産額は昭和五年の統計によれば、二七四萬圓、うち工業額は二六八萬圓餘圓(總額の九七%)に達し、農産額二八九萬圓、畜産額一五三萬圓、水産額一八八萬圓等これに次ぐ。即ち工業が絕對に

六%に當り斷然首位を占め、之に次ぐは紡績工業の一四・五%、製材及び木製品工業の一四・三%、食品工業の一〇・一%の順となる。職工数は一〇八一二六八に、一工場當り職工数は二六八人となる。各工業別にすれば、金属工業及び機械器具工業の四三八〇五人(職工總数の四〇・五%)最も多数を占め、之に次ぎ紡績工業の二七三七三人(二五・三%)、製材工業の一三二五五人(一二・三%)の順となる。更に昭和十一年中に於ける工業總額は六〇八、四六〇、五五六圓にて、之を前年の五五五、八九八、九九〇圓に比すれば五二、五六一、五六六圓、即ち九・五%の増加を示す。また之を事業別に見れば紡績工業の三九・二%が首位を占め、機械器具工業の一九・二%、其他の工業の八・三%、化学工業の五・四%、製材及び木製品工業の四・八%が之に次ぐ。之等の増加も主として對外貿易、軍需工業の活況等に基因して、従つて重工業の躍進が窺はれる。次に生産額中製品別に見ると生産額一千万圓以上のものは紡績の八六二一五、七九二圓を首位に、織物の五八二六九、〇八七圓これに次ぎ車輦・製粉・陶磁器・製材・印刷・菓子・パン及び水産等あり。工業製品としては機械染色工業盛んで、其のうち織物の生産が多し。織物にても綿織物が最も多く今は大阪市を凌ぎ、我國第一の地位を占め、これに隨伴して毛織物が興り、これも我國

(圓千位單) 額 産 生

Table showing production values by sector (紡績工業, 金属工業, etc.) in thousands of yen.

最大の産地となるに至れり。其他に絹織物・絹織物等あり。絹織物も甚だ盛んで、その生産は大阪市と覇を争ふ状態にあり、莫大小・製絲業も盛なり。食品工業には麥粉・菓子・麥酒・漬物・清酒・餡等の産多し。化学工業にては陶磁器・薬品及び賣薬品・肥料材料品・人造肥料・セメント・炭酸・硝子・漆器及び一開製等の生産多く、中にも陶磁器はもとほは單に市の東北方の山中に産せし瀬戸物の市場にすぎざりしも、今や産業組織の變遷と交通の利便が介して本市に於ても新業の勃興を促し、我國第一の生産地となり、僅に瀬戸地方を凌駕し而も海外に廣く販路を擴張し、財武製(市内開式町)に製陶会社あるにより此名あり)

として世界的名産を博す。七寶燒は花瓶・磁物等を主とし歴史的に名高く海外へ國産美術品として輸出されるもその産額は多からず。機械器具工業にては諸機械類・車輦・自轉車及び部分品・時計・電気機械器具等を産し、機械類の中に豊田式自動織機は名高く、その發明は名古屋を我國第一の製織都市たらしめし有力な一因をなせり。車輦にては汽車の製造が特に著し、時計は産額東京市に次ぎ我國第二位の生産地にて愛知時計の名産は頗る廣く知らる。鐘工業としては箱類を第一とする各種の本製品・扇子を第一とする紙製品・玩具・佛壇佛具・蚊帳・文房具等の製造多し。以上各種工業の外に、軍事上甚だ重要な各種軍需品の製造所あり、飛行機・軍用自動車等の製作が盛に行はれ、わが國に於ける新業の中心地となる。要するに本市の工業の主眼をなし、且つ我國にて第一位を占むるものは綿織物・毛織物及び陶磁器の三大工業にて、何れも産額は斷然頭角を顯はし前二者の盛大なることは實に日本に於けるランカシャであり、同時にコトクシャなりとの稱あり。工業地帯は中央部の市街地を巡りて四周に發達するも、主なるものを大體すれば、堀川筋を中心として凡そY字形に群り、特に南部地域が最も工業的色彩濃厚にて、都市計畫に於てもまた此の地域を工業地域と指定す。次に此の如き工業の盛大を來せし要因の主な

るものを挙げれば、交通の至便なること、第二に豊富にして且つ低廉なる電力を近距離より得られること等にあり。本市は石炭の産地に遠ざかり、木曾川を主とする電力の供給を受けるには甚だ恵まれし位置にあり、現在工業の原動力となる大部分は即ち木曾川筋の発電所よりの送電による。なほ労働力の得易き事も一要因となる。本市の後背地たる濃尾平野・伊勢平野及び三河平野は人口密度大にして絶好の市の労働力供給地となる。本市の土地分類表を見れば、田・畑面積は逐年減少しこれに反し宅地面積は増加す。昭和十二年の田の面積は約四七〇〇ヘクタール、畑は約一八五〇ヘクタール。之等の耕地面積より米を産するは勿論、米の生産額の如きは蓋し他地方より大なり。而し最大の特徴は近郊式農業の盛に行はれることにて、即ち茄子・大根・漬菜・葱・葱瓜等の蔬菜類の栽培多く、これはまた當然郊外まで延長され我國有数の蔬菜栽培地域をなす。市の西北部の批

Table showing land use statistics (宅地, 田, 畑, 其他) for the years 1917, 1920, and 1923.

肥島には古來有名なる青物市場あり、市場は單に當市のみならず、遠隔の地方まで蔬菜類を輸送し、特にこの守口大根は廣く世に知らる。畜産は牛・豚の屠殺相當多し本市の特色あるものは養鶏業なり。當地を中心として發達する養鶏業は斷然全國第一の地位を占め、その分布は、大抵都市を中市として圓周状に發達す。水産業は餘り盛ならざるも製造業は稍々盛なり。たゞ縣内及び三重縣の漁船が多く漁獲物を賣し、それを取扱ふ大魚市場が熱田にあり。

設會社の營業類別を見るに、工業を營むもの二六八社を首位に、商業を營むもの一九五社これに次ぎ、運輸業一六社・礦業二社となる。金融方面は當市に本店を有する銀行は、特殊銀行一・普通銀行五・貯蓄銀行一行にして、その支店が市内にあるもの五八、本店が當市外に所在の支店は二を算し、本支店銀行の總数は八七行なり。此の如き商業の發展は鐵道の各地方に通ずるに至り、次第に商業の勢力範圍即ち商圏はその鐵道沿線地域に侵入し、従来の東京・大阪の二大商圏に屬する地域が漸次市の商圏に屬するに至り、現在には東京・大阪の二大商圏に對してその中間部に我國第三の商圏を確立するに至れり。その區域は濃尾平野を中心とする伊勢海沿岸地域は、東は靜岡縣西部たる濱松市附近にて東京の商圏と相接し、省線中央線に沿うては長野縣鹽尻附近にて東京の商圏と接し、西は關ヶ原の峽隘を越え、近江の湖北地方及び北陸の南部へ侵入して大阪の商圏と交り、西南は沿岸部に紀伊半島南端に至りて大阪の商圏と相接す。なほ當市に産する特色は全國的の商圏を有することば勿論とす。これ等の商圏に對する貨物の輸送は鐵道に負ふ所多し、また名古屋港を通じて水運による輸送も少からず。鐵道による發達總量の多きは名古屋港・名古屋・熱田・白鳥の諸驛にして、到市は名古屋・白鳥・熱田・名古屋港・千種

に工業地帯を有す。人口は人口表の如く江戸時代には久しく五萬餘と推察され、明治初期にも七萬餘にすぎず。然るに封

Table with columns: 年 (Year), 人口 (Population), 備考 (Remarks). Rows include 承徳三年, 寛文四年, 延寶二年, etc.

七〇五六・三三四立方丈(昭和十一年調査)の能力を有し、昭和十一年末の市内止水道給水戸数一七一、六七八戸なり。

面積約二五萬坪を造成す。木材船防波堤は延長八〇〇間、製糖岸壁は延長約一七〇〇間、同時に一萬噸級以下二〇隻を繋留し得、一大港灣となるに至る。

といふ文字は、入定勅記のほかに、應永六年、同十一年の成書にこの字を用ひ、また熱田神宮所蔵の神寶中大永二年の作にかゝる刀には、今の如く名古屋と刻してあり。

城の間、やや街衢の形をなせしものなりんも、天文十七年、信秀は古渡城を廢して名古屋の東方木山に城を築き、やがて信長の繼ぐに及び、清須に移り、これよりその勢力を得るに従ひ城地を移せしより、名古屋城は廢城に歸し、市區の如きもはや見る能はざるものとなりしならん。

〔名古屋城〕 西區にあり。もと柳丸城と稱せし廢城の地に、慶長十五年、徳川家康が前田・淺野等二十二の大諸侯に命じ、加藤清正を御城門築城大将として築造せしめしものにして、其後、三百年間尾州侯居城たりき。

〔中村公園〕 西區中村町にあり。豊臣秀吉及び加藤清正の生誕地に設けたるものなり。園内に秀吉の邸址と稱する竹林大園あり。

ナコヤ——ナコヤ

室町中期に住持圓正は本願寺蓮如に歸依して改宗再興す。

〔地藏院〕 熱田區熱田中町にあり。

新義眞言宗豐山派。金寶山。花園天皇御宇熱田祭主牧氏の室の開基、開山は全海法印、中興を政喜法印とす。騎馬武者像一幅(絹本着色、傳足利義氏像)は國寶。

〔性高院〕 中區門前町一丁目にあり。

淨土宗。大雄山。天正十七年松平忠吉の開基にて、藩警玄道を開山となす。もと武藏國にありしが、慶長年中に徳川義直名古屋移城の時、現地に轉す。表門は國寶なり。

〔聖徳寺〕 東區富澤町にあり。眞宗大谷派。七寶山。寛喜年中に親覺の命により其弟子なる開善これを美濃國大浦郷に建立す。爾後三轉して現地に移る。

〔新福寺〕 西區庄内町にあり。天台宗。

稻生山と號す。創建年代は不詳。本尊は行基作の聖師如來及び日光月光の兩菩薩なり。境内に五輪塔あり。中に應仁元年のものあり。往古は一山十二坊を有せしといふ。

〔聖國寺〕 熱田區廣原町にあり。淨土宗西山派。享祿二年日秀尼の建立。爾來院若、崇源院御臺所等の歸依深く、往古は世々紫衣を勅許せられ熱田上人と稱せらる。地は源頼朝の誕生地にて寺内に産湯の池・白旗の陣・頼朝の祠等あり。

〔慈見寺〕 中區東門前町にあり。臨濟宗妙心寺派。豐山。はじめ伊勢國大鳥羽の開基にあり。のち寶曆せしを頼朝天皇延長八年藤原兼平朝臣に佛殿坊舎を營み、四條天皇喜祿四年二位阿闍上人は堂塔十二坊を再興すと云ふ。寺寶中、妙法蓮華經第五(色紙墨書)一卷は國寶。

〔名古屋市内電車〕 名古屋市内を通ずる電車線。榮町線(名古屋驛前—千種驛間)。高岳線(公園—大曾根間)。覺王山線(車道—覺王山線)。公園線(水主町—平田町間)。千早線(矢場町—千早間)。東郷線(鶴舞公園—市民病院間)。高辻—堀田驛間。片編線(平田町—菊井町間)。熱田線(市役所前—南陽館前間)。榮港線(熱田驛前—榮港間)。押切線(淨心前—押切町—名古屋驛前間)。江川線(淨心前—船方間)。東山公園線(覺王山—東山公園間)。中村線(彼島町—中村公園間)。築地線(築地—下之一色間)。新三河線(千早—八事間、大久手—東八事間)の諸線より成る。

〔名古屋鐵道〕 社線。名古屋市中心とし愛知・岐阜兩縣に亘り二十餘線を有する一大地方鐵道。軌間は一・〇六七米にして電氣を主とし一部ガソリン・重油運轉をなし、省線とは連帯運轉の取扱をなす。主要地間に急行を通ず。運轉區間及び料金は左の如し。1新岐阜(岐阜市神田町)—西笠松(岐阜縣羽島郡笠松町)間五・五料。2長良(岐阜縣稲葉郡長良村)—高富(山縣郡岩野田村)間五・一料。3忠節(稲葉郡鳥村)—本掛斐(掛斐郡

村にありて安國寺と稱す。天正十一年織田信雄の開基にて、勸濟開山を虎羅國師とす。豐臣秀吉朱印若干を寄す。

〔長久寺〕 東區長久寺町にあり。新義眞言宗智山派。東岳山一乘院。慶長六年徳川忠吉武藏國忍より尾張清洲に移封の時、本寺も從ひて同地に到り、慶長十五年徳川義直名古屋移城の時、また現地に移り、爾後徳川家代々の祈願所たり。

〔長母寺〕 東區矢田町にあり。臨濟宗東福寺派。靈鷲山。治承三年の創建に係り、開基は山田次郎源重忠、開山は僧觀勝なり。もと天台宗たりしが、のち山田道圓坊再興し臨濟宗に改め、無住國師を開山とす。無住和尚像(木造)一軀は國寶なり。

〔東泉院〕 中區小林町にあり。曹洞宗。覺王山。往昔は三論宗たりしが、南北朝の中頃現宗に轉す。寛政年間に善來師賢これを中興す。

〔七寺(長福寺)〕 中區門前町にあり。新義眞言宗智山派。稻岡山長福寺。天平年間僧行基の創建と傳へ、もと尾張國中鳥郡七寺村にありしが、延祿六年秋田城介河内權守維廣の男光胤は父を慕ひて當地に來りしも天折す。時に七歳、維廣即ちその冥福を祈らんとめ七堂伽藍を建立す。七寺の稱ここに始るといふ。近世は尾張侯代々の祈願所たり。本堂・本尊阿彌陀如來及び觀音勢至兩菩薩坐像(木造)三軀外三點は國寶なり。

〔西本願寺別院〕 中區門前町七丁目にあり。眞宗本願寺派。明應年中蓮如の息蓮淳の開基に係り、のち織田信地清洲の地に再興し、慶長遷府の時現地に移建せられしものにして、現本堂は近年の再興にて、境内廣く、本堂の後方に徳川家梅昌院廟所あり。近世、寺領百三十九石餘。伽藍宏壯を極む。

〔日蓮寺〕 千種區田代町にあり。覺王山。明治三十一年英領北印度ヒツプラーに於て英人ウイリアム・ヘッペ、釋尊の眞靈骨を發掘し英國政府に獻せしが、英國政府はこれを更に暹羅國政府に寄贈す。同三十三年暹羅國政府は靈骨の一部を我國に配與すべき旨を通牒し來りたるを以て、各宗管長は協議會を開き、同年六月奉迎の使節を遣して佛舍利および暹羅國王贈呈に係る釋迦牟尼如來像を京都に迎へ妙法院に假奉安す。次で各宗聯合の大善提會を組織し、會の議決を以て靈骨奉安の地を名古屋市東郷なる東山村(當時の名稱)と定め、同三十六年同地に假本堂を建立し之を本蓮寺とす。是より着々工を起して本建築を進め、遂に今日の盛觀を見るに至る。昭和二年、暹羅國王王更に内賜佛なる開浮檀金の釋迦像を寄せ給ふ。いま各宗交互に之を管理す。

〔東本願寺別院〕 中區下茶屋町にあり。眞宗大谷派。天正九年に京都二條泉龍寺の補賢、海部郡置江村に自院の支坊を建立し、のち之を當市に移せるを以て、當

四五三

院の派船となす。元祿三年本山掛所となる。現本堂は文政六年の再建にて雄大な建築なり。明治十一年、同十三年、同二十一年に明治天皇の御座所にあてらる。

〔寶生院(大須觀音)〕 中區門前町にあり。新義眞言宗智山派。北野山寶生寺。南北朝の頃能信和尚の開創に係る。もと中島郡大須郷にありしにより大須觀音と稱せられ、古來靈名高し。文和元年任徳法親王入りて第三世を襲ひ給ふ。當時院房寺家十五箇寺、寺領三千石に及び寺運隆盛を極め、歷朝の御歸依また厚かりしも、中古兵亂に遭ひて衰頹す、のち織田信長寺領五百石を寄せ、國主徳川義直諸堂を再營す。涅槃圖(絹本着色)・佛造勢筆書食貨志一巻外二十四點の國寶を藏す。

〔本蓮寺〕 熱田區熱田中町にあり。日蓮宗。妙光山。熱田神宮境内に存せし法華堂を以て當寺派祖とす。阿彌長者成は最澄の建立と傳へ、また日蓮の堂に參詣して立宗の祈願をなせりといふ。建造物中、樓門は國寶なり。

〔萬松寺〕 中區東門前町にあり。曹洞宗。龜岳山。天文九年熱田信秀の開基にて、大雲水端を以て開山となす。爾來、領主歴代の信仰厚く寺運隆昌たりしが、のち一時衰頹し、元文四年再興せらる。

〔聖觀寺(笠寺觀音)〕 南區笠寺町にあり。新義眞言宗智山派。天林山。尾張四觀音の一。聖武天皇天平年間に善光上人

小牧—大山西—〇・六料。〔名古屋港〕 東海運本線の貨物驛(明治十四年設置)。名古屋市南區築地にあり。〔名護屋村〕 佐賀縣肥前國東松浦郡の北部。東松浦半島の北端西部にて、東は呼子町・打上村に、南は直江村に隣り、西北は豊後海峽に面す。北方海上に浮ぶ加唐島・松島等の屬島を加へ面積一九方軒餘、丘陵山地南北に延びて北端は波戸岬、西北端は串崎となり海中に突出して陸地をなし、東岸に名護屋浦の狭長したる入りて村は一の半島をなす。低地少きも米・麥・甘藷等の農産あり、漁業また榮ゆ。薩摩東部を南北に通じて東南方唐津市に向ひ、海上は發動機船の便あり。古くは名護屋・那久野等に作り近世専ら名古屋に作りしも、大正十一年名護屋と復稱す。海東諸國記に那護野寶泉寺源祐位が海賊船一艘を遣はす事を朝鮮と約せる由見ゆれば、既に早く名護屋の地が朝鮮にも知られし事を知る。蓋しこの地最も船を泊するに便なりし爲ならん。天正十九年豊臣秀吉の征韓役を起すに當り、此地をその本營とし徳川家康・伊達政宗等諸將の陣營を置き、以て駐屯久しきに互るの準備をなさしめたり。これよりこの地の名譽く世に知らるゝに至る。抑々この地は鎌倉時代より地頭たりし名護屋肥前守經基の子孫が代々居せしところにして、第十代名護屋肥前守經基が豊公に

感ぜしを以て稱養堂として経基の本營とせしものなり。それ迄は堀副城と稱したり。〔名護城址並陣址〕 指定史蹟。村の中央跡地跡の頂上にあり。天正十九年豊臣秀吉が九州の諸侯に命じて築かしめしところにして、加藤清正の設計に成るといひ文祿、慶長兩度の役に我出征軍の本據地たり。のち荒廢せしも本丸・二の丸・三の丸以下諸曲輪の深渠・石壘・礎石等よく遺存す。郭内に廣澤寺あり、寺は名護屋越前守藤原經遠の妹、秀吉の妾たりし廣澤局の居宅址にして、境内にその墓あり。城郭の四邊には小丘陵波濤狀に起伏し、その岡上に百數十の陣營址あり。殊に徳川家康の竹の丸陣址以下前田利家・小西行長・木下秀長等を初め諸氏の陣址には石壘・礎石・旗竿石等を遺存し、城址と共に史蹟に指定せらる。またこれら陣址の間を縫うて存する幾多の低地窪間は、遠近より集まりし買人が陣所の人々に物資を取賣するに、店舖を列ねし所といひ、畦畔・田圃間に一々舊時の町名を存し、雄大ななりし當時の規模を窺ふに足る。〔廣澤寺墓園〕 指定天然記念物。名護屋城址にあり。豊公の愛妾廣澤局の舊居所の庭前に植みられ、加藤清正が朝鮮より齎せしものと傳ふ。枝幹は數十枝に分れ根廻り約三米、幹の周囲約二・四米、主なる太さ約一・二米、高さ約三米に達す。

〔名護屋村〕 大分縣豊後國南海部郡の中

ナコヤ——ナコヤ

四五三

ナス—ナスノ

須・福原・鹿野・太田原(分家)の四家となりて那須衆と稱す。
【那須村】栃木縣下野郡那須郡の北部。北は福島縣西白河郡と隣り面積二五七・四七方軒。西部に那須嶽(一九一七米)を始めとし、朝日嶽(一九〇三米)・南月山(一七七六米)・茶臼嶽等の諸火山を擁し、遠く裾野を開き東部に傾斜し、富村はそれに續く高原地帯を占む、那珂川の支流はこれ等の山地に發源し、数多の溪谷をなして東南に流る。東南部の河川流域には農業・養蠶行はれて米・麥・蕎麥を産す。村内に温泉頗る多くまた風光佳良にて名所多し。一帯に高原地帯なるため、夏涼しく避暑地としても知らる。陸羽街道は東部を北走し、省線東北本線これに並行して走り、黒田原(明治二十四年設置)、下野登原(明治二十年設置)の二驛を置けり。那須嶽東南麓の那須湯本へは黒田原驛より飯沼通バス便あり。此地は古くより温泉場として昔く人口に附失せらる。正倉院文書天平十年駿河國正税帳に從四位下小野朝臣那須湯にて病を癒せし由見ゆれば、かく古くより貴納の湯治に下國せし由を知る。温泉は湯本・北・辨天・大丸・三斗小屋(高林村)・高城院・板室を總べて古くより那須七湯と稱せしも近年は八幡・旭・新那須・飯盛など新たに展げ、特に那須御用郡が設けられてより別荘地帯の發展、ゴルフ場開設などありて一層面目を改む。那須嶽の噴煙、那

須野ヶ原の展望に加へて、九尾の狐に絡る傳説を有する養生石もあり、那須嶽一に因縁深き温泉神社もあり。春の陽春、秋の紅葉の美觀もあり、温泉・觀賞・登山・旅行者の心を惹くべき多きを有す。
【湯本】那須諸湯の物資集散地なり。泉質は硫化水素含有酸性明礬泉にして、俗に天然六百六號の湯ありて花柳病・皮膚病等に特效あり。元湯には草津と同じく時間湯の浴法がありなほ、湯たぐれを治療するには別に喜樂湯あり。また湯泉ブームもあり。附近には日蓮上人に因み深き唯初庵、那須の名所の東公園の勝地あり。
【八幡】湯本よりおだん茶屋を経て二軒、那須高原の中央にありて、その展望は那須諸温泉中の第一とす。泉質は単純泉なり。附近一帯は晩春陽雨にて梅はれ、冬はスキー場として賑ふ。
【湯本】湯本より八幡を経て、北四軒中、余佐川に臨み那須第一の紅葉の勝地とす。温泉は目の湯・天物の湯・相の湯あり。泉質は単純泉にして温泉ブームの設備もあり。
【旭】八幡より二軒池、北温泉へ行く途中より左折したる所にあり。
【辨天】湯本より西北三軒中、おだん茶屋の處より八幡への道と別れて左折して行く。旭より約一軒あり。泉質は単純泉にして温泉ブームの設備あり。
【大丸】湯本より西北四軒、辨天より約六〇〇米、白土川に臨み河の湯の天然ブームを以て知らる。泉質は単純泉にして、御用郡に引かると

國史

もこの温泉なり。また近年西北三軒に郭公温泉も開かれたり。
【三斗小屋】高林村地内。湯本より西北一二軒、那須最高、最高の温泉にして茶臼嶽と、朝日岳の間の分水界を越えて行く。泉質は単純泉。地名は牛背によるも三斗以上の重量品を運搬するは不可能なりといふ意味なり。
【高城院】湯本より西北二軒、単純泉にして温度低く夏期以外に加熱す。近くに紅葉池あり。
【飯盛】湯本より西北六軒、高城院川の上流にあり。山の湯の氣分濃し、附近には布瀧・五色岩の勝あり。
【養生石】湯本の北方二〇〇米、那須嶽の寄生火山御段山の東腹、湯川の溪谷に面する處にあり、九尾の狐と玉瀧前と支能如何にまつばる傳説は諸曲・芝居等に著く世に知らる。石は褐色を呈する輝石安山岩の大塊にして木棚を繞らす。養生石の附近南北一二米東西八米の間は噴煙のために岩石著しく分解し、灰白色を呈し、且つ玉瀧の皮のやうに割裂し、或は分解し土砂となる。こゝには硫磺の昇騰なきも、硫化水素の臭氣紛々とし、硫質噴氣孔の老衰せしものと認めらる。噴出の瓦斯の性質及び種類明かならざるも、動物のその氣に觸れて死するもの少なからず。毒瓦斯は石そのものより發生するにあらずして、附近の噴氣孔より發するものなり。芭蕉の句に「飛ぶもり雲ばかりなる石の上」(奥の細道)。(温泉神社) 大字湯本に鎮座。地誌。祭

神、大己貴命・少彦名命・豐田別命。昔明天皇御宇郡司野行廣の創建といふ。貞觀十一年從四位上に叙せられ、延喜の副官社に列し下野十一社の一たり。例祭陰曆九月二十九日。
【那須】下野國(栃木縣)の古地名。和名抄に那須郡那須郷あり、その地今の那須郡川西町・金田村の邊なるべし。
【ナスカワ】撫川 岡山縣那須郡にありし町。もと撫川村と云ひしが明治三十七年町制施行。昭和十二年に吉備郡庭瀬町と合併して吉備町(那須郡)を建つ。
【ナスギ 名次山】兵庫縣西宮市内廣田にある官幣大社廣田神社の西方の丘陵の稱。萬葉・三「吾妹子に猶名野は見せつ名次山角の松原いつか示さむ 高市連 思入」
【ナスノ 那須野ヶ原】栃木縣の北部、那珂川の上流及び那珂川沿岸の廣漠たる原野を那須野ヶ原といふ。原野は南北に長く、二五軒前後の幅を有す。その西側の北部には那須の五嶽が聳え、ついで高原火山が、その基底に横ばる熔岩蓋地の末端を露出し、断崖の如き急斜面をなして平原を降下す。東側には雲ノ子・八溝の山地が峻嶒と連なり原野を隔る。原野の北部は、阿式限川の流域の低地帯に通じ、南方は何等の地形的境界を有せずして鬼怒川沿岸の關東原野に連る。この低地帯は青き地帯なり。八溝・雲ノ子の古生層山地の西邊を隔る黒川山山脈の南

端と、豊原・彌太郎山山地の東側を隔る關谷一板壁に沿うてその中間が陥没して生ぜし地溝にして、その表面は那須火山群に屬する諸火山の噴出物質が厚く被覆す。いま海拔二〇〇—三〇〇米の標高を有し、波浪狀の丘陵性平野と化せり。那珂川・那珂川の沿岸は厚き砂礫層に被はれ現たる平原となり、稻荷山・權現山・二室山等の小丘陵は泥濘原上に埋没されし舊山地の頭部なり。那須野ヶ原の地質は粗粒なる火山砂礫層にて、河川は深き峡谷を穿ちて流るゝ故に、灌漑の便悪しく、廣大なる原野も何等利用さるゝ事なく放棄されしが、明治十三年當時福島縣令たりし三島通庸が、栃木縣令を兼任してより開拓の業を起し、爾來政府の補助を得て那珂川の水を西岩崎より西那須野に引く水路を開き、同二十年にその工を了す。かくてこゝに三島農場・千松木附近の松方農場・黒磯西方の青木農場、其他に毛利農場、戸田・藤田・鍋島・山縣・大山・平田等の諸氏の明治元勳を地主とする大農場が開拓され、東北本線もこの農場を一直線に貫き、花浪たる原野の間に縦横に道路が設けられ、西那須野・黒磯等の新興町村を生じ面目を一新して今日に至る。

ヤス式海岸をなし、海岸には古く時・指子時・赤崎・楚瀬瀬崎等の突岬及び名瀬の岬あり。小河川ありて各河頭に注ぎ、海頭の小アルメを形成し、耕地開く。名瀬港は三方を山にて圍繞され、北方に開口し冬季の季節風には風浪や高きも、大島唯一の良港にして内務省指定港たり。年平均気温は二一度にして最高気温は三四・六度、最低気温は六・六度にして冬季は殊に暖かく、夏季は内陸地に比しや、高きのみ。年降水量は二六四〇・二耗にて琉球列島中にも多雨地帯に屬す。降雨は年中ほぼ平均するも夏季の颱風季節に最も多く、例年夏秋の候には颱風に襲はれ被害を蒙ることあり。産物は砂糖・大島綿及び鯨油は廣く知られ、また田賦・蠶繭・羊毛・白百合・同葉用蕨類等あり。名瀬港の移出地額は約七三〇萬圓、移入地額は約七五〇萬圓に達す。移出品の主なるものは絹織物を第一とし生絲・米・鯨油・鮫・砂糖等にて主要移入品は絹織物・米・生絲・鯨油・鮫・製塩・製糖・砂糖等なり。而して奄美群島に産する織物類・鯨油・砂糖等を集めて鹿兒島・大阪・神戸等に送り米・生絲等の食料日用品および織物原料を鹿兒島・大阪より求めて奄美群島の各地に送る。縣道は北部海岸に沿うて走り、西南古仁屋町に至る縣道を分ち、バスを通ず。また名瀬港には大阪・鹿兒島・那須間の定期汽船寄航す。町内に大島支線・

役務署・區裁判所・警察署等置かる。(高千穂神社) 大字金久に鎮座。郡社。祭神、天津彦火瓊杵尊・八幡大神。明治二年金久村久に鎮座ありしを、同二十年現地に移轉す。例祭、九月十九日。
【ナタ 名太】美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に那須郡名太郷あり、その地は今の本基郡那須村の邊なるべし。
【ナタ 那谷村】石川縣加賀國江沼郡の東北部。大野寺町の東方約九軒。東は能美郡に界す。加賀山脈の餘脈東南部に連り、全村四一五歩米の丘陵をなし北部に僅かの平地あるのみ。面積二二・六三方軒。農業・林業を主産業とし米・木炭・木材・繭の産あり、次いで、工業も行はる。西北部を社線温泉軌道東西に走り那谷寺驛(貨物驛、大正三年設置)あり、縣道また之に沿ひ北陸本線の動橋・栗津二驛へバスの便あり。この地は名刺那谷寺あるを以て知らる。芭蕉がその紀行奥の細道に「石山の石より白し秋の風」と吟じたるは此處なりといふ。(那谷寺) 大字那谷にあり。古義僧言宗。自生山と號す。養老元年奉澄法師の草創に係る。花山法王紀伊の那智、美濃の谷波の各一字をとりて現寺號に改め給ひ、佛像を納め勸願所の繪巻を賜ふ。正保元年藩主前田利常再興す。(那谷寺東院) 指定名蹟。寛永年間東院と同時に築造さる。も廣大にして東方澤所在部に達せしが近年縮少せらる。歩石を布置し處々石を立

て西方に茶室、東方に小池あり。北界に近くの大樹あり、東方に池を挟みて砂の巨樹亭立す。庭石は主に珊瑚石を用ひ蘇苔青々、老樹蒼々、登眺幽邃なり。
【ナタ 名田村】和歌山縣紀伊國日高郡の西南海岸。印南町の西に隣り、西南は海に臨む。東北境に黒岩山(二四二米)・高城山(二四〇米)の山嶺連り、山麓は海に迫りて平地に乏しく、海岸に沿ひ僅に低地ありて耕地多産す。米・繭・柑類等を産し除蟲菊は殊に多産す。西北方御坊町より印南町に至る街道は海岸に沿うて走りバスを通ず。大字野鳥の海岸を古くは阿胡根浦と云ひ、和歌の名所。萬葉・「吾が欲りし野鳥は見せつ底ふかき阿胡根の浦の珠を拾はぬ」
【ナタ 灘】岐阜縣大野郡にありし村。大正十五年に高山町(昭和十一年市制施行)となる。
【灘】兵庫縣の大坂灣北岸、東方は武庫川川口より西方神戸市生田川口に至る海岸地帯の總稱。大別して東より今津郷(今津町)、西宮郷(西宮市)・東郷(深江・青木・池崎)・中郷(住吉・御影・石屋・六甲)・西郷(新在家・大石・岩屋・東明)を灘の五郷といふ。西宮以東は武庫川のアルマの東端部に於て低平なる沖積地帯なるが、西半部は六甲山脈の階段狀断層の下に發達せし山麓より海岸まで、一軒乃至二軒の複合扇狀地の地城より成

ナセ—ナタ

國史

【名瀬町】鹿兒島縣大隅國大島郡奄美大島の東北部。大島の首邑にて北と南は海に臨む。古生層より成る丘陵性山地連互す。海岸は沈降性にて扇曲に富む

【ナセ】鹿兒島縣大隅國大島郡奄美大島の東北部。大島の首邑にて北と南は海に臨む。古生層より成る丘陵性山地連互す。海岸は沈降性にて扇曲に富む

【ナセ】鹿兒島縣大隅國大島郡奄美大島の東北部。大島の首邑にて北と南は海に臨む。古生層より成る丘陵性山地連互す。海岸は沈降性にて扇曲に富む

【ナセ】鹿兒島縣大隅國大島郡奄美大島の東北部。大島の首邑にて北と南は海に臨む。古生層より成る丘陵性山地連互す。海岸は沈降性にて扇曲に富む

り、海岸に向つて緩傾斜をなし、海岸は花崗岩質の六甲山地より搬出の砂土によつて、白砂青松の海濱をなし、風光頗る明媚にて、前者とその景観を著しく異にする。即ち前者は理想的住宅地帯をなし、殊に扇状部より山麓にかけて豪壯または瀟灑な住宅多し。臨海地帯は古來有名なる日本一の銘酒醸造の醸造地として一般に知らる。醸酒造の勃興は寛永年間伊丹の人権職屋文右衛門が、西宮に移住して醸造を業とせしに端を發し、以後百年間に於て灘地方に酒造業を起す者多く、享保九年の調査によれば灘五郷の酒造家は一三七人の多きに達し、うち西宮は八二人にて過半数を占め、伊丹は五四人、池田は二七人、酒造の中心は既に灘五郷に移り。其後、天保年間に魚崎の人山邑太郎左衛門は原料米、特に原料水の改良を以て酒質を高めたり。先輩の伊丹・池田地方の酒造業を凌駕したるは、當時の飯路が江戸を第一とせしめ、船運が前者に比して便利なるを、水質優良の西宮の宮水(宮水は硬度五度内外の硬水)を用ひたること、播磨・摂津の良質米と、これを精白するに六甲断崖の流水を動力とせし水車の利用及び酒桶材として香高き吉野杉の使用並びに丹波社氏の優秀なる技術等の好條件の調和と、京・阪・神の大都市を近くに控へる等の諸條件による。

【灘村】 兵庫縣淡路郡三原郡の東南部。

淡路島の南端を占め駿河山脈の南斜面に位し、東々北より西々南に細長く延びて、殊に西南部に著しく狭長となりて遠く西南端に終る。北境中央に駿河山脈を、それより東々北及び西々南に連る山嶺は北境を限り、南方海岸に急斜して平地乏しく海岸平坦なり。西南端海岸は遙かに西にのびて岩石地多く、淡路島西南端、即ち鳴門海峡南口の東南に當る灘崎に盡く。沼澤を隔て、南方海上には沼澤を望む。米・裸麥・小麦・果實・食用農産・蔬菜・花卉・鶏卵・畜製品等の産あり。福良町へは山嶺を越えて西北約六軒にして交通不便なり。附近町村と共に要衝地帯に屬す。

【灘】 岡山縣児島郡にありし村。明治三十八年彦崎村と合併して灘崎村を建つ。

ナタウチ 鉦打村

石川縣能登郡羽咋郡の東北隅。宮本町の東方約六軒。北は風至郡に、東及び南は鹿島郡に界す。面積二八・二三方軒。風至山地の一部を

ナタサキ 灘崎村

岡山縣備前國児島郡の中部。児島灣の西に位し、北は興除村に、西は彦崎町に、南は琴浦町・浜内村に界す。面積一九・三二方軒。往古は一帯に海濱なりしが土地の隆起及び河川の土砂の堆積等によつて村の東北部に次第に低平なる耕地となり水田拓かる。南部は高取約二三百米の丘陵性山地連なり。何れも耕作は行はれ平地より米・麥・粟等の産頗る多し。山地より米・生柿等の産あり。又造酒業も盛なり。山麓下を西北より東南に省線宇野線通過し彦崎・山加の二驛(明治四十二年

ナタチ 名立

新潟縣越後國西頸城郡の東北端。名立川の河口を扼し北西は日本海に面し、東は中頸城郡に界す。面積七・七三方軒。妙高山山群の餘波を受け三三四百米の丘陵北に傾斜す。名立川東部を西北に流れ海に入る。河岸及び海岸に僅かの平地ありて耕作は行はるのみ、他は山林なり。米・粟の産多少あるも町は漁港として榮ゆ。東北隅鳥ヶ首岬は風光明媚を以て知らる。國道(北陸道)及び省線北陸本線海岸に沿ひて走り、後者の名立驛(明治四十四年設置)あり。延喜兵部省式に見ゆる名立驛は即ち此地ならん。實積

元年當郡大震災の時、町内の江戸屋敷崩し、大字名立小泊の老若男女八百餘人、牛馬鶏犬に至るまで死亡し、僅に免れたるは産婦一人と馬一匹のみなりと云ふ。【明治天皇名立行在所跡(御膳水)】 指定史蹟。行在所跡は大字名立大字小泊字寺立の名立寺境内、御膳水は大字名立小泊字他屋の上の正光寺境内にあり。明治十一年北陸東海通車の際、九月二十五日御駐泊あらせられたる處にて、建物は昭和八年九月三十日焼失す。依て同十年五月陸地に本堂を建築し一部は空地となつて國道と共に保存さる。(江野神社) 大字名立大町に鎮座。縣社。祭神、健甕名方命・事代主命・大己貴命等六柱。延喜の御國幣小社に列せる古社にして、もと江ノ大宮と稱し、古來國司・地頭・領主・守護代長尾氏の、江戸時代には領主堀氏・有馬氏の崇敬あり、將軍銅吉は陸地高八石五斗餘を下す。古くより當村の産土神たり。例祭、三月五日・六月七日。

【名立村】 新潟縣越後國西頸城郡の東北端。名立町の南、東は中頸城郡に界す。名立川流域を占め南北に細長く、南端に妙高山山群の一角不動山(四三〇米)聳立し、その他東西城を連互し名立川の谷を狭む。面積五八・六二方軒。粟落は名立川に臨み、河岸に狭き耕地拓げ、米を主産とす。上流に沿ひ石油坑あり、下流及び東西へ國道を通ず。交通概して不便なり。

【名立川】 新潟縣西頸城郡東部の川。三峰山の麓に發して北流し名立町にて日本海に入る。流域約二〇軒。沿岸は殆んど狹谷を成し、謂はゆる名立谷といはるゝものこれなり。

【名立川】 新潟縣西頸城郡東部の川。三峰山の麓に發して北流し名立町にて日本海に入る。流域約二〇軒。沿岸は殆んど狹谷を成し、謂はゆる名立谷といはるゝものこれなり。

ナタチ

ナタチ

ナタチ

ナタチ

ナツタ——ナツメ

ナツタ 南都田村 岩手縣陸中郡陸中町

ナツタ 名田村 三重縣志摩郡の東南部

ナツタ 名手町 和歌山縣紀伊郡那賀郡

ナツタ——ナツメ

ナツタ 夏見 伊賀國(三重縣)の古地名

ナツタ 夏身 夏身(三重縣)の古地名

ナツタ 夏身 夏身(三重縣)の古地名

ナツタ——ナツメ

ナツタ 夏身 夏身(三重縣)の古地名

ナツタ 夏身 夏身(三重縣)の古地名

ナツタ 夏身 夏身(三重縣)の古地名

ナツタ——ナツメ

ナツタ 夏身 夏身(三重縣)の古地名

ナツタ 夏身 夏身(三重縣)の古地名

ナツタ 夏身 夏身(三重縣)の古地名

ナツヨ——ナナイ

ナツヨシ 夏吉 福岡縣田川郡伊田町

ナツヨ——ナナイ

ナツヨシ 夏吉 福岡縣田川郡伊田町

ナツヨ——ナナイ

ナツヨシ 夏吉 福岡縣田川郡伊田町

ナツヨ——ナナイ

ナツヨシ 夏吉 福岡縣田川郡伊田町

ナナウー—ナナエ

ナナウラ 七浦

千葉縣安房郡の南端。千倉町の南端にて太平洋に臨む。大部分丘陵地にて森林あり。北部の高塚山(約二〇〇米)を主とす。東部の海岸附近は平地をなす。米・麥・鵜卵を産す。海岸は岩礁多く崖をなす所あり。縣道は千倉町より東りて海岸附近を西南に走り、粟落は主にこれに沿ひて發達す。省營バス北倉本線はこの縣道を行き、白間津・七浦・安房平磯の三停留所を置く。この地は和名抄、安房郡健田郷の内なるべし。江戸時代の儒者にしてまた學問の志士、鳥山新三郎(贈從五位)は本村の出身者なり。

【七浦村】 佐賀縣肥前國藤津郡の東部。經ヶ岳(一〇七六米)の東北麓を占め、有明海に臨み、濱町の南に接す。西南方に繋ゆる經ヶ岳の東北部中腹より山麓一帯を占むる爲め、地形東南部に高く約六〇〇米の高度を有す。東北部の有明海岸は稍屈曲あるも低地とほし。放射谷に沿ふ低地に田、高地に畑、山地は概ね山林をなす。米・麥・麥の産多し。縣道有明海岸に沿ひて南北に走り自動車を通ず。

ナナエ

七重村 茨城縣下總國猿島郡の中部。岩井町の北側に位置す。全村平地にして西に鶴ヶ谷あり。畑地多し。所々林を交へ、小麥・大豆・米を産す。村民の生計は農業に依存して、全戸數六一九戸のうち、農五七〇戸・商三六

戸・工五戸その他十戸とす。縣道は岩井町及び西北方の境町に通ず。古くは和名抄、霞島郡塔施郷の内なるべし。もと牛谷・富田・駒越・信宿・上出島・三・寺久の七村なりしが、明治二十二年市町村制後に合併して七重村と名づく。

ナナエ 七會

【七會村】 茨城縣常陸國茨城郡の北部。笠間町の北方にて、其間に北山内村を挟み、東より北は東茨城郡、西は栃木縣芳賀郡の一部と隣す。面積六三・八五軒の大村。八溝山脈中の一部を占め、全村山地にて西に花香月山(三七八米)・鶴足山(四三〇米)あり。森林多きために木炭を産す。東部及び南部の山間に狭き耕地ありて米・麥を産す。縣道は南走して笠間町、西走して栃木縣茂木町に通じ、兼路は主としてこれに沿ひて發達す。他は山間に村道あるのみなり。

【七會村】 茨城縣常陸國新治郡の中部。土浦町の北方約五軒。北境は西北方筑波山に續く低き山地の東部をなして村内に傾斜し、南部は低き臺地をなして如地あり。この山地と臺地の中間には狭き低地にて水田をなす。農業行はれて、米・大豆・小麥を産す。陸前濱街道は中央を北走し、南方土浦町、北方石岡町に通ず。またこれより分れたる縣道は北走して栢岡町に通ず。土浦町・栢岡町へはバスの便あり。大字上・中・下佐谷はもと總稱して佐谷と稱せられ、中世に大塚氏の一族

ナナエ 七飯村

この地に佐谷氏を稱す。北海邊渡島支廳龜田郡の北部。函館市の北方約六軒より駒ヶ岳の南麓に及ぶ大村にして、西は宿野邊川を以つて茅部郡に、東南は龜田村に接す。面積二一六・〇二平方軒。北部はコニーア大山駒ヶ岳の南斜面の一部を占め、その裾に大沼・小沼・専菜沼あり。宿野邊・菊淵・軍川等の諸川注ぎ附近一帯は大沼公園と稱し、風光の美を以て鳴る。東西の湖畔は平地展げ兼落多し。南部は一般に山地を以て占められ、西南界は大野村につゞく小平地あり。大沼・小沼兩湖間を省線南留本線通過して、七飯(明治三十五年設置)・軍川(明治三十六年設置)・大沼(明治四十一年設置)の三驛あり。また社線大沼電線は大沼驛より分岐東走して池田驛を置く。米・馬鈴薯・蕪粉・酒類を産し、また製氷業行はる。明治十二年以前は七重村と飯田郷の二部

落なりしが、同年にこれを合併して各一字を取つて七飯村と名づく。(大沼)本村の北部にある沼。西南方なる小沼と水を通じ、その西北にある専菜沼とは宿野邊川によつて相連絡す。大沼・小沼の二湖は宛も稱す。沼の長さ約五軒幅二軒。湖岸線の延長約二〇軒、海抜一三〇米、最深部も六・四米に過ぎず。面積五萬軒の小湖なるも、中に大小百二十六の島嶼點在し、悉く樹木を以て蔽はれ三十二軒

四六

を作る。殊に地獄湖・池田湖・鏡子口湖・蓬萊湖・鞍掛嶽等名あり。地獄湖は大沼の北岸駒ヶ岳の南麓にある入江にして、屈曲に富み、風景佳なり。湖底白色を帯び、其處を掛けば異臭を放ち冬季も亦結氷せずといふ。蓋し湖底處々に温泉の湧出するによるものにて、底の白きは即ち湯垢の爲なりと云ふ。鏡子口湖は即ち折戸川の排水する鏡子口附近の入江をいひて、風光絶佳附近一帯低平にして沼澤をなせる處少なからず。宿野邊川は北方より、軍川・菊淵川は南方よりこの間に注ぎ、東北方鏡子口より折戸川となつて太平洋に排水す。折戸川は又發電に利用し函館市及び大沼電線に供給せらる。湖中に鯉・鯉・鯉等を産す。大沼は駒ヶ岳噴火の際の噴出物即ち泥流・熔岩流等の堆積して山麓の溪流を堰塞し、水流次第に漲水して成れる謂ゆる堰塞湖に屬するものなり。(専菜沼) 大沼公園中、小沼より小沼山を隔てて北にあり、駒ヶ岳の泥流に堰止されて形成されしもの。海抜一五六米、湖岸は屈曲多し面積〇・七五平方軒、湖岸線は七・二五軒、深度五米。水温は夏季表面二五度、底部二三度、冬は底部三度となり厚き氷に覆はる。水は褐色にて濁り透明度は一米前後なり。固形物一立中七〇〇、溶解性酸素は夏季の兩倍濃期ともかなり減少す。沼中専菜を産すること多し沼名これより出づ。本沼は惡臭變化せし富栄養型に屬せるものの

ナナエハマ 七重濱

【七重濱】 石川縣能登國島島郡の東部。七尾灣南側の南岸に位し、邑相湯地帯の東北部を占む。産物に酒・セメント・木産物・木材・炭あり。七尾港は北に能登島を控へ西に大松崎突出し、港内は水深く、波靜かにして大艦巨船を泊すべき良津なり。滿洲より豆類、米國より木材、南洋・エチオプトより錫石を輸入し、輸出は見るべきものなし。しかれども北海道・北鮮・能登半島各港等への移出は盛にして年額一千万圓を越す。港は古き歴史を有し島山氏の地を領せし頃より世に知られ、その頃より大船を持ち海外に航海し支那・朝鮮と通商せしもの如く、安政五年幕府が米國と通商條約を締結するに及び北國地方の貿易港として此處を指定する事となり、築港部正を此地に派遣し實地調査をなさしめ能登島を居留地とするため、天領四十三箇村と交換せん事を計りしも藩は種々諒解を弄し、暗礁多く到底大船巨船の碇泊に適せずと幕吏を歸す。これが爲め天興の良港も大いに發展を阻害せられたり。もし當時充分の調査をなし貿易港として開港せば現今日本屈指の大貿易港たりしものならん。然れども明治三十二年開港場に指定され、同四十三年最も危険なりし森田港を除去し、のち屢々補修工事をなし、今は水深は七七八米にして、棧橋を架し四千噸級を二隻・一千噸・二千噸のもの三隻

ナナオ 七尾

一時に繁昌、荷役可成となり、また大正十三年に東方遠洋の海運一帯の地を町營貯材場となし、引込船を敷設し海面より運河を以て連絡せしめ、木材荷役に便を計り、將來益々木材港として期待さる。町は能登第一の都邑にして省線北陸本線津輕驛より七尾驛を分岐し、本町に旅客驛の設けなきも、東端矢田郷村に七尾驛(明治三十一年設置)ありて乗降に便し、また貨物驛七尾港驛(明治三十一年設置)は町内矢田郷にあり。金澤・富山縣方面へは縣道通ず、また海上は宇津川・穴水・飯田各港を初め、北鮮・北海道・能登島等へ定期航路の便あり。この地は和名抄、能登郡加島郷の内にして往昔より香島津と稱し舟運の便あり。七尾の地名は應永五年島山滿則能登守に補せられ、今の矢田郷村の古城に築城し、舊七尾城は石動山の尾にて、此山の尾を菊尾・龜尾・松尾・竹尾・梅尾・龍尾・虎尾に分け、この七山の尾を合せて七尾と名附く。其後、滿則より義春に至る八世百八十年の久しき間、島山氏が蟠居せしが、戰國時代に入り天正五年上杉謙信の爲に滅ぼさる。同九年前田利家の領地となり利家は城を所口(現在の丸山公園)に移し、城下の家屋も其附近に移らして舊七尾と稱す。金澤藩となり城塞を廢し奉行廳を置かれ、その後數度の改革により町制を布かれ、現在の盛況を見るに至れり。(七尾城) 七尾町の東方約四軒、矢田郷村大字古城

如し。沼の東岸には指定史蹟「明治天皇專駕御小休所」あり、明治十四年九月奥羽北海道御巡幸の際に同月六日森村行在所より函館に向ふ途上の御小休所に充てられし宮崎重兵衛宅にて、草莽の當時のままの建物を遺存す。(大沼公園) 大沼・小沼・専菜沼の三湖及びその附近の地約一三方軒の地域を含む。その内水面は約八割を占め、湖中に百二十六島三十二湖あり、北に駒ヶ岳の峻峰を望み、水淺けれども島は概ね樹木を蔽ひ、或は岩塊を露出し、翠綠蒼蒼相映じその雄大なる眺望と精巧明麗なる風光とは、曾つては日本新三景の一、近くは日本二十五勝の一に數へらる。専菜沼と小沼との間なる小沼山、一名日暮山(三〇三米)よりの展望最も佳なり。途歩路・橋梁・四阿・庭園・堆園・植物園等あり。湖には遊覧船・貸ボートの設備完全し、春の新緑、秋の紅葉は一入の美觀を添へ、夏は避暑に好適し、冬季はスケート場として利用せらる。専菜沼に近く明治天皇の行在所址、又エボットの近くに大正天皇の御展望所址あり。北岸には大沼養蠶場あり、小沼の西南岸近くには藤立大沼學院ありて、不良少年少女の訓育に當る。(熊ノ湯温泉) 泉質食鹽性硫黃泉。加熱して浴用に供せらる。療養向。この温泉は往昔に負傷せる熊がこの温泉に浴せるを土人が夢見て、これによりて發見せりと傳へらる。

ナナエ—ナナオ

ナナオ——ナナキ

に其址あり。天元四年、能登守源順以下この國の守・守護、みな此處に館す。應永五年、高山滿則守護に補せられてより此處に築き、七尾城と稱す。或は永享の頃とも云ふ。子孫相承けて此處に在りしが、天正四年二月、その裔義隆殺し遺臣遊佐續光、上杉謙信に内應し、同五年九月遂に上杉氏の有となる。同七年、温井登陸、上杉氏の將有坂備中等を此處に攻めて之を奪ふ、同八年、織田氏の有に歸す。同九年、前田利家、封を此地に受くるに及び、城を所口の小山(矢田郷村の大字)に移してより、舊七尾と云ひ、また松尾山麓にあるを以て、松尾山城とも云ふ。人口に餘れる上杉謙信の「霜瀟」軍營「秋風清」の詩は、天正五年、この城を取りし時の作にて、饒勝の體積を語るものなり。「小丸山城」天正十年前前田利家七尾の舊城をここに移し、同十一年加賀金澤に移るに及び屬城となし、慶長四年同其利政を封す。寛永十六年に至り廢す。「光徳寺」大字所口にあり。眞宗本願寺派。木越山と號す。乾元元年僧宗性の開創。藩主前田利家の歸依を得て、當時寺運盛況を極めしといふも、今は衰はず。「七尾軍艦所跡」字出崎にあり。嘉永年間(謂ゆる黒船の來訪によりて、幕府は海防を嚴にすべき事を諸藩に命ずるや、加賀藩即ち發機・李百里・騎龍等の汽船及び帆船等明丸を購入し、何れも武裝して沿海の警備に當る。本所はその軍

國六天

港にして領守府たりし所なり。【七尾港】省線北陸線の一。石川縣の能登半島に通ず。河北郡中條村の北陸本線津幡驛より羽咋驛(羽咋郡羽咋町)・七尾驛(能登郡矢田郷村)を経て、風至郡輪島町の輪島驛に至る一〇七・九軒、及び七尾驛より鹿島郡七尾町の七尾港驛に至る二・一軒を分つ。羽咋驛にて社線能登線道に連絡す。【七尾】↓七尾町【七尾港】↓七尾町【七尾港】能登半島の東部。富山灣に面して開口する灣にて、邑知湯地溝の東北部に位置する沈降谷なり。灣内には中央に能登島あり、北部を七尾北灣、南部を七尾南灣、西部を七尾西灣といふ。北灣は大日瀬川によりて外海に通ず。南灣と西灣とは屏風瀬川、西灣と北灣とは三ヶ瀬川によりて互に通ず。七尾港は南灣の南側に位置し港深し、また灣を閉鎖して和倉温泉・穴水町・中居町等發達す。【七尾村】能登縣近江國東後井部の東南隅。船川の右岸。長濱町の東北約七軒にあり、東及び南は坂田郡に界す。東中は七尾山(六九一米)の西南斜面を占め、西半に平野開く。農業を主産業とし米・粟種の産多し。其他に石灰・セロイドの工業多あり。西部には、縣道縱横に走り、北國路往還に沿ふ。省線北陸本線虎姫驛(ハス)の便あり。村名は七尾山より起り、七尾山は七つの尾根を有する爲め

に見る現象とす。(宮水神社)大字宮水に鎮座。郷社。祭神、大山紙命。社傳に正親町天皇の天正十五年の勸請といふ。舊稱を北山大明神と稱し、村民崇敬の社たり。例祭、十一月三日。

【七尾】山梨縣東山梨郡にありし村。昭和三年に鹽山町と改稱す。

【七尾村】福島縣磐城國田村郡の中部。三春町の東南約一〇軒。阿武隈山地に屬し、北境に片曾根山(七一八米)、西境に鞍掛山(七九三米)、黒石山(八九六米)、南境に風越峠あり。大瀧根川の一支流西部山地に發源して東流す。沿岸にや、耕地あり。米・粟・蕎麥・蕪・馬等を産す。磐城街道は村の中央部を西北より東南に通じ、西北方三春町、南方風越峠を経て小野新町に至る。(王子神社)大字門澤に鎮座。無格社。祭神、國孫槌命。當社

【七尾】山梨縣東山梨郡にありし村。昭和三年に鹽山町と改稱す。

【七尾村】福島縣磐城國田村郡の中部。三春町の東南約一〇軒。阿武隈山地に屬し、北境に片曾根山(七一八米)、西境に鞍掛山(七九三米)、黒石山(八九六米)、南境に風越峠あり。大瀧根川の一支流西部山地に發源して東流す。沿岸にや、耕地あり。米・粟・蕎麥・蕪・馬等を産す。磐城街道は村の中央部を西北より東南に通じ、西北方三春町、南方風越峠を経て小野新町に至る。(王子神社)大字門澤に鎮座。無格社。祭神、國孫槌命。當社

【七尾】山梨縣東山梨郡にありし村。昭和三年に鹽山町と改稱す。

【七尾村】福島縣磐城國田村郡の中部。三春町の東南約一〇軒。阿武隈山地に屬し、北境に片曾根山(七一八米)、西境に鞍掛山(七九三米)、黒石山(八九六米)、南境に風越峠あり。大瀧根川の一支流西部山地に發源して東流す。沿岸にや、耕地あり。米・粟・蕎麥・蕪・馬等を産す。磐城街道は村の中央部を西北より東南に通じ、西北方三春町、南方風越峠を経て小野新町に至る。(王子神社)大字門澤に鎮座。無格社。祭神、國孫槌命。當社

【七尾】山梨縣東山梨郡にありし村。昭和三年に鹽山町と改稱す。

【七尾村】福島縣磐城國田村郡の中部。三春町の東南約一〇軒。阿武隈山地に屬し、北境に片曾根山(七一八米)、西境に鞍掛山(七九三米)、黒石山(八九六米)、南境に風越峠あり。大瀧根川の一支流西部山地に發源して東流す。沿岸にや、耕地あり。米・粟・蕎麥・蕪・馬等を産す。磐城街道は村の中央部を西北より東南に通じ、西北方三春町、南方風越峠を経て小野新町に至る。(王子神社)大字門澤に鎮座。無格社。祭神、國孫槌命。當社

【七尾】山梨縣東山梨郡にありし村。昭和三年に鹽山町と改稱す。

【七尾村】福島縣磐城國田村郡の中部。三春町の東南約一〇軒。阿武隈山地に屬し、北境に片曾根山(七一八米)、西境に鞍掛山(七九三米)、黒石山(八九六米)、南境に風越峠あり。大瀧根川の一支流西部山地に發源して東流す。沿岸にや、耕地あり。米・粟・蕎麥・蕪・馬等を産す。磐城街道は村の中央部を西北より東南に通じ、西北方三春町、南方風越峠を経て小野新町に至る。(王子神社)大字門澤に鎮座。無格社。祭神、國孫槌命。當社

【七尾】山梨縣東山梨郡にありし村。昭和三年に鹽山町と改稱す。

【七尾村】福島縣磐城國田村郡の中部。三春町の東南約一〇軒。阿武隈山地に屬し、北境に片曾根山(七一八米)、西境に鞍掛山(七九三米)、黒石山(八九六米)、南境に風越峠あり。大瀧根川の一支流西部山地に發源して東流す。沿岸にや、耕地あり。米・粟・蕎麥・蕪・馬等を産す。磐城街道は村の中央部を西北より東南に通じ、西北方三春町、南方風越峠を経て小野新町に至る。(王子神社)大字門澤に鎮座。無格社。祭神、國孫槌命。當社

【七尾】山梨縣東山梨郡にありし村。昭和三年に鹽山町と改稱す。

【七尾村】福島縣磐城國田村郡の中部。三春町の東南約一〇軒。阿武隈山地に屬し、北境に片曾根山(七一八米)、西境に鞍掛山(七九三米)、黒石山(八九六米)、南境に風越峠あり。大瀧根川の一支流西部山地に發源して東流す。沿岸にや、耕地あり。米・粟・蕎麥・蕪・馬等を産す。磐城街道は村の中央部を西北より東南に通じ、西北方三春町、南方風越峠を経て小野新町に至る。(王子神社)大字門澤に鎮座。無格社。祭神、國孫槌命。當社

【七尾】山梨縣東山梨郡にありし村。昭和三年に鹽山町と改稱す。

【七尾村】福島縣磐城國田村郡の中部。三春町の東南約一〇軒。阿武隈山地に屬し、北境に片曾根山(七一八米)、西境に鞍掛山(七九三米)、黒石山(八九六米)、南境に風越峠あり。大瀧根川の一支流西部山地に發源して東流す。沿岸にや、耕地あり。米・粟・蕎麥・蕪・馬等を産す。磐城街道は村の中央部を西北より東南に通じ、西北方三春町、南方風越峠を経て小野新町に至る。(王子神社)大字門澤に鎮座。無格社。祭神、國孫槌命。當社

【七尾】山梨縣東山梨郡にありし村。昭和三年に鹽山町と改稱す。

【七尾村】福島縣磐城國田村郡の中部。三春町の東南約一〇軒。阿武隈山地に屬し、北境に片曾根山(七一八米)、西境に鞍掛山(七九三米)、黒石山(八九六米)、南境に風越峠あり。大瀧根川の一支流西部山地に發源して東流す。沿岸にや、耕地あり。米・粟・蕎麥・蕪・馬等を産す。磐城街道は村の中央部を西北より東南に通じ、西北方三春町、南方風越峠を経て小野新町に至る。(王子神社)大字門澤に鎮座。無格社。祭神、國孫槌命。當社

【七尾】山梨縣東山梨郡にありし村。昭和三年に鹽山町と改稱す。

【七尾村】福島縣磐城國田村郡の中部。三春町の東南約一〇軒。阿武隈山地に屬し、北境に片曾根山(七一八米)、西境に鞍掛山(七九三米)、黒石山(八九六米)、南境に風越峠あり。大瀧根川の一支流西部山地に發源して東流す。沿岸にや、耕地あり。米・粟・蕎麥・蕪・馬等を産す。磐城街道は村の中央部を西北より東南に通じ、西北方三春町、南方風越峠を経て小野新町に至る。(王子神社)大字門澤に鎮座。無格社。祭神、國孫槌命。當社

【七尾】山梨縣東山梨郡にありし村。昭和三年に鹽山町と改稱す。

【七尾村】福島縣磐城國田村郡の中部。三春町の東南約一〇軒。阿武隈山地に屬し、北境に片曾根山(七一八米)、西境に鞍掛山(七九三米)、黒石山(八九六米)、南境に風越峠あり。大瀧根川の一支流西部山地に發源して東流す。沿岸にや、耕地あり。米・粟・蕎麥・蕪・馬等を産す。磐城街道は村の中央部を西北より東南に通じ、西北方三春町、南方風越峠を経て小野新町に至る。(王子神社)大字門澤に鎮座。無格社。祭神、國孫槌命。當社

【七尾】山梨縣東山梨郡にありし村。昭和三年に鹽山町と改稱す。

【七尾村】福島縣磐城國田村郡の中部。三春町の東南約一〇軒。阿武隈山地に屬し、北境に片曾根山(七一八米)、西境に鞍掛山(七九三米)、黒石山(八九六米)、南境に風越峠あり。大瀧根川の一支流西部山地に發源して東流す。沿岸にや、耕地あり。米・粟・蕎麥・蕪・馬等を産す。磐城街道は村の中央部を西北より東南に通じ、西北方三春町、南方風越峠を経て小野新町に至る。(王子神社)大字門澤に鎮座。無格社。祭神、國孫槌命。當社

【七尾】山梨縣東山梨郡にありし村。昭和三年に鹽山町と改稱す。

【七尾村】福島縣磐城國田村郡の中部。三春町の東南約一〇軒。阿武隈山地に屬し、北境に片曾根山(七一八米)、西境に鞍掛山(七九三米)、黒石山(八九六米)、南境に風越峠あり。大瀧根川の一支流西部山地に發源して東流す。沿岸にや、耕地あり。米・粟・蕎麥・蕪・馬等を産す。磐城街道は村の中央部を西北より東南に通じ、西北方三春町、南方風越峠を経て小野新町に至る。(王子神社)大字門澤に鎮座。無格社。祭神、國孫槌命。當社

【七尾】山梨縣東山梨郡にありし村。昭和三年に鹽山町と改稱す。

【七尾村】福島縣磐城國田村郡の中部。三春町の東南約一〇軒。阿武隈山地に屬し、北境に片曾根山(七一八米)、西境に鞍掛山(七九三米)、黒石山(八九六米)、南境に風越峠あり。大瀧根川の一支流西部山地に發源して東流す。沿岸にや、耕地あり。米・粟・蕎麥・蕪・馬等を産す。磐城街道は村の中央部を西北より東南に通じ、西北方三春町、南方風越峠を経て小野新町に至る。(王子神社)大字門澤に鎮座。無格社。祭神、國孫槌命。當社

【七尾】山梨縣東山梨郡にありし村。昭和三年に鹽山町と改稱す。

【七尾村】福島縣磐城國田村郡の中部。三春町の東南約一〇軒。阿武隈山地に屬し、北境に片曾根山(七一八米)、西境に鞍掛山(七九三米)、黒石山(八九六米)、南境に風越峠あり。大瀧根川の一支流西部山地に發源して東流す。沿岸にや、耕地あり。米・粟・蕎麥・蕪・馬等を産す。磐城街道は村の中央部を西北より東南に通じ、西北方三春町、南方風越峠を経て小野新町に至る。(王子神社)大字門澤に鎮座。無格社。祭神、國孫槌命。當社

ナナク——ナナサ

に通過し、これに沿って、社領領地置道通じ、八乙女驛(大正十一年設置)、七北田驛・陸前大澤驛(共に大正十二年設置)、山ノ寺驛(昭和三年設置)を置く。なほ南部丘陵に荒巻温泉あり。昭和六年、大字北根・荒巻を仙臺市に編入す。舊奥州街道の七北田宿のありし所、明治九年明治天皇御巡幸の際、及び明治十四年に山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。此地は和名抄、曹洞宗科上郷の地なるべし。(洞雲寺)曹洞宗。龍門院。慶雲年間慶雲の創建に係り、中興を明峯素誓とす。應永七年梅岡群三東北遷化の際に當寺に東り領主國分盛行に請ひて再興し、七堂並に二十五院を建立し境内百餘軒に及ぶ。近世は寺領百十九石餘を有せり。

【七尾】山梨縣東山梨郡にありし村。昭和三年に鹽山町と改稱す。

國六天

に見る現象とす。(宮水神社)大字宮水に鎮座。郷社。祭神、大山紙命。社傳に正親町天皇の天正十五年の勸請といふ。舊稱を北山大明神と稱し、村民崇敬の社たり。例祭、十一月三日。

【七尾】山梨縣東山梨郡にありし村。昭和三年に鹽山町と改稱す。

【七尾】山梨縣東山梨郡にありし村。昭和三年に鹽山町と改稱す。

【七尾】山梨縣東山梨郡にありし村。昭和三年に鹽山町と改稱す。

所蔵の元禄年間の繪の條に據れば、社頭もと堂山寺の遺址なりと云へば、恐らく本殿もこの寺内の一字なりならん。社殿は桃山時代の剛健なる特色を傳へ國寶たり。

【七郷村】埼玉縣武蔵國比企郡の北部。小川町の東北方にて、間に八和田村を挟み、北は大里郡の一部と隣す。大部分低き山地をなし、東境に二ノ宮山(一三二米)あり。西境を荒川の支流市ノ川、東境を同滑川東南に流れ、その附近のみ狭き平地ありて、水田をなす。農業・養蠶行はれて米・蕎麥を産す。鐵道は小川町及び東北方面谷市へ通じ、小川町には社線東武鐵道東上線及び省線八高線小川町驛あり。熊谷市へはバスの便あり。

【七郷村】岐阜縣美濃國本巣郡の東南部。北方町の東に隣し、岐阜市の西南方約三軒。東は稻葉郡に界す。濃尾平野の北部に位し、土地平坦肥沃にして水田多し。農業を主生業とし米・蕎麥を産す。社線名古屋鐵道の川部橋・又丸(共に大正三年設置)の二驛を設く。縣道南北・東西に通じ交通便なり。此地は和名抄田、方縣郡村郷の内なるべし。大字開田は清和源氏、木田氏の族、開田氏の居りし所なり。(若江神社)大字西改田、東改田入會に隣す。郷社。祭神、應神天皇外二神。延喜式神名帳方縣郡二座の一。例祭、三月十五日。

ナナツ 七・七七

【七ヶ森】七ヶ森(宮城縣)の別名。福島縣南會津郡荒海村と楡澤村との境上に位す。標高一六三六米。北斜面より楡澤川發源して北東流し、南方より荒海川源流して北東流し、楡澤川と合流す。南西方は西流する楡澤川の水源地なり。

【七ヶ島】南志見村(石川縣風玉郡)の支脈に屬する一峰なり。大井川の左岸、靜岡市の北東方二六軒前後、靜岡縣安倍郡大川村と志太郡東川根村との境上にあり。標高一五三三米。山腰は秩父古生層より成る。南東方は安倍川の一支萬科川の源流地にして南東流し、西麓には大井川長蛇の如く南流す。

【七ヶ石山】關東山脈の一峰。多摩川の左岸、東京府西多摩郡氷川村と山梨縣北都留郡丹波山村の境上に峙ち、標高一七七七米。この山より北方の小雲取を経て雲取山(二〇一八米)へは防火線通じ、縱走面白し。山麓には七ヶ石神社鎮座す。

【七塚村】石川縣加賀國河北部の西北海岸。高松町の西南に接す。加賀海岸砂丘の一部を占め、聚落は海岸に散在し漁業

【七郷村】豊川の上流三輪川の左岸。東は靜岡縣磐田郡に、東南は靜岡縣引佐郡に、北は北設楽郡に、西は三輪川を隔て、南設楽郡に界す。赤石山脈の餘脈を負ひ全村五十六戸の山村重疊す。平地に乏しく河岸に僅かの耕作行はる。養蠶・林業を主生業とし、蕎麥・木材・木炭の産出あり、米も多少産す。河沿ひに別所街道通じ、對岸に社線風來寺鐵道通す。本村は明治三十九年に高岡・井代・能登瀨・名越・名越・細川・陸平の舊七箇村を廢し新たに本村を置く。南設楽郡長井村に隣りて馬瀬岩あり、いま天然記念物に指定せらる。↓長井村

【七郷村】滋賀縣近江國伊香郡の南部。本之木町の南に接し近江盆地の北部を占む。北部に僅かの丘陵ある外は概ね平坦にして水田多し。農業を主とし米の産ある外に養蠶も行はる。縣道四通し、省線北陸本線の木之本・高月の兩驛に近し。此地古くは和名抄伊香郡伊香郷に當り、物部氏の祖伊香色許命の族の河内國交野郡伊香郷より移住せし所といふ。伊香郡の郡家置かれし地なるより、中世は郡庄といへり。大字磯野は戰國の頃、江北の將磯野氏居城の地なり。

山脈は七百米前後の高さにて連互し、村内概ねその斜面に屬し高峻なるも、漸次海岸に向ひて低下す。海岸に平野展げ耕地存す。海岸線は砂浜にして平滑、漁業繁盛を見す。南部平野を東西に縣道通じ中央は早崎の聚落にて北方に分岐す。バス通じ交通便なり。村民の大部は農に従ひ頗る良質の米を産し、また蕎麥・養蠶・繭を出す。

【七郷村】秋田縣陸奥國鹿角郡の東北部。北は小坂町、南は毛馬内町、東北は十和田湖を以て青森縣に接す。面積一三六・三三方軒の大村。村は十和田湖の西岸に幅約二軒の半島を以て隔られる部分と、その西南部なる七瀬川沿岸の傾斜地とより成り、前者の東北境には勝山(一〇一・一米)、西境に岩岳(八八〇米)、南境に發音峠(六四七米)あり、十和田湖岸に傾斜す。七瀬川は十和田湖西南の山地より發源し、西南に流れ村の西南部に於て北方より来る小坂川に合し南流す。村の西南部には耕地拓げ米を産す。道路は西南部を南北に通じ毛馬内町と小坂町へバス

【七郷村】秋田縣陸奥國鹿角郡の東北部。北は小坂町、南は毛馬内町、東北は十和田湖を以て青森縣に接す。面積一三六・三三方軒の大村。村は十和田湖の西岸に幅約二軒の半島を以て隔られる部分と、その西南部なる七瀬川沿岸の傾斜地とより成り、前者の東北境には勝山(一〇一・一米)、西境に岩岳(八八〇米)、南境に發音峠(六四七米)あり、十和田湖岸に傾斜す。七瀬川は十和田湖西南の山地より發源し、西南に流れ村の西南部に於て北方より来る小坂川に合し南流す。村の西南部には耕地拓げ米を産す。道路は西南部を南北に通じ毛馬内町と小坂町へバス

【七郷村】秋田縣陸奥國鹿角郡の東北部。北は小坂町、南は毛馬内町、東北は十和田湖を以て青森縣に接す。面積一三六・三三方軒の大村。村は十和田湖の西岸に幅約二軒の半島を以て隔られる部分と、その西南部なる七瀬川沿岸の傾斜地とより成り、前者の東北境には勝山(一〇一・一米)、西境に岩岳(八八〇米)、南境に發音峠(六四七米)あり、十和田湖岸に傾斜す。七瀬川は十和田湖西南の山地より發源し、西南に流れ村の西南部に於て北方より来る小坂川に合し南流す。村の西南部には耕地拓げ米を産す。道路は西南部を南北に通じ毛馬内町と小坂町へバス

【七郷村】秋田縣陸奥國鹿角郡の東北部。北は小坂町、南は毛馬内町、東北は十和田湖を以て青森縣に接す。面積一三六・三三方軒の大村。村は十和田湖の西岸に幅約二軒の半島を以て隔られる部分と、その西南部なる七瀬川沿岸の傾斜地とより成り、前者の東北境には勝山(一〇一・一米)、西境に岩岳(八八〇米)、南境に發音峠(六四七米)あり、十和田湖岸に傾斜す。七瀬川は十和田湖西南の山地より發源し、西南に流れ村の西南部に於て北方より来る小坂川に合し南流す。村の西南部には耕地拓げ米を産す。道路は西南部を南北に通じ毛馬内町と小坂町へバス

【七郷村】秋田縣陸奥國鹿角郡の東北部。北は小坂町、南は毛馬内町、東北は十和田湖を以て青森縣に接す。面積一三六・三三方軒の大村。村は十和田湖の西岸に幅約二軒の半島を以て隔られる部分と、その西南部なる七瀬川沿岸の傾斜地とより成り、前者の東北境には勝山(一〇一・一米)、西境に岩岳(八八〇米)、南境に發音峠(六四七米)あり、十和田湖岸に傾斜す。七瀬川は十和田湖西南の山地より發源し、西南に流れ村の西南部に於て北方より来る小坂川に合し南流す。村の西南部には耕地拓げ米を産す。道路は西南部を南北に通じ毛馬内町と小坂町へバス

【七郷村】秋田縣陸奥國鹿角郡の東北部。北は小坂町、南は毛馬内町、東北は十和田湖を以て青森縣に接す。面積一三六・三三方軒の大村。村は十和田湖の西岸に幅約二軒の半島を以て隔られる部分と、その西南部なる七瀬川沿岸の傾斜地とより成り、前者の東北境には勝山(一〇一・一米)、西境に岩岳(八八〇米)、南境に發音峠(六四七米)あり、十和田湖岸に傾斜す。七瀬川は十和田湖西南の山地より發源し、西南に流れ村の西南部に於て北方より来る小坂川に合し南流す。村の西南部には耕地拓げ米を産す。道路は西南部を南北に通じ毛馬内町と小坂町へバス

【七郷村】秋田縣陸奥國鹿角郡の東北部。北は小坂町、南は毛馬内町、東北は十和田湖を以て青森縣に接す。面積一三六・三三方軒の大村。村は十和田湖の西岸に幅約二軒の半島を以て隔られる部分と、その西南部なる七瀬川沿岸の傾斜地とより成り、前者の東北境には勝山(一〇一・一米)、西境に岩岳(八八〇米)、南境に發音峠(六四七米)あり、十和田湖岸に傾斜す。七瀬川は十和田湖西南の山地より發源し、西南に流れ村の西南部に於て北方より来る小坂川に合し南流す。村の西南部には耕地拓げ米を産す。道路は西南部を南北に通じ毛馬内町と小坂町へバス

【七郷村】秋田縣陸奥國鹿角郡の東北部。北は小坂町、南は毛馬内町、東北は十和田湖を以て青森縣に接す。面積一三六・三三方軒の大村。村は十和田湖の西岸に幅約二軒の半島を以て隔られる部分と、その西南部なる七瀬川沿岸の傾斜地とより成り、前者の東北境には勝山(一〇一・一米)、西境に岩岳(八八〇米)、南境に發音峠(六四七米)あり、十和田湖岸に傾斜す。七瀬川は十和田湖西南の山地より發源し、西南に流れ村の西南部に於て北方より来る小坂川に合し南流す。村の西南部には耕地拓げ米を産す。道路は西南部を南北に通じ毛馬内町と小坂町へバス

【七郷村】秋田縣陸奥國鹿角郡の東北部。北は小坂町、南は毛馬内町、東北は十和田湖を以て青森縣に接す。面積一三六・三三方軒の大村。村は十和田湖の西岸に幅約二軒の半島を以て隔られる部分と、その西南部なる七瀬川沿岸の傾斜地とより成り、前者の東北境には勝山(一〇一・一米)、西境に岩岳(八八〇米)、南境に發音峠(六四七米)あり、十和田湖岸に傾斜す。七瀬川は十和田湖西南の山地より發源し、西南に流れ村の西南部に於て北方より来る小坂川に合し南流す。村の西南部には耕地拓げ米を産す。道路は西南部を南北に通じ毛馬内町と小坂町へバス

【七郷村】秋田縣陸奥國鹿角郡の東北部。北は小坂町、南は毛馬内町、東北は十和田湖を以て青森縣に接す。面積一三六・三三方軒の大村。村は十和田湖の西岸に幅約二軒の半島を以て隔られる部分と、その西南部なる七瀬川沿岸の傾斜地とより成り、前者の東北境には勝山(一〇一・一米)、西境に岩岳(八八〇米)、南境に發音峠(六四七米)あり、十和田湖岸に傾斜す。七瀬川は十和田湖西南の山地より發源し、西南に流れ村の西南部に於て北方より来る小坂川に合し南流す。村の西南部には耕地拓げ米を産す。道路は西南部を南北に通じ毛馬内町と小坂町へバス

【七郷村】秋田縣陸奥國鹿角郡の東北部。北は小坂町、南は毛馬内町、東北は十和田湖を以て青森縣に接す。面積一三六・三三方軒の大村。村は十和田湖の西岸に幅約二軒の半島を以て隔られる部分と、その西南部なる七瀬川沿岸の傾斜地とより成り、前者の東北境には勝山(一〇一・一米)、西境に岩岳(八八〇米)、南境に發音峠(六四七米)あり、十和田湖岸に傾斜す。七瀬川は十和田湖西南の山地より發源し、西南に流れ村の西南部に於て北方より来る小坂川に合し南流す。村の西南部には耕地拓げ米を産す。道路は西南部を南北に通じ毛馬内町と小坂町へバス

【七郷村】秋田縣陸奥國鹿角郡の東北部。北は小坂町、南は毛馬内町、東北は十和田湖を以て青森縣に接す。面積一三六・三三方軒の大村。村は十和田湖の西岸に幅約二軒の半島を以て隔られる部分と、その西南部なる七瀬川沿岸の傾斜地とより成り、前者の東北境には勝山(一〇一・一米)、西境に岩岳(八八〇米)、南境に發音峠(六四七米)あり、十和田湖岸に傾斜す。七瀬川は十和田湖西南の山地より發源し、西南に流れ村の西南部に於て北方より来る小坂川に合し南流す。村の西南部には耕地拓げ米を産す。道路は西南部を南北に通じ毛馬内町と小坂町へバス

【七郷村】秋田縣陸奥國鹿角郡の東北部。北は小坂町、南は毛馬内町、東北は十和田湖を以て青森縣に接す。面積一三六・三三方軒の大村。村は十和田湖の西岸に幅約二軒の半島を以て隔られる部分と、その西南部なる七瀬川沿岸の傾斜地とより成り、前者の東北境には勝山(一〇一・一米)、西境に岩岳(八八〇米)、南境に發音峠(六四七米)あり、十和田湖岸に傾斜す。七瀬川は十和田湖西南の山地より發源し、西南に流れ村の西南部に於て北方より来る小坂川に合し南流す。村の西南部には耕地拓げ米を産す。道路は西南部を南北に通じ毛馬内町と小坂町へバス

の便あり。十和田湖畔へは毛馬内驛よりバス通ず。大字上向は十和田湖國立公園の内にて、十和田湖と奥入瀬溪流は本村青森縣及び青森市北部十和田村にあり。名勝、天然記念物に指定さる。

【七郷村】熊本縣肥後國上益城郡の中部。阿蘇外輪山西南斜面中腹を占め、熊本市東部との間に約六・五軒を隔つ。地形東北部に高く西南部に次第に傾斜す。敷川支流の御船川は南部を西南流し、中央流域に有名なる七瀬あり。中央南部には八勢川西南方に流れ、中央を尾形川同じく西南流す。尾形川の流域一帯に耕地發達し、米・蕎麥・豆・蕎麥等の農産物を主とし山地より木炭の産あり。南部には西南方御船町と東南方旗町とを結ぶに縣道あり。村内に七瀬あるを以て村名とすと云ふ。七瀬は落口に突立する觀音石を挟み、高さ五五米弱、七段となつて墜つ。一に七級瀬ともいふ。瀑上に辨財天を祀る小祠あり。

【七郷村】熊本縣肥後國上益城郡の中部。阿蘇外輪山西南斜面中腹を占め、熊本市東部との間に約六・五軒を隔つ。地形東北部に高く西南部に次第に傾斜す。敷川支流の御船川は南部を西南流し、中央流域に有名なる七瀬あり。中央南部には八勢川西南方に流れ、中央を尾形川同じく西南流す。尾形川の流域一帯に耕地發達し、米・蕎麥・豆・蕎麥等の農産物を主とし山地より木炭の産あり。南部には西南方御船町と東南方旗町とを結ぶに縣道あり。村内に七瀬あるを以て村名とすと云ふ。七瀬は落口に突立する觀音石を挟み、高さ五五米弱、七段となつて墜つ。一に七級瀬ともいふ。瀑上に辨財天を祀る小祠あり。

【七郷村】熊本縣肥後國上益城郡の中部。阿蘇外輪山西南斜面中腹を占め、熊本市東部との間に約六・五軒を隔つ。地形東北部に高く西南部に次第に傾斜す。敷川支流の御船川は南部を西南流し、中央流域に有名なる七瀬あり。中央南部には八勢川西南方に流れ、中央を尾形川同じく西南流す。尾形川の流域一帯に耕地發達し、米・蕎麥・豆・蕎麥等の農産物を主とし山地より木炭の産あり。南部には西南方御船町と東南方旗町とを結ぶに縣道あり。村内に七瀬あるを以て村名とすと云ふ。七瀬は落口に突立する觀音石を挟み、高さ五五米弱、七段となつて墜つ。一に七級瀬ともいふ。瀑上に辨財天を祀る小祠あり。

【七郷村】熊本縣肥後國上益城郡の中部。阿蘇外輪山西南斜面中腹を占め、熊本市東部との間に約六・五軒を隔つ。地形東北部に高く西南部に次第に傾斜す。敷川支流の御船川は南部を西南流し、中央流域に有名なる七瀬あり。中央南部には八勢川西南方に流れ、中央を尾形川同じく西南流す。尾形川の流域一帯に耕地發達し、米・蕎麥・豆・蕎麥等の農産物を主とし山地より木炭の産あり。南部には西南方御船町と東南方旗町とを結ぶに縣道あり。村内に七瀬あるを以て村名とすと云ふ。七瀬は落口に突立する觀音石を挟み、高さ五五米弱、七段となつて墜つ。一に七級瀬ともいふ。瀑上に辨財天を祀る小祠あり。

【七郷村】熊本縣肥後國上益城郡の中部。阿蘇外輪山西南斜面中腹を占め、熊本市東部との間に約六・五軒を隔つ。地形東北部に高く西南部に次第に傾斜す。敷川支流の御船川は南部を西南流し、中央流域に有名なる七瀬あり。中央南部には八勢川西南方に流れ、中央を尾形川同じく西南流す。尾形川の流域一帯に耕地發達し、米・蕎麥・豆・蕎麥等の農産物を主とし山地より木炭の産あり。南部には西南方御船町と東南方旗町とを結ぶに縣道あり。村内に七瀬あるを以て村名とすと云ふ。七瀬は落口に突立する觀音石を挟み、高さ五五米弱、七段となつて墜つ。一に七級瀬ともいふ。瀑上に辨財天を祀る小祠あり。

【七郷村】熊本縣肥後國上益城郡の中部。阿蘇外輪山西南斜面中腹を占め、熊本市東部との間に約六・五軒を隔つ。地形東北部に高く西南部に次第に傾斜す。敷川支流の御船川は南部を西南流し、中央流域に有名なる七瀬あり。中央南部には八勢川西南方に流れ、中央を尾形川同じく西南流す。尾形川の流域一帯に耕地發達し、米・蕎麥・豆・蕎麥等の農産物を主とし山地より木炭の産あり。南部には西南方御船町と東南方旗町とを結ぶに縣道あり。村内に七瀬あるを以て村名とすと云ふ。七瀬は落口に突立する觀音石を挟み、高さ五五米弱、七段となつて墜つ。一に七級瀬ともいふ。瀑上に辨財天を祀る小祠あり。

【七郷村】熊本縣肥後國上益城郡の中部。阿蘇外輪山西南斜面中腹を占め、熊本市東部との間に約六・五軒を隔つ。地形東北部に高く西南部に次第に傾斜す。敷川支流の御船川は南部を西南流し、中央流域に有名なる七瀬あり。中央南部には八勢川西南方に流れ、中央を尾形川同じく西南流す。尾形川の流域一帯に耕地發達し、米・蕎麥・豆・蕎麥等の農産物を主とし山地より木炭の産あり。南部には西南方御船町と東南方旗町とを結ぶに縣道あり。村内に七瀬あるを以て村名とすと云ふ。七瀬は落口に突立する觀音石を挟み、高さ五五米弱、七段となつて墜つ。一に七級瀬ともいふ。瀑上に辨財天を祀る小祠あり。

【七郷村】熊本縣肥後國上益城郡の中部。阿蘇外輪山西南斜面中腹を占め、熊本市東部との間に約六・五軒を隔つ。地形東北部に高く西南部に次第に傾斜す。敷川支流の御船川は南部を西南流し、中央流域に有名なる七瀬あり。中央南部には八勢川西南方に流れ、中央を尾形川同じく西南流す。尾形川の流域一帯に耕地發達し、米・蕎麥・豆・蕎麥等の農産物を主とし山地より木炭の産あり。南部には西南方御船町と東南方旗町とを結ぶに縣道あり。村内に七瀬あるを以て村名とすと云ふ。七瀬は落口に突立する觀音石を挟み、高さ五五米弱、七段となつて墜つ。一に七級瀬ともいふ。瀑上に辨財天を祀る小祠あり。

【七郷村】熊本縣肥後國上益城郡の中部。阿蘇外輪山西南斜面中腹を占め、熊本市東部との間に約六・五軒を隔つ。地形東北部に高く西南部に次第に傾斜す。敷川支流の御船川は南部を西南流し、中央流域に有名なる七瀬あり。中央南部には八勢川西南方に流れ、中央を尾形川同じく西南流す。尾形川の流域一帯に耕地發達し、米・蕎麥・豆・蕎麥等の農産物を主とし山地より木炭の産あり。南部には西南方御船町と東南方旗町とを結ぶに縣道あり。村内に七瀬あるを以て村名とすと云ふ。七瀬は落口に突立する觀音石を挟み、高さ五五米弱、七段となつて墜つ。一に七級瀬ともいふ。瀑上に辨財天を祀る小祠あり。

【七郷村】熊本縣肥後國上益城郡の中部。阿蘇外輪山西南斜面中腹を占め、熊本市東部との間に約六・五軒を隔つ。地形東北部に高く西南部に次第に傾斜す。敷川支流の御船川は南部を西南流し、中央流域に有名なる七瀬あり。中央南部には八勢川西南方に流れ、中央を尾形川同じく西南流す。尾形川の流域一帯に耕地發達し、米・蕎麥・豆・蕎麥等の農産物を主とし山地より木炭の産あり。南部には西南方御船町と東南方旗町とを結ぶに縣道あり。村内に七瀬あるを以て村名とすと云ふ。七瀬は落口に突立する觀音石を挟み、高さ五五米弱、七段となつて墜つ。一に七級瀬ともいふ。瀑上に辨財天を祀る小祠あり。

【七郷村】熊本縣肥後國上益城郡の中部。阿蘇外輪山西南斜面中腹を占め、熊本市東部との間に約六・五軒を隔つ。地形東北部に高く西南部に次第に傾斜す。敷川支流の御船川は南部を西南流し、中央流域に有名なる七瀬あり。中央南部には八勢川西南方に流れ、中央を尾形川同じく西南流す。尾形川の流域一帯に耕地發達し、米・蕎麥・豆・蕎麥等の農産物を主とし山地より木炭の産あり。南部には西南方御船町と東南方旗町とを結ぶに縣道あり。村内に七瀬あるを以て村名とすと云ふ。七瀬は落口に突立する觀音石を挟み、高さ五五米弱、七段となつて墜つ。一に七級瀬ともいふ。瀑上に辨財天を祀る小祠あり。

【七郷村】熊本縣肥後國上益城郡の中部。阿蘇外輪山西南斜面中腹を占め、熊本市東部との間に約六・五軒を隔つ。地形東北部に高く西南部に次第に傾斜す。敷川支流の御船川は南部を西南流し、中央流域に有名なる七瀬あり。中央南部には八勢川西南方に流れ、中央を尾形川同じく西南流す。尾形川の流域一帯に耕地發達し、米・蕎麥・豆・蕎麥等の農産物を主とし山地より木炭の産あり。南部には西南方御船町と東南方旗町とを結ぶに縣道あり。村内に七瀬あるを以て村名とすと云ふ。七瀬は落口に突立する觀音石を挟み、高さ五五米弱、七段となつて墜つ。一に七級瀬ともいふ。瀑上に辨財天を祀る小祠あり。

【七郷村】熊本縣肥後國上益城郡の中部。阿蘇外輪山西南斜面中腹を占め、熊本市東部との間に約六・五軒を隔つ。地形東北部に高く西南部に次第に傾斜す。敷川支流の御船川は南部を西南流し、中央流域に有名なる七瀬あり。中央南部には八勢川西南方に流れ、中央を尾形川同じく西南流す。尾形川の流域一帯に耕地發達し、米・蕎麥・豆・蕎麥等の農産物を主とし山地より木炭の産あり。南部には西南方御船町と東南方旗町とを結ぶに縣道あり。村内に七瀬あるを以て村名とすと云ふ。七瀬は落口に突立する觀音石を挟み、高さ五五米弱、七段となつて墜つ。一に七級瀬ともいふ。瀑上に辨財天を祀る小祠あり。

【七塚村】石川縣加賀國河北部の西北海岸。高松町の西南に接す。加賀海岸砂丘の一部を占め、聚落は海岸に散在し漁業

【七郷村】豊川の上流三輪川の左岸。東は靜岡縣磐田郡に、東南は靜岡縣引佐郡に、北は北設楽郡に、西は三輪川を隔て、南設楽郡に界す。赤石山脈の餘脈を負ひ全村五十六戸の山村重疊す。平地に乏しく河岸に僅かの耕作行はる。養蠶・林業を主生業とし、蕎麥・木材・木炭の産出あり、米も多少産す。河沿ひに別所街道通じ、對岸に社線風來寺鐵道通す。本村は明治三十九年に高岡・井代・能登瀨・名越・名越・細川・陸平の舊七箇村を廢し新たに本村を置く。南設楽郡長井村に隣りて馬瀬岩あり、いま天然記念物に指定せらる。↓長井村

【七郷村】滋賀縣近江國伊香郡の南部。本之木町の南に接し近江盆地の北部を占む。北部に僅かの丘陵ある外は概ね平坦にして水田多し。農業を主とし米の産ある外に養蠶も行はる。縣道四通し、省線北陸本線の木之本・高月の兩驛に近し。此地古くは和名抄伊香郡伊香郷に當り、物部氏の祖伊香色許命の族の河内國交野郡伊香郷より移住せし所といふ。伊香郡の郡家置かれし地なるより、中世は郡庄といへり。大字磯野は戰國の頃、江北の將磯野氏居城の地なり。

【七郷村】秋田縣陸奥國鹿角郡の東北部。北は小坂町、南は毛馬内町、東北は十和田湖を以て青森縣に接す。面積一三六・三三方軒の大村。村は十和田湖の西岸に幅約二軒の半島を以て隔られる部分と、その西南部なる七瀬川沿岸の傾斜地とより成り、前者の東北境には勝山(一〇一・一米)、西境に岩岳(八八〇米)、南境に發音峠(六四七米)あり、十和田湖岸に傾斜す。七瀬川は十和田湖西南の山地より發源し、西南に流れ村の西南部に於て北方より来る小坂川に合し南流す。村の西南部には耕地拓げ米を産す。道路は西南部を南北に通じ毛馬内町と小坂町へバス

【七郷村】秋田縣陸奥國鹿角郡の東北部。北は小坂町、南は毛馬内町、東北は十和田湖を以て青森縣に接す。面積一三六・三三方軒の大村。村は十和田湖の西岸に幅約二軒の半島を以て隔られる部分と、その西南部なる七瀬川沿岸の傾斜地とより成り、前者の東北境には勝山(一〇一・一米)、西境に岩岳(八八〇米)、南境に發音峠(六四七米)あり、十和田湖岸に傾斜す。七瀬川は十和田湖西南の山地より發源し、西南に流れ村の西南部に於て北方より来る小坂川に合し南流す。村の西南部には耕地拓げ米を産す。道路は西南部を南北に通じ毛馬内町と小坂町へバス

【七郷村】秋田縣陸奥國鹿角郡の東北部。北は小坂町、南は毛馬内町、東北は十和田湖を以て青森縣に接す。面積一三六・三三方軒の大村。村は十和田湖の西岸に幅約二軒の半島を以て隔られる部分と、その西南部なる七瀬川沿岸の傾斜地とより成り、前者の東北境には勝山(一〇一・一米)、西境に岩岳(八八〇米)、南境に發音峠(六四七米)あり、十和田湖岸に傾斜す。七瀬川は十和田湖西南の山地より發源し、西南に流れ村の西南部に於て北方より来る小坂川に合し南流す。村の西南部には耕地拓げ米を産す。道路は西南部を南北に通じ毛馬内町と小坂町へバス

ナナワ——ナニワ

〔七四九米〕・浮岳山(八〇五米)・十坊山(五三五米)等連なり、西南端に三棒山(七六〇米)聳え、村内山嶽重疊す。東端に源流する玉島川中部を西流し、沿岸西部に、僅かに耕地拓く。米・蕎麥等を産す。玉島川に沿って濱崎町より東南方佐賀市へ通ずる道路走り、西方四軒餘に省線筑肥線の濱崎駅あれど、交通概して不便なり。古くは和名抄、松浦郡大沼郷の内なるべし。大字瀧川に觀音ノ瀧あり。高さ四六米、巾四米。その瀧の上に觀音堂あり。瀧ノ觀音とて秋季彼岸中日には近郷よりの参詣者頗る多し。

ナナワ 七和

〔七和村〕 青森縣奥國北津輕郡の東南部。五所川原町の東南約八軒。東と南は東津輕郡に接す。東端に梵珠山(四六八米)・鐘檢堂山(三一七米)あり、西南方に傾斜し、村の西南部は津輕平野に屬して平坦なり。前田野目川は東北部に發源して西南に流れ十川に合す。十川は村の西南端を西北に流る。山麓には所々に池沼あり。米・林産を産す。道路は村の中央部を東西に通じ、西方の五能線五所川驛、東方の奥羽本線大野驛へは、各バスの便あり。(松倉神社) 大字前田野目に鎮座。郷社。祭神、大山祇命外二神。社傳に當社は大同二年に坂上田村麻呂の再建といふ。例祭、七月十七日。〔七和村〕 三重縣伊勢國員辨郡の東南部。東端の北半は桑名市西北部に、南半

ナニアイ 七二會村

長野縣信濃國上水内郡の南部。犀川の北岸に沿ひ南は川を隔て、更東部に界す。北端には陣場平山(二五八米)聳え、南に傾斜し、全村丘陵性にして平地に乏し。養蠶農業を主産業とし、蕎麥・米・麥・大豆を産す。南河内沿に縣道通じ、長野市へ約九軒にてバスの便あり。(守田神社) 守田に鎮座。郷社。祭神、守田開拓の神なり。日神によれば、守田神は當地開拓の神なるを以て地主神として奉り、天平元年に

社殿を造營すと云ふ。式内社。例祭、九月二十一日。(忠恩寺) 淨土宗。寺寶中、聖觀音立像(木造)一軀は藤原末期作と推せられ、國寶たり。

ナニワ 難波・浪速

【難波・浪速】 今の大阪地方の舊稱。神武天皇御東征の時、瀬戸内海より東に進んで御船この地に到り、更に流れに遇つて河内に進まざる際、浪速かりしが故に「浪速」と稱し、後に「ナニハ」と訛ると傳へらる。この地は古今甚しく形勢を異にし、今の大阪城のある上町一帯の丘陵以西は、近く三四百年前までは殆ど海面に没し、その以東にも古くは入海が深く灣入し、謂はゆる難波江を成せり。蓋しこの上町の丘陵は南方より北に延びて内海の日を擁し、謂はゆる難波江を成せしかば、淀川・大和川・河内川等より流下する土砂が、漸次その入海に堆積して處々に砂洲を造り、その數甚だ多かりしために、難波の八十島の名と呼ばれしほどなりき。またその勢しき砂洲の附近には蘆葦叢生して難波江の景物をなし、難波の蘆の名は常に落穂とともに古歌に讀まる。然るにその八十島も次第に發達して遂に一線きの陸地となり、今の大阪平野をなせり。難波津は海路の要津として古くより必要の地となり、殊に三韓我國に屬し、海外の交通、漸く開くに及びては、益々その重用を加へしものと見え、應神天皇は既に難波の大船場に離宮

四〇

を設け給ふ。ついで仁德天皇は上記の上町丘陵の北端、恐らく今の大阪城の地に難波の高津宮を營む。當時淀川は東北より來りて今の新淀川の流路を取りて海に注ぎ、また河内川は大和川の水を合してこの丘陵の東に沿つて北流し、淀川に合流せり。然るに上砂の堆積によつて河口が次第に淺くなりしため、流水の疏通悪く、霖雨の際には河内川の水連流して附近の田圃を没し、その被害甚しく、これによつて天皇は命じて宮北の郊原を掘らしめ、南水即ち河内川の水を西に向つて直ちに海に注がしむ。謂はゆる難波の堀江なり。これがたために淀川の洪水はもより免れしのみならず、淀川の洪水はもと河内川下流の水路を逕流してこの堀江に注ぎ、難波の堀江川と呼ばれて遂に淀川の本流の如き形勢となり、難波の地は一變するに至れり。然るにそれも年を経るとともに用瓦に土砂が堆積して、再び水の疏通が悪くなりしため、延暦七年和氣清麻呂津職の大夫のとき、寛陵即ち今の天王寺の南に於て上町丘陵を横斷する水路を造り、以て南水を直ちに海に注がしめんと試みしが、工事困難にて二十三萬人の人力を役して遂に完成せず、爾來河内の平野には洪水の慘害甚しく、元祿年間に新大和川を開き、大和・河内の諸水を今の堺市の北に海に注がしむるまでは、この洪水の被害は繼續せしむるなり。新大和川は嘗て仁德天皇が、こ

れをなし、和氣清麻呂がこれに倣はんとし、失敗せしところのものを、更に大規模に完成せしものなり。難波の堀江即ち堀江川が出來しのは、もとの淀川の本流は長瀬川と呼ばれ、却つてその支流の如き形となり、ここに古く有名なる長瀬の橋が架してあり。孝德天皇の大化改新に際して都を難波に遷し、これを長瀬の豐埼宮と呼ぶ。その皇居は恐らく今の長瀬の地にありしものと思はる。(難波宮) 孝德天皇の皇居。天皇は大化改新に際して交通不便にして且つ傳統の力の強き大和の地を離れて都を難波に遷し給ひ、これを長瀬の豐埼宮と呼ぶ。此の皇居の位置に就きては諸説あるも唐都長安を模せる新式の都城なりしなるべく、その位置は凡そ今の大阪市東淀川區の南部より淀川以西の北區の地の邊にありしものなるべし。長瀬も豊崎も現に東淀川區に地名に遺る。この宮の地にはのち奈良時代に至りて難波難宮が設けられしは、伊呂波字類抄に引用せる古文に「豐前宮坐攝津難波長瀬、今造難宮是也」によりても明かなる如く、豊崎の故宮を用ひ給ひしものならん。書紀、大化二年の條に始めて京師を修む、凡そ京は坊ごとに長一人を置き、四坊に令一人を置くと見ゆ。都城内に於て各條ごとに四坊を設ける事は爾後の藤原京・平城京・平安京みな然らざるなし。さればこの豊崎宮は實に唐制を模して造營されたる最初の京と云ふべ

ナニワ——ナニワ

し。長瀬の豐埼宮は自應和三年に至りて工事殆ど成り、其壯觀を想はしめしが、天皇の崩御によりて宮は僅に七年にして廢せられ、都は再び飛鳥に復せらる。天武天皇の御代八年に至りて再びこれを改修し、防備を鞏固にするため難波の京を周りに堀城を設け給ひしこと書紀に見ゆ。蓋し天皇は此處に都を遷さんとせられしも飛鳥の勢力の反對によりて遂に其の具現を見るに至らず、僅に帝都の一として難波京を指定し給ふに過ぎざりき。しかして此の宮は一旦炎上せしもまた復興成り、天武天皇・元正天皇・聖武天皇等は數回この宮に行幸あり、殊に聖武天皇は藤原宇合を知造難波宮司に任じて大いに造營の工を起し給ふ。昔こそ難波田舎といはれけり今も都とそなはりにけり」と詠める宇合の得意の歌は萬葉集・三に見ゆ。天皇は天平十六年に一旦此處に都を營め給ひしが久しからずして再び平城に復し給ふ。これが爲に攝津の國は大化以來引續き國司を置かず帝都に準じて特に攝津職を置きてこれを支配せしむる例たり。然るに桓武天皇は都を長岡に移し給ふに及びて攝津職を廢して攝津國となし、諸國と同一の行政廳を置く。ここに至りて難波の京は名實共に永久に廢せらるるに至る。

【難波堀江】 仁德天皇の難波に開かせ給ひたる水路。天皇十一年詔して曰く「今朕この國をみるに、都澤曠遠にして田園少なく、且つ河水廣に流れて流氷早からず、些か霖雨に遇へば海潮溢に上り、巷里船に乗り、道路泥す。故に郡臣共にこれをみて、横瀬を探り海に通じて流流を塞ぎ、以て田宅を全ふせよ」と。かくて宮北の郊原を掘りて南水を西海に入る。よつてその水の名づけて堀江といふとあり。これは今の大阪府市内を流る天満川に當るものにて、その以前は南水、即ち大和・河水の諸水を集めし河内川が、高津宮のある今の大阪上町の丘陵の東を北に流れて淀川に注がれり。これによつて自然水の疏通悪し洪水の被害多かりしために、その害を除かんとしてこの堀江を掘らしめたり。これより淀川の水は却つてこの堀江に流れこみ、これが淀川の本流の如き形となれり。いはゆる堀江川なり。欽明天皇の十三年百濟王の佛像を獻するや、藤原大區稻目これを信ぜんと謂ひ、物部大連尾與、中臣連鎌子これに反對し、遂に佛像を難波の堀江に流し棄て、火を寺に放ちてこれを焼き盡せり。また敏達天皇の御代にも物部守屋が、中臣勝海と共に蘇我馬子の佛法信仰に反對し、寺塔を焼き、佛像を難波の堀江に投ずるとあるも、共にこの川のことならん。俗説或はこの佛像を投棄せし難波の堀江を以て、大和の飛鳥地方にあるもの如くにいふは、もとより取るに足らず。但しこの佛像投棄は、實は前後二度に行はれしものにてはなく、法王帝説の裏書に

四〇

よると、欽明天皇の三十一年大區稻目の死去の年なりき。蓋し、この一度の事實を日本紀には前後二度のことに誤傳せしものと解せらる。

【難波橋】 大阪市にある橋名。東區北濱二丁目と、天満橋ノ上町と若松町とを通ず。日本水代漢「一難波橋より西見渡しの百景、數千軒の開丸、堯をならべ白土等の曙をうばふ、移はへの儀物山もさながら動きて、人馬に付おくれは大道蕪き地帯のごとし、上荷茶船かぎりもなく、川浪に浮びしは秋の柳にことならず」心中双は水の朝日・下「思へば近き町つづき、世は何事も難波橋、よしとあしとの堀船、中に立つたる幾が身は、不便と思へ備後町」

【難波小橋】 大阪市の橋名。北區にあり堂島一丁目と天満とを結びし橋、曾根崎川に架し、堀船の南に在りしもの。大正以後、曾根崎川埋められて今はなし。堀船跡・七・難波小橋、堀川の頭にあり。此所は淀大川筋難波橋の下、大江橋の上手より北に曲り、西に下る處也。東西共に堂島新地一丁目の所にあり。天の朝鳥「あれ見や浪花小橋から、舟入橋の浪づたひ」

【難波大郡】 ↓大阪市(一〇三五—一六頁)

【難波湯】 ↓難波(大阪市)

【浪速】 關西本線の貨物驛(昭和三年設置)。大阪市港區南福崎町にあり。

【難波】 伊豫國(愛媛縣)の古地名。和名

ナスカ—ナハ

抄に風早郡難波郡あり、その地今の温泉郡難波村・浅海村の邊に當る。

ナスカイチ 七日市村 島根縣石見國鹿足郡の東南部。津和野町の東南約一〇軒、東北は美濃郡匹見上村に隣接す。

ナノカマチ 七日町 福島縣若松市の町名。合津線の七日町驛（昭和九年設置）あり。

ナノカイチ 七日市村 秋田縣羽後國北秋田郡の中部。鷹巣町の西南約六軒。面積一三・三五平方軒。東南境に龍ヶ森（一〇五〇米）・小紫森（一〇一〇米）、南境に高島帽子山（七六四米）、石倉山（五七〇米）ありて西北方に傾斜し、小紫森川は東南境に發源して西北に流れ、東境より奥見澤、西南部よりは品類川を合し、坊澤村に於て米代川に合す。全村概ね山地にて、東南部は磐石澤間有林な

り。小紫川沿岸には耕地拓け、米・木炭を産す。道路は西北部を南北に通じ、西方奥羽本線鷹巣驛へはバスの便あり。人口密度は一方軒につき二四人。村名の起原に就き傳説あり、昔、當村に長城なる人（南部の臣）あり。或時、嘉成右馬頭（本部の阿仁城主にて、南朝の忠臣葛西清重の後裔、城は米内澤にあり）に使用する途、此地を横ぎり、この村他日よき村になると信じ、後日、主より暇を請ひ、七日を費して此處に至り、終に住居と定めしより七日市と稱すと云ふ。

ナノカマチ 七日町村 新潟縣越後國刈羽郡の東部。東北は北魚沼郡小千谷町に隣接す。東部には三百米内外の小山嶺南北に通じ、西に緩やかに傾く。西境には海海川が北流し、流域は小國郡の一部なる低地にして田畑開く。米作を主とする農業にして、冬季は積雪多く戸外労働は不可能となるを以て出稼に出る者あり。他の町村に通ずる幹線街道なく交通便ならず。人口は僅少なる増加を示す。昭和十年の人口は八九六人なり、而して面積四・三五平方軒の小村なるにより、一方軒密度は二〇六人となり、全国平均の一八一人より多し。

ナノカワ 名野川村 高知縣土佐國吾川郡の西南隅。仁淀川上流左岸の山中に位し、高岡郡越智町を距る西方約一二軒なり。西は中津川（五四一）の連峯を以て愛媛縣に界し、東北は池川町、

東は大崎村に接し、南は川を隔てて高岡郡に對す。面積五〇・三一平方軒。高峻なる山嶺地帯を占め、北境に一二二六米の岡城山脈連なり。南境を仁淀川東流し沿岸に溪谷を作る。支流なる名野川は中部山間を東流し東南にて本流に合す。附近に縣營の仁淀川発電所あり。縣道は南境を川沿ひに通じ、松山市・高知市にバス通ず。村内養蠶業行はれ、また楮・三椏・酒類・醤油・米・麥・木材・淡水魚の産あり。大字下名野川の村社二所神社境内に、いちひ標の巨木あり、地上一・三米、周囲一〇米、樹高二二米、推定樹齡は約五百年にして、此種の代表的巨樹と稱せらる。〔菜野川神社〕大字名野川に鎮座。郷社。祭神、譽田別命。口碑に據れば、昔時、菜野川寒神の城主片岡上總守の嫡子同苗左衛門尉光綱の勳請なり。附近二十八ヶ小村の崇敬神にして、當村の産土神たり。例祭、六月十五日・十一月十五日。

ナノクニ 薩國・奴國 筑前國精屋・筑紫・早良の諸郡に互る地方の古地名。日本書紀、仲哀天皇紀に熊襲御親征の際、備前に至り、奴國に在ますといふ記事あり。備前が即ち薩國にて、概日はいま香椎に作り精屋郡中に現存す。また宣化天皇紀に奄舍を那津に遣らしむとあり、齊明天皇紀にも那津の名出づ。天皇はこれを長津と改め給ふ。これ等の那または那に何れもナと呼び、薩國の港津

を指せしものなり。備前は支那の書物には奴國と稱す。即ち後漢書、東夷傳に光武帝の中元二年に倭奴國朝貢し、光武帝がこれに印綬を賜ふと見ゆ。天明四年に筑前の志賀島より擧り出せし金印の文に、「漢委奴國王」の五文字あり。委奴は即ち「倭」ならんといふ説あるも非なり。蓋し委とは倭と同じ意にて、我が日本を稱したるもの、奴國とは即ち薩國と同じなり。これ後漢書にある如く、備前人が私に支那に入朝し、後漢の光武帝より金印を受けしものならん。

ナノニシ 名西（郡） 下名西郡（徳島縣）

ナハ 那波 上野國（群馬縣）の古地名。和名抄に甘藷郡那波郡あり、いま高山寺本により那波と訂す。その地今詳かならず、或は北甘藷郡高田村の邊か。

ナハ 那那 神瀨縣の首都。神瀨島の西南隅に位し、東は島尻郡和志村、南は小紫村に接し、西方一帯は海に面す。面積五方軒強、人口は約六萬五千にして本縣人口の一割以上を占む。市の大部分は隆起珊瑚礁上にあり、東方は第三紀層より成れる丘陵地にして、南部には岡城川・鳴波川の河口が沈水して生ぜる那那湖が

ナハ 那那 神瀨縣の首都。神瀨島の西南隅に位し、東は島尻郡和志村、南は小紫村に接し、西方一帯は海に面す。面積五方軒強、人口は約六萬五千にして本縣人口の一割以上を占む。市の大部分は隆起珊瑚礁上にあり、東方は第三紀層より成れる丘陵地にして、南部には岡城川・鳴波川の河口が沈水して生ぜる那那湖が

ナハ 那那 神瀨縣の首都。神瀨島の西南隅に位し、東は島尻郡和志村、南は小紫村に接し、西方一帯は海に面す。面積五方軒強、人口は約六萬五千にして本縣人口の一割以上を占む。市の大部分は隆起珊瑚礁上にあり、東方は第三紀層より成れる丘陵地にして、南部には岡城川・鳴波川の河口が沈水して生ぜる那那湖が

ナハ 那那 神瀨縣の首都。神瀨島の西南隅に位し、東は島尻郡和志村、南は小紫村に接し、西方一帯は海に面す。面積五方軒強、人口は約六萬五千にして本縣人口の一割以上を占む。市の大部分は隆起珊瑚礁上にあり、東方は第三紀層より成れる丘陵地にして、南部には岡城川・鳴波川の河口が沈水して生ぜる那那湖が

東南に轉入し、湖内には奥武山島等を記す。北は安里川によつて隔らる。外海に面する部分には珊瑚礁發達し、中部の波ノ上附近には石箱屋あり、その東方には鹽田（約二〇ヘクタール）發達す。那那湖は隆起珊瑚礁、及びその基底の地層を浸蝕して生ぜし谷の沈水によりて成れるものにて、岡城川等より注入する淡水のため湖底の發達器く、狭長なる水道を築せしが、近年これを改修して第一・第二兩橋を建設し、今は三―四千噸級の汽船を繋留し得るに至れり。湖口には三重城とヤラザ城と相對して關門をなし、三重城には燈臺設けらる。湖の西岸丘上に中央氣象臺沖繩支臺ありて電力十キロワットの無線電信を裝備し、一日六回氣象實況並に警報を放送し、颱風等の發生に際しては、その中心示度・進行方向・速度・位置等を刻々放送して、日本近海一帶に航海中の艦船に警報を與ふ。同所の觀測による昭和十年中の計數を掲記するに氣温は平均二二・〇度、最高三一・五度、最低一〇・〇度、湿度八一、日照時四七％、降水量は總量二二六九軒、その最大日量一〇一軒、また風速は平均五・五米、最大二七・三米、快晴日数は一二日、降水日数は二〇八日なり。産業は工業を第一とし、牧畜業・水産業・農業等これに次ぐ。工業は織物・夏帽子・陶器・漆器・泡盛等いづれも著はれ、砂糖工場以外の諸工場は殆どみな當市に集中すと

い得べく、水産に蟹・鯉・食鹽等あり。商業は古來海外貿易の要地たりしがいま縣内物産の集散地たると共に、縣下唯一の開港たる那那港によりて鹿児島・神戸・大阪はもとより臺灣・福州・香港等との間に交易行はる。但し後發地の貧弱なると、運輸費の關係等により貿易額は著しからず、且つ輸入に比し輸出は極めて少なし。最近の輸出入額を表示するに次の如し。而して輸出品は砂糖（黒糖・分蜜糖・白下糖）、水産物・帽子・絹織物・池産等を主とし、重要輸移入品には米・絹織物・金物・蠟燭・肥料・大豆・石油・茶等ありて日用必需品の各種に亘り、從つて殆ど一方的貿易の觀あり。縣營鐵道は下島町の那那驛（大正三年設置）に起り、南部の古波瀨驛（真和志村）を経て一は與那原、一は嘉手納に至り、別に棧橋渡所（大正六年開業）へ支線を出すほか、棧橋より市街を繞りて首里市へ電車を通じ、其他、名護・糸満等へも乗合自動車の便あり、海上は鹿児島・阪神（直航）・臺灣・大島等の間に定期航路

ひらけ、交通便利なり。市街は那那湖の南北兩岸に發達するも、那那プロローは北岸に位す。主なる官公衙に縣廳・地方裁判所・區裁判所・警隊區司令部・稅務署・稅關支署・鹿児島專賣局出張所・警林署・無線電信局・中央氣象臺支臺等、其他縣立病院・縣立師範學校・女子師範學校・水産學校・縣立圖書館・日本勸業銀行支店等あり。市中最も繁華なるは見世の前進町にて、此處を中心と南浦橋比し、西新町及び西本に於ては、砂糖問屋・自動車會社等多く、若狭町に漆器製造の、豊屋町には陶器（琉球焼・池産磁器等）製造の家多く並び、市場は東町に集中す。（三重城）那那湖の北端にあり、入江を隔ててヤラザ城と相對す。この兩城は共に尚清王の時代、倭寇を防禦する爲に築きし砲臺にて、いま小遊園地となる。三重城燈臺（明治三十三年設置）あり、燈質は不動白光（紅光分氣）にして、光速一厘なり。（久米村城）久米町にある舊城址。慶長十四年島津氏の軍營城を攻むるや、城將郡司は防禦して敗れ、遂に降る。（奥武山公園）港内の島にあり、明治三十四年東宮御成婚記念として開設。北面して大グラウンドあり。西端は御物城址にして、もと海外貿易の物産を蔵むる公倉たり。（波上宮）若狭町に鎮座。官幣小社。祭神、伊弉諾尊・事解男命・速玉男命。往時、崎山子なる人この海岸にて漁せしに、一靈石あり、神託

して那那湖に現る事を告ぐ。即ち王に請ひて此地に祀る。のち尚清王の時、嘉靖年中に日秀上人は自ら三社權現の本地なる彌陀・藥師・觀音の三尊を刻す。同十八年尚豐王、神應寺の住持顯慶和尚を日本内地に遣して垂迹の三尊を求めしむ。其時、觀音の一人和尚に隨ひて鹿児島に至り佐藤權大夫に就きて神迹を傳受し、和尚と共に還りて當社を再興す。舊時は薩國寺の鎮守なりしも、琉球八社中の最上位にあり。然るに明治二十三年内地に準じて神佛分離に際し同年一月二十七日官幣小社に列せられ、同時に熊野神社に則り右三尊神を宮内省より奉遷す。舊制を改め宮司・禰宜・主典を置き、その維持費は國庫の供進と基本金の利子を以てす。社費中、銅鐘一箇は國費に指定せらる。顯慶三年在座の朝鮮鐘にして寛永年間近海より浮び出でしと云ふ。例祭、五月十七日。波上は方言ナンマンと稱し、周圍の珊瑚礁と慶良間の馬場山の風光とを併せ眺望雄大なり。古來、觀月涼納の名所として著聞し、また海水浴場たり。（尙家靈廟（崇元寺））崇元寺町にあり。通稱靈德山崇元寺として知らる。此廟は、舜天王以下歷代國王の神靈を祀る所にして國廟の稱あり。其創立は宣徳年間の尙巴志王代と云ひ、或は成化年間尙國王代とも傳ふるも未だ確證なく、門前に「嘉靖六年（我が大永七年）丁亥七月二十五日」の記年ある下馬碑あるにより

Table with 3 columns: Year (昭和六年, 七年, 八年, 九年, 十年), Category (輸出入), and Amount (入, 出). Data includes values like 10,000, 12,000, 18,000, 25,000, 35,000 for input and 15,000, 18,000, 22,000, 28,000, 38,000 for output.

ナハ—ナハ

ナハ—ナハ

ナハ—ナハ

ナハ—ナハ

その以前の創立なることを察知し得るのみ。第一門は三口の拱孔を貫通せる大なる直方體形の石門、また左右掖門は各一口の拱孔を開ける小なる直方體形の石門にして、一室の間隔を保ちて一直線上に並列し、其間を連絡するに厚き石踏を以てするのみにして、概形一見単純素朴なる如きも、仔細に觀察せば各直方形の大さ並に其等の長廣厚の比例よく整ひ、且つ實體と空孔の權衡よろしきに通ひ、洗練熟達せる意匠に成りしものなる事を知り得、之等より考ふれば尙國朝初期(約四五百年前)頃の築造ならんか、特にその石垣は琉球獨特の顯る堅牢なる石積法に依る。本堂は歴代諸王が當寺に於て一代一度の親祭を行ふに當り加修し來りたるものなるが、殊に清の順治十六年(我が萬治二年)尙賢王の修築は大規模にして現在の建築材料は多く此時の補修の如し。其後、康熙二十一年(我が天和二年)に從來の薄板葺なりし廟庭の礎石を瓦に改葺せり。尙ほ現在本堂の軒先の瓦下方に棟葺の軒付残存するが、悉く康熙改葺前の棟の遺材の一部ならん。建築の外飾は總て黒塗とし格子窓等隨處を赤塗とするのみにて、外觀簡素なるも内部は之に反し内陣柱には金龍を畫き埴の礎石に於ける柱を赤塗塗し、其他、壁面・天井・扉等に至るまで豊麗なる彩色の繪畫及び模様が畫き目と成るものあり。更に建築形式は入母屋の立所深く扉部の傾

斜緩かにして低平安定の觀を呈し、内外共に恰も藤原時代の古建築を見るが如き趣致を表はす、國寶たり。廟内に一の古尖あり、土人傳へて西八郎爲朝の遺物なりといふ。(護國寺(波上寺))若狹町にあり。眞言宗東寺派。波上山と號す。明代の初めに日本僧頼重來りて本寺を創す。古くは玉の祈願寺たり。舊寺領五十石。鎮守に熊野權現を祀れる波上宮ありしが、明治二十三年兩者分離して波上宮は官幣小社となれり。境内に神龜唯一の天滿宮あり。また匈牙利の醫師にして當寺に住し貧民の救療に盡し琉球語の聖書翻譯をなし、一八五四年ヘルムの船にて波米せるベツテルハイムの記念碑、明治四年宮古島實船が歸島の際暴風に流され臺灣東岸に漂着、生害に被害されし五十四名を祀る臺灣遺魂者之墓あり。寺の東に天香廟あり。(眞敬寺)西町にあり。眞宗大谷派。明治七年東本願寺僧小栗精香頂は支那開教に赴きしが、その途次に神龜布教の等因縁すべからざるを知り、同九年田原清水を渡せしめて布教に従事せしめしが、當時、琉球一國は薩藩の眞宗嚴禁の法を遵守せしより布教頗る困難を極めしが、明治十一年遂に説教所の設立を見、現寺の基礎を固む。(臨海寺(神寺))住吉町にあり。眞言宗東寺派。梵鐘の銘に天順三年(長祿三年)鑄造の事見ゆれば、古刹たるを知るべし。歴代王家の祈願所。もと神宮の別當寺にして寺

領三十石を有せり。
【那覇港】→那覇市
ナハ 難波 讃岐國(香川縣)の古地名。和名抄に讃川郡難波郷あり、その地は今の大川郡松尾村・富田村・五名村の邊に當る。
ナハ 那波町 兵庫縣播磨國赤穂郡の東南部。奥深く突入せる相生灣頭に位し、南は相生町に、西南は坂越町に接し、東北は播磨郡揖西・神部二村に界す。東北より西南にやや細長く、面積約一五・八方軒。全村二百米内外の丘陵性山地起伏し、中央南部の相生灣頭附近と東部に低地開く。米・麥・蔬菜・食用農産・果實・鵜卵・繭等の農産、瓦・木製品・蠶製品・履物等の工業を出す。國道(山陽道)東部を横ぎり、縣道これより分岐し相生灣北岸を経て坂越・赤穂に向ひてパスの便あり、省線山陽本線また國道を並走し、那波驛(明治二十三年設置)を設く。
ナハキ 南白龜村 千葉縣上總國長生郡の東北海岸。茂原町の東北約七軒、北は山武郡白里村に接す。九十九里濱の一部海濱にて、海岸一帯は砂濱をなすも他の殆どは土地低平、南白龜川は南境を東南流し灌漑の便よく水田發達す。米の農作に麥を多く作り養蠶も行はれ、庭の産物多し。また本村は牛糞半田にして繭・鰯等も多く、海岸には濱宿納屋・牛込納屋・刺金納屋の遺業遺業あり。街道は

中部を通じパスの便あり。此地は近世に一ノ莊南白龜郷と稱せし地なり。
ナハシ 名橋 上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に佐位橋名橋郷あり、奈波之と訓じ、有(瀬原牧)とあり。その地今の山田郡大間々町の邊なるべく、大字桐原は牧名の遺稱なるべし。
ナハリ 隱・名銀 伊賀國(三重縣)の古地名。書紀孝德紀には名銀に作る。天武天皇の元年紀に隱驛と見え、萬葉集にも隱の山あり。隱山は名銀郷(いま名賀郡)の山にして、驛址はこれを今の阿山郡上野町の邊に求むべきか。萬葉・四「吾背子は何處行くらむ奥つ藻の隱の山を今日かこゆらむ 當麻呂之妻」
ナハリ 名張 飛騨國(岐阜縣)の古地名。和名抄に安城郡名張郷あり、その地今の吉城郡國府村に當る。
【名張(郡)】 伊賀國(三重縣)の古地名。
【名張(郡)】 伊賀國(三重縣)の古地名。和名抄に安城郡名張郷あり、その地今の吉城郡國府村に當る。
孝德天皇の大化新政に畿内の地を定め給ふ時、名銀河を以て東を限る、とある地にして天武紀の三年には隱の名出で、續紀天平十二年紀に名張の郡名初めて見ゆ。和名抄は奈波利と註し周知・名張・夏身の三郷を載す。明治二十九年四月伊賀郡と合して名賀郡と稱す。
【名張町】 三重縣伊賀國名賀郡の西南部。名張盆地の中心に位置し、阿山郡上野町の南方約一六軒、西隔は山地を隔てて奈良縣山邊郡と接す。面積僅に三・二九方

軒。長瀬川南境を西流し、東南方の奈良縣宇陀郡より來る宇陀川と合して名張川となり西を貫き北境の東中を東流す。町はこの二川の作る盆地の中心を占め、土地平坦にして田地よく拓げ、米・繭・麥・茶・鵜卵等の農産の外、工業また多し。名張街道中央を西南より東北に貫き北方上野町へ向ひ、大和街道は東北方阿保町を経て東境を越え、津市に向ふ。社線參宮急行電鐵通じて名張驛(昭和五年開業)を置き、またその支線伊賀線本線の伊賀神戶驛より分岐し來りて八丁・西名張の二驛(大正十一年開業)を設け、交通上の一中心地となす。和名抄に名張郡名張郷と云ふは本町の邊を指せるものならん。然し延喜式に隱驛郷とあるは今の上野町邊ならんと云はる。中世は鹽濱莊に作る。慶長の初め備井氏の將松倉重政八千石を領し、鹽濱城を築き之に居りしといふ。藩政の頃は龜堂氏の支府を置きし處。郡制實施に當り郡役所の所在地となる。(宇津宮志願神社)縣社。祭神、宇奈根神・武甕槌命・經津主神外三神、別に相殿三神。天武天皇二年始めて祭禮を加へ圭田を奉じ、同四年八月十七日放生會を行ふと傳ふれば、その創建年代詳かならざるも古社なるを知るべし。延喜の制小社に列す。源賴朝は神田百六十石を寄進す。天正年中織田信雄の兵燹に罹り爲に社運傾けるも、龜堂高吉の入部に依りその崇敬厚く神事を再興す。例祭、十

月二十一日。
【名張川】 奈良・三重・京都の一府二縣に流るる川。淀川の支流なる木津川の上流にて、宇陀川・長瀬川を主なる水源とし共に奈良縣宇陀郡内に發す。宇陀川は三重縣に入り赤目四十八瀬の下流を合せ黒田川の稱あり、長瀬川とは名張町にて合し、これより下流京都府に入りて伊賀川と合するまで名張川といふ。此間、流域約五〇軒、そのうち奈良縣を貫流するところに月瀬の梅林あり。
ナヘ 鍋村 熊本縣肥後國玉名郡の南部。高瀬町の西南約四・五軒、南は有明海に臨む。全村海抜一〇乃至一五米餘の低地にして、西境を小川南流し、東南部にやや大なる入江あり、本村前面の海は淺淺にして埋立をなすに適す。北部には田畑よく開け米・麥・甘藷を産し、また鹽田あり。北部を縣道東西に走りバスを過す。
ナヘカケ 鍋掛村 栃木縣下野國那須郡の中部。黒磯町の東隣にあり。中央を那珂川東南に流れ、それを境として東北半は山地をなし、西南半は那須野ヶ原の一部をなす。農業行はれて米・麥・粟・粟草を産し、また養蠶をなすも、現在は村況不振にて貧農話々たる状態なり。舊陸羽街道は大田原町より來りて東部を北走し、養蠶は主としてこれに沿ひて發達す。徳川時代初期には活況を呈したるも明治十九年鐵道(東北本線の前身)の開通

によりて衰微す。村境は黒磯町に通じ、同町に省線東北本線黒磯驛を置く。古くは和名抄、那須郡黒川郷の内なるべく、近世は奥州路の小驛とす。鍋掛は鍋を掛けるの義にて一家を建てたるの意。鎌倉時代の末頃、武人の土着し家屋を建て謂はゆる鍋を掛けたるより土地の名にも呼ぶに至りしものなりと。水谷家記に據れば慶長五年徳川家康、秀忠と共に上杉登勢を征伐するの際、佐竹右京大夫義宣その隙を窺ひ江戸に攻上らんとせしが、水谷勝俊この地に降して、義宣の兵に備ふと見ゆ。明治九年明治天皇奥州御巡幸の際及び同十四年山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休遊ばさる。
ナヘカムリ 鍋冠山 日本北アルプスの一峰。大瀧山(二二・一五米)の東、長野縣南安曇郡島川村と安曇村との境上に位す。厚川一支の島川と梓川一支の島々谷との分水嶺をなす。前者は北斜面より東流し、後者は南斜面より南流す。夏季、北西方の管全岳より大瀧山を経て霞走する者あり。
ナヘコシ 鍋越山 飯豊山塊の一峰。山形縣南置賜郡中津川村と西置賜郡津川村の境上に位す。標高一二六九米。
ナヘシマ 鍋島村 佐賀縣肥前國佐賀郡の西部。佐賀市の西北に隣り、西は小城郡三日月村に接す。喜瀬川は西境を南流し全村土地低平、筑後平野の西部に位し水田よく發達す。米・麥の外に蔬菜

を産す。省線長崎本線は南部を東西に貫通し、佐賀市に隣接するを以て交通便なり。大字久久に縣久府あり。往昔、府治の地にて肥前國府長岡庄久といひ一大都會を成せりと傳へらる。上古は海に沿ひたる地にて今も海に因る地名多く残る。春日村にありし國府及び惣座の殿殿が漸次南流して久々に移りしものゝ如く、可なり繁華の都邑たりしも天正以降佐賀市街建設に伴ひて漸次商賣も佐賀に移り全く昔日の盛衰を失ふるところあり。舊佐賀藩主鍋島氏の祖、長岡伊勢守經秀(崇元)の居館の址とす。經秀は山城國長岡庄を領し、京都北野に居せしも、後龜山天皇御宇、弘和年間肥前に下向してここに住し、姓を鍋島と改めその子經直(道壽)に至り、應永年間に本庄村に移る。いま經秀の神ありて村民に崇敬せらる。即ち鍋島氏の發祥地とす。(新庄神社)大字森田に鎮座。祭神、應神天皇・神功皇后外三神。安徳天皇養和元年の鎮座なりと口碑に傳へらる。龍造寺隆胤・藩主鍋島家等の崇敬篤かりき。例祭、十一月三日。
ナヘシリ 鍋尻山 滋賀縣彦根町の東方約一〇軒、犬上郡丹谷村と膳ヶ畑村の境上に位する山。標高八三九米。山形鍋を伏せたる如し。三面はエチガ谷・權現谷に取圍まれ、南方のみ廣漠たる高家山の斜面に横き、北方に靈山(一〇八四

ナヘタ——ナマイ

赤く焼つ。山は樹林に包まれ、山頂部は美しき草原をなす。山頂より遠眺し、御池・伊吹の諸山の眺望美し。

ナヘタ 鍋田村

愛知縣尾張國海部郡の南部。鍋田町の南に隣り、東は浅川を距てて飛鳥村に、西は鍋田川を距てて三重縣桑名郡木曾町村に相對し、南は伊勢灣に臨む。木曾川下流のアルマナ上あり、東北境を分流浅川が東南流し、西境を鍋田川が南流し、此の二川に圍まれし輪中聚落にて土地卑濕、灌漑排水の便を計り、米・藁を産し織物の産も多し。交通は輪中聚落なるため便ならず。本村は明治三十九年、兩國・大藤の二領村を廢し、その區域と鍋田村の一部とを以て置けるものなり。「赤九田神社」大字稻元新田に鎮座。地社、祭神、繼體天皇。當地の産土神として古く、もと藏主権現社と云へり。例祭、十月一日。

ナヘヤウエノ 鍋屋上野

愛知縣愛知郡にありし村。明治三十九年に外一村と共に廢され東山村を置き、東山村は大正十年に名古屋市に編入さる。

ナヘヤマ 鍋山村

石郡の東北部。東は一宮村・三刀屋町に、南は中野・多根・東須佐の三村に界し、西および北は飯沼郡に隣り。面積二三・八七方軒。高取三百米程度の山岳重疊して山林に富み、東部を刀屋川北流して流域に低地帯に拓けて耕作行はる。農業を主要として米・藁等の産あり、亭藤寺に佛村の墓を存す。

ナマイタ 生板村

天城縣常陸國稻敷郡の南部。利根川の北岸にて西は北相馬郡の一部と隣り、南は利根川を隔て、千葉縣印旛郡安食町と相對す。全村低地にて東北部は沼田をなし他は水田多し。米を主産し他に大豆・小麦を産す。縣道は西北方の龍ヶ崎町に通じ、また新利根川は村の中央を横斷し利根川と共に舟運の便多し。

ナマエ 名前炭礦

福島縣遠賀郡中間町にある石炭山にて重要炭山に屬す。鐵區十萬餘坪。昭和十年には塊炭四、五二八萬、粉炭一六、〇六五萬、切込炭九、七二四萬、粗炭三二七萬、この總價額十九萬餘圓を出す。同年六月末の使用額夫は二九〇人とす。

ナマカパン

臺灣臺中州新高郡にある舊社。新高・竹山兩郡境界に坐する五又嶺山の山麓なる陳有蘭溪左岸に位し、約二〇〇年前戸數二〇、人口三〇〇人に依り形成されたる部落なり。ツオヤ族のロフト等とアモン族の群集とに屬する高砂族にて、現戸數約九〇、人口約一三〇〇(昭和十一年調査)。

ナマシナ 男信

上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に利根郡男信郷あり、奈萬之奈と訓す。いま利根郡川場村の邊なるべく、大字生品は郷の遺稱なるべし。

ナマス 生津村

岐阜縣美濃國本郡郡の南部。岐阜・大垣兩市の略中間

ナマイ——ナミ

ナヘタ

を特産とす。山地は牧牛を營み、また林産物を出す。北方の今市町・松江市より來る縣道は刀屋川に沿うて南走し、遠く廣島縣三次町に通ず。東方の省線木次線木次驛(大原郡斐伊村)へ約一〇軒、北方今市町へは約一八軒、何れもバスの便あり。村名は鍋山あるより起り、鍋山は出雲風土記に奈宿山と見ゆ。

ナホナホ

臺灣臺東廳大武壠にある舊社。ナガナガ山の東面中腹、カナルン溪上流右岸に位し、パイアン族の大麻里蕃に屬する高砂族の部落。戸數一〇、人口五二(昭和十一年調査)。

ナホヤマ 那富山

肥後國天草郡の山。皇太子二歳にして薨去し給ひ五年九月、皇太子二歳にして薨去し給ひこの山に奉葬。御墓は圓墳にして、いま奈良市法蓮町大字黒ヶ芝にあり。

ナホリ 名欲山

萬葉集に見ゆる山名。その地帯かならず。或はいふ、名欲山は豊後國直入郡にある山を稱せるにはあらず。萬葉・九「明日よりは吾は戀ひむな名欲山石ふみ平し君か越え去なは」

ナマ 名間庄

臺灣臺中州南投郡の西南隅、濁水溪中流北岸に位置し、東は中寮庄及び新高郡集々庄、北は員林郡下社・埤中二水の三庄、北は南投街に各々境を接し、南は濁水溪を隔て、竹山郡竹山庄と相對す。東部は中央山系の延長なる第三紀層の丘陵性山地によりて占められ、西部は海岸丘陵たる大山山脈の南

ナマゼ

延洪積臺地(八卦山脈)の東南端に當り、平野は東西兩山間に介在して南北に細長く縱走し、南邊濁水溪沿岸に及びて僅かに展開す。中央部の平野は地球肥沃にして水田開け、丘陵部は微傾斜をなすため大方耕作せられて甘蔗・果樹其他各種農作物の栽培に利用せらる。農産物は甘蔗の産額最も多く、水稻・甘蔗・陸稻これに次ぎ、鳳梨・柑橘・芭蕉・茶・蔬菜・落花生等の産出も尠からず。畜産には豚・水牛・黄牛・山羊等の家畜及び鶏・鴨・鵝等の家禽類多く、勞役用の水牛・黄牛を除く外は一般家庭に於て副業的に蓄く飼育せらる。山地には造林行はるゝも面積大ならず、少額の薪炭・竹材・枋を産出す。工業は大規模のものなく、粗製茶・落花生油及び煉瓦の製造工場を有し、また家内副業に竹細工の製造行はる。農實線二水線より分岐せる集々線は濁水溪沿岸に沿ひて、西隣二水庄より東へ、東走して東隣集々庄に入る。濁水線を設置す。明治製糖の社線たる南投線は北隣南投街より南下して中央部を一直線に貫き、濁水溪岸に至りて西轉し、集々線と平行して二水線に達す。以上二鐵道線に沿ひて指定道路あり、各々乗合自動車便を有す。他に部落道路縱横に開けられた濁水溪對岸の竹山庄との間には昭和製糖總督の輕便軌道(手押臺車)を通ず。管内の内、東北邊の番子寮・下新厝・田子・新街・大庄の五大字は、もと南投堡

ナマイ

生井村 栃木縣下野國下都賀郡の南部。間々田町の西南隅に於て、天城縣磯島郡古河町の北方にあり、思川と巴波川との合流點を占め、土地低平にて南部は廣く沼地の一部をなす。農業を主にて米等を産し、特産物として藪を多産す。間々田町及び古河町に鐵道を通じバスの便あり。間々田町の省線東北本線間々田驛に近し。古くは和名抄、奈川郡池邊郡の内か。大字に間々田あり、小山系國に奈川時光の令兄を稱す十郎朝村といふと見ゆ。朝は朝の誤にて蓋し此地に屬して名を負へるもの。東隣には間々田を奈川尾(即ち朝村の祖母)に給はる由見え、今も大字間々田の遊行道場觀念

ナマゼ

生瀬 兵庫縣有馬郡津村の大字。福知山線の生瀬驛(明治三十一年設置)を置く。

ナマムギ 生麥

↓横濱市 沼口村(岩手縣) 名郡の東部。大阪府に臨み、北の佐野町と南の志筑町とに挟まる。北部に摩耶山(三六〇米)聳えて周圍に山地を繞らし、東南部海岸に平野開け小河南流して海に入る。海岸は殆ど直線狀の長汀にして港をなされども船舟に便して停船所たり。米・麥・藁・果物等の農産、及び鶏卵・畜産・林産・水産・水産製造物等の産多く、また工業盛にして織物の産額多し、メリヤス製品・蠶製品・瓦・双物等の産も多し。海岸沿ひに四國街道走りて聚落これに沿ひて市街地をなしバスの便あり。また沿岸汽船の便もあり。昭和三年三月町制施行す。古くは和名抄、津名郡志筑郷の内を屬す。中世は生瀬郷と云ひ、保安三年の記文に、加茂別當社領四十二所の一なり。貞應中、田四十町、高若千、浦一併とあり。(買茂神社)大字生瀬に鎮座。地社、祭神、別當大神。相殿に春日大神・貴船大神・白鹿大神を祭る。延喜の制小社に列す。例祭、三月十九日。

ナマゼ

市十三年誕生太吉によりて開墾せらるるといふ。いま三菱製鐵株式會社の經營に屬し、昭和十年には塊炭五五、三二八、粉炭四二八、六二六、切込炭二二九、八四六、粗炭一七、七三三、この總價額五六七萬餘圓を出し、同年六月末の使用額夫は二、〇八三人とす。

ナマセ 生瀬村

天城縣常陸國久慈郡の北部。大字町の東方にて、間に袋田村を挟み、東北は福島縣東白川郡の一部と隣り。面積五五・七一方軒の大村。阿武隈山脈中の一部を占め、南境に白木山(六一五米)・高峰山(五九六米)・鍋足山(五二四米)あり。村内も又これ等に續く山地にて森林多く、中部の裾合を久慈川の支流瀧川西流し、その附近のみ狭き平地をなす。山地よりは木炭等の林産あり。平地には農業行はれて米・麥・煙草を産す。川沿ひに走る鐵道は西走し、袋田村を経て大字町に通じ、袋田村に省線水郡線袋田驛を置く。この鐵道は一方南走して太田町方面に通ずるものなり。江戸氏の区野口氏は代々この地に居せしが、其子孫は天正の末に佐竹義重に滅さる。村名はこの地本縣最高の土地にして他村より流入する水なく、本村は全く水源地なるより生源の名起りしものといふ。

ナマズエ 鮫江

大阪府東成郡にありし町。もと鮫江村と云ひしが明治四十三年町制を施し、大正十四年大阪市東成區に編入す。

ナマズタ 鮫田

福島縣飯塚市及び喜徳郡瀧田・庄内・稻葉の三村に跨り、本邦重要鐵山の一。鐵區二九萬餘坪にして地質は主に砂岩・頁岩の五層より成り第三紀夾雑層に屬す。炭質は低純質にして粘結性は中等度、發熱量六、八〇〇カロリー以上を有し火付頗る迅速なり。本鐵名は飯塚市の大字鮫田に因るものにて、明

ナミ

奈美 山城國(京都府)の古地名。和名抄に久世郡奈美郷あり、その地今詳かならざるも、久世郡御教村の邊なる

ナミアア——ナミオ

るべし。

に至るまで概観し、信州の南端を穿破せし體所なり。明治維新の際、關所の建造物は破却されしが、堀二間の道路、その左右に石垣の一部分、番所址及び南門の礎石等遺存す。

ナミアイ 浪合村 長野縣信濃郡下伊那郡の西部。飯田市の西南方に當り、天龍川の支流和合川上流を占む。村境は惠那山脈中の諸峰連り何れも千米餘の山岳に圍繞され、中央を和合川北の水を流れて東南流し人字形の谷を作る。谷沿に多少の耕地あり、他は山林繁茂す。林業を主産業とし、米・麥・蕎麥等の農産物も多少あり。東北より西南に三州街道走り、飯田市へバスの便あり。明治二十二年市町制施行の際、波合・平谷の二部落を合併して波合村とせしが、昭和九年波合村を廢し平谷を平谷村とし、波合を浪合村として今日に及ぶ。古くは波合にも作り足助街道の宿驛たり。この地は後醍醐天皇の皇孫尹良親王、應永三十一年八月上野國藤合城より三河國に赴き給ふ途次、賊の爲に擄はれ戦死し給へる所と傳へ、いま親王の御墓あり。波合神社の参道を登り詰めし丘上にあり、圓墳状をなし木柵が圍らされ、宮内省の管理に屬す。波合宿は天正元年四月武田信玄、三河遠征の陣中に病を得て歸途この宿にて歿すとの傳説により名高し。なほ波合關ありて行人を檢閲せりと云ふ。(波合關址) 本村郵便局前より西南に進み、深澤部落を過ぎ、深澤と稱する溪流を流ると直に關所址に達す。この關は室町時代の末、弘治年間武田氏によりて新設され、其後、織田・豊臣二氏を経て徳川氏の終

に至るまで概観し、信州の南端を穿破せし體所なり。明治維新の際、關所の建造物は破却されしが、堀二間の道路、その左右に石垣の一部分、番所址及び南門の礎石等遺存す。

ナミウチ 浪打 東北本線の一驛(大正十三年設置)。青森市近郊にあり。

浪打 東北本線の一驛(大正十三年設置)。青森市近郊にあり。

浪打村 岩手縣陸奥國二戸郡の東部。一戸町の東に接し、東は九戸郡伊保内村に接す。東境に北上山地に屬する小倉岳(六五二米)・傾城峠(七三六米)あり、狀は西に延び西北境に浪打峠(三〇二米)あり。全村概ね山地にして馬淵川は南部の子守川、北部の平船川を入れて西境を北流す。木炭・大豆を産し、また黒御影石の産もあり。国道陸羽街道は西北を南北に通じ、南方東北本線一戸驛へは約一軒あり。浪打峠は一戸町より北方の關町に至る街道上にあり、馬淵川の右岸に位し古くより末の松山に據せらる。併し之は坂路羊腸たるころ左右の岩石波濤狀の層をなす砂岩中に海産介類の化石を包含せるにより「末の松山波濤さじ」とはの古歌に附會せしものなり。末之松山。大字根反は蒲生氏地記に「穴太井の近邊、根反利といふ城云云」とあるは此處なり。根反の大粒化木は天然記念物に指定さる。明治九年明治天皇皇孫御巡幸の際、同十四年山形・秋田及び北海道行幸の際、この地に御小休あらせら

る。(鳥越観音)鳥越山にあり、山中松杉の古樹多く、其間に楓樹を交へ、その紅葉の殊に鮮麗なるを以て名高し。觀音堂は絶壁の中程なる集塊岩窟内にあり、觀音の小像を安置す。慈照大師を開祖とし大同二年勧請せられたるものと云ふ。江戸時代以前作られたるべし。

ナミエ 浪江町 福島縣磐城國雙葉郡の東北部。新山町の北方約五軒。阿武隈山地の太平洋斜面にあり。室原川は北境を、高瀬川は南部を各東流し、幾世橋村に入り、合して譜戸川となり太平洋に注ぐ。町は二川の沖積平野に屬して平坦なり。米・蕎麥等を産し、また陶器を出す。陸羽街道は東部を南北に通じ、北方の小高町、南方の新山町へはバスの便あり。また西方室原、東方譜戸へはバス通す。省營常磐線浪江驛(明治三十一年設置)は町のほぼ中央部にあり。明治三十三年町制を布く。此地は和名抄、標葉郡磐城郡の内、戊辰の役に官軍この地に屯集せし城軍を征討せり。

浪江町 福島縣磐城國雙葉郡の東北部。新山町の北方約五軒。阿武隈山地の太平洋斜面にあり。室原川は北境を、高瀬川は南部を各東流し、幾世橋村に入り、合して譜戸川となり太平洋に注ぐ。町は二川の沖積平野に屬して平坦なり。米・蕎麥等を産し、また陶器を出す。陸羽街道は東部を南北に通じ、北方の小高町、南方の新山町へはバスの便あり。また西方室原、東方譜戸へはバス通す。省營常磐線浪江驛(明治三十一年設置)は町のほぼ中央部にあり。明治三十三年町制を布く。此地は和名抄、標葉郡磐城郡の内、戊辰の役に官軍この地に屯集せし城軍を征討せり。

ナミオカ 波岡村 千葉県上總國君津郡の西部。東京灣に臨みて、木更津町の南に隣る。全村丘陵地にて森林多し、中部の丘陵間および西部の海岸沿ひに狭き平地ありて米・蕎麥を産し、養蠶も兼營も行はる。海岸は單調なる砂濱にて遊覧なり。縣道は木更津町より來りて南方に通じ、バスの便あり。省營房総線西線は西部を南走するも村内に隣なく、木更津町に木更津驛、西南隣の周西村に周西驛を設く。

波岡村 千葉県上總國君津郡の西部。東京灣に臨みて、木更津町の南に隣る。全村丘陵地にて森林多し、中部の丘陵間および西部の海岸沿ひに狭き平地ありて米・蕎麥を産し、養蠶も兼營も行はる。海岸は單調なる砂濱にて遊覧なり。縣道は木更津町より來りて南方に通じ、バスの便あり。省營房総線西線は西部を南走するも村内に隣なく、木更津町に木更津驛、西南隣の周西村に周西驛を設く。

ナメイシ 滑石村 熊本縣肥後國五木郡の南部。菊池川河口西岸に位し、西南には有明海に面す。菊池川沖積地を占むる爲め地形低平にして、耕地よく拓げく。米産多し。省營鹿島本線高瀬驛は東北方向約一・五軒にしてバスの通す。

滑石村 熊本縣肥後國五木郡の南部。菊池川河口西岸に位し、西南には有明海に面す。菊池川沖積地を占むる爲め地形低平にして、耕地よく拓げく。米産多し。省營鹿島本線高瀬驛は東北方向約一・五軒にしてバスの通す。

ナメカカ 行方 熊本縣肥後國(陸奥國)の古地名。和名抄に登米郡行方あり、その地今の登米郡東江村・吉田村の邊なるべし。

行方 熊本縣肥後國(陸奥國)の古地名。和名抄に登米郡行方あり、その地今の登米郡東江村・吉田村の邊なるべし。

ナメカタ 行方 熊本縣肥後國(陸奥國)の古地名。和名抄に登米郡行方あり、その地今の登米郡東江村・吉田村の邊なるべし。

行方 熊本縣肥後國(陸奥國)の古地名。和名抄に登米郡行方あり、その地今の登米郡東江村・吉田村の邊なるべし。

ナミカワ 並河 京都府南桑田郡大井村の大字。山陰本線の並河驛(昭和十年設置)を設く。

並河 京都府南桑田郡大井村の大字。山陰本線の並河驛(昭和十年設置)を設く。

ナミキ 並木 埼玉縣北足立郡にありし村。明治二十四年三橋村と改稱す。

並木 埼玉縣北足立郡にありし村。明治二十四年三橋村と改稱す。

ナミクラヤマ 連庫山 近江國にありし村。連庫は放産の義にして、踏籠の背の如き形状の山の意。即ち比叡山を指せしものならん。近江の南部より見れば其の頂き踏籠の背の如く見ゆるを以てなり。萬葉・七・七・波の連庫山に雲あれば雨を降るちふかへり來音が夫。

連庫山 近江國にありし村。連庫は放産の義にして、踏籠の背の如き形状の山の意。即ち比叡山を指せしものならん。近江の南部より見れば其の頂き踏籠の背の如く見ゆるを以てなり。萬葉・七・七・波の連庫山に雲あれば雨を降るちふかへり來音が夫。

ナミシバ 浪柴乃野 萬葉集に見ゆる古地名。其地詳ならず。大和志には吉野村(磯城郡初瀬町の内)の上方猪飼山の野を浪芝野といふとあり。凡そ此地なるべし。萬葉・一〇「吾が門の浅茅色つく吉野の浪柴の野のみち散るらし」

浪柴乃野 萬葉集に見ゆる古地名。其地詳ならず。大和志には吉野村(磯城郡初瀬町の内)の上方猪飼山の野を浪芝野といふとあり。凡そ此地なるべし。萬葉・一〇「吾が門の浅茅色つく吉野の浪柴の野のみち散るらし」

ナミタテ 並建村 熊本縣肥後國鹿野郡の西南部。熊本西南より約四軒西南方にあり、面積〇・七一方軒の小村。西は島口村を隔てて有明海に近し。地形概ね低平にして耕地發達し米・蕎麥・蔬菜類を産し、西瓜の特産物あり。人口密度は一方軒八五人を算す。近時は交通著しく發達し熊本市へは自動車を通ず。浪田村・白石村・島口村と共に組合村をなし、本村に役場を設く。

並建村 熊本縣肥後國鹿野郡の西南部。熊本西南より約四軒西南方にあり、面積〇・七一方軒の小村。西は島口村を隔てて有明海に近し。地形概ね低平にして耕地發達し米・蕎麥・蔬菜類を産し、西瓜の特産物あり。人口密度は一方軒八五人を算す。近時は交通著しく發達し熊本市へは自動車を通ず。浪田村・白石村・島口村と共に組合村をなし、本村に役場を設く。

ナミノ 波野 茨城縣常陸國鹿島郡の中部。鹿島町の東北隅にて鹿島灘に臨む。大部

波野 茨城縣常陸國鹿島郡の中部。鹿島町の東北隅にて鹿島灘に臨む。大部

ナミハナ 浪花村 千葉県上總國夷隅郡の東海岸。大原町の南隣にあり。全村丘陵地にて森林あり、北部のみ稍低地ありて耕地をなし、米・蕎麥を産し養蠶も行はる。大字岩船は外洋に面し有名なる

浪花村 千葉県上總國夷隅郡の東海岸。大原町の南隣にあり。全村丘陵地にて森林あり、北部のみ稍低地ありて耕地をなし、米・蕎麥を産し養蠶も行はる。大字岩船は外洋に面し有名なる

ナミチツク 島 南洋群島のうち四カロン群島の東部、ヒゲロット島の西南約一五〇軒に位する小島。行政上ヤップ支那に屬し、西方のイフロッグ諸島、西北のフチャラップ島、東方のサマル島等との間に年數回南洋廳命令の汽船寄港す。

島 南洋群島のうち四カロン群島の東部、ヒゲロット島の西南約一五〇軒に位する小島。行政上ヤップ支那に屬し、西方のイフロッグ諸島、西北のフチャラップ島、東方のサマル島等との間に年數回南洋廳命令の汽船寄港す。

ナミカカ ナメカ

ナミカカ ナメカ

關天

津町に木更津驛、西南隣の周西村に周西驛を設く。

浪岡村 青森縣陸奥國南津輕郡の北部。黒石町の北約八軒。東及び北は東津輕郡に接して、弧狀をなしして東西に擴り、その長さ約一六軒市約二軒あり、山地は村の東部にありて全面積の五分の四を占め、西部は津輕平野に屬して平坦なり。浪岡川は東部に發源し中央部を西流す。山地及び平地の境附近には果園多く、林業を産しまた米の産あり。羽州街道は村の西部の北方より來り西南方に向ふ、南方の黒石町へはバスの便あり。奥羽本線浪岡驛(明治二十七年設置)を設く。この地に浪岡城址あり、正平以降、天正に至るまで二百餘年間、北島國司の子孫これに居りて御所と稱せり。また津輕の故跡なりと。浪岡氏は北島親房の裔、或は親房の子嗣家より出づとなし、或は其弟順信の後といふ。天正六年七月關村、津輕爲信の爲に滅さる。また南部安信の子高信、其子政信、浪岡にありて浪岡氏を稱せり。明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。(八幡宮) 大字浪岡に鎮座。郷社。祭神菅原別當。延暦十二年、坂上田村麿將軍の創建に係ると傳ふ。慶長十九年藩主越中守信牧朝臣再建し、爾來、津輕家に於て代々修築を掌られしが、明治維新に至りて此事止む。例祭、八月十五日。

浪岡村 青森縣陸奥國南津輕郡の北部。黒石町の北約八軒。東及び北は東津輕郡に接して、弧狀をなしして東西に擴り、その長さ約一六軒市約二軒あり、山地は村の東部にありて全面積の五分の四を占め、西部は津輕平野に屬して平坦なり。浪岡川は東部に發源し中央部を西流す。山地及び平地の境附近には果園多く、林業を産しまた米の産あり。羽州街道は村の西部の北方より來り西南方に向ふ、南方の黒石町へはバスの便あり。奥羽本線浪岡驛(明治二十七年設置)を設く。この地に浪岡城址あり、正平以降、天正に至るまで二百餘年間、北島國司の子孫これに居りて御所と稱せり。また津輕の故跡なりと。浪岡氏は北島親房の裔、或は親房の子嗣家より出づとなし、或は其弟順信の後といふ。天正六年七月關村、津輕爲信の爲に滅さる。また南部安信の子高信、其子政信、浪岡にありて浪岡氏を稱せり。明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。(八幡宮) 大字浪岡に鎮座。郷社。祭神菅原別當。延暦十二年、坂上田村麿將軍の創建に係ると傳ふ。慶長十九年藩主越中守信牧朝臣再建し、爾來、津輕家に於て代々修築を掌られしが、明治維新に至りて此事止む。例祭、八月十五日。

浪岡村 青森縣陸奥國南津輕郡の北部。黒石町の北約八軒。東及び北は東津輕郡に接して、弧狀をなしして東西に擴り、その長さ約一六軒市約二軒あり、山地は村の東部にありて全面積の五分の四を占め、西部は津輕平野に屬して平坦なり。浪岡川は東部に發源し中央部を西流す。山地及び平地の境附近には果園多く、林業を産しまた米の産あり。羽州街道は村の西部の北方より來り西南方に向ふ、南方の黒石町へはバスの便あり。奥羽本線浪岡驛(明治二十七年設置)を設く。この地に浪岡城址あり、正平以降、天正に至るまで二百餘年間、北島國司の子孫これに居りて御所と稱せり。また津輕の故跡なりと。浪岡氏は北島親房の裔、或は親房の子嗣家より出づとなし、或は其弟順信の後といふ。天正六年七月關村、津輕爲信の爲に滅さる。また南部安信の子高信、其子政信、浪岡にありて浪岡氏を稱せり。明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。(八幡宮) 大字浪岡に鎮座。郷社。祭神菅原別當。延暦十二年、坂上田村麿將軍の創建に係ると傳ふ。慶長十九年藩主越中守信牧朝臣再建し、爾來、津輕家に於て代々修築を掌られしが、明治維新に至りて此事止む。例祭、八月十五日。

浪岡村 青森縣陸奥國南津輕郡の北部。黒石町の北約八軒。東及び北は東津輕郡に接して、弧狀をなしして東西に擴り、その長さ約一六軒市約二軒あり、山地は村の東部にありて全面積の五分の四を占め、西部は津輕平野に屬して平坦なり。浪岡川は東部に發源し中央部を西流す。山地及び平地の境附近には果園多く、林業を産しまた米の産あり。羽州街道は村の西部の北方より來り西南方に向ふ、南方の黒石町へはバスの便あり。奥羽本線浪岡驛(明治二十七年設置)を設く。この地に浪岡城址あり、正平以降、天正に至るまで二百餘年間、北島國司の子孫これに居りて御所と稱せり。また津輕の故跡なりと。浪岡氏は北島親房の裔、或は親房の子嗣家より出づとなし、或は其弟順信の後といふ。天正六年七月關村、津輕爲信の爲に滅さる。また南部安信の子高信、其子政信、浪岡にありて浪岡氏を稱せり。明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。(八幡宮) 大字浪岡に鎮座。郷社。祭神菅原別當。延暦十二年、坂上田村麿將軍の創建に係ると傳ふ。慶長十九年藩主越中守信牧朝臣再建し、爾來、津輕家に於て代々修築を掌られしが、明治維新に至りて此事止む。例祭、八月十五日。

浪岡村 青森縣陸奥國南津輕郡の北部。黒石町の北約八軒。東及び北は東津輕郡に接して、弧狀をなしして東西に擴り、その長さ約一六軒市約二軒あり、山地は村の東部にありて全面積の五分の四を占め、西部は津輕平野に屬して平坦なり。浪岡川は東部に發源し中央部を西流す。山地及び平地の境附近には果園多く、林業を産しまた米の産あり。羽州街道は村の西部の北方より來り西南方に向ふ、南方の黒石町へはバスの便あり。奥羽本線浪岡驛(明治二十七年設置)を設く。この地に浪岡城址あり、正平以降、天正に至るまで二百餘年間、北島國司の子孫これに居りて御所と稱せり。また津輕の故跡なりと。浪岡氏は北島親房の裔、或は親房の子嗣家より出づとなし、或は其弟順信の後といふ。天正六年七月關村、津輕爲信の爲に滅さる。また南部安信の子高信、其子政信、浪岡にありて浪岡氏を稱せり。明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。(八幡宮) 大字浪岡に鎮座。郷社。祭神菅原別當。延暦十二年、坂上田村麿將軍の創建に係ると傳ふ。慶長十九年藩主越中守信牧朝臣再建し、爾來、津輕家に於て代々修築を掌られしが、明治維新に至りて此事止む。例祭、八月十五日。

浪岡村 青森縣陸奥國南津輕郡の北部。黒石町の北約八軒。東及び北は東津輕郡に接して、弧狀をなしして東西に擴り、その長さ約一六軒市約二軒あり、山地は村の東部にありて全面積の五分の四を占め、西部は津輕平野に屬して平坦なり。浪岡川は東部に發源し中央部を西流す。山地及び平地の境附近には果園多く、林業を産しまた米の産あり。羽州街道は村の西部の北方より來り西南方に向ふ、南方の黒石町へはバスの便あり。奥羽本線浪岡驛(明治二十七年設置)を設く。この地に浪岡城址あり、正平以降、天正に至るまで二百餘年間、北島國司の子孫これに居りて御所と稱せり。また津輕の故跡なりと。浪岡氏は北島親房の裔、或は親房の子嗣家より出づとなし、或は其弟順信の後といふ。天正六年七月關村、津輕爲信の爲に滅さる。また南部安信の子高信、其子政信、浪岡にありて浪岡氏を稱せり。明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。(八幡宮) 大字浪岡に鎮座。郷社。祭神菅原別當。延暦十二年、坂上田村麿將軍の創建に係ると傳ふ。慶長十九年藩主越中守信牧朝臣再建し、爾來、津輕家に於て代々修築を掌られしが、明治維新に至りて此事止む。例祭、八月十五日。

浪岡村 青森縣陸奥國南津輕郡の北部。黒石町の北約八軒。東及び北は東津輕郡に接して、弧狀をなしして東西に擴り、その長さ約一六軒市約二軒あり、山地は村の東部にありて全面積の五分の四を占め、西部は津輕平野に屬して平坦なり。浪岡川は東部に發源し中央部を西流す。山地及び平地の境附近には果園多く、林業を産しまた米の産あり。羽州街道は村の西部の北方より來り西南方に向ふ、南方の黒石町へはバスの便あり。奥羽本線浪岡驛(明治二十七年設置)を設く。この地に浪岡城址あり、正平以降、天正に至るまで二百餘年間、北島國司の子孫これに居りて御所と稱せり。また津輕の故跡なりと。浪岡氏は北島親房の裔、或は親房の子嗣家より出づとなし、或は其弟順信の後といふ。天正六年七月關村、津輕爲信の爲に滅さる。また南部安信の子高信、其子政信、浪岡にありて浪岡氏を稱せり。明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。(八幡宮) 大字浪岡に鎮座。郷社。祭神菅原別當。延暦十二年、坂上田村麿將軍の創建に係ると傳ふ。慶長十九年藩主越中守信牧朝臣再建し、爾來、津輕家に於て代々修築を掌られしが、明治維新に至りて此事止む。例祭、八月十五日。

浪岡村 青森縣陸奥國南津輕郡の北部。黒石町の北約八軒。東及び北は東津輕郡に接して、弧狀をなしして東西に擴り、その長さ約一六軒市約二軒あり、山地は村の東部にありて全面積の五分の四を占め、西部は津輕平野に屬して平坦なり。浪岡川は東部に發源し中央部を西流す。山地及び平地の境附近には果園多く、林業を産しまた米の産あり。羽州街道は村の西部の北方より來り西南方に向ふ、南方の黒石町へはバスの便あり。奥羽本線浪岡驛(明治二十七年設置)を設く。この地に浪岡城址あり、正平以降、天正に至るまで二百餘年間、北島國司の子孫これに居りて御所と稱せり。また津輕の故跡なりと。浪岡氏は北島親房の裔、或は親房の子嗣家より出づとなし、或は其弟順信の後といふ。天正六年七月關村、津輕爲信の爲に滅さる。また南部安信の子高信、其子政信、浪岡にありて浪岡氏を稱せり。明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。(八幡宮) 大字浪岡に鎮座。郷社。祭神菅原別當。延暦十二年、坂上田村麿將軍の創建に係ると傳ふ。慶長十九年藩主越中守信牧朝臣再建し、爾來、津輕家に於て代々修築を掌られしが、明治維新に至りて此事止む。例祭、八月十五日。

浪岡村 青森縣陸奥國南津輕郡の北部。黒石町の北約八軒。東及び北は東津輕郡に接して、弧狀をなしして東西に擴り、その長さ約一六軒市約二軒あり、山地は村の東部にありて全面積の五分の四を占め、西部は津輕平野に屬して平坦なり。浪岡川は東部に發源し中央部を西流す。山地及び平地の境附近には果園多く、林業を産しまた米の産あり。羽州街道は村の西部の北方より來り西南方に向ふ、南方の黒石町へはバスの便あり。奥羽本線浪岡驛(明治二十七年設置)を設く。この地に浪岡城址あり、正平以降、天正に至るまで二百餘年間、北島國司の子孫これに居りて御所と稱せり。また津輕の故跡なりと。浪岡氏は北島親房の裔、或は親房の子嗣家より出づとなし、或は其弟順信の後といふ。天正六年七月關村、津輕爲信の爲に滅さる。また南部安信の子高信、其子政信、浪岡にありて浪岡氏を稱せり。明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。(八幡宮) 大字浪岡に鎮座。郷社。祭神菅原別當。延暦十二年、坂上田村麿將軍の創建に係ると傳ふ。慶長十九年藩主越中守信牧朝臣再建し、爾來、津輕家に於て代々修築を掌られしが、明治維新に至りて此事止む。例祭、八月十五日。

浪岡村 青森縣陸奥國南津輕郡の北部。黒石町の北約八軒。東及び北は東津輕郡に接して、弧狀をなしして東西に擴り、その長さ約一六軒市約二軒あり、山地は村の東部にありて全面積の五分の四を占め、西部は津輕平野に屬して平坦なり。浪岡川は東部に發源し中央部を西流す。山地及び平地の境附近には果園多く、林業を産しまた米の産あり。羽州街道は村の西部の北方より來り西南方に向ふ、南方の黒石町へはバスの便あり。奥羽本線浪岡驛(明治二十七年設置)を設く。この地に浪岡城址あり、正平以降、天正に至るまで二百餘年間、北島國司の子孫これに居りて御所と稱せり。また津輕の故跡なりと。浪岡氏は北島親房の裔、或は親房の子嗣家より出づとなし、或は其弟順信の後といふ。天正六年七月關村、津輕爲信の爲に滅さる。また南部安信の子高信、其子政信、浪岡にありて浪岡氏を稱せり。明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。(八幡宮) 大字浪岡に鎮座。郷社。祭神菅原別當。延暦十二年、坂上田村麿將軍の創建に係ると傳ふ。慶長十九年藩主越中守信牧朝臣再建し、爾來、津輕家に於て代々修築を掌られしが、明治維新に至りて此事止む。例祭、八月十五日。

浪岡村 青森縣陸奥國南津輕郡の北部。黒石町の北約八軒。東及び北は東津輕郡に接して、弧狀をなしして東西に擴り、その長さ約一六軒市約二軒あり、山地は村の東部にありて全面積の五分の四を占め、西部は津輕平野に屬して平坦なり。浪岡川は東部に發源し中央部を西流す。山地及び平地の境附近には果園多く、林業を産しまた米の産あり。羽州街道は村の西部の北方より來り西南方に向ふ、南方の黒石町へはバスの便あり。奥羽本線浪岡驛(明治二十七年設置)を設く。この地に浪岡城址あり、正平以降、天正に至るまで二百餘年間、北島國司の子孫これに居りて御所と稱せり。また津輕の故跡なりと。浪岡氏は北島親房の裔、或は親房の子嗣家より出づとなし、或は其弟順信の後といふ。天正六年七月關村、津輕爲信の爲に滅さる。また南部安信の子高信、其子政信、浪岡にありて浪岡氏を稱せり。明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。(八幡宮) 大字浪岡に鎮座。郷社。祭神菅原別當。延暦十二年、坂上田村麿將軍の創建に係ると傳ふ。慶長十九年藩主越中守信牧朝臣再建し、爾來、津輕家に於て代々修築を掌られしが、明治維新に至りて此事止む。例祭、八月十五日。

浪岡村 青森縣陸奥國南津輕郡の北部。黒石町の北約八軒。東及び北は東津輕郡に接して、弧狀をなしして東西に擴り、その長さ約一六軒市約二軒あり、山地は村の東部にありて全面積の五分の四を占め、西部は津輕平野に屬して平坦なり。浪岡川は東部に發源し中央部を西流す。山地及び平地の境附近には果園多く、林業を産しまた米の産あり。羽州街道は村の西部の北方より來り西南方に向ふ、南方の黒石町へはバスの便あり。奥羽本線浪岡驛(明治二十七年設置)を設く。この地に浪岡城址あり、正平以降、天正に至るまで二百餘年間、北島國司の子孫これに居りて御所と稱せり。また津輕の故跡なりと。浪岡氏は北島親房の裔、或は親房の子嗣家より出づとなし、或は其弟順信の後といふ。天正六年七月關村、津輕爲信の爲に滅さる。また南部安信の子高信、其子政信、浪岡にありて浪岡氏を稱せり。明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。(八幡宮) 大字浪岡に鎮座。郷社。祭神菅原別當。延暦十二年、坂上田村麿將軍の創建に係ると傳ふ。慶長十九年藩主越中守信牧朝臣再建し、爾來、津輕家に於て代々修築を掌られしが、明治維新に至りて此事止む。例祭、八月十五日。

浪岡村 青森縣陸奥國南津輕郡の北部。黒石町の北約八軒。東及び北は東津輕郡に接して、弧狀をなしして東西に擴り、その長さ約一六軒市約二軒あり、山地は村の東部にありて全面積の五分の四を占め、西部は津輕平野に屬して平坦なり。浪岡川は東部に發源し中央部を西流す。山地及び平地の境附近には果園多く、林業を産しまた米の産あり。羽州街道は村の西部の北方より來り西南方に向ふ、南方の黒石町へはバスの便あり。奥羽本線浪岡驛(明治二十七年設置)を設く。この地に浪岡城址あり、正平以降、天正に至るまで二百餘年間、北島國司の子孫これに居りて御所と稱せり。また津輕の故跡なりと。浪岡氏は北島親房の裔、或は親房の子嗣家より出づとなし、或は其弟順信の後といふ。天正六年七月關村、津輕爲信の爲に滅さる。また南部安信の子高信、其子政信、浪岡にありて浪岡氏を稱せり。明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。(八幡宮) 大字浪岡に鎮座。郷社。祭神菅原別當。延暦十二年、坂上田村麿將軍の創建に係ると傳ふ。慶長十九年藩主越中守信牧朝臣再建し、爾來、津輕家に於て代々修築を掌られしが、明治維新に至りて此事止む。例祭、八月十五日。

浪岡村 青森縣陸奥國南津輕郡の北部。黒石町の北約八軒。東及び北は東津輕郡に接して、弧狀をなしして東西に擴り、その長さ約一六軒市約二軒あり、山地は村の東部にありて全面積の五分の四を占め、西部は津輕平野に屬して平坦なり。浪岡川は東部に發源し中央部を西流す。山地及び平地の境附近には果園多く、林業を産しまた米の産あり。羽州街道は村の西部の北方より來り西南方に向ふ、南方の黒石町へはバスの便あり。奥羽本線浪岡驛(明治二十七年設置)を設く。この地に浪岡城址あり、正平以降、天正に至るまで二百餘年間、北島國司の子孫これに居りて御所と稱せり。また津輕の故跡なりと。浪岡氏は北島親房の裔、或は親房の子嗣家より出づとなし、或は其弟順信の後といふ。天正六年七月關村、津輕爲信の爲に滅さる。また南部安信の子高信、其子政信、浪岡にありて浪岡氏を稱せり。明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。(八幡宮) 大字浪岡に鎮座。郷社。祭神菅原別當。延暦十二年、坂上田村麿將軍の創建に係ると傳ふ。慶長十九年藩主越中守信牧朝臣再建し、爾來、津輕家に於て代々修築を掌られしが、明治維新に至りて此事止む。例祭、八月十五日。

浪岡村 青森縣陸奥國南津輕郡の北部。黒石町の北約八軒。東及び北は東津輕郡に接して、弧狀をなしして東西に擴り、その長さ約一六軒市約二軒あり、山地は村の東部にありて全面積の五分の四を占め、西部は津輕平野に屬して平坦なり。浪岡川は東部に發源し中央部を西流す。山地及び平地の境附近には果園多く、林業を産しまた米の産あり。羽州街道は村の西部の北方より來り西南方に向ふ、南方の黒石町へはバスの便あり。奥羽本線浪岡驛(明治二十七年設置)を設く。この地に浪岡城址あり、正平以降、天正に至るまで二百餘年間、北島國司の子孫これに居りて御所と稱せり。また津輕の故跡なりと。浪岡氏は北島親房の裔、或は親房の子嗣家より出づとなし、或は其弟順信の後といふ。天正六年七月關村、津輕爲信の爲に滅さる。また南部安信の子高信、其子政信、浪岡にありて浪岡氏を稱せり。明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。(八幡宮) 大字浪岡に鎮座。郷社。祭神菅原別當。延暦十二年、坂上田村麿將軍の創建に係ると傳ふ。慶長十九年藩主越中守信牧朝臣再建し、爾來、津輕家に於て代々修築を掌られしが、明治維新に至りて此事止む。例祭、八月十五日。

浪岡村 青森縣陸奥國南津輕郡の北部。黒石町の北約八軒。東及び北は東津輕郡に接して、弧狀をなしして東西に擴り、その長さ約一六軒市約二軒あり、山地は村の東部にありて全面積の五分の四を占め、西部は津輕平野に屬して平坦なり。浪岡川は東部に發源し中央部を西流す。山地及び平地の境附近には果園多く、林業を産しまた米の産あり。羽州街道は村の西部の北方より來り西南方に向ふ、南方の黒石町へはバスの便あり。奥羽本線浪岡驛(明治二十七年設置)を設く。この地に浪岡城址あり、正平以降、天正に至るまで二百餘年間、北島國司の子孫これに居りて御所と稱せり。また津輕の故跡なりと。浪岡氏は北島親房の裔、或は親房の子嗣家より出づとなし、或は其弟順信の後といふ。天正六年七月關村、津輕爲信の爲に滅さる。また南部安信の子高信、其子政信、浪岡にありて浪岡氏を稱せり。明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。(八幡宮) 大字浪岡に鎮座。郷社。祭神菅原別當。延暦十二年、坂上田村麿將軍の創建に係ると傳ふ。慶長十九年藩主越中守信牧朝臣再建し、爾來、津輕家に於て代々修築を掌られしが、明治維新に至りて此事止む。例祭、八月十五日。

浪岡村 青森縣陸奥國南津輕郡の北部。黒石町の北約八軒。東及び北は東津輕郡に接して、弧狀をなしして東西に擴り、その長さ約一六軒市約二軒あり、山地は村の東部にありて全面積の五分の四を占め、西部は津輕平野に屬して平坦なり。浪岡川は東部に發源し中央部を西流す。山地及び平地の境附近には果園多く、林業を産しまた米の産あり。羽州街道は村の西部の北方より來り西南方に向ふ、南方の黒石町へはバスの便あり。奥羽本線浪岡驛(明治二十七年設置)を設く。この地に浪岡城址あり、正平以降、天正に至るまで二百餘年間、北島國司の子孫これに居りて御所と稱せり。また津輕の故跡なりと。浪岡氏は北島親房の裔、或は親房の子嗣家より出づとなし、或は其弟順信の後といふ。天正六年七月關村、津輕爲信の爲に滅さる。また南部安信の子高信、其子政信、浪岡にありて浪岡氏を稱せり。明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際この地に御小休あらせらる。(八幡宮) 大字浪岡に鎮座。郷社。祭神菅原別當。延暦十二年、坂上田村麿將軍の創建に係ると傳ふ。慶長十九年藩主越中守信牧朝臣再建し、爾來、津輕家に於て代々修築を掌られしが、明治維新に至りて此事止む。例祭、八月十五日。

浪岡村 青森縣陸奥國南津輕郡の北部。黒石町の北約八軒。東及び北は東津輕郡に接して、弧狀をなしして東西に擴り、その長さ約一六軒市約二軒あり、山地は村の東部にありて全面積の五分の四を占め、西部は津輕平野に屬して平坦なり。浪岡川は東部に發源し中央部

るも、農業は振はず。北名好川・西桐丹川の流域には伐木盛に行はれ、此等の河口附近はその流域に満たされ、これ等は運取工場に送られてパルプ工業原料となるもの多し。鐵産は西桐内・猿津炭田に属する石炭あり、安別炭田は昭和十年産額八三九〇噸、また名好炭田は同年の試掘に於て二五〇九噸を採炭し、その炭質は概ね強粘結性にて、固定炭素五四%、揮発分三六%あり、發熱量七〇〇〇カロリー以上にて、有望視せらる。道路は海岸に沿ひ西部鐵道支線通過し、名好・猿津・恩内・計運・北宗谷・親崎、妻内の諸集落を経て國境の安別に達し、名好より東方山脈を越えて敷香町保意に至り中田街道に接続する路線あり、また名好・安別に定期航路の寄港地あり、交通未だ便ならず。名好は北名好川河口の左岸に位し、附近の伐木業興興と共に急激に發達せし部落にて、郵便局・簡易郵便所・漁業組合等あり。北名好川上流には温泉湧出す。安別は西海岸最北端の漁村にして、鯨魚セロと近接し亞細方面航路の要津なり。天海國境標第四號と中間境界標第十七號とに近く、樺太名物の一として見學に来るもの多し。ここに樺太鐵道支線あり、また山岳の特産あり。本村は舊領時代に名好を中心としてスラバ族の居住する者多く、約一萬を數へし、わが領有後は漸減して殆どその跡を絶つに至れり。當時は名好附

近にダイヤモンドを置き、その南方はコルマコフ・アレクサンドロフ兩州の境界をなせり。明治四十一年名好に名好支線を置きしが、大正二年六月に久春内に移る。

ナヨロ 名寄

【名寄村】 樺太泊居支線泊居郡の北部。本島中央の地峽部に當り、東は元泊郡白庭村に接す。東部は樺太山脈に属する山地にして、奥車峠山(六一六米)・東條山・大栗山(四〇五米)等聳え、支線敷設西方に出でて、南境には雲間山(四三三米)等あり。河川は中央分水嶺の鶴山(七一〇米)附近に發する東條川と雲間山(七五三米)に發する西條川を略並行して西北に流れ、下流に於て合流して名寄川となり、流域に平地拓け、本地方に於ける主要農業地帯を構成す。南部には智東川あり。海岸線延長約一五軒に及ぶも頗る單調にて、良津を缺く。産業は農を主とし名寄川下流に植民地あり、蕎麥・馬鈴薯を産す。南部の豊澤に大栗炭礦あり、附近に大栗・萬年町等の集落發達す。海岸に近く名寄山附近には日本石油試煉場あり。其他に苗圃・酪農場等あり。水産は振はず。海岸に沿ひ西部鐵道支線通過して和良・名寄・琴平・宅田・智東等を連れ、北は久春内・南は泊居町に至るほか名寄より西條川を溯り豊澤・大栗・平澤に至る道路あり。海上は名寄に樺太鐵道支線航路の寄港あり。本島占領當時は名寄に露人と土民僅に七戸數在せしが、明

ナヨロ 名寄

【名寄村】 北海道天鹽國上川支線泊居郡の北部。天鹽川・名寄川の合流地帯を占め、西は空知支線、南は多寄村を挟みて土別盆地・土別町に對し、東方は名寄御料地に續く。面積二〇五方軒餘。東西の北見・天鹽二山脈は中央部に傾斜し、天鹽川兩山地の裾を北流して平地を拓き、更に東山中を西流し来る名寄川を合して

ナヨロ 名寄

は、更にその生部にて生海地帯・生海層谷・天田傾動地帯・富雄層谷・西ノ京丘陵に分けられ、南部にて二上山山群・金剛地帯に分かる。奈良盆地は大部分平坦なる平地地帯なり、周縁には馬見丘陵等の洪積層台地が見られ、南部には天ノ香久山などの島状丘陵點在す。【氣候】 奈良盆地にては冬(約五度)と夏(約二十八度)との氣候の較差はやや大にして、年降水量は一五〇〇mm内外。大和高原は前者より気温や低く、年降水量はやや大にて一六〇〇mm内外。吉野山地は最も低温なる年降水量二五〇〇mm内外に及び、特に北山川の河谷及び十津川の小森以南は、氣候最も溫和にて降水量も多く、大森平原の如きは年降水量四六〇〇mmに達す。【産業】 昭和十年の生産總額は一九九五萬圓にして、工業・農産・林産・畜産・水産・鐵産の順位、主要物産は米の二二〇七萬圓を首位とし、實業・綿織紡績・酒類・杉材材・漆・漆類・全市・蚊帳・楡材材・蠶糸・莫大小・蠶・西瓜等は、いづれも一〇〇萬圓を越ゆ。農業戸数は六萬四千餘にて總戸数の五二%にて大部分奈良盆地に所在し、その七四%までは田が占め、單位面積に對する收穫量は各府縣中常に優位を占む。西風は盆地の到る處に栽培さるるも、本場は中央部の田原本町附近にて、優品として知られ、周縁丘陵帯には蜜柑・柿・

名寄盆地を形成す。名寄町は合流地帯に發展し農耕・交通の中心地たり。農業を主とし工業・林業また盛なり。米・馬鈴薯・大豆・甜菜・亞麻・牛・馬を産す。宗谷本線の名寄驛(明治三十六年設置)あり、これより名寄線を分岐し西名寄・朝茶志(共に昭和三年設置)の二驛を置く。町内に名寄區裁判所・常陸林野局旭川支局出張所・名寄中學校・名寄高等女學校・名寄女子職業學校等あり。明治四十二年多寄村より本村を分割し、上名寄村と稱し、大正四年上名寄村を名寄町と改稱、同十三年一部を割きて下川村を置く。名寄はアイヌ語ナイオロツプ(河の傍なる川口)の轉訛せるものなりと云ふ。【名寄川】 北海道天鹽國上川支線管内東北部にある川。北見・天鹽・石狩國境山地の間に、標高八五二米あり。名寄川この北麓に發して北流し、下川村にて西に屈し名寄川と稱し、下川村にて北見山脈の山中を西流し名寄町東部に出づ。山地を外れて名寄盆地に出づるや急に北流し、名寄町北方約四・五軒の地點にて天鹽川に合す。名寄町の發展は即ち此の二川合流に負ふところなり。流域約六〇軒、上流に於てはサンル・パンク・ペンク等の支流を集め、流域に河谷を拓きて交通・産業に資す。

【名寄驛】 省線の一。北海道天鹽國上川郡名寄町附近にあり。名寄本線・興濱南線・清津線・湧別線の總稱なり。

ナラ 奈良・平城・寧樂・那羅・平

【名寄本線】 省線名寄線の幹線。北海道天鹽國上川郡名寄町の省線宗谷本線名寄驛より北見國に入り興濱南線(紋別郡興部村)・清津線(同郡清津村)・中湧別線(同郡上湧別村)を経て紋別郡遠軽町の省線石北線遠軽驛に至る一三八・一軒、及び中湧別線より下湧別村の下湧別驛に至る四・九軒の支線より成る。興部驛にて省線興濱南線、清津驛にて省線清津線に連絡す。

ナラ 奈良・平城・寧樂・那羅・平

【奈良村】 埼玉縣武蔵國大里郡の東部。熊谷市の北隣にて、東は北埼玉郡の一部と隣す。全村平地にて水田多く、西南部は畑地をなす。農業發達行はれて、米・蕎麥・麥を産す。縣道は熊谷市に通じバスの便あり。此地は和名抄、播磨郡那珂地の内なるべし。江戸末期の治水家・開墾家たる吉田市右衛門(備正五位)はこの地の人なり。

【奈良ヶ岳・奈良岳】 白山火山群の一峰。石川縣石川郡岸川村・吉野谷村と富山縣東礪波郡上平村の境上に位す。標高一六四四米、山麓石英粗面岩より成る。【那羅】 山城國(京都府)の古地名。三代實錄元慶六年に奈良野の名見え、和名抄には久世郡に那羅郡あり、此の地は後世福喜郡に入りしものゝ如く、いま福喜郡都々城村の邊を云ふか。同村の大字上奈良・下奈良はその遺稱なるべし。

【奈良縣】 近畿地方の一縣。北は京都府

は、更にその生部にて生海地帯・生海層谷・天田傾動地帯・富雄層谷・西ノ京丘陵に分けられ、南部にて二上山山群・金剛地帯に分かる。奈良盆地は大部分平坦なる平地地帯なり、周縁には馬見丘陵等の洪積層台地が見られ、南部には天ノ香久山などの島状丘陵點在す。【氣候】 奈良盆地にては冬(約五度)と夏(約二十八度)との氣候の較差はやや大にして、年降水量は一五〇〇mm内外。大和高原は前者より気温や低く、年降水量はやや大にて一六〇〇mm内外。吉野山地は最も低温なる年降水量二五〇〇mm内外に及び、特に北山川の河谷及び十津川の小森以南は、氣候最も溫和にて降水量も多く、大森平原の如きは年降水量四六〇〇mmに達す。【産業】 昭和十年の生産總額は一九九五萬圓にして、工業・農産・林産・畜産・水産・鐵産の順位、主要物産は米の二二〇七萬圓を首位とし、實業・綿織紡績・酒類・杉材材・漆・漆類・全市・蚊帳・楡材材・蠶糸・莫大小・蠶・西瓜等は、いづれも一〇〇萬圓を越ゆ。農業戸数は六萬四千餘にて總戸数の五二%にて大部分奈良盆地に所在し、その七四%までは田が占め、單位面積に對する收穫量は各府縣中常に優位を占む。西風は盆地の到る處に栽培さるるも、本場は中央部の田原本町附近にて、優品として知られ、周縁丘陵帯には蜜柑・柿・

ナラ——ナラ

き主要都市は例外なしに周縁地帯に見らる。即ち東縁の奈良市・帯解・深本・丹波市・柳本・三輪・櫻井、北縁の郡山・龍田・王寺、南縁の八木・今井・試傍、高取・御所・新庄の諸町これなり。また宇陀川筋谷には榎原・松山・初瀬、吉野川筋谷には上市・下市・大滝・五條等の諸町あり。我が國家發祥の地にして、永き開皇居の所在せしこの縣には名所・舊蹟特に多く、これらの諸都邑の多くがそれに關係し、遊覽都市として色彩の濃厚なるが一特色なり。殊に試傍・生駒・吉野の諸町の如きは全然遊覽客に依存するものなり。〔交通〕奈良盆地の道路網は餘里制の遺物として南北及び東西に走れるもの多き特徴をなす。省線關西本線は盆地の北縁を走り奈良・郡山・王寺等を過ぎて大阪に至り、和歌山線は王寺より分岐し高田・吉野口・五條等を通り和歌山に達し、櫻井線は奈良より分岐し丹波市・櫻井・試傍・高田を結び、社線六和鐵道は盆地を斜に走りて王寺・田原本・櫻井を達す。遊覽地の多きことは社線電氣鐵道の發達を著しく助長して、奈良と大阪とを結ぶ大阪電氣鐵道は分岐して西大寺より郡山・田原本・試傍・高取を経て吉野に至り、その支線は丹波市をも達し、奈良と京都の間には奈良電氣あり、參宮急行電鐵は大阪と宇治山田を結ぶ最短路にて盆地の南縁を經、宇陀川の筋谷を抜け、大阪電氣は久米寺・高田と大阪

とを連ぬ。生駒山及び信貴山には登山ケーブルカー設けられ、兩者を結ぶ信貴生駒電軌も開通す。〔沿革〕明治元年五月大和國に奈良縣を置き七月にはこれを改めて奈良府とせしが、翌二年七月には再び縣に復す。三年二月には五條縣を置き紀伊の高野山をも管す。四年十一月、當時大和國にありし奈良縣・五條縣を始め舊藩所在地にして縣と改稱せる郡山・小泉・柳生・田原本・高取・柳本・芝村・橿原の八縣を悉く廢して更に奈良縣を添上郡奈良町に置き大和國を管したるを以て今日の奈良縣の起原とす。然るに同九年四月奈良縣を廢し和泉國堺町に置かれたる堺縣に併せ、十四年二月に堺縣の大阪府に併合さるゝ及び大阪府の管下に移りしも、同二十年十一月奈良縣を復活して大和國一國を其管下とす。同三十年四月一部の併合を行ふ、即ち添下及び平群の二郡を合して生駒郡を置き、式上・式下・十市の三郡を合して北葛城郡とし、葛下・廣瀬二郡を合して北葛城郡とし、葛上・忍海二郡を合して南葛城郡を置く。翌三十一年二月、奈良市は添上郡より獨立して、一市十郡を以て今日に至る。〔奈良市〕奈良縣の首都。〔地理〕奈良縣の北部に位し、奈良盆地の東北角を占む。東西七・七五軒、南北四・六九軒にして面積は二九・八方軒とす。北部及び東部は奈良盆地の周縁をなし、東部には

春日山・三笠山・若草山等ありて海拔五百米に近きものあり。北部には佐保山あり、海拔百米前後の丘陵とす。これ等の山麓即ち市の西南部は平地にて第四紀古層及び新層發達し主街此處に存し、また佐保・串・能登の三川(何れも大和川の支)この間を流れて都市には珍らしくも約五百町歩の水田發達す。〔氣象〕昭和六年乃至同十年の五箇年間に於ける氣象を見るに、氣温最低零下四・八度・六・五度、最高三六・〇度―三八・〇度にして年平均は一六・〇度―一六・六度とす。平均氣温は那覇・臺北・八丈島等に及ばざるも、其他の内最も暖き地即ち鹿児島にほぼ匹敵す。されば盛夏八月に於ける平均氣温は左の如く、
昭和六年 同七年 同八年 同九年 同十年
三〇・〇 三〇・〇 三〇・〇 三〇・〇 三〇・〇
右の如く、奈良は概して冬も夏も京都・大阪よりは氣温高く、降雪を見ること稀なり。降水量は一四〇〇mm内外にして、最も多なる父島二七・三、大阪二七・三をも凌駕す。また平均氣温高き故に最低氣温も比較的高く、即ち一月の平均氣温左の如し。
昭和六年 同七年 同八年 同九年 同十年
三〇・〇 三〇・〇 三〇・〇 三〇・〇 三〇・〇

の固定せる舊勢力の維持より脱出し、自由の新天地に理想の新政を行はんと試みたること一再にして止まず、しかも常に飛鳥の勢力の反抗に遇ひて、失敗に終り、帝都は久しからずして再び舊地に復するの已なき状態なり。殊に天武天皇は飛鳥の勢力を背景として近江朝廷と争ひ遂に勝利を得られし爲に、當然都を飛鳥の浮御原に復し給ひしが、而も天皇もまた永くここに留らせ給ふこと能はず、或は都を奈良盆地の北部に遷さんと思召され、爾後、遷都の計畫を起らせしも孰れも實行に至らず、最後に飛鳥城外に於て唐制を模倣せし新式の都城を經營し給ふ事となり、天皇の崩後その皇后たる持統天皇の御代に實現せられしもの即ち藤原京なり。併しかかる姑息的なる政策は到底永續せらるべきにはあらず、次の文武天皇の御代の晩年に至り、再び遷都の御計畫あり、これが元明天皇に至り平城京の實現を見るに至る。この實現には右大臣藤原不比等(鎌足の子)の計畫與りて力ありしものなり。蓋し大化改新以來、歴代朝廷は常に飛鳥の漢民族の壓迫に力を致せるを以て、當時はその勢力も漸次衰へ居り、且つ不比等は藤原氏の氏寺たる興福寺を始めとして飛鳥舊都に於て勢力多かりし大官大寺・元興寺・藥師寺等の諸大寺をも續々新京に移轉して巧みにその反抗を豫防せしが爲に、從來の遷都の常に失敗に終りしものと趣を

同十四年との間に年平均約三・四%の増加を見たるは主として市域の擴張に依るものとす。大正十四年乃至昭和五年の間に全市の平均と全く等しき率即ち一・六%の増加率なるが、次の五箇年は全城市部平均一・五四%に對し一・二%たり。なほ人口密度全城市部平均は四、四四九人(昭和十年)なるに、當市が僅に一、八七八人なるは、北部及び東部に丘陵乃至山地の存在するに因る。また男女の数の比を見るに、女百人に對し男九七・二五人なり。全國一般として市部には男多く郡部には女多きを普通とすれど、當市は觀光客多き地なるため接客に従事する婦人多きことが、上記の如き男女比を見る主たる原因にして、其後の原因として觀光地の常として婦人の土産物の販賣者あること、また織物業・女高師の存在を指摘し得べし。なほ當市の世帯數は一、八四〇(昭和十年)なるが、一戸當り平均四・四三人にして、全國平均五・一三のみならず都市平均四・九一と比較するもなほ少人数なり。〔産業〕當市の産業は價額としては左表の如くなるが(表は昭和十年調、なほ以下数字は總て昭和十年とす)、この内、工業價額は全産業の九割四分を占む。工業中の主なものは數額二三〇萬餘圓、品一二九萬

工産 二一、一八、三三三
農業 四三、〇〇〇
畜産 一三、三三三
水産 一、〇〇〇
計 二、六六、一三三

園、麻織物四八萬餘圓等とす。右の内、麻(製品紙幣を含む)は、奈良の特産物として古くより製造せられしが、その盛になりしは永年開闢の事とす。昔時は冠裳東その他禮服用として廣く用ひられ江戸幕府は奈良に麻布會所を設け、此處にて品物を検査の上、販賣に供せしむといふ。古来より奈良の特産物なる蓋しが、補正成九世の高松井道珍が天正年中にこれが製造を創むと傳へ、筆は空海が唐にて習得したるものを衆人に傳へ、今の奈良は高市郡今井町にて多く製造行されしが、江戸時代に奈良に移植せられしものといふ。其外に特産物として養酒・奈良漬・團扇・扇子・木彫人形(一刀彫)・漆器・角細工などを挙げ得べし。次に産業はその産額としては少額なるも都市には珍しく自作・小作を合して五三五戸ありて、耕作反別は田四八八六反歩、畑六〇二反歩、主要農産物は米及び麥とす。畜産は主として牛と鶏にして、水産といふは何れも斐然なり。以上は製造方面より見たる産業状態なるが、之に伴ふ商業あり、觀光都市の小賣店としては土産物

販賣店多く、この外、遊覽客が遺留・料理店等に消費しゆく額も蓋し少からざるべし。〔交通〕省線關西本線は當市三條道の西端に奈良驛(明治二十三年設置)を置き、此處より北方は木津を経て京都に至る奈良線あり、南方の高田に至る櫻井線あり。外に大阪より大和電氣車あり、京都より奈良電氣車あり、何れも當市の油阪驛に於て省線の奈良驛と連絡す。市内の交通としては、奈良驛前より油阪・春日神社・藤原前行等のバス出で、大和奈良驛前より郡山・法隆寺・木津行等のバス出で、また外に春日山周遊自動車などありて名所巡りに便利なり。なほ道路としては盆地を南下する上中下の三街道、京都方面に至る三條時越街道などあり。〔沿革〕一、ナラの名義 ナラは漢字に那羅・乃樂・諾樂・那樂・捺・平・平城・奈良・名良・那良の字を充て現今は奈良の字を用ふ。その名義は日本書紀に崇神天皇の御代、武埴安彦の歿するや、皇軍これを大和・山城國境の丘陵に攻めて軍士その山を踏み平せしが爲に、爾來この山をナラ山と名づくこと云ふ地名傳説あり、或は平坦なる山地即ち平せる山地と云ふ意味よりナラ山の名起れるものか。近時、外國語を借りて其起原を尋れんとする學者あれども未だその定説を見ず。二、舊都以前の奈良地方 古来ナラと稱せらるる土地は時代によりて同一ならず、

平城京都以前には、今の奈良市の西に接する地方即ち今の郡部村にある宮城址を中心とせる地方を稱せしもの如し。これナラの原地にして、之に對して現在の奈良市の地域に當る大部分の土地を春日と呼びたり、これ開化天皇御代を春日率川坂上陵と稱せるによりて見るべし。こゝに舊都以前の奈良地方とはナラの原地及び平城京地並に現在の奈良市の地域を包含せるもの如し。而して此等の地方は悉くは大化改新頃よりか途(曾布)と總稱せられたり。而してその途の名は曾布縣より轉せるものにて、古へ大和には皇室御料地として六箇の御縣が設置せられ、曾布縣は實にその一なり。三、平城京 奈良朝七十餘年間の帝都、平城京は開化天皇率川の邊に皇居を築め給ひしを起原とし、元明天皇の御代和銅三年都を藤原宮よりこの地に遷させ給ひ、發展の國家の帝都として大規模なる平城京を建設し給ひしに始まる。之より先き、歴代の帝都は、凡そ飛鳥の地方に置かるるを例とせり。飛鳥は漢民族の移住の根據地として、我國に於ける支那文化及び佛敎の播種地たり。これが爲に帝都も何時しかまた飛鳥地方に固定せらるに至り、そのために代々の政府はこの傳統力の掣肘を免るゝを得ざりき。こゝに於て孝徳天皇の難波遷都、天智天皇の大津遷都の如く屢々都を大和以外の地に遷して、そ

の固定せる舊勢力の維持より脱出し、自由の新天地に理想の新政を行はんと試みたること一再にして止まず、しかも常に飛鳥の勢力の反抗に遇ひて、失敗に終り、帝都は久しからずして再び舊地に復するの已なき状態なり。殊に天武天皇は飛鳥の勢力を背景として近江朝廷と争ひ遂に勝利を得られし爲に、當然都を飛鳥の浮御原に復し給ひしが、而も天皇もまた永くここに留らせ給ふこと能はず、或は都を奈良盆地の北部に遷さんと思召され、爾後、遷都の計畫を起らせしも孰れも實行に至らず、最後に飛鳥城外に於て唐制を模倣せし新式の都城を經營し給ふ事となり、天皇の崩後その皇后たる持統天皇の御代に實現せられしもの即ち藤原京なり。併しかかる姑息的なる政策は到底永續せらるべきにはあらず、次の文武天皇の御代の晩年に至り、再び遷都の御計畫あり、これが元明天皇に至り平城京の實現を見るに至る。この實現には右大臣藤原不比等(鎌足の子)の計畫與りて力ありしものなり。蓋し大化改新以來、歴代朝廷は常に飛鳥の漢民族の壓迫に力を致せるを以て、當時はその勢力も漸次衰へ居り、且つ不比等は藤原氏の氏寺たる興福寺を始めとして飛鳥舊都に於て勢力多かりし大官大寺・元興寺・藥師寺等の諸大寺をも續々新京に移轉して巧みにその反抗を豫防せしが爲に、從來の遷都の常に失敗に終りしものと趣を

ナラ——ナラ

異にし、無事にこの遷都の完成を見たると考へらる。爾來、平城京は佛都として日本文化史上に重要な位置を占むるに至り、青丹よし奈良の都は咲く花の匂ふが如く今盛りなり」と高麗歌人はこの都の盛時を讃へたり。平城京は奈良盆地の北部にありて、北に山城の境上に連なる奈良坂の丘陵を負ひ、南は廣く平野を望み、東は飯盛・若草・三笠・春日・高圓の諸山連立し、西は一帶の丘陵矢田山に連り所謂「四禽園」に叶ひ三山嶺を併し龜笠並び從ふの地にして正に天子南面の相に相當するの好地たるのみならず、西南の難波・東方の東海道・北方の東山・北陸・山陰等の諸道に通ずるにも至つて便なり。この盆地には、悉く大化以前より南北に貫通せる三條の大道ありて、その一なる下津道、即ち今の中街道は、北は奈良坂即ち今の歌樂越より、南は畝傍山の東麓に向ひて南北に通じ、平野を東西に兩分せしものにて、平城京はこの大道の北端なる奈良坂南麓の好地を占として、宮城の地を定め、唐都長安の制に則りし都城を經營せしものなりき。その規模は當時の「大寶令」所定の尺度の制に基きて、東西八里、南北九里の城を占め、その中央を南北に貫通せる朱雀大路によりて京は左右二つに分れ、兩京とも各一里ごとの距離を以て縱横に大路を開き、南北各九條、東西各四坊に分たる。蓋しその各坊はとも一里四方を以て單位

として設計せられしものなり。また各大路の間に更に三條づゝの小路を開きて各坊を十六の坪に分つ。その各坪を町といふ。かくて京内の位置を示すには北は一條より數へて南は九條に至り、またその各條は左右兩京とも各朱雀大路に接する坊を起點として、左右に數へて一坊より四坊に至り、更にその各坊は左京にありては西北隅より、右京にありては東北隅より順次に坪の數を數へ、更に北に戻り、再び南に進みこれを反覆して一ノ坪より十六ノ坪に至る。各坪の廣さは、大寶尺度の制、地を度るには大尺五尺を一歩となし、三百歩を一里となすの法により、その一里より道路數を除いて四等分せしもの、即ち四十丈四方を單位とせしものなりき。蓋し當時の大尺五尺は、後の六尺に相當し、その三百歩は即ち八百八十丈なり故、そのうちより大路の幅八丈、小路三條の幅各四丈、合して二十丈の道路數を除き、その餘の百六十丈を四等分せしものなり。この町割はのちの平安京にもそのまゝ採用せられ、後世の謂はゆる京間の起源をなす。以上は當初の設計に成れる平城京の規模なるも、その條坊も時代と共に場所によりて殷盛の程度を異にし、特に左京にては東方京外に興福寺・元興寺・東大寺・春日神社等の有力なる社寺設けられしが爲に、次第にこの方面に發展して遂には東京以南に於て二條より五條に至るまで各三坊宛の鎮

張を見るに至る。興福寺の舊境内と東大寺の舊境内との間を通ずるいまの手貝道は、その擴張せられし左京の東京極に當り、また今の櫻井線の驛名の京終はその南京極の名を傳へたるものなり。また右京に於ても、その西北隅に西大寺・西陸寺等の設けられし爲、その北京極外にも二坊・三坊・四坊に互りて、南北各二町づつの擴張を見るに至る。これを一條北邊といふ。かくて當初は規則正しき長方形の都城も實際には頗る不規則なるものとなれり。宮城の敷地は京城の北部中央にあり、左右兩京に互りて各一條・二條の一方の地を占めて、すべて八町四方、四周に土塼と塼濠とを繞らし、各邊に三門、通じて十二の門を開く。その正南の門を朱雀門といふ。また京城の周圍にも土塼と塼濠ありてこれを羅城といふ。その朱雀大路の南端なる正門を羅城門といふ。此等の制度は總て後の平安京に踏襲せらる。この平城京は萬世を期すべく豫想されたるも、爾後、權臣の政權爭奪の結果時に遷都の企あるを免れざりき。遷都後、三十二年なる天平十三年に於ける恭仁の遷都の如きは、その著しきものなり。蓋し平城遷都以後は藤原不比等の勢力極めて盛んにして、その死後によりては不比等の四子相並びて攝政の地位を占め、又その女は臣下の女として始めて皇后となるの先例を開き、政權は殆ど藤原氏一家の專斷に歸するの事なれりしが、

たまた天平九年桓帝流亡の爲に、その兄弟四人年を同じうして此の世を去り藤原氏の勢力これがために一頓挫を來し、光明皇后の同母兄橘諸兄これに代りて勢力を得るに至れり。こゝに於て藤原氏の一族かななる能はず、天平十二年藤原廣嗣太宰府によりて叛旗を翻し、諸兄はこれを機として天皇を奉じて一時東國に行幸せしめ奉り、その歸路を擁して天平十三年山城の恭仁に遷都せり。これがため平城京は一時廢廢し當時の歌人をして廢都の歎をなせしめし程なりしも、この遷都は結局藤原氏勢力の恢復といふに失敗に終り、都は一旦近江の崇徳京に、ついで攝津の難波京に遷り、最後にもとの平城京に復都するに至る。其後、天平寶字年間に至り惠美押磨(藤原仲麻呂)權力を握するに及び、その五年を以て一時淳仁天皇が孝謙上皇を奉じて近江の保良宮に遷りしことありしが、久しからずして押磨の失脚のため中止となり遷都を見るに至らざりき。奈良時代の末に至りては僧道鏡の專横によりて華美の風俗に甚しく、宮城の造營のために相繼いで行はれしものと見え、特に造宮省まで設けられしほどなるも、稱徳天皇崩御の後、先仁天皇位に即き給ひて前代の弊政改革に盡力し給ひ一代開明と稱せられたる整理に没頭し給ひ、ついで桓武天皇位を繼ぎ給ふに及び、更にその方針を繼承せられ、延暦元年、今は宮居るに堪へた

り」との理由を以て他の幾つかの宮署と共に造宮省をも廢せらる。然るに意外にもその後わづかに一年を経て延暦三年に至り、俄に長岡遷都のこと發表せられ、平城京は永く廢都となる。この長岡遷都は、藤原種實が桓武天皇の御信任を得て外戚藤原氏の財力に依りて藤原氏の根據地たる山城に都を遷し、權勢をこの新天地に開拓せんがためなりし事と察せらる。平城京廢せられし後は、その舊都の地は寛政して田圃と化せしが、しかも當時の大路小路の跡は通路、村界或は土地の小子の境界等によりて保存せられ、千百數十年後の今日なほその遺影を留め、その舊京内に於ける坪割の尺度は、京外の餘里との間に明かに京間と田舎間との區別の存在を示し居れり。たゞ特に左京京外に擴張されし地域の條坊は、平城遷都の後に於ても興福寺・元興寺・東大寺、謂ゆる南都諸大寺の勢力が引續き保存せられしために、他の部分に寛政し田圃と化せしに拘はらず、この地域ののみは舊都の繁榮を維持し、今に至りて奈良市街としてほゞその條坊の跡を保存す。宮城内の諸建築物は、一部分は長岡遷都の際に新京に移されしが、宮殿その他そのまゝに保存せられしもの少からず、平城天皇位を廢職天皇に譲り給ひて後、藤原仲成の上皇の復讐計策の隠謀によりて或はこゝに復都を見んとするの形勢なりしが、仲成の隠謀も露顯して、舊宮殿は唐招提

寺・起昌寺・不遷寺等に寄進せられ爾後寛政に歸す。しかし宮殿の土塼は多くはそのまゝ保存せられて、今は田圃の間に芝地となりて存在し近年史蹟として指定保存せらるゝに至る。今その土塼の位置及び土地の字名等によりて當時の宮殿配置の狀態を考へるに、朝堂院は宮城内やゝ東部に片寄りて存在し、その北部に大極殿あり、左右に東西兩樓あり、南方には十二堂左右に併列し、更にその南に東西の朝集殿ありしが、大體として後の平安京宮城内の朝堂院に於ける諸殿、諸舎の配置を勢覺せしむ。しかし細に觀察すれば異同なきにあらず。即ちその西方、即ち宮城の中央に當りて天皇の宮殿なる内裏がありしもの、如し。即ち平城京に於ては天皇の宮殿なる内裏が宮城内の主位を占め、政治の府たる朝堂院その東に片寄りて存在し、平安京に於て朝堂院が朱雀門の正面、即ち宮城中央の位置を占め、内裏は却つてその東に片寄りて存在するものとは、頗るその輕重を異にする。蓋し我國に於ては古代には宮中府中の別なく天皇の宮殿即政治の府なりしものか、後に宮中府中の別を生ずるに至りて、なほ平城京造營の頃までは宮中が宮城内に於て主たるの地位を占め、それが平安京に移るに及びて、兩者その地位を轉倒し、宮城内に於て政治の府たる朝堂院が中央の位置を占め、天皇の宮殿たる内裏その東方に片寄るといふ現象

を見するに至りしものにして、これによりて宮中府中に關する時代の思想の變遷が窺はれる。四、平安京遷都後の奈良平安京都以來、奈良の都が衰頹し、整備せる都城は都に桑田に變じたるも、なほ藤原氏の氏寺たる興福寺、氏神たる春日神社が存在し、また桓武天皇が國力を盡して建立し給へる東大寺を始め、皇室の尊榮凌からぬ諸大寺には香華の絶ゆる事なく依然として宗教界の中心たるは天平の昔と敢て變ることなし。されば平安京に於ける貴族の崇佛心と、南部の自然美とが相俟つて南都と京都の間は人馬往來は絶ゆる事なく、南都の諸大寺は都が平安京に移りし後も何ほその勢力を振へり。いま奈良市となれる地域は平城京の東郊外、謂はゆる京東班田及びその東の地にて、春日神社や東大・興福・元興諸寺の壯大なる堂塔伽藍多く、當時はこれ等社寺關係の人々の住居せし地にて、實に今日の奈良市の發達はこれら社寺の門前町たりしに起れるものなり。併して此等南都の社寺が有する莊園は實に廣大にして豊富なる財源たり。南都の僧兵、春日の社人等が永く活躍し得しものが爲なり。源朝の亂を鎌倉に開くや、寺社の所領は謂はゆる守護不入として武士の權力も之に及びず、その上に公家側と雖も寺院領に關與せざる方針なりし爲め奈良は自然一つの小獨立都市の觀を呈せり。其後、世の亂るるに及び大伽藍にも幾多の

變遷あり。殊に徳仁文明の亂以後、武士は尺寸の地を争ひ併吞を事とするの結果自然社寺の莊園等も亦その犠牲せらるゝ所となり、遂に寺院も衰微を極むるに至る。五、近世的都市への發展。中世の奈良は興福寺・東大寺あるの故に京・鎌倉と並んで南都と呼ばれ、田舎とは違へる姿を維持せしも、併し今日の奈良市の中心を作れるものは商工業なり。近世の都市として奈良が發展する爲には宗教といふ要素の他に、産業が發達して町人が此地に集らねばならず、かゝした意味の奈良の發達は吉野時代から室町にかけて著しく、吉野時代の南都にては興福寺が最も勢力強く、大和の商人に産を組織さして興福寺に隷屬させて奈良中の商業上の獨占權を與へたり。この座は室町時代に入つて益々發達し、興福寺兩門跡の一壽院・大乗院には長祿二年頃、既にソボ・オコシ・米・蛤・鹿・鹿・茶・鹽・油・楡・火鉢・鉛・漆・土器・昆蟲・楮・絹・銅・紺・蜜蝋・紫羅・楡皮・楮・心太・ハツカミ等の産あり、かくの如く當時の商工業は一切、座といふ組織によつて行はれたり。これ等の座と、本所(座を保護する主權なる寺院)との關係は、大乗院座の眞寔座を見ると、毎年座役(營業稅の如きもの)として、蓮十枚・油三升(錢三百文を以て代ふ)を大乗院に納むるを例とせり。座と並んで商業の發達を示すものに、室町時代に於ける市場の

開設あり。奈良にては室町の初め應永の頃には既に一乘院は奈良の北に、北市大乗院は泉原の西方に南市を經營せしが、應永二十一年にはこの兩市の中間なる高天郡に新しく中市(今市といふ)が設けられ、この三市場は奈良經濟の中心となりしが、のちには北・南の兩市は衰へ中市のみ榮えたり。かくの如く商業盛んになるに従つて町家が次第に増加し、文明頃には興福寺の領地たる七郷と東大寺の七郷と共に奈良の町の中心を形作るに至る。即ち七郷とは南大門郷・新薬師郷・東中御門郷・北御門郷・穴口郷・西御門郷・不問御門郷なり。以上は興福寺直轄領なるが、尙ほ大乗院に屬する郷として南市・岩井・鶴・九内堂・塔本・辰巳小路・法樂院・花園等があり、一乘院領に内院・藥師堂・東里・法蓮院・阿古屋川等の諸郷あり。また全市には三條道を境に南北に分れ南郷・北郷の地籍が屢々用ひらる。當時の奈良はかく郷を單位として成立し、郷の生活狀態を頗るに元興寺の領地より成り、兩方の地より刀劍といふ役人を遣ひ之に郷將を司らしめ、多くは年寄の人望ある者が選ばれ、藥師堂を郷民の集會所とし、この堂にて郷の行政に就いての相談の會合を開きし記録あり、恐らく他の郷に於いても之に類似せる制度がありしものと考へらる。安土・統山時代に入りては寺領の多く沒收せら

れ、商工業者の來住するもの漸く多く、天正十三年豊臣秀長の郡山城に入るや、時に奈良七郷既に市街を成せしを以つて奉行所を置き二百六十二の區劃を設け民戸より屋地子米を上納せしむ。これ今日の奈良市の雛形なり。慶長十八年徳川氏より先、秀長の政するや郡山の商工業者續々奈良に來住し、津唐軒を建ぬる繁華となれり。更に寛永十一年徳川家光上洛の時に屋地子米を全免さる。蓋しその意圖は奈良の地は無比の由緒あるを以つて舊郷として繁榮を計るにありしものと思はる。江戸時代、天下泰平となり旅行容易となるや、大和巡禮の風起り元禄時代の東大寺金堂再建に刺戟せられて此地を訪ふもの漸く多く、伊勢参宮と兼ねて春日社や大佛に参詣するものにて賑はひ、奈良は遊覽都市とするの途に著はる。六、明治維新の發達 明治維新後、一時舊郷を置き、次いで奉行所を廢して奈良縣を置かれしが、幾時もなくして明治九年堺縣に合併せられ、同十四年大阪府に屬す。加之、當時の廢藩置縣の影響を受けて奈良は一時萎微せしが、同二十年十二月再び奈良縣を置かるに及び此地はその首都として官衙・學校・兵營等が設置せられ、行政・文教の中心地たる態様が次第に整備するに至る。明治二十二年の町村制實施以前は、奈良を百四十七ヶ町村とし、これを五小區に分ち、毎小區

に戸長を置き、以て自治制度を施行せしが、町村制實施の際、舊來の分區を一に纏めて奈良町とす。其後、交通の便開くと共に、優美なる風物と千古の史蹟とに富み、且つ古美術の寶藏地たる奈良の名譽は内外に響き來遊者頗る増加し、商工業發展して、明治三十一年市制を實施し次いで同三十六年に市内大字の稱を廢して町と稱するに至る。大正十二年隣接の佐保村を編入し以て今日に至る。
【開化天皇春日山御上院】 油坂町宇山ノ寺にあり。長徑約九〇米、規模大ならざる前方後圓壇にて南面し、壇上松樹叢生して、周濠の遺存するを見る。前代孝元天皇御池島上院(武傍町)と共に前方後圓形の墓制による最古の御陵墓なり。
【元明天皇奈良山東院】 奈良坂町宇老ヶ崎にあり。聖武天皇の佐保山南院の北方、丘阜にして茂る。聖老五年崩じ給ふや、ここに火葬し奉り、その處を以て直に山陵となす。陵上に刻字碑あり、遺蹟によりて建つる所にして、後世、御封土崩れて地に墮ちしため、收めて今の奈良豆比古神社の傍に置きしが、文久修陵の際復して陵畔に覆屋を建て、保護し、陵上には別に明治三十二年模造の碑を建つ。
【元正天皇奈良山西院】 元明天皇御陵の西にあり。位置・形狀等、東御陵に略々等し。天皇は天平二十年崩じ給ひ、佐保山陵(その址今詳ならず)に火葬し奉りし

後、天平神寶二年に改めてここに葬り奉る。
【聖武天皇佐保山南院】 法惠町北畑にあり。俗に陵と稱し奉り、皇后光明子安宿禰の佐保山東院と併せて一光城となし、東西相並び共に南面し、兩院とも山形にして松樹茂生す。皇太子那古山御尊はこれより西北山中にあり、四隅は風・鬼・馬・鶴の人身獸面を刻せる石を立つ。俗にこれを華人石と稱す。
【靈藏古墳】 指定史蹟。春日野町、櫛草山頂上にあり。古來靈藏と稱す。前方後圓型古墳にして南西南に面す。主軸長約百三米、後圓部徑約六〇米、前方部幅約四八米五、高さ八米、封土は山頂を利用して二段に築成せられしもの如く、壇輪及び基石を存し、規模雄大なる點より見れば帝王級の陵墓たるに相違なし。後圓部頂上に享保十八年の碑あり。
【春日神社】 春日野町に鎮座。官幣大社。和銅二年、藤原不比等、鹿島の神を氏神とし、三笠山に遷し祀りしを春日明神の起りとす。更に神護景雲二年、香取神・牧野神・比賣神を御遷して三笠山の麓に神殿を造り、藤原四所明神と崇めしが今日の御社なり。藤原氏の盛なるに及び、祭祀の日に天皇・皇后の行幸啓の例少なからず。また奇女を置き、神封を寄附せることも多し。豊臣秀吉は社領三千二百六十石を、徳川氏は神供田・燈明田として三千四百餘石を寄附せらる。本社

の神木は歴史上有名にして、神主及び興福寺の僧徒等は何時も強訴せんとする時は必ずこの神木を奉じて入洛し、延暦寺僧徒の日吉の神輿と共に朝廷に對する大なる脅威たり。吉野時代には春日社人にして王事に奔走したるもの夥ならず。例祭、三月十三日。この日、古風な神事あり、若宮の例祭、所謂おん祭は十二月十七日に私祭なるが、その賑やかなことは奈良第一なり。往古、春日明神鹿島より遷座の時、鹿に召されしと傳へ神鹿の由來古し。いま鹿の数は約一千頭に上り、毎年六十頭出生すといふ。
【春日神社境内竹植神社】 指定天然記念物。春日野町春日神社境内にあり。竹植の最も多きは御蓋山西側の中腹以下にして幅七、八百米に亘る純林をなし、面積約九三七アル、地上約一・五米の幹間約一・八米以上約三米に達するもの少なくなく、上部に達するに従ひて次第に疎生し、編織富より谷を下りて妙見宮附近に至るまでの春日山内にも點々散在す。これらの竹植は自生にあらずして、栽植されしものか繁殖したるものと推せられ、來歴古く樹葉厚くして光澤あり、樹叢の壯なると幹間の太きもの少なからざると、天然狀態を保持せる點他に比すべきものなし。
【萬葉植物園】 春日野町春日神社境内にあり。面積三〇〇アル。昭和七年の開園に係り、萬葉詩人に詠詠されし草木、

竹など凡そ百五十餘種を植ふ、外に風致木として櫻・桃・山吹などを配し、池を廻り、水鏡を放ち、行く／＼は歌仙堂、茶亭など建設の計畫あり。
【春日山原神社】 指定天然記念物。春日神社の東方、海拔僅に四九七米の花山より、その前山即ち快義の春日山に及び、古來採伐を免れし面積約二九九アルの地なり。植物の分布上わが國暖帯の精々北部に位するも、暖帯南部植物も多く、温帯固有の植物も混生し、都市に近接し交通便利なる地にかゝる原始林をなすは頗る興味多し。暖帯性樹木として著しきものに、なぎ・やまもも・しひのき・あらかし・つくばねがし・いちむぎがし・かごのき・いすのき・りんぼく・たまみづき・ひさかき・しろばい・あなかし・こばのとれりこ等あり。温帯性樹木の主なるものに、ほほのき・うらじろのき・たらのき・りやうぶ・くまのみづき・うりはだかへで・しなのがき・いものき等に於て此等は暖地には稀に見るものなり。
【春日山石室佛】 指定史蹟。高畑町宇地獄谷にあり。俗に穴佛と呼ばるもの、一にして、急坂なる上の凝灰岩の山腹高一〇米の高所に設けられたる高約一・五米、奥行約二米餘、開口約四米の石室の壁面に佛・菩薩等の群像を半肉彫せしものにして、その一部は既に崩壊し、群像中破壊されしもの少なくなきも、今なほ十八軀を存す。主要なるもの坐像の三尊

あり、高さ何れも約一米、中尊の向つて右側の壁面に、久壽二年八月廿日始之作者今如房願意」と刻し、左側に「保元二年大歲丁丑二月廿七日佛造始開四月廿一日」の墨書銘遺りて造像年代を知るを得。これらの坐像の西側にほぼ完全なる多開天立像彫せらる。各像に彩色等も多少遺り居るものあり。
【地獄谷石室佛】 指定史蹟。春日山石佛の東南約三〇〇米の小徑を別け入りし所にあり。凝灰岩を切り出せし跡と覺しし石室を利用して佛龕を造り、壁面に刻線と彩色とを以て佛・菩薩等の像六軀を刻せるものにして、窟の入口高さ二米餘あり、奥壁高さ約一米餘の面に三尊佛、左右の壁面に各數體の像あるも三尊像最も完全に遺存す。中尊釋迦如來坐像は蓮座上重圓光を背ひ、衣文赤く影り肌金箔を置きし痕残る。右脇侍菩薩立像は衣文光背に赤を、頭部には黒色彩彩を施す。これ等の諸像は何れも藤原時代の製作に係る。
【漢國神社】 漢國町に鎮座。縣社。祭神關公(大物主命)・漢神(大己貴神・少彦名神)。推古天皇の元年、大神君自來、關神をこの地に奉祀せるに始まり、後に元正天皇の養老元年藤原不比等は漢神を相殿に奉祀せり。平安朝に至り宮内省に當社祭神を勧請して皇室的御守護神となし給へり。例祭、十月十七日。
【手向山神社】 雄町町手向山に鎮座。

縣社。祭神、品別別命・事大御外二神。別稱、手向山八幡宮。孝徳天皇の天平神寶元年、神託により、豊前國宇佐宮より大和に遷り、大佛殿附近に鎮座せられて東大寺守護神となり、鎌倉時代に現地に遷祀す。境内の住吉神社社殿は鎌倉時代建築にして特建物なり。外に、舞臺面二十三間・赤銅造大刀・四枚居木・唐鞍各一具はいづれも國寶なり。例祭、十月五日。
【水室神社】 春日野町に鎮座。村社。祭神仁徳天皇・間瀬稻能大山主命・額田大仲彦命。仁徳天皇の御代、額田大仲彦皇子、都介野(今の山邊)に遷せられ、山上より野中を見そなはれし時、鹿の如きものを御發見になり、當時、間瀬の稻能を召して御尋になりし處、水を蓄へて置く水室なることを知り、その水を仁徳天皇に献上されしに非常に御悅になり、之より毎年同所より水を献上されたり。これ我が國に水を用ふるれし始なり。のち奈良に都を奠められてより水室を三笠山の麓、水谷川の邊に營み此處に神殿を設けて高橋水室神社と云ひたるが、本社起源なり。のち建保五年に現地に遷し、單に水室神社と云へり。國寶に陵王の舞臺面一面あり。例祭、十月一日。奈良秋祭の初にて舞臺敷あり。
【圓證寺】 林小路町にあり。眞言律宗西大寺末。本尊不動明王。本寺は、もと筒井順慶の父順昭の別業なりしが、順昭の

政後、これを改めて律院となし圓證寺と稱す。境内に順昭の石碑あり。文殊菩薩騎獅像(木造)一軀・普賢菩薩騎象像(木造)一軀は國寶なり。

【海龍王寺】法華寺町にあり。眞言律宗西大寺末。天平三年光明皇后の御願により、藤原不比等の邸宅を寺院としたるが即ち本寺にして、皇居の東北隅に當るを以て古く兩寺・兩院と稱す。天平七年僧玄助の歸朝後、此の寺に住す。故に玄助を開基とす。のち寺運一時衰微せしを、鎌倉時代に至りて西大寺の觀音堂字を再興す。慶長七年徳川氏に至り、寺領約百石を寄す。特建物の西金堂・講堂、また文殊菩薩立像(木造)一軀・十一面觀音像(木造)一軀・佛雲武天皇宸輪軸額一面・毘沙門菩薩像一軀・鍍金舍利塔一基・五重塔羅形(木造)一基いづれも國寶なり。

【元興寺】芝新屋町にあり。華嚴宗。東大寺末。本尊藥師佛・十一面觀世音菩薩。南都七大寺の一。徳徳太子および蘇我馬子、物部氏を討平し給ふ所誓として、太子は大阪の四天王寺を、馬子は飛鳥の地(今の高市郡)に法興寺を建立す。のち法興寺を今の如く改稱す。養老二年元正天皇勅して法興寺を新築に遷さしめて新元興寺といひ、故地に存せしを本元興寺と稱す。今の高市郡飛鳥村安居院の寺地は即ち本元興寺の舊地といふ。新元興寺は移轉と共に漸次堂宇を完成、寺田二千町を管せられて盛衰を極めし、今は前都

七大寺中、大安寺と共にその完廢最も甚し。十一面觀音立像(木造)一軀・藥師如來立像(木造)一軀は共に國寶なり。

【元興寺塔址】指定史蹟。芝新屋町にあり。元興寺は養老二年飛鳥京より移建せられ南都七大寺の一なりしが、中世以降堂舎廢損し大塔のみを残せしを安政六年焼失して今その塔址を存す。土壇は周圍石壁を繞らし上に十七個の礎石あり。礎石は表面に直徑約一圓の圓形柱受並に直徑約二七厘の大納を彫り出せし形式にして心礎亦その形式相等しく形状や大なり。礎石の配列によりて三間三南方約九・七米の塔址たることを知る。昭和二年九月、心礎周圍の地下約三・三厘の深さにて勾玉・瑪瑙玉・捻玉・丸玉・小玉等の玉類、和同開珎・萬年通寶・神功開寶等、奈良朝時代の遺物を發見せり。

【興福寺】登大路町にあり。法相宗の大本山。本尊釋迦如來。皇極天皇の四年、藤原氏の始祖藤原足麻呂蘇我入鹿の横暴にこれに謀伐の爲に丈六の釋迦像を作らんと祈願をこめ、首尾よく蘇我氏を滅亡してその像を作りしに、夫人觀女王は山城に山階寺を建立してこれを安置せり。天武天皇の朝には、この寺を高市郡の版板に遷して既坂寺と稱せしが、平城朝に及び鎌足の子不比等更に勝地を卜して現地に大伽藍を造營して興福寺と呼び、永く藤原氏の氏寺とす。應和三年には永く奈良六宗に長官たるべき旨を宣下され、

また白河院の御宇には和州一國の更替を附せらる。徳川幕府の時代には寺領二萬五千石を有し、境内四萬アールを占めしが、前後七、八回の災禍のために今日に於ては伽藍殆んど古の佛なく、境内も漸次縮小せり。しかも尙ほ特建物四棟、北圓堂・三重塔・五重塔・東金堂あり。國寶には、繪畫に二天王像掛軸二幅・慈恩大師像一軀・護法普賢菩薩像十二面・工藤美術に藤原紫一基・鐘一口・錠十箇、彌勒坐像(木造)一軀・菩薩立像(木造)二軀・乾漆四天王立像四軀を始め百點以上その他伽藍・畫額等頗る多し。

【興福院】法蓮町にあり。淨土宗。智恵院末。本尊阿彌陀佛。法蓮山と號し尼寺なり。初め右京區三條、今の生駒郡都跡村大字興福院の地に存せしが、寛文年中徳川家光の命により此地に移る。境内に大樹多し觀音の堂あり。此寺内に奈良の茶人久保利世の茶室長閑堂のうつし及び其の碑あり。阿彌陀二十五菩薩來迎圖一軀、古葉時頼兼光四番は國寶なり。

【極樂院】中院町にあり。眞言律宗西大寺末。本尊阿彌陀佛。古は元興寺の子院なり。もと智光禪師の宅址にして、本尊は開法師傳得の繪畫曼荼羅に因みて極樂坊と呼びしが、その後廢損、建久年間西行法師の再興といふ。本堂及び講堂は特建物。阿彌陀如來坐像(木造)一軀・五重塔(傳元興寺塔羅形、木造)は共に國寶。【西福寺】奈良北町にあり。淨土宗。佛

西本寺靈嚴院末。本尊阿彌陀如來立像(木造)一軀・藥師如來坐像(木造)一軀・彌陀如來坐像(木造)一軀・釋迦如來坐像(木造)一軀・不動明王立像(木造)一軀・毘沙門天立像(木造)一軀は何れも國寶。

【十輪院】十輪院町にあり。眞言宗報恩寺末。もと新元興寺の子院にして創建につきて異説あるも、一に飛鳥權少僧都成源の創立といふ。境内に空海の作なりと傳へる多数の石佛と朝野魚雲の墓あり、魚雲は空海の書道の師にして、當院の住職なり。本堂・南門・石佛龕は特建物にして不動明王(木造)及び脇侍二童子立像三軀は國寶なり。

【正倉院】北倉・中倉・南倉の三倉に分れ、古くは北倉・中倉が勅封にて、南倉は東大寺の綱封蔵なりしが今は全部勅封たり。天平勝寶八年、崇徳天皇が御父聖武天皇の御遺物を東大寺の盧舍那佛に施入し御冥福を祈り給へるが勅封倉の始めにして、その後幾度か施入せられし御物をここに蔵す。この世界無比の大寶庫が幸ひ今日に至る迄、兵火・雷火の災を免れて天平のまゝの姿を傳ふるは、全く御皇室の御威威によるものと云ふべく、保存その他の關係上、開扉は十月下旬の旬日に限られ、拜觀もまた有資格者のみ限定せらる。

圓寺別院たりしが、いまは淨土宗西山派に屬す。茶證の風珠光は此の寺の僧侶たり。藥師如來立像(木造)一軀・阿彌陀如來坐像(木造)一軀・釋迦如來坐像(木造)一軀・地藏菩薩立像(木造)一軀・增長天立像(木造)一軀は共に國寶。

【新藥師寺(香藥師寺)】華嚴宗。東大寺末。本尊藥師佛。西京の藥師寺に對して新の字を冠す。天平十九年光明皇后、聖武天皇の眼病平癒を祈り、行基に命じて東大寺の餘材を以て本寺を建立し東大寺の別院となし給ふ。天平勝寶三年孝謙天皇、聖武天皇の御不豫を憂へ四十八僧に命じて當寺に於て新念せしめ給ひしことあり。本堂・鐘樓・四圍門・地藏堂・東門は特建物なり。千手觀音立像(木造)一軀・十二神持立像(觀造)・藥師如來立像(銅造)一軀・藥師如來坐像(木造)一軀・不動明王二童子立像(木造)三軀・十一面觀音立像(木造)二軀・佛涅槃圖掛軸一軀(銅造)・鐘一口は國寶なり。

【傳香寺】小川町にあり。律宗。唐招提寺末。本尊觀世音。寶龜年中鑑眞の弟子思託の開創にかり、天正二年に筒井順慶の母芳秀英禪尼の本願によりて本堂を再建し、唐招提寺の泉井を招じて住せしめ、筒井順井家の香華所たり。本堂は特建物なり。地藏菩薩立像(木造)一軀・觀音立像(木造)一軀は國寶なり。

【東大寺】雜司町にあり。華嚴宗の大本山。本尊盧舍那佛(金銅)。八宗兼學道場。天下總國分寺。七大寺および十五大寺の一。金光明四天王護國之寺・金光明寺・大華嚴寺・恒說轉法輪寺・城大寺等の別稱あり。俗には奈良の大佛といふ。國家鎮護の道場として聖武天皇の勅願によりて創立せられ、爾來日本文化の一中心として宗教界に政界に藝術上に巨大なる勢力を占め來り、天下諸寺の首位として今に論ることなき大伽藍なり。境域、古は廣大にして實に四野四方に及び、西は京極大路より東は鐵草山を包み、南は興福寺の境内に接し北は佐保川に到る有様なりしも、今は僅に約四百七十アールに過ぎず、七重の雙塔は既に没し、大講堂・三層の鐘樓・四圍門の如きも謂ゆる千百を十一に存するのみなるが、なほ世界最大の本造建築物なる大佛殿の聳立するあり、寺寶多、日本古代美術の極府たるの實を具ふ。初め天平十三年、聖武天皇佛法興隆の玉願を發し給ひ、勅して諸國に國分寺を建てさせ給ふ。奈良にも當時國分寺の建立を見る。然るに天皇は更に盧舍那大佛の鑄造を志し給ひ、同十五年近江紫香樂宮に行幸あり、造像の勅を頒ちてその地に鑄造を命ぜ給ふ。然るに未だ成らざるに機失せるを以つて、更に寺地を奈良に定め以て國分寺に合併す。當寺の本願は聖武天皇、開基は良辨僧正、勸進は行基菩薩、導師は善提仙那にして世に四聖建立の伽藍と稱され、天平勝寶四年四月開眼の式には天皇親しく文武百官を

ナラー—ナラ

の敷三十に達し、跡は比較的狭なり。花徑約二割、青の時は濃紅なるも、開けば淡紅となる。雄蕊約四〇、雌蕊一、二本、花梗長約八割にして微毛あり。

【般若寺】般若寺町にあり。眞言律宗西大寺末。本尊文殊菩薩。白雉五年孝德天皇御不豫に際し、慕我日向臣の創始する所にして、聖武天皇御宇に官寺に列す。延喜年間醍醐寺の觀賢寺門を再興してより盛大となり、一時は學侶二千人を數へ延暦寺山法師と勢拮抗せりといふも、近世は衰頹して境内荒涼たり。樓門・十三重石塔婆は特建物、聖師如來立像(銅造)一軀・傳説天皇家輪寺門扁額一面・舍利塔一基・般若願文一卷・笠塔婆二基は共に國寶たり。

【不退寺】法蓮町にあり。眞言律宗西大寺末。別稱、在原寺。本尊聖觀世音、平城天皇御位の後平城京に靈葬の御殿を造立して奉し給ひ、是を靈御所と稱す。後これを皇子阿保親王及び其子在原平相承けてこゝに居住す。承和十四年榮平詔を奉じて舊宮を寺となし自刻の觀音を安す。當時、水田五十餘町を有し十五大寺に列せられし互割たり。本堂・南門・多寶塔は特建物にして、聖觀音立像(木造)一軀・五大明王像(木造)五軀及び金剛舍利塔一基は共に國寶たり。

【法華寺】法華寺町にあり。眞言律宗西大寺末。本尊十一面觀世音。皇室三山諸寺院の第一にして末宮御所と稱す。もとこの盆地は海拔四〇—一〇〇米の沖積地その大部分を占むるも、周縁には一五〇米までに及ぶ段丘、扇状地見られ、特に西北部は登見・北高の丘陵地にて三〇〇米以下の小起伏多く、南縁また丘陵多し、その中に臥山(一九九米)・耳成山の如き小トロイア型火山が島状に分布す。宇陀火山地域に發源せる諸川は初瀬川となりて東南隅より盆地に入りて西北流し、右岸より佐保川・富雄川・龍田川、左岸より寺川・飛鳥川・曾我川・葛城川は盆地に流入し、西縁中部の北葛城郡河合村にて合し大和川となり、生駒山地の南縁の峡谷を経て大阪平野に入る。※奈良縣

【奈良縣】省轄關西四縣の一。關西本線の木津驛(京都府相樂郡木津町)より宇治を経て、東海道本線の京都驛に至る三四・七軒。木津驛にては向ほ省轄片町線に、京都驛にては山陰本線・東海道自動車・社線奈良電軌の各線に接続す。

ナラ—ナラカ

【奈良電氣鐵道】社線。東海道本線の京都驛より伏見・桃山を経て南下し、西大寺驛(奈良縣生駒郡伏見村)に至る三四・五軒。京都驛にて東海道本線・山陰本線・奈良線・京阪線自動車の各線に、西大寺驛にて社線大阪電氣鐵道線に接続す。軌間一・四三五米、電車を運轉し、省線とは連帯運輸をなす。

【奈良市】奈良に連なる街道。一は京都より南山城を経て奈良に至るもの、一

ナラー—ナラ

藤原不比等の舊宅なりしが、光明皇后、先帝及び孝武の爲に邸宅を喜捨し伽藍を創始せらる。のち東大寺、當國分寺となるや、當寺また國分尼寺法華滅罪の寺として男子不入の精舎となる。當時寺田千町歩、封二百戸を有せり。中世一時衰頹す。寛元年中に西大寺の觀音再興せしより、以後同寺末となる。その後豐臣氏堂宇を再營す。近世寺領二百二十石を存し、比后尼御所の一として近世は久我家の尼公が住持たり。門前に横笛堂あり、横笛菩提のため鐘口入道の建立といふ。

本堂は特建物、十一面觀音立像(木造)一軀・乾漆維摩居士坐像(木造)一軀・佛頭一個(木造)梵天帝釋二天頭二個・彌陀三尊及び童子像三軀は何れも國寶。

【蓮城寺】紀寺町にあり。天台宗。延暦寺末。本尊阿彌陀如來。寺傳に行基の開創、のち紀有常の再興とす。故に一に紀寺といふ。觀音菩薩立像(木造)一軀・勢至菩薩立像(木造)一軀は共に國寶。

【那羅山・奈良山・平山】舊平城京の北方に横ばる丘陵を稱せるもの。崇神紀に武埴安彦の叛の時、官軍山城より來りて草木を踏み平せし事より名稱起ると傳ふれど信じ難し。この丘を越ゆる坂路を平城坂といひ、のち奈良坂にも作る。萬葉・八上・奈良山の峯の實業取れば散る時雨の雨し間なく零るらし 縣犬養吉男

【奈良坂】平城より山城に出づる坂路をいふ。いま奈良市の北部般若寺を経て木津に出づる坂路を奈良坂といふも、往昔は平城坂に作り平城京の大内裏の北に當る。いま生駒郡平城村の歌姫より山城國に出づる歌姫越を稱す。仁徳天皇の皇后磐野媛陵この坂の附近にあり、故に平城坂上段と云へるを見ても知らる。今の奈良坂はもと般若坂と稱し、平城坂と般若坂と區別せること平家物語の平重衡南都攻入の際にも明かなり。奈良の今日の如く平城京の東に發達せしより後、いつしか般若坂が奈良坂と稱せらるゝに至りしなり。されば奈良坂は古今によりその位置を異にすといふべし。

ナラ

【ナラ】八王子市の南西方約三〇軒、桂川の右岸に峙つ山。山梨縣南都留郡秋山村と北都留郡猿橋町との境上に位置を異にすといふべし。

ナラ

【頭塔】指定史蹟。高知町宇頭塔町にあり。方形の封土三段、各段の周圍に佛像等を彫刻せる大小の石十餘箇あり、封土の上層に往々唐草瓦及び布目瓦を混ぶ。支防の頭を埋むと傳へ、頭塔と云ふも信仰上の土塔と認めらる。彫刻の手法、瓦の文様は奈良朝に屬するものと認められ舊跡上重要資料なり。頂上に近世の造立に係る五輪塔あり。

【奈良公園】指定名勝。市の東部に位置し、東西約四軒、南北二軒餘、面積五二五ヘクタール。東方には春日山・嫩草山相連り、山麓には春日・手向山・米室の諸祠、また東大・興福の兩寺の堂塔伽藍その間に點綴し、古松老杉を交して翠綠滴るゝ如く、芝生には神鹿嬉々として相戯るゝ光景は、天然の美と藝術の粹と相稱して眞に世界の名園たるに背かざるものあり。

【るうみすじしめ棲息地】指定天然記念物。春日野町宇御蓋山、川上町字花山にあり。春日神社の背後、ルウミスジミは本邦にては春日山と臺灣の一部にのみ棲む薄紫と茶褐色の小きき珍種の蝶にしてカンに覆はれたる馬酔木の叢中に多數棲息し著名なり。

【嫩草山】若草山とも記し、海拔三四二米、比高一九二米。覆石安山岩より成る幼年期のトロイアにして、山容優美、山麓三重になり居るは磐石の流出が三回し、標高九八二米位を算す。東方はアナジ峠を越へて、後山に連る。もと高知郡岳と呼ばれ、また一にクマガヤスとも稱さる。山頂部には松の植林あり、眺望きかす。

【奈良井川】長野縣にある犀川の上支。西筑摩郡楢川村の南部、茶臼山の北麓、奈良井御料林内に發して北流し、大字奈良井の邊より東北に方向を變へて、中山道に沿ひ東筑摩郡に入る。これまでは狭深なる谷を成せしめ、東筑摩郡に入るや間もなく低平なる松本盆地となりて緩流し、松本市の西北部に於て梓川と合し犀川となる。流域約七〇軒。

ナライ

【奈良井】長野縣西筑摩郡楢川村の大字。中央本線の奈良井驛(明治四十二年設置)を置く。

【成相】出羽國(羽後國秋田縣)の古地名。和名抄に秋田郡成相郷あり、この地いま詳ならず、河邊郡和田町・豊島村の邊ならんか。

【成相】讚岐國(香川縣)の古地名。和名抄に香川郡成相郷あり、奈良比と調す。この地今の香川郡一宮村に當る。

【ナラオ】奈良尾村。長崎縣肥前國南松浦郡五島列島の中通島の東南部。中通島の南方へ細長く突出する半島部を若松村と本村とに分ち、その東斜面が奈良尾村の村域にして南北に細長

ナラ

に互れるためなり。南山麓の毛叢を數きたるが如く芝草を以て蔽はれ、保勝會はその維持に努む。毎年二月に行はるゝ山燈は壯觀なり。頂上に雲塚あり。山上より奈良盆地の大部分、木津川流域の一部等望見せらる。

【猿澤池】興福寺の南、三條通を隔て、崖下にある池。東西約一〇〇米、南北約八〇米。奈良八景の一にして觀月の名所なり。平城天皇の御時、宮仕へせし采女が入水せしを憐れたまひて池の畔に行幸せられ、人々に歌を讀ませ給ひし時、わきもかたれた髪を猿澤の池の玉藻と見えそかなしきと柿本人麿が詠せりといはる。いま池の東畔に衣掛柳とて采女入水の時、その衣を掛けしと傳ふる柳あり。

【奈良盆地】大和盆地とも呼ばれ、奈良縣奈良市及び生駒郡・北葛城郡・南葛城郡・高市郡・磯城郡・山邊郡・添上郡の諸郡に互る。山陰盆地(京都盆地)の南方に連る一盆地にして、兩盆地間には海拔一〇〇米以下の奈良丘陵なる舊洪積臺地あり。東境即ち笠置高原との境は地形上南部に走る嵯峨たる春日斷層崖の一線をなすも、地質的の斷層は不明瞭にして、西境また南北に連る生駒傾動地塊・二上山・火山・金剛傾動地塊の東麓線にて、南境は紀伊山地の一部なる吉野山地の北縁に當り、共に出入多き山麓線をなす。南北約三〇軒、東西約一二軒内外に及ぶ。此

し。全村山地をなし西境には高山・盆地・山・尾山・鹿石山等の山嶺連り、山地東岸に迫り岬の突出多く中央には遠見香嶽・三蔵山等層層して東方海上に嶺が細代身・帆上崎・福見崎等の岬を繞らす。この半島の北に内務省指定港奈良尾港あり。南部には主邑奈良尾の漁村發達す。低地乏しき爲め米・麥・甘藷等の農産あれど村民の生活目標は海上にあり。海上定期汽船の便あり。

【ナラオ】楢尾岳。阿蘇山中央火口丘中央部の一峯。高岳(一九九二米餘)の北西方の約一軒半、熊本縣阿蘇郡宮地町と黒川村との境上に位し、標高一三三三米。阿蘇山中、最も新しく噴起せる火口丘にして、磐石も美しく、火山礫も原型のまゝ發見せらる。またロッククライミングの練習に好適なる岩場所々にあり。多く南方中岳(一三三三米)より阿蘇乗越を経て達す。

ナラカワ

【ナラカワ】楢川村。長崎縣肥前國西筑摩郡の東北部。犀川の上流奈良井川の谷に沿ふ。東は木曾主脈を以て上伊那郡に接し、西境は前水曾とも云ふべき一條の山脈連互し、木曾川と奈良井川の分水嶺をなす。北に東筑摩郡に界す。奈良井川は村の時中央を北流し東北隅より東筑摩郡に入り松本平に出づ。粟落は概ねこの谷に沿ひ美濃・農新・林業に従事す。木材・薪炭の産多し。大字奈良井の奈良井驛より南都奈良井御料林へ林用軌

【ナラカワ】長野縣信濃國西筑摩郡の東北部。犀川の上流奈良井川の谷に沿ふ。東は木曾主脈を以て上伊那郡に接し、西境は前水曾とも云ふべき一條の山脈連互し、木曾川と奈良井川の分水嶺をなす。北に東筑摩郡に界す。奈良井川は村の時中央を北流し東北隅より東筑摩郡に入り松本平に出づ。粟落は概ねこの谷に沿ひ美濃・農新・林業に従事す。木材・薪炭の産多し。大字奈良井の奈良井驛より南都奈良井御料林へ林用軌

【ナラカワ】長野縣信濃國西筑摩郡の東北部。犀川の上流奈良井川の谷に沿ふ。東は木曾主脈を以て上伊那郡に接し、西境は前水曾とも云ふべき一條の山脈連互し、木曾川と奈良井川の分水嶺をなす。北に東筑摩郡に界す。奈良井川は村の時中央を北流し東北隅より東筑摩郡に入り松本平に出づ。粟落は概ねこの谷に沿ひ美濃・農新・林業に従事す。木材・薪炭の産多し。大字奈良井の奈良井驛より南都奈良井御料林へ林用軌

【ナラカワ】長野縣信濃國西筑摩郡の東北部。犀川の上流奈良井川の谷に沿ふ。東は木曾主脈を以て上伊那郡に接し、西境は前水曾とも云ふべき一條の山脈連互し、木曾川と奈良井川の分水嶺をなす。北に東筑摩郡に界す。奈良井川は村の時中央を北流し東北隅より東筑摩郡に入り松本平に出づ。粟落は概ねこの谷に沿ひ美濃・農新・林業に従事す。木材・薪炭の産多し。大字奈良井の奈良井驛より南都奈良井御料林へ林用軌

【ナラカワ】長野縣信濃國西筑摩郡の東北部。犀川の上流奈良井川の谷に沿ふ。東は木曾主脈を以て上伊那郡に接し、西境は前水曾とも云ふべき一條の山脈連互し、木曾川と奈良井川の分水嶺をなす。北に東筑摩郡に界す。奈良井川は村の時中央を北流し東北隅より東筑摩郡に入り松本平に出づ。粟落は概ねこの谷に沿ひ美濃・農新・林業に従事す。木材・薪炭の産多し。大字奈良井の奈良井驛より南都奈良井御料林へ林用軌

【ナラカワ】長野縣信濃國西筑摩郡の東北部。犀川の上流奈良井川の谷に沿ふ。東は木曾主脈を以て上伊那郡に接し、西境は前水曾とも云ふべき一條の山脈連互し、木曾川と奈良井川の分水嶺をなす。北に東筑摩郡に界す。奈良井川は村の時中央を北流し東北隅より東筑摩郡に入り松本平に出づ。粟落は概ねこの谷に沿ひ美濃・農新・林業に従事す。木材・薪炭の産多し。大字奈良井の奈良井驛より南都奈良井御料林へ林用軌

ナラク—ナラハ

道を通ず。舊中山道は奈良井川の谷に沿ひ、名所の鳥居野より木曾谷に出づ。今

ナラクチ

那良口 肥後縣の一郡

ナラサキ

檜崎村 山口縣長門國豊

ナラサワ

七澤 山梨縣

ナラシ

毛無乃岳・奈良思之岳

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

ナラシ

成田 愛知県

奈良

奈良、下奈良邊の原野を云ふか。

ナラノナカ

檜中 大和國(奈良縣)

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ

奈良

ナラハ—ナリタ

道を通ず。舊中山道は奈良井川の谷に沿ひ、名所の鳥居野より木曾谷に出づ。今

の間にいつかきかなむ 志貴皇子

奈良、下奈良邊の原野を云ふか。

奈良、下奈良邊の原野を云ふか。

奈良

奈良、下奈良邊の原野を云ふか。

ナルサ——ナルシ

大字中山に中山平驛(大正六年設置)ありて頗る便なり。古くは尾前と云ひ、奥羽山脈を横断する中山越(尾前越)の東麓に當り、古來奥羽兩國交通の要路に當るを以て、尾前驛を設けて行人を檢せしこと芭蕉の紀行等に見ゆ。併し當時は人跡稀にして驛路の困難なりしものなるべし。關はいま中山平驛の附近ならんといふ。〔鳴子驛〕指定名驛。鳴子町に屬する荒雄川の支流大谷川の溪流が石英粗面岩質集塊岩の臺地を穿ちて、長さ四軒に互り峽谷をなせるもの。崖の高さは八米乃至百米、幅十米乃至五米、標式的のU字谷をなし、曲折せる溪流は直立せる峭壁、亂立せる岩石と相俟ち、頗る溪谷美に富む。〔鳴子(湯元)温泉〕鳴子驛の南一一〇米。鳥谷ヶ森山の北麓にあり、玉造十二湯の湯元にして、大いに賑ふ。泉質は食鹽性硫酸・酸性泉・鹽類性硫酸泉等の各湯あり。仁明天皇の承和二年(約一千百年前)鳥谷ヶ森山噴火して熱泉類に流出し因つて温泉神社を祀り鳴子の湯と名づけし。〔河原湯温泉〕鳴子驛の東北約半軒。泉質は弱酸性泉と炭酸泉。リウマチス・婦人病・腺病などに效くと云ふ。天和年間(約二百五十年前)の発見と傳へ、源義經奥州落ちの時はここを通過すと云ひ、附近にそれ因り義經の駒止め、辨慶足跡などといふ遺蹟あり。また杖京子や八雲御抄などに見ゆ。玉造の湯はこの湯を指せるものなりとす。

ナルサワ 鳴澤

〔元車湯温泉〕鳴子驛の東北約一軒。泉質は食鹽泉。天明年間の発見と傳へ、當時は水車にて湯を汲み上げし爲めこの名起れり。〔新車湯温泉〕鳴子驛の東北約一軒。泉質は食鹽泉。胃腸病・婦人病・リウマチス・腺病に效くといふ。〔中山温泉〕中山平驛の東一軒。泉質、單純泉。附近に芭蕉が「蚤虱馬の尻する枕もと」と詠じたる處と傳ふる泉前驛址あり。〔鳴子スキー場〕鳴子驛の南約一軒。上野ヶの練習場あり、例年一月月上旬より五十軒乃至一米の積雪、雪質もよく初心者にも熟達者にも興味あるスノーブ多し。〔中山平〕中山温泉を中心とする高原地帯にして、東北の上高地として夏季は賑ひ、秋季、附近一帯の紅葉美は陸羽線隨一と稱せらる。〔湯沼〕鳥谷ヶ森山の山中にある沼。水面は海拔三〇六米、四圍環境を廻らし、火山分類上は「マル」と稱する種類に屬し、東北に胡蝶ヶ岳を仰ぎ、風光よろし。

ナルシマ 奈留島村

長崎縣肥前國南松浦郡の中部。五島列島の中部に位置する奈留島及び其周圍の小島嶼を含む。西には奈留瀬戸によりて久賀島と相對し、東北は瀧河原瀬戸によりて若松島に相對し、奈留島は最長東西約九軒、南北約一〇軒に擴がるも其間に數多の深き灣入ありて陸地を幾多の半島狀に刻み、其間地帯によりてつゞき面積は割合に多からず對峙す。

ナルト 奈流門

山口縣防府郡防府町の南部。御井町の西に位し、北は日積村に、東は神代村に界し、南は大島瀬戸を隔て、大島郡屋代村に對す。面積四・九方軒。西北隅に琴石山(五四六米)聳えてその山脚を東南に伸し海に迫り、極く平地の砂礫地その山麓下に開くのみにて平地に乏しく概して山地をなす。主産業は牧畜にして畜牛に名あり、農産物は米・藫の外に蜜柑・きりり柿等の果實を産し美味をもつて知らる。大島の東部は東南隅にありて漁村をなし附近の海上にて鯛・鰯等の漁業を營む。省線御井線は海岸を走りて御井町に至り大島驛あり。東北由宇町及び御井町へ縣道通じバスあり。廣島驛と周防灘とを隔る大島瀬戸は兩岸取ること一軒に足らず、潮流早く所々に渦巻を生ず、鳴子水門の意にて鳴門と呼ばれ、阿波の鳴門に對して大島鳴門といふ。用明天皇と筑紫の摩野の長者の女との間に生れ給ひし般若姫が上京の途次此處にて懸船して溺死し給ふと傳ふ。古來多く時藻に入り、萬葉卷十五に大島の鳴門を過ぎて再宿を經たる後、追ひて作れる歌、これやこの名に負ふ奈流門の瀧湖に玉藻刈るとふ海人少女ともし後遺・戀一に、人しれす思ふ心は大島のなるとはなしに歌くころかななど見ゆ。本村出身の歴史的人物に僧月性あり、尊攘の大義を各地

圖六

ナルセ 成瀬村

神奈川縣相模國中郡の東北隅。伊勢原町の東北隅にて、北は愛甲郡南毛利・玉川二村と隣す。西半は丘陵地にて森林あり。東半は相模川流域平地の一部をなして水田多し。農業行はれて米・麥・甘藷・大豆・蕎麥等を産し養蠶も行はる。大山街道は東北方愛甲郡厚木町より來りて村の中央を過ぎ、伊勢原町に通ず。社線小田原急行鐵道また之に沿ふも村内に驛なく、伊勢原町に伊勢原驛を置く。此地は和名抄、大住郡石見郷の内とす。〔高森神社〕大字高森に鎮座。惣社。祭神、味須岐高彦根命・弟橘比賣命。延喜の制、國幣の小社に列す。當時高部屋神社、後に七社權現と稱す。例祭、四月九日。

ナルセ 鳴瀧

宮城縣の北部にある川。加美郡の西南隅なる奥羽山脈中の東斜面に發源し諸水を兼ねて東流、中新田町附近にては左岸より田川を、右岸より保野川・花川等を穿れ、三本木町を過ぎ三本木川の稱あり、松山町の北にて南に轉じ、品井沼の水を穿れて南東に向ひ、野蒜港に至りて石巻灣に注ぐ。流程約一〇〇軒。川は土砂の運搬盛にて、河口の地積作用また著しく、上流の小野田以東の流域平野は本地方の主産農業地帯の一を成す。〔鳴瀧村〕宮城縣陸前國加美郡の東部。中新田町の東に隣り、東は志田郡に接す。陸前平野の西部にあり、全村概ね平坦にして鳴瀧川は西南流を東南に流る。米の産多く、また藪・麥等を産す。道路は西南部を西北に通じ、西北方中新田町へはバスの便あり。東北方陸羽東線中新田驛へは約三軒あり。此地は和名抄、色部郡安藤郷の内なるべし。

ナルタキ 鳴瀧

愛媛縣伊豫國北宇和郡の西北隅。南は宇和島市との間に高光村を挟み、吉田町の東北に隣接す。北部には六百米内外の山嶺東西に連互してその急斜面を南に向け、南部にも二―三百米の丘陵起伏す。中部・東部に稍々廣き谷底ありて耕地拓け、北部山地の麓に大池ありて水利よろしき爲め耕作に適す。米・藫・麥等の産あり、また蓮をつくり養蠶を營み特産として箱を出す、

ナルト 奈流門

山口縣防府郡防府町の南部。御井町の西に位し、北は日積村に、東は神代村に界し、南は大島瀬戸を隔て、大島郡屋代村に對す。面積四・九方軒。西北隅に琴石山(五四六米)聳えてその山脚を東南に伸し海に迫り、極く平地の砂礫地その山麓下に開くのみにて平地に乏しく概して山地をなす。主産業は牧畜にして畜牛に名あり、農産物は米・藫の外に蜜柑・きりり柿等の果實を産し美味をもつて知らる。大島の東部は東南隅にありて漁村をなし附近の海上にて鯛・鰯等の漁業を營む。省線御井線は海岸を走りて御井町に至り大島驛あり。東北由宇町及び御井町へ縣道通じバスあり。廣島驛と周防灘とを隔る大島瀬戸は兩岸取ること一軒に足らず、潮流早く所々に渦巻を生ず、鳴子水門の意にて鳴門と呼ばれ、阿波の鳴門に對して大島鳴門といふ。用明天皇と筑紫の摩野の長者の女との間に生れ給ひし般若姫が上京の途次此處にて懸船して溺死し給ふと傳ふ。古來多く時藻に入り、萬葉卷十五に大島の鳴門を過ぎて再宿を經たる後、追ひて作れる歌、これやこの名に負ふ奈流門の瀧湖に玉藻刈るとふ海人少女ともし後遺・戀一に、人しれす思ふ心は大島のなるとはなしに歌くころかななど見ゆ。本村出身の歴史的人物に僧月性あり、尊攘の大義を各地

ナルセ——ナルト

圖九

ナルト——ナルミ

に建設、安政三年本願寺に召され、東山別院に寓し密に皇室回復意を正の策を計畫、安政五年布教中政、年四十二、正四位を贈らる。

【鳴門海峡】 徳島縣阿波國の東北端、板野郡鳴門村大毛島の東端孫崎と淡路行者ヶ嶽の門崎との間にある僅か一四〇〇米の狭き水道を云ふ。海峡には紀伊水道と播磨灘との陥没に際し残存せる東より中瀬・標島、南方に飛鳥等の小嶼岩礁ありて、頗る狭き水道を更に窄き狭む。而してこの狭き水道は中瀬により二分され、徳島側を大鳴門、淡路側を小鳴門と稱す。大鳴門はその幅僅に五〇〇米にて孫崎の前面に横ばる標島と中瀬との間は最も重要な部分をなし、その幅僅に三〇〇米なり、小鳴門はその幅一層狭く僅に二〇〇米に過ぎず。世界に稀なる鳴門の渦巻の現象は一大壯觀とす。潮の干満に際し海峡を通過する潮流がここに堰き止められ、内外水位に一・一五米の落差を生じ、同時に海峡の中央に凡そ三〇〇米の一大急流が狂奔す。潮流時速一四一二〇米にて三百噸級の汽船は押し流され航行困難なり。渦は直径一五—三〇米に及び表面渦斗形に凹み、輪轉する急流。水煙・渦巻は次より次へと新しく生じ、高々相激し鳴門の大壯觀をなす。殊に新月・満月の大潮時、就中春の夕干、夏の夕満は最も壯觀にして、阪神地方より觀るため東遊する者多し。淡路の門崎に

は嘗て砲臺ありしが今は廢され觀瀾遊園地となる。鳴門海峡附近は鯛及び和布の漁利に富み、鳴門鯛・鳴門和布として京阪神地方にて賞美さる。

【鳴門村】 徳島縣阿波國板野郡の東北端。大毛・高島の二島よりなる。東北方の鳴門海峡を挟みて淡路島に對し西及び北に瀬戸町に、南に徳島町・里浦村に面す。面積九・四六方軒。各島の土地概ね平坦にして中央に稍小丘あり、淡路島と對する所は名高き鳴門海峡をなし潮流奔逸して頗る壯觀なり。海濱一帯は白砂青松相連り風景頗る良し。主産業は水産業にして鹽田廣く開け盛に製鹽をなし漁業亦頗る盛なり。農作物として米・麥の産あり。南端土佐泊浦より北端にバスを過し孫崎の鳴門公園に至る。また土佐泊浦より淡路島の福良町までは海上約六哩航路の便あり。大字土佐泊は大毛島の南端、南は小鳴門の水道を距て徳島町に對す。土佐日記の筆者紀實之が歸京の際船を著けし所。今も小嶼地をなす。【鳴門公園】 本村大毛島にある公園。鳴門海峡西岸の孫崎の突岬展望臺の千疊敷和泉砂より成る丘陵を取入れし一帯の地に於て、鳴門の渦巻の壯觀を眺むるに陸上唯一の絶好地をなし、足下に標島・飛鳥を俯瞰し、前方近く淡路島の門崎を臨み、その間岩に激する潮流、急流を避けし岩陰の海水の小舟、また一方内海播磨灘の眺望等を志にするに好適の地なり。

ナルト——成東町

千葉縣上總國山武郡の中部。北半は丘陵地にて森林あり。南半は九十九里濱沿岸平地の一部をなし水田多く、東部を東南に流る、堀川の流域は沼田をなす。米を主産し他に蕎麥・麥・植物油を産し丘陵の一部より石材を出す。縣道四方より集り聚落はその集合點に發達す。省線徳武本線は町の中央を東走し成東驛(明治三十年設置)を置き、これより省線東金線を分岐す。この地は和名抄、武射郡新泉郡の内なるべく、成東は古文書に鳴波・鳴戸・鳴土または成戸と書せるあり。元禄十三年下總國結城城主水野勝成守將長の領となり、世襲して維新に至る。明治元年水野勝成助、版圖を奉還し結城藩知事となり、同五年木更津藩管轄となり同六年千葉縣の所轄となる。本町は東金に亞ぐ郡内第二の市街地なるも住民は農業五割、商業三割なり。アララギ派の歌人伊藤左千夫は本町成戸の出身なり。【成東町肉食植物産地】 指定天然記念物。成東町と豊成村の境を接する處にあり、一帯に濕潤なる沼野にして特異の濕生植物全部に互り發生し中に食蟲植物に屬する、いしもちさう・ながばのいしもちさう・まうせんごけ・こまうせんごけ・みまかきさき・むらさきみかきさき等を混じり、食蟲植物の種類に富み且つ多数に發生せるは稀有なることなるにより指定さる。【成東温泉】 眞切不動堂のある成東山麓にあ

り。含鐵炭酸食鹽泉にして加熱浴用。胃腸病・リウマチス・痔疾・婦人病に效果ありと。【不動院】 新義眞言宗智山派。石塚山と號す。行基當道總攝の礎、近傍の海上にて船隻多く溺没せるにより、浪切不動像を刻みて死者の菩提を弔ひしに起原すと傳ふ。

ナルハマ 鳴濱村

千葉縣上總國山武郡の東部。片貝町の北隣にて九十九里濱の一部をなす。全村平地にして西南境を堀川東南に流れ水田・畑地多し。蕎麥・米・麥を産し養蠶も行はる。海岸は單調なる砂濱をなし風の濱漁業行はる。縣道は片貝町及び西北方成東町に通じ成東町へはバスの便あり。

【名和村】 群馬縣上野國佐波郡の南部。伊勢崎町の南にて利根川の北岸にあり。南は川を隔て、埼玉縣児玉郡の仁手村・旭村と對す。全村平地にて田畑拓く。農業行はれて米・麥を産す。縣道は伊勢崎町及び東方旭町に通ず。また坂東大橋を経て埼玉縣児玉郡本庄町にも通ず。古くは和名抄、那波郡重東郷の地にして大字重探はその遺稱とす。高倉天皇の嘉永年間藤原秀郷の後裔那波二郎季廣の地に居し、其子太郎廣澄天曆元年木曾義仲に從ひ京畿に戦死す。次いで建久四年鎌倉幕府の重臣從五位大膳大江廣元の養子、那波掃部助政廣この地に封ぜられて那波城を築き、二十一代凡そ四百年間に及びしも遂に上杉謙信の攻略する所となる。その城址は大字堀口にあり。延寶九年大

ナルミ 鳴海町

愛知縣尾張國愛知郡の西南部。西は天白川を距てて名古屋市の南に對し、西南は知多郡大高・有松二町に隣接す。東北は一〇〇米餘の丘陵起伏するも、西南部の天白川流域には沖積地あり、名古屋の大平地に對し耕地よく開く。大名古屋市近郊町としての産業發達し、米・麥の産多く蕎麥・蜀黍・蔬菜等の農産物に富み、また各種工業盛大となりつつあり。農業は大消費地名古屋市を控へ、また工業は名古屋工場地帯の隣接對峙により益々發展を期待さる。社線名古屋鐵道は西南部を通過し鳴海驛・有松驛(共に大正六年設置)を置き、これに沿うて國道(東海道)通じ知多半島に至る。縣道を分ち名古屋市にバスを通じ交通便なり。また名古屋市に近接すると交通の便なるにより此地に鳴海大野球場を置かる。この地は知多郡有松町・大高町と共に和名抄、愛智郡成海郷の地にして、舊東海道の鳴海宿のありし所。また歌枕の名所として知らる。新古今集「遣人の日の夕暮なるみ湯歸る袖より千鳥啼くなり 通光」續古今集「あはれなりいかになるみの果なれば又あかくれて浦つたふらむ 光俊」更科日記「尾張國なるみの浦を過ぐるに、夕沙たたみちて」明治天皇、明治元年九月、東京行幸の際、及び京都還幸の際、同二年東京御再幸の際、並に同十一年北陸東海御還幸の際、この地に御小休あらせらる。【成海神社】 舊社。祭神、日本武尊・宮貴媛命・健甕稻

命。式内小社に列し、熱田神宮の東にあるを以て俗に東宮と稱せり。往昔は社庭盛大なりしといふ。例祭、六月二十一日・九月九日。

ナレカワ 名速川村

熊本縣肥後國上益城郡の東北部。阿蘇火山外輪山の南斜面を占むる山村にして、西南部に濱町に接す。北は山嶺を隔てて阿蘇郡に界す。北端には阿蘇外輪山の一部約千米餘の高きに東西に連り、その山地次第に南方へ傾斜し全村斜面地を占め、中央に五郎瀧川・西御所川、東部に東御所川各々南流し、北に大矢宮林あり。林産多く外に椎茸・茶の産もあり。道路東西・南北に走り西方御船町へはバスを通ずるも交通便して振はす。

【名和村】 臺灣新竹州竹東郡にある舊社。油溪溪流域に位しアマヤル族のマヨコラン前山番に屬す。明治四十三年ガオカン蕃の兇虐をなすなき暴動に加担し反抗せんとしたるを以て討伐を受けた。一時は銃器彈藥を提出歸順したれども、尙異心を抱き兇害を逞しうせんとせしを以て、再び大正元年討伐を受けたり。戸數六四、人口三八六(昭和十一年調査)。

ナワ 名和

【名和村】 群馬縣上野國佐波郡の南部。伊勢崎町の南にて利根川の北岸にあり。南は川を隔て、埼玉縣児玉郡の仁手村・旭村と對す。全村平地にて田畑拓く。農業行はれて米・麥を産す。縣道は伊勢崎町及び東方旭町に通ず。また坂東大橋を経て埼玉縣児玉郡本庄町にも通ず。古くは和名抄、那波郡重東郷の地にして大字重探はその遺稱とす。高倉天皇の嘉永年間藤原秀郷の後裔那波二郎季廣の地に居し、其子太郎廣澄天曆元年木曾義仲に從ひ京畿に戦死す。次いで建久四年鎌倉幕府の重臣從五位大膳大江廣元の養子、那波掃部助政廣この地に封ぜられて那波城を築き、二十一代凡そ四百年間に及びしも遂に上杉謙信の攻略する所となる。その城址は大字堀口にあり。延寶九年大

ナルミ——ナワ

愛知縣尾張國愛知郡の西南部。西は天白川を距てて名古屋市の南に對し、西南は知多郡大高・有松二町に隣接す。東北は一〇〇米餘の丘陵起伏するも、西南部の天白川流域には沖積地あり、名古屋の大平地に對し耕地よく開く。大名古屋市近郊町としての産業發達し、米・麥の産多く蕎麥・蜀黍・蔬菜等の農産物に富み、また各種工業盛大となりつつあり。農業は大消費地名古屋市を控へ、また工業は名古屋工場地帯の隣接對峙により益々發展を期待さる。社線名古屋鐵道は西南部を通過し鳴海驛・有松驛(共に大正六年設置)を置き、これに沿うて國道(東海道)通じ知多半島に至る。縣道を分ち名古屋市にバスを通じ交通便なり。また名古屋市に近接すると交通の便なるにより此地に鳴海大野球場を置かる。この地は知多郡有松町・大高町と共に和名抄、愛智郡成海郷の地にして、舊東海道の鳴海宿のありし所。また歌枕の名所として知らる。新古今集「遣人の日の夕暮なるみ湯歸る袖より千鳥啼くなり 通光」續古今集「あはれなりいかになるみの果なれば又あかくれて浦つたふらむ 光俊」更科日記「尾張國なるみの浦を過ぐるに、夕沙たたみちて」明治天皇、明治元年九月、東京行幸の際、及び京都還幸の際、同二年東京御再幸の際、並に同十一年北陸東海御還幸の際、この地に御小休あらせらる。【成海神社】 舊社。祭神、日本武尊・宮貴媛命・健甕稻

ナワ——ナワリ

宇戸各塚は墓領となり、他は酒井氏伊勢時侯の領地となり以て明治維新に至る。...

【名和神社】別格官幣社。祭神、名和長年。南朝の柱石たる名和長年の芳名を慕ひて、承應・明暦の頃に當村地内のその邸宅跡と稱せらるる所に地方崇敬者集りて一小祠を創建せしむるの始とす。...

【名和村】鳥取縣伯耆國西伯郡の東北部。大山火山の北斜面地域を東南より西北に占め、東は光徳・邊坂二村に、西及び南は庄内・大山二村に、北は御來屋町に界し狭長の地形をなし、東北隅の少部分のみ海に面す。面積一七・五一平方。人口約一〇〇〇、一方軒の密度僅に約七〇人。...

ナワ 那波

【那波】上野國(群馬縣)の古郡名。日本後紀、延暦十五年紀に郡名初めて見ゆ。...

【那波】土佐日記に見ゆる地名。土佐日記「九日(承平五年正月)つとめて大津より那波のときをわはんとてこぎ出けり云々」と見ゆ。...

【那波】朝鮮咸鏡南道利原郡の南部。利原邑の南に隣り、西は北青郡居山面に接し、東南一帯は日本海に臨む。南北一五軒餘、東西は八一〇軒に及ぶ。...

ナワ 奈和

【奈和】名和村(鳥取縣)の古地名。その位置不明なるもナハは即ち難波にして、いまの大坂市の西部の邊を稱せしものならんと云ふ。...

【奈和】京都の地名。現今東山区御手通、四條大橋の北、賀茂川の東岸、北は三條大橋・三條通に接す。長町女殿切・上ノア此半七の火のちめは、帳面も増明けず、今朝から愛へ面出しせぬ、何所へうせた、また紙面狂ひか官用町か、別墅共が知つてなる、設置せし。...

【奈和】大坂府河内國中河内郡の東部。生駒山脈中部の西側に位し、西は布施市と三野郡村・若江村を隔て、東は山脈を隔てて奈良縣生駒郡平群村に界す。面積約九・四方軒、東中は生駒山脈の西面に急傾斜をなすも、西中は肥沃なる平地にて、その西中は水田、東中は乾田よく拓け斜面の末には畑地あり。...

ナワリ

【ナワリ】奈和利町。高知縣土佐國安藝郡の中部海沿。奈和利河口左岸に位し、南は土佐郡に面す。軍戸嶺の西北約二〇軒にあり。面積二七・九平方軒。平滑なる海岸を底邊とし東北山中に延びたる三角の地形を有し、東南は山脈を以て羽根村に、西は奈和利川を隔て、田野町に界し、北は米岡の丘陵北川村に連る。...

【南庄】臺灣新竹州竹南郡の東北部。中港溪上流々城一帯の山地を占め、東と南は蕃地に接し、西と北とは大部分三湖庄に依りて圍繞せらる。即ち蕃界に連る異地にして管内到處山岳重疊し、西境に神草山、北境に獅頭山あり。中港溪の源は東・南二河より成り、共に東方蕃地より發し、南庄の部落附近にて合流して大となり、それより北流して田尾を過ぎ、やがて西轉して三湖庄に入る。...

【南庄】臺灣新竹州竹南郡の東北部。中港溪上流々城一帯の山地を占め、東と南は蕃地に接し、西と北とは大部分三湖庄に依りて圍繞せらる。即ち蕃界に連る異地にして管内到處山岳重疊し、西境に神草山、北境に獅頭山あり。中港溪の源は東・南二河より成り、共に東方蕃地より發し、南庄の部落附近にて合流して大となり、それより北流して田尾を過ぎ、やがて西轉して三湖庄に入る。...

ナン

【南庄】臺灣新竹州竹南郡の東北部。中港溪上流々城一帯の山地を占め、東と南は蕃地に接し、西と北とは大部分三湖庄に依りて圍繞せらる。即ち蕃界に連る異地にして管内到處山岳重疊し、西境に神草山、北境に獅頭山あり。中港溪の源は東・南二河より成り、共に東方蕃地より發し、南庄の部落附近にて合流して大となり、それより北流して田尾を過ぎ、やがて西轉して三湖庄に入る。...

ナン——ナン

【南庄】臺灣新竹州竹南郡の東北部。中港溪上流々城一帯の山地を占め、東と南は蕃地に接し、西と北とは大部分三湖庄に依りて圍繞せらる。即ち蕃界に連る異地にして管内到處山岳重疊し、西境に神草山、北境に獅頭山あり。中港溪の源は東・南二河より成り、共に東方蕃地より發し、南庄の部落附近にて合流して大となり、それより北流して田尾を過ぎ、やがて西轉して三湖庄に入る。...

【南庄】臺灣新竹州竹南郡の東北部。中港溪上流々城一帯の山地を占め、東と南は蕃地に接し、西と北とは大部分三湖庄に依りて圍繞せらる。即ち蕃界に連る異地にして管内到處山岳重疊し、西境に神草山、北境に獅頭山あり。中港溪の源は東・南二河より成り、共に東方蕃地より發し、南庄の部落附近にて合流して大となり、それより北流して田尾を過ぎ、やがて西轉して三湖庄に入る。...

【南庄】臺灣新竹州竹南郡の東北部。中港溪上流々城一帯の山地を占め、東と南は蕃地に接し、西と北とは大部分三湖庄に依りて圍繞せらる。即ち蕃界に連る異地にして管内到處山岳重疊し、西境に神草山、北境に獅頭山あり。中港溪の源は東・南二河より成り、共に東方蕃地より發し、南庄の部落附近にて合流して大となり、それより北流して田尾を過ぎ、やがて西轉して三湖庄に入る。...

NON

西流し来る忠清川を容れ、流域に幾少の低地ありて農耕行はる。産物は粟・玉蜀黍等の雑穀及び大麻等の農産を主とし、また林産あり。西部は楚山・大昌嶺山の嶺区の一部に富り金・銀・鉛を出し(楚山・大昌嶺山)、其他金滿嶺山・大興金嶺山・金・銀を、忠上金山より金を出す。東部を楚山・雲山間二等道路通じ、途中龍上洞より忠清川に沿って西方等下里に至る道路あるも、交通便ならず。

【南面】朝鮮平安北道熙川郡の西南部。東北は熙川面に、西南は寧邊郡に接す。南部に妙香山脈の支脈連り、郡境に妙香山の最高峰なる鳳凰峰(一九〇九米)を始め、香爐峰・法王峰(妙香山、一三九一米)等、鳳凰峰の北麓には芙蓉峰(一四三二米)等聳え、漸次西北に低夷す。清川江は東北より西南に城内中部を貫き、これと、東部山地及び西部の二〇〇—三〇〇米級の臺地に發する支流との流域に狭長なる低地ありて田畑拓く。産物は大豆・粟・蕎麥・大麻・楮等を主とし、北部清川江左岸の安突嶺山より金・銀を、西部の昭和金山銀嶺山より金・銀・鉛を出す。安突嶺山は蘇田礦業会社の經營にして昭和十年中の産額が金・銀を合せて一八萬圓、同年六月末現在の使役人員一九七九人。總督府鐵道滿浦本線は清川江の左岸を走り、熙川面界に近く富成驛(昭和九年設置)あり、安州邑より熙川邑に至る道路は河の對岸に通じ、交通比較的便なり。

なり。東部妙香山中は奇蹟に富み、名勝舊蹟多し。

【南面】朝鮮平安北道宣川郡の南部。東部は右岸の本陸部とその南方海上の身備島及びその周圍に散在する洪建島・柵島・芝島その他十數箇の小嶼より成る。陸地部は東部江の喇叭狀河口以西に横ばる平地にして、北部に最高九〇米の低丘を見るのみ、耕地はらげ農産に富む。身備島は北は洪建島を隔てて本陸と相對し、西岸は宣川灣の東岸をなす。東北東—西南南の長さ一六軒餘、周圍約一〇〇軒に及ぶ大島。山脈南北に連り平地極めて少なく、中央に雲從山(三角山、五三三米)あり、島の如き奇形を呈す。島岸は風曲に富み、特に西岸に著しき灣入ありて此處に泊港あり。葉落は灣首の身備島・東潭洞を主なるものとす。北端に釜後浦の泊地ありて、對岸へ渡船連絡あり。島は風光明媚、避暑に適し、近時外人の來遊する者多し。島の沿海は石首魚・蝦等の好漁場にて漁期には鮮肉は勿論、遠く内地より出漁する者多し。雲從山に將軍李朝の將軍林茂業が屯營せしところ。身備島の南端より南々西二軒に嶺あり、本面の最高峰をなす無人の孤島にして、ウミネコ・ワトウ(喜知鳥)・カラシラサギの類の群棲するを以て名高く、いま天然記念物に指定せらる。

と、水入用の一支これを灌溉して平地ひらけ農耕行はる。産物は粟・粟その他雑穀を主とし、また蕎麥・蕎麥を出す。春川・楊口・杆城を結ぶ改修道路は中部を東西に貫き、パスを通す。

【南面】朝鮮江原道平康郡の東南部。平康面の東南に隣り、東は金化郡に、西南は雄原郡に接す。地は南端を頂點とする三角形をなす。雄原高原の東縁に位し、中央に西方山(七一七米)聳え、最高とし、その西北に王在峰、北端に松羅山聳ゆ。漢灘川は東端を劃して南流し、この流域に狭長なる平地あり、王在峰の北麓高原地帯も近時耕地化されつつあり。産物は米・豆・大麻等の農産を主とし、また唐院金山より金・銀を出す。社線金剛山電鐵南端を控め亭洞驛あり、また平康・金化間二等道路、西北—東南に貫きパスを通す。

【南面】朝鮮江原道春川郡の西南部。春川邑との間に新南面を設て、南は洪川郡、西は京畿道加平郡に隣る。大白山脈の餘脈の成す山地にて北部の劍峰(五三〇米)を始め座防山その他五百米級の山丘起伏し、北漢江は北端、次で西端を廻流し、洪川江は南端を蛇曲流し面の西端にて前者に合流す。之等の流域に僅に狭長の平地ありて耕地拓く。産物は粟・豆類・雜穀等の農産を主とし、洪川江の兩岸に跨る香洞金嶺より金・銀を出す。北端の北漢江對岸に春川街道通ずるも城内の交通

は便ならず。東北部芳谷里の小川に九曲あり、春川邑近郊の一名称たり。

【南面】朝鮮江原道洪川郡の西南部。洪川面の西南に隣り、東南は橫城郡、西南は京畿道楊口郡に接す。城内の大部分は大白山脈餘脈の成す山地にして、東端の五音山(九三〇米)を最高とし、梅花山・葛基山・雲峰山等六〇〇—七〇〇米級の山岳四圍をめぐらし、此等山地に發する水は中部に集まり北流して洪川江に入り流域に平地ひろく。産物は米・粟・大豆・粟等の農産を主とし、西部の花田里嶺山より金・銀を出す。同嶺山は三菱礦業株式会社の經營にて、昭和十年産額金五九九瓦、銀三〇七瓦、金銀總九七六兩(計十萬八千圓)、同年六月末現在の使役人員一五三。東部を横斷する洪川・橫城間の二等道路と、中部を東北—西南に走る洪川・楊口間道路とにパスを通じ交通比較的便なり。西邑陽徳院里は楊口街道筋に發達せる街村式聚落にして、花田里嶺山に至る要路に當り、定期に開く市場、及び金融組合等あり。

【南面】朝鮮江原道旌善郡の南部。旌善面の東南に隣り南の一部に於て寧越郡と接す。大白山脈西斜面の山地にして、南部郡界の斗圍峰(四六六米)を最高とし、四圍に芝嶺山・熊峰等一〇〇〇米以上の山岳相連なり、東端の東面より来る漢江一支は城内を東南—西北に貫流して沿岸に聚落點をなすも平地に極めて乏し。山

偏。北方の奉川河とは用坊江を隔てて相對す。南部に一〇〇—二〇〇米の丘陵連り、西端の林泉山(二四〇米)や著るのみ。西端を黃河江流れて、北端を劃する川坊江に合し、その流域に廣き耕地拓く。川坊江は東北流し奉川邑の東方にて北江と合し、大寧江となりて再び西の東端に現はれ東南に去る。産物は米・粟・粟・大豆・棉等の農産を主とし、また漆の特産あり。安州より来る二等道路は南端の曲曲嶺(一五〇米)を越え、中部を北走して奉川邑に至りパスの便あり、西部平地にも定州・青山市間の道路通じ、交通不便ならず。

【南面】朝鮮平安南道・黃海道を流るる河。大同江支流。平安南道陽徳郡の東部北大峰山脈中に發源し、南流して黃海道東北部を先行、谷山郡の中央にて西折、次いで平安南道と黃海道との境に深き峡谷を造りつつ西流を続け、清川・栗里川等を合せ江東・中和兩郡を劃し、大同江秋乙英面河にて大同江に合す。流域約二〇〇軒。河内より一五〇軒間に舟楫の便あり、また下流流域は大同江平野の東縁をなして各種の農産に富み、また無煙炭・石灰石等の埋藏多く、何れも朝鮮に於ける重要資源をなす。

【南面】朝鮮江原道東北部の河。金剛山の東南斜面なる新金剛に發源して南流、高城郡水洞内を廻流して流路を北にとり、下流に於て松林寺西方より来る支流間に火田驛存す。産物は粟その他雑穀及び大麻等を主とし、また栗同嶺山ありて金・銀・硫・硫・硫を出す。地勢の關係上長路を通ず、交通極めて不便なり。東部の武陵里は聚落の最大なるものにて、定期に開く市場あり。

【南面】朝鮮江原道寧越郡の南部。寧越面に南隣し、西は忠清北道の堤川郡、南は同じく丹陽郡に接す。地東西に狭長にしてその長さ二二軒に及ぶも南北は最廣部に於て七軒、最狭部は一軒に過ぎず。城内に大白山脈の支脈連り東端に太華山(一〇二七米)聳え、北端を流るる平昌江の流域に低地を見るのみ。大豆・粟・粟その他の雜穀と大麻・楮・煙草等を出し、煙草は寧越産と稱する良質のものにして郡中最多額を産す。副業に養蠶・養蜂等行はる。寧越・堤川間の二等道路北部を東西に走りパスを通ずるも交通未だ便ならず。太華山に華山城址あり新羅時代の築城に傳ると傳ふ。東部の廣川里附近に清冷浦と稱する處あり、李朝開國六十五年に論宗王その叔父首陽君に即位後、此地に諱居す、平昌江に臨みてその遺址あり。

【南面】朝鮮京畿道漣川郡の南端。郡邑漣川の南二十餘軒、東と南は楊州郡に接す。北端に柑嶺山(六七五米)聳え北部は山地をなすも、中部以南は一〇〇—一五〇米の丘陵起伏するのみにて、漢灘川支流流域に耕地連る。産物は米・大豆・大

を容れ、次いで外金剛より来る神溪川と合し、高城邑を過ぎて海金剛の南縁にて日本海に注ぐ。流域六〇軒餘、上流及び支流流域は溪谷美を以て聞え、楡岾寺・松林寺・神溪寺等の名刹、温井里温泉・三日浦等いづれもその沿岸にあり、中流の森林は大寧演習林となる。

【南面】朝鮮江原道麟蹄郡の西部。麟蹄面の西南に隣り、西は楊口郡、南は洪川郡に接す。地は北に頂點を有する三角形をなし、南北の長さ二三軒、東西は南部に於て一五—一八軒あり。大白山脈の西斜面に當る山地にして、山岳丘陵起伏し、中部北端を東より西に流るる昭陽江沿岸に狭長なる平地を見るのみ。住民は農を主生業とし、山地には處々火田を殘存す。産物は農産に蕎麥・粟・大豆・米・大麻等あり、山地より藥草を産し、また朴樹日金山・金富嶺山・三友金山(嶺區の一部)等ありて金・銀を出す。北部は春川・杆城間二等道路走り、途中冠峯里より西南洪川に至る路路を越え、何れもパスの便あるも、交通未だ便ならず。

【南面】朝鮮江原道楊口郡の東南部。楊口面の東に隣り、東は麟蹄郡、西南は春川郡に接す。南北の長さ二六軒に餘るも東西は平均五—六軒に過ぎず。大白山脈の支脈北より南に走り特に南中は山脚にて、その中央に烽火峰(八七五米)聳まりその南麓を昭陽江東より西に流入蛇曲流す。前記山脈は北中部にては西に現新

豆・蕎麥・蕎麥等なり。横城・楊州間の道路中部を經流し、東方の京元嶺東豆川驛(楊州郡伊漢川)に近きも、交通未だ便ならず。

【南面】朝鮮京畿道加平郡の東南部。郡邑加平の南約一〇軒。南は楊口郡に、東は江原道春川郡に隣る。南北一一軒、東西平均五軒。西部は山地にて、西端に虎鳴山(六三二米)あり、東南に急斜し、東端、次いで南端を廻流する北漢江沿岸に僅かに低地あり。産物は粟・豆その他雜穀を主とし、北漢江に舟楫の便あるも、道路は急坂多く交通便ならず。

【南面】朝鮮京畿道開豐郡の西部。開城府の西南約一〇軒。東部に五〇—八〇米の丘陵連るも西部は概ね低平にて耕地廣く横ばる。而して西南部は漢江と禮成江との交會點に位し昌陵里の泊津あり。産物は米・粟・豆類・叭・藪等を主とし、また西北部は新寧金嶺の嶺區の一部に當り金・銀を出す。北端に近く京義本線走りその土城驛(中西面)に近く、交通不便ならず。

【軍浦場】明治三十八年設置あり、東北境を京釜街道沿め、交通便なり。軍浦場は京釜街道沿の稱にて、昔軍兵を此處にて酒食せしめ慰勞せしにより軍地場と稱へたるを後轉じて現名とすといふ。此處より京城・水原にバスを通じ、また定期に開く市場あり取引活潑なり。

【南浦】朝鮮忠清南道海美郡の中南部。島欒院邑の南七軒、西は公州郡に接す。中部に百一二十米の丘陵起伏し、轉月山(二六二米)・將軍峰等あり、美湖川(鶴川)は北より來りて東境を劃し、錦江に注ぎ、後者は錦南面との境を西南流しその右岸にやや廣き平地あり田畑拓く。産物は米・麥・棉等の農産を主とす。京釜街道中部を南北に走り島欒院・公州・靈城の各地へバスの往來あり。街道に沿うて主邑靈城あり、定期に開く市場ありて地方的中心をなす。

【南浦】朝鮮忠清南道海美郡の西部。郡邑瑞山の西南約二〇軒。瑞山半島の主部より南に長く突出せる支脈にて、南端は白沙水道を隔てて安眠島と相對し、西に南海浦を隔てて海見島・蔚美島等の島あり、東に淺水湖の北西支湖なる積り江を抱く。白華山の餘勢のびて造れる半島なるも低平にて丘陵も五〇米を踰ゆるもの殆どなし。海岸はリキス式海岸をなし、西岸には白沙濱を見るも東岸は泥濘地にして、愛敬亭奉行は、産物は米・麥・大豆等の農産、石首魚・鱈・鰻・

鱒・太刀魚・食鹽等の水産あり。道路は泰安邑より南走して安眠島に達するものあれど、海岸には良泊を缺く。

【南浦】朝鮮忠清南道扶餘郡の西部。鴻山面に南隣し、郡邑扶餘の西南一三軒。地東西に長く長さ約一〇軒、南北は二四軒に過ぎず。南境に一〇〇米臺の丘陵東西に連る外は頗る低平にて水田よく拓け、北部を東流する錦江支流金川と鴻山水利組合との灌溉の便を受け、農業頗る盛なり。産物は米・麥を主とし、酒・叭等の工業あり、東部は徳林金鐵の鐵區の一部に當り金・銀を出す。道路の改修よく行はれ、且つ鴻山邑に近きを以て、交通便利なり。

【南浦】朝鮮慶尙北道蔚陵島の東南部。島の中央に聳ゆる聖大峰(九八四米)の東斜面にて、海邊僅に低地あり。海岸は南端の國見岬より北端に至るまで概れ海岸にて、東北岸に近く竹島の島あり。産物は大豆・麥・馬鈴薯等の農産と鰻・鱈・鱒等の水産あり。また牧羊・養蠶行はる。東南岸の道洞は島の主邑にして、元山・浦項及び境との間に定期道路開け、大豆・材木・綿等を移出し、米・酒類、石油・蠟燭等を移入す。蔚陵島嶼・地方法院支廳・漁業組合等あり。島内の内地人は大部分此地に居住し、漁業・交通業、木工業及び仲買等に從事す。(蔚島神社)無格社。祭神、天照大神・大國主命・事代主命。昭和四年七月十九日創祀。

【南浦】朝鮮慶尙北道金泉郡の東部。北は洛東江支流甘川を以て開寧面と對し、金泉郡の東五軒餘。地西北より東南に長し。東南境に金島山(九七七米)・鉢巖山(七八二米)屹立して、これより山腹三條西北にのび、西北部にはやや廣き低地ひらく。耕地はこの低地と東部豁谷に発達するも、豁谷は天井川を成し灌溉の利よろしからず。産物は米・麥・豆類・棉・繭等を主とし、また雲錫金礦ありて金・銀を出す。北部を總督府鐵道京釜本線横ぎり大新(牙浦面)・金泉(金泉邑)の各驛に近く、釜山街道また城内を通じてバスの便あり。

【南江】朝鮮慶尙南道を流るる河。洛東江支流。道の西北境、小白山脈の徳裕山(一六〇八米)に發して南流、香州郡西部にて東折し東北方に蛇曲流をつづけ、宜寧・昌寧・咸安の三郡界に於て洛東江に入る。流程約一八〇軒。支流の主なるものは上流より嘉川・徳川江・順川江等あり。流域は咸陽・山淸・河東・晉州・宜寧・咸安等の諸郡に跨り、上流は森林地をなし、中流以下は沿岸に沃野拓けて道内主要農業地帯を成し、米・麥・棉の産多し。下流約七〇軒間に舟楫の便あり。沿岸は下流に總督府鐵道慶全南道線通ずる外、上流まで良路を通じバス往來し交通至便なり。郡邑は晉州邑を第一とし、その上流には丹城・山淸・安義等の諸邑あり。

【南浦】朝鮮慶尙南道東萊郡の中南部。東萊邑に南隣し、西は釜山府に接し、南は日本海に面す。東北部に三〇〇一四〇〇米の丘陵連り、西部釜山府との境にも二〇〇米前後の丘陵連るも、北より來りて中部を貫き海に注ぐ水呑江の沿岸と東部海邊とは概れ低平にして田畑拓く。農産は米を第一とし大麥・稗麥・棉・大麻・甘藷・果實等あり、特に棉は耕作面積郡中第一なり。西部の廣安里には道立女子棉作傳習所あり。養蠶・養鷄も盛に行はる。水産は鱈・鰻・鮑・蛤・布苔等を主とし、中里に漁業組合あり。總督府鐵道東海線は北より來り海岸に沿ひて水呑・海雲臺の二驛(昭和九年設置)あり、海雲臺と釜山・東萊間にはバスの往復ありて交通便利なり。海雲臺は豊富なる温泉の湧出によりて温泉プールを開設し、旅館設備完備し、避暑地を兼ねる温泉場として遊客多し。泉質、無色透明の鹽類泉。多量のラヂウムを含有し、神經衰弱・婦人病・消化器病・皮膚病等に效あり。其位設置海邊に臨み風光明媚、且つ海水浴場としても著し。海雲臺は國中唯一の市街地にて人口二二三三三、うち内地人二〇六(昭和十一年末)。水呑も亦白沙濱の海水浴場にして設備よく、夏期浴客を以て賑ひ、附近にはゴルフリンクあり。

【南浦】朝鮮慶尙南道海美郡、南海島の西南端にて郡邑南島の南七軒。北部に松

岐山(六一七米)を最高とする丘陵東西に連なり、南部にも二一三米の丘陵崎まじり巒岬山あり。中部に東西に長く低地を見る。海岸は險岸をなす所多く、東部に雲江の灣入を擁するも良泊を缺く。産物は米・麥・棉等の農産、蠶・鮑等の水産を主とす。中部低地にバスを通ずる道路走るも交通未だ便ならず。

【南浦】朝鮮全羅南道潭陽郡の南端。郡邑潭陽の南一五軒餘、東南は和順郡、西は光山郡に接す。小白山脈支脈の成す山地にて、西南方に無等山(一六七米)聳え、餘脈域内に起伏し、東北境に國守峰(五五八米)あり、山腹東南に延びて郡界を成し、北端に發源する同福川支谷に狭長なる低地あり田畑拓く。なほ西部山地には假若江の一支流れてこの流域にも些少の耕地あり。産物は米・麥・繭等。谷治ひに光州・同福間の道路通ずるも、交通未だ便ならず。無等山麓の鶴仙里に唐成通五年の建設に係ると傳ふ石塔あり高さ三米餘、十層八門を有し彫刻巧緻なり、附近一帶は往昔開仙寺ありし地なるも、いま寺基のみを存す。

【南浦】朝鮮全羅南道長城郡の東南部。長城面に南隣し、南は光山郡に接す。西部は丘陵地帯を成すも、中部以東は概れ低平にて榮山江支流これを灌溉し、地味肥沃、農産に富む。産物は米・麥・大豆・棉花・叭等を主とし、また燧成金鐵の礦區の一部に當り金・銀を出す。京城・木

浦の一等道路中部東端を貫き、浦南本線の長城驛(長城面)または林谷驛(光山郡林谷面)に近く、交通便なり。

【南浦】朝鮮全羅南道和順郡の東部。郡邑和順の南に南隣し、東は順天郡、南は寶城郡に接す。中部以東に東北より西南に走る山脈あり、東北順天郡との境の母后山(九一九米)を始め餘脈その他四〇〇一五〇〇米の山連なり、西北境にはこれに並行して走る天雲山(六〇二米)・九峯山・天玉山等を連る山脈あり。東境支脈たる同福川は北より來り中央に於て日靈峰に發する支流を併せて東部山地に横谷を穿ちて東南流し、流域に狭き平地ありて田畑拓く。産物は米・麥・棉・大麻を主とし、また薄荷・果實の産あり。同福川に沿ひ同福に至る道路の外、西北方の東面より來り城内を東南に横きりて棧橋邑へ出づる道路あり、何れもバスを通じ、交通不便ならず。

【南浦】朝鮮全羅南道麗水郡の一面。麗水半島の南部に抱擁せらるる大灣、駕英洋の南方にて、金鷲列島と、その北側なる金鷲水道によりて隔てらるる斗里島・禾太島・横千島等の諸島より成る。金鷲列島は南北一七軒の間に列なる金鷲島・安島・所里島の三大島と附近の大釜島・鹿馬島・鷓島その他の諸島の總稱とす。金鷲島は列島中の北島にて主島を成し、北西―東南の長さ約九軒。樹木密茂し、北端に白山峰(龍頭山、約三九〇米)、南端

には望山(約三四〇米)あり、島岸は險崖をなすところ多し、南東の半室浦、西岸の砂浦・手浦浦等に好釣泊地を有す。地味豊かにて米を除く外、蠶穀を多く産し、養蠶盛んなり。牛島里に事務所あり、其他斗里里・心張里等を主要産落とす。安島は雲水水道を隔てて金鷲島の南東方にあり、頸地によりて東西の二部に分け、山丘起伏し周圍に險崖なれど白今灣・以也灣等の良泊地あり。所里島は安島との間に新江水道と稱する深水道ありて取て、南北六軒餘、東西約二軒あり、南端に飯峯(約二五五米)屹立し、北側に驛浦浦、西側に吐明浦等の灣あり、特に前者は灣内水深く碇泊に適す。南端に所里島燈臺(明治四十三年設置)あり、燈臺は連閃白光にて、六秒半を隔てて三秒半間に三四光を發し、先連二三連、霧信號装置あり、霧笛は五〇秒を隔てて四秒吹鳴し、なほ豫備霧鐘を備ふ。以上諸島の近海は好個の漁場多し鱈・鰻・鮑・鱒等の漁獲多し。

【南浦】朝鮮全羅南道長興郡の中南部。長興面に南隣し、西は康津郡に接し、東は得浪浦に臨む。もとの南上面と南下面を併合新設せし面にて、東西一五軒、南北七一〇軒あり。西部に東北―西南に連る丘陵あり、北に徳佛山(五二四米)・廣泰山、南に芙蓉山(六〇八米)聳え、東部にも老智峰(三三九米)を最高とする丘陵あれども、其他は概れ低平にして、郡中

等の各金銀の積貯の一部に當り金・銀を出す。谷沿ひに錦山・備安間三等道路通じバス

ナンエツ

井縣の北部にあり。新式生輝(南條郡武生町)に起り栗田部を経て戸ノ口驛(今立部北中山村)に至る一四・三軒。新式生輝にて省線北陸本線及び社線福武電車に接続す。軌間一〇六七米、蒸氣・瓦斯輸送にて、省線とは違帯なり。

ナンカ

【南海道】 朝鮮慶尙南道居昌郡の東南部。西は黄江を隔てて居昌面と相對し、東南は陝川郡に隣接す。城内小白山脈の支脈の成す山地にて、北境に金貴峰(八四五米)、東境に朴備山、中部に日余峰(六二八米)、紺土峰等あり。洛東江支流黄江西南境を劃して流れ、その支谷と東南部の加川流域とに僅に低地ありて耕地ひろく。産物は米・麥・棉・大麻等の農産を主とし、養蠶・養豚行はれ、また千歳嶺山ありて金・銀を出す。黄江に沿うて陝川・居昌を結ぶ二等道路通じバスの便あるも、交通概して不便なり。黄江左岸の梁項里に心蘇亭の勝景あり。

ナンカ

【南海道】 朝鮮慶尙南道居昌郡の東南部。東及び東南は高雄郡に接し、西及び西南は楠西庄・玉井庄に、北は嘉善郡・大埔庄に、南は左鎮庄にそれぞれ隣接す。地形は南北に狭長にして、管内は概して山地、曾文溪の一支流、庄の東北方山地に發源して中央を貫流し、西南より出

づ。即ち地勢は東部・西部高くして中央曾文溪に沿ふ處低し。住民は内地人・本島人その他にて合計六一七一人を有し、總戸口は一一七四戸を有す。本庄は僻遠の地に位置し、また地勢諸種の産業に適せざるを以て庄勢甚だ振はず。農業は本庄に於て最重要なる産業にして、甘蔗を第一とし米・甘藷・落花生・胡麻等を産し、他に苧蕉・龍眼・柑類・椪仔(マシゴ)・柿・李・鳳梨等を産す。畜産は専ら農家に於てする牛・水牛・豚・家高等にして、工業に於ては僅かに製糖及び精米業を見るのみ。交通は甚だ不便にして、主なる道路は僅かに、玉井(本郡)―旗山(旗山郡)道路の本庄南部を通過するのみ。公學校一、分教場一あり他、社會教化機關として青年團・國語講習所を有す。庄役場は大字南化にあり。本庄の地は、清領當時建てられたる内新化南里・楠梓仙溪東里・楠梓仙溪西里の各一部を合したる地にて、其の開拓は地勢上甚だ遅れ、道光年間に入り、其れ以前は山番の跳梁に任せられたる地なり。上記三里は我領臺後其行政區別として用ひられ来りしが、大正九年十月の地方制度改正に際し、内新化南里中の南、中坑、善地寮、楠梓仙溪東里中の阿里洞、大邱洞の二庄を有したる地を以て一庄を建て、南化庄とし、臺南州新化郡の管轄下に屬せしめたり。同時に上記の各庄は南

ナンカイ

【南海道】 朝鮮慶尙南道二府十九郡の一。道の西南部に位する島郡。本郡は小白山脈末端部の沈降の結果成りし地域にて、道中第二の大島なる南海島を始め、昌善島及び附近の島嶼より成り、北は水道を距てて洞川・河東の二郡と、西は麗水海灣を以て麗水牛島と相對す。面積三五九・七方軒、道各郡中最小なり。南海島は朝鮮慶島中、瓦濟島・珍島に次ぐ大島にて面積二九七方軒餘、海岸線延長一七二・五軒に達す。島の中央に於て地峽により殆ど二島に分たれ、その地峽の北に南海灣(江津海)、南に盤江灣の二大灣を擁し、東南岸には彌助灣・木島灣等の好灣地あり。彌助灣附近には島・虎島・鼓島等より成る彌助群島、その東北に馬鞍島・豆島、盤江灣口には輪島等の各島

ナンカイ

化庄下の大字となり、南庄は南化、阿里洞は西阿里洞、大邱洞は西大邱洞と改稱せらる。【南海道】 三重縣伊勢國度會郡の東南部。五ヶ所灣の西岸に沿ふ。北境及び西境には高さ二百米臺の山嶺連り西南境に局ヶ頂(三一米)聳ゆ。東岸には山脚海に迫りて岬角突出し、その間に小支灣多く、その岸に中津濱浦・追間浦・磯浦・相賀浦等の聚落あり、全戸數の五割は沿海漁業、二割は遠洋漁業を營み、生産額の大部は漁業に依存し、殘餘の三割は農業に従事し米・麥・藫等を産するもその額多からず。海上による外、陸上交通は不便なり。明治二十二年相賀浦・追間浦・磯浦の三部落を合併して村制施行の際、南海村を建てミナミと呼びしが、のち之をナンカイと改む。【南海道】 畿内八道の一。畿内及び山陽道の南に位し、文武天皇の朝全國を分ちて五十八國二島とせし時以來、紀伊・淡路・阿波・讃岐・伊豫・土佐の六國に分れ、いま行政上は和歌山・兵庫・徳島・香川・愛媛・高知の各縣の管轄に屬す。紀伊國の東部の二郡のみは三重縣の管下に入り、南海道の名は早く文武天皇の朝に顯はれ、使を本道に遣はして官民の状況を視察せしめられしことあり。本道のうち、紀伊は畿内と交渉深く、淡路及び阿波・讃岐・伊豫の諸國は中國地方

あり、また金・銀を出し、沿海には北類・類多し。南海色は而の中郡東部に在り、此地を中心として島内各主要地及び北方河東等に何れもバスを通す。南海郡廳・地方法院出張所等の官衙を始め、公立農業實修學校・酒造組合・金融組合等あり。

ナンカイ

【南海道】 朝鮮忠清南道西海岸の一。瑞山中島の西南海岸にて、東側の一小半島を以て淺水灣と相連り、右小半島の突端なる鞍馬島より北西方の新津島までの間一八軒、奥行約二〇軒。灣口に居兒島・蔚美島等並ぶ。灣奥は泥濘を成し、一部鹽田に利用せられ、洞内東側は一帶に低沙濱をなす。北西方の新津島對岸に安興の良泊地あり。

ナンカ

【南海道】 朝鮮慶尙南道二府十九郡の一。道の西南部に位する島郡。本郡は小白山脈末端部の沈降の結果成りし地域にて、道中第二の大島なる南海島を始め、昌善島及び附近の島嶼より成り、北は水道を距てて洞川・河東の二郡と、西は麗水海灣を以て麗水牛島と相對す。面積三五九・七方軒、道各郡中最小なり。南海島は朝鮮慶島中、瓦濟島・珍島に次ぐ大島にて面積二九七方軒餘、海岸線延長一七二・五軒に達す。島の中央に於て地峽により殆ど二島に分たれ、その地峽の北に南海灣(江津海)、南に盤江灣の二大灣を擁し、東南岸には彌助灣・木島灣等の好灣地あり。彌助灣附近には島・虎島・鼓島等より成る彌助群島、その東北に馬鞍島・豆島、盤江灣口には輪島等の各島

の影響を受くること多し。本道の主要部をなす四國島を全部略せば天正の頃の土佐の長曾我部元親なり。されど豊臣秀吉のために攻められ僅かに土佐一國を保ち、秀吉は徳島に蜂須賀氏、高松に生駒一正、伊豫松山に加藤嘉明、板島(いま宇和島)に藤堂高虎等の譜侯を置きしが、關ヶ原役後、徳川家康は紀伊和歌山に淺野幸長を、淡路洲本に脇坂安治を置き、加藤嘉明を松山に、藤堂高虎を今治に移し、宇和島に伊達氏を置き、山内一豊を土佐に封じたり。大坂役後は洲本の脇坂を伊豫の大洲に移し、池田忠雄をその後に封ず。のち元和年間には藤堂氏を伊勢の津に移し、徳川頼宣を和歌山に封じ、寛永年間には水戸の支藩松平氏を高松に封ず。備後若干の轉封ありしも、幕末に至り、紀伊には徳川氏があり、その家老安藤氏は田邊、同じく家老の水野氏は新宮に居りしが、明治維新後藩制に列せらる。徳島には蜂須賀氏、讃岐の高松に松平氏、丸龜に京極氏、多度津には其支藩京極氏があり、伊豫國には松山に久松氏、宇和島には伊達氏、大洲には加藤氏、今治に久松氏、吉田に伊達氏、小松に一柳氏、新谷に大洲の支藩の加藤氏等の譜侯ありしが、これ等の藩は何れも明治四年には廢されり。同年十一月にはこれ等の縣を廢合してその數を減す。即ち、紀伊國は和歌山縣が本郡の一部を除きて一國を管し、淡路・阿波は北東縣

あり、また金・銀を出し、沿海には北類・類多し。南海色は而の中郡東部に在り、此地を中心として島内各主要地及び北方河東等に何れもバスを通す。南海郡廳・地方法院出張所等の官衙を始め、公立農業實修學校・酒造組合・金融組合等あり。

ナンカイ

【南海道】 朝鮮江原道高城郡新北面の里名。地昔府鐵道東海北郡線の南津原(昭和七年設置)あり。

ナンカ

【南海道】 南樺鐵道 社線。樺太廳鐵道東海岸線の新場驛(大泊郡千歲村)より留多加驛(留多加郡留多加町)に至る一八・六軒。軌間一〇六七米、蒸氣運轉にて、省線と違帯なり。

ナンカン

【南海道】 南樺鐵道 社線。樺太廳鐵道東海岸線の新場驛(大泊郡千歲村)より留多加驛(留多加郡留多加町)に至る一八・六軒。軌間一〇六七米、蒸氣運轉にて、省線と違帯なり。

ナンカン

【南海道】 南樺鐵道 社線。樺太廳鐵道東海岸線の新場驛(大泊郡千歲村)より留多加驛(留多加郡留多加町)に至る一八・六軒。軌間一〇六七米、蒸氣運轉にて、省線と違帯なり。

ナンコー—ナンサ

【南郷村】 静岡縣遠江國小笠郡の中郡。掛川町の南に隣り、西は西南郷村に隣接す。面積二・〇四方軒の小村。南部に百米餘の丘陵起伏するも北部は遠江による沖積低地にして田畑よく開く。米・茶を多産し繭も出す。縣道は西部を南北に通じて掛川町に至り、國道(東海道)および省線東海道本線は北部を東西に走り掛川驛(掛川町)にはバス通ず。人口は大正九年六五二人、同十四年七二九人、昭和五年七九六人、同十年八六三人と増加し、同十年の一方軒密度は四二三人にて全國平均の一八一人より多し。

【南郷村】 福岡縣筑前宗像郡の南部。赤間町の西南に接し南は鞍手郡に界す。南の大半は丘陵山地起伏し西境に許斐山(二七一米)踞居す。北部は低地開けて釣川支流の小河西北流し北境を出でて釣川に合す。低地に田畑ありて米・麥を産し林産もあり。省線鹿児島本線赤間驛は北約一軒、東郷驛は西北約一・五軒にありてバスを通ず。古くは和名抄、宗像郡野坂郷の地とす。大字野坂字王丸はもと許斐の家人許斐氏の據りし所とす。明治四十四年宮田・野坂兩村を撤し本村を置く。【熊野神社】 大字王丸に鎮座。郷社。祭神、事解男命外四神。文徳天皇天安元年熊野權現を勧請すと宗像社記に見ゆ。小早川隆景の崇拝社。例祭、五月五日。【南郷村】 宮崎縣日向國東日布郡の西南

ナンサ

隅。小丸川の水源地を占め、西は西白村郡に、南は兒湯郡にそれぞれ界す。境域には高峰峻嶺多くして地勢險しく即ち空野山(一一二七米)、横鼻山(一一八九米)、三方嶽(一四七六米)、九波山(一三七五米)、笹野(一三四〇米)、高峰・加子山等南境より西境・北境及び東北境へ蜿蜒連りて村境を限り、西北に源流する小丸川迂曲しつゝ中央を東南流し、南部にはその支流渡川をなすつくりて東流し東南約四軒にて本流に合す。小丸川沿岸に稻耕地を見、稻谷には森林多し。農を主とし林業・商業行はる。主産物は米・木炭にして特産に椎茸あり。商業は二、三年前までは殆ど林業と同程度の勢を有したれど、椎茸方面の産物が凡て住友の百萬圓道路に奪はれてより急に衰へを示し物産しき村と化せり。小丸川に沿ふ神門より役する縣道谷を下り、東方約二五軒にある省線日豊本線高野驛に至るバスあり。【神門神社】 大字神門に鎮座。郷社。祭神、伊弉冉命・事解男命外六神。元正天皇の養老二年の創建にして、村民崇敬の社。例祭、陰曆十二月二十日。【南郷村】 宮崎縣日向國南郷郡の東岸。油津町の南方約二軒にあり前面に大島横はる。西境に鍋取山(三六七米)、鹿鳴山(三六二米)等ありて山地を繞らし、中央部に北高上川東流して沿岸に低地をつくる。北部には細田川ありて平地をつくりつゝ、東北流し北國細田村に出で再び南

下して東北境にて海に注ぐ。東岸やや屈曲に富み北方より南方へ觀音崎突出し内側を外ノ浦灣を抱く。こゝに外浦池ありて日向沿岸に於ては細島と共に最佳の泊所をなす。この灣の沿岸に低地廣し。東方海上には大島及び北を外浦崎、南を鞍崎鼻と言ひこゝに燈臺あり。牛農・牛池の村にして主産物は米・生魚にて特産物には榮松・日井兩港の鮎(年産一、二萬圓)、實柑(一、二萬圓)、饅頭(五萬圓)等あり。細田川に沿ひて縣道走り北方飯取町と西方志布志町間のバスを通ず。古くは和名抄、宮崎郡飯取郷の内なるべし。村名は飯取南郷の謂にて建久岡田には島津庄寄部、飯取南郷百十町と見ゆ。【ナンコタイ】 南湖大山 臺灣臺北州・臺中州・花蓮港廳の境上に峙つ。標高三七九七・三米。西段はピヤナン鞍部を経て次高山に連り、南方は合歡山に續く。宜蘭濁水溪・マッキヤ溪・大甲溪等づれれその山脈に源を發し、四方に流下す。

ナンサツ

【ナンサツ】 南薩鐵道 社線。鹿児島縣の南西部、薩摩半島にあり。鹿児島本線の伊集院驛より起りて南に走り日置・伊作・阿多・加世田等を經て牛島南岸に沿ふ枕崎に至る。加世田より西方海岸に近き萬世町の薩摩大崎町に連する支線(一・五軒)あり。また阿多驛に於て社線薩南中央鐵道に、枕崎驛に於て東方海岸沿ひに山川町方面に通ずる省管バスに接

路となり、更に大正水利組合(不二農場、總務府田等の設置により移住者頗り増し今日の盛況を見るに至る。海岸地帯の不ニ農場・南市鹽田の施設は全鮮籍に見る大規模の事業にて有名なり。【ナンシ】 南四面 朝鮮京畿道龍仁郡の西南部。郡邑金良島の南南西約一〇軒。北部には負兒山の山脈餘城域内に延びて一、二百里の丘陵地帯を成し、南東境にも同高の丘陵連るも、中部より西南部へ互りて板城川の流域に廣き平地あり田畑拓く。産物は米・麥・大豆・棉・蔬菜・牛・酒類等を主とす。京釜本線島山驛に近く、同驛より金良場に至るバス路線域内を通じ、交通便なり。【ナンシ】 南巨面 朝鮮慶尙南道昌寧郡の西南部。郡邑昌寧の南約一五軒。洛東江の曲流部に沿ひ北西—東南に長し。一、二百里の丘陵西北—東南に連なり、北部の九陣山(三二二米)、南部の道草山等やや著る。洛東江に沿ひて平地あり、殊に南部の南首里を中心に廣き低平地横はり農業盛に行はる。域内處々に灌溉用池あり、東部の雲山南に近き部分に濕澤地をなす。産物は米・麥・棉・煙草・牛等を主とす。道路は南首里を中心に四通し、雲山その他の主邑地にバスを通じ、北部にも雲山より西走して洛東江右岸各地に至る自動車道路あり、洛東江の水運と相俟つて、交通至便なり。南首里は洛東江に臨める郡中の主要業務の一にし

ナンサン

【ナンサン】 南山 朝鮮咸鏡北道鐵城郡の北西部。鐵城面に南隣し、西は豆滿江を隔てて滿洲國開通省和龍縣と相對し、南は會亭郡に隣る。域内、小長白山脈の餘勢のびて山地をなし、南部には約五百米臺の臺地横はり、曲流する豆滿江岸に狭長なる平地を見るのみ。産物は麥・豆類・大麻等を主とす。滿鐵鐵道總局北鮮西部線江岸に沿うて南北に走り、鶴浦・新田・開坪・上三峰の各驛(何れも大正九年設置)あり、上三峰よりは豆滿江に架せる國際鐵橋(三峰橋)によりて滿洲國の朝開線に連絡し、龍井村・朝陽川等に至る外、龍井村へバスを通じ、また鐵道の東方に鐵城・會亭間の二等道路通ず。上三峰は三峰洞の一部にして、もと江畔の一農村なりしが、大正九年國開鐵道(今の北鮮線)の開通により奥地開島との交通の要衝となり、内鮮人の居住する者多きを加へ、昭和二年に國際鐵橋架設してより益々繁榮を來せり。現在戸數約八百、人口三千三百餘の郡邑となり面事務所・憲兵分遣所・税關支署等あり。京開線南龍線(朝開線)の廣軌改裝後は新京と清津・京城方面とを繋ぐ交通の要點となり、軍事上・經濟上今後益々重きを加へんとす。對岸の開島省開山屯その他との間に貿易行はれ、昭和十一年中貿易額は輸出八

て、内地人居住者も相當あり、水利組合・金融組合・市場等あり。【ナンシ】 楠梓庄 臺灣高雄州岡山郡の時南に位置す。東南は仁武庄に接し、西南は左營庄に、東北は燕風庄に、北は岡山街に、西北は彌陀庄に夫々隣接す。管内は概ね平地にして山と稱すべきものなく、處々に水田拓く。總戸數三二〇三、總人口一八六〇六。住民は内地人・本島人・支那人にして、本島人は總人口の約八割を占む。本庄下諸種産業中、大宗をなすのは農業にして、その耕地面積は四千町歩に達せんとし、郡下第一の農業地帯なり。生産の主なるものは、米・甘藷・甘蔗・蔬菜・落花生とす。畜産は農に亞ぐ重要産業にして、農家に於て飼養的に畜牛・養豚・養鶏を營むもの多く、管外輸出も著し。商工業に於ては北に臺南市、南に高雄市を控ふるを以て、本庄下に於て特に發達せるものなし。本庄に於ける交通状態は甚だ良好にして、鐵道は本庄を南北に通じて、管内に橋子頭(明治三十四年設置)・楠梓(明治三十三年設置)の兩驛を設け、道路もまた完備して自動車の運行自由なり。本庄は我領臺後大正九年十月、當時臺南廳に屬せし歡喜中里下の五庄、牛群里下の一庄、仁壽下里下の七庄(以上何れも現大字)の地を合して建てられし一庄にして、庄役場の所在地なる大字橋子頭は、早くより一街街を形成し、小店仔街と稱せり。

ナンサ—ナンシ

七萬二千圓、輸出入一萬四千圓にして、累年増進の趨勢にあり。前記の三峰橋は延長三二一米、人道・軌道に分れ、日支合辦の出資により朝鮮總督府鐵道局に於いて築せるもの。上三峰驛の東北約一軒の山上に烽火臺あり。住時當地方の住民が三箇の烽火臺を設け女眞族の侵寇に備へたるものにして、地名は蓋し之に因る。新田は三峰洞の南方江岸に位し僻村に過ぎざるも、間島大霧洞と極めて接近し、警備上の要地として知らる。【南山】 山東省(朝鮮咸鏡南道)【南山金山】 朝鮮忠清南道の鐵山。鐵山は公州郡通川面と扶餘郡草村面とに跨る。鐵山は金及び銀とす。本山一帯の地質は複雲母片麻岩及び眼球片麻岩にして時に雲母片岩を介在し、また花崗岩及び煌斑岩の岩脈をなす。鐵脈は含金石英脈にして黃鐵礦・方鉛礦等を伴伴し、稀に自然金を産することあり。鐵脈は鐵幅一米餘のものを始め大小十餘條あり。本山は大正四年採鐵製鐵を開始せしが、同十一年乃至昭和五年に蘆田鐵業株式會社の所有に移り昭和七年三月稼行に再著手せり。主として徳太製により採業し、採鐵は論山驛に搬出し、元山蘆田製鐵所買鐵所に賣鐵す。【南山面】 朝鮮慶尙北道慶山郡の南部。郡邑慶山の東南約八軒、南部の清道郡との境及び西部に五〇〇—六〇〇米の丘陵連なり、餘脈北に數條のび、東境には龍

山あり。平地は北部の琴湖江支流沿岸と中部の支谷間にあり、また丘陵地帯の間所に灌溉用池を設く。農耕盛に行はれ米・大豆等いづれも良質のものを生し、其他大豆・小麥・棉花・葉煙草・繭等の農産あり。東部を南北に通ずる道路あり北方善仁に近きも、交通未だ便ならず。【ナンサン】 南山會 關東州金州民政署管區の西南端。金州地峽部の西北面に於て東北は金州會につづき、西南は大連民政署管區の大連會に隣り、西北は金州驛に臨む。地東北より西南に延び西南境上には大旺山(三三六米)、烟筒山(一〇五七米)の丘陵相連り、東北にも南山(一一七米)あるもその他は概ね平坦にして農業行はる。大連・金州間の道路中部を斜に走り、また滿鐵連京線の大房身驛(大連灣管内)・金州驛に近く交通不便ならず。南山は高からざるも金州地峽の中央部を扼する要害にて日露戰役に奧大將の率ゆる第二軍が筑紫・平遠・赤城・島海四艦の協力を得て死守する露軍を攻撃し惡戦苦闘遂に陥落せしめし古戰場として著はれ、當時露軍の倒斃せし屍塚の址は今も松林の内に残れり。山頂に戰蹟塔、附近に鎮魂碑建つ。【ナンシ】 南市 朝鮮平安北道龍川郡外上面の東北部に位する町。總督府鐵道京義本線の南市驛(明治四十一年設置)あり。此地は鐵道開通以前は微々たる寒村なりしが、驛設置以來龍川浦への最短經

ナンシ

【ナンシ】 南西 朝鮮慶尙南道昌寧郡の西南部。郡邑昌寧の南約一五軒。洛東江の曲流部に沿ひ北西—東南に長し。一、二百里の丘陵西北—東南に連なり、北部の九陣山(三二二米)、南部の道草山等やや著る。洛東江に沿ひて平地あり、殊に南部の南首里を中心に廣き低平地横はり農業盛に行はる。域内處々に灌溉用池あり、東部の雲山南に近き部分に濕澤地をなす。産物は米・麥・棉・煙草・牛等を主とす。道路は南首里を中心に四通し、雲山その他の主邑地にバスを通じ、北部にも雲山より西走して洛東江右岸各地に至る自動車道路あり、洛東江の水運と相俟つて、交通至便なり。南首里は洛東江に臨める郡中の主要業務の一にし

ナンシ

【ナンシ】 南西 朝鮮慶尙南道昌寧郡の西南部。郡邑昌寧の南約一五軒。洛東江の曲流部に沿ひ北西—東南に長し。一、二百里の丘陵西北—東南に連なり、北部の九陣山(三二二米)、南部の道草山等やや著る。洛東江に沿ひて平地あり、殊に南部の南首里を中心に廣き低平地横はり農業盛に行はる。域内處々に灌溉用池あり、東部の雲山南に近き部分に濕澤地をなす。産物は米・麥・棉・煙草・牛等を主とす。道路は南首里を中心に四通し、雲山その他の主邑地にバスを通じ、北部にも雲山より西走して洛東江右岸各地に至る自動車道路あり、洛東江の水運と相俟つて、交通至便なり。南首里は洛東江に臨める郡中の主要業務の一にし

橋子頭の名は、鐵嶺臺灣府志に「小店仔橋、在小店仔街、木梁長二丈許、與馬可通、俗呼橋仔頭」より出でしなるべし。また大字橋梓の地は、清の康熙中葉頃より福建の泉州人來り附近に繁茂せる橋梓樹の伐木に従ひて、一草店を形成し、爾來風山縣下の興隆莊の要路として發達し、橋梓坑街の名を以て知られたるも、我領臺後大正九年十月の地方制度改正に際し、橋梓と改められたり。

ナンシセン 楠梓仙溪

↓下淡水

【南終面】 朝鮮京畿道廣州郡の東北。京安里の北一〇軒に位し、北は漢江を隔てて楊平郡と相對す。南境に最高五〇〇米臺の丘陵連り北に傾斜す。北部は漢江本流の曲流部に當り、また北漢江と小支度安川何れも北西境にて之に合流し、沿岸やや廣き平地をなし田畑拓く。産物は米・大豆・大豆等を主とす。西部に三等道路通じ、また漢江に舟運の便あり、交通不便ならず。街道に沿ひ主邑分院里あり、その北方江岸の牛川里は一泊津をなし、定期に開く市場あり。

ナンシヨ 南松面

【南松面】 朝鮮平安北道寧邊郡の北部。郡邑寧邊の東北約二〇軒、西北は雲山郡と境す。北部に秋陰嶺山脈の支脈延び來りて雲臺山(八三八米)聳え、東南境には元通山・天啓峰あり、西方に低夷す。九龍江は西境を

劃して南流し、東部山地に發する支谷を穿れ、その流域に低地ありて田畑拓く。産物は米・粟・大豆・玉蜀黍・棉等を主とし、また福徳嶺山・佐藤金山(何れも鎮區の一部)及び常徳嶺山等より金・銀を、光徳金礦(鎮區の一部)より砂金を出す。中部を西南—東北に穿過し、照川間の道路貫きバスを通じ、また東部には浦浦嶺の北新驛(北新驛面)に發して雲山郡の温井温泉に至る輕便鐵道通ずるも、交通未だ便ならず。

ナンシヨ 南上上面

【南上上面】 朝鮮慶尙南道居昌郡の南部。居昌面に南隣し、東は陝川郡に隣り、西は咸陽郡に接す。東南部に小白山脈に屬する六一七米の山脈連り南境に龍岳山(九五米)あり、北西に低夷し、西境にも四一五米の支脈走る。河川は洛東江支流黃江東北境を流れ、西部山地間の谷間を流るる支流を穿れ、その沿岸に狭長なる平地ありて田畑拓く。産物は米・黍・棉・蕎麥・大麻・莞草を主とし、鹽路行路す。黃江對岸を居昌・陝川間の二等道路通じ、また北部の西邑茂村里と居昌間にバスの便あり、北部は交通不便ならず。

ナンシヨ 南條

【南條】 千葉縣下総國匝根郡の西端。八日市場町の西方にある小村にて間に豊榮村を挟む。北は香取郡に接し、西は山武郡に隣す。北部には低き丘陵地あるも丘陵間より南部にかけては低地ありて九

十九里濱沿岸平地の一部をなし、米・蕎麥を産し、粟も行はる。縣道は八日市場町及び西南隣山武郡横芝町に通じ、省線總武本線また之に沿ひ東部を掠めて東北に走るも村内に疎なく、横芝町に横芝驛ありてバスを通ず。此地は和名抄、原城郡石室郷の内なり。大字芝崎に芝崎城址あり、千葉系關に岩室貴胤の弟を小田部胤忠といひ、天正年間この城に居りしものなり。

ナンシヨ 福井縣(越前國)十一郡の一

北は丹生郡、東北は今立郡、西南は敦賀郡、東は坂本縣伊吹郡、南は滋賀縣伊香郡に各隣接し、西は若狹郡に臨む。東境には南より三國ヶ嶽・三國ヶ嶽・美濃俣丸・雙ヶ峯・金草岳等の千二百米以上の山嶽連り、南境には三國ヶ嶽より分れて上谷山・糠ノ木峠・鉢伏山等あり、北境にも段ノ岳・岩谷山・日野山等の支脈を出す。東部にはオノタ山・足谷山・矢良山岳・金カヅ等の連山南に連り、東端は海に迫りて臨崖をなしアマゴセ山(四〇〇米)著はる。郡内はかく山岳重疊し平地に乏しく、南部山地に發源し中部を北流する日野川流域に僅に沖積低地あり。氣候は多雨多雪の地にして宅良村の如きは三〇〇〇年の年降水量あり、今莊村は越後の高田市と共に降雪地として著はる。然し海岸一帯は比較的暖く降雪量も大ならず。産物には製紙・織物・打豆物・養蠶・木村・薪炭あり、穀中稲物には平

(一四六〇米)・寺越山・金把山等聳え、中央には高徳山(一四七米)聳居す。南方の令鹿峠下に發源する慈城江は城内中部を北流して、雲洞川その他の支谷を併せ、沿岸僅に低地ありて耕作行はる。全城の大部分は森林地帯にして紅松・落葉松等の老樹繁茂し、特に東部の五佳山原始林は名高し。産物は用材を第一とし、農産に粟・大豆等あり、西事務所所在地格和洞の南に厚昌嶺山ありて湖を産す。慈城江に沿うて江界・慈城間の二等道路通じ、途中北部の佳山洞より五佳山を踰えて郡邑厚昌に至る二等道路を駛ら、何れもバスの便あり。

ナンシケン 南新規面

【南新規面】 朝鮮平安北道寧邊郡の東北。郡邑寧邊の東北約一三軒、西は九龍江を隔て、雲山郡と相對す。地東西に狭長にて東端の清川江岸より西端まで約二〇軒、南北は五—八軒あり。南部及び東部に妙香山脈の餘脈連なり、南境の耳山(五四二米)や若若はれ、その西北なる秋洞山の山脈北に延びて一分水嶺を成し、以東の水は清川江に注ぎ、西部の水は九龍江に入る。主知作農業行はれ、米・粟・大豆・玉蜀黍・大麻等の農産あり、また光徳金礦(鎮區の一部)より砂金を、貴祥金礦より金・銀を出す。西部に寧邊・照川間の三等道路走りバスを通ずるも交通未だ便ならず。

ナンセー

流源出雲山の南方、標高約六百米の地に位す。昭和五年四月の郡改組に依り、稻束社・白毛社・白毛阿冷社の三社を合併、ナンセイ社と改稱し、平時は自給自足三名が各善社を支配し居れども對外的に行動する場合は一致團結圓滿なる部落なり。アマヤル族の南勢部に屬する高砂族の部落にて戸數四八、人口一七五(昭和十一年調査)。

ナンセー 南西

【南西】 朝鮮平安北道朔州郡の中部西端。朔州面の南に隣り、西は義州郡に接す。嶺東時山脈東西に走り、西南の郡界に天摩山(一六九米)屹立し、北境には五峰山(八八二米)・昇峰嶺・龍峰等東西に連り、漸次東南方に低夷す。これ等山地の諸水は漸次東流して大寧江の上源をなし、その流域に狭き低地ありて田畑拓く。農産に米・大豆・玉蜀黍・粟・大麻等あり、また雲昌金礦・摩南金山(鎮區の一部)・元昌金山等ありて金・銀・鉛等を出す。中部を南北に定州・朔州間の二等道路通じてバスの便あるも交通未だ便ならず。大寧江畔の新温湖に温泉湧出す。

【南西】 朝鮮平安北道定州郡のほぼ中央。定州邑の西南に隣り、南は西朝鮮鎮の一支部に臨む。もとの南面及び西面を合せてなるものにて南北一三軒、東西八一〇軒あり。城内に老年性丘陵起伏して平地に乏しく、西境の臨海山(二〇一米)や、若若はる。臨川江東境を劃し南して海

に注ぎ、その一支中北部を東に流れ、此等の流域に西部海邊に田畑拓く。海岸は出入に乏しく且つ泥堆地にして泊津を狭く。鮫島・鰐島の屬島あり。産物は米・黍・粟・大豆・棉・麻等を主とし、また養蠶・牧牛行はる。總督府鐵道京義本線は中部を東西に貫き、その定州驛(定州邑)に近きも交通未だ便ならず。

ナンセー 南勢

【南勢】 臺灣總督府鐵道臺中線の一驛(大正三年設置)。新竹州苗栗郡苗栗街南勢坑にあり。

ナンセー 楠西庄

【楠西庄】 臺灣臺南州新化郡の北部。東は南化庄、西は烏山嶺を以て曾文郡官田・大内兩庄に、南は玉井庄、北は嘉義郡大埔庄に夫々隣接す。管内は周圍高く、中央低くして盆地をなし、南方に低く、河川の主なものは曾文溪にして、庄の北部より入り來りて中央を貫流し南より庄外に出づ。住民は内地人・本島人・支那人にして、總戸數八二五、人口四一五九人に過ぎず。本庄住民の生業をなすものは農業にして、庄總戸數の約八割は農業に従事す。其主産とする處は、米の約七萬圓、甘蔗の十五萬圓、甘蔗の三萬五千圓、落花生の五萬圓とす。其他園藝作物として、芭蕉・龍眼・鳳梨・柑仔・柑類の五萬圓あり。山地よりは木材・薪炭材・竹材等を出し、また官私立の造林地にはチナ・相思樹等の造林をなす。畜産は黄牛・水牛・豚・家畜等なるも、其大部分は農家に於て飼

地羽二重あり、製紙の島の子紙・墨波染紙も廣く知らる。南部山中には無有模範林あり。海産物には蟹・雲丹・鱈・鯛・烏賊・鰯等あり、日野川の鮎も有名なり。國道北陸道は中部を南北に通じ、北部にて國道敦賀道と合す。省線北陸本線は庄北陸道に沿うて走り敦賀郡との境には山中越のトンネルを穿つ。郡名の起原は不詳。然れども東大寺文書に南七條二里とあれば南は國府(武生町か)の南方の義。惟は條里の制の遺れるものと云ふ。源平時代以前に丹生・敦賀の二郡より分ちて一郡となし南條若しくは南中條郡と號す。即ち、和名抄、丹生郡の岡本郷・從省郷及び敦賀郡鹿島郷の地なるべし。鎌倉時代に府中郡或は國中郡と稱せしは今の丹生郡の南部と本郡の北少部分の總稱なるべし。寛文四年の頃に南條郡と稱せり。しかれどもまもなく南條郡に復し、世俗間にては寛文年中と雖も南條郡と稱せしが如し。

ナンシヨ 讚岐國(香川縣)の古郡名阿野郡

【南條】 讚岐國(香川縣)の古郡名阿野郡を中世私に南條・北條二郡に分つ。蓋し綾川の下流を北條とし上流を南條郡と呼びしが、近世に至り寛文年中稱に復す。*阿野(郡)

ナンシヨ 南新面

【南新面】 朝鮮平安北道厚昌郡の西南。厚昌面に南隣し、西北は慈城郡、西南は江界郡に接す。蓋馬高臺の北縁部に當り、東部に國梁峰(一四九七米)・雲洞山・五佳山等、南境に格和山

業的に營するものなり。工業には製糖及び精米あり。交通は其地勢上よりして便と云ふべからざるも、近年臺南州當局の道路開發計畫の施行せられし結果著しく面目を一新し、自動車の運行を見事に到れり。本庄の地は概ね清の光緒十四年建てられたる楠梓仙溪西里に屬し、康熙年代には概ね荒埔に屬せしが、雍正初年以來密植・茄牧(現大字楠西)・湖坑・鹿角洋・龜丹附近の他逐次開拓せられ、隣庄なる玉井(鹿吧咭)は其中心市場を形成し居たり。本里は我領臺後も引續き其行政區劃の一として採用せられたるも、大正九年十月の地方制度改正に際し、楠梓仙溪西里中の五庄(現大字)・善化里東邊中の一庄(現大字)の地を合して楠西庄なる一庄を建て、臺南州新化郡の管轄に歸せしめたり。

ナンセキ 南夕

【南夕】 朝鮮總督府鐵道鳳凰山線の一驛(昭和八年設置)。成鏡北道吉州郡長白面にあり。

ナンセン 南川

【南川】 朝鮮總督府鐵道京義本線の一驛(明治四十一年設置)。黃海道平山郡寶山面にあり。【南川面】 朝鮮慶尙北道慶山郡の西南。慶山面の南に隣り、西は建城郡、東は清道郡に接す。西境殆ど山を繞らし、東南境に龍角山(八九七米)・仙鏡山、西境に屏風山(五六八米)、北境に栢柴山・善岩山等聳え、南方郡境に發源して北流

する南川(琴湖江一支)の流域に僅に低地あり田畑ひろく。産物は米・黍その他雑穀を主とし、また西部は海昌嶺山の嶺區の一部に當りて金・銀・ダングステン等の産あり。鐵道京釜本線は南部郡界に延長二・三軒(朝鮮最長)の隧道を穿ちて南内に入り、南川に沿うて北走し、中央に三省驛(大正十五年設置)あり、釜山街道これに並走し、交通便なり。

【ナンセン】 南先面 朝鮮慶尙北道安東郡の中部南端。安東邑に南隣し、南は義城郡に接す。南部は大白山脈支脈のなす山地にて、南境に葛羅山(五七〇米)、騎龍山等聳え北方に低夷し、北境を牛邊川東より來りて洛東江に合し更に西流するも、沿岸は砂地にて水田に乏し。耕地は丘陵斜面及び西部の眉川支谷に沿うて發達す。産物に米・大豆・豆類・棉・大麻・繭・牛等あり。道路は何れも坂路多く、交通不便なり。

【ナンセン】 濼川面 朝鮮忠清南道公州郡の西南隅。公州邑の西南約一五軒、西北は錦江を隔て、青陽郡に對し、南は嶺山・扶餘郡に接す。高車二百米前後の丘陵東北—西南に連り、北境に新起嶺あり、西北境を劃する錦江と、東部を流るゝその支流の流域に平地ありて田畑拓く。産物に米・黍・豆類・棉・莞草等の農産を主とし、また新塔(嶺區の一部)・如代・三利(一部)・大成・加尺(一部)の諸金礦ありて金銀を出し、龍城・發香の

諸嶺山よりは金・銀・銅・鉛を産す。三角里より北方の公州、南方の扶餘・慨山にバスを通じ、交通不便ならず。

【ナンタイ】 男體山 一に二荒山。日光火山群に屬する新鮮なるコニアの火山體にて、標高二四八四米。山麓には學寮湖たる中禰寺湖を流し、日光火山群のうち赤蕨・女華の二コニア火山の活動が止みより最後に噴出せしものにて、華嚴・龍頭ノ瀨等を形成する熔岩流を噴出し、日光西部に臺地状をなす。丹勢山もまた男體の熔岩流なり。男體火山の活動のうち最後のものは北麓の大眞名子・小眞名子・太郎・山玉帽子・三ッ岳のトイデアを形成せるものなり。男體の山頂には北に傾き舊火山口あり。火山原形には今は数條の溝が発達してコニア火山の幼年

期開折の標式的の狀態を示す。山上には二聖神社祀らる。中宮祠の背後より山頂へ登山道通じ、毎年八月一日より一週間は「お籠り」と稱し、登山者の白衣と六根清淨の聲、麓より頂まで續く。

【南大川】 朝鮮咸鏡南道南部の河。小長白山脈に屬する萬塔山(二二〇五米)の南面に發源して南流、ついで吉州地溝帯に沿うて南流をつづけ城津・吉州兩郡界に於て日本海に朝す。流域約一〇〇軒、流域面積一三〇〇方軒に及ぶ。江口より約四〇軒まで舟楫の便あり。沿岸に吉州邑あり。

【南大川】 朝鮮咸鏡南道東部の河。一に編川南大川。甲山郡の東南隅、赴職嶺山脈に屬する天火嶺北方の山中に發源し、幾許もなく豐山郡に入りその東部を南流したる後、編川郡に入り東南に蛇曲流して編川邑南方にて日本海に注ぐ。流域一六〇軒、流域面積は二四〇〇方軒に及ぶも、山地を先行するを以て沿岸平地に乏しく、僅に河口に近く編川平野を拓くのみ。上流は密林地帯を成し、またマダネサイトを始め各種の礦産に富む。近時上流に大規模の發電事業起る。

【南大川】 朝鮮咸鏡南道東部の河。一に北青南大川。北青郡の北境なる赴職嶺山脈南斜面に發源して南流し、車書川を合せてより流路を東南に轉じ、新昌邑の中央にて日本海に朝す。流域六六軒、流域

面積二〇〇〇方軒を超え、流域に平野拓け米・大豆の産多し。流路に沿ひ甲山街道及び鐵道北青線を通じ、沿岸に北青・新昌の諸邑あり。

【南大川】 朝鮮咸鏡南道南部の河。一に安邊南大川。江原道平康郡の東北部、竹駕嶺地溝帯北縁の高原に發源し、北流すること約一五軒にて咸鏡南道に入り西の馬息嶺山脈、東の大白山脈に發する諸水を兼ね、安邊郡内に北流を續け水興洞に注ぐ。流域延長八二軒、流域面積一三〇〇方軒に近く、下流流域は沃野ひらけて農産に富む。鐵道京元線は殆ど河谷に沿うて南北に通じ沿岸の交通便なり。

【南大川】 朝鮮江原道西部の河。道の西北部、九月山脈南斜面に發源し始め南流、ついで西流し、信川・松禾兩郡を過ぎ、長淵郡に入りて魚川を合せ、郡の中部を西し、入江の河口をなして芝山に注ぐ。流域約六〇軒。舟楫の便に乏しきも、下流流域は道の西部に於ける主要農産地帯をなし大豆・棉の産多し、上流沿岸には温泉多く湧出す。

【南大川】 朝鮮江原道西部を流るる河。慶尙北道との境に連る大白山脈支脈の金藏山(八四九米)・白岩山(一〇〇四米)等に發源し、之の上流は蔚珍郡温井面の東部に於て合流、東流して平海邑を過ぎ、日本海に注ぐ。流域延長約二〇軒。

【ナンタイ】 南臺峰 朝鮮江原道の西南部、原州郡神林町・板官町及び奉遠郡

本周囲の境に對し、標高一八二米。北坂は雄岳山(一一二八米)に續き、附近山中には上院寺をはじめ古刹多し。山の北面には酒泉江支流、南面には堤川川が發源す。

【ナンチー】 南中 朝鮮總督府鐵道惠山線の一驛(昭和十年設置)。咸鏡南道甲山郡雲興面にあり。

【ナンチー】 南亭面 朝鮮慶尙北道盈徳郡の東南隅。郡邑盈徳の南約一五軒。南は迎日郡に接し、東は日本海に臨む。西部に大白山脈に屬する高車五十六百米の山岳南北に連り、東方海岸に向つて傾斜し、海岸に近く風嵐山(二七一米)あり、城内平地に乏し、海岸線延長一〇軒に近きも出入に乏しく板板船運をなし、良泊を缺く。産物に米・黍・雜穀等の外、鱈・鱈・太刀魚・海草等の漁獲あり。また寶鏡嶺山(嶺區の一部)・南雲金礦ありて前者より金・銀・銅を、後者より金・銀を出す。海岸に沿うて盈徳・浦項間の二等道路通じバスの便あるも、西部は坂路多く交通便ならず。

【ナント】 南投 朝鮮中州二市十一郡中の【南投郡】 慶湖臺中州二市十一郡中の

【ナント】 南都 奈良の別稱。平安京を北京と云ふに對す。また觀山の北嶺に對し、奈良の興福寺を南都と稱せしこともあり。蓋し平安末期より興福寺は僧兵を蓄へ朝廷へ敬訴せしより觀山に相對してかくいへるなり。奈良市

【ナント】 南投 朝鮮中州二市十一郡中の【南投郡】 慶湖臺中州二市十一郡中の

【南投街】 慶湖臺中州南投郡の主邑。郡の西部中央に位置し、東は中安庄、西は員林郡下の員林街及び社頭庄、南は名間庄、北は草屯庄に夫々境を接し、東西九軒餘、南北八軒の四角状地形を呈し、面積約七三方軒。西部は八卦山脈東麓の臺地、東部は中央山系餘脈の丘陵性山地によりて占められ兩者の間に謂ゆる南投盆地を介在せしむ。軍功寮及及び二重溪は共に東隣中安庄の東部山地に發源し、管内に入り中央部に會して南投溪となり、平野を灌溉しつゝ、西北に流れて管外に去る。市街は大宇南投に在り、臺中を南に距ること二八軒餘、當方面に於ける政治・商業・交通等の中心として重きを爲し、市區計劃完成せしより街衢整然、近代都市として面目を一新せり。管内は地勢上平野比較的狭少なも、南投溪による灌溉の便ありて、中央部には水田よく發達

【南投街】 慶湖臺中州南投郡の主邑。郡の西部中央に位置し、東は中安庄、西は員林郡下の員林街及び社頭庄、南は名間庄、北は草屯庄に夫々境を接し、東西九軒餘、南北八軒の四角状地形を呈し、面積約七三方軒。西部は八卦山脈東麓の臺地、東部は中央山系餘脈の丘陵性山地によりて占められ兩者の間に謂ゆる南投盆地を介在せしむ。軍功寮及及び二重溪は共に東隣中安庄の東部山地に發源し、管内に入り中央部に會して南投溪となり、平野を灌溉しつゝ、西北に流れて管外に去る。市街は大宇南投に在り、臺中を南に距ること二八軒餘、當方面に於ける政治・商業・交通等の中心として重きを爲し、市區計劃完成せしより街衢整然、近代都市として面目を一新せり。管内は地勢上平野比較的狭少なも、南投溪による灌溉の便ありて、中央部には水田よく發達

【南投街】 慶湖臺中州南投郡の主邑。郡の西部中央に位置し、東は中安庄、西は員林郡下の員林街及び社頭庄、南は名間庄、北は草屯庄に夫々境を接し、東西九軒餘、南北八軒の四角状地形を呈し、面積約七三方軒。西部は八卦山脈東麓の臺地、東部は中央山系餘脈の丘陵性山地によりて占められ兩者の間に謂ゆる南投盆地を介在せしむ。軍功寮及及び二重溪は共に東隣中安庄の東部山地に發源し、管内に入り中央部に會して南投溪となり、平野を灌溉しつゝ、西北に流れて管外に去る。市街は大宇南投に在り、臺中を南に距ること二八軒餘、當方面に於ける政治・商業・交通等の中心として重きを爲し、市區計劃完成せしより街衢整然、近代都市として面目を一新せり。管内は地勢上平野比較的狭少なも、南投溪による灌溉の便ありて、中央部には水田よく發達

【南投街】 慶湖臺中州南投郡の主邑。郡の西部中央に位置し、東は中安庄、西は員林郡下の員林街及び社頭庄、南は名間庄、北は草屯庄に夫々境を接し、東西九軒餘、南北八軒の四角状地形を呈し、面積約七三方軒。西部は八卦山脈東麓の臺地、東部は中央山系餘脈の丘陵性山地によりて占められ兩者の間に謂ゆる南投盆地を介在せしむ。軍功寮及及び二重溪は共に東隣中安庄の東部山地に發源し、管内に入り中央部に會して南投溪となり、平野を灌溉しつゝ、西北に流れて管外に去る。市街は大宇南投に在り、臺中を南に距ること二八軒餘、當方面に於ける政治・商業・交通等の中心として重きを爲し、市區計劃完成せしより街衢整然、近代都市として面目を一新せり。管内は地勢上平野比較的狭少なも、南投溪による灌溉の便ありて、中央部には水田よく發達

方に係り、爾來拓殖の區域を漸く乾隆二十四年南投の市街に縣丞を新設せらるゝに到れり。明治二十八年帝國領事後數次行政上の變遷を経、時に辨務署、時に廳を設置せられたるも、大正九年十月に五里地方制度の改正と共に清領時代より存續し來りし堡を廢して南投街となり、臺中州南投郡に編入せられたり。

【南島】 筑紫の南方の諸島の稱。即ち多摩・飯久・奄美・鹿嶋等の薩南諸島を稱す。

【南洞面】 朝鮮京畿道富川郡の東部。仁川府の東約四軒。地南北に長く、南は江華灣の支河に臨む。東部には蘇萊山(二七九米)を最高とする丘陵連り、餘は南の半島部に延びて平地比較的乏しきも、中央部と海邊とは低平にて田畑拓く。海岸は淺淺にして、官營鹽田として利用せられ、謂ゆる朱安鹽田の主要部分にて、製鹽高麗多し。農産に米・大豆・棉・荏・果實等あり。南部を社稷朝鮮京畿道の水仁線(狹軌)走り、蘇萊・南洞の二驛あり。北部には仁川・水原間の道路通じバスの便あり。

【南斗日面】 朝鮮咸鏡南道咸鏡北道咸鏡南道咸鏡東道咸鏡西道の東北。郡邑咸鏡川の北約二五軒。東は咸鏡北道咸鏡南道に接す。南北二五—三〇軒、東西一八一—二〇軒に及ぶ廣大なる地域を占む。東部に摩天嶺山脈走り、南に龍山(五九八米)・咸鏡山脈

等連り、西部には天火嶺の餘脈走りて西下而との境に萬塔山(二〇〇三米)・赤木嶺・山崎山・覆蓋峰(一五六五米)など聳え、北隣の北斗日面より來る北大川は此等東西兩山間に縱谷を造りて南流するも、殆ど平地を見ず。住民は多く山間傾斜地に畑作農業を營み、傍ら養蠶・採薪等に從事す。農産は燕麥・馬鈴薯・大麻等を主とし、新興黒龍山より黒鉛を、雲松ニツケル嶺山(嶺區は北斗日面に跨る)より金・銀・銅・硫化鐵等を出す。中部縱谷を南北に三等道路通ずるも改修進まず、交通不便なり。

【南屯庄】 臺灣臺中州大屯郡の西部中央。東は臺中市、西は大甲郡大肚庄、南は烏日庄、北は西屯庄に夫々境を接す。東西九軒餘、南北六軒餘の矩形をなし、面積三五方軒餘。西邊に海岸丘陵たる大肚山脈の低き臺地ある外は總て平坦にして、後子溪は北隣西屯庄より來り中央部を南下して烏日庄に去る。面積比較的狭小なるも、平地多く、水利に恵まれて水田廣く展開し、純農村を形成す。農作物は水稻を主作とし、米の産額歴例的にして、他に甘蔗・蔬菜・甘蔗・烟草等の栽培行はる。畜産は勞作用の水牛・黄牛の外、豚・鶏・鴨・鵝等の家畜・家禽類多く、消費都市たる臺中を東隣に控へて益々増加の趨勢にあり、一般家庭に於て副業的に善く飼育せらる。管内には都路道路四通八達し交通便利なり。本庄

は現行制度以前總て據東下藩に屬し、南屯は整頓店街と稱し、初め平埔蕃族のゲアガア(獨語)社の占居地なり。康熙の末年以來漢族によりて開拓の緒を開かれ、爾來移來者年を逐うて多きを加へ、雍正年間、整頓店は市街を爲すに至り、同九年には巡檢を設置せられたり。因みに整頓店なる地名の起りは、地方開拓後、農業益々發達し農具たる「整(鋤)の先の金具(臺灣語にて整頓と稱す)を製造して販賣せし店多かりしに由るといふ。乾隆二十九年に成りし臺灣府志(續修)にその名見え、同五十一年林爽文の亂に際し全く兵燹に罹り、五十三年之を再建せしが、爾後街勢衰微せり。明治二十八年帝國領事以來、數次行政上の變遷を経て大正九年十月に至り、地方制度の根本的改革と共に清領時代より存續し來りし堡を廢せられ、整頓店街を大字南屯と改稱し、十八大字を以て南屯庄となり、臺中州大屯郡に編入せられたり。

【南二】 朝鮮忠清北道清州郡の中西部。清州邑の西南約五軒、西端は忠清南道蕪城郡に接す。南部に高阜約三〇〇米の丘陵東西に連なり風舞山(三四七米)や若者は、餘は北に延びて望日山・八峰山等を起す。西部の錦江一小支と東部の無心川支流流域とに低地あり、田畑拓く。農作物は米・麥・豆類・棉・烟草・繭等を生じ、また清南・三風の嶺山あり風雨、

九或・安心・作山の諸嶺山の嶺區の一部にも當り何れも金・銀を出す。清州・美江を結ぶ道路東部を貫きてバスを通じ、鐵道京釜本線の美江驛(芙蓉園内)に近く交通不便ならず。

【南二面】 朝鮮全羅北道鎭山郡の南部。鎭山面に南隣し、西は完州郡、南は鎮安郡に接す。城內大部分鎭山脈に屬する山地にて、北・西・南の三境には六一七〇米の山嶺連り、東部には鎭山(七三七米)馬耳山等峰より低地に乏し。西部の柏嶺時以南の運路を一分水嶺としその西面に鎭山川の上支發し、以東の水は山地間を東南に開折して鳳凰川となり、二者何れも末は鎭江に合す。鳳凰川の沿岸と鎭山東麓とに僅かに低地ありて田畑ひろく。農作物は米・麥・大豆・棉・繭等の農産を主とし、また寶泉・鳥羽の兩鎭山の嶺區の各一部に當り前者より金・銀、後者より金・銀・亞鉛を産す。道路は何れも溪谷間を縫ひ又ば時を論え、交通不便なり。鎭山山の南麓に古刹寶石寺あり、朝鮮佛敎三十一本山の一。

【南葉山】 鐵道山とも書く。高田市の南西方八軒前後、新潟縣中頸城郡金谷村・粟太村・桑取村・矢代村の境上に位する南北に長き山。この近くは本邦屈指の深雪地にして、近時高田市附近スキー場よりの長距離コースとなり、スキー登山者紛らす。山頂より南に高谷を始め雪冠の諸峰を展呈し、北東は高

田市を併置し、北は日本海の波濤を望見し、視野廣闊なり。

【難波】 大阪府西成郡にありし村。明治二十九年大阪府南區に編入す。社稷南海鐵道の起點難波(明治十八年設置)は難波新地にあり。

【難波村】 愛媛縣伊豫國温泉郡の北部。松山市の北方約一六軒、北條町の北に隣り、西は瀬戸内海瀕に面す。東部及び北部には高麗山地に屬する山地連り、北境には高良山(三〇五米)を起し、更に西に延びて波妻の鼻の小突出にて海に没す。西南部に南境を西流する立岩川の沖積地あり、地味肥沃なれば農業盛にして米・麥・繭の産多く、煙草・蜜柑・梨等も多く栽培す。その他水産業も盛にして鯛・鰯等の魚獲多し。西部を縣道南北に通じ、これに沿うて省線難波本線走り伊豫北條驛に近し。和名抄に風早難波と云ふは本村及び淺海村に當る。高良城址あり、河野十八將の一人得房半右衛門の城なりといふ。(みひめあやめ自生南國地帯) 指定天然記念物。大字下難波字腰折山にあり。えひめあやめは富尾科に屬する多年生草本にして、長さ一〇割内外のもの多く、三月末より四月の始にかけて一〇割内外の花茎を抽出してその頂に花を著く。本地方に於ては「こかさつばた」と呼稱す。

【南畑村】 埼玉縣武藏國入間郡の東南部。荒川の西岸にて、川越市の東南方約六軒。更に荒川を隔てて北足立郡の一部と隣す。全村平地にして西端附近を新河岸川南流し水田多く一部沼田をなす。米を主産とし他に麥・繭を産す。川越市に縣道を通ず。古くは難波田に作り、武蔵七富の一なる村山麓に屬せし難波田氏の居りし處。のち後醍醐天皇の安永元年、代官久保田十左衛門の領せし時、水害多きは村名に依るものとなし、南畑と改むといふ。

【南武】 臺灣高雄州潮州郡にある蕃社。スワン溪と草山溪の合流點上流、草山溪右岸に位し標高約三三〇米の平坦地なり。約四五〇年前番番コヤシ方面より移住すべくスワン社に來り狩獵耕作の關係上、頭目より番丁五戸二十七八の分與を受け九戸五〇人を以て社を形成せり。パイロン族のスカン蕃に屬する高砂族の部落にして、戸數二五、人口一〇三(昭和十一年調査)。

【南武鐵道】 社稷。省線東海鐵道本線川崎驛より分岐して多摩川に沿うて北上し、府中町を過ぎ、立川町の西立川驛に接續する三七・六軒と、川崎の隣驛尻手(横濱市鶴見區)より海岸に向ひ、東海鐵道本線川崎驛(旅客用電車は尻手、新狹川崎間のみ運轉)に至る四・〇軒と、外に矢向と川崎河津間一・七軒、及び向河原と市ノ坪間〇・七軒の二貨物支線を有す。軌間一・〇六七米にて、動力は蒸

汽・電氣・ガソリン、省線とは港電線他取扱をなす。分岐河津驛(府中町)にて京王電車と、立川驛にて省線中央本線及び社稷青梅電氣・五日市鐵道と接續す。沿線より主要發貨物は砂利・生甘藷・石材・綿織物及び航空機等にて、主要到著貨物は石炭・米・木炭・麥類・大豆類・人造肥料等。梅に名高き久地梅林は久地梅林口驛附近、多摩川沿岸の標の名所稻田堤は登戸驛の西約一・五軒にあり。

【南部】 陸奥の南部侯所領地の通稱。文治年間、甲斐源氏の族、南部光行奥州を領し子孫この地に繁栄せり。天正年間信直の時、豊臣秀吉によりて封領を安堵す。はじめ南部(今の陸奥の北部より陸奥の東部を含む地、三戸に治す)に居りしが、子利直に至り慶長年間盛岡に移る。これより盛岡を大南部と稱し、轄部を古南部(小南部)ともいふ。若手山を南部富士、馬を南部駒と稱しその他南部鐵瓶など今も南部の稱一般に通用さる。後世南部といへば主として盛岡の南部氏所領の陸奥國の大部を稱す。

【南部坂】 東京市麻布區の坂名。廣尾より水川臺へ登る小坂。昔、南部信濃守の中屋敷ありしよりかく名附く。長さ約六〇米。いま麻布區廣尾町より東に本村町にある南部坂の坂をいふ。

【南部】 甲斐國(山梨縣)五麻郡にありし地名。中世には南部御牧のありし所にし

て、今の南兵衛郡合村に當り、大字に南部の名遺る。清和源氏、新羅三郎源義光の曾孫加賀美大郎遠光三男、南部光行、この地の地頭となり、子孫つて氏となす。鎌倉幕府の時、光行、陸奥國南部に領土を賜ひ、その領内を南部と稱し、其族甚だ多く、就中一戸・八戸・四戸・九戸最も名あり。その高野行・政長等南朝の爲に忠節を盡せり。戰國時代、南部氏漸く近隣を兼併し勢盛なり。信直の時、豊臣秀吉に謁す。慶長の初め、その子利直盛岡に治し十萬石を食む。文化五年、利直二十萬石を領す、戊辰の際十三萬石となり、明治に至る。

【南部】 攝津國(大阪府)の古地名。和名抄に百濟郡南部郡あり、その地、今の大阪市住吉區田邊西ノ町・豊合町の邊に當る。

【南部】 朝鮮黃海道信川郡の南部。信川邑の南に隣り、西南は海州郡檢丹面に接す。南部は天峰山(五八六米)の北斜面にてやや高く、東境に萬京山(三〇二米)聳ゆるも、北部には信川平野の南麓なし地味肥沃、西江支流これに灌漑し、且つこの川の上流を堰止めて造りたる書院堤ありて、灌溉水利の便極めてよろし。米・小麥・大豆・棉等の農産多く、また繭草・苹果・薄荷・苗木等の産あり。信川より西南方百餘に三三等道路中部を縱走しバスを通じ、交通不便ならず。

【南部】 朝鮮黃海道稷粟郡の南部。股

【ナンバ】 南畑村 埼玉縣武藏國入間郡の東南部。荒川の西岸にて、川越市の東南方約六軒。更に荒川を隔てて北足立郡の一部と隣す。全村平地にして西端附近を新河岸川南流し水田多く一部沼田をなす。米を主産とし他に麥・繭を産す。川越市に縣道を通ず。古くは難波田に作り、武蔵七富の一なる村山麓に屬せし難波田氏の居りし處。のち後醍醐天皇の安永元年、代官久保田十左衛門の領せし時、水害多きは村名に依るものとなし、南畑と改むといふ。

【ナンバ】 南武鐵道 社稷。省線東海鐵道本線川崎驛より分岐して多摩川に沿うて北上し、府中町を過ぎ、立川町の西立川驛に接續する三七・六軒と、川崎の隣驛尻手(横濱市鶴見區)より海岸に向ひ、東海鐵道本線川崎驛(旅客用電車は尻手、新狹川崎間のみ運轉)に至る四・〇軒と、外に矢向と川崎河津間一・七軒、及び向河原と市ノ坪間〇・七軒の二貨物支線を有す。軌間一・〇六七米にて、動力は蒸

汽・電氣・ガソリン、省線とは港電線他取扱をなす。分岐河津驛(府中町)にて京王電車と、立川驛にて省線中央本線及び社稷青梅電氣・五日市鐵道と接續す。沿線より主要發貨物は砂利・生甘藷・石材・綿織物及び航空機等にて、主要到著貨物は石炭・米・木炭・麥類・大豆類・人造肥料等。梅に名高き久地梅林は久地梅林口驛附近、多摩川沿岸の標の名所稻田堤は登戸驛の西約一・五軒にあり。

【ナンバ】 陸奥の南部侯所領地の通稱。文治年間、甲斐源氏の族、南部光行奥州を領し子孫この地に繁栄せり。天正年間信直の時、豊臣秀吉によりて封領を安堵す。はじめ南部(今の陸奥の北部より陸奥の東部を含む地、三戸に治す)に居りしが、子利直に至り慶長年間盛岡に移る。これより盛岡を大南部と稱し、轄部を古南部(小南部)ともいふ。若手山を南部富士、馬を南部駒と稱しその他南部鐵瓶など今も南部の稱一般に通用さる。後世南部といへば主として盛岡の南部氏所領の陸奥國の大部を稱す。

【ナンバ】 東京市麻布區の坂名。廣尾より水川臺へ登る小坂。昔、南部信濃守の中屋敷ありしよりかく名附く。長さ約六〇米。いま麻布區廣尾町より東に本村町にある南部坂の坂をいふ。

【ナンバ】 甲斐國(山梨縣)五麻郡にありし地名。中世には南部御牧のありし所にし

栗原に南隣し、東南は信川郡に、西及び西南は松本郡に接す。東部に九月山脈南北に走り、信川郡用野面との境にその主峰九月山(九五四米)聳え、西部には求王山(四五八米)の山脈連なり、南境には求王山(六五八米)そびえ、平地に乏しきも、中部濶川の流域は低平にして田畑拓く。産物は米・小豆・大豆・綿等の産物を主とし、東部山地には松茸・松茸を産す。また求王金嶺(嶺區の一部)・開泉嶺山等ありて金・銀を出す。中部を股栗・長瀬間の二等道路南北に縦走し、途中より九月山麓を廻りて信川に出づる三等道路を敷き、何れもバスの便あり。(九月山麓)面の東境にあり。周回四軒に及ぶ城壁今に存す。往時は城内に附近六ヶ郡の倉庫を設け兵器・武器・火薬等を貯蔵し、別將を置きて守護せしめ不時に備へたりといふ。城内に山城あり、郡民は耕作に従事す。山城の西麓二軒余に名刹停歇寺あり景勝を以て聞え、また附近に龍潭潭あり。

ナンヘー 南平面

朝鮮全羅南道羅州郡の東北部。羅州邑の東一〇軒余に位し、北は光山郡、東は和順郡に接す。南北一四軒、東西四一六軒。東北部に二一三米の丘陵連り東境に中峰山(三二〇米)等あり、西方に低夷し、西南部に百米臺の丘陵南北に連る。これ等の丘陵地帯を東南より流れ来る砥江西北流し、沿岸に平地拓け、特に北部の南平邑

附近は羅州平野の一部にて、地球肥沃、良田ひろく。産物は米・麥・綿・繭・臥等を主とす。總督府鐵道全西郡線北方九州方面より來り、東北部の支谷に沿ひ南平驛(昭和五年設置)を経て東に去り、また京城・木浦間の一等道路北西部を貫く外、南平邑を中心として道路四通し、光州・羅州・綾州の各地へ何れもバスを通じ、交通便なり。南平邑は南平驛の西南三軒、砥江の左岸に發達せる市街地にて、もと郡廳の所在地。全南棉花の集散地として知られ、市況活潑なり。附近の砥江沿岸は景勝の地に、竹林寺の古刹、霊林の奇觀、月鑑臺等あり。

ナンボ 南保村

富山縣越中郡下新川郡の北部。泊町の東南に隣接して小川の右岸に沿ふ。東部は飛騨山脈の一部を境にして新潟縣西頸城郡に界す。西北部が僅かに平野に属するのみ。他は山岳重疊し、森林繁茂す。聚落は西北部に稠密にして農業・林業を主産とし、米・木炭の産多し、穀谷紙の特産物あり。西南境小川に沿ひ一條の里道通じ、省線北陸本線泊驛へ約二軒あり。この地は古くは和本抄、新川郡大郡の内なるべし。中世は大家庄または五箇庄に属せり。盛衰記に南保氏(宮崎の一族)の名見ゆ。蓋し此の地の人なり。

ナンボク 南北

石川県鳳玉郡にありし村。昭和八年中居村と合し住吉村となる。

南洋群島 赤道以北の太平洋中に散在する我が委任統治地マリアナ・カロリン・マーシャル三群島の總稱にして、行政上南洋羣これを管す。(位置)東經百三十三度より百七十五度、北緯零度より二十二度及び、北東は遙かに米領ハワイ島に對し、西はフィリピン群島及び蘭領セラス島に、南はニューギニアに對し、北は小笠原諸島及び硫黄島に連る。其包容する海面は東西二千七百哩、南北千三百哩に互りその全島嶼の数は實に千四百餘を算するも、概ね島より成り其の總面積は僅に二千四百九十九軒に過ぎず、我が東京府の面積と相伯仲す。是等諸島の布置の状態を見るに、マリアナ群島は小笠原群島の南に連りて北より南に走り、カロリン、マーシャルの二群島は赤道に並行して東西に連り三群島の布置は略十字形をなす。カロリン群島はこれを東經百四十八度にして東西カロリン群

ナンヨ

八月の頃高く其他に低きを示す。群島内に發生したる低気壓は總數三十九にして前年と略等しく前半は其が勢力弱きも後半に於て發達しつゝ、北西に向ひ猛烈なる颶風となり各地に甚大なる被害を興へたり。二、気温 全群島一般に殆ど気温相等しく、また一年を通じて変化極めて少く、これを昭和十年に就て見るにマリアナ・サイパン・ボナー・トラツツの四ヶ所を平均して大體平均攝氏二十六度四となり、其他最高平均二十九度二、最低平均二十四度一を測り全く海洋性氣候を表はす。三、風向及び風速 群島は廣漠たる海洋中に散在するを以て風向自から同じからざるも、殆んど全群島を通じて毎年十一月の候より翌年四月頃の候に至るまで北東乃至東の風吹き、風向一定して動かす謂ゆる貿易風なるものこれなり、五月より十月までは風向必ずしも一定せず、各島に依りて趣を異にす。風速は年平均二・九秒(ノット)にして、一・二・三月及び十二月の頃強く七月—十月の間に於て弱し。四、雨量 全群島を通じて降水量極めて多く、各地多少の差あるもこれを平均して一年三〇〇乃至五〇〇〇を測る。これを内地の平均水量一七〇〇に比すれば其の如何に多きかを知らる。就中ボナー島は全群島中最も雨量多き地方にして其一年間の降水量四〇〇〇以上を達するを當とす。その降雨状態は主として短時間の豪雨にして内地の驟

島に分かつ。全群島の諸島嶼は概れも狭小にして、最も大なるボナー島及びババダオア島(バオオ本島)の如きも漸く三百七十方軒に過ぎず。従つて各島内の地勢として特筆すべきものなきも、地質上火山岩より成るものと珊瑚礁より成るものとに依りて全く其の趣を異にす。即ちマーシャル群島は概れ珊瑚礁にして水面上僅に五呎内外の低平なる陸地に過ぎざるも、マリアナ、カロリン兩群島は多くは火山岩を母岩とせるを以て地勢一般に急峻にして、中には全く耕地を有せざるがため無人島たるもの頗る多し。山嶽は概して低く七百五十米を越ゆるものなく、河川も亦溪流にして舟楫の便あるものなし。(地質)各群島は主として火山岩及び珊瑚礁より成るものにして、唯だマリアナのみは古紀變質岩類系の結晶片岩類より成る。いまこれ等地質を分布的に見れば、イ、珊瑚礁 珊瑚礁は元來暖海に棲息する珊瑚蟲の石灰質骨格より成る岩塊にして、其部分的形迹は千層層なるも形状及び位置に依り、之を條礁(又は層礁と稱す)堡礁及び環礁の三種に區別する事を得。條礁とは陸地(普通土壌の陸地を指す)の周縁に沿うて高潮と低潮との汀線に發達するものにして群島中陸地あるところ必ずこれを見る。堡礁は島と島の間に隔斷し其間に海水を湛ふるものを稱す。東カロリン群島のトラツツ島の如きは其最も代表的なるものに

して玄武岩質の幾多の小島より成れる島は各自其周囲に壯大なる珊瑚礁を帯し、更に其外縁に周經百二十哩餘に亘る一大堡礁を有し、其條礁と堡礁との間に廣大なる珊瑚湖を形成す。環礁は陸地より全く獨立して海中に立てる珊瑚島にて、環狀または不規則なる圓狀を描きて發達し、其環の内部に一大珊瑚湖を形成するもの、換言すれば中央に陸地を包圍せざる堡礁なり。マーシャル群島に多く其の例を見る。其最も世に知られたるはカールト島にて其珊瑚湖の長徑三十三哩に及ぶ。環礁は海抜極めて低く扁平なるを當とし、カールト島は高潮面五呎を越ゆるもの稀なり。ロ、陸地珊瑚礁 以上の珊瑚礁の外に陸起せる珊瑚礁あり。マリアナ群島及びマリアナ群島の南部に多く、サイパン島・テニアン島の如き數段のテレスを爲せるものは間歇的陸起作用に因るもの如し。ハ、火山岩類 火山岩類は玄武岩・安山岩の二種に分つを得。玄武岩はカロリン群島中、トラツツ島・ボナー島及びマリアナ群島等に於て見る。比較的古き時代の噴出岩にして現に生存せる珊瑚礁の基底を成す。安山岩はマリアナ群島及びサイパン島に多く、これ等諸島は概れ安山岩を母岩とするもの、または陸起珊瑚礁との混成せるものにして稍々複雑なる構成を有するものなり。ニ、橋墩 マリアナ群島に屬するアンガウル、ハヨリユウ、トコヘの三島及びヤップ支那管内に屬す

るマリアナ群島等は珊瑚礁地として知らる。かく群島の地質はヤップ島の如き岩石を異にするも、他の珊瑚礁を母岩とするものは石灰質より成れる白砂にして、火山岩を母岩とするものは所謂熱帯腐土となり赤褐色または褐色の粘土質土塊を形成す。一般に南洋群島は海島多く棲息するを以て諸島に橋墩を産し、また至る處多少の橋墩分を含有するもの多く農作物及林木の成長良好なり。然し河川の見るべきものなく沖積土の肥沃なる土地極めて少し。加ふるに日光の直射強し、驟雨また烈しきを以て伐跡地其他山火災等の爲一度裡地となりたる處は、人工的に保護せざる限り地力減退して恢復頗る困難なり。斯る理由により各島若干の無立木地ありて僅に羊齒類の繁茂するところ亦少からず。(氣象)本群島は其位置赤道に接し全管内悉く熱帯圈内に在るを以て、温帯地の如く四季の別なく一年を通じて温帯夏期の氣候にして所謂常夏の國なり。然し各島みな太平洋中に點在せる小島なるを以て、四面海風絶えず島上を吹き渡り純然たる海洋性氣候を現はし、其の晝夜の別に適る氣象變化も亦極めて少く、氣候概して適順といふを得べし。一、氣壓 群島各地共、低緯度に位置するため總じて氣壓内地より低く其變化度合も亦少し。昭和十年に於てはサイパン島附近に於て比較的低きを示し、マリアナ島・トラツツ島及びボナー島に於ては二月乃至

八月の頃高く其他に低きを示す。群島内に發生したる低気壓は總數三十九にして前年と略等しく前半は其が勢力弱きも後半に於て發達しつゝ、北西に向ひ猛烈なる颶風となり各地に甚大なる被害を興へたり。二、気温 全群島一般に殆ど気温相等しく、また一年を通じて変化極めて少く、これを昭和十年に就て見るにマリアナ・サイパン・ボナー・トラツツの四ヶ所を平均して大體平均攝氏二十六度四となり、其他最高平均二十九度二、最低平均二十四度一を測り全く海洋性氣候を表はす。三、風向及び風速 群島は廣漠たる海洋中に散在するを以て風向自から同じからざるも、殆んど全群島を通じて毎年十一月の候より翌年四月頃の候に至るまで北東乃至東の風吹き、風向一定して動かす謂ゆる貿易風なるものこれなり、五月より十月までは風向必ずしも一定せず、各島に依りて趣を異にす。風速は年平均二・九秒(ノット)にして、一・二・三月及び十二月の頃強く七月—十月の間に於て弱し。四、雨量 全群島を通じて降水量極めて多く、各地多少の差あるもこれを平均して一年三〇〇乃至五〇〇〇を測る。これを内地の平均水量一七〇〇に比すれば其の如何に多きかを知らる。就中ボナー島は全群島中最も雨量多き地方にして其一年間の降水量四〇〇〇以上を達するを當とす。その降雨状態は主として短時間の豪雨にして内地の驟

雨に似たり。これ諸島のムナトとなるものにして熱帯の気候はこれあるがために緩和せらるゝこと多大なり。而して群島には乾濕期の劃然たる區別なく、概して七月乃至九月の頃を雨季とし、一月乃至三月の頃を乾濕期とするも年々の状況必ずしもこれに合致せず。(種族)南洋群島に居住する種族に關しては諸説區々にして一定せず。或は西方馬來半島より東遷したるものと傳へられ、或は東方ボネツヤ族の西遷したるものと稱せらるも固より一定せる型の存在にはあらずして、數種族の混血なることは推測に難からず。人類學上これをミクロネシア族と總稱しチャモロ族とカナカ族の二種に分つ。一、チャモロ族 本群島に於けるチャモロ族は白人及びカナカ族の混血なりと謂はれ、また全然別人種なりとも謂はれ定説なし。本據はマリアナ群島を主として西部カロリン群島に屬するヤップ、ボラオ之に亞ぎ、其の他の群島には集團的居住を見ず。蓋し該族の祖先はグアム島にありといはるゝを以て、其の四周近距離の島嶼に移住したるに因るならん。往時西班牙領の頃にはサイパン、テニアンに移住し來れるチャモロ族極めて多かりしも、彼等相互間の争闘及び叛逆に依る虚殺等に因り人口激減し、現今に在りてはサイパン、テニアン及びボラオ三島を合して僅かに三千二百人、これとヤップ、マリアナ其他を併せて總數漸く三千六百人

ナンヨ——ナンヨ

に過ぎず。而も其大多數を占むるサイパン在住のチャモロ族は西領以来比律賓の諸島より移住し、同族の結婚に依り著しく肥厚すといふ。同族の特徴は一般に皮膚褐色にして頭髪黒し。本族は性温順勤勉にして、其容貌風姿やカナカ族に勝る。衣食住も亦比較的進歩したるものありてカナカ族と比之等の點に於て殆んど其趣を異にす。其上流の者にありては洋風清潔の住宅を有し、居常洋装をなし、中にはピアノの如き樂器を備へ、宜かなる文化的生活を嗜む者尠からず。これ一は其の種族の素質に因るべきも、其多くは西班牙領時代より、久しく宗教の感化を受けたるに因る爲せるものと認めらる。二、カナカ族、本種族は布味及び太平洋諸島全域に分布し、南洋群島住民の大部分は此種族に屬す。然し仔細に之を觀察すれば、西部諸島は馬來族に、東部諸島はポリネシア族に、南方に至るに従ひてメラネシア族に類する者多し。三者多少の差異を存するも一般に皮膚暗褐色若くは黄褐色にして、頭髪黒し、黒く中に僅に縮卷する者あり、眉は密生して太く眉目の間隔狭く眼窩凹み、鼻翼廣く口大にして唇厚し、鬚髯多からず容貌概して素朴温和なり。身長は概して中等大なるも中には長大なる者あり、殊に南方諸島に多し。本族は概して性温順にして快活なり。然し其に天恵の餘澤を享受し補みて懶惰にして勞働を嫌ひ、且つ

ナンヨ——ナンヨ

恬淡にして事物に就き研究心及び執着心なき弊あり。文化の程度また低く其居所尙ほ未だ原始的状態を脱せざる者多し。カナカ族は其數に於てチャモロ族の約十二倍を占め、全群島土着人數五萬の内約四萬六千を占む。(産業)イ、農業本群島は地形及び氣象上植物の生育に適するも、從來島民は居常天恵に依り其の農業状態頗る原始的にして、たゞ僅に二、三の食用作物を栽培し薯蕷類を飼養するに過ぎず。然し近時急激なる邦人の増加と農業上の施設とは相俟りて近き將來には稍々完備せる耕種組織を見るに至るべし。從來島民に依り頗る放任的に栽培せられたるものを舉ぐれば玉蜀黍・甘藷・キャッサバ・薯蕷・烟草・甘蔗・木瓜・鳳梨・バナナ・蜜柑等を主たるものとするも其の收穫量少く、品質亦著しく劣り大いに改良増殖を計るべき餘地を存す。然し從來品質を改良し増殖を圖る爲蔬菜及びコーヒー・鳳梨・キャッサバその他に獎勵金を下附し、これが助長に努めたる結果漸次發展し、從來コーヒーの企業化を見たのみならず、最近に至りキャッサバ・鳳梨等も企業化するに至れり。蔬菜は其栽培種類少く且つ生産量は人口の増加に伴はず、爲に未だ在邦邦人の需要を充つに至らず、毎船内地より移入し其の不足を緩和しつゝある状態なり。昭和十年末に於ける農民は邦人一萬人、島民二萬一千人とす。また主たる

ナンヨ——ナンヨ

は左の如し(昭和十年度)。ニ、林業本群島の林業として見るべきは椰子林經營のみ。古々椰子は一般に古くより植栽せられたるものゝ如く、これより生産するコブラは群島唯一の林産物として重要移出品なり。加之、椰子は島民の飲食物その他日常生活の資料として缺くべからざるものなるを以て、各離島に至るまで之が植栽を見ざるなく、現在栽培面積約三萬三千ヘクタール餘にして其のコブラ生産額は一萬三千噸(百三十萬圓)を算す。椰子林以外に林相を成せるは紅樹にしてパラオ、トラツク、ゴナハ各支離管内に相當の蓄積を有す。紅樹の用途は建築補助材に薪炭材なるも、近來諸工事の勃興、製炭業の發展に伴ひ其利用著しく増加せる結果濫伐に陥り、次第に林相を破壊し蓄積を減少せしめつゝあり。其他在來優良樹種として鐵木、紫檀、マナ、ワカール、アンモイ、黒柿等あるも何れ

ナンヨ——ナンヨ

も著少し。ハ、水産業管内廣大なる海洋には多數の島嶼點在し赤道及び赤道反流其間を浚流するを以て各種海魚族及び熱帯魚族豊富にて多岐なる生産を成す。漁業中最も重要な魚種は鰹魚にして魚群五とくに棲息し群島水産業の第一位を占む。その漁獲高は百三十萬圓に達す(昭和十年中)。これに次ぐは魷にして將來は鰹と共に群島の二大漁業となるべし。高麗貝は最も優良なる貝卸原料にして極めて重要な熱帯水産物なり。現在パラオ、ヤップ二島に於てのみこれを産し其の産額は約八萬圓(昭和十年)あり。養蠶業は未だ見るべきものなきも現今パラオ及びヤルトに於て黒蝶貝を母介として眞珠養蠶業を經營するものあり。ヤルトに於ては未だその生産を見ざるも、パラオに於ては帯銅白色の特殊眞珠を産し、内地養蠶場の如く赤濁其他の被害なくまた内地に比し短期間に眞珠形成完了し優良なる眞珠を産出しつゝあり。水産製造業中、製糖製造は鹽鹼業の勃興と共に群島各地に於て隆盛を見るに至り、現今南洋群として其産額を認めらるるに至る。昭和十年度の産額は二百十萬餘圓に達し群島産物の主要なるものとす。ハ、鑛業本群島は陸地面積の狭小なること、地質の比較的単純にして地史の短きこと依り、鑛物資源の種類及び賦存量に著しく制限を受く。併し地理的分布が熱帯なること並に群島特有の地

品名	サイパン	ヤップ	パラオ	トラツク	ゴナハ	ヤルト	計
砂糖	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	7,200,000
酒精飲料	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	7,200,000
酒類	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	7,200,000
糖	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	7,200,000
油	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	7,200,000
蜂蜜	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	7,200,000
水	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	7,200,000
手工業品	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	7,200,000

質等に成因の重大なる要素を有する鑛物資源即ち銅鑛及びコキヤイト等の如きは、我國本土に賦存乏しく然し産業並に國防上必要缺くべからざる重要資源なることは注目すべき事なり。現在採掘中のものはアンガール及びバリーユの銅鑛のみなるもロタ並にトコメの銅鑛は採掘準備中にして其の他は銅鑛・コキヤイト等は今後の開發に俟つべきもの尠からず。其の他にマリヤナ島東部の北部、新火山に硫黄、サイパン島東部のバベルダオ島(パラオ本島)の北部に硫黄、バベルダオ島に褐炭層、パラオ、ゴナハ、ヤルト、ヤップ及び其の他の諸島に發達する紅土(ラテライト)中には鐵鑛等もあるも、其企業價値の有無は將來の研究に俟たざるべからず。(交通)群島は各島環環に包まれ海上不穩なる故にカミーの往來便なるに反し、島嶼は狭小にて且つ未開の地多きため道路は極めて不完全なり。然し近年漸次改良を加へられ本島・支離管内地附近は稍々改良せられ、サイパン、パラオ、ゴナハ支離管内地の如きは幸うじて自動車の運行に便する程度となり、就中サイパン島の如きは自動車の数、百を超え職員七車以上の道路延長十回分に及べり。鐵道及び軌道は一般公衆の用に供するもの全くなく、特殊の輸送目的を以て建設せられたる諸島の專用鐵道としてはアンガール島鐵道、サイパン、マ

品名	サイパン	ヤップ	パラオ	トラツク	ゴナハ	ヤルト	計
椰子	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	7,200,000
鰹魚	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	7,200,000
魷	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	7,200,000
高麗貝	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	7,200,000
眞珠	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	7,200,000
鐵木	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	7,200,000
紫檀	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	7,200,000
マナ	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	7,200,000
ワカール	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	7,200,000
アンモイ	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	7,200,000
黒柿	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	7,200,000

次が島民間に食用として珍重せられ、且つ椰子樹林間の放牧に好適なるを以て最近其飼育頭數漸増の傾向にあり。鶏は九萬五千羽に上り肉用及び卵用として殊に大々重要なものにして、至るところに飼養せらるゝも優良種に乏し。ハ、商工業本群島は廣汎なる地域に各島分散し、交通上の不便に加ふるに金融機關不備なるを以て商業發展に及ぼす影響大なるものあり。舊稱領時代に於ける交通貿易は政府の補助を受けたるヤルト會社の汽船及び北船道ロイド會社の汽船に依

ナンヨ——ナンヨ

二 似ノ島 下廣島市

【新島】 伊豆七島の一。大島の南々西四〇軒に位し、北々東より南々西に狭長なる火山島(長徑一〇軒、短徑一軒)なり。行政上東京府大島支廳管下にして新島本と新島若郷の二村に分る。島の大部分は流紋岩質の熔岩及び浮石層に依りて構成せらる。熔岩は南部の向山、北部の宮原山(四二八米)其他の鐘状火山を形成し、浮石層は向山の外輪山に當る大崎日状火山(三〇一米)を形成する外に、中部東岸の羽伏浦に面する一帯の低地には謂ゆる『白マヤ』層として分布す。また北端近くの小區域にては玄武岩質砂礫層が舊期噴出の輝石流紋岩を蔽ふ。如上の山岳は何れも著しく峻険ならずして、中部には平坦なる熔岩臺地廣がり、西側には前浦の白砂連る。沿岸は根浮岬・旗城鼻・神波鼻・鼻戸崎などの岬もあるも比較的屈曲緩漫にして、且つ前浦・羽伏浦の外は殆んど海崖を成すを以て、良港に乏し。主邑本村郡落及び若郷郡落並にはやや低地を見るも表土薄く土地瘦薄にして農耕盛んならず。生業は殆んど漁業にして男子専らこれに従事し、鰯・鱈・干魚はその主

なる海産物とす。女子は老若の別なく島田盤に結び布にて鉢巻し農作と家事に従ふ。古契三郎「女房お品は伊豆の大島の生れ、新島村といふ所に島あきなふ者の娘なりしが、何故にや十一のとし、かな川の宿へ賣られ、いづみやといふうちへ抱へられ、女房は古郷恋しがたきや、一子ばん登、二ばん登とて島干魚の目利と、日和見の事の上手なるもおかしかりき」

【新村】 長野縣信濃國東筑摩郡の西北部。松本市の西約二軒、西北部は梓川を距てて南安曇郡横村に對す。松本盆地の中部に位し土地低平、西北端を伏流をなして梓川東北流し、氾濫原やや廣し。土壌は砂質を帯び水を滲透するも田畑よく開け、米・蕎麥を多産す。縣道野妻街道は中部をほぼ東西に通じ、これに並走して社線松本電氣鐵道あり、下新井・北新井・新村(以上三大正十年設置)を置く。人口は大正九年三〇二八八なりしも同十四年二九九二八、昭和五年二七八二八、同十年二六九八八と減少を示す。此地は和名抄、筑摩郡新井郷の内なり。中世新の郷と稱せられ、慶長年間新村と改稱す。

二一 新井

【新井】 遠江國(靜岡縣)の古地名。和名抄に城郡新井郷あり、爾比井と調す。その地今の小笠原大淵村・三濱村・三俣村の邊に當る。【新井】 阿波國(徳島縣)の古地名。和名抄に名東郡新井郷あり、爾比井と調す。その地今の名東郡新居村の邊に當る。

二一 新居

【新居】 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に多珂郡新居郷あり、その地今の多賀郡磯原町・關南村の邊に當る。【新居】 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に鹿島郡新居郷あり、その地今の鹿島郡内ならんも詳かならず。【新居】 上總國(千葉縣)の古地名。和名抄に武射郡新居郷あり、その地今の山武郡二川村の邊に當る。【新居】 武藏國(東京市)の古地名。和名抄に下總國葛飾郡新居郷あり、その地今の葛飾區新宿の邊に當る。【新居】 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に不破郡新居郷あり、その地今の不破郡宮代村の邊なるべし。【新居】 伊豆國(靜岡縣)の古地名。和名抄に田方郡新居郷あり、その地今の田方郡南村の邊に當る。【新居】 駿河國(靜岡縣)の古地名。和名抄に有度郡新居郷あり、爾比井と調す。その地今の安倍郡内ならんも詳かならず。【新居】 駿河國(靜岡縣)の古地名。和名抄に益頭郡新居郷あり、爾比井と調す。その地今の志太郡焼津町の邊なるべし。【新居】 近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に淺井郡新居郷あり、爾比井と調す。その地今の東淺井郡大淵村の邊に當る。

【新居】 伊豫國(愛媛縣)の古地名。和名抄に新居郡新居郷あり、その地今の新居郡市・新居郡神郷村・多喜村の邊に當る。【新居嶺山】 愛媛縣新居郡加茂村にあり、本邦重要嶺山の一。鐵區二十二萬四千六坪、昭和十年には含銅硫化鐵礦二、八八九噸を出し、同年六月末の使用鐵夫五一人にして現在日本鐵業株式會社の經營に屬す。産物中銅分は直島製鐵所に合供製煉せられ、其他は鐵石のみ、販賣せらる。

【新居】 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に下妻郡新居郷あり、その地今の八女郡内ならんも詳かならず。【新居】 肥前國(佐賀縣)の古地名。和名抄に高來郡新居郷あり、爾比井と調す。その地今の北高來郡津早町の邊に當る。【新居】 肥前國(佐賀縣)の古地名。和名抄に高來郡新居郷あり、爾比井と調す。その地今の北高來郡津早町の邊に當る。

二一 ヤ 新居屋

【新居屋】 愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年本村ほか六箇村を併し其目寺村を置く。

二一 ガタ 新方村

【新方村】 埼玉縣武藏國南埼玉郡の東部。越ヶ谷町の北方にて間に大澤町を挟み、古利根川の西岸にある小村なり。東は川を隔てて北葛飾郡の一部と相對す。全村平地にて米を主産とし、他に蕎麥を産す。縣道大澤町に通じ、同町の社線東武鐵道武州大澤驛に近し。此地は近世、増林・新方・櫻井・武里へ移出さる。この米が越後人の出稼を取持ちしことは面白き因縁なり。上杉謙信は米の自給自足を中心として北國に覇を唱へ、徳川は米を通じての越後の經濟的潛力を、且つ頼み且つ供れて對地の分割政策を取れり。是が越後の國和性を如何に破壊せしが想ひ半ばに過ぐるものあり。其米の多産地は信濃川縱谷に發達する越後平野と信濃國境の碎片地帯の北方に距離する頸城平野とす。尤も兩平野とも海岸周縁に最高標高三〇米に及ぶ砂丘の發達著しく、之が爲その内面に湛水する河水の排水には古來農民の最も苦心せしところにして、今も砂丘に残る藩堀川・加治川・新井郷川・阿賀川・内野新川等の人工的分水路は如實に當時の治水史を物語る。明治四十二年に起工、漸く大正十五年諸工事完了の大河津の大分水に幕を下せし越後治水史には幾多の血と涙の史實あり。而して水に苦しめられ乍ら國土に掘しむ本邦治水文化の代表的縮圖がここに見らる。信濃川縱谷は越後の大動脈にて其の延長は地質學的には遠く粟島と彌勒山塊との間まで追跡し得べく、越後の横谷性一大河川阿賀川を初め、其以北の加治川・胎内川・交川・三河川等は總て其信濃川縱谷より派生する横谷と稱するも過言ならず。其下流域に越後平野が起り本邦第一の米の穀倉が胎動す。縣下に於て信濃川の水系區に入らざるは刈羽と米山分水嶺以西の頸城にして前者

大袋・川通の諸村と共に新方領と稱せし地にして本村は領名の遺稱なり。

二一 ガタ 新潟

【新潟縣】 北陸地方の一縣。越後・佐渡二國より成り、東北は山形縣及び福島縣と界し、南は群馬縣・長野縣に隣り、西南の一部は富山縣に接し、西北一帯は日本海に面す。その海岸線延長は四〇〇軒に及ぶ。佐渡島・粟島は海上に浮び、佐渡島は日本海上の一大島として知られ、本土との最短距離は四三軒に過ぎず。縣の面積は二、五七八・〇五方軒にて全國第五位、人口は一、九九五、七七八(昭和十年)、一方軒の人口密度は一五九八にして全國平均密度一八一人より少く全國府縣中第三十一位とす。行政上新潟・長岡・高田・三條の四市と北蒲原・中蒲原・西蒲原・南蒲原・東蒲原・三島・古志・北魚沼・南魚沼・中魚沼・刈羽・東頸城・中頸城・西頸城・岩船・佐渡の十六郡より成り、縣廳を新潟市に、佐渡支廳を佐渡郡相川町に置く。其形北東より南西へ延びて縦に長く、その趨勢と輪廓は本州島の縮圖を想はしむ。延長二七五軒の長さ單調な海岸線に對し微斜行して北東より南西へ逆互する縣境の越後(北)及び三國(南)の兩山系、其前地山麓丘陵として脈行する東山系及西山系、其間を縦行或は横行する水系は、完全に縦を主とし、横を副とする越後の地理的現存景観の原因をなす。佐渡もこれと同様とす。越佐の

地理相を語るものは先づこの縦の分布が冬季の北西の季節風を防ぎ萬象を保護する象なることは特記すべきこととす。更に越後地方の高原分布を概括するに北西に低く南東に高く、之が北東南西系の新しき斷層によりて幾多縱列の階層盆地を作り、更に之が今日地形性地方的氣候の原因となり、人文の上にも甚調的影響を及ぼして居る。要するに縦の連続性と横の不連続性が高原分布の統制の下に脈行段階に分布せる所に越後の総合的地理的特色あり。冬季の積雪の分布は此間の消息を物語るバロメーターなり。海岸と山間の階層盆地に於ける多雪地との間には年間降雪を通じて千耗の降水量の相異あり。本縣の多雪地は(1)東頸城・西頸城の山間盆地帯、(2)魚沼三郡の各盆地帯(3)中越盆地帯、(4)東蒲原東部・岩船郡北東山間部なり。然し上雲(南)・下雲(北)と稱し、南部越後と北部越後に於ては降雪量に相違あり。之が海岸地方と山麓地方との間に於て生産分布上如何なる相違を來すか、生活様式の上如何なる差異を齎すか、想ひ半ばに過ぐるものあり。勞働統制の意味より山間部の住民が冬季出稼を爲すのも、或は山麓地方に特殊の産物工業の起るのも横の方向に於ける地理的差異の存在が賣せる所産とす。更に三次的に地質學上より越後の自然的特質を見、その人文的交渉を系統付けて見ん。地質學的には越後は、越後・三國・飛騨

の三山系區及び中央構造アロツカ區に分類せらる。前者は山形・福島・群馬の縣境及び越後の國境を縱走し何れも高峻なる地盤山地をなす、主に花崗岩・閃綠岩を基盤とし層古生層及び第三紀古期の綠色凝灰岩を伴ふ。中央構造アロツカ區は前三者の斜交地帯なる數條の丘陵性山系及びそれに脈行する數條の丘陵性山系として北東走しつゝ、國內に縱走する新第三紀階層地帯なり。是等は何れも斷層を伴ひ其中部を縱に流る一大階層谷信濃川を境とし東山山系及び西山山系とに大別さる。西山系の延長は北越の海上に浮ぶ粟島まで之を追跡し得。是等の第三紀階層は概して洪積期の噴出に依り採取られ、又慶第三紀時代の噴出にかゝる火山岩を伴ふ。粟島・角田・彌生・米山等は其例なり。尙ほ信濃國境附近には砂高を始め幾多の新火山の噴起するあり。此附近が富士火山帯に屬して著しき碎片地帯なることを顯示す。越後の一生命であり、之あるが爲に福岡に亞き本邦第二の鐵産國たらしむる所の越後の石油は實に此種曲アロツカ區の特産とす。又そののみ以て北海道に亞く農業國の名をかり得たる越後の米は是等褶曲アロツカ山地間を充塞する沖積平野の特産なり。産額約三七九・四萬石(昭和十年)一人一年一石消費するとしても越後の人口二百萬にては一七〇萬石の過剩を來す。其の餘りしものが年々東京を始め長野・北海道その他

の特色に本邦マダガスカル工業の發祥地にして石油に榮える工業都市柏崎、後者に高田・直江津・糸魚川、更に石灰工業により新興の青海あり。古來越後にては米山分水嶺以西の地を上越、それより以北東、阿賀谷谷まで中越、其以北を下越と呼ぶも、此分類には地理的妥當性あり。言語・風習・氣質の上にも異相を認むべく、孤島佐渡を合せて新潟縣の四地理區と稱し得べし。頸城平野は上越の中心にして上越米の産地として名高し。高田・直江津は其中心都市にして前者は上杉謙信の居城春日山を近郊に控へ、本邦スキーの發祥地、今日は軍都として名あり、怪傑支那の善介石もここに寄附せしことあり。直江津は新興工業に勃興せしことあり。新潟と共に佐渡への定期航路をもつ。其の地理上古來上越は中越よりは寧ろ信州と因縁深かりしことも興味あることなり。上杉謙信が武田信玄に懸を討りし鹽の移入路もここに在り。又江戸時代佐渡金山よりの金礦もここを通りて信州路に出て江戸に運ばれしといふ。總括的には越後は米・石油に深き經濟的意義を有するも工業方面も近年頗る勃興しつつあり。本縣の全生産額中、工業は其の四七・五%を占め農業の三五・一%を凌駕す。然しこの事は本縣の農民生活が上記比率を以て工業に依存するものならず。農家は全戸数の五五%にして、依然農業國の域を脱せざることを證明す。又

本縣の總産を通じての各河川は水量の豊富なることはその地形的優越性と相俟りて、今や白炭國としての大越後を現出せしめつゝあり。信濃川・阿賀川が全国的に發電文化に貢献せることは實に著明にて、又通信省發表によれば此の二大河川を中心とする今後の開發可能力も一、〇四七キロワットに上り、遂に他府縣を凌ぐ。此等の河川發電に於ては其河段段丘が極めて有利な自然條件を提供す。信濃川本流に於て中魚沼郡内の河段段丘地帯に目下工事中の鐵道省直營の千手發電所の如き實に規模の雄大なものなり。これ以外に信濃川にては、支流中津川第一、第二、支流清津川よりの引水の湯澤・關山、支流碓氷川よりの須原、同支谷の平石川一帯又川の上流等主なるもの大小十九ヶ所の發電所見らる。阿賀川にては鹿瀬及び信濃・阿賀兩川にて其出力廿萬キロワット以上に達す。人造肥料工業の中、礦物質肥料工業は、新潟縣が神奈川縣に次いで本邦第二位にあり約一六%を占むるも、又その工業に於て縣下僻地の地に在る西頸城郡青海及び東頸城郡向原の僻村が二大工業地として時代の尖端を切りつつあるも豊富なる石灰岩と、水力電氣との供給に恵まれし立地要因を有せる爲なり。新潟市に於ける年平均気温は一二・六度にて、最高極は八月の三五・五度、最低極は一月の一・四度とす。年

降水量は一八一四mmにして、五月の九二mmを最小とし、十二月の二二二mmを最大とす。また高田市に於ける最高気温は三三・八度、最低零下一〇度、平均気温は七・七度、降水量は二九四四・五mmとす。然し夏季気温の著しく上昇する事多く、殊に明治四十二年八月六日に新潟河原所にて三九・一度を示せしことは、我が國各河川所にて觀測せし高温として著名なり。また冬季の降水量は主として雪として降下するものにして、沿海地帯を除けば何れも積雪量多く、特に頸城附近一帯は我國屈指の深雪地帯なり。然し気温は比較的高くスキーの好適地は至る處に存在するも、スケートを行ひ得る地の皆無なることは注目し値す。次に産業に就いて見るに昭和十一年度の生産高は次の如し。

種別	價額
農産	110,531,596
畜産	21,575,559
林産	9,811,535
水産	4,113,566
工業	6,280,403
總計	152,313,059

右表中の農産の殆んどは米産にして、その作付反別は北海道に次いで第二位なるも昭和十二年度に於ける其米産高は四、一四、六六石(二二、六五八、三一一七圓)にして實に我が國中第一位を占む。その三分の一は縣外(主に東京・長野・神奈川・北海道等)に移出せらる。然し從來田母木と呼ぶ特色ある稻架によりて乾燥するにも拘はらず、晩秋の候に雨天の多きことは著しく米質を低下せしめたり。縣當局に於ては鋭意如上の氣候に適する新品種の發見に努めたる結果農林一號の如きを得、市場の廉價揚がり、特に加治川・荒川・西川・中越・上越・魚沼等の産米は斷然頭角を表はすに至る。而して獨り飯米のみならず糯米も亦大いに市場の歡迎を受くるに至る。然し深雪なる關係上二毛作田は極めて少なく、僅に佐渡に於て奉桑・穀肥類の二毛作行はるゝに過ぎず。桑の栽培、蠶の飼育は山麓地帯に一般に行はるゝも見るべきもの少なし。然し中部原郡小須戸町附近のチューリップは世界的に有名にして、岩船郡村上町附近の製茶は我國に於ける經濟的茶樹の北限なり。その年産は六十萬圓程度なるも香味水色共に特徴あり。主に靜岡地方に移出して彼地産品の混合品とせらる。柳葉・廣葉・捲葉など最も多く煎茶六分、香茶三分、玉露一分の製造割合なり。新潟市附近の砂丘上は西風・純等によりて最もよく利用せられ、信濃川・阿賀川の下流地帯には梨・葡萄等の栽培行はる。殊に梨は古來越後梨として著く著聞し、冬期貯蔵に適する特質を以て、蜜柑並出期までの果物として大いに

珍重せらる。種類は二十世紀・早生赤・大白・三吉等最も賞味せられ、晚三吉は朝鮮・滿洲の市場を風靡す。これ等果實の年産額は百五十萬圓を算す。畜産は牛(約三萬六千頭)・馬(二萬七千頭)・豚(三萬一千頭)・鶏(約百萬羽)等あるも何れも數々たるものとす。牛は古來佐渡牛の名を以て知らるゝも、大佐渡の山地に於ける粗放的な放牧にして質・量共に見るべきもの少し。林産品の主なるものは木炭なり。年産四十萬圓に及び、岩船・佐渡・東頸城の諸郡に最も多く、單に縣内の消費に止まらず、漸次中央市場にも販出せらるゝ狀勢にあり。桐も亦本縣の氣候風土に適し品質優良にして生育順調なるため盛んに栽培され、家具材・下駄材として大いに重きをなす。また佐渡の地は竹材に適し縣産の約八割を占め、竿竹として出す外各種の竹細工を作る。粟島の竹は、楠・榎等の兼用として名高く竹質軟く且つ強靱なるため醸造家の推賞するところなり。水産は海岸線長く且つ漁港乏しからざるを以て見るべきもの多し。沿岸漁獲物としては鯛・鯖・鰯・烏賊等、沖合漁獲物としては鯛・鯖・鰯・魚等を挙げ得。また信濃川・阿賀川等による鮭・鱒・鮎の産も少なくなく、養殖魚としての鯉また見るべきものあり。かく魚類豊富なるを以て水産加工品として市場に運出さるゝ高も少なからず。殊に佐渡の標鮭・坂平烏賊、出雲崎の烏賊鹽

幸、柏崎の鯛の子産幸、笠島の海素類等は著く知らる。漁産は石油と金を以て殆んど占む。石油は新津・東山・西山・頸城等の諸油田より採取せられ、昭和十一年度における原油は三百九十九萬圓にして秋田に次いで第二位を占め、製油は千六百七十九萬圓にして第三位とす。然し昭和七年度に於ては全國産油量の六十%を占め全國第一位たり。金は専ら佐渡にて採掘せられ、其歴史の古きことは普く知らるゝところ。昭和九年度に於ける金産額は八十二萬圓にて、最近相川町附近より砂金の採取を見ることとなりたれば、其産金額も増加を見るべし。その他銀・石材土石及び鐵水等あり。工業に關する豊富にして昭和十一年度における主なるものを挙げれば左表の如し。

種別	價額
織物	31,631,333
絹織物及絹織交織物	29,708,841
麻織物及麻織交織物	1,922,492
毛織物及毛織交織物	1,000,000
木製	2,449,566
竹製	2,305,600
肥料	11,111,316
製製品	3,000,000

如上の表の如く絹織物は工業中第一位を占め、その生産額は全國第五位に就す。就中明石は防水加工に依りて一段の需要を喚起し西陣と相並びて夏物界の王座を占む。絹は従前用途の意匠生地・縮緬・袴地・洋襦袢裏地等何れも益々發展の趨勢を示しつゝあり。綿織物は木綿・夜具綿等近年時代の變遷に依り生産額を減じたるも尙ほ東北・北海道地方に於て額を稱へつゝあり。また棉織物は時代の浪を乗り除けに發展するの傾向にあり。麻織物は越後上布古くより著名にして、その産額は大ならざるも盛夏用高級浴衣として薩摩上布と共に天下の双璧といはる。一般向としてはラミー糸用途の製品多く生産せられ、更に近年は婦人向織物に邁出し新規物品として好評を博しつゝあり。粗綿業に就いて見るに本縣は元來積雪下に埋れる事約半歳に及ぶ自然的關係上、地方婦女子をして手機に親しましめ、それが以上記述せる如き各種織物の區隔となりしものなるも、時代の推移はこれ等をして漸次力織機に轉せしむるに至るや其經驗と熟練の手は副業としてパーテレンスの産出を促し、その結果高田市の如きはブレイドの産地として天下に冠たるの時機を現出せしめたり。然し現在に於ては殆んどテープ工業に轉向し、その製品の一部は海外へ輸出されつゝあり。一方マニラ麻に依る蓆田工業も近年益々發展の傾向にあり。また農業園だけ肥料の需要も亦莫大にて、その關係上人造肥料の産額少からず。就中過燐酸肥料・硫酸アンモニア等は盛んに縣外に移出し、其他蠟押箱・骨粉・蟹粉・玉筋魚粉箱及び各

種の油桐等縣内各地に製造さる。その他木製品・竹製品・酒類等何れも相當見るべきものあり。殊に酒は醸造米豊富なるため頗る盛んにして其年産は全國中第八位にあり。三條市の双物、燕町の調器、村上町及び新潟市の漆器、佐渡の無名異他等も亦特色あるものとす。省線信越本線は南方長野縣より來り高田・直江津・柏崎・長岡・三條・新津等を経て新潟に終り、北陸本線は西方面富山縣より入りて直江津に結び、新津より羽越本線・岩越西線を分岐し、柏崎と新潟(白山)は越後線にて結ばれ、長岡に終る上越線は日本第一の長トンネルなる清水トンネルを経て群馬縣に通じ、その後川口より分岐する十日町線は社線飯山鐵道と連絡し、その他赤谷線・彌彦線及び大糸北線あり。私鐵には新潟臨港・蒲原・長岡・栃尾・頸城等地方的の輕便鐵道あり。縣下には市街電車は皆無なるも、近年乗合自動車補助交通機關として活躍す。しかし積雪量を増せば杜絶することは勿論にして、橋を以てこれに代へらる。海運としては我國にて最も古き開港場の一たる新潟港を控へ、佐渡の夷港を補助港として近年築港工事を完成せしむ既に振はす。然し新潟港よりは新潟北洋間の命令航路が、日本海汽船會社の滿洲丸及び天草丸によりて毎日八往復して新潟と清津及び羅新を連絡し、旅客航路として相當重要性を有す。(沿革)明治の初め越

後府・新潟縣等相次いで新潟市に置かれ、藩政以外の地を管せし、同四年に至り長岡藩以南の諸藩の縣となりしを廢して柏崎縣を置きて頸城・古志・魚沼・刈羽・三島の五郡を管し、北方諸藩を廢して置きし縣を新潟縣に併せ、津川郡(のち東蒲原郡)を除く蒲原・岩船二郡を管し、佐渡は相川縣の管轄とす。同六年六月に至り新潟縣は柏崎縣を合せ、更に八年四月相川縣を併せ、同十九年南蒲原郡を本縣の管轄に移し以て今日に至る。

【新潟市】新潟縣の北部。舊日本に於ける屈指の大都市。信濃川の河口に踞り、北は日本海に面し、近く佐渡の榮傍を望み、東は中蒲原郡大形村、南は同郡島原野村・石山村、西は西蒲原郡坂井輪村に接す。面積二〇・二四万軒。人口一三九、一〇〇人(昭和十二年)。信濃川により構成されしアルメタ上に發達し、且つ信濃川は本市の中部を貫流するを以て川の左岸(江西新潟)・右岸(江東新潟)に分ち、江西・江東は萬代橋にて結ばれ、河口は新潟港となる。右岸は土地低平にして遙に背後の越後平野に續き、通船川は信濃川岸の楚島潟と阿賀川を結ぶ。左岸も地低平にして湖・運河縱横に通じ、運河の岸に植みられし柳は本市を以て情緒ある都となし柳の新潟として知らる。併し海岸一帯には二〇乃至三〇米の砂丘列ありて市街と海を距り、砂丘列の東北部に日和山

(二七米)、中部に松山(二六米)あり、海濱一帯は遠淺にして岩石灘類なく、白砂に映ゆる防砂林の綠美しく好適の海水浴場をなし寄居濱は特に著る。昭和十年の氣象を見れば、月別最高気温は八月の二五・六度にて松本(二二・九度)より高く、名古屋(二六・五度)より低く、最低気温は一月及び二月の一・五度にて名古屋の三・一度(一月)より低く松本の零下二度(一月)より高し、平均気温は一二・七度にして、松本(一〇・三度)より高く、名古屋(一四・四度)より低し。即ち表日本の名古屋より北は寒きも中央高地の松本より北は暖し。同年の最高気温は三〇・五度なるも記録は明治四十二年八月六日の三九・一度、最低温度は、零下一・四度にて記録は明治三十五年二月十三日の零下九・七度なり。雨量は冬季に多く十二月の二五・五を最多とし、年降水量は一七八一・一。快晴日数は一年を通じて廿一日、曇天日数は二百廿三日、降水日数は二百廿四日とす。平均初霜は十一月下旬にて終霜は四月初旬、雪は十一月下旬に初まり三月下旬に終る。平均風速は三・七米なるも冬季は五米内外の風となり、従つて降雪量は高田に比し遙かに少し。本市の職業人口構成率は商業三に對する工業一にて必ずしも生産都市ならざるも、江東沼垂を中心とする工業生産には發達の著しきものあり。即ち楚島潟を中心とし左岸には北越製紙新工場・日

表一第 職工及び工場 (以上五人職年十和昭)

Table with 3 columns: 種別 (Industry Type), 場数 (Number of Sites), 職工数 (Number of Workers). Rows include 紡績工業, 印刷工業, 製材工業, etc.

表二第 主要工業額 (年九和昭)

Table with 3 columns: 種別 (Industry Type), 生産額(圓) (Production Amount in Yen). Rows include 製紙及パルプ, 印刷, 製糖, etc.

本石油株式会社製油所、北岸には名古屋紡績株式会社・新潟電氣工業會社・大日本製材會社あり、信濃川に注ぐ新川沿岸に硫酸會社及び新潟織工所ありて浸潤たる工場地帯をなす。この工場地帯の發達は水陸運輸の至便にして、用水の潤澤なる、冬季の北西凧風に對しても春夏を通じての卓越風沙に對しても防煙煙的的位置にあるによる。工場及び職工数は第一表の如く、昭和九年の生産總額は、約三・三千万圓、その主要工業品は第二表に示せるものにて之等は主に沼垂工業地域に生産され、其他全市を通じ指物・履物・醸造等あり。漆器及び佛壇生産の盛衰は越後に漆を産せしこと、親鸞と共に佛師・僧師の越後に来りしことに因るといふ。また上杉謙信の桐材栽培の奨励が履物及び桐材製品の多産を由來し、

米の産出が酒の元となり、醸製品となる。嚴密は白玉粉の助長條件となり、雨多きは傘、及び近郊の梨の大産出が賣らすウイスキーの醸造等の特産物となり、多く北海道方面に送らる。商業は江西の下町に盛にして且つ近年新潟港の改修に伴ふ

織物・豆類・機械類・農産品・砂糖等を主なるものとす。移入額は三九一八四千圓、米・砂糖・石灰・肥料・礦油・鹽・木材・金屬・鮮魚・豆類・セメント・魚粉等を主要品とす。水産漁獲額は約三四〇千圓、鰻・鯛・鮭・鱈・鰯等を主漁獲物とし、水産製造物に鰻鮓・鰻煮・イリコあり。なほ本市の野菜・魚の朝市は廣く知られ、野菜市は本町の五番町・六番町が古來本場となる。毎朝晴きうちより近郊の農民は街路の兩側に露店を開き、魚市は十一番町にあり、俗に助賣場または魚町と稱し古き歴史あるも、今は株式組織の魚問屋を中心と大規模の取引が行はる。交通は舊日本に於ける一中心にして、省線北陸本線・羽越本線に依り關西及び奥羽方面に通じ、上越線・信越本線・勢越線に依つて關東に通ず。信越本線は本市を終り、新潟縣(明治三十七年設置)・沼垂縣(明治三十年設置)を置き、上越線急行によれば新潟・上野間は七時間にて達す。省線越後線また刈羽郡柏崎町より來りて終點白山驛(大正元年設置)及び關屋驛(大正二年設置)を置き、社線新潟電鐵は本市の東關屋驛(昭和八年設置)に初りて三條市隣村の西蒲原郡彌彦村に至り、東關屋驛よりは縣廳前軌道により縣廳前驛に至る。なほ省線と池を結ぶ社線新潟港は信越本線の上沼垂信號場より新潟港驛に至り、水陸交通に便せしむ。なほ越後線終點白山驛と羽越本

線新發田驛を連絡する自新鐵道も近年着工これが完成せば新潟は舊日本本國通線の一驛となりて鐵路交通上一新紀元を劃するに至らむ。海上交通は新潟港より大連・北鮮・濟南・麗星の各港、朝鮮釜山・木浦・群山・仁川の各港及び北海道小樽港に定期航路の便あり。近く佐渡へは毎日二回の定期便あり。また近年航空路の開闢あり、毎日東京へ一往復、所要時間二時間。市内交通機關は電氣軌道の敷設なきも乗合自動車縱横に走り些の不便もなし。市街地をなす江西新潟は市區比較的整然とし、都市計畫のもとに發達せし商港都市たるを示す。即ち南北に走る東堀と西堀が道路の基本となり、笹谷小路を南北に切つて東西に並ぶ。之等の縦貫大通は更に笹谷小路と並行する横貫道にて區劃され、南より北に一番町・二番町と號し十四番町に及ぶ。併し近年の膨脹附加區域は必ずしも市區整然とせず、例へば南新潟の一中心地として發展せし學校街道、西の砂丘に接し發展しつゝある通などはこれなり。蓋し本市は編直寄の都市計畫に幾し、明曆の改修にて完成し、のち北漸せしもの、今は反對に西南に砂丘を這つて發展し、ここに山の手と下町とが區別されるに至る。山の手は最近に發展せし學校地域・住宅地域なり。醫科大學・高等學校及び師範學校その他中等學校ここに集中し、松林の中に校舎を運ぬ。土地高燥にして多年市民の

苦心になる砂防林は風致林を兼ね砂丘を大公園となす。下町は即ち直寄の都市計畫をなせし所、明和の頃、小島火事のため全市街の三分の二を焼き、堂々屋根を木羽葺に改めしにより當時の遺物はなし。また明治四十一年の大火にて北國特有の原木の登壇も失はれ、一部に鹿角の敷石のみ残る。古町附近にはパティエンが建ち並び、一流の店舖はここに軒を列す。古町の東と西の通を東堀・西堀といひ、兩岸に柳垂れ柳の新潟を現出し中にも西堀八番町・九番町附近は花柳の巷となる。市役所は笹谷小路と寺町の交差点に警察署と相對し、自ら住宅區・商業區が東西に分る。市内を縦貫する運河は殆んどその用をなさざるも、今も東堀の多門川は船隻集し、兩岸には大商店軒を並ぶ。多門川と東堀との間の二大縦貫道路には銀行・會社・病院・大商店などあり、古町と共に氣品ある街路をなす。

【沿革】市街は元來信濃川の河口の砂洲上に發達せしもの、天正の頃には以前より在りし濱村と新らしき島村とが存在し上杉登勢の新潟攻めの頃は商家軒を並べ相當の港町を形成せしもの、如し、確實なる史料による現新潟發達の基礎は元和二年七月堀直寄が信州飯山城より、長岡へ移封され、その領地たりし新潟を港町として繁榮せしめんとして各種の制度を定めし時にあり、然るに間もなき元和四年四月直寄は村上城主に轉封せられ新

にあり、正門は極小の路に面す。此の奉
行所を狭く西堀通に面して左右に諸役人
の屋敷を列せり。町吏の執務せる町會所
の正門は本町通七番町に、裏門は東堀通
七番町に面し、西南隅(現第四銀行入口)
に一箇の瓦舖を掲げし高樓ありて時報に
便せり。東新湯即ち沼垂の地名の古史に
見ゆるは新湯より更に古く遠く孝徳天皇
大化三年沙足の標を置かれたるに於ても
今日其遺跡分明せず。現沼垂の町は古來
よりのものに非ずして古沼垂の遺跡は現
山の下の方鳩島湯を前にし砂丘を背に
したる玉瀨向山の地なるが、沼垂が津津
として發達せるは天文・天正以後とす。
然るに寛永以後頻々として水害を受け、
移居數次人民流亡して海町津屋の業を失
ふに至れり。然るに天和二年更に便利な
る地域を占めんがため、長嶺馬越の粟の
木川の東岸に町割をなし三年を経て新市
街を成し、こゝに再び沼垂の復興を見る。
これを貞享甲子の移轉と稱へ、即ち現沼
垂の市街なり。江戸時代此地は新發田藩
溝口氏の領地として、其の治下にありし
が、貞享移轉後藩主は此地に郷中の役倉
を置き米穀の集散地として市街の繁榮を
策せしが、是より前、寛文年間河村瑞賢
幕命を受けて東北沿岸廻航の行程を定む
るに當り、御城米廻漕の安全なる礎泊港
として新湯を指定せし後は海港の占有權
は哈と新湯に移り沼垂は漸微なるの
運命に陥れり。其後數度に互りこの港津

權挽回のため新湯と争訟を起せしも遂に
目的を達せず、相當利便な地の利を有し
乍ら留來港津としての好運の機會を失へ
り。明治十二年四月中浦原郡沼垂町とな
り、歴々新湯市と合併の議起りしも在來
の歴史的反感容易に解けずして成らず、
漸く大正三年四月新湯市と合併し、現新
湯の國際港としての諸設備はこの沼垂の
地に設けられ新湯發展の源泉地となる。
〔新湯港〕 新湯港は市の生命なるも其發
達は前記の如く後世に屬す。往昔信濃・
阿賀の兩河は、河口を並べて海に注ぎし
が、其海港として最も古きは延喜式に見
ゆる蒲原の津なり。蒲原の津は阿賀・信
濃の交流する東南岸に位置し既に延喜以
前より越後一箇の貢米の集散地として風
に繁榮を極めし其後河川の浸蝕を受け
て、江戸期以前既に湖沼し沼垂之に代り
て、港津の機能を發揮せり。然るに沼垂も
前記の如く水勢の變化につれて屢所換へ
の止むなきに至つて湖沼を來し、貞享以
來現位置に居を定めて復活し一時新興新
湯と相拮抗せるも、遂に新湯に港津とし
ての權を奪はるゝに至れり。新湯は信濃
川の移動によつて水利の便を増し加ふる
に元和・寛永以後漸く、牧野辰左衛門の厚
き保護あり、市民また港を以て生命線と
なし極力其の保護發展に努力せし結果は
港津として日本海に面を成すに至り元祿
享保の間に至りて其の全盛期を來せり。
然るに享保十五年新發田藩主鳩島湯の開

發田を計畫して以來、阿賀川の本流は
直に海に注ぐに至る。従來、阿賀・信濃
の兩河の本流によつて港津の水深を保ち
し新湯港はこゝに流勢の一半を減じ流砂
沈着して港津を埋む。こゝに於て、阿賀
川の本流を信濃川に引きて水深を高めん
とせしも効なかりき。明治元年十一月幕
府開港の約に従つて佐渡の夷港を補助港
として五開港の一として開港せしも大なる
通商もなく市勢亦振はず、依てその後
港津繁榮につき度々計畫せられ、或は堤
防修築に或は河身河口の改修、東西障壁
堤の築造等となりしもその効果は微々た
るに止り、一方日本海の巨濤は防波堤を
破壊する等市民の困憊を増せるのみ。然
るに明治四十二年上流大河津の分水工事
とともに河口修築工事が政府の直營事業
として起工され大正十五年其の完成を見
こゝに上流よりの流砂も減じ水深は深く
漸く港津としての面目を復活せり。一方
大正四年より縣營事業として埠頭岸壁工
事が始められ、同十五年その竣工を告げ
たり。なほ大正十一年八月新湯埠頭株式
會社設立され、築港工事の認可を受け、
新湯埠頭と不離の重大任務の下に縣營築
港より更に河口に近く築港築堤を敷設
埠頭を整へ、一方臨港貨物の鐵路敷設
し、沼垂驛にて信濃本線に聯絡せしめ貨
物の運輸に便せり。新湯埠頭の設備は
大に整ひ大船の出入自由となり、港勢發
展の機運に向へり。然るに偶而西會同の

獨立成り東京北越海間の再知難に
るを以て一躍國際港となり、港津の設
備も完備充され、近き津來白新線の完
成せんか、北海鐵道の要驛ともなるを以
て、今後の新湯市の海陸の發展大に囑望
さる。新湯港へ輸入さるゝ主なる物は石
炭・木材・油類・セメント・肥料等にて輸出
さるゝ主なる物は米穀・石油・果實等にて
昭和十一年度輸出入總計は一、四三三、九
三二噸、金額にて七六、三二一、二一九
圓に達し累年著しき増加の傾向にあり。
同年の入港せる船舶總計は次の如し。
内航船 外航船 計
船數 八二六 一〇一 九二七
噸數 八四、七七一 一、〇六六、六五
〔新津濱山附屬新湯製油所〕 新湯市の沼
垂にあり、本邦有数の製油所。昭和十年
の産額に輕油二〇、〇二〇軒、機械油二
五、二〇三軒、重油七、七四七軒、臘燭ヒッ
ナ八、三〇四軒、アスファルト四、九二
三軒、廢機分解油二、五三〇軒、この總
價額四九六萬餘圓にして、同年六月末の
使用備人は二六六人とす。創始は既に明
治時代にして現在日本石油株式會社の
經營。〔萬代橋〕 信濃川に架けし大橋。
東西新湯を連絡する唯一の交通路とな
る。最近、昭和四年現橋の完成する迄は
幅七米、長さ七七四米の木橋が、現橋よ
り約二七米上流にあり、新湯名物として
夏の間開きの櫻花と共に本市の誇の一な

り。現橋は長さ一四五米の陸橋につぎ二
七〇米、鋼橋をなし、無文式六連橋の
コンクリート製なり。幅は二二米。勾欄
は花崗岩の笠石を有する鐵筋コンクリ
トづくりにて、親柱は花崗岩を裝ひ美觀
を添ふ。橋の側面の拱肋は花崗岩モザイ
ク張りなり。全體の拱肋曲線は美しき
カーブを描き橋に重みと氣品とを興ふ。
〔明治大帝の御聖蹟〕 明治十一年九月十
六日明治大帝北陸御巡幸の際當市に行幸
あり。十七日・十八日兩日御在市、十九
日新發田に向け御發駕ありたり。其時の
行在所は新發田の宮臺白鶴成徳氏の當市
櫻町の別邸なり。當時の建物は取り壊さ
れ白鶴家の菩提寺新發田町長徳寺に移さ
れしが大正十三年東宮御成婚奉祝のため
市は其舊邸を購入して礎公園となし、其
御遺蹟方保存の方法を確立せり。今一つ
の御聖蹟は沼垂町の流作場阿部九二造邸
の風庭園なり。大帝其十九日白鶴家を御
發駕信濃川を船にて渡御遊ばされ御上陸
後御小休あられし御遺蹟にて、現時
も舊邸其の儘に保存さる。明治三十五
年御巡幸二十五週年に際し記念門を建設
して風庭園と名づく。以上二聖蹟はいづ
れも史蹟に指定せらる。〔竹内式部の墓
碑〕 寶曆事件に座して三宅島に獄死せる
江戸時代の勤王の大儒竹内式部は當市の
出身なり。その舊宅址は本町通六ノ町に
あり、大正五年有志の義舉に依つて白山
公園内に記念の大碑を建てられ、更に昭

和七年三宅島の墓地より遺骨を掘へ、翌
八年日和山の下、松風飄々たる丘に地を
相し其墓を祀る。毎年十月五日墓前祭
行はる。〔戊辰の役の史蹟〕 市の西北常
盤ヶ丘にある相模社に戊辰の役の官軍の
勇士三百五五人の英靈を祀り、其傍老松の
下其墓碑並列せり。明治戊辰の際本市は
幕府直轄領たる關係上米津・會津・庄内・
仙臺の各藩土此に據りしを以て官軍は海
路對岸新發田領大夫濱に上陸し、七月廿
七日沼垂より攻撃開始され二十九日攻略
さる。招魂社附近は南山と稱し、當時の
激戦地なり。慶應四年十月以來毎年祭典
を行ひ近年社殿改造さる。この時戦死せ
し敗將米津藩の色部長門の記念碑建つ。
〔白山公園〕 公園は市の南西信濃川に沿
ひ、老樹枝を交へ泉石の雅見る可きもの
あり。以前は信濃の大流公園の境下を流
ひ、遠く角田の青山を眺めて眺望雄大な
りしも、現時は埋め立てられ市の綜合グ
ラウンド設けられて市民の體育向上に資
す。公園の西南隅に白山神社あり。なほ
公園内には、明治大帝の御聖蹟美山殿寶
圓、勤王の大儒竹内式部の大碑、明和の
義人浦井藤四郎・岩船屋佐次兵衛の碑等
あり。公園の東端には郷土博物館あり、
本縣内の石器時代以後の各種の遺品史料
常に陳列され好古の士の參觀をまつ。そ
の建物は舊縣會議事堂なるが明治三十五
年大正天皇東宮にまします頃當市行啓の
際御旅館にあてられし記念の建物なり。

更にその東方に鎮座として築え立つ洋館
は最近竣工せし市公會堂なり。〔日和山
公園〕 市の西北方の砂丘上にあり。大正
五年、今上陛下東宮にあらせられし頃行
啓遊ばされし際の御立の記念碑あり。
この砂丘に立てば、渺茫限りなき北海の
彼方に佐渡・粟島の點綴するを觀ると共
に全市を瞰下して遠く越後の大平野を望
みうる市唯一の登觀地なり。昔、船見松
があり、天候の變遷をなし、出入船舶を遠
望し信號を傳へしにより此の名ありとい
ふ。〔白山神社〕 一番瀬通町に鎮座。縣
社。祭神、菊理比賣命・伊弉諾命・伊弉
冉命外四神。相模社・祀神十六神。も
と船江神社と稱し古新湯(いま市内關屋)
にありしと云ふ。明應年中(一説に承應
年中)に現社地に移る。永祿・天正の兩
度災上し舊祀悉く焼亡し創建年代不詳な
り。中世、神佛混淆の際に寶龜院別當た
り。以後年々の例祭には曼陀羅經十二天
の畫像を掲げて法要をなす。社領は黒印
地三十石、牧野忠成の寄進に係る。明治
元年神佛分離し同五年郡社にのち縣社に
昇格と同時に、堀内社十一社を相殿に合
祀す。堀内一萬二千餘坪、明治六年公園
に定めらる。例祭、七月十八日。〔白山
神社〕 沼垂に鎮座。祭神、菊理
比賣命。用明天皇御宇に創建すと傳ふ。も
と美久里神社・白山神社理現とも稱せり。
延喜の制に式内小社に列し浦原郡十三座
の一、蓋し富附近の鎮守神たり。慶長三

年上杉登野村を遷移せし時、當社
の神寶・社器を携行せしと云ふ。のち溝
口氏領主となるや除地三段歩を寄す。天
和年間の津浪にて當社その害を蒙り下所
島に移り、のち現社地に遷座す。弘化三
年社殿大改修せしが翌年再建。例祭、
八月十八日。〔淨光寺〕 西堀通十一番町
にあり。眞宗本願寺派。金鼓山鳥屋院。
俗稱、浦原淨光寺。曾空海、蒲原郡鳥屋
野村にこれを創せしに始る。のち親覺當
地經題の礎、住持印信其弟子となりて、
名を法爾と改め、眞宗の佛寺となす。承
久年間順德上皇勸願所となし給ふ。寛文
十一年現地に轉す。〔長音寺〕 夕榮町に
あり。眞宗本願寺派。興徳山。嘉祥年間
慶圓の開基にして、その師親覺を開山と
す。もと加賀國森本村にありしが、のち
現地に移る。〔淨光寺〕 西堀通五番町に
あり。眞宗本願寺派。鳥屋院北院と號し
俗に親覺寺・北山淨光寺と稱せらる。承
元元年親覺、配所越後の國府より彌彦明
神に參詣の礎、鳥屋野の里に當寺を創建
せしに始る。承久元年、順德上皇佐渡遷
幸の礎、こゝに駐蹕し給ひて鳥屋院の勸
願、勸願寺の繪旨その他を賜はる。第三
世親覺は、上皇の第三皇子善統親王なり。
なほ親覺が奇蹟を示せしといふ倒杖竹の
遺跡は世に知らる。〔勝樂寺〕 西堀通八
番町にあり。眞宗大谷派。隣陀山。文永
十年圓善房の開創に係る。もと越前國今
立郡和田村にありしが、文明三年加賀國

國登米郡の西端なる新田村の地にして、伊豆沼と長沼との間なる丘陵の上にその地を求むべしといふ。

【新田】 福島縣大沼郡にありし村。明治三十一年本村及び鶴ノ邊村を合併し新編村を置く。

【新田】 上野國(群馬縣)の古地名。織田實盛二年十月に上野國新田見ゆ。延喜式兵部省式に新田郡傳馬五疋と見ゆるもまたこの地なり。和名抄に新田郡新田見え、郡家の所在地にして詳傳を案めるもの。中世は新田莊と稱し、上西門院領たり。源義重これが莊官たりしより世々新田氏を稱す。和名抄に郡名を爾布太と註するも萬葉集に爾比多とあるを正しとす。中世以後専らニツタと唱ふ。郷城いまだ新田郡太田町・強戸村・鳥之郷村の邊に當る。

【新田山】 上野國(群馬縣)の古山名。萬葉集に見ゆ。いま新田郡の孤丘太田の金山一名松山がそれならんと云ふ。萬葉集一四「爾比多夜麻呂には若かなな吾にそより聞なる兒等しあやに愛しし」【新田】 下野國(栃木縣)の古地名。和名抄に芳賀郡新田郷あり、その地今の鹽谷郡新田村の邊に當る。延喜式の新田縣も此地なるべし。

【新田】 武藏國(埼玉縣)の古地名。和名抄に貫美郡新田郷あり、その地今の見玉郡仁手村の邊に當る。

抄に排保郡新田郷あり、爾比多と訓す。その地今の排保郡原村・旭陽村・大津村の邊に當る。

【新田】 薩摩國(鹿児島縣)の古地名。和名抄に高城郡新多郷あり、この地今の薩摩郡水引村の邊に當る。

【新田】 新多。福岡縣鞍手郡小竹町の大字。省線筑豊本線の貨物驛(大正二年設置)あり。

【新田】 新飯田村。新潟縣越後國中津原郡の西部。三條市の北約六軒。西は中ノ川を境に西蒲原郡に、南は南蒲原郡に接す。越後平野の中央に位するを以て、土地平低にして水田・果樹園多く、米の外、桃・梨・葡萄等の産を以て縣下に知られ、また清酒の産もあり。西部河津を國道貫通し三條市・白根町間パスの便あり、中ノ川は水運の便よし。

【新高】 臺灣臺中新高市十一郡中の一。州の東南端、新高山地以北にして濁水溪の上流たる陳有蘭・郡大・丹大・卡社諸溪流域の廣大なる山地帯を占む。東は中央山脈の分水嶺を以て花蓮港縣に接し、南は新高支脈を以て臺南州嘉義郡及び高雄州旗山・屏東二郡に連り、西は南投・竹山・嘉義の三郡に界し、北は卓社大山・大尖山等の稜線を以て能高郡に接す。海拔最低二一三米より最高三九四〇米に及ぶ高山地帯にして濁水溪北流を西流し、中央山脈より發する卡社・丹

大・郡大の諸溪及び新高支脈に源を有する陳有蘭溪等、山間に深谷を刻みつつ之に注ぐ。西北邊に臺灣唯一の湖沼たる日月潭あり。山岳は日本第一の高山たる新高山(三九五〇米)を始め、三千米臺の靈峰實に三十有餘を算す。廣袤東西四九軒餘、南北五九軒、總面積一七二八方軒にして、集々・魚池の二庄及び街庄を置かざる蕃地に區分し、郡役所を集々庄に置く。行政區域は僅に西北隅二三三方軒餘に過ぎず、其他は總て蕃地をなし、總人口三萬七千四百餘のうち、蕃人五千四百餘、内地人一萬五百餘にして爾餘は本島人なり。蕃人はアマン及びツオウの二種族なるも、後者は甚だ僅少にして前者大部分を占む。地勢上平地は殆んど見られず、謂ゆる五城盆地(魚池一帶)を除きては、耕地は溪流の沿岸または山間に散在するに過ぎず、それ殆んど山麓の兩庄に限らる。此等農耕地の大部分は水利亦不便にして、農業は概して不振の状態にあり。農産物は米・甘藷・甘蔗・棉花・生・苧麻・芭蕉・茶等にして、中にも芭蕉の栽培隆盛を極め、行政區域のみならず、蕃地方面にまで普及し、全山芭蕉を以て蔽はるる盛観を呈する所多し。また茶は主として紅茶に製せられ、アッサム種と稱する高級品なり。畜産にては管内が牧畜等の好適地なるも未だ積極的施設なく、在來の家畜高麗(牛・豚・鶏・馬・牛・馬等)を一般家庭に於て副業的に飼

育するに過ぎず。林産は州下の首位を占め、森林は亞熱帯・暖帯・温帯・寒帯の各帯に跨り、林相複雑を極め、分布狀態一定せざるも、凡そ四五〇米以下は、樟樹・相思樹・龍眼・山黃麻・若楝・楓樹等の混成林にして、約四五〇米以上約一六六〇米以下は樟・檳榔・柯仔類・楠仔・椰・赤狗・有楠等の闊葉樹及び針葉樹混生し、約一六六〇米乃至約二〇〇〇米には紅檜・亞杉現れ、二一〇〇米に至り扁柏の純林となり、更に二四二〇米以上に於ては臺灣檜・新高唐檜・高嶺五葉新高檜・新高松・新高石楠等の混生林なり。概算材積二七〇〇萬石を蓄積し、大規模の伐採事業は未だ行はれざるも、前途大に注目せらる。副産物たる乾楠の産出多し。工業は地勢上發展の餘地なく、専賣事業に屬する製鋼を除けば何れも小規模の工場にして、主なるものは製茶・舊式糖廠による製糖・糖精精米・陶器及び瓦の製造・製油等なり。其他家内工業として木製品・竹細工の製造行はる。農産物には農産物・林産物・特産品等もあるも其の額僅少なり。交通は行政區域内には縱貫線二水驛より分岐せる集々線、外車道まで通じ、それより輕便軌道により埔里方面に連絡す。水裡坑驛より日月潭の勝地及び魚池を経て埔里に達する道路あり、乗合自動車の便を有す。蕃地には八通關道路・丹大方面道路・中の線道路・萬大・卡社間道路を有す。

登高すれば主峰下の大蛇窟に着す。觀音の神林はこの附近にて遊き、石板石の碎片散亂し、その上に新高諸岳を仰望す。これより空気が次第に稀薄となり、道は愈々困難を加ふ。岩角を攀ち、斷崖を辿り行けば主峰直下の大鞍部に着す。更に約一時間片麻岩の細片の飛散する峻坂を仰視すれば絶頂に達す。この登路は山腹・溪谷を辿り行くに特色を有す。歸路は阿里山に出づるも興味深し。〔阿里山口〕 西。貫貫嶺高麗驛下車、阿里山鐵道にてスパイラルを經て阿里山着。この間七二軒、六時間半を要す。阿里山より新高山を指し得られ、登山路も指示し得らる。阿里山より途中、觀山(二四八四米)の西斜面、鹿林山(二八七〇米)の北斜面を通過し、一三・九軒、四時間(下り三時間半)にてタリマカ驛在所に着し、ここに一泊す。タリマカより前山(三三三六米)・西山の南斜面をからみ、一一・七軒、五時間(下り四時間)にて新高下駐在所に達し、更に一泊す。新高下駐在所より約三・二軒、一時間半(下り一時間)にて登頂す。歸路は水裡坑口を取るもよし。この登路は、高麗並に阿里山鐵道發達の爲に計畫せられ、大正十五年十一月完成を見たるものにして、尾根踏走の箇所多し。〔玉里日〕 東口。臺東線玉里驛より秀姑巒溪の一支流を進行し、徒歩一〇六・二軒、通常四泊乃至三泊を要す。途中、水裡坑口と八通關に於

いて合し、頂上に達す。即ち、玉里より廣まで三・一軒、約一〇時間。廣よりトリスまで二〇・四軒、約八時間。トリスより八通關まで二六・八軒、約九時間。登頂を要す。登山は前泊設備・餐館及び經費等の關係よりして、六月より八月までを適當とす。尙ほ、新高山は蕃地にあるを以て獵め入審許可證の下附付を願ふを要す。

【新館】 福島縣磐城國相馬郡の西部。原町の西方約一九軒。面積八二・五二方軒の大村。阿部隈山地主分水嶺の東斜面に屬し、西境に尖管山(七〇七米)あり。東境は阿武隈山地の副分水嶺にして、海拔約六〇〇米あり。村の中央部に盆地をなし、新田川は西方主分水嶺に發源して東流し、村の中央部を渦状をなして東南に流る。中央部に耕地拓く。米・麥及び木炭を産す。道路は村の中北部を東西に通じ、西方伊達郡川俣町、東方原町に至る。人口密度は一方軒につき僅に三五人なり。この地は往時は草野村と稱す、いま大須村と共に組合をなし役場を本村に置く。〔細津見神社〕 大字草野に鎮座。同二年の神、繪津見神。社傳によれば大郷社。祭禮時とあれど、其山諸縁起を知らず。例祭、四月十九日。

【新高山】 本邦第一の高峰。蕃人はボツトンタツ、支那人は玉山、ヨーロッパ人はモリソン山と呼べり。新高山とは明治三十年六月二十八日明治天皇の御命名にかゝる。臺灣島の中央より稍南、北回歸線と脊梁山の交叉點附近に聳立し、新竹・臺中・高雄三州の境邊に跨る。山脊稜々として突起し、四邊を歴す。主峰は標高三九五〇米。これを中心に東西南北に稜線を走らせ、それぞれに東山(三八三三米)・西山(三五二八米)・南山(三八八三米)・北山(三八三三米)の四峰崛起し、十字形に規則正しく主峰を取巻きて對峙す。山體は第三紀層に屬する粘板岩と硬砂岩の互層より成り、山腹の斷崖にその著しく褶曲する狀態を露出す。山中より陳有蘭溪等發して北流し、遂に濁水溪に合流し、芝濃溪・楠梓仙溪は南西流し、相合して下淡水溪となる。此等の河川は山腹を深く浸蝕す。氣候上山麓に於ける熱帯より暖帯・温帯を経て頂上における寒帯まで四帯の變化を完全に具有し、この點に於て本邦中での比を見ず。熱帯植物としては龍眼・マンゴウ・バナナ・椰子・檳榔樹等、暖帯植物としては樟・櫻・シヒ・タイワンマツ等、温帯植物としてはタイワンツガ・ニヒマカアカマツ等、寒帯植物としてはニヒマカトドマツ・ニヒマカシタナガ・ニヒマカビヤツン等見出され、頂上には種々の高山植物生育す。温帯植物は一六七〇米前

後より二二〇米前後に互り、寒帯植物は二二〇米前後より始る。而して二二〇米前後までの熱・暖・温の大森林帯を抜け富士標高地帯に達すれば寒帯的灌木の上に主峰の大岩石嶺として突兀するを望み得らる。植物の外、動物も豊富にして生物學上甚だ興味深し。山頂は廣さ十萬坪許り、樹草は蓬生されて殆んどなく、三角臺とささやかなる新高山頂ありのみ。雪線を缺くと云へ、冬季半歳降雪を見る。展望は雄偉廣闊にして、附近の山々は云ふ迄もなく、北方の大高山(三九三一米)・南方の大高山(三〇四二米)も遙に望見し得らる。山頂の南方一帯は今尚ほ極端なる生蕃の住地にして、文化的に暗黒地帯をなす。登山路は三あり。即ち水裡坑口・阿里山口・玉里口なり。〔水裡坑口〕 北口。貫貫嶺二水驛にて集々驛に乘換へ水裡坑驛下車、水裡坑より臺車に乗り陳有蘭溪を進行し、磐大山・群大山を左岸に仰ぎ、東埔まで約四一軒、七時間餘(下りは約四時間)を要す。東埔より溪谷の温泉地なる東埔宿泊所まで二軒二、第一夜を明す。これより道は次第に峻険となる。葉々の混・觀高を過ぎて蝦夷松の純林に包まれたる八通關に達す。ここに第二夜を明す。東埔より八通關まで一四・四軒、約七時間(下りは五時間)の歩程なり。八通關は二八一八米の高所に位し、芝濃溪・陳有蘭溪・郡大溪の分水嶺をなす。八通關より約二時間

【新館】 福島縣磐城國相馬郡の西部。原町の西方約一九軒。面積八二・五二方軒の大村。阿部隈山地主分水嶺の東斜面に屬し、西境に尖管山(七〇七米)あり。東境は阿武隈山地の副分水嶺にして、海拔約六〇〇米あり。村の中央部に盆地をなし、新田川は西方主分水嶺に發源して東流し、村の中央部を渦状をなして東南に流る。中央部に耕地拓く。米・麥及び木炭を産す。道路は村の中北部を東西に通じ、西方伊達郡川俣町、東方原町に至る。人口密度は一方軒につき僅に三五人なり。この地は往時は草野村と稱す、いま大須村と共に組合をなし役場を本村に置く。〔細津見神社〕 大字草野に鎮座。同二年の神、繪津見神。社傳によれば大郷社。祭禮時とあれど、其山諸縁起を知らず。例祭、四月十九日。

ニーツ

【新津町】新潟縣越後國中蒲原郡の北部。信濃・阿賀の兩河を分つ丘陵の先端、能代川中流に沿ふ。南部に一〇〇米足らずの秋葉山丘陵を負ひ、略中央を能代川北流し平地開く。本郡の首邑にして、附近は石油の産地として知られ、小口・金津・新津・朝日・藤澤等の油蔵あり、主に機械油を産す。農業・養蠶の外、織物・清酒その他の工業品もあり、郡内諸産物の集散地として商業盛なり。また本町は陸路交通の要衝地にして省線信越本線と磐越西線・羽越本線の分岐點たる新津驛（明治三十年設置）あるのみならず、縣道四通八達し近傍一圓自動車道の中心地をなす。もと金津莊と稱し、天正元年上杉氏の將新津越後守が城壘を築き新津城と稱し、その後約百年間はその子孫の據る所なりしが、正寶六年貞隆村上藩或は幕府領となり明治維新に至る。明治二十二年町制を布き、同三十四年に善道・下興野・北上の三村を、大正十四年阿賀浦・滿日の二村を併合し今日に至る。新津氏に二流あり、一は桓武平氏と稱せられ、東鑑、建仁元年の條に新津四郎の名見え、此地の郷士にして城氏の一族なるべく、今一家は清和源氏にて、平賀左兵衛尉盛義の後胤、平賀三郎信實よりこの地を領し、新津氏を稱せり。越後七不思議の一に挙げられし新津の土火は、大字新井

木にありて、慶長十八年の発見と傳へられ、寶永七年に玉り燈火に用ふるの端緒を得たりといふ。今も石油の産地として知らる。經世家として、育英に、殖産興業に、開港建設に、治水築堤に、石油製出に盡力せし桂馨如（贈從五位）はこの地の人。（明治天皇新津行在所址）指定史蹟。大字新津にあり。明治十年東北行幸の際、九月二十日御駐泊あらせられたる處にして、建物は同十三年焼失せり。依て同二十年原形により再建せり。また内に御講堂あり。

【新津鎮山】新潟縣中蒲原郡にある石油山にて本邦重要鎮山の第一。新津町・小須戸町・金津村・新開村・橋田村の五箇町村に跨り鎮山に約四二萬餘坪、登録上五箇區に別る。本油田は新津附近より起伏する丘陵及び平野に連なり北は新津町の柄目木邊より南は小須戸町の天ヶ澤新田・鎌倉新田邊に至る幅員約二軒延長約八軒の大油田とす。本鎮山は神樂の平地に突出したる丘陵を中心とするもの、地質は主として頁岩・砂頁岩・石英砂層の交互層にして、油層は油砂の厚さ第二層と區別せられ、何れも油砂の厚さこと産油量の多きことを特徴とし、本油田附近の地は古へより臭水（いま新津町大字田の字草水はその遺留とす）の所在地として越後七不思議の一たり。古くは臭水を貯蓄臭水と稱して之を利用する道を知らず、専ら臭水（天然臭水）を

管にて引きて燃料に供し、更に石油を燈用に供するに至る。かくの如く此地は古來瓦斯及び石油の天然露出あり。古へより有名な新津町の煮鹽は即ち池底より天然瓦斯が噴出して池水面に表はるゝものとす。記録に存する限りに於て天正年間新津村にて石油の湧出を見、また慶長年間新津町附近の山地開墾の際油氣の浮露を見出し爾來農多の油井穿たるに至るといふ。大正二年六月第二號井による大噴油を見てより大發展の道を進る。昭和十年に於ける産額は原油三〇、〇七一軒（價額一〇八萬餘圓）にして、本鎮山附屬新潟製油所に於て精製せらる。副産物に瓦斯あり、同年價額四萬餘圓を出す。日本石油株式會社の經營に屬し同年六月末の使用職員三五六人とす。

【新津村】宮城縣陸前國本吉郡の北部。氣仙沼町の西に接し、北及び西は岩手縣に接す。面積七五・七九方軒。西北境に君ヶ鼻山（六七二米）、西南境に大森山（七五六米）、東北境に八森平山（五六九米）あり、全村概ね山地をなし、大川は村の南東部を西より東に流る。八瀬川は北境に發源して南流し大川に合す。木炭・米・蕎麥を産す。道路は中南部を東西に通じ、東方氣仙沼町に至る。省線大船渡線新津驛（昭和四年設置）は折坂村にあり。人口密度は一方軒につき五六八人なり。

ニーナ

【新野村】新潟縣越後國中蒲原郡の南部。信濃・阿賀の兩河を分つ丘陵の先端、能代川中流に沿ふ。南部に一〇〇米足らずの秋葉山丘陵を負ひ、略中央を能代川北流し平地開く。本郡の首邑にして、附近は石油の産地として知られ、小口・金津・新津・朝日・藤澤等の油蔵あり、主に機械油を産す。農業・養蠶の外、織物・清酒その他の工業品もあり、郡内諸産物の集散地として商業盛なり。また本町は陸路交通の要衝地にして省線信越本線と磐越西線・羽越本線の分岐點たる新津驛（明治三十年設置）あるのみならず、縣道四通八達し近傍一圓自動車道の中心地をなす。もと金津莊と稱し、天正元年上杉氏の將新津越後守が城壘を築き新津城と稱し、その後約百年間はその子孫の據る所なりしが、正寶六年貞隆村上藩或は幕府領となり明治維新に至る。明治二十二年町制を布き、同三十四年に善道・下興野・北上の三村を、大正十四年阿賀浦・滿日の二村を併合し今日に至る。新津氏に二流あり、一は桓武平氏と稱せられ、東鑑、建仁元年の條に新津四郎の名見え、此地の郷士にして城氏の一族なるべく、今一家は清和源氏にて、平賀左兵衛尉盛義の後胤、平賀三郎信實よりこの地を領し、新津氏を稱せり。越後七不思議の一に挙げられし新津の土火は、大字新井

【新野村】新潟縣越後國中蒲原郡の南部。信濃・阿賀の兩河を分つ丘陵の先端、能代川中流に沿ふ。南部に一〇〇米足らずの秋葉山丘陵を負ひ、略中央を能代川北流し平地開く。本郡の首邑にして、附近は石油の産地として知られ、小口・金津・新津・朝日・藤澤等の油蔵あり、主に機械油を産す。農業・養蠶の外、織物・清酒その他の工業品もあり、郡内諸産物の集散地として商業盛なり。また本町は陸路交通の要衝地にして省線信越本線と磐越西線・羽越本線の分岐點たる新津驛（明治三十年設置）あるのみならず、縣道四通八達し近傍一圓自動車道の中心地をなす。もと金津莊と稱し、天正元年上杉氏の將新津越後守が城壘を築き新津城と稱し、その後約百年間はその子孫の據る所なりしが、正寶六年貞隆村上藩或は幕府領となり明治維新に至る。明治二十二年町制を布き、同三十四年に善道・下興野・北上の三村を、大正十四年阿賀浦・滿日の二村を併合し今日に至る。新津氏に二流あり、一は桓武平氏と稱せられ、東鑑、建仁元年の條に新津四郎の名見え、此地の郷士にして城氏の一族なるべく、今一家は清和源氏にて、平賀左兵衛尉盛義の後胤、平賀三郎信實よりこの地を領し、新津氏を稱せり。越後七不思議の一に挙げられし新津の土火は、大字新井

【新野村】新潟縣越後國中蒲原郡の南部。信濃・阿賀の兩河を分つ丘陵の先端、能代川中流に沿ふ。南部に一〇〇米足らずの秋葉山丘陵を負ひ、略中央を能代川北流し平地開く。本郡の首邑にして、附近は石油の産地として知られ、小口・金津・新津・朝日・藤澤等の油蔵あり、主に機械油を産す。農業・養蠶の外、織物・清酒その他の工業品もあり、郡内諸産物の集散地として商業盛なり。また本町は陸路交通の要衝地にして省線信越本線と磐越西線・羽越本線の分岐點たる新津驛（明治三十年設置）あるのみならず、縣道四通八達し近傍一圓自動車道の中心地をなす。もと金津莊と稱し、天正元年上杉氏の將新津越後守が城壘を築き新津城と稱し、その後約百年間はその子孫の據る所なりしが、正寶六年貞隆村上藩或は幕府領となり明治維新に至る。明治二十二年町制を布き、同三十四年に善道・下興野・北上の三村を、大正十四年阿賀浦・滿日の二村を併合し今日に至る。新津氏に二流あり、一は桓武平氏と稱せられ、東鑑、建仁元年の條に新津四郎の名見え、此地の郷士にして城氏の一族なるべく、今一家は清和源氏にて、平賀左兵衛尉盛義の後胤、平賀三郎信實よりこの地を領し、新津氏を稱せり。越後七不思議の一に挙げられし新津の土火は、大字新井

【新野村】新潟縣越後國中蒲原郡の南部。信濃・阿賀の兩河を分つ丘陵の先端、能代川中流に沿ふ。南部に一〇〇米足らずの秋葉山丘陵を負ひ、略中央を能代川北流し平地開く。本郡の首邑にして、附近は石油の産地として知られ、小口・金津・新津・朝日・藤澤等の油蔵あり、主に機械油を産す。農業・養蠶の外、織物・清酒その他の工業品もあり、郡内諸産物の集散地として商業盛なり。また本町は陸路交通の要衝地にして省線信越本線と磐越西線・羽越本線の分岐點たる新津驛（明治三十年設置）あるのみならず、縣道四通八達し近傍一圓自動車道の中心地をなす。もと金津莊と稱し、天正元年上杉氏の將新津越後守が城壘を築き新津城と稱し、その後約百年間はその子孫の據る所なりしが、正寶六年貞隆村上藩或は幕府領となり明治維新に至る。明治二十二年町制を布き、同三十四年に善道・下興野・北上の三村を、大正十四年阿賀浦・滿日の二村を併合し今日に至る。新津氏に二流あり、一は桓武平氏と稱せられ、東鑑、建仁元年の條に新津四郎の名見え、此地の郷士にして城氏の一族なるべく、今一家は清和源氏にて、平賀左兵衛尉盛義の後胤、平賀三郎信實よりこの地を領し、新津氏を稱せり。越後七不思議の一に挙げられし新津の土火は、大字新井

【新野村】新潟縣越後國中蒲原郡の南部。信濃・阿賀の兩河を分つ丘陵の先端、能代川中流に沿ふ。南部に一〇〇米足らずの秋葉山丘陵を負ひ、略中央を能代川北流し平地開く。本郡の首邑にして、附近は石油の産地として知られ、小口・金津・新津・朝日・藤澤等の油蔵あり、主に機械油を産す。農業・養蠶の外、織物・清酒その他の工業品もあり、郡内諸産物の集散地として商業盛なり。また本町は陸路交通の要衝地にして省線信越本線と磐越西線・羽越本線の分岐點たる新津驛（明治三十年設置）あるのみならず、縣道四通八達し近傍一圓自動車道の中心地をなす。もと金津莊と稱し、天正元年上杉氏の將新津越後守が城壘を築き新津城と稱し、その後約百年間はその子孫の據る所なりしが、正寶六年貞隆村上藩或は幕府領となり明治維新に至る。明治二十二年町制を布き、同三十四年に善道・下興野・北上の三村を、大正十四年阿賀浦・滿日の二村を併合し今日に至る。新津氏に二流あり、一は桓武平氏と稱せられ、東鑑、建仁元年の條に新津四郎の名見え、此地の郷士にして城氏の一族なるべく、今一家は清和源氏にて、平賀左兵衛尉盛義の後胤、平賀三郎信實よりこの地を領し、新津氏を稱せり。越後七不思議の一に挙げられし新津の土火は、大字新井

とが交互に展開するは著しき農業景観の一とす。その他麥・蕎麦の産あり。併しな

年に於て礦物質肥料一五九萬圓、配合肥料三〇二萬圓を生産せり。交通は省線

を布く。金子は越智氏の族と稱する金子氏發祥の地にして、東鑑に伊豫御家人三

して遂に郡名を失ひしが、文祿檢地の時新治郡名を復せしむ、そは全く故地に非

岸は低地にて水田、または沼田をなす。林産・産産を主とし、農産物には米・大

張川の左岸にあり、新治は寛政の轉置せるもの。

【新治(郡)】國造本記に見ゆる國名。成務天皇の朝、美都呂岐命の兄、比奈羅布

て越後に至るも、三國時は清水峠より利低きを以て江戸時代には専ら三國時を利

八八度。後開野より約一三軒、自動車の便あり。(川古温泉) 赤谷川の上流、赤谷川に臨み、高度九〇四米、後開より一八・八軒、大字相模まで自動車の便あり。食糧性硫黄泉、温度九〇度。深山幽谷の地、附近に硫酸製造会社の工場あり。(法師温泉) 三國峠の南麓、赤谷川の支流四川の溪谷に臨む。海拔八〇七米、四面全く翠巒に囲まれ風氣涼しく、夏季蚊を知らぬ仙境なり。泉質単純泉、温度三九度。湯は弘法大師が上州より越後に巡遊の際発見せしものと傳へ、これより法師の名あり。湯槽は河床を利用して原始的のものにて、湯は岩石の隙間より湧々と湧出す。大浴槽四、外に露の湯・温泉プールあり、温度餘り高からざるにより長浴に適す。後開野より約二一軒、自動車通す。

【新治村】 千葉縣上總國長生郡の北部。本納町の西隣にて、北は山武郡及び市原郡の一部と隣す。全村丘陵地にて森林あり。丘陵間の狭き平地には耕地ありて、米・麥を産し、養蠶・養鶏も行はる。飯沼本納町に通じ、同町の省線房越東線本納駅に出づるに便なり。此地は和名抄、長柄郡邑陀郷と稱せし地にして、近世二ノ宮社と稱せり。
【新治村】 神奈川県武蔵國都築郡の中部。横浜市の西隣にあり。多摩丘陵の一部を占め森林多く、北流を東流する鶴見川流域には低地ありて水田・畑地をなし、

米・麥・甘藷・馬鈴薯等を産し養蠶も行はる。縣道横浜市に通じ、省線横浜線は北部を西走して中山峠(明治四十四年設置)を置く。此地は和名抄、都筑郡立野郷の内に於て、近世小机保に屬す。
【二ノ木 新穂村】 伊吹山脈を乘越す峠の一。伊吹山(一三三七米)の北方約一三軒、飯沼縣東淺井郡東草野村と、岐阜縣揖斐郡坂内村の境上に最高點(九一八米)を置く。琵琶湖に注ぐ姉川と掛栗川上支廣瀬川の分水界をなす。

【二ノ木 新穂村】 新潟縣佐渡國津波郡の中部。小佐渡山系の西北斜面より西は國中平野の中部、北は加茂川の南岸にまで及ぶ大谷にして、村内東部に國府川・大野川發源し西流して平野に出で合して野野河に注ぐ。東半部は山林、西半部は平野にて、農業最も盛にて米の産五十萬圓に及び、工業・林業・牧畜之に次ぐ。佐渡島の略中央を占め縣道四通し津町へはバス・舟共に通じ交通上一中心地をなす。此地は和名抄、賀茂郡大野郷の内に於て、管領武藏・新保とあるも新穂に同じ。根本寺は日蓮上人が開目抄を著し居る處として知らる。大字湯上は加茂川の西南岸に於て、中世本間氏の一族の地に湯上氏を稱す。(日吉神社) 大字上新穂に鎮座。地社。祭神。大山咋命・大物主命。相殿に豊田別命を祀る。四條天皇天福元年池田入清の勳請する所と傳ふ。一に北野大社山王宮と稱し、別當

を新延寺と云へり。明治七年日吉神社と改む。例祭、四月十四日。(牛尾神社) 大字湯上に鎮座。地社。祭神。大己貴命。素戔鳴尊。配祀。須勢理比咩命。楠名田比賣命。延暦十一年出雲大社より勳請せる所と傳ふ。もと、八王子牛頭天王と稱せしが、明治六年湯上神社と改め、翌七年更に牛尾神社と改む。例祭、六月十三日。(根本寺) 大字大野にあり。日蓮宗。塚原山。日蓮配流の遺跡、現に當宗四十四本山の一。日蓮ここに配流の時古墳累累たる塚原なりしが、この地の三昧堂に開目抄を撰述す。これより三百年後、天文二十一年妙覺寺日蓮の法弟大泉坊日成、宗祖の靈廟を建立して痛くその衰頹を歎き、祖廟堂を建立して宗廟を開山、日蓮を二世とし、自らを八世となす。のち幾多の變遷を経しが、寛文十二年に玉日行本堂を創建、のち漸次諸堂を造營し寺觀を一一新す。講堂宇整然として覺を並べ境内に十餘あり。寺寶として日蓮自作の龍燈籠師傳・眞筆御宇法華經を始めその遺品等頗る多し。(神宮寺) 大字井内にあり。新義真言宗山岳。寺寶中銅鐘一口は永仁三年九月日蓮入の銘を存し國寶。

【二ノ木 新堀】 岩手縣陸奥國柳井郡の北部。西は北上川を距て石鳥谷町に對し、北は常陸郡津部村に接す。東半部より北部は高度百乃至二百米の花崗岩より成る丘陵に多野郷の一部と隣す。北流を川東流し流域には稍々平地ありて米・麥を産し、南境は約七〇〇米の山地にて村内に傾斜し、山脈には桑畑多く養蠶行はれて繭を多産す。山脈は北部を横走し、社線と信電氣鐵道これに沿ひ上州新屋驛(大正四年設置)を置く。此地は小幡町・秋畑村と共に和名抄、甘樂郡新屋郷の地に於て延喜式に上野國新屋郷とあるも此なり。武藏七氣系國の兒玉黨に新屋片山三郎行村あり、また大字白倉は兒玉黨の白倉氏の居りし所、岡氏は戰國時代の名家にて上州八將の一に數へられたり。のち武田氏を経て北條氏に從ひしが天正十八年小田原落城と共に滅ぶ。
【新屋】 伊豫國(愛媛縣)の古地名。和名抄に越智郡新屋郷あり、爾比也と訓す。その地今の越智郡清水村の邊なり。
【二ノ木 新家】 新潟縣(愛媛縣)喜多郡。
【二ノ木 新野】 攝津國(大阪府)の古地名。和名抄に島下郡新野郷あり、爾比也と訓す。其地は今の三島郡三島村・福井村の邊なるべし。
【二ノ木 新山】 京都府丹波國中郡の中央北部。峰山町の東に隣り、北は竹野郡に接す。東部は低き山地降り、西部は峰山盆地の一部を占むる平地にして竹野川北へ流れ沿岸に水田拓く。米・麥を産しまた機業盛に行はる。西部に縣道走り峰山町

に於て、東境に赤梅山(二八三米)あり。丘陵の南部に洪積層地帯あり、西部は北上川による沖積地にて田畑よく開く。昭和十一年の統計によれば農産物額は二四四千圓、工業は二千圓、畜産は一四千圓、林産は一千圓にて農産物は多し、農産物は米(二〇萬圓)を第一とし、蕎麥(一六千圓)・麥(一三萬圓)・大豆(一〇千圓)・粟(四萬圓)等にて、外に苹果・葡萄を産し、また工業は蠶工品(二千圓)・竹工品なり。縣道は村のほぼ中部を東西に貫通する石鳥谷・大迫線及び南北に貫通する彦根・石鳥谷線及び新堀・花巻線あり、石鳥谷町にはバスを通す。また村内の道路も発達し自動車(一三二臺)・荷車・ヤカー(一六七臺)等ありて物資運搬に便す。
【新堀村】 山形縣羽前國東田川郡の西北部。北は最上川を隔て酒田市及飽海郡に西北は京田川を隔て西田川郡に隣接す。庄内平野の略中央部に於て、全村平坦なり。最上川は北流を西流し京田川は西流を北流して最上川に合す。米の産多し。道路は村の東南より西北に通じ、西北方羽越本線酒田驛、東南方全日線へはバスの便あり。此地に明治十四年、明治天皇山形・秋田及北海道行幸の際御小休せられたる。(八幡神社) 大字木川に鎮座。地社。祭神。豊田天皇外二神。例祭、四月二十日。
【二ノ木 新見町】 岡山縣備中國

備前國の中部。高梁川左岸に沿ふ。地形西部は南北に長く、南部は東南方へ延ぶ。西半は東北方より傾き来る六百米餘の山嶺中央に跨り、東南半は東境が稍々高く、東北境に黒雲山(六四八米)聳ゆ。西境に沿ひて高梁川が南流、更に東南流し、中部にて東北方より村を貫きて流る一支流を合す。其合流點の南に市街地發達す。米・蕎麥・麥・木炭の外、酒類・生絲・蔦蕨の特産あり。本町は市街地附近を中心として交通の要衝を占む。西部には出雲街道走り東南より西北に通じ、其他の道路四通八達し自動車の便よし。省線伯備線西南部を通過し、新見驛(隣村上布村にあり、昭和三年設置)より省線新線分れて東北方へ河川に沿ひて走る。此地は和名抄、智多郡新見郷(爾比也と訓す)の内に於て舊出雲街道の一驛たり、中世は新見庄と稱し東寺の所領たり。本郷の中心都邑にして、江戸時代關氏の陣屋を置きし所。舊郡役所のありし所。明治二十九年町制を布く。(新見藩) 元禄十年關長政の地を領し一萬八千石を食み子孫相承けて明治維新に至る。明治四年藩を廢して新見縣を置き間もなく廢して深津縣に入る。(八幡神社) 大字新見に鎮座。地社。祭神。品陀和氣命。古くより當村の産土神として崇敬さる。例祭、十月十五日。
【二ノ木 新溝】 尾張國(愛知縣)の古地名。延喜兵部省式に新溝驛々

馬十疋と見ゆ。いづれ其地を詳にするを得ざれども、或は名古屋市の古道の邊ならんか。
【二ノ木 新谷村】 愛媛縣伊豫國喜多郡の中部。内子町の西、大洲町の東北方。北には高橋・柳澤・三善の三村あり、南は菅田村と界す。面積二四・四二方軒。南境には高取七百米の山脈東西に連亘して北に傾斜し、北部は數百米の山岳層居し何れも南に傾斜し、北川の支流東北部山地より南流して方向を轉じこの兩山地の間を西流し、その流域に平地を開き耕作行はる。米・麥・蕎麥の産あり。山地よりは三稜・檜その他の林産物を出す。省線内子線の新谷・喜多山(共に大正九年設置)の二驛あり。この地は大洲町・栗津村・三善村と共に和名抄、喜多郡新屋郷の地なり。大正十一年本村と喜多山村を廢し新に新谷村を置く。延喜二年、大洲城主加藤泰興、弟直泰に懸田一萬石を分與し、此地に陣屋を置かしめ、子孫相承けて明治維新に至れり。世に新谷郷と稱す。(稻荷神社) 大谷新谷に鎮座。地社。祭神。伊弉諾命・伊弉冉命外四神。舊新谷藩主加藤泰令代々の祈願所たり。明治四年一時新谷縣の縣社に列せしが、翌五年同縣廢せられしと共に改めて郷社に列す。例祭、九月五日。
【新屋村】 群馬縣上野國北甘樂郡の東部。小幡町・島島町の東隣にて、東より

へいたの便あり。和名抄、丹波郡日根町の内に屬し、大字内記は風土記卷文に天女豐宇賀能賣命が丹波の里、哭木村に至り、楓木に據りて哭く、故に哭木村といふとある地にして、延喜式の名木神社あり、豐宇賀能賣命を祭る。大字荒山には延喜式の彼御神社鎮座す。
【新山村】 岡山縣備中國小田郡の南部。北方に小田町、南方に笠岡町あり。東北より西南に稍々狭長の村なり。小田川南部を東西に走る彦原山脈の中央部の山地を占め、東西兩地に百未前後の山岳層居して何れも中央に傾斜し、その麓に南北に狭長な平地を開く。平地の中央に貯水池ありて附近の灌漑を助く。從つて平地及び丘陵には耕作行はれ米・麥・蕎麥を産しまた柿・薄荷等の産あり、其他機業も盛なり。平地を南北に縣道貫通し小田・笠岡兩町を連絡し何れもバスの便あり、又これに並行して社線井笠鐵道通じ新山驛(大正二年設置)を置く。
【新山村】 岡山縣備中國御津郡の西北隅。北は眞庭郡と界し落合町の南方約六軒にあり、西は上房郡に界す。四周山地を繞らすも西境は高くして飯ノ山(五〇六米)聳え、西南境は六〇〇米餘を有す。東部山麓には稍々低地ありて耕地拓く。米・麥・木炭を産し柿・蔦蕨の特産あり。中央に道路橋斷するありて東隣江與味村を経て旭川の渡船により國道に合す。バスの便あり。

【二ノ木 新山】 京都府丹波國中郡の中央北部。峰山町の東に隣り、北は竹野郡に接す。東部は低き山地降り、西部は峰山盆地の一部を占むる平地にして竹野川北へ流れ沿岸に水田拓く。米・麥を産しまた機業盛に行はる。西部に縣道走り峰山町

に於て、東境に赤梅山(二八三米)あり。丘陵の南部に洪積層地帯あり、西部は北上川による沖積地にて田畑よく開く。昭和十一年の統計によれば農産物額は二四四千圓、工業は二千圓、畜産は一四千圓、林産は一千圓にて農産物は多し、農産物は米(二〇萬圓)を第一とし、蕎麥(一六千圓)・麥(一三萬圓)・大豆(一〇千圓)・粟(四萬圓)等にて、外に苹果・葡萄を産し、また工業は蠶工品(二千圓)・竹工品なり。縣道は村のほぼ中部を東西に貫通する石鳥谷・大迫線及び南北に貫通する彦根・石鳥谷線及び新堀・花巻線あり、石鳥谷町にはバスを通す。また村内の道路も発達し自動車(一三二臺)・荷車・ヤカー(一六七臺)等ありて物資運搬に便す。
【新堀村】 山形縣羽前國東田川郡の西北部。北は最上川を隔て酒田市及飽海郡に西北は京田川を隔て西田川郡に隣接す。庄内平野の略中央部に於て、全村平坦なり。最上川は北流を西流し京田川は西流を北流して最上川に合す。米の産多し。道路は村の東南より西北に通じ、西北方羽越本線酒田驛、東南方全日線へはバスの便あり。此地に明治十四年、明治天皇山形・秋田及北海道行幸の際御小休せられたる。(八幡神社) 大字木川に鎮座。地社。祭神。豊田天皇外二神。例祭、四月二十日。
【二ノ木 新見町】 岡山縣備中國

ニイワ 新和

【新和村】 青森縣陸奥國中津輕郡の東北隅。岩木川の西岸に沿ふ。東北は岩木川を距て北津輕郡板柳町・鶴田村と相對す。東西三・五軒、南北九軒に亘る細長き形をなす。西境に山風森山(七〇米)の丘陵連るも、大部分は岩木川による沖積地にして、北境の廻堰大溜池を始め砂澤池等の池沼群及び大崎川・大石川等により灌漑の便よく耕地よく開け米・林産を多産す。街道は岩木川に沿うて通す。

【新和村】 埼玉縣武藏國南埼玉郡の南部。越ヶ谷町の西方約四・五軒にて綾瀬川の北岸にあり。南は川を隔てて北足立郡の一部と相對す。北境には元荒川東流す。全村平地にして水田多く米を主産し他に蕎麥・蕎麥を産す。縣道越ヶ谷町に通じ同町の社福東武鐵道越ヶ谷驛へバスの便あり。

【新和村】 秋田縣羽後國山本郡の東部。二ツ井町の北に隣り、同町と組合町村をなし、東は北秋田郡に接す。村の東西兩端には山地連りて中央に傾斜し、藤巻川は村の中央部を南流して未代川に合し沿岸に耕地拓く。未代川は南部を西流す。米を産す。道路は南部を東西に通じ、奥羽本線二ツ井驛へはバスの便あり。

【新居】 河内國(大阪府)の古地名。和郡名抄に河内郡新居郷あり、その地今の中河内郡枚岡村の邊か。

【新居】 河内國(大阪府)の古地名。和名抄に錦郡新居郷あり、その地今の南河内郡川西村・錦郡村の邊なるべし。

【新居村】 徳島縣阿波國名東郡の東北隅。別宮川の南岸にして徳島市の西北に隣る。地形平坦にして吉野川下流の分流別宮川北境を東流し徳島市の北境を流れて東南方約七軒にて紀伊水道に注ぐ。地味肥沃にして満の産額最も多く米之に次ぎ蕎麥も産す。讃岐街道中部を西北より東南に横斷し自動車走りて徳島市に至る。この地は和名抄、名方郡新居郷に當る。東大寺文書に新島庄とあるは此地なり。

【新居郡】 愛媛縣(伊豫國)十二郡の一。四國山脈の北斜面に位して燈臺に臨む。西南は上浮穴郡に接し南は高知縣土佐郡に界す。南境には四國山脈東西に連りて狭ヶ崎・寒風山・伊豫富士・東墨森山・西墨森山・瓶ヶ森山・伊吹山・岩墨山等屹立し、西南隅の石碓山は實に劍山に次ぐ四國第二の峻峰にて一九二二米あり。四國山脈の北には西赤石山・上兜山・墨森山・扇山等を含む法皇山脈東西に連りて峰相接し實に南部は峻嶺重疊し峻險なる

ニイワ—ニイ

ニイワ 新和

西南境に當隆寺山(五一六米)聳え南境には妙見山(五一九米)屹つ。東南部には妙見山より發する河川ありて東北流し浦村を経て大阪灣に注ぐ。北部は僅に海に臨み稍々沿岸低地を見る。米・麥類・食用外、鵜卵・薯製品等を産す。海岸に沿ひて縣道通過す。(當隆寺)大字仁井にあり。古義經曹宗。廢帝院と號し御宗末たり。寺傳に淳仁天皇天平寶字八年廢位のことありて當國に遷幸せられ、皇父倉人親王追善の爲に本寺を創建せらる。一説に桓武天皇の朝早良親王皇太子を廢せられ當國に遷されんとして遂に薨せられし爲、當國に葬り崇徳天皇と追號し延暦二十四年その追願の爲に本寺を創せしむ。

【新井村】 兵庫縣丹波國水上郡の中部。柏原町の西に隣る。南境に五百餘米の山地ありて山腹北方に延び、村域概ね山地をなすも、北部を佐治川の一支西北に流れ、流域は卑湿地をなす。米・蕎麥の外に木炭・木材を出す。幹線街道は本村内を通過せず交通不便なり。(新井神社)大字大新屋に鎮座。村社。祭神、高皇產靈神。本殿・拜殿・社務所・神輿庫等あり。

【新井】 兵庫縣朝來郡山日村の大字。省線播磨線の新井驛(明治三十四年設置)を設く。

【新井】 伯耆國(鳥取縣)の古地名。和名抄に汗入郡新井郷あり、その地今の西伯郡内ならんも詳かならず。

【新居村】 三重縣伊賀國阿山郡の西部。伊賀川に沿ひ、上野盆地の西北部を占め、西北は滋賀縣甲賀郡に界す。西北境には七〇〇米餘の連嶺東北より西南に連り、南境には伊賀川に沿ひて西南流し其間を通過す。この地は和名抄、高岡郡三井郡の内。幕末の幕王家、中島興一郎(附從五位)は本村の人。(新居神社)大字新居に鎮座。總社。祭神、品陀別大神・菅原道義。古より當村の産土神にして、もと八幡宮・天神宮と稱したりしが、明治に至りてより現稱に改む。例祭、十月一日。

【新居】 三井郡の東部。高岡町の東方約五軒。東南は宮城郡、東北は南村山郡に接す。奥羽山脈の西斜面に屬し、東南境に二井宿(五六八米)・仙臺(九一二米)・東北境に柏木峠(五〇〇米)あり、村心に向つて傾斜し、西境もまた山地連る。屋代川は東南境に發源して北方より支流を合し村の南部を西流す。沿岸に耕地拓く。米・蕎麥を産す。道路は南部を東西に通じ、西方高岡町へはバスの便あり。社線高岡鐵道の終點にして、二井宿・上駄子町の二驛(大正十三年設置)を設く。此地は天文・天正・慶長以後の文書に新宿と書けり。

【二井田村】 秋田縣羽後國北秋田郡の中部。大館町の西南約三軒。村の西境は海抜約四〇〇米にして斷崖崖をなし東北方に傾斜し、東部は大館盆地に屬して平坦なり。引欠川は中部を、未代川は東境を各西北に流る。米を産す。道路は村の東部を東南より西北に通じ、東南方社線秋田鐵道扇田驛へはバスの便あり。

ニイワ—ニイ

ニイワ 新和

郡沿岸に平地開く。米・蕎麥・茶・鵜卵・西炭及其他の礦産・畜産・林産・水産・工業あり。省線關西線南部を通過して伊賀上野驛(東約〇・五軒)に近し。和名抄に阿拜郡新居郷と云ふは本村及び鳥ヶ原村の邊をも含めるもの。(高倉神社)大字西村に鎮座。總社。祭神、高倉下命(手栗彦命・天香野山命)。社記に垂仁天皇御宇に當社祭神七世の孫なる備得王彦命この地に住し、祖先を鎮祀してその氏神とす。これ當社の創建と云ふ。神位從五位下。天正二年伊賀國守護藤本長政は社殿を造營す。江戸時代以降は朝廷の御崇敬深し。明治二十四年には久遠宮朝彦親王より御祭幣の賜額を賜はる。社殿中、本殿と末社八幡社・春日社は同體。例祭、十月十五日。(高倉神社の無量壽)指定天然記念物。高倉神社の境内にあり。種子の乾燥するに従ひ、表皮は離れて殼の内面に附着するに由り、殼を割れば直ちに白色の種子露出するを以て無量壽の名起る。同村西山の果鏡寺にも同種のものありて天然記念物に指定せらる。(佛土寺)大字東村にあり。新義經曹宗發山後。藤原初期の創立といひ、もと伊賀國八太寺の園一にして、塔頭十九院、寺領五百石を有する鎮護國家の靈場、天台宗の大伽藍たりき。阿彌陀如來坐像(木造)一軀は國寶。(廣福院常石町)指定史蹟。宇水上・豆土・鳥井出・中打・扇山の地域に亘りて其數八基を存す。略

【新井】 伯耆國(鳥取縣)の古地名。和名抄に汗入郡新井郷あり、その地今の西伯郡内ならんも詳かならず。

【新居村】 三重縣伊賀國阿山郡の西部。伊賀川に沿ひ、上野盆地の西北部を占め、西北は滋賀縣甲賀郡に界す。西北境には七〇〇米餘の連嶺東北より西南に連り、南境には伊賀川に沿ひて西南流し其間を通過す。この地は和名抄、高岡郡三井郡の内。幕末の幕王家、中島興一郎(附從五位)は本村の人。(新居神社)大字新居に鎮座。總社。祭神、品陀別大神・菅原道義。古より當村の産土神にして、もと八幡宮・天神宮と稱したりしが、明治に至りてより現稱に改む。例祭、十月一日。

【新居】 三井郡の東部。高岡町の東方約五軒。東南は宮城郡、東北は南村山郡に接す。奥羽山脈の西斜面に屬し、東南境に二井宿(五六八米)・仙臺(九一二米)・東北境に柏木峠(五〇〇米)あり、村心に向つて傾斜し、西境もまた山地連る。屋代川は東南境に發源して北方より支流を合し村の南部を西流す。沿岸に耕地拓く。米・蕎麥を産す。道路は南部を東西に通じ、西方高岡町へはバスの便あり。社線高岡鐵道の終點にして、二井宿・上駄子町の二驛(大正十三年設置)を設く。此地は天文・天正・慶長以後の文書に新宿と書けり。

【二井田村】 秋田縣羽後國北秋田郡の中部。大館町の西南約三軒。村の西境は海抜約四〇〇米にして斷崖崖をなし東北方に傾斜し、東部は大館盆地に屬して平坦なり。引欠川は中部を、未代川は東境を各西北に流る。米を産す。道路は村の東部を東南より西北に通じ、東南方社線秋田鐵道扇田驛へはバスの便あり。

【二井田村】 秋田縣羽後國北秋田郡の中部。大館町の西南約三軒。村の西境は海抜約四〇〇米にして斷崖崖をなし東北方に傾斜し、東部は大館盆地に屬して平坦なり。引欠川は中部を、未代川は東境を各西北に流る。米を産す。道路は村の東部を東南より西北に通じ、東南方社線秋田鐵道扇田驛へはバスの便あり。

ニイワ—ニイ

ニイワ 新和

【新和村】 青森縣陸奥國中津輕郡の東北隅。岩木川の西岸に沿ふ。東北は岩木川を距て北津輕郡板柳町・鶴田村と相對す。東西三・五軒、南北九軒に亘る細長き形をなす。西境に山風森山(七〇米)の丘陵連るも、大部分は岩木川による沖積地にして、北境の廻堰大溜池を始め砂澤池等の池沼群及び大崎川・大石川等により灌漑の便よく耕地よく開け米・林産を多産す。街道は岩木川に沿うて通す。

【新和村】 埼玉縣武藏國南埼玉郡の南部。越ヶ谷町の西方約四・五軒にて綾瀬川の北岸にあり。南は川を隔てて北足立郡の一部と相對す。北境には元荒川東流す。全村平地にして水田多く米を主産し他に蕎麥・蕎麥を産す。縣道越ヶ谷町に通じ同町の社福東武鐵道越ヶ谷驛へバスの便あり。

【新和村】 秋田縣羽後國山本郡の東部。二ツ井町の北に隣り、同町と組合町村をなし、東は北秋田郡に接す。村の東西兩端には山地連りて中央に傾斜し、藤巻川は村の中央部を南流して未代川に合し沿岸に耕地拓く。未代川は南部を西流す。米を産す。道路は南部を東西に通じ、奥羽本線二ツ井驛へはバスの便あり。

【新居】 河内國(大阪府)の古地名。和郡名抄に河内郡新居郷あり、その地今の中河内郡枚岡村の邊か。

【新居】 河内國(大阪府)の古地名。和名抄に錦郡新居郷あり、その地今の南河内郡川西村・錦郡村の邊なるべし。

【新居村】 徳島縣阿波國名東郡の東北隅。別宮川の南岸にして徳島市の西北に隣る。地形平坦にして吉野川下流の分流別宮川北境を東流し徳島市の北境を流れて東南方約七軒にて紀伊水道に注ぐ。地味肥沃にして満の産額最も多く米之に次ぎ蕎麥も産す。讃岐街道中部を西北より東南に横斷し自動車走りて徳島市に至る。この地は和名抄、名方郡新居郷に當る。東大寺文書に新島庄とあるは此地なり。

【新居郡】 愛媛縣(伊豫國)十二郡の一。四國山脈の北斜面に位して燈臺に臨む。西南は上浮穴郡に接し南は高知縣土佐郡に界す。南境には四國山脈東西に連りて狭ヶ崎・寒風山・伊豫富士・東墨森山・西墨森山・瓶ヶ森山・伊吹山・岩墨山等屹立し、西南隅の石碓山は實に劍山に次ぐ四國第二の峻峰にて一九二二米あり。四國山脈の北には西赤石山・上兜山・墨森山・扇山等を含む法皇山脈東西に連りて峰相接し實に南部は峻嶺重疊し峻險なる

ニシウーニシウ

村を結び、又各河川に沿ひて村道通ずれど交通不便なり。明治十七年白井郡を東西二部に分ちて新設す。

ニシウチ 西内村

長野縣信濃國小縣郡の西部。丸子町の西方約八軒。西は山脈を境に東筑摩郡に接す。北・西・南三境は何れも山岳に圍繞され、西北部に發源せる内村川は略中央を東に流れ谷沿に衆落散在す。村の略中央に、大壘・鹿野湯・寶泉寺等の温泉湧出す。養蠶・農業行はれ、米・麥等の産あり。この地は和名抄、小縣郡餘戸郷の内なりといふも詳かならず。のち善平井村・西内村を合して本村となす。村内に御尾湯(高さ二〇米、幅一米)あり。(鹿野湯温泉)泉質、食鹽泉。療養並びに行樂向。鹿野湯川に臨み、前田は山の中腹の文殊堂と對す。源泉は川の沿岸と河底の岩石の間より湧出す。此湯は文殊堂の文殊菩薩が鹿に化身し此處に湯のあることを教ふと傳ふ。(寶泉寺温泉)泉質、食鹽泉。行樂並びに療養向。弘安元年に僧雲峯の開設と傳へらる。温泉はもと寶泉寺の寺邊なりき。(西内村枝葉集自生地)指定天然記念物。村役場の北二軒、朝日山の山中にあり。この邊一帯は普通の葉も多きと、林中山腹の斜面、谷間・山頂に近きところには枝葉集散生す。

ニシウチハラ 西内原村

和歌山縣紀伊國日高郡の西部。山内村の南に隣り、御坊町の北西方約二・五軒にあり。

ニシウチハラ 西内原村

指定天然記念物。古来木食に栽培せる小葉の互葉なり。根元より六支に分れ根元周囲三・五米、樹高七米、葉長東西一三米、南北一・二米に達す。葉の互葉として有数のものなり。(大瀬神社)大字江梨に鎮座。郷社。祭神、引手力命。伊豆國神階に「正四位上上瀨の明神」と見ゆるものにして、式内引手力命神社に充てらる。古來七浦の總領守として船夫・漁夫の崇敬篤し。例祭、四月四日。

西浦村

愛知縣三河國寶飯郡の西南端。形原町の南に隣り、西は幡豆郡幡豆町に接し、西および東南は瀨美灘に臨む。村は瀨美灘中に突出する御前崎より成り、一〇〇米内外の丘陵連立し御前崎は崖をなして海に臨む。西北海岸は砂浜をなす。半農半漁にて農業も氣候溫和なるため産物に富み、蔬菜の促成・抑制栽培も行はれ、また水産も盛なり。葉落は西海岸に密集し街道は北方形原町に五リパスを通ず。人口は昭和十年四〇五七人にして一方軒密度は一一・五人の多数を示し最も人口稠密地域をなす。この地は和名抄、寶飯郡形原郷の内にして、附近は海水浴場として知られ、村内に知多本宮山航空燈臺あり。

西浦町

愛知縣尾張國知多郡、知多半島の西岸中部。半田市の西南に隣り、北は常滑町に、東南は武豊町に接し、西は伊勢灣に臨む。東境には知多半島の脊梁をなす第三紀の砂岩・頁岩・泥灰岩・砂

西浦町

北半は二〇〇米前後の山地をなし、南部は低地開けて東北方より來たる日高川の支流西南流してこれを灌漑す。米・蕎麥・柑橘の産及ぶ畜産・林産・工業・礦産あり。北部には御坊町と北方由良港・湯淺町方面とを結ぶ鐵道ありてバス利用多し、南部には東西に横切る鐵道あり。省線紀勢西線は此地を通過して紀伊内原驛(東方約〇・五軒)に近し。この地は和名抄、日高郡内原郷に屬す。

西浦町

愛知縣中島郡にありし村。明治三十九年に四箇村と共に廢され、その地域を以て新たに長岡村を置く。

西浦町

新潟縣越後國西頸城郡の中部。糸魚川町の東南に接し、幾山(二四〇〇米)・天狗原山(二一九七米)の西北山麓より海川の流域一帯を含む。東南―西北に長く南は長野縣北安曇郡に接す。東南半には一五〇〇米前後の山岳重疊し、西北に次第に傾斜し、海川は略中央を貫流し西北隅より海に入る。下流僅かに平地あり。農業・養蠶を主とし米の産最も多し。東部山地には森林繁茂して林業行はれ、発電所も二、三あり。西北隅を省線北陸本線がすみ糸魚川驛に近く谷沿に一俵の鐵道あり。飯川上流に鐵道支線あり。(雲臺寺)大字御前山にあり。天台宗寺門。國孝御前山。一に御前山觀音と稱す。孝徳天皇の御、法皇御入胎を受けて

西浦町

諸國に五十箇寺の伽藍を建つ。本寺は其一にして仙人、隨弟觀雲を開山となすと傳ふ。元龜・天正の頃兵火に罹りて廢絶せしを明治十三年再興す。境内頗る風致に富み、傳へらるる古詩・古歌少なからず。境外の水保觀音堂(俗稱火伏の觀音)は大開元年坂上田村麿の草創と傳へ本尊十一面觀音像は國寶なり。

西浦町

石川縣能登國珠洲郡の北端。能登半島の東北端を占め、北方は日本海に臨む。南境には風玉山脈に屬する山嶺連立し、水山(四〇五米)・松ヶ瀬山(三六六米)・山伏山(七二二米)等あり、これ等の山嶺は能登半島先端部の分水嶺をなすを以て河川の大なるものなく、山間は海に至りて海岸をなし、更にクバ崎・鞍崎・大崎・崎崎・シヤク崎・磯崎崎の小突出となり、磯崎崎は珠洲岬の一にて磯崎崎燈臺あり。半農半漁にて米・蕎麥を産する外に水産盛なり。街道は海岸に沿うて通ずるも交通便ならず。この地は和名抄、珠洲郡大足郷の内にして、明治四十年大谷村・大崎村・日置村を合して本村を置く。本村大字馬場は日本後紀大同三年の條に特野・珠洲の二郡を廢すること見ゆ、この珠洲の地なり。大字折戸は延暦年間、海上警戒のために其の備ありし故蹟なり。(磯崎崎燈臺)大字魚燈にあり。燈質は明治日光にして、先達取願一

西浦町

を合み八幡濱市を併みて南北二部に分け北は伊豫灘に西は豊後水道に臨む。略々東北より西南に連る四國山脈西端の山地部内起伏して平地殆どなし。海岸はリヤス式扇曲を呈し、西北部に狭長なる佐田岬岬が西南方へ突出して豊後海峽を隔てて大分縣の地蔵岬と相對す。中央に矢野崎・諏訪崎突出して八幡濱灣を抱きそれを圍みて八幡濱市發達す。その南に龍崎・須崎等の突出ありてそれら、灣を抱き處々に小嶺地あれども背後山岳地なる爲大なる港なし。海上には黒島・佐島・大島・地ノ大島、外數多の小島嶼散在す。海岸は水産業發達し漁獲物少からず。工業に木綿織多し。郡内は三軒町・川之石町の二町外十五ヶ村を含み人口密度は平均一方軒三〇六人なり。八幡濱市市街地より中部を東南に走る鐵道あり、定期バス通ひて南方吉田町・宇和島市方面に至る。八幡濱市より北は東北方大洲町に向ふ鐵道走りて途中省線豫讃線平野驛へバスを通じ、八幡濱港及び其の北隣川之石港より海上便船あり。明治十三年宇和郡を分ちて東西南北の四郡に分ちて新設。明治三十二年一部を喜多郡に編入す。

西浦町

分縣豐後國南海部の東北端。佐伯灣に臨み、佐伯町の北西方約四軒。全村山地斜面をなし、北境に彦根岬岬。南岸は扇曲割合に乏しきも西南部に南へ岬が半島狀に突出す。前海上に彦島浮び更に東南

西浦町

方は大八島を望み、風景良し。低地乏し、耕地面積僅少なり。海岸は水産業發達し、海岸には省線日豊本線後多のトンネルが穿ちて通過し、東北約二軒に淺海非難あり、海上は發動機船による其他の陸上交通不便なり。附近町村と共に要塞地帯の一部なり。此地は和名抄、海部郡龍門郷の内なるべく、村内に特生銀乳洞あり。(特生銀乳洞)指定天然記念物。大字西上浦字銀穴にあり。古生層の石灰岩中に生じたる石灰洞にて、洞の形は東北より西南に走る二條の階層と、之に直交して西北より東南に走る五條の階層に沿ひて流れし地下水の作用によりて生じたることを示す。山の中段と頂上に開口し、一方より入りて他方に出づるを得。本洞は昭和七年の發見にかゝり、洞内の沈積物なほよく保存せられ、發見當時洞窟の最低部より猿族の完全なる遺骨を採集す。獸骨を石灰洞中より發見せることは本邦に於ては稀なり。

西浦町

岐阜縣美濃國海津郡の中央南部。高須町の南に隣り。本村は低濕なる輪中の一帯を占め村内池沼多く散在し、西境には排漕川、東境には大江川東南流して東南境にて合す。農業を主として米・麥を産す。特産物には源五郎餅・蓴菜あり。排漕川河岸に沿ひ西北部に高須町方面より南方桑名市へ至る鐵道通じ又排漕川は舟運の便あり。(八幡神社)大字稻山に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。

西浦町

西シウーニシエ

西浦

神奈川縣三浦郡にありし村。と中西浦村と稱せしが明治四十四年に西浦村と改稱、昭和十年に大浦町と改む。

西浦村

石川縣能登國羽咋郡の北部。富來町の北西方約五軒。西は日本海に臨み北は風玉郡に界す。東に丘陵重疊し西海岸に傾斜す。平地乏しく葉落は概れ海岸に集る。漁業を主産業とし、次いで農業行はれ米・蕎麥を産す。海岸に沿う道路及び北部を通り東南方富來町に至る鐵道通じバス便あり。

西浦

福井縣三方郡にありし村。明治四十年田井村と合併して西田村を置く。

西浦村

靜岡縣伊豆國田方郡の西部。修善寺町の西北に接し、連勝火山群の北端部。北方は江浦灣を隔て、沼津市に面す。全村丘陵性にして平地乏しく南より北へ傾斜す。葉落は大部分海岸に沿ひ、半農半漁の地。農業最も盛んにして米・茶・粟・蕎麥を産し、水産・林産はこれに次ぎ、其他牧畜・工業も多少行はる。海岸一條の鐵道走りて、沼津市及び社線駿豆鐵道伊豆長岡驛(約九軒)へバスの便あり。この地は近世、三津庄の内にして大字江梨は北條氏の臣鈴木兵衛宗宗の住せし地なりと。(大瀬崎の植樹林)指定天然記念物。伊豆半島の西北に突出せる岬角にあり。老樹多く其最大なるものは日通幹圍約六・三米に達す。植樹の樹林として代表的なり。(木食の大葉樹)

西浦

西シウーニシエ

西浦

岐阜縣美濃國海津郡の中央南部。高須町の南に隣り。本村は低濕なる輪中の一帯を占め村内池沼多く散在し、西境には排漕川、東境には大江川東南流して東南境にて合す。農業を主として米・麥を産す。特産物には源五郎餅・蓴菜あり。排漕川河岸に沿ひ西北部に高須町方面より南方桑名市へ至る鐵道通じ又排漕川は舟運の便あり。(八幡神社)大字稻山に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。

西浦

西シウーニシエ

西浦

西シウーニシエ

西浦

西シウーニシエ

西浦

西シウーニシエ

西浦

西シウーニシエ

西浦

例祭、陰曆八月十五日。

ニシエバ 西江原町

岡山縣備中 國後月郡の南部。井原町の東に接し、北は山野上村、東は荏原村、南は小田川を隔て、木之子村に界す。全町二百乃至三百米の山地よりなり、何れも南北に山嶺連立して南境を東流する小田川河原に至りて低下し、麓下に平地を開く。従つてこの附近は耕地拓けて農作行はれ米、麥、蕎麥等の産多く、また梨、薄荷等の特産あり。南部に國道山陽道東西に通じ西南隅にて南北に縣道を分つ。市街はこゝに發達し、農林産物の集散のみならず、機業・酒造等行はれ市況頗る活潑なり。南約一五軒に笠岡あり、バスを通じ、井原町に接して交通至便なり。此地は和名抄、後月郡那須郷に屬せしもの如し。小菅城址は那須一宗高の子孫の居りし處にして近世一獨家の出雲陣屋あり、郡役所もまた此處に置かれたり。私立興業館中學校は幕末の鴻儒飯谷朝庭(飯谷芳郎の父)の設立にして、住時閑谷(閑谷)を同じうせるものなり。大正十四年町制を布く。(道祖)永祥寺の後山一帯をいひ、溪澗美に富み、秋の紅葉時、松平村に杖を曳く者多し。(永祥寺)曹洞宗。禪洞山と號し總持寺直末なり。其久年間那須肥前守貞の創建に係り、建久年間一宗高を開基となす。元年中那須遠江守資道大いに御堂を造營、實業良秀を請じて開山とす。境内に那須一宗の墓あり。

ニシオ 西尾

石川縣加賀國能美郡の中部。小松町の東南約五軒の山中。東西兩部共に加賀山脈の餘脈連立し、全村五百六十米の丘陵地帯をなす。大杉川の支流中部に發源して西北流し、河岸に耕地拓く。農産・林業を主産とし、米・麥・蕎麥・薪炭等を出し、東部山中には尾小屋嶺山あり。小松町より社線尾小屋嶺道を通じ、澤・波佐良・觀音下・倉谷口・尾小屋の五群(共に大正八年設置)を置く。縣道また南北に貫通し、東へ二三の道路を分岐す。(尾小屋嶺山) 本邦重要嶺山の第一。嶺區は本村及び鳥越村に跨り、事務所を本村に置く。嶺區は主として郷谷川と大日川との間を隔つる海拔最高五六〇米の山地の兩側に跨り、何れも主として第三紀凝灰岩より成れども、安山岩及び石英粗面岩に貫かる。嶺區は主として北七十五度東及び北六十度西の二方向に走る二組の正規嶺にして、その数三十餘條中、第六、第八、第九脈最も著しく、延長最大一〇〇〇米、幅〇・三乃至五米、主として石英・黄鐵礦・黄銅礦より成り、閃亜鉛礦及び方鉛礦を含む、含銅一乃至一二%、平均三%内外に達す。本嶺區は明治十一年橋佐平の発見にかゝり、同十四年横山隆平の所有に歸し、その後盛衰多く、昭和七年日本鐵業會社の經營に移る。現在これに元山・波佐良兩方面より坑道を掘り、鑿岩機を以て採掘し、

ガソリン軌道機車によりて坑外に搬出して選礦製錬し、含金銀粗銅となし、之をそのまゝ日立嶺山電氣精錬場に送つて金銀及び精銅を分離す。その産額一年凡そ二〇〇〇噸(昭和十一年一七〇〇噸)、従業員約六〇〇名。

【西尾町】

愛知縣三河國幡豆郡の北部。矢作川左岸。矢作古川の分流による三角洲上を占め、北は矢作川本流を境に碧海郡に接す。三河平野の東南部、所謂三河アンマリーの名を以て知らるゝ本郡の首邑にて紡織工業を第一に農産・養蠶また盛なり。廣市綿織物の産額最も多く、年産三〇二萬圓に及び、清酒の一〇萬圓之に次ぎ工業産額約四〇八萬五千圓あり。農産・養蠶の産額八五萬三千圓、米・蕎麥を筆頭に綿織物の産多く、その他養蠶・蠶業・百合根栽培・郷土玩具工藝等の副業が凡て産業組合の活潑なる活動により極めて組織的に經營する。町内を社線碧海電線南北に貫通し、東西に社線名古屋鐵道西尾嶺貫通し西尾驛(明治四十四年設置)にて接し、前者に中津前(昭和三年設置)碧海西尾口(昭和五年設置)の二驛を置き、後者に住持驛(昭和四年設置)・久麻久驛(明治四十四年設置)を置く。縣道また本町を中心として諸方に通じバスの便よし。この地は和名抄、幡豆郡能美郷の内。舊郡役所ありし所に郡の中心地たり。住古養蠶と稱す。蓋し海濱にして住民を養へ、多く食糧を産せし故なり。

鎌倉幕府の時に至り、吉良氏の祖、三河の守護足利義氏この地に來り城を築き城下を西城と稱す。爾來永祿四年に至るまで十四代三百四十四年間、吉良氏これが城主たり。永祿五年松平氏の將酒井兼榮助正親城主となり、既にして西城を西尾と改稱す。其後、城主屢々交替せしが、明和元年松平和泉守宗信この地に移封されしより子孫相繼ぎて明治維新に至る。明治二十二年町制を布く。明治三十九年本町及び久麻久村・西野町村・大寶村・奥津村を廢し、新に西尾町を置く。本町は遠州横須賀城主西尾氏の起し所。大字今川は清和源氏、足利義氏の子吉良長氏、其子國氏ここに住し今川氏を稱す。九代氏親に至りて勢振ひ、子義元、織田信長に討たるるに及び衰へ、子氏前に至りて亡ぶ。(西尾城)一に西條城といふ。初め吉良氏此處に築き傳へて義朝(一に義滿に作る)に至る。永祿四年、松平氏の將酒井正親、襲つて之を取ら。同六年、一向宗徒の亂に正親之を守りて戰ふ。正親の子孫相繼ぎて天正の末年に戰ふ。慶長五年、本多康俊討せられ、明和元年、松平(大給)乗術これに代りて六萬石を食み、子孫相繼ぎて明治維新に至る。(寛川城) 大字八面にあり。吉良氏の一族、寛川氏の據りしところとす。永祿四年、寛川頼時(又・頼持とす)酒井正親に依りて徳川家康に降る。同六年、頼時、一向一揆に當り、七年二月、正親を西尾に攻む。

ニシオザイ 西大在

大分縣北東部にありし村。明治四十年本村外一村を合し大在村を置く。

ニシオサキ 西大崎村

宮城縣陸奥國玉造郡の東南部。岩出山町の南に隣り、東は栗原郡、西は加美郡に接す。陸奥平野の西部に當り、村の北東部及び南東部に丘陵をなすも、中央部は平坦にして芝刈用ほゞ中部を南東流して灌溉す。米・蕎麥を産す。道路は中央部を西北より東南に通じ、西北方陸羽東線岩出山驛へ約三・五軒あり。

ニシオシ 西大路

滋賀縣近江國蒲生郡の東南部。日野町の東に接し東と東南は甲賀郡に界す。東境に鈴鹿山脈に屬する綿向山(一一〇米)あり。西部中央に低地開け綿向山に發する日野川は東部を西南流し南部にて西北流に轉じ日野町へ出づ。米作を主とするも山間部にては炭焼・薪炭業行はれ尙ほ關東方面へ商家奉公に出づる者多し。所謂日野商人なり。中部を縣道横隔しバスの便あり。(蒲生城) 大字昔羽にその址あり。また日野城といふ。藤原秀郷の二男千晴の六代の高浦生太郎惟俊初めて當城を築き、子孫相繼ぐ。天正十年織田信長討さるゝや、蒲生氏郷、信長夫人を扶けて日野城に入る。羽柴秀吉光秀を滅ぼすに及び、氏郷の功を賞し五千石を加増す。のち氏郷伊勢松阪城に移るに及びて衰ふ。(興敬寺) 大字西大路

東康、本野信正の徒を得て、八面を攻めて之を陷る。(久麻久神社) 大字八ッ面に鎮座。祭神、大倉命・須佐之男命・熱田大神。大寶年中の創建と傳へ、式内社にして、神位は從四位下、社領二十九石を有せり。殿宇中本殿は足利時代後期の様式を傳へ國寶。例祭、八月十五日。(伊文神社) 宇西尾伊文に鎮座。祭神、祭神遺徳須佐之男命・文德天皇。大名奉還殿。國內神名帳の正三位内母大明神は本社かといふ。古來西尾城下の産土神にして、社領二十三石餘あり、領主吉良氏以下の崇敬篤し。安政元年正一位を授けらる。例祭、六月十六日。

【西尾村】

徳島縣阿波國麻植郡の東部。徳島平野の一部を占め、東方鴨島町と西方川島町とに挟まれ、北は阿波郡八幡町に接し、南は名西郡に界す。南半は山地の北方傾斜地をなし北部は平坦なる平野にして北方約一軒に吉野川東流す。田畑よく拓けて米・蕎麥を産し、養蠶また盛にして繭の産額著し。北部には伊豫街道及び省線徳島線東西に通じ西麻植驛(明治三十二年設置)あり。またバスの便よし。本村の一部は東山村及び名西郡阿野村の各一部地域と共に東山嶺山(含銅硫化鐵礦)の嶺區を成す(東山嶺山參照)。この地は和名抄、麻植郡矢島郷の内にして大字飯尾は三善氏の族、飯尾氏の舊邑なり。(天神社) 大字飯尾に鎮座。祭神、大己貴命・二神。例祭、十月十四

ニシオアシ 西大蘆村

本縣下野國上都賀郡の中部。日光町の南隣、足尾町の東隣にある大村なり。全村山地にして、西境より南境にかけて藥師岳(一四二〇米)・夕日岳(一五二六米)・地蔵岳・横根山(一三三三米)・鳴島山(七二五米)等連立し、東境にも亦、六郎地山(一〇九七米)をばじめとして山地連な

り、村の南境は之等兩山地の褶合にて、大蘆川東南に流る。山地一帯森林ありて林産多し。川沿ひの狭き平地には耕地ありて米・蕎麥を産す。粟落は殆んど川沿ひに發達し、縣道又これに沿ひて東南に走り鹿沼町に通じ、バスの便あり。
ニシオイト 西大分 大分縣大分郡にありし町。明治四十年本町外一町三箇村を合併して大分町を置く。大分町はのち大分市となる。日豊本線の西大分驛(明治四十四年設置)あり。
ニシオウラ 西大浦村 京都府丹波國加佐郡の北東部。本村は東大浦村の西に半島状に突出して東より舞鶴灣の北岸を限り西は澗口を扼す。全村山岳地にして東部に中央分水嶺をへだて小河北流及南流して海に注ぎ、海岸には小低地ありて北岸には三濱・小橋・南岸には平の乗落あり。西部南偏にも細流海に注ぎ沿岸に大丹生乗落あり。山地海岸に迫りて沿岸屈曲多し西北部に北へ博突岬の突出あり、東北部には沖島島・磯島島・アンウマ島等の島嶼浮ぶ。米・蔬菜を産し養蠶盛に行はれて繭の産多く又水産・林産あり。陸上交通不便なれど發達機によりて舞鶴方面に連絡す。いま村城は要害地帯に屬す。(おほみづなぎどり菴地) 指定天然記念物。本邦沿海の島嶼にのみ蕃殖するものにして、蕃殖地は僅少なり。本島は日本海面に於ける代表的のものなり。

ニシカ——ニシカ

に沿ひて西南流し西南隅にて本部をなす。
れ名古屋市と其西隣海部郡との間を南流
して伊勢海に注ぐ。郡内多数の支流は

【西加積村】 富山
縣中野川郡の北部。沿川町の東南
に接す。西南境を上市川西北に流れ土地

ニシカト 西方

【西方村】 福島縣代田大沼郡の北部。
北は河沼郡に隣接す。村の略々中西部に

【西加積村】 富山
縣中野川郡の北部。沿川町の東南
に接す。西南境を上市川西北に流れ土地

ニシカト 西方

【西方村】 福島縣代田大沼郡の北部。
北は河沼郡に隣接す。村の略々中西部に

【西加積村】 富山
縣中野川郡の北部。沿川町の東南
に接す。西南境を上市川西北に流れ土地

ニシカト 西方

【西方村】 福島縣代田大沼郡の北部。
北は河沼郡に隣接す。村の略々中西部に

【西加積村】 富山
縣中野川郡の北部。沿川町の東南
に接す。西南境を上市川西北に流れ土地

ニシカ——ニシカ

西北より東南へ細長し村なり。南境に葛
城山脈東西に連り、東南隅に葛城山(八

【西加積村】 富山
縣中野川郡の北部。沿川町の東南
に接す。西南境を上市川西北に流れ土地

【西加積村】 富山
縣中野川郡の北部。沿川町の東南
に接す。西南境を上市川西北に流れ土地

【西加積村】 富山
縣中野川郡の北部。沿川町の東南
に接す。西南境を上市川西北に流れ土地

長良川の上流ノ保川の右岸。八幡町の西北に接し、白鳥町の南方約八軒。西は屏風山脈の一部を以て越前國に西南は武儀郡に界す。村内山岳重疊し上ノ保川東流を東南流す。平地に乏しく河岸僅に耕地あり、米・麥を出し、清流に沿ふ傾斜地には山葵の産あり。其の他養蠶・製炭・美濃紙の生産等の副業行はる。河岸を一條の里道通じ、對岸を省經越美南線及び越前街道走り、美濃山田、美濃彌富兩驛に近し。この地は和名抄、郡上郡山田郷の内。(七代天神社) 大字島に鎮座。郷社。祭神、國常立命・楯根命外九神。社傳に元明天皇御宇、靈龜二年三月神異ありしにより、勅許を得て靈龜二年工を起し、美老二年竣工すと。例祭、八月廿五日。

【西川村】 岡山縣美作國久米郡の西部。旭川左岸に沿ひ、北西より南西にかけて眞庭郡に開かれ、南は御津郡に界す。西北より東南に細長く中央東南偏の地狭部より南は村の幅東北及び西南に狭がり、村内はほぼ東北より西南にのびる山列によりて埋められ西境に沿ひて旭川曲りつゝ東南流す。米・麥の農産を出し酒類・木炭・生漆の特産あり。河川沿岸を縣道通じ南方岡山市及び西北方眞庭郡山町へ至るバスの便あり。

【西川村】 高知縣土佐國香美郡の中央南端。西南郡は土佐國津野本町の東北約四軒を距て南に東川村を隔みて西南より東北に若しく延び、東南郡は安藝郡に接し、備前山脈を以て武庫町の西南境に接し、西は長崎縣東彼杵郡に界し南は豊後郡に接す。西北境に杵島山(四四七米)聳え、西南境には純ノ木越(三二二米)ありて村内散れ山地をなし、その間々に盆地を形成す。米・麥等の農産を出し養蠶盛にして繭の産多し。東郡には武庫町より西南方彼杵村に出づる縣道通じてバスの便あり。中央には之より西に散れて西岡長崎縣東彼杵郡上波佐見村に出づるものあり。此地は和名抄、杵島郡島見郷の内。

【西神古村】 兵衛縣播磨國印南郡の中部。西南郡は米田町の西北に接し、姫路市の東方約九軒。東北郡に池沼ありて其周圍に僅かに小丘陵ある外は地形平坦なり。地味肥沃にして農産多く米・小麥・粟・蕎麥・花弁・食用農産・葉煙草・果實・鶏卵等多く外に蠶製品・豆物等を出す。村の南端を山陽道通過し、省線山陽線寶殿驛(南方約〇・五軒)に近く交通至便なり。この地は和名抄の印南郡含島郷の内なり。(八幡神社) 大字宮前に鎮座。郷社。祭神、豊田別尊。應永年間創立にして、もと妙見大明神神宮と稱す。神古城主・姫路藩主の崇敬あり。例祭、十月十七日。

【西神納村】 兵衛縣播磨國印南郡の西南部。村上町の南方約三軒、岩船町の東に接す。北境を石川西流し南郡を其の支流流れ土地低く平坦にして水田多し。農産を主生業とし

ニシカ——ニシキ

す。村内山岳重疊し地形高峻にて、西南半は略々西南より東西に延びる山脈が東西兩境を限り中央は谷をなして河川西南に爲同じく略々西南より東西に連れる山脈は村を横切り南北隣村へ續く。東北郡の中央に東北流する河川あり北方四軒にて物部川に合す。河谷の西に長谷眞玉山(七一九米)の連嶺聳ゆ。米・麥・柑・柿・麥等の農産の外、林産・工業及び畜産あり。西南郡及東北郡にそれより東北より西南に結合谷を走る縣道あり西南方野市町へバスの通す。此地は和名抄、香美郡大忍郷の内なるべく、中世は大忍庄に屬す。(奉八王子宮) 郷社。祭神、五男三女八柱神。古來より當村の産土神にして、もと牛頭天王と稱す。例祭、七月二十八日。

Table with 3 columns: 鎮山名, 鎮區所在地, 鎮區坪數, 年産額, 備考. Lists various mountain names and their locations, such as 大之浦, 小竹町, 宮田町, etc.

【西蒲原郡】 新潟縣十六郡の一。越後國の中部。信濃川下流西岸に沿ひ東北隅は新潟市に接し西南隅は新信濃川の分岐點を占む。東は中蒲原郡、南は南蒲原郡、西南は三島郡に界し、西より北へかけて日本海に面す。面積四二・二二方軒。西部海岸に彌彦山の丘陵横はり、北海岸に五〇米足らずの砂丘連する外全部平地にして濕地多く、中央の鰐湯を初め田湯・佐湯・土堀湯等の濕地多く、小流・運河は網狀に發達す。郡は越後平野の主要部を占め水田よく開け米の産多し。然れども軟質米にして上越米に劣る。近時低濕地を利用して花卉の栽培漸く盛となりチューリップ・ヒヤシンス等の球根植物は東京・大阪・名古屋遠くはアメリカまでも輸出さるるに至り大いに將來を嚮望されつゝあり。その他中ノ口川に沿ふ東郡一帯の諸村は桃・梨・葡萄等の果實の産地として著はれ、副産品としての薑工品も郡の主要産物なり。海岸諸村には漁業行はる。鐵道は西部を南北に貫く省線越後線及西南郡を東西に貫く吉田・彌彦を結ぶ彌彦線の外、東郡を新潟より燕町に通ずる社線新潟電線の便

あり。鐵道は東西、南北並行によく向けバスの便もあり、また信濃川・中ノ口川には舟楫の便ありて交通至便なり。本郡は明治十三年五月蒲原郡を新潟區及び東西中南北の五郡に分けて置けるもの。 【ニシキ 二色・丹敷】 志摩國(三重縣)の古地名。和名抄に美濃郡二色郷あり。その地は今の北牟婁郡錦村・長島町・二地村の邊なるべし。 【丹敷浦・二色浦】 紀伊國の古地名。神武天皇御東征の時丹敷浦を此地に築せらる。書紀にはまた丹敷津とも云ふとあり。その地いま何れの地なるかに就きては從來諸説ありて一定せず、或は今三重縣(紀伊國)南牟婁郡荒坂村大字二木島浦の邊と稱するも荒坂村の名稱は比較的新しき命名なり。或は丹敷浦を以て北牟婁郡錦村となす説あり、書紀の正文よりすればこの説有利なるが如し。此の地に丹敷浦の島と傳ふるものあり。

ニシキ 錦

【錦村】 福島縣磐城國石城郡の東南部。北は植田町、南は勿來町に隣接し、東は太平洋に面す。東部に低き丘陵地ある外概ね平坦にして、鮫川は北境を、窪田川は南郡を各東流し太平洋に注ぐ。海岸は潮多浦と稱し、風光絶佳なり。平坦地には水田廣く分布し、北部鮫川沿岸には桑園あり。米・繭を産し、また漁業行はる。陸前濱街道は東郡を南北に通じ、北方植田町、

敬願る厚し。例祭、十二月十六日。(長谷寺(觀音堂)) 大字長谷にあり。淨土宗。龜甲山。相模國鎌倉及び大和國の長谷寺と共に日本三長谷寺と稱せらる。寺傳に美老五年春、行基、德道作の大和長谷寺觀音に模して二體の佛像を作りしが、仁和元年春空海の法師萬貨その一體を奉持して此地に來り本寺を創す。時に天皇の尊崇厚く美田若干を賜はり堂開壯麗なりしが、のち悉く炎上す。黒田長政領主となるや五百餘石の地と山林とを寄せて寺運再び興隆せしが、今は僅かに一小堂を存するのみ。本尊十一面觀音立像一軀(木造、傳行基作)は國寶。

【西川村】 福岡縣筑前國鞍手郡の中央北部。直方市の西北に接し西北郡は宗像郡に界す。西部及南部は丘陵をなし、即ち西境には一〇〇—一五〇米の山地南北に連り、東南境には六ヶ岳(三三九米)蟠居す。東北郡は浪賀川流域低地の一部を占め地形平坦なり。米・麥等の農産及び林産・蠶産あり。東方植木町と西北方宗像郡赤間町とを結ぶ街道北部を横隔し北方の鹿兒島線より分れて南下する省線室木線中央を通りて新延驛・八幡驛及び終點室木驛(何れも明治四十一年設置)あり。本村の地は筑豊炭田の内なるを以つて至る處に炭礦あり、いま本村に開鑛する主なる炭礦をあぐれば左の如し(昭和十年調査) 重は重要鐵山、準は準重要鐵山)。

ニシカワチ

【西河内(郡)】 兵衛縣常陸國(茨城縣)の古地名。中世には關郡と稱せし地。文檢檢地の時これを西河内郡とす。近世これを眞壁郡に合す。 【ニシカワツ】 西川津。兵衛縣島根郡八東郡にありし村。明治三十六年本村及東川津村を置し川津村を置く。 【ニシカワノボリ】 西川登村。兵衛縣佐賀縣肥前國佐賀郡の西南部。東北隅は

南方加來町へ合はるの便あり。これに並行して常陸國通じ、北方植田町、南方勿來町へは各約二軒あり。此地は和名抄、南牟婁郡河邊郷の内。本村及び勿來町、川部村に跨りて重要鐵山たる勿來炭礦及び準重要鐵山たる東海炭礦あり(東海・勿來を参照)。(眞野神社) 大字大倉に鎮座。祭神、伊弉諾美命外二神。平城天皇の大同年中、紀伊國眞野神社より分置して鎮祭す。當時伊弉諾と稱し平城天皇の勅願所にして、菊田郡(明治二十九年石城郡に合す)の總領守たり。柱古は祭典執行の際必ず勅使下向ありしが中世以降廢せらる。また祭典には郡内三十三箇村より神事の請役を勤めたりといへば、以てその盛大なりしを窺ふべし。維新の際まで米印社領五十石を有せり。例祭、月一日。

幣を賜はり社頭盛大を極め、一條天皇御宇當國二の宮と定めらる。江戸時代朱印百七十七石餘を附せらる。例祭、四月三日・十一日。〔南照院〕曹洞宗。慈眼山。聖徳太子掛錫の遺跡にして、大同四年聖徳太子の山に留り六面塔を建立せりといふ。降りて慶長年間土家今川義行開基となりて初めて七堂伽藍を建立す。當時寺運甚だ隆盛なりといふ。

【錦村】三重縣紀伊國北牟婁郡の東北隅。長島町の東約四軒にあり、南は熊野灘に面す。北及び東は三重縣度會郡に界す。東西兩部は山地をなし西境には四〇〇―四五〇米程度の山地連りて村界を限り山地南方海上に突出し、東境には絶崖山(五〇三米)聳えて南北に山脈連り、南半の山脈は中央を西南方へ突出してメド鼻となり其西に西部山地との間に洞を開む。海岸は多く斷崖をなして小風向多く島嶼数多く散在して平瀬島・高ノ島・浦島等あり。湖の東北隅には錦浦あり、湖の長さ南北に約一軒ばかりあり、こゝに都落細長く連なる。中央は北境より錦浦へ通ずる都合谷をなす。本村の生業状態は全戸数六一九戸中、農業六〇戸・工業二五戸・商業六九戸・水産業三〇二戸・自由業四〇戸・交通業二六戸・其他九七戸にして水産業は戸数の上より見て約五割を占むるも實際從事する人口の上より見る時は其八割を占むると考へられる位村人の殆んどが此方面に活動し居り本村

國・西山口、甘藷寺の三譯(共に昭和八年設置)を置く。また縣道中央を東西に走り、東北方岩出町へは自動車便あり。此地は中世の貴志莊の内に於て貴志氏の所領たり。

ニシキニ 西岸村

石川縣能登國鹿島郡の北部。七尾灣に臨む。北は風至郡、西は羽咋郡に界し、東は三ヶ日瀬戸を隔てて能登島に、東南は七尾灣西側を隔てて和倉町に對す。村内二百米臺の丘陵起伏し、東南部に小半島突出し七尾灣西・北灣を分つ。海岸僅に平地あり尾端散在す。概ね漁業を主生業とし、農産・林業等も多少行はる。省線七尾線及び縣道海治に南北に貫通し、西岸線(昭和八年設置)あり、海上七尾・和倉より舟掛の便もあり。この地は和名抄、能登郡能來郷の内。

ニシキタ 錦田村

靜岡縣伊豆國田方郡の北部。箱根山の西南麓。狩野川の一支堀川を以て三島町の東に接す。地勢東北より西南に傾斜し、西南部河原に平地開く。傾斜地は草原多く、天然の牧場にして牛馬の放牧盛なり。畜産額五六萬七千圓を初め、米の九萬五千圓、蕎麥の四萬七千圓を主産物とし、その他、林産物・工業物及茶等の産あり。略中央を三島街道曲折しつゝ、西に下り、西南部を之に交錯して省線東海道本線貫通し、西南・三島兩驛に近し。また社線駿豆線三島町驛へは約二軒なり。此地は和名抄、田

有数の水産地なり。産物は水産物第一位にして鮭・鱈・鱈・伊勢蝦・鮎・一般海藻等、うち特に鮭は昭和十年度に於て約三〇萬尾、此價額八〇萬圓、昭和十一年度に於て約二三萬尾、此價額六五萬圓の漁獲にて全國第一位を占むるに到る。第二位は薪・炭の林産物、第三位は農産物にて蕎麥を主とす。錦浦より北境端峠を経て北方へ至る縣道あり、又西方長島町にも道路通じ省線紀勢東線長島驛へは西方約四軒なり。この地は和名抄、志摩國美濃郡二色郷の地に於て神武天皇の舟師到船せる丹敷浦に此なるべし。神風抄に志摩國錦ノ御厨とあるは此地にして往古伊勢大神宮の神領なりしもの。

【錦小島】平安京横の通りの名。延暦年間開通する所。もと屋小路と呼びしを改めしもの。四條坊門小路と四條大路との間にあり。いま名稱現存し、慶長以來魚島市場あり。

ニシキエ 錦江村

佐賀縣鹿島郡錦江町の南部。鹿島郡鹿島町の北方約四軒にありて東南隅は有明海に面す。西部は西北方に聳ゆる杵島山(三四二米)の山地ありて東麓に湖水あり、東大半は平坦なる平野なり。米の産多し蕎麥も出し又蕎麥産す。中部に縣道通じ、東部には省線長崎線ありて南境を南に越えたる地點に肥前龍王驛(龍王村)ありて交通の便よし。〔龍王神社〕大字通田に鎮座。龍王

ニシキツ 錦津村

岐阜縣美濃國可兒郡の北部。水曾川左岸。西は兼山町に接し、北は川を境に加茂郡八百津町に對す。南に三―四百米の丘陵起伏し北へ傾斜し、北境を水曾川西流す。東北境は蘇水峽と稱せらるる溪谷なるも西北部には平地あり。養蠶業を主生業とし蕎麥の産多し、次いで農業盛なり。その他、竹・材木・苧等の特産物あり。廣見町より社線東美濃道通じ中野・八百津・伊波津志の三驛(共に昭和五年設置)を置く。また西南部を縣道通じ御嵩町へは県道によりバス通す。この地は古來水曾官林の綱場を置きしところにして森林盛更にこれに居たり。

ニシキノ 錦野村

熊本縣肥後國阿蘇郡の西南隅。白川が阿蘇火山外輪山の西を切りて流下する地點より西方山麓に互る白川南岸一帯の地を占め、東西に細長く及び西部は稍南方へ擴がる。西は上益城郡に接し北は白川を隔てて菊池郡に界す。東境は外輪山の一部にて高く海拔七九七米を有す。東半は北境を西流下する白川の谷に急斜する傾斜地を占め西部は河原より段丘狀に高まりて平坦な

祭神、天神・聖王神外二神。神祇志料に「稻佐雄神、今杵島郡邊田村にあり、稻佐三所大明神といふ、傳云、百濟の聖明王を祀る」といひ、古來此邊數村の産土神たり。例祭、十月十九日。〔福泉寺〕大字田野上にあり。臨濟宗東福寺派。飯盛山。寛平二年の創建といふ。中古略んど廢滅せしが鎌牛園心再興す。中興開基は北條時頼にして、寺領千石を附し天下の諸山に列せしむ。寺城海拔二百尺の山腹に位し眺望頗る佳なり。

ニシキオ 錦生村

三重縣伊賀國名賀郡の西南隅。名賀盆地の一部を占め、名賀町の西南に接す。西及び南は奈良縣山邊郡及宇陀郡にそれと界す。西北境に聳ゆる茶臼山(五三五米)より山脈西南に連りて奈良縣との境をなし、山地東へ急斜す。東南部に山地傾りて東南境にて五八五米あり。中央に宇陀川ありて東北に流し、沿岸に平坦なる沃野開く。米・蕎麥を産し又養蠶盛にして蕎麥の産多し。ほかに林産・畜産・蠶産・水産・工業あり。縣道中部を川沿ひに走り社線參宮急行電線南部を通過す。(無頭寺)大字黒田にあり。眞言宗醍醐派。秀山といふ。寺傳によれば弘仁年中、空海の創建に傳り、嵯峨天皇の勅願所たり。天安年中僧實學坊合等を造營し、のち甲賀近江守の新願所となり、供料二百五十石を寄せらる。文祿二年僧惠暹の再興、その後後堂氏の新願所たり。本村不動明王立像(木

澤)あり。日蓮宗。龍王山。弘安七年日蓮の弟子日昭の開創に係る。寛永二年徳川秀忠寺城百八十町歩を寄す。現に日蓮宗本山にして末寺五十餘を統ぶ。國寶、日蓮上人像(絹本着色)・繪巻茶經一編(同上)。

ニシキツ 錦津村

岐阜縣美濃國可兒郡の北部。水曾川左岸。西は兼山町に接し、北は川を境に加茂郡八百津町に對す。南に三―四百米の丘陵起伏し北へ傾斜し、北境を水曾川西流す。東北境は蘇水峽と稱せらるる溪谷なるも西北部には平地あり。養蠶業を主生業とし蕎麥の産多し、次いで農業盛なり。その他、竹・材木・苧等の特産物あり。廣見町より社線東美濃道通じ中野・八百津・伊波津志の三驛(共に昭和五年設置)を置く。また西南部を縣道通じ御嵩町へは県道によりバス通す。この地は古來水曾官林の綱場を置きしところにして森林盛更にこれに居たり。

ニシキノ 錦野村

熊本縣肥後國阿蘇郡の西南隅。白川が阿蘇火山外輪山の西を切りて流下する地點より西方山麓に互る白川南岸一帯の地を占め、東西に細長く及び西部は稍南方へ擴がる。西は上益城郡に接し北は白川を隔てて菊池郡に界す。東境は外輪山の一部にて高く海拔七九七米を有す。東半は北境を西流下する白川の谷に急斜する傾斜地を占め西部は河原より段丘狀に高まりて平坦な

造、龍原水則作)一編は國寶なり。

ニシキギ 錦木村

秋田縣陸中國鹿角郡の西部。毛馬内町の南に隣り、西は北秋田郡に接す。村の西南部は山地をなすも東北半部は毛馬内盆地に属して平坦なり。米代川は村の中部を北流し、北境に於て東方より大湯川を合し西南に流る。米・蔬菜を産す。鹿角街道は中部を南北に通じ、北方毛馬内町、南方花輪町に至る。省線花輪線通じて毛馬内(大正九年設置)・末廣・尾去澤(共に大正四年設置)の三驛を置く。毛馬内驛より十和田湖行のバス發す。この地に錦木塚あり、男女のロマンスを扱ひし傳説あり袖中抄、源豐草及び東遊記等にその記事見ゆ。本村と尾去澤村とに跨りて尾去澤鎮山あり、金銀銅鉛鋅鉛鐵にして重要鐵山に属す。また本村、毛馬内町及び北秋田郡十二所町・長木村の四箇村に跨りて小栗水鐵山あり、金銀銅鉛鐵にして之また重要鐵山に属す。

ニシキン 西貴志村

和歌山縣紀伊國那賀郡の西部。貴志川左岸に沿ひ和歌山市の東方約七軒にして西は海草郡に界す。北部及び西部は約三〇〇米の丘陵起伏し南部には約二〇〇米の丘陵起伏す。中央東部に平地開け東南境に沿ひ貴志川東北流す。低地は米を産し又養蠶盛にして蕎麥の産額最も多く、外に綿織物等の工業・林産・畜産・蠶産・水産あり。特産物には岩繭あり。社線和歌山線通じて大飽遊

ニシキハ 錦部

長野縣信濃國東筑摩郡の中部。松本市の北方約五軒。犀川の一支出田川上流に沿ふ。東は筑摩山脈の一部連互し小縣郡と界す。會田川東部に發源し中部を西流し、北に曲流して會田村に至る。村内概ね丘陵起伏し河原僅に平地あり。養蠶・農業を主とし蕎麥・米・麥を産し林産物も多少あり。河沿の縣道は山を越えて東方上田市、西方豊科町に達し松本市・會田村へはバスの便あり。此地は會田村・五常村・中川村と共に和名抄、筑摩郡錦部郷の地に於て、延喜式に錦部馬十五疋とあるは此處なるべし。大字刈谷原には鷹住根城(一に刈屋原城といふ)あり、海野小太郎率領の五男、刈屋原五郎の居城たり。その後太田(會田)彌助居城す。

ニシキワ 西岐波村

山口縣周防國吉敷郡の西南隅。宇部市の東に隣りし、東は東岐波村に接し、南は周防灘に臨む。北部に百餘米の丘陵あり、末廣は

ニシク——ニシク

南方に延びるも南部の地は低平、海岸また砂浜をなす。氣候温和にて且つ宇部市に近接するを以て産業よく発達し、米・蕎麥・蔬菜・豆類・甘藷・薄荷・茶類の産物の外に醸造・瓦・煉瓦・木竹製品・用材・薪炭材あり。漁獲も多く、養蠶・養鶏・養蜂も盛なり。特に養蠶草・澤庵漬は世に知らる。宇部市に隣接するを以て交通の便よく、社線宇部線道また貫通し白土驛(昭和四年設置)・床波驛(大正十二年設置)・常盤驛(大正十四年設置)を置く。人口は大正九年五一二七人、同十四年五一五九人、昭和五年五三三一人、同十年六六二一人にして、昭和五年より同十年間の増加は一三〇八人にて著しく、之は宇部市に隣接するによるものなるべし。(長生炭礦)西岐波村内に鎮座八十七萬七千坪を占め我國の重要鐵山に屬す。鐵山の地質は第三紀層に屬する砂岩と頁岩とより成り、平均すれば走向は七〇度、傾斜は南東に二度にして七甲炭層の炭層一米とす。昭和十年には塊炭五、二八五、粉炭一四、五五四、粗炭三三、五〇八、この總價額十七萬餘圓を出し、同年六月末には使用鐵夫二八四〇人とす。本炭礦は宇部鐵道の床波驛より〇・四軒、また山口市・宇部市間の鐵道より〇・五軒といふ何れも近距離なれば交通至便にして石炭は貯炭場より直に船積せらる。本炭礦の一部は豫てより輸行中のところ大正十一年五月海産廳の管

四六六

坑内水没し爾來休業中なりしも昭和八年より再び操業せられて今日に至る。(南方八幡宮)宇山村に鎮座。神社。祭神、應神天皇。孝謙天皇天平勝興三年、厚東武忠の四世白松大夫武綱、豊前國宇佐より分靈勧誘せしに始まる。例祭、陰曆八月十五日。

ニシクジョー 西九條 省線西成線の一驛(明治三十一年設置)。大阪市此花區朝日橋通一丁目にあり。

ニシクシラ 西串良 鹿兒島縣肝屬郡にありし村。昭和七年、串良町と改稱す。

ニシクニサキ 西國東郡 大分縣豊後國の東北部。國東半島の西北部を占め、東隣國東郡との間の南北の境界を底邊とする略々二等邊三角形を呈する郡にして、西北部は周防灘に面す。東境に兩子火山(七二二米)聳え、放射谷をつくりて四周へ傾斜し、數條の細流放射谷を流れて西北流及び北流す。南境には華ヶ岳山(五九三米)・田原山(五四三米)等の連嶺西北より東部に連り、その北に桂川が中部及南部の水を集めて西北流す。桂川河口に稍廣き低地あり。米・蕎麥の農業を始め林産・水産・畜産等を出し、鹽の特産あり。郡内には海岸に沿ふ高田町・香々地町二町の外十四ヶ村を含む。人口密度は高田町が六五二人の多きを算するも平均密度は一七〇人なり。海岸に沿ひて鐵道走り中部には西部高田町より

兩子山を越えて東に走るものあり。南部桂川に沿ひて高田町より延びるものは梓築町に出づ。社線宇佐參宮鐵道は高田町より宇佐郡に入りて省線日豊本線に連絡す。明治十三年國東郡を東西二郡に分ちて新設す。

ニシクビキ 西頭城郡 新瀉縣越後國の西北部。西北は日本海に面し、西南は飛騨山脈を境に富山縣下新川郡に、南は長野縣北安曇郡に、東は妙高火山群の一部を以て中頸城郡に界す。面積八四・七一方軒。東西を富士・御岳兩火山帯に挟まれ、略中央を北流する飯川の谷が我が國東西を分つ大地溝帯の北端に當り兩山系を明瞭に分つ。富士火山脈中にては東南隅の打山(二四六二米)・燒山(二四〇〇米)等著しく、御岳火山脈中にては乗鞍岳(二四三七米)・小瀧山(二七六九米)・雲倉嶽(二六一一米)等あり。其他郡内山岳重疊し何れも壯年期の巖しき山容を呈し、北は日本海に臨絶し富山縣界に近く親不知の險崖をなす。河川は飯川を初め早川・能生川・名立川等いづれも南部山地に發し溪谷、急流をなして海に注ぐ。下流僅かに平地開け、田畑作らる。米・蕎麥を主産とし蕎麥を副産とす。南部山村は概し林業に従ひ、飯川・早川等の上流には發電所あり温泉も湧出す。又海岸に沿ふ青海・糸魚川・能生・名立各町はいづれも漁村として榮え、往時は北陸道主要の市場なりき。北陸道及び省線北陸

線は海沿に並行し名立・市振間に數驛を置く。糸魚川よりは飯川に沿ひ南へ大糸北線通じ小瀧驛まで開通し、大糸南北線連絡の橋は信越を結ぶ主要なる一線となる所。松本街道は松本平への捷路なり。郡は名立・能生・糸魚川・青海四町外十六箇村を含む。明治十三年頸城郡を東・中・西の三郡に分ちて新設す。

ニシクボ 西久保 豊前線の一驛(大正十四年設置)。津太豊原市にあり。

ニシクマネシリ 西クマネシリ 岳 石狩岳(九八〇米)の東方、香更川上流中ノ川を取て對峙する群峰の一。標高一六三八米。東斜面は北海道十勝支庁中川郡本別町に、西斜面は河東郡香更村に屬す。北東にクマネシリ岳(一五八六米)・北西にヒリベツ岳(一六〇二米)連り、南に南クマネシリ岳(一五六〇米)・續く。石狩岳とは北西方三國山(一五四一米)を経て氣狀に山稜繋ぎ。東方一帯は別別川の上流地なり。いま大雪山國立公園に編入せられ、その東端をなす。

ニシクリス 西栗栖村 兵東縣播磨國揖保郡の西北部。能野町の西北約四軒にあり、西北は佐用郡三日月町に隣接し、北は安栗郡に、南は赤穂郡に界す。村内約四一五米の山地丘陵起伏し西南境には三浪山あり。北部中央に僅かに谷ありて揖保川支流の細流ここを南流して村を流ひ中部にて東南へ流れて東栗栖村に

入る。農産物主として米・蕎麥・小豆等の外、蕎麥の産多く、其他蔬菜・花卉・食用農産・果實・鶏卵・蠶絲品等あり。中央を出雲街道東南より西北に横斷し省線姫新線同じく此地を通過して西栗栖驛(昭和九年設置)あり。この地は和名抄、(保保郡栗栖郷の内なり)。(河内神社)大字牧に鎮座。祭神、應神天皇・天津兒屋根命。天安三年豊前國宇佐宮より勧請せるに創るといふ。往昔、栗栖正二十四ヶ村の産土神たり。例祭、十月八日。

ニシクレハ 西吳羽村 富山縣越中國越前郡の北部。富山市の西方約二軒。尖羽山丘陵の西北麓を占め、西は射水郡に界す。射水平野の一部分に當り土地平坦肥沃にして水田多し。南東の傾斜地には茶畑あり。米・茶・蕎麥等の農産物多く、また織物工場ありて綿織物(年額一五〇萬圓)を産す。北部を省線北陸本線東西に走り尖羽驛(明治四十一年設置)を置く。國道は中部を横切り富山市へ入るの便あり。この地は和名抄、越前郡日理郷の内なるべく、中世は五福庄或は御服庄と稱せられし地なり。明治十一年、明治天皇、北陸東海御巡幸の時、此地に御小休あらせられ、いま明治天皇中茶屋御小休所として史蹟に指定さる。

ニシクロータ 西黒田村 滋賀縣近江國坂田郡の中部。長濱町の東南方約三軒。東中は二〇〇米前後の丘陵連互し西半は近江平野の一部に屬し水田拓く。農

業を主とし米を主産に、蕎麥・粟・麥等を出し蕎麥を副産とす。南北・東西に貫通する鐵道ありて長濱町へ入る。省線北陸本線黒田村驛まで二軒余を隔つ。東黒田村と共に中世、黒田莊と稱せられし處。(名祖寺)大字名越にあり。天台宗。惠光山宮尊院と號し、當國成菩提院末。僧三修の開基に係り、其法弟名超修業の遺場たりといふ。寺傳に後鳥羽上皇竊に當寺に行幸あり時の住僧釋行に北條氏謀殺の報復を告げ給ひ、鍛冶工を召して刀劍を造らしめ給ふ。釋行四方に奔走し勤王の士を糾集す。既にして北條氏大舉して京師を起し官軍大いに敗る。後村上天皇正平六年詔して勤王所とせらる。應永二十四年後小松天皇勅して鳥羽殿を造營せられ寺領を賜ふ。のち兵火に罹りて炎上せしが、豊田秀吉長嶺城に入るに及びて鳥羽殿を再建す。

ニシクローベ 西黒部村 三重縣伊勢國飯沼郡の東北部。熊田川河口に跨り北は伊勢海に臨む。西南約一軒を距てて松阪市なり。地勢平坦にして熊田川は東南方より流りて西北へ村を横切りて流れ河口、伊勢海岸に砂洲多く發達す。農業を主産とし米・蕎麥・蕎麥の産を主とし海苔の特産あり。松阪市市街地は西南約四軒にして入るの便あり。(意非多神社)大字西黒部に鎮座。祭神、伊弉志都尊命・豐受姫命・事代主命等八柱。延喜の制、國幣の小社に列す。例祭、四月

十一日。ニシクワナ 西桑名 三重縣桑名郡にありし町。昭和十二年三月桑名市に編入す。ニシクンマ 西群馬(郡) 上野國(群馬縣)の舊郡名。明治十三年群馬郡を東西二郡として新設せしが、明治二十九年一箇村を吾妻縣に割き、他は片岡郡と共に群馬郡となりて今日に至る。ニシゴ 西郷 山形縣羽前國北村山郡の中部。東南は楢岡町に接す。村の中央部に低き丘陵南北に連り、東南部及南部に平地あり。最上川は西境を先行しつゝ北流す。最上川舟行の難所をなす。主産業は農にして米・蕎麥を産す。道路は南部を東西に通じ、西方奥羽本線楢岡驛へは自動車の便あり。

【西郷村】山形縣羽前國北村山郡の西南部。東北は上山町、西は東置賜郡に隣接す。北に三方山、南に小湯山ありて、東方に傾斜す。東部は山形盆地の一部をなして平坦なり。宮川の一支流村の中北部を東流す。米・蕎麥を産し、干柿の特産あり。道路は中北部を略東西に通じ、東北方上山町、西南方東置賜郡赤湯町へは入るの便あり。これに並行して省線奥羽本線通す。

【西郷村】山形縣羽前國西田川郡の北部。鶴岡市の西北方約七軒。西南は加茂町、南は大山町に接す。村の西部は日本海岸の砂丘南北に延りて高く、東部は庄内平野に屬して平坦なり。大山川は東境を北流す。主産業は農にして米・蕎麥を産す。道路は中部を南北に通じ、南方羽越本線對前大山驛へは自動車の便あり。庄内電鐵線善寶寺驛(昭和四年設置)を置く。此地の青龍寺川の一支なる安川附近は、天正年中最上義光と本庄越前守重長の戦ひし所とす。(相尾神社)大字馬町に鎮座。祭神、龍田彦大神・龍田姫大神外四神。古く大祭には國主親ら奉幣、出羽國式内九座神をも臨時に奉請し、羽州一箇國の總祭を執行せらる。例祭五月十五日。(善寶寺)大字下川にあり。曹洞宗。龍潭山と號し總持寺末。縣内有数の名刹にして三州豐川妙嚴寺・相州小田原最樂寺と共に曹洞宗三新禪所と稱せらる。天慶・天曆の頃、羽州田川郡黄金色の妙蓮、一字を創して龍華寺と稱せしに始る。天明六年有栖川宮當寺を永く祈願所と定められ、文化二年善寶寺の扁額を下賜せらる。爾來堂上貴族の崇敬厚し。古來海上安穩、大徳満足の祈願札を授け靈驗著しといふ。

【西郷村】福島縣磐城國西白河郡の西部。白河町の西に隣り、北は岩瀬郡、西は南會津郡、南は栃木縣に隣接す。面積一九四・二六方軒の大村。奥羽山脈の東斜面に屬し、西境に北より、大白森山(一六五六米)・旭嶽(一八三五米)・三本槍嶽(一九一五米)あり、東方に傾斜し、阿武

限川は西部山地に發源し諸支流を合せて東流す。南部を東流する谷津田川は東境に於て阿武隈川に合す。村の東部河川の沿岸には耕地拓げ米・麥・蕎麥を産す。中部原野には牧場多く分布し、馬を産す。村の南東部に軍馬補充部白河支部あり。陸羽街道は村の東南端を東北に通じ東方白河町へはバスの便あり。人口密度は一方村につき三八人なり。村内より俗に白河石と稱する岩石を採取す。灰白色の輝石安山岩にして土木建築用材として關東各地に移出す。この地は戊辰の役に會津藩軍の總督西郷頼母將軍の地なり。村内甲子山の中腹に甲子温泉あり。泉質は鹽類泉。

【西郷】 愛知縣南設楽郡にありし村。明治三十九年本村及び千秋村を廢し新に千郷村を置く。

ニシコロシ 西合志村 比呂 熊本 縣北後國通郡の西南部。熊本市の北境より北へ約三軒を隔つ。西北は鹿本郡に接し南及び西南は飽託郡に界す。阿蘇山西麓黒石臺地の一部を占め概して地形平坦にして西部に低き辨天山(一四六米あり。北部には稍々低地あり。低地は田畑拓げ農産を主とし外に畜産・工業・林産あり。東部には熊本市より東北方限府町へ通ずる縣道走り其他東西・南北に道路多く走りバス到る所通ぜざるはなく、省線鹿兒島線本線(西方向約五軒)へもバス便あり。この地は和名抄、山本郡麻生

郷の地なるべく、いま村内に農林省種殖場肥後種殖場あり。村内の島橋原は建武三年官軍たる菊池氏の兵と賊軍に與する合志・託磨・小代等の諸氏と戦ひしところとす。

ニシコロシ 西江州 比呂 又西近江といふ。滋賀縣の琵琶湖の西をいふ。京都より若狭・越前に至る道路に通過す。

ニシコロジ 西興除 比呂 岡山 縣兒島郡にありし村。明治三十八年東興除村と合併して興除村を建つ。

ニシコロズ 西高津 比呂 大阪府 東成郡にありし村。明治三十年大阪府東區に編入す。

ニシコロラ 西甲良村 比呂 滋賀 縣近江國犬上郡の西部。彦根市の南方約三軒にして高宮町の南に隣る。地形低平にして鈴鹿山脈より流下し来る犬上川北境を西北流す。米・糠肥用作物・麥・蕎麥・桑葉・茶等を産す。縣道中央を横斷して西方中山道に通じ西部には社和近江鐵道走りて子孫あり。この地は和名抄、犬上郡子孫郷にして、大字子孫には郷名の遺稱なり。戦國時代の出雲の名族日子孫氏領の地なり。始末を高久といひ、字多孫氏佐々木京極氏の一族なり。高久の子持久、出雲の守護京極持清の守護代として出雲に赴き、子孫山陰に勢力振ひしも天正中毛利氏に滅さる。(甲良神社)大字子孫に鎮座。社主、主祭神、武内宿

禰を東北流す。農産物多く工業・畜産・木産・林産あり。東部には東高野街道南下し西方を東南走する西高野街道南二軒の長野町にて合す。本村南側には兩街道を結ぶものあり。電車線は東部に社和大阪鐵道、西部に社和南海鐵道、それら南走して後者に難波驛(明治三十一年設置)を置く。この地は和名抄、錦部郡新居郷の内なるべく、中世、石川源氏の一族、錦部氏あり。此處に居住せしものなるべし。(石鏡寺)昔、本村にありし寺。僧行基が建てて修行せし處。光仁天皇寶龜四年寺田を輸入し給ひし事あり。今は廢寺。河内志二(古跡)殿石鏡寺、在(錦部村)。

ニシコロ 錦部 山城國(京都府)愛宕郡の古地名。錦部郡の郡民の居りし所。和名抄に愛宕郡錦部郷あり、爾之古里と註す。其地は今の賀茂川の左岸、栗田郷の北にして、京都市左京區の吉田・黒谷・櫻蔭院・岡崎の邊をいふ。

【錦部(郡)】 河内國(大阪府)の古地名。續紀、文武天皇の四年三月に郡名初めて見ゆ。蓋し錦部郷の居りし所。和名抄は爾之古里と註し、錦部・百濟・高向の三郷及び餘戸一を置く。後世ニシキヤと訓す。明治二十九年廢して南河内郡に入る。

ニシコロ 錦服・錦織 信濃國(長野縣)の古地名。和名抄に筑摩郡錦部郷あり爾之古里

【相殿神四柱外に合祀五柱。治暦年間甲良庄の神社に定められ、元祿十四年八月松宮大明神の宣旨を賜ふ。明治五年に現社に改稱す。社殿中、權殿は室町末期の建築にて現に國寶なり。例祭、四月十六日。(桂城神社)大字下之郷に鎮座。郷社。祭神、少彦名命・國常立神外四神。後冷泉天皇の治暦三年佐々木兵部大輔義經の臣、犬上大和介政誠の創建に係る。例祭、四月十六日。

ニシコロリ 錦織村 比呂 宮城縣 陸前國登米郡の北部。米谷町の西北に隣り北は岩手縣に接す。東北境に高城山(二九六米)、東境に八森山(三〇二米)あり。何れも西方に傾斜し、北上川は村の西境及南境をなして南流す。西部及南部に耕地拓げ、米・蕎麥を産す。西部街道は南部を東西に通じ、西方仙北鐵道石巻驛、南方米谷驛へは各自動車を通ず。この地は近世大内氏の藩邑なり。

ニシコロリ 西郡村 比呂 大阪府 河内國河内郡の中部。布施市の東に隣り地形平坦にして小河内郡を南流す。米・蕎麥等の農産物多く畜産・工業あり。下駄鼻緒は本村の重要な産物にして其類首位にあり。中部に河内街道南北に貫き東方奈良縣へ至る街道もあり交通至便なり。この地は和名抄、若江郡錦部郷の内なり。大字北北に木村重成の墓あり。里人無念塚と云ひ、約五米半四方の石垣を築らす。

と註す。延喜式兵部省式に信濃國錦部郷と馬十五疋と見ゆるも、本郷の中なるべし。錦部郷は東筑摩郡の北部刈谷原郷・稻倉郷・保福寺郷・立峠を以て圍みたる小盆地にして、いま錦部村・會田村の邊に當る。錦部郷址は蓋し錦部村の大字七畝、赤松田の邊ならん。

【錦部】 近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に淺井郡錦部郷あり、爾之古里と訓す。その地今の東淺井郡大津村の邊に當る。

【錦部】 美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に久米郡錦部郷あり。その地今の久米郡三保村・打穴村の邊に當る。

ニシサイカワ 西岸川 比呂 福岡縣 熊本郡にありし村。明治三十八年東岸川・南岸川の二村と共に岸川村を建つ。

ニシサカモト 西坂本 比呂 山形縣 東麓郡の近江の東坂本に對して西の麓の稱。即ち今京都市左京區の修學院町の邊より北は八瀬・大原までを稱せるもの。古野時代の戦史等に其名見ゆるも今はその稱廢す。

ニシサカワ 西佐川 比呂 省線土 陸前國登米郡の北部。高知縣高岡郡佐川町にあり。

ニシサキ 西御村 千葉縣安房國安房郡の西南部。館山北條町の西南隣にて館山灣の南岸にあり。南は太平洋に臨む。大部分は低き丘陵地にて森林あり。海岸附近には狭き低地ありて、米・蕎麥を

産し、麥も行はる。海岸は大部分通商をなすも、南部の太平洋岸の東部は平砂浦の一部にて、河洲なる砂濱をなす。西端の突出部たる河洲は展覧場、燈臺あり。館山北條町に縣道を通じ、省營自動車西御線通す。この地は和名抄、安房郡鹽海郷の地にして、大字鹽見は郷の遺稱なり。大字洲崎は海を隔てて神奈川縣三浦郡三崎と相對し、東京灣の門戸をなす。文化五年、この地及び大房嶺に砲臺を設け、外夷の侵入に備ふ。文政四年、これを取り拂ひ今は全く廢墟となる。(洲崎神社) 大字洲崎に鎮座。祭神、天比乃理刀咩命。社傳によれば神武天皇御宇に天宮命、其の御母天比乃理刀咩命を祀り給ひしを以て創建すとす。爾來、源頼朝・川氏・徳川氏等の崇敬厚く各々社領を寄す。なほ當社は當郡洲宮神社と共に式内社なることを主張して譲らす。明治六年に至り當社を以て式内后神天比乃理刀咩命神社と定めらる。例祭、八月二十一日。

ニシサキ 西崎 愛知縣幡豆郡にありし村。明治三十九年本村ほか一村を廢し寺津町を置く。

ニシサクラジマ 西櫻島村 鹿兒島縣薩摩國鹿兒島郡、櫻島の西北部を占む。櫻島火山山頂を以て東櫻島村と接し、北部より西部は鹿兒島灣に臨み西方に鹿兒島市を望む。東南隅に主峰御岳(一一一八米)・南岳(一〇六〇米)聳えて南岳

は噴煙をばき浅き放射管をつくりて四隅へ傾斜す。極めて急峻なる活火山なり。西部には岩岩が火山中腹より山麓一帯を埋め方崎・北濱崎・南濱崎が海上に突出す。其他の海岸は東部の割石崎を除き概して平坦なり。産物は農産物を主とし概一尺に余る樺島大根・甘蔗・さつまいも・蔬菜(南瓜・わらび)等あり。又「島みかん」ありて實は小さきも素晴らしい風味。果實も蔬菜も焙岩流の風化地に適す。これ等は皆對岸鹿島に供給して生計を立つ。船道海岸を廻り鹿島市より定期連絡船がよ。この地は和名抄、大隅國嶺南郡志摩郡に屬す。中世世界混戦して其所管を失ひ、一時向島と稱し、後再び大隅國に屬するに至る。近年北大隅郡の稱ありしが、明治二十九年薩摩國鹿兒島郡の管下となる。(月讀神社)大字赤木に鎮座。鎮座、祭神、月讀命。遍々許草・赤火々出見草・豊玉彦命・鶴草等不詳。五神を祀れるより五社明神と稱せられ、領主島津氏の崇敬社として聞えしも、その創建年代を詳かにせず。例祭、十月二十九日。

ニシサクラタニ 西櫻谷村 蕨賀

縣近江國蒲生郡の中部。日野町の北に接す。北部及南部は丘陵をなし中央に東西に低地開けて日野川支流西流す。農業を主とし米・粟・蕎麥等を出す。此地附近町村と共に所謂近江人の根據地にて高野小幡系業者の大多数は概して商家の奉公に出づ。中央を東西に離道走り四方約三軒の社線近江鐵道橋川驛へバスを通過す。明治二十七年櫻谷村を東西二村に分けて置けるもの。(法光寺)大字北脇にあり。曹洞宗。佛徳山。天平寶字六年稻三郎の開創に係ると傳へ、はじめ天台宗を奉ず。本尊藥師如來立像(木造)一軀は開寶。

ニシサト 西里

【西里村】山形縣羽前郡西村山郡の東北部。各地町の西に接し、赤河江町の北方約五軒。西北は海抜五三六米にして東南方に傾斜し、村の西北半部は山地をなすも東南半部は山形伏地に屬して平坦なり。最上川の一支流中部を東流す。米・蕎麥・草履を産す。道路は中南部を略東西に通じ、東方の各地軌道の各地驛、及び南方の左澤線赤河江驛へは各バスの便あり。此邊はもと湖にして本村はその湖の西端に位置ししが故に西ノ里といひ、今の村名を生むに至るといふ。

ニシサマニ 西様似

日高縣の一驛(昭和十二年設置)。北海道日高支庁様似郡様似村大字様似にあり。

ニシサワ 西澤嶺山

【伊太部曾神社】大字伊太部曾に鎮座。官幣中社。祭神、大尾毘古命。紀伊國造の祀れる神にして、續日本紀・大寶二年二月己未の條に「瀨伊太部曾大屋津比賣都波賣三神」とあれば、往古は大屋都波賣神社(いま當郡川水村鎮座)及び都波賣神社(いま東山東村鎮座)の二神と共に合祀されたを後各地に分祀せしならん。寛永記に和銅六年十月の遷座とあるは、大寶二年官命ありて修造の工竣りて遷座の儀置ひたる年を云ふなるべし。延喜八年二月、正四位上に昇殿し、名神大社に列す。例祭、十月十五日。

ニシサマニ 西様似

ニシサワ 西澤嶺山

ニシサト 西山東村

和歌山縣紀伊郡海草郡の中部。和歌山市の東方約二軒を隔つ。北部及南部に丘陵程度の山地ある外は平坦なる伏地にして中部に和歌山川の支流西流す。米・蕎麥・稲等の農産及び工業・畜産あり。東部に熊野街道南北に走り之と交叉して熊野街道西北より東南に通過し和歌山市より自動車の便あり。中部に和歌山鐵道ありて古蹟・伊太部曾の二驛(大正五年設置)あり。東山東村と共に中世、由東社と稱せ

流。地誌。祭神、素戔嗚尊外二神。白鳥元年出雲大社の分霊を勧請して創祀。式内社。古くより本村の産土神たり。例祭、九月二十五日。(前山寺)大字前山にあり。新義真言宗智山派。獨鈷山。弘仁年中の創建にして初め法藏院と稱す。應永年中長秀法印の再興。時に信州四國談林の首位たりき。武田氏の時依厚く寺領十貫四百九十文の寄進あり。當時寺運隆盛にして末寺四十餘僧寺を有せしが、いまは衰微す。國寶、三重塔。(中禪寺)大字前山にあり。新義真言宗智山派。龍王山。天長年中空海法師の法を傳せし靈蹟に就きて開創せりと傳ふ。永享・寛文の兩度交上せしが再建せらる。國寶、藥師堂本尊藥師如來坐像(木造)・神將立像一軀(木造)。

ニシシカタ 西志方村

兵庫縣播磨國印南郡の西北部。四隅は姫路市東城との間に四軒餘を距て西北は神崎郡に昇す。西部・北部は三〇〇米程度の山地をなし、東南部に廣潤な低地開く。米・粟・蕎麥・小麥・蔬菜・花卉・食用農産・果實、鶏卵等を産し工業亦盛にして産額最も多く双物・濶製品等を出し外に畜産・木産・養蠶等あり。中央を縣道東西に走り西は姫路市へ通じ東は美濃郡三木町方面へ至り、バス往來す。志方村・東志方村と共に中世、志方社と汎稱せし處。(長樂寺)大字水窪にあり。淨土宗西山派。治承二年僧慈心の開基に係り、もと眞言宗たり。

ニシシチジョ 西七條

ニシシヤシ 西志布志村

ニシシマ 西島

ニシシマ 西島

ニシシマ 西島

ニシシマ 西島

ニシシマ 西島

ニシシマ 西島

ニシシマ 西島

ニシシマ 西島

ニシシマ 西島

ニシシマ 西島

ニシシマ 西島

ニシシマ 西島

ニシシマ 西島

ニシシマ 西島

ニシシマ 西島

ニシシマ 西島

ニシシマ 西島

ニシシマ 西島

ニシシマ 西島

ニシシマ 西島

ニシシマ 西島

ニシシマ 西島

ニシシマ 西島

ニシシマ 西島

ニシシマ 西島

ニシシマ 西島

意匠民の時女災に罹り、寶永年間寺堂再建して淨土宗に改む。本尊地藏菩薩半伽像(木造)一軀は國寶なり。

四三平方軒。南中の地勢極めて高峻にして諸山嶺重疊せる海に向ひて傾けり。海岸は南部山中に發したる大平・泊り・千走川の河口平野を連れたる平地存し、耕作耕作行はる。海岸線は小屈曲を有し漁業盛多し。鮭・鱒等の産額最も多く、また千走川上流湯ノ瀨附近に温泉を産し温泉湧出す。海岸の地方道にバス通じ志布志町に連絡す。本村はもと志布志と稱せしが、明治三十九年西島牧村と改稱す。村内の賀老の嶺は高さ六〇米、幅二五米あり。(鹿島神社)大字水窪町に鎮座。郷社。祭神、市杵島姫命。相殿に倉科魂命を祀る。享和三年、天保八年に再建す。例祭、九月四日。

ニシソノヤマ

大村灣を圍み其尖端は佐世保市に迫りて大村灣口は狭き伊ノ浦瀬戸となる。南部に西南方へ突出せし野母半島は頸部西岸に長崎市を抱きて野母崎に盡き、東は千々石灣に臨む。郡内殆ど山地にて西彼半島には遠空嶺山・小松嶺・藤ノ平山・飯盛山・三方山・大山・岩尾山・天笠岳等北より南に並び野母半島には戸町岳・無々崎・八郎岳等並び山地は海に迫りて海岸屈曲に富み、西彼半島東岸には黒崎ノ浦・川内浦・形上浦・時津港・長崎浦等あり。其西岸には高港・三重浦等ありて概れ各々好鎮地をなし野母半島尖端には野母灣北方より灣入し千々石灣岸には茂木池を有す。海上には大小無数の小島嶼散在し西北には大島・鯛ノ浦島・寺島・松島・鯛島・池島・大島等横はり其遙か西方には大立島、其西に江ノ島、更に西方に平島浮びて平島の西は相崎瀬戸を隔てて南松浦郡五島列島中島島に對す。南部の野母半島西方海上には長崎灣口を占むる藤ノ尾島・香焼島・伊王島・神ノ島等、其他無数の島嶼散在し僅か西南に高島あり。野母崎尖端の南方に樟島横はる。千々石灣奥には牧島あり。郡内平地乏しきも低地は米を産し斜向耕地に麥・甘藷・菜等を作り海岸は水産業盛にして漁民は五島列島・朝鮮近海・南洋近海にも出漁するものあり。沿岸の島々の中、松島・野母島・高島等は炭坑にて名高く其他にも郡内石炭の産多し。郡内茂木

ニシタ

町・崎戸町・瀬戸町の三町外四十箇村を含む。人口割合に稠密にて密度の郡内平均は二六四人にて、高島村の如きは四九四六人に及び外に一〇〇〇人を越ゆるもの四ヶ村あり。最小は雪浦村の七二人なり。長崎街道東方より来りて長崎市に終り之より縣道北へ走りて西彼半島尖端へ至る縣道もあり。長崎本線は北高松郡より来り東部を長崎市に達す。南部及び北部は要地帯に屬す。本郡は明治十三年彼作部を東西二部に分ちて置けるものニシソノヤマ 西粟山 鹿見島嶼 給兵部にありし村。昭和五年日富山村と改稱す。

西高屋

ニシタカヤ 西高屋 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村はか一町五箇村を置し吉知野町を置く。

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

ニシタカヤ 西高屋 廣島縣安藝國賀茂郡の東北にありし村。昭和七年仙臺市に編入す。

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

ニシタカヤ 西高屋 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村はか一町五箇村を置し吉知野町を置く。

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

西田

ニシタ 西田 福井縣若狹國三方郡の西隅。三方郡に臨み西は若狹湖に面す。邊數郡小濱町の東北九軒餘にして西南は邊數郡に界す。南端には約四〇〇米の山嶺が東北より西南へ更に西北方へと走りて村嶺を劃し、其東北は三方湖南岸に終り西北は若狹湖に半島狀に突出して岬をなす。中央は此山嶺より丁字型に北方へ張出す支脈ありて東部の三方湖・水月湖と西部の若狹湖とを分ち、その北部に梅丈岳(三九五米)を起して水月湖の北を圍みて若狹湖を限り、それより西北方へ山地延びて屈曲多き細長き半島をなし尖端を宮神嶺と言ふ。其西方海上に御神島嶼を宮神嶺と言ふ。其西方海上に御神島嶼を宮神嶺と言ふ。其西方海上に御神島嶼を宮神嶺と言ふ。

西田

ニシタケ 西田 宮崎縣日向國北諸縣の西部。高千穂町の東南斜面を占む。北は西諸縣郡に接し西及南は鹿兒島縣給良郡及鴨島郡に界す。西北隅に靈峰高千穂峰(一五七四米)聳え山麓の高原東南方へ廣く傾がりその北は高瀬川との間に御池あり。西南境より南境へは約五〇〇米の山地東南方へ高さを減じて連り城内地勢高峻、西境に發する庄内川上流の千足志川村の水を集めて南部山地の北麓を東南流し約八軒東方にて大淀川に注ぐ。農産多く林産もあり、外に畜産・工業・鹽産・水産あり。千足志川に沿ひて縣道は東南隅庄内町に通じ、バスの便あり。宇賀嶺・戸ノ口・北ノ久保・芋堀・片添の一部は海島國立公園の内。本村はもと庄内郷の内にして、明治二十四年、庄内村を分割し庄内村と本村を置く。

西武田

ニシタケタ 西武田 鹿兒島縣鹿兒島郡にありし村。昭和九年鹿兒島市に編入さる。

西多賀

ニシタツブ 西多賀 北海鹽屋郡國勇勢郡苦小牧町の大字。省線岩瀬本線の錦多賀驛(明治三十三年設置)あり。

西館村

ニシタテ 西館村 秋田縣羽後國北秋田郡の中部。扇田町の西南に接す。西部及び南部には山地連りて東北方に傾斜し、東北半部は大笹盆地に屬して平坦なり。引次川は南境に發源して北流す。米の産あり。東北方の社線秋田鐵道扇田驛へ近し。自動車の便あり。

ニシタ

ニシタ 西多賀 宮崎縣名取郡にありし村。昭和七年仙臺市に編入す。

ニシタ

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタ

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

ニシタ

ニシタカヤ 西高屋 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村はか一町五箇村を置し吉知野町を置く。

ニシタ

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタ

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

ニシタ

ニシタカヤ 西高屋 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村はか一町五箇村を置し吉知野町を置く。

ニシタ

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタ

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

ニシタ

ニシタカヤ 西高屋 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村はか一町五箇村を置し吉知野町を置く。

ニシタ

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタ

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

ニシタ

ニシタカヤ 西高屋 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村はか一町五箇村を置し吉知野町を置く。

ニシタ

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタ

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

ニシタ

ニシタカヤ 西高屋 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村はか一町五箇村を置し吉知野町を置く。

ニシタ

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタ

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

ニシタ

ニシタカヤ 西高屋 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村はか一町五箇村を置し吉知野町を置く。

ニシタ

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタ

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

ニシタ

ニシタカヤ 西高屋 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村はか一町五箇村を置し吉知野町を置く。

ニシタ

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタ

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

ニシタ

ニシタカヤ 西高屋 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村はか一町五箇村を置し吉知野町を置く。

ニシタ

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタ

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

ニシタ

ニシタカヤ 西高屋 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村はか一町五箇村を置し吉知野町を置く。

ニシタ

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタ

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

ニシタ

ニシタカヤ 西高屋 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村はか一町五箇村を置し吉知野町を置く。

ニシタ

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタ

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

ニシタ

ニシタカヤ 西高屋 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村はか一町五箇村を置し吉知野町を置く。

ニシタ

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタ

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

ニシタ

ニシタカヤ 西高屋 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村はか一町五箇村を置し吉知野町を置く。

ニシタ

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタ

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

ニシタ

ニシタカヤ 西高屋 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村はか一町五箇村を置し吉知野町を置く。

ニシタ

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタ

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

ニシタ

ニシタカヤ 西高屋 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村はか一町五箇村を置し吉知野町を置く。

ニシタ

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタ

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

ニシタ

ニシタカヤ 西高屋 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村はか一町五箇村を置し吉知野町を置く。

ニシタ

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタ

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

ニシタ

ニシタカヤ 西高屋 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村はか一町五箇村を置し吉知野町を置く。

ニシタ

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタ

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

ニシタ

ニシタカヤ 西高屋 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村はか一町五箇村を置し吉知野町を置く。

ニシタ

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタ

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

ニシタ

ニシタカヤ 西高屋 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村はか一町五箇村を置し吉知野町を置く。

ニシタ

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタ

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

ニシタ

ニシタカヤ 西高屋 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村はか一町五箇村を置し吉知野町を置く。

ニシタ

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタ

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

ニシタ

ニシタカヤ 西高屋 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村はか一町五箇村を置し吉知野町を置く。

ニシタ

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタ

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

ニシタ

ニシタカヤ 西高屋 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村はか一町五箇村を置し吉知野町を置く。

ニシタ

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタ

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

ニシタ

ニシタカヤ 西高屋 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村はか一町五箇村を置し吉知野町を置く。

ニシタ

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタ

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

ニシタ

ニシタカヤ 西高屋 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村はか一町五箇村を置し吉知野町を置く。

ニシタ

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタ

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

ニシタ

ニシタカヤ 西高屋 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村はか一町五箇村を置し吉知野町を置く。

ニシタ

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタ

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

ニシタ

ニシタカヤ 西高屋 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村はか一町五箇村を置し吉知野町を置く。

ニシタ

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタ

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

ニシタ

ニシタカヤ 西高屋 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村はか一町五箇村を置し吉知野町を置く。

ニシタ

ニシタカセ 西高瀬川 京都市右京區にある河川。桂川を分水せるものにて、嵯峨より三條通に至る。木材・薪炭の運送に使用。賀茂川の西に流れて開かれたる高瀬川に對して西高瀬川といふ。

ニシタ

ニシタカツキ 西高月 岡山縣赤松郡にありし村。大正十五年高月村と改稱す。

ニシタ

ニシタカヤ 西高屋 愛知縣丹羽郡にありし村。明治三十九年本村はか一町五箇村を置し吉知野町を置く。

び掛懸郡に接す。面積一九七・三二平方...

【四谷村】兵庫縣播磨國高砂郡の中部...

一〇〇〇米程度の山脈連りて境域を限り...

【西谷村】兵庫縣播磨國高砂郡の西部...

大字笠豆に傾座。村社。祭神、譽田別尊...

【西谷村】新湯縣越後國古志郡の中部...

額之に次ぎ蔬菜・花卉・食用農産・大麥・...

【西谷村】大分縣豊前國下毛郡の東部...

内にかけて山脈連り、森林多く、水害...

【西多摩村】東京府武蔵國西多摩郡の東...

北は東武郡、北は南安郡に接す。面積...

【西谷村】北海道人高支那浦河...

【西谷村】兵庫縣播磨國高砂郡の中部...

【西谷村】兵庫縣播磨國高砂郡の西部...

【西谷村】新湯縣越後國古志郡の中部...

【西谷村】大分縣豊前國下毛郡の東部...

内にかけて山脈連り、森林多く、水害...

【西多摩村】東京府武蔵國西多摩郡の東...

北は東武郡、北は南安郡に接す。面積...

【西谷村】北海道人高支那浦河...

ニシツ——ニシト

は高倉森(八二九米)・風岩ノ森(八八五米)・芝嶺山(八四九米)等あり。各山脈の間に西より道真川・赤石川・中村川各北流し日本海に注ぐ。西部日本海岸は山地迫りて岩石海岸をなし、河川はみな短小にして西流し管内川や長し。海岸は到る所奇勝に富み、大戸瀬崎の名珠に著る。東北津軽平野の日本海岸は平直にして砂丘発達し、所々に沼澤あり、その東境には岩木川北流し、多くの三角洲を形成して十三海湖に注ぐ。湖の水は細き水路によりて日本海に通ず。東北平野には米・林産を産し、北津軽五所川原町は其集散地をなす。海岸地方には漁業に従事する者ありて、毎年北海道方面へ出稼をなす。道路は東部山岳海岸の険隘を南北に通ずるもの、及び東北平野の中央部を南北に通ずるものあり。前者に略せ行して省線五能線通じ、大間越・松神・陸奥岩崎・陸奥津邊等の数驛あり。また岩木川は舟楫の便あり。明治十三年津軽郡を東西中南北の五郡に分ち本郡を新置す。

ニシツゲ 西柘植村 三重縣伊勢國

阿山郡の東北部。布引山脈の西斜面に位し上野町の東北六軒餘にあり。東には布引山脈連立して最高七六六米を呈し、西北部にも小丘陵あり。中央西偏は平地にして折補川西南流す。農業を主とし全戸數六一九戸中四七八戸之に農事す。副業には養蠶・真帆製造及び林産行はる。低地に沿ひて縣道走り、同じくこまを省線西本線過ぎて新堂驛(大正十年設置)あり。村内に道山寺航空燈臺あり、燈臺自然電燈連四自光交光、燭光二六六萬燭光、光速距離晴天の時夜約七五軒。此地は和名抄、阿拜郡柘植郷の内なり。大字館岡は、延文中古野朝延の土息地(遺志)入道この地に據り伊賀國守稱成忠と號ひて敗るといふ。

ニシツチタ 西土田村 石川縣能登國

能登郡の東部。高濱町の東北方約五軒あり。北は鹿島郡に界す。能登半島最狭部の略中央を占む。全村一〇〇米前後の丘陵地帯にして、南部を米町川西流し僅かの平地あり。農業・養蠶業を主産業とし、米・蠶を主産物とす。東西に縣道を通じ、社線能登線高濱驛及び省線七尾線の整頓保線へいづれも約六軒、自動車の便あり。此地は和名抄、羽咋郡知郷の内にして、中世は得田保と稱せし地なり。(照明寺)大字徳田にあり。眞宗大谷派。もと天官宗に屬して天行寺と稱す。眞宗元年住僧壽水本願寺覺如に歸依して改宗す。(長徳寺)大字谷屋にあり。眞宗大谷派。鹿谷山。聖武天皇御宇應比多神社の計置業、一字を恩田野直谷山に創して永光寺と稱す。吉野朝の頃地頭得田氏、その菩提所となし、登山廻禮を岡山に請す。のち兵火に罹りて中絶せしを、得田氏水栖の内東本願寺地頭に歸依して再興、應如の法流法教身取住す。

ニシツノ 西津野 高知縣高岡郡

高知縣高岡郡にありし村。明治四十五年標原村と改む。ニシテババオ 西テババオ社 臺灣臺東廳大武社にある番社。巴里嶺溪左岸に位す。パイワン族の太麻里番に屬する高砂族の部落。戸數一七、人口六四(昭和十一年調査)。

ニシテラオ 西寺尾村 長野縣信濃國東部郡

千曲川に跨り埴科郡松代町の西北に接す。千曲川は東部をほぼ南北に貫流し、西北部は川中島の一部を占む。土地平坦にして桑園多し。繭の産最も多く、次いで米・麥を出す。長野・松代間の縣道東北部を貫通しバスの便あり。社線飯山線松代驛に近し。この地は和名抄の更級郡以介郷の内とす。大字津浦は永祿四年九月、上杉・武田の古戦場にして、源平盛衰記の横田河原合戦の後に、富部三郎平家後の郎等に折衝小源太重光あり、或は此地に在名を稱せしものか。

ニシトキ 西陶器村 大阪府和泉國泉北郡

堺市の東南方約五軒。全村臺地状の丘陵にして南部に高く約二〇〇米の高さを有す。中央に小河西北に貫流し約一・五軒先にて石津川支流に合す。田畑よく拓けて米・麥・蔬菜等の農産物多く畜産・林産・水産もあり。近年工業盛に行はれてその産額主位を占む。東方約四軒の社線南海線高野驛北野田驛へバス通す。この地は中世の陶器

四ノ天

莊の西部に當る。(高倉寺(修惠寺)大字高藏寺にあり。古義眞言宗。修惠山。慶雲二年僧行基の開創と傳ふ。天平年中勅して伽藍を建營し寺田を寄せ眞護國家の道場とせらる。徳川氏の時、小出氏廟墓を山内に營み大いに寺觀を興隆す。

ニシトキタ 西外城田村 三重縣伊勢國多氣郡

北は相可町の東南に接し東及南は度會郡に界す。東南境に岡東山(三七五米)ありて南部一帯は山地をなし西北部にも處々に小丘陵横はる。西南方より来る宮川は西南境に沿ひて暫く流れ、間もなく村境をなれて東南折す。米・麥・蠶・茶・鶏卵等を産し果實の特産あり。和歌山別街道中央を横斷し、東北部を省線參宮線通過してその相可口驛(北約二軒)に近し。この地は和名抄、度會郡田郷に屬す。後世城田地に合併せられ外城田と呼ばる。

ニシトゴ 西都甲村 大分縣豊後國西國郡

中部。兩子火山山西腹を占め、高田町の東に接す。稍々東西に細長く西部は南方へ擴がる。東北部に兩子火山麓え村は全體に西方に低く東部は風山(五四三米)あり。中央西部には東方より流れ来る桂川西流し、西に開く谷ありて沿岸に耕地発達す。農業・林産を出し、村内竹林多くして竹細工・箱等を産す。縣道河の谷に沿ひて東西に走り高田町及び東國東郡東國東町へバスの便あり。(八幡社)大字臺地に鎮座。地社。

祭神、豊田御倉。深瀬天皇延長三年の創建と傳ふ。例祭、四月二日。(天念寺)大字長岩屋にあり。天台宗。長岩屋山。養老年中仁開の創建に係ると傳ふ。建久年中、岡主大友左近將監直能は寺領若干を附し、爾來法燈隆昌を極めしが、のち兵火に罹り、延寶年中、肥前島原城主松平氏堂宇の再建を授くと。阿彌陀如來立像(木造)一軀・勢至菩薩立像(木造)一軀他四軀は國寶なり。

本の産額は縣下第一にしてその年産額は七百萬圓を突破す。東部平野の石礫・戸出・津澤・福光・福岡の各町は附近産物の集散地なるのみならず織物業盛にして麻・絹織物等の産多し。其の他漆・桐・光町の木製玩具・運動具或は水島村附近の特等の特産物あり。省線北陸本線は北部を東西に貫通し、福岡・石動兩驛を置くと外、省線中越線は東部を横め、戸出・福光兩驛あり、又石動町より津澤町を経て東部郡に至る社線越後線も通ず。岡東郡が南北に走り各町を中心に縣道四通八達しバスも通じ交通便なり。明治二十九年縣設郡を東西二郡に分ちて本郡を新置す。

西の内に(太田城)大字太田にあり。今縣境を認むる事を得。天正十八年、岡村大守和賀の城主、多賀谷重經、その子三郎と共に結城秀康に仕へ、豊田・岡田・猿島等の三郡を領し、當城に入り封十四萬石と稱す。慶長五年、重經は私に佐竹氏に通じ、翌年徳川氏の爲に城邑を没收せらる。三郎は秀康に従ひて越前に移る。

中(八米)等の遺あり。(若一王子宮)大字寺内に鎮座。地社。祭神、天照皇大神。往古紀州熊野より勧請せしものにして、仁平年中に再興すと社傳に見え、また古老の傳説に據れば神龜元年の創立なりといふ。古くより當村の産土神たり。例祭、六月十二日・九月十二日。(豊樂寺(樂師堂))大字寺内にあり。新義眞言宗智山派。大田山大願院。聖武天皇神龜元年勅を奉じて行基の草創するところといふ。天正年間長曾我部元親これを改修し、改めて四國總新願所と定めて崇敬、山内一豊亦當寺に奇病平癒を祈りて快癒せしにより寺領を附して代々の新願所となす。樂師堂・本尊樂師如來坐像(木造)一軀外二軀は國寶なり。

ニシトナガ 西豊永村 高知縣土佐國長岡郡の東北部。北は徳島縣三好郡に界す。村内山岳重疊し、北部は四國山脈に屬する山地にして北境には野鹿池山(二九五米)・黒瀧山(二二〇米)等聳立す。南部は剣山山脈に屬する山地にて南境に杖立山(一一三三米)・楓ヶ峯(一四〇〇米)等聳立す。また中部には西方より来る吉野川溪谷をなして東へ貫流して東境に出でて之に沿ひて東北流す。ただ峻峻なる地形にして耕地等の見るべきもの殆どなし。産物には繭・米・麥・楮・三椏等を産し、また工業・林産・畜産もあり。吉野川左岸に沿ひて国道走りて徳島・香川兩縣に通じて定期バスあり。中部には吉野川右岸に縣道及び省線土讃線走りて大田日驛(昭和九年設置)あり。この地はもと東豊永村・天坪村と共に豊永郷と稱せし地にして、村内には藪の遺(高一〇五米、巾一〇米)・藪名遺(高三三〇米、巾一米)・岩木の遺(高五〇米、巾二米)・龍王の遺(高五五米、巾八米)・愛名の遺(高七三米、巾三米)・天王嶺(高八〇米、

祭神、豊田御倉。深瀬天皇延長三年の創建と傳ふ。例祭、四月二日。(天念寺)大字長岩屋にあり。天台宗。長岩屋山。養老年中仁開の創建に係ると傳ふ。建久年中、岡主大友左近將監直能は寺領若干を附し、爾來法燈隆昌を極めしが、のち兵火に罹り、延寶年中、肥前島原城主松平氏堂宇の再建を授くと。阿彌陀如來立像(木造)一軀・勢至菩薩立像(木造)一軀他四軀は國寶なり。

ニシトトリ 西島取村 大阪府和泉國泉南郡の西部。大阪平野の西南隅を占め、大阪灣に臨む。面積一・九〇方軒の小村。南部は臺地をなし北部は低地なり。海岸東北より西南に延びて平直なり。米を多く出し、水産も多く其他畜産・林産等あれど大阪灣岸工業地帯の西南隅を占めて工場多く工業類主位を占めて著し。人口密度も多く一方軒一、三一四人を算す。海岸に縣道及社線南海線走り後者の島取莊驛(大正八年設置)あり。此地は和名抄、日根郡島取郷の西部に當る。

ニシトマタ 西吉田 岡山縣吉田郡にありし村。昭和四年津山市に編入す。ニシトマリ 西泊灣 瀬代郡ニシトモチ 西砥用 熊本縣下益城郡にありし村。大正十三年本村を廢し砥用町を置く。

ニシトヤマ 西富山 高山本線の一驛(昭和二年設置)。富山市寺町にあり。ニシトヨタ 西豊田村 茨城縣下總岡結城郡の東部。鬼怒川の西岸にあり。東北は眞壁郡の一部と隣す。全村平地にして、農業を主とし、村民の約九割は農業に従事す。米・麥・粟・蕎麥を産し、養蠶行はれて繭の産あり。縣道は中央を東西に走り、東は眞壁郡下妻町に通じ、バスも便あり。この地は和名抄、豊田郡大方

ニシトナ 西富田村 和歌山縣紀伊國西本郡の西部。瀬戸島山村の東に接し、北は田邊郡に、南は紀伊水道に臨む。全村、山地・丘陵をなし東南部に低地ありて小河南流して海に注ぐ。北部に池沼あり。海岸は岩石海岸をなし屈曲乏しく北岸精出入に富む。海岸線併せて九軒あり。米・繭・工業・水産・林産・畜産の外産産多く特産には柑橘あり。東部には南北に縣道走り又省線紀勢西線通過して白旗日驛(昭和八年設置)あり。大字野字安久川附近の海岸には、段丘を構成する中新統と表層の礫層との間に、細粒泥質砂層発達し、多数の貝化石を産す。この層を地質學上、安久川貝層と呼

ニシト——ニシト

四ノ天

本。村内より富田石(紀州砂岩または紀州石といふ)を採掘す。石質は中世代に属する岩石にして、炭酸・青磁の二種に區別し、前者は淡黄色の硬質砂岩にして建築石材に使用せらる。然し今は専ら砥石として採石し、その年産額は十萬圓以上に達すといふ。

ニシナ 仁科村

靜岡縣伊豆國賀茂郡の西海岸。松崎町の北に接し、背後に天城山脈隆起し、前面に駿河湾を控ふ。ほぼ中央を東北より西南に一條の河川流れ山谷を形成す。下流沿岸に僅に平地あり。兼落は海岸及びこの山谷に散在し海岸は水産業、山地は林業を以て主生業とす。農産業之等に次いで行はれ米・蕎麦の外に山菜・茶の特産あり。他に工・織・畜産も多少あり。海岸及び谷沿に縣道通じ松崎町へハスの便あり、また海上舟運の便もあり。この地は和名抄、那賀郡賀茂の内にして、中世仁科庄と稱せし地なり。元禄十一年、仁科谷の築地崩壊せし際、この地の被害甚大なりしといふ。大字濱の海岸は指定天然記念物なり。また堂ヶ島天宮洞は指定天然記念物なり。また村内に二階ノ澤あり。高さ四八米、巾七米。(堂ヶ島天宮洞) 指定天然記念物。

堂ヶ島の小丘を成せる白色細粒の安山岩質凝灰岩を貫通せる、二條の並行せる層層に滑うて生じたる波瀾洞窟にして、西方海に面して二箇の入口を有するも、内移は二箇の窟穴によりて左右相連結して

一洞窟をなす。右方の洞窟は幅廣くして長さ一四七米に達するも天井の陥落して生じたる直孔ありて恰も天窓を穿ちたる如く、且つ東方に開口するを以て洞内明るく、燈火を用ひずして自由に舟行するを得。左方の洞窟は幅狭くして暗く、東北方に向つて傾斜穴と稱する長さ一丈洞分岐す。波瀾洞窟としては其構造頗る複雑なると、斷層關係の頗る明瞭なるとは本洞の特色とする所なり。(佐波神社) 大字濱田に鎮座。徳社。祭神、權柄八重事代主命。延喜の制、小社に列す。舊稱を三島明神といひ仁科五村の總領守たり。例祭十一月六日。

ニシナカ

西那珂 茨城縣西茨城郡にありし村。大正十四年、岩瀬町と改稱す。

ニシナカウラ

西中浦村 大分縣豊後國南海部郡の東部。佐伯港に臨み佐伯町の東に隣る。全村山地をなして北岸へ山地迫りて幾多の岬突出し中央に野崎鼻、東部には切ノ鼻等ありて其間に野崎鼻を抱き海上八島・三葉島・渡地島等の小島嶼散在し眺望良し。農産・水産・林産あり。海岸を村道横走する外陸上交通は便ならず、海上發着船を以て連絡す。附近町村と共に要塞地帯の一部に屬す。

ニシナガオカ

西長岡 群馬縣群馬郡にありし村(群馬縣新田郡)。長岡村(群馬縣新田郡)の東部。長岡町の西に

ニシナガクラ

西長倉村 長野縣信濃國北佐久郡の東部。長岡町の西に

ニシナカシマ

西中島 大阪府西成郡にありし町。もと西中島村と云ひしが大正十二年町制を布く。同十四年大阪府東淀川區に編入す。

ニシナカシマ

西中島村 愛媛縣伊豫國温泉郡の西北部。瀬戸内海上にある中島の北部を占む。東は東中島村に隣り、西は郡境瀬戸を隔てて怒島に西南二子ノ瀬戸を隔てて二神島に對す。面積

接す。北隅に淺間山聳立し、南へ引ける裾野は道分原の曠野をなし、東南は南經井澤一帯を含み、上信國境なる八風山(一三二五米)等の連峰により群馬縣北甘樂郡に接す。全村高原性にて草原多く略中央を湯川東西に貫流す。淺間山噴出物と淺間原に堆され米・麥の産少く神・蕎麥の耕作、炭燵の渡世を爲すもの多かりしも近時は遊藝地として次第に開け、殊に東南部には別荘多し。省線信越本線は略中部道分を東西に貫き信濃道分線(大正十二年設置)あり、國道又之に並走して自動車の便よし。又東南部をかすめ上州に至る縣道もあり。此地は延喜式の佐久郡長倉牧の地にして、大字道分は近世木曾路と善光寺路との分岐點に當り、その宿驛として頗る繁榮したり。かの信濃道分節は當驛の馬子唄より起るといふ。明治十一年九月六日、明治天皇、北陸東海道御巡幸の際、ここに御泊あせられ、いま明治天皇道分行在所として史蹟に指定せらる。

ニシナカシマ

西中島 大阪府西成郡にありし町。もと西中島村と云ひしが大正十二年町制を布く。同十四年大阪府東淀川區に編入す。

ニシナカシマ

西中島村 愛媛縣伊豫國温泉郡の西北部。瀬戸内海上にある中島の北部を占む。東は東中島村に隣り、西は郡境瀬戸を隔てて怒島に西南二子ノ瀬戸を隔てて二神島に對す。面積

ニシナカシマ

する面積、東方が袋町へ向ふ縣道及び東方が食町へ走る縣道等本村を通過す。また社名古屋鐵道一宮線南端を通過して淺野驛あり。此地は和名抄、丹羽郡五葉郷・丹羽郷の地にして、神風抄に瀬邊御厨とあるも此處なり。明治三十九年、瀬邊村・時ノ島村・赤羽村・徳波村・淺野村及び多可森村の一部をもつて本村を置く。大字淺野は藤州後淺野氏の祖代々居城の地なり、蓋し土岐淺野氏の移住せるものにして、地名も亦これより生ぜしものなるべし。大字赤見は織田勝久の孫信久この地に居し赤見左衛門と稱す。大字丹羽は幕末の勤王家、篤津宜光(贈正四位)の生地なり。(大赤見本郷草生地) 指定天然記念物。本郷草は林間の腐植土に生ずる小草にして、葉は白色、葉なく、葉の上方に赤褐色の花と雄花とを着く。熱帯性植物に屬し、稀に本邦中部に生ず。本自生地は善願堂にして代表的なり。(贈波神社) 大字丹羽に鎮座。郷社。祭神、神八井耳命。社傳に文武天皇大寶元年の創祀と傳ふ。神位從三位、式内社にして、もと本郷の總社なりしといふ。例祭、八月十五日。(禪林寺) 大字淺野にあり。曹洞宗。仙壇山。開闢天皇朝、天祥元年尾張公、藤原實賴菩提のため薬師佛の大像を刻み、大伽藍を創建せしに始る。大永五年宣賢公周和尚曹洞宗に改めて再興す。薬師堂安置の本尊薬師如来坐像一軀は等水造にして國寶に指定

ニシナルセ

西成瀬村 秋田縣羽後國雄勝郡の東北部。北は平鹿郡増田町及び山内村に隣接す。村の東南、西の三塊には山地連りて中央に傾斜し成瀬川の一支流は南流に發源して中部を北流し、成瀬川に入る。成瀬川は北部を西流し沿岸に耕地拓く。村民の生業は半農半織にして、北部耕地には米を産し、吉乃嶺山には銅鐵の産額少からず。西北方奥羽本線十文字驛へは約六軒。ハスの便あり。(吉乃嶺山) 本村と平鹿郡増田町に隣り、面積六十三萬餘坪、重要鐵山に屬す。地質は第三紀層に屬する凝灰質泥板岩と石英粗面岩とより成り、鐵床は黑鐵床と銅鐵床の二あり。鐵種は金・銀・銅・鉛・亞鉛・硫化鐵なるが、昭和十年には銅鐵二五、二八八萬、合銅硫化鐵八、四二六

ニシナルセ

後國雄勝郡の東北部。北は平鹿郡増田町及び山内村に隣接す。村の東南、西の三塊には山地連りて中央に傾斜し成瀬川の一支流は南流に發源して中部を北流し、成瀬川に入る。成瀬川は北部を西流し沿岸に耕地拓く。村民の生業は半農半織にして、北部耕地には米を産し、吉乃嶺山には銅鐵の産額少からず。西北方奥羽本線十文字驛へは約六軒。ハスの便あり。(吉乃嶺山) 本村と平鹿郡増田町に隣り、面積六十三萬餘坪、重要鐵山に屬す。地質は第三紀層に屬する凝灰質泥板岩と石英粗面岩とより成り、鐵床は黑鐵床と銅鐵床の二あり。鐵種は金・銀・銅・鉛・亞鉛・硫化鐵なるが、昭和十年には銅鐵二五、二八八萬、合銅硫化鐵八、四二六

ニシナルセ

後國雄勝郡の東北部。北は平鹿郡増田町及び山内村に隣接す。村の東南、西の三塊には山地連りて中央に傾斜し成瀬川の一支流は南流に發源して中部を北流し、成瀬川に入る。成瀬川は北部を西流し沿岸に耕地拓く。村民の生業は半農半織にして、北部耕地には米を産し、吉乃嶺山には銅鐵の産額少からず。西北方奥羽本線十文字驛へは約六軒。ハスの便あり。(吉乃嶺山) 本村と平鹿郡増田町に隣り、面積六十三萬餘坪、重要鐵山に屬す。地質は第三紀層に屬する凝灰質泥板岩と石英粗面岩とより成り、鐵床は黑鐵床と銅鐵床の二あり。鐵種は金・銀・銅・鉛・亞鉛・硫化鐵なるが、昭和十年には銅鐵二五、二八八萬、合銅硫化鐵八、四二六

くして米を産し、又養蠶も盛にして機械行はる。山地北麓に縣道東西に走り其の北に省線山陰本線通じて石原驛(明治三十七年設置)あり。

ニシナカドーリ

西中通村 新潟縣越後國刈羽郡の西部。柏崎町の東北に接し、磐石川と別山川の合流點に對する。西南部僅に西山丘陵の末端部を含む外、概れ土地低平にして水田多し。磐石川は中部にて東北より来る別山川を合して西に流れ荒瀬村より日本海に入る。農業を主生業とし米の産多し、養蠶・漁業を副業とす。また西南部柏崎町に接する部分ば工業興れり。西部を省線越後線貫通し西中通驛(大正元年設置)あり、縣道柏崎町より來り北及び東北へ走り、自動車を通ず。交通便して便なり。本村と刈羽村とに跨りて高野油田あり、重要鐵山に屬す(高野油田参照)。

ニシナサン

仁科三湖 長野縣の西北部にありて、南北に連る青木・中綱・木崎の三湖をいふ。

ニシナスノ

西那須野町 栃木縣下野國那須郡の西部。西北は鹽谷郡の一部と隣す。那須野ヶ原の一部を占み、開墾の中心地にして農場多し。水産・陸稻・小麦・小麦・園藝農産物を産し、養蠶も行はる。陸稻街道は中部を東北に走り、省線東北本線またこれに沿ひ、西那須野驛(明治十九年設置)を置く。同驛は鹽原温泉への門戸にして、これより同温泉へ

ニシナリ

西成 愛知縣尾張國丹羽郡の西部。一宮市の東に隣り東北は古知野町・布袋町に界し、西北は豊原郡淺井町に接す。一宮沃野開け、米・麥・繭を産す。一宮市より東北古知野町及び犬山町方面に通

ニシナヨロ

西名寄 省線名南線の一驛(昭和十二年設置)。北海道上川郡名寄町にあり。

ニシナリ

西成 愛知縣尾張國丹羽郡の西部。一宮市の東に隣り東北は古知野町・布袋町に界し、西北は豊原郡淺井町に接す。一宮沃野開け、米・麥・繭を産す。一宮市より東北古知野町及び犬山町方面に通

流れ入りて剣尾山と東端山地の間を南下す。西部には西北端に發する山道川ありて中央を東南流し南部にて大路川に會し西境に發する山田川その約一軒南にて同河に會す。山地大部を占め、僅に諸川に沿ひて狭長なる平地を形成し各部落點在す。以上三川に沿へる平地は沖積地にて多く米作に適し、山は赤松の自然林多しまた櫛の植林に適す。米・蕎麥の農産及び工業・林産・畜産・礦産・水産あり。山道川の谷に沿ひ南方池田町に通ずる縣道ありてバスを通ず。村名はこの地古への能勢郡の西部に當るより起る。もと西郷・根根莊の二村なりしが、昭和六年二村を合併して昭和村とし、同七年昭和村を西能勢村と改稱す。西郷は和名抄、能勢郡能勢郷の西郷なるべし。根根莊は中世の莊名にして、和名抄、能勢郡根根郷の地なり。大字宿野は古への東狭々地の地なりといふ。東狭々は書記地略紀に土師連菅筒、攝津國久狭々村等の私民部を以て贊土師部と名づけたる由見え、また左佐に作り、和訓六年河邊郡より能勢郡を割きし時、能勢郡の郡家を置きし處といふ。中古源滿仲の多田に居するやその弟滿政は根根莊に分家居住して此の地方を領しそののち滿政の子孫及び多田源氏より出でたる郷土所々を分領す。近古に及び一時滿氏の所領たりしことありしがその時滿氏として定まらず、再び多田源氏の所領たる能勢氏及びその一黨の所領とな

り、天文年間より元龜・天正の頃に及び北科段八上城主波多野秀治及び南多田山下城主豊川國滿等の徒略に遇ひ屢々兵を交ふ。天正八年に至り遂に豊川國滿の併呑する所となれり。織田・豊臣を経て徳川氏に及び一旦没落したる能勢氏は再び復興し、能勢領は關原役の功に依り舊領地たる能勢地方を賜はる。元和八年に至り一旦徳川氏代官の支配下となりて能勢氏の手を離れ、更に諸藩に分屬せらるるものを生じ以て明治維新に及ぶ。大字片山に城址あり、豊山肥前守景信の據りし處といふ。大字大里の西北にある劍尾山は萬葉に見ゆる下鶴山・下槍山ならんといふ。萬葉・九「白玉の...下槍山下ゆく水の...」上に出でず、吾が念ふ情安からぬかも」(久佐佐神社)大字宿野に根根莊す。郷社。祭神、加茂別雷神・猿田彦神・素戔鳴尊。もと草野明神・宿野大明神と稱す。例祭、五月十六日。(岐尾神社)大字森上に根根郷社。祭神、瓊杵尊・天兒屋根命・源滿仲・猿田彦神。延喜の制、小社に列す。一名杵宮。例祭、十月十五・十六日。
ニシノタニ 西ノ谷 西ノ谷和歌山縣西牟婁郡にありし村。大正十三年田邊町に編入す。
ニシノトイ 西洞院 北近畿と平安京の南北に通ずる大道の一。油小路と町尻小路との間の大路にして幅八丈、また洞院西大路といふ。今京都府にその名残あり、釜屋通と小川通との間にあり。好色二代男・一「母は今の都の若後家、西洞院のひとつ前と、浮世の立名かくれなし」大經師普賢・上「まだ倒なその猫も、さやあ〜とほえるが能で、鼠一疋取り任せず、牡猫見てはびろびろと、鼠根も垣したまらぬ、重ねて鼠根でさかつたら、四つ足くくつて西の洞院へながしてくりよ」

ニシノマチ 西野町 愛知縣幡豆郡にありし村。明治三十九年本村外一町三村を廢し西野町を置く。
ニジノマツバラ 虹ノ松原 佐賀縣唐津市より東松浦郡鏡村・濱崎町に互る松原。延長約四・五軒、幅約〇・五軒乃至一軒。其間數百年を經たる幾萬株の老松翠を列れ、弓形を成せる白砂の長汀と相映して優麗極まりなし。名稱はその形紅の如きより起ると。松の樹勢の最も美なるは松原を縦貫せる道路の南側にし、特にその中部二軒茶屋附近には幹圓目通二米乃至三米のもの十數本を數へ、幹勢必ずしも大ならざれども、その幹は起伏屈曲し頗る姿態の雅緻を極め、傘松・根上り松・伏松など同屬的樹勢を呈せるもの多く、虹ノ松原の風景價値を高む。二軒茶屋の東數百米のところに一叢の小松林あり。松樹は何れも低く地に這うて上に伸びず頗る奇觀を見す。これは

砂上發生のために起りし一種の地形なるも、口碑には豊太閤朝鮮役の際この松原より遙かに玄海の沖を眺めしに、この松の目障りになりしを怒りて眺みし故に延びすと傳へ、「太閤殿の松」と稱す。また二軒茶屋の西方縣道側に加藤清正名護屋出陣の碑、鎗を立掛けて休めりと傳ふる「加藤清正鎗掛の松」あり。
ニシノミ 西能美島 廣島縣佐伯郡にある島。廣島灣内にあり、東北は飛渡ノ瀬の地峽部にて江田島に續き、南は大原地峽部にて東能美島に續く。東北は那沙美瀬戸を距てて大那沙美島に對し、遙かに島嶼を望む。行政上は飛渡瀬村・高川村・沖村・中村・高田村・三高村の六村に分る。島内は概ね丘陵地にて良質の蜜柑を産するを以て知らる。
ニシノミチ 西道 書記崇神天皇紀四道將軍派遣の條に吉備津彦命を西道に派遣せらるるとあり。後の謂ゆる山陽道なり。吉備津彦命を祀れる神社は、備中賀陽郡賀陽村の岡部神社吉備津神社を以て、備後廣島郡引村の岡部小社吉備津神社等あり、以て吉備津彦命の山陽地方に其の恩威を布きしを想ふべし。
ニシノミヤ 西宮市 兵衛縣五市の一。攝津國の東南部にあり。北は六甲山地を距て、有馬郡に接し、東は武庫郡の鳴尾・瓦木・甲東・貞元の諸村に接し、南は大坂灣に面し、西は新道村に隣る。

面積二・二四九平方町、人口九四、四〇九八(昭和十一年末現在)。土地は略南北に狭長にして九・五軒、東西四・五軒なり。北は深く六甲山地に入り、東川(御手洗川)、夙川の二川この間に發源、南流して海に入る。市はその扇狀地上に發達す。海岸は古くは御前濱と稱し平滑なれども、東川の河口近く西宮港(今津港を含む)を控ゆ。市は尼崎市と共に大阪・神戸間の工業都市にして、殊に醸造酒を以て著る。試みに昭和十一年度の統計を基礎として之を擧げんに、清酒、樽詰一三、九〇五、六一一圓、樽詰四、四九三、〇九四圓、計一七、三九八、七〇五圓、實に本邦總生産額の約四分一を占む。抑本市酒造の發達は池田・伊丹と共に古く、現在にては斷然これ等を凌ぎ濶五郷の中心をなす。いま造高一萬石以上の銘柄をあぐれば、最も多きは白鹿にて三一、六三九石、日本盛二七、五八七石、大關一八、七一五石、東自慢一三、三九六石、白鹿裝紋正宗一〇、三一六石なり。以上の外二十有餘の銘柄の醸造高を合算すれば實に十六萬四千餘石となり、實に醸造都市と稱すべきなり。醸造の時使用する作水は、宮水と稱する海岸に近き特定の井戸より汲み上げたる水にて、その水質酒造に最もよく適するを以てかく異常の發達を遂げたるものなりといふ。この宮水はもと本市内に使用するに止らず遠く廣島縣の邊まで送り出すといふ。この

外工業としてその産額の多きは植物油の六一、九〇五、八二二圓、ビールの六一、九二四、八四六圓、植物性脂肪の三、三八〇、八三九圓、清涼飲料の三、二一五、四五八圓なり。このビール・清涼飲料はこの地に大日本麥酒會社の西宮工場があるによる。以上の如く本市は工業都市たるを以て工業は市の總生産額の九七%を占め、他のものは殆んど云ふに足らず。

工業	六七、一四三、四九六
畜産	一、〇〇五、八八九
水産	四五〇、八八九
農産	三四九、三六一
林産	二、五三一
合計	六八、九五二、八六七

本市を横斷せる新國道は市の南部にあり、この以南の平坦部は工場地帯にして本市の主要なる工場は概ねこの區域にあり、國道以北は六甲山麓の緩傾斜地帯なるを以て阪神間の住宅地として重要な位置を占め、殊に苦樂園・甲陽園附近は其の位置高燥なるを以て眺望に富む。本市は阪神二市間の略中央に位置するを以て頗る交通運輸の便に恵まれる。まづ阪神間を結ぶ交通運輸の大系は、新設の國道と省線東海道本線を最とす。前者には私線阪神電車の國道線通すと共に自動車線の往復頻る繁く、後者には西宮驛(明治七年設置)ありて物資の吞吐極めて盛なり。

東海道本線と並行して北に私線阪神急行電車あり、夙川・今津二驛を置き、新國道の南には阪神電車の本線通じて數驛を置きなほ阪神急行は北方甲陽園に支線を出し、阪神電車はその今津驛より北に支線を出して西宮北口驛に至り、阪神急行の今津線に合す。この外市内はバスの發達著しく、新國道開通にして東西に走る外、循環バス・西宮バス等ありて交通の便極めて良し。これ等の外、西宮港(今津港を含む)よりは油脂及鹽(價格一、一四一萬圓)・飲食物及飼料(二二二萬圓)・肥料(二〇三萬圓)等を移出し、穀物及種子(九六二萬圓)・礦物及同製品(三七四萬圓)・油脂及び種子(二六二萬圓)等を移入す。本市は未だ一の専門學校を有せず、中等學校としても僅に私立の甲陽中學・市立高女・市立商業等に過ぎざるは遺憾なれども早晩工業都市としての教育機關を具備するの期至るべし。幸にも市には相當の設備を有せる市立圖書館あり、甲子園球場に匹敵すべき球場あり、公園としては夙川の兩岸に設備せられたる夙川公園、海濱には香園園海水浴場等ありて保養・體育・運動・スポーツに關する設備よく整ふ。本市は攝津國荒原郡の式内社大國主四神社、同武庫郡の式内名神大社廣田神社の鎮座の地にして早く拓けたるもの、如く、和名抄の武庫郡廣田郷・津門郡の地なるべし。天正年中豊臣秀吉の直轄地となりし、江戸時代に至れば

元和三年尼崎城主戸田氏鐵の治下に入り、明和六年幕府はこの地を收めて直轄地とし大坂町奉行に隸せしむ。當時は大津町方・濱方の二組に分る。明治維新に至り、兵衛縣の管下となり、明治十二年西宮濱・鞍掛町外二十三箇村戸長役場を置く。明治二十二年町村制の施行せらるるや、一部は分れて大社村に入り其の他は合して西宮町と稱す。大正十四年市制を布く。爾來本市は工業都市として發達を遂りしが、特に本市の劃期的發展は昭和八年四月隣接せる今津町・大社村・芝村の一町二箇村を併合せしことなり。これによりて市はその面積に於て數倍となり、人口に於て約二倍となり、ますます將來の發展が期待せらる。(越水城)大字越水にある舊城址。正平年中足利尊氏、直義兄弟の古戰場にして尊氏敗軍したること太平記に見ゆ。のち永正年間細川高國の將、瓦林政頼ここに居り四國の細川澄元の軍と戦ひて利あらず。後三好氏の占據する所となり屬將藤原長房これを守る。(廣田神社)大字廣田に鎮座。官幣大社。祭神、樟葉木殿之御魂天孫向津彥命。仲宮天皇九年神功皇后の御創建といひ、祭神の名は天照大神の靈魂に名づけたるもの。式内名神大社に列し、古來朝野の崇敬厚く、大同年間社封四十一戸の充奉あり。屢々幣使發遣の事あり、源賴朝が初め豊臣・徳川氏等の武將の崇敬亦厚かりき。例祭、三月十六日。(西宮神

社(戎宮) 社家町に鎮座。縣社。祭神、
姫子大神・天照大神・須佐之男大神・大
國主大神。創建年代詳かならざるも平安
時代大治の頃より社名・祭神名は諸書に
出づ。古來皇室の尊崇厚く、治承四年高
倉院殿鳥行幸の際に御使をして奉幣せら
る。また武門の崇敬も淺からず。社殿中、
本殿(三連春日造)は寛文三年の建造。表
大門(四脚門)は慶長九年造營にて共に國
寶とす。例祭、九月二十二日。この外に
一月十日は俗に十日戎祭と云ひ賽者數十
萬を算し、全市も亦祭禮気分横溢す。(福
應神社) 市内今津水波に鎮座。縣社。祭
神、事代主命。社傳によれば後陽成天皇
より福應の神號を賜ふと。古來今津方面
の産土神として崇敬篤し。例祭、十月十
三日。(海濟寺) 六波寺にあり。臨濟宗
妙心寺派。巨懸山。應永年中無因禪師の
開創に係る。當地禪林の名刹。(日持寺)
津戸宇西ノ口にあり。淨土宗。松原山と號
し俗に觀光寺と云ふ。惠心僧都の開創と
稱す。木造阿彌陀如來立像一軀は室町時
代の作と推せられ善導大師坐像一軀と共
に國寶なり。(苦樂園) 六甲山の東麓と
甲山との間の丘阜にあり。總面積約百ヘ
クタール、六甲線走路中央を貫通し、松
林の間に運動場・遊園地散在す。地は本
市を俯瞰し、住宅地として理想的の保健
地なり。(西宮舊砲臺) 指定史蹟。西濱
の海岸にある三層の石造砲臺。高さ約十
二米、徑約十七米。幕末、歸義邦(安房)

の建議により文久三年起工、慶應初年竣
工、明治十七年火災に罹り木造構造物を
焼失す。昭和十一年保護屋根を設く。
ニシノモリ 西ノ森 愛知縣海部郡
にありし村。明治三十九年本村ほか一町
二箇村を廢し額江町を設く。
ニシハカタ 西伯方村 愛知縣伊豫
國越智郡の東北海上にある伯方島の西
北半を占む。東南部を除くほかは瀬戸内
海に臨む。中央には賣良山(三〇四米)あ
り。その周圍に平野をつくり、更に周圍
海中に、恰も龜の頭・足の延びるが如く
小丘陵所々に突出し東北部に大夫殿鼻あ
り。西北部には大長崎延びてその西は鼻
栗瀬戸を距てて大三島横ばり、西南方に
は大島、北方には生口島等浮びて四周を
圍む。米・麥を産し繭もあり。交通は發
達し、(喜多浦八幡大神社) 大字
北浦に鎮座。祭神、息長帶日賣命。
品陀和氣命外十三神。社傳に據るに、白
鳳二年博多の節時より勧誘、故に當島を
伯方島と稱すと、古來伯方島の地誌たり。
例祭、三月廿一日。
ニシハタ 西畑村 千葉縣上總國夷
隅郡の西部。大多喜町の西南隣にあり。
北は市原郡の一部と隣す。全村丘陵地に
て二〇〇米前後の丘陵連り森林・草地多
く、夷隅川の支流は村内に發源して東流
しその流域には相平地ありて米を産し養
蠶・養鶏も行はる。縣道は北部を横斷し
省縣本線はこれに沿ひて東より西

畑(昭和十三年設置)を設き、また社線
小浜鐵道は西より來り、終點驛上總中野
驛(昭和三年設置)を設く。南走する縣道
は夷津町に通ず。この地は和名抄、夷津
郡白羽郷の内なるべく、近世西畑郷と稱
せし地。
ニシバタ 西畑 愛知縣海部郡にあり
し村。明治三十九年本村ほか六箇村を廢
し明治村を設く。
ニシハタノ 西泰野村 神奈川縣相
模國中郡の西部。泰野町の西隣にして、西
より南は足柄上郡上野原村と隣す。北境
には丹澤山の連峰塔ヶ嶽(一四九一米)聳
え、村の北半はその南斜面の一部にして
森林・草地あり。南半は泰野盆地の一部
を占めて農業行はれ麥・蕎麥・甘藷・粟
等を産し養蠶も行はる。縣道は南部を横
走して泰野町に通じ、社線小田原急行鐵
道またこれに沿ひ湯澤驛(昭和二年設置)
を設く。
ニシハチジョー 西八條 北は
平安京の八條大路の、朱雀大路より西の
稱。平清盛の西八條の邸ありしを以て著
はる。いま東京都下京區八條町の邊。
ニシハマ 西濱 大府府西成郡にありし町。明治
二十九年大阪市内區に編入す。
【西濱村】 兵庫縣但馬國美作郡の西北部。
日本海に臨み、濱坂町の西に接し、西は
鳥取縣若菜郡に界す。北部海岸を除く外
約五〇〇米程度の山脈を縱らし、村内山

地起伏し山麓北岸に迫りて低地乏しく、
東部に小河北流して海に注ぐところ諸寄
港を抱き、總じて岩石海岸をなす。沿岸
は小島・奇岩・怪石散在す。産物は繭の
産額最も多く米・食用農産・蔬菜・花卉・大
麥・果實・採金・小麥・大麻等もあり。海岸
漁業盛にて水産製造物多し。外に鰯卵・
双物も産す。北岸に縣道走り其南に省線
山陰本線通過して居組驛(明治四十四年
設置)あり。大字居組はもと伊倉に作れ
るを後世居組に作る。中世これを大藏莊
と云ふは延喜式の大藏神社に鎮座す
るを以てなりと。大字諸寄は小嶺地にて
土俗雪白といふ。六帖に「但馬なる雪
の白穠もろよせば思ひしものを人のとや
見ん」とあるは此地を指せるものとす。
【大藏神社】 大字居組に鎮座。縣社。祭
神、大年神・御年神。創建年代詳ならず
れども延喜式内の舊社なり。所藏の棟札
によれば、永享二年十一月足利義教の時
に社殿再建あり。例祭、十月九日。
【西濱村】 鳥根縣出雲國松江郡の西部。
日本海に臨み、大府町の南方約八軒にあ
り。南北に細長し。臺地狀の丘陵中部及
南部にあり東北部に平野開け神西湖に面
す。南部に湖沼散在し西岸に東北より西
南に連り單調なるも東岸は多く西岸にあ
り。地味肥沃にて農産物に富み特に繭の
産著し。近海は魚類の棲息多く漁業盛な
り。外に畜産・工業・林産あり。省線山陰
本線江前驛は東方約一軒半にてバスを通

す。海岸には縣道走る。(御久賀神社)
大字大進に鎮座。縣社。祭神、天御中主
神・宇賀御魂命。延喜の制、小社に列し、
神門都二十七座の一たり。例祭、十月十
七日。
ニシハラ 西原 廣島縣安佐郡にあり
し村。大正九年原村と合併して更に原村
を建つ。
ニシハラ 西原村 神戶縣中頭郡の
南端。首里市及び島尻郡南風原村・大里
村の北に接し、東は中城灣に臨む。面積
一八・五方軒。西部は第三紀層の臺地、
東部沿海は沖積地にして、なほ海岸には
掘堀發達す。農を主生業とし米・甘蔗・
甘藷の産多く、神戶製糖會社工場ありて
分蜜糖等を出す。また農事試験場の試験
地設けられ製糖・甘蔗栽培に関する試験
調査等行はる。東部低地と西部とに縣道
通じバスの便あり、また東部の小那覇よ
り首里市へ至る道路等ありて、交通不便
ならず。字嘉手苺には尙國王(命丸)の舊
宅なる内閣御殿の址あり、附近海岸には
殿衣岩の史蹟あり。

設置)、九之坪(大正二年設置)の三群あ
り。この地はもと拾遺庄と稱せし地にし
て、明治三十九年上拾遺・下拾遺・九之
坪の三村を廢して本村を設く。(國寶社)
大字徳重に鎮座。縣社。祭神、大國魂
命。奉唱國內神名帳に「從三位國玉天神」
と見ゆるものこれなり。例祭、八月二十
三日。
ニシハルチカ 西春近村 長野縣
信濃國上伊那郡の西部。天龍川西岸に沿
ひ伊那町の南に接す。駒ヶ岳(二九五六
米)の東山麓を占め、西より東へ傾斜す。
東部河岸には水田・桑園拓け農業盛な
り。生糸・繭の産額最も多く、米・麥・これ
に次ぐ。東部を南北に社線伊那電線及び
三州街道貫走し、前者の下島・深波・赤
木(何れも大正二年設置)の三群を設く。
この地は和名抄、伊那郡小村郷の内なる
べく、近世春近庄と稱せしが、いま東西
二村に分る。
ニシヒラタ 西平田村 山形縣羽
後國飽海郡の西南部。酒田市の東南に接
し南は最上川を隔てて東田川郡に接す。
面積六・三二方軒。庄内平野の略中央部
に位し、全村平坦なり。最上川は南境を
西流す。庄内米の産多し。道路は北部を
東西に通じ、西方面線羽越本線酒田驛へ
は約三軒。東方砂越驛へは約四軒あり。
此地は和名抄、飽海郡秋田郷の内なり。

西は昔春野に西す。南境に西より高
森山(三八七米)、高地山(三六六米)・前
高森山(三四三米)、東北境に北より性森
山(二四一米)・水ヶ澤山(三三三米)あり
て中央に傾斜し、全村概ね山地をなす。
盛田川は南部に發源し東北に流る。西部
海岸は山地迫りて岩石海岸を爲し奇巒に
富む。米の産あり。道路及び省線奥羽本
線は中央部を東西に通じ、東方奥羽本線
小浜驛へは約四軒あり。この地は津輕侯
の御香所ありし所。明治天皇、明治九
年奥羽御巡幸の時、及び同十四年山形・
秋田及び北海道行幸の際この地に行幸あ
らせらる。
ニシヒワジマ 西枇杷島町 北は
愛知縣尾張國西春日井郡の西南部。庄内
川の右岸に沿ひ東及南は川を隔てて名古
屋市西北部に對す。地形平坦にして東及
南の境界に沿ひ庄内川西南流す。西境に
は一支流ありて西南に流れ約二軒先に
庄内川に合す。米・麥・蔬菜等を産し特
に枇杷島大根は有名なり。南部には名古
屋市より西北方一宮市方面へ通ずる國道
あり栗落之に街村狀に並びて市街地をな
す。其東部には之より北走する縣道あり
丹羽郡岩倉町・布袋町方面に出づ。省線
東海道本線中央を横切りて枇杷島驛(明
治三十九年設置)あり。東部には社線名
古屋鐵道の西部本線南北に走り、下小田
井(大正元年設置)枇杷島橋(明治四十
五年設置)の二群を設く。毎朝立つ枇杷

島の農業の市場は且に世に知られ、農家
間屋敷十戸は頗る盛況を呈し、熟田の魚
市場と併稱され、集菜園は濃美平野の西
春日井・中島・海部・兼栗・丹羽の諸郡
の産は悉くこの市場に集まり、特殊なる
野菜・果實類は西は九州、北は東北地方
及び北海道産のものも集まる。名古屋を
第一の販賣園とし、京阪神及び東京地方
へも移出す。本町はもと下小田井と稱す。
近年商工の家集集して名古屋市の枇杷島
町に連接するを以て一市街をなす。舊郡
役所の所在地たり。
ニシフ 西保村 東京府武藏國北多
摩郡の南部。府中町の西隣にて、多摩川
の北岸。南は川を隔てて南多摩郡多摩村、
七生村と相對す。全村平地にして北半は
畑地多く、南半は水田をなす。養蠶・農
業行はれて繭・米・麥を産す。甲州街道
は村の中央を西走し、社線京王電氣鐵道
は東南部をかすめて西走し、中河原驛を
設く。また社線南武鐵道は中央を西走し
て、本宿(昭和六年設置)・西府(昭和四
年設置)の二群を設く。(小野神社) 大
字本宿に鎮座。縣社。祭神、天下春命・
瀬織津比咩命。元慶八年正五位上を授け
られたる式内小野神社に充てらる。中世
府中大國魂神社より社務を攝行せりとい
ふ。例祭、九月十五日。
ニシフ 西保村 山梨縣甲斐國東山
梨郡の西部。甲府市の東北方約八軒。南
北に細長く、北隣は國師ヶ嶽(二五九二

ニシハ——ニシフ

ニシハ——ニシフ

ニシハ——ニシフ

ニシハ——ニシフ

米)を境に長野縣南佐久郡に、西北は中五郎郡に、西南は四山郡に隣接す。北より西南にかけ、命峰山脈の一支脈連互し地勢高峻にして山林に富む。...

ニシフタミ

大字小川寺にあり。古義言宗。小川山。高野山金剛寺末。もと當村小川寺塔頭の一。小川寺は聖武天皇天平十八年行基の開創に傳る。...

ニシフタミ

大字小川寺にあり。古義言宗。小川山。高野山金剛寺末。もと當村小川寺塔頭の一。小川寺は聖武天皇天平十八年行基の開創に傳る。...

ニシフタミ

大字小川寺にあり。古義言宗。小川山。高野山金剛寺末。もと當村小川寺塔頭の一。小川寺は聖武天皇天平十八年行基の開創に傳る。...

ニシフタミ

大字小川寺にあり。古義言宗。小川山。高野山金剛寺末。もと當村小川寺塔頭の一。小川寺は聖武天皇天平十八年行基の開創に傳る。...

を檢出す。同時にその地嶺きの土中より多数の遺品を出せるが中に米山寺施入在館の經筒あり。...

ニシフジシマ

井藤前國吉田郡の西南端。福井市の西北に隣り、東は中島島村に、南は足羽郡東安原村に、西は坂井郡本郷村及び丹生郡西安原村に隣接す。...

ニシフジシマ

高知縣土佐國高知郡の南端。高知市の西南約二軒、北は土佐郡南部に接し、南は約二・五軒隔てて土佐海岸なり。...

ニシフジシマ

高知縣土佐國安藝郡の西端。安藝町の西方約七軒に位し南は土佐海岸に臨み西は香美郡に界す。...

ニシフジシマ

高知縣土佐國安藝郡の西端。安藝町の西方約七軒に位し南は土佐海岸に臨み西は香美郡に界す。...

す。大字深谷は糸魚川の藩祖松平直堅の隱家のありし所として有名なり。今は深谷の何處に在るか定からず。...

ニシヘイジョー

朝鮮總督府鐵道京義本線の一驛(昭和四年設置)。平安南道平壤府仁興里にあり。手帳)の古地名。...

ニシヘイ

北海道的根室國の南部の用。根室國西境西別嶺(八〇〇米)の東南麓に發し、オンメツ・オンネツ・シカレンナイ等の諸川を合して野付郡内を東流し根室灣に注ぐ。...

ニシヘイ

北海道的根室國の南部の用。根室國西境西別嶺(八〇〇米)の東南麓に發し、オンメツ・オンネツ・シカレンナイ等の諸川を合して野付郡内を東流し根室灣に注ぐ。...

ニシヘイ

北海道的根室國の南部の用。根室國西境西別嶺(八〇〇米)の東南麓に發し、オンメツ・オンネツ・シカレンナイ等の諸川を合して野付郡内を東流し根室灣に注ぐ。...

あり。寛永十四年松平忠昌の創建。舊藩の傾斜を曾せし所。十一面觀音は寛永年中庇喰川の流より出現し、何事にても一日祈願すれば叶はずと云ふ事なし故に一日觀音の稱あり。...

ニシフジワラ

重鎮伊勢國員辨郡の西部。鈴鹿山脈の東斜面を占め、阿下喜町の西北約三軒にあり、西は菟賀縣愛知郡に界す。...

ニシフセ

下新川郡の西北部。魚津町の東方三軒餘。片貝川の支流布施川の左岸。立山火山群の末端をなす四百五十米の丘陵地帯東南より西北に傾斜し、北端を布施川西に流る。...

ニシホ

石川縣能登國鳳至郡の西北部。外浦海岸に面す。輪島町の西南約五軒。鳳至山地の末端部を占め全村二百三十米の丘陵にして、二小流西北に流れ海岸は概れ岩石海岸にして平地に乏し。...

ニシホタカ

長野縣信濃國南安曇郡の北部。穂高嶺の東北方面念嶺(二六六二米)の東斜面を占め、穂高町の西に接す。...

ニシホリエ 西堀江 愛知縣西春日井郡にありし村。明治三十九年本村ほか一村を合併し桃栗町を置く。桃栗町は同年外一町二村と合し新川町を置く。

ニシホノメ 西本梅村 京都府丹波國船井郡の南部。東北方國郡との間に摩氣村を挟み、南は南桑田郡に接し西南は大坂府豊前郡の北側に界し、西は兵庫縣多紀郡に隣る。東南境に牛岡山(七七四米)、西境には深山(七九一米)あり、村内處々に山地丘陵起伏して其間に稍廣闊な谷間が低分水嶺によりて各谷道り北部には東海に互る谷あり。西北部には河川西川の支流東北流し東北部の谷には河川西北流するありて中央北部を北流する小河を入れ北方約四折にて之に合す。米・麥・繭・木材・工業あり。北部の谷に縣道東西に走り中部及西部にはより分れ各河川に沿ひて北へ向ひ國郡町に至る縣道ありバスの便あり。「琉璃溪」指定名勝。溪の深さは左迄なきも美しき渓流岩に激し、處々奔瀾激湍をなし、鳴瀧・千秋瀧・座禪石・雙龍瀧・玉走盤・水晶盤・會山巖等の勝あり。

ニシマイズル 西舞鶴 京都府舞鶴市の別稱。東方の東舞鶴市に對する稱呼。

ニシマキ 西馬城村 大分縣豊前國宇佐郡の中央東部。宇佐町の南に接し東南は遠見郡に界す。東・南・西の三面は御前山、雪ヶ嶽(六五四米)、まげ山、大蔵山・城山等の山地にて圍まれ、中央には西北に平野開け西北部に横がり、寄瀨川西北に流れ約一軒先にて縣道川に合す。田畑よく拓げ林産もあり。街道中央を河谷に沿ひて通すれど概ね交通不便なり。この地は和名抄、宇佐郡酒井郷の内なるべく、大字矢部は古郡家のありし所。

ニシマシス 西益津村 比叡 靜岡縣駿河國志太郡の東南部。瀬戸川下流の左岸にあり、東は焼津町、西は藤枝町に接す。大井川アルタの北部に當り、土地肥沃にして氣候よく農業盛なり。米を主産とし次いで茶・繭その他工業物・畜産物も多少あり。縣道東西に走り、焼津町へ約二軒、バスの便あり。この地は和名抄、益頭郡益頭郷の内にして、中世は益頭庄に屬す。大字田中には田中城址あり。また比叡主計長にして南海大海路に功を樹てたる石原錫太(贈正五位)は、この地の人。(田中城) 大字田中にあり。舊名を徳乃一色といふ。永祿年中今川氏の臣長谷川正長本城を守る。元龜元年武田氏これを奪ひ、田中城と稱す。天正十年武田氏滅亡の後、徳川氏の臣高力清長入りて守る。中村一氏當國を領するに當り、其將横田村詮を置く。慶長五年駿府の番城となり、寛永十年松平忠重封ぜらる。尋で水野忠喜・松平忠晴・北城氏重・西尾忠照・酒井忠徳・土屋政直・太田資直・内藤一信・土岐頼隆等交々封ぜられ、享徳十五年本多正信これに領し、西尾石を

食少子孫相承けて明治維新に至る。

ニシマスホ 西増穂村 石川縣能登國羽咋郡の北部。富來町の西北方約二軒。北は風至山中の高瓜山(三三八米)を境に風至郡に界す。南北に細長く、村の西部を南北に縱走する丘陵横ばり、南端僅かに海に開し酒見川注ぐ。全村山林に富み平地に乏しきも南部に多少の水田あり。産物は米・繭・林産物等なり。東部を縱に、南部を横に縣道走り、富來町へバスの便あり。此地は和名抄、羽咋郡荒木郷の内。「高瓜神社」大字大福寺に鎮座。縣社。祭神、日本武尊。始め高瓜山の頂にありて内宮(日本武尊外四柱)・外宮(串稻田外二柱)及び八木社あり。内宮を六社宮、外宮を高瓜神社と稱す。神統天皇・文武天皇の御崇拝厚く、大寶三年には正一位北能大社實祿坊羽咋高瓜大明神の勅宣を賜ひ、勅額新念所とす。以後歴代おまじり賀相・名譽・高僧の歸依多し。天正十三年二月舊領主前田利家、兩社の社殿を造替してより同利常・同利長の崇敬を重ぬ。明治初年に神佛混淆を廢止につき兩社の佛像を大福寺村の永誓寺に預け、同六年官令に依り六社宮を現社に改稱し、高瓜神社の社殿を本殿とし舊六社宮の社殿を幣殿・拜殿とす。例祭、八月四日。

ニシマタマ 西眞玉村 大分縣豊前國西國郡東部の西部。兩子山西麓を占め、西北は國郡界に面す。東部及び南部は山

地にして東南部に約二五〇米の高さを有す。西北部は沿岸低地開け海岸は平直にて遠接なり。農産・林産を出す。西部低地に縣道走り南北にバスの便あり。海運は不便なり。この地は和名抄、國郡郡津守郷の内か。弘安國田帳に「眞玉莊七十町字佐彌勒寺領眞玉次郎信隆」とあり、即ち眞玉莊の内にして近世この莊を上中眞玉、東西眞玉の四村に分ち、明治二十二年西眞玉・大平の二村を以て本村を置く。「八幡神社」大字西眞玉に鎮座。縣社。祭神、足仲彦彦外二神。社記に元正天皇の養老年中の創立なりと傳ふ。例祭九月廿五日。

ニシマチ 西町 石川縣風至郡にありし村。明治四十一年本村ほか二村と共に町野村を建つ。

ニシマツウラ 西松浦郡 佐賀縣八郡の一。肥前國の西部。北は伊萬里郡に隣り西は長崎縣北松浦郡に界す。西境には國見山、西岳を中心として南北に山脈走り長崎縣との境界をなし、其他郡内處々に山地・丘陵起伏し東境より南境には八幡山(七六四米)・眉山(五一八米)・黒岳(三七七米)・青嶺山・黒嶺山(五一八米)・杵島山(四四七米)等の山地概ね各々單獨に聳り、中部には大陣山(二六九米)・國見岳(一七七米)・大野岳(四二四米)・大平山(二一八米)・腰嶽(四八八米)等各處に聳居し其間に低地・盆地を占め、西部には西尾山地の東麓に稍廣闊な

谷あり有田川北流して海に注ぎ、南境の低き分水嶺を越れば大村灣口へ續く谷間け、伊萬里灣口と大村灣岸を結ぶ重要な河谷なり。東部には松浦川及其西に支流北上し沿岸平野を有す。伊萬里灣北方へラッパ状に擴がり海岸平野あり。東北岸は山地海に迫る。灣内處々木島・釘島・小島・七ツ島等浮び北方灣口には福島(長崎縣所屬)横ばる。低地は田畑よく拓げ米・麥・甘藷等を産するも、本郡の重要産業は畜産にして郡内花崗岩地より良質の陶土を産し、東日本の瀬戸地方に對し西日本畜産の中心たり。郡内伊萬里町・有田町・山代町の三町外十二箇村を含み人口密度は郡内平均二二四人にて中最も大なるは有田町の八四九人なり。縣道は伊萬里町・有田町を中心として四通し、殊に西南部には有田町を通過して長崎街道通す。省線佐世保線も西南部を西に走り有田驛より省線伊萬里線北上し伊萬里海岸を離り更に延びて北松浦半島北端に至る。西部は要塞地帯の一部を占む。本郡は明治十三年五月松浦郡を東西南北の四郡に分ちて置けるもの。

ニシマツモト 西松本 奈良縣南葛城郡にありし村。大正四年本村ほか七箇村と合併して大正村を建つ。

ニシミカワ 西三川村 新潟縣佐渡國佐渡郡の西南部。小佐渡の西海岸を占め、南は小水町に東北は宮野村に接す。背後に山脈を負ひ二〇〇米前後の

なだらかなる丘陵西に傾斜し海に迫る。南部海岸の一部は砂濱なるも北部は岩石多く小出入あり。農産・林産・漁業等盛にして米の産多し。農産物・木材共に相當額に及び移出さる。又往時より量に多からざるも砂金の産地として名あり。小水港より約八軒、新町より約四軒縣道自動車の便あり。「小水神社」大字小布施に鎮座。地社。祭神、素戔鳴尊・大彦命。往古は本殿の設けなく丘上なる岩座の岩塊を神座として祭祀せるを、明徳五年に地頭本間山城守源重頼、本殿を建立す。この岩塊は遙に見る原始的遺蹟にして、古來これに觸るゝを戒禁せるより今なほ依然として存す。慶長十三年十一月當奉行大久保石見守は祭典料に田地六十束刈を寄進、寶曆十一年正月火災にて社殿・舊記・寶物等を焼亡す。文化十三年五月十五日神祇官より幣帛を奉奠せらる。例祭、陰曆九月九日。

ニシシズハシ 西水橋町 富山縣越中國新川郡の西北隅。東西を白岩川・常願寺川の河口に扼され、東は白岩川を隔てて東水橋町に接し、西は常願寺川を境に上新川郡に隣り北は富山灣に面す。土地平低にして南部には水田あり海岸は砂濱をなす。古來泊舟地として榮え、製薬業と漁業を以て生命とす。農産は殆ど未作なり。國道に沿ひ、縣道四通し交通至便にして富山市・東水橋町へバスの便あり。省線北陸本線水橋驛は町の

南方三郷村との境にあり。

ニシシナト 西湊 石川縣能登國羽咋郡の中部。七尾灣南側に面す。東南は七尾町に西は和倉町に接す。富山半島の東半部を占め、東へ大杉崎を突出す。全村概ね一〇〇米前後の丘陵地帯をなし東北部に稍平地あり、漁業及農業を主産業とす。東北部を省線七尾線及縣道並走し、和倉驛に近し。七尾・和倉間のバスも通す。この地は和名抄、能登郡加島郷の内。大字赤浦附近は鮮新統に屬する赤浦層の發達せる所。大字津岡附近は洪積統又は下部沖積統に屬する津向貝層發達す。「長崎寺」曹洞宗。初院、寶圓寺。俗稱、山の寺。天正六年前田利家の建立。國寶、胡本前田利春像。

ニシシナミカタ 西南方村 富山縣能登國川邊郡の西南隅。能登半島の西南端に位し西及南は東支那海に臨み、東は枕崎町に北は加世田町に界す。數列の丘陵村内を東北より西南に連りて海上に延びて半島状に突出し、北に唐ノ岬、中央に現代鼻、南に海ヶ崎、坊ノ岬あり、其間に久志浦・泊浦・坊ノ浦等の深き稍廣闊なる灣を抱き、その灣頭に夫々同名の集落あり。灣岸に低地開けたるも概して平野乏し。水産業發達してその産額多

く坊ノ津はその根據地をなして有名な港なり。農産は水産に次ぎ林産・工業・畜産もあり。南部には枕崎町へ通する縣道ありてバス往來す。この地は和名抄、川邊郡稻穂郷の内なるべく、近世は南方郷の内。本村と枕崎町とに跨りて春日嶺山あり、嶺は金銀にして重要嶺山とす。昭和十一年には金銀嶺七、二一九路を出す。「坊ノ津」大字坊及及び大字坊泊の地にて、一に唐嶺といひ、筑前の博多津、伊勢の安濃津と共に三津の一に數へられ古來外國との交通の要港なりき。港の規模小なれど小浜灣口を扼し、港は屈曲灣入してよく風波を凌ぎ安全の備地なり。その後幕府の外國貿易を長崎一港に限るに及びて衰へ、昔日の面影なきも、なほ漁港としてその北に存する泊浦と共に重要な位置を占む。

ニシシノワ 西箕輪村 長野縣信濃國上伊那郡の西部。伊那町の西北方約三軒。木曾山中、經ヶ岳(二二九六米)の東南麓を占む。西北部は山林・草原多く、東部は段丘状緩傾斜地にして桑園多し。桑園又東部に散在し、養蠶業を主産業とし、米・麥の耕作これに次ぐ。中央を南北に里道通じ、東方へ數條の道路を分岐す。社線伊奈電線の北段、伊那北兩驛へはいづれも四―五軒を隔つ。

ニシシヤナガ 西宮永村 福岡縣豊後國山門郡の西部。柳河町の南方約一・五軒にして南は約二軒を隔てて有明海な

ニシム——ニシム

り。地形極めて平坦にして西約一軒に神ノ端川西南流す。米産多し。柳河町に近き爲交通便なり。〔八幡神社〕大字吉宮に鎮座。郷社。祭神、惠神天皇。もと舊藩主立花邸内に鎮座ありしを、後西院天皇寛文年間柳川城主忠茂、この地を譲りて社殿を新築しこれに遷座す。例祭、十一月十一日。

ニシムカイ

西向町 和歌山 縣紀伊國東牟婁郡の南部。古座川河口の西岸に位して熊野灘に臨み、川を挟んで古座町・高池町に對し西は西牟婁郡本町なり。西北部最も高く北境には重疊山(三〇二米)あり。村は其山地の東南斜面をなし南部海岸に山麓迫り砂浜所々に連る。東境には古座川東南流し熊野灘に注ぐ。米・蕎麥・柑橘等の農産及び工業・水産、畜産あり。熊野海岸に沿ひて走り古座町に通ずるバスの便あり。省線紀勢中線海岸を通りて古座・紀伊(共に昭和十一年設置)の二驛あり。昭和十年町制施行。古へは今の古座町と共に古座浦の汎稱を以て呼ばれし處。

ニシムゲ

西武藝村 岐阜縣美濃國武儀郡の西部。武儀川に沿ふ。美濃町の西方約八軒。西及び南は山縣郡に界す。東北部・西南部に四一五百米の丘陵を負ひ、村内略中央を武儀川東南に流れ流域に多少の平地開く。農業・製紙・養蠶業盛なり。武儀川に沿ひ東方美濃町及び南方岐阜市へ輻蓋通じバスの便あり。この地

四六四

は和名抄、武藝郡那部郷の内に於て、近世は佐野郷・宮水郷と稱せし地なり。
ニシムサシ 西武藏村 大分縣豊後國東國東郡の西部。兩子山の東南斜面を占め、西北は山頂を隔てて西國東郡に界し、東南は西安崎町に接す。西北より東南に細長き村なり。西北境に兩子山(七二二米)聳え、それより二條の山嶺東南方に延びて東西兩境を限り、中央に淺き谷間け安岐川支流東南流す。西岸に水田を具、西側傾斜地には畑地及び山林あり。米・蕎麥等の農産及び木材、木炭の林産あり、特産に竹村・椎茸あり。北部には東西に縣道通じ中央の谷沿ひに走る街道は東南方安岐町へ出て社線國東鐵道安岐驛へ通じ自動車の便あり。此地は和名抄、國時武藏郷の内に於て、奈良朝・平安朝の頃迄は宇佐宮領、のち大友氏の臣、吉弘氏の所領、文中中は伴繁滿領、幕末は松平氏の封邑たり。〔八坂社〕大字小久保に鎮座。村社。祭神、健甕須佐之男命・大己貴命・少彦名命。天永二年の勳功と傳へられ、古米糸水・恒若二ヶ村の産土神たり。江戸時代、領主松平氏歴代の崇敬あり。例祭、七月二十八日。

ニシムタ

西牟田村 福岡縣筑後國三浦郡の東部。久留米市の南方約四軒に於て南は八女郡大塚町に接す。筑紫平野の一部を占むるため、全村地形平坦なり。米の産多し。街道四方に通じ東部に在る熊野見島本郷南下し西牟田驛(昭和十二年設置)を置く。この地は和名抄、三浦郡田家郷の内に在り。西牟田氏は伊豆彌次郎家嗣入道行西の裔孫にして此地に在るを稱せしもの。
ニシムモ 西武茂 栃木縣那須郡にありし村。明治二十八年武茂村と改稱。
ニシムラ 西村 肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に珠磨郡西村郷と見ゆ。その地今の珠磨郡西村の邊に當る。
ニシムラサキ 西紫 福岡縣企救郡にありし村。明治四十一年本村を廢し大字蒲生及び今を企救村に、大字藤崎・小熊野を板橋村に合併す。企救村は大正六年町制を布き、昭和十二年九月小倉市に合併し、板橋村は大正十一年町制を布きしも、同十四年八幡市及小倉市に編入す。
ニシムラヤマ 西村山郡 山形縣羽前國の中部。西北は東田川郡、北は最上郡、東は北村山郡・東村山郡、南は西置郡に隣接す。面積九三・七八九方軒。越後山脈の東斜面に屬し、西北境に月山(一九二四米)・湯殿山(一五〇四米)、西境には赤見堂嶽(一四四六米)・大槍原山(一三八六米)・障子ヶ嶽(一四八二米)、西南境に寒江山(一六九五米)・龍門山(一六五七米)・西朝日嶽(一八一四米)・大朝日嶽(一八七〇米)・北境に葦草森山(一〇二七米)・葉山(一四六二米)あり。東方に傾斜し東北部は山形盆地に屬して平坦なり。最上川は郡の南部より東北部に向ひて流る。寒河江川は西部山地に發源し郡

十二年設置)を置く。この地は和名抄、三浦郡田家郷の内に在り。西牟田氏は伊豆彌次郎家嗣入道行西の裔孫にして此地に在るを稱せしもの。
ニシムモ 西武茂 栃木縣那須郡にありし村。明治二十八年武茂村と改稱。
ニシムラ 西村 肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に珠磨郡西村郷と見ゆ。その地今の珠磨郡西村の邊に當る。
ニシムラサキ 西紫 福岡縣企救郡にありし村。明治四十一年本村を廢し大字蒲生及び今を企救村に、大字藤崎・小熊野を板橋村に合併す。企救村は大正六年町制を布き、昭和十二年九月小倉市に合併し、板橋村は大正十一年町制を布きしも、同十四年八幡市及小倉市に編入す。
ニシムラヤマ 西村山郡 山形縣羽前國の中部。西北は東田川郡、北は最上郡、東は北村山郡・東村山郡、南は西置郡に隣接す。面積九三・七八九方軒。越後山脈の東斜面に屬し、西北境に月山(一九二四米)・湯殿山(一五〇四米)、西境には赤見堂嶽(一四四六米)・大槍原山(一三八六米)・障子ヶ嶽(一四八二米)、西南境に寒江山(一六九五米)・龍門山(一六五七米)・西朝日嶽(一八一四米)・大朝日嶽(一八七〇米)・北境に葦草森山(一〇二七米)・葉山(一四六二米)あり。東方に傾斜し東北部は山形盆地に屬して平坦なり。最上川は郡の南部より東北部に向ひて流る。寒河江川は西部山地に發源し郡

(重よ)を隔てて日置川が東北延千丈山に發して西南流す。東部中央は郡智山脈西部の山地にして大塔山・法師山・入道山・百間山・牛佐嶺・高嶺山・大森山・赤土森山・水垣内山等の高峰屹立して西に流下する幾多の河川は日置川に注ぐ。郡智山脈の東南部海岸近くは東西に連る一連の山脈は寒山脈にして其西部には周參見川西南流す。郡の東南部に突出せる湖嶺は實に本州島の最南端をなし、海岸は互岩・怪石海に臨み或は斷崖をなし太平洋の怒濤をかみ雄大な風景を展開す。其西南端に燈臺あり。山脚海岸に迫りて平地なく、小屈曲に富みども好適地乏しく、西北部の田邊灣に田邊港、東南端に串本港あるのみなれど、臨海温泉地帯にて白濱・湯崎・椿等の有名なる温泉多く南國情緒を醸成するに絶好の地なり。産業は林業を主とし所謂木の國にして沿岸は耕地なき代り南海型の無霜・無雪地帯にして養蠶盛なる所なり。又水産漁獲も多し。交通は概して便ならず、海岸には能登街道通じ、東方へ北部には田邊町より河谷を縫ひ或は峠を越えて走る熊野中道路あり。富田川に沿ひて西北部にて兩者を結ぶ朝來街道、東南部には周參見川に沿ひ東方に走る古座街道等あり。省線紀勢西線は西岸に沿ひて南下し周參見町まで開通せり。東南部は串本町より同紀勢中線東北に延ぶ。北部は山中には林用軌道線もあり。牟婁郡は明治の初より二分し

ニシメ——ニシメ

て東部は三重縣に屬し、西部は和歌山縣に屬す。明治十三年五月和歌山縣に屬する分を東・西牟婁の二郡とし、三重縣に屬する分を南・北牟婁の二郡として今日に至る。〔牟婁郡〕

ニシメ

西目村 秋田縣羽後國由利郡の西部。本荘町の南に接し、西は日本海に面す。東境に天拜山(三五七米)あり。西北方に傾斜し、西目川は天拜山麓に發源して西北に流れ、村の北部に於て日本海に注ぐ。北部海岸は砂浜をなし、南部は山地迫る。村の中央部には耕地拓けて米を産す。雨田街道は北部より東に折れて海岸の狹隘を南下す。省線羽越本線の西目驛(大正十一年設置)あり。この地は和名抄、他海郡由理郷の内に於て、近世は西目郷と稱せらる。濱館は山利氏の古跡なり。本村及び院内村・平澤町に鎮座し、重要嶺山たる旭院内嶺山(石油)あり。〔院内村〕

ニシメヤ

西目屋村 青森縣陸奥國中津輕郡の西南隅。弘前市の西南約一五軒。西は西津輕郡、南は秋田縣に接す。面積二四五・三〇方軒の大村。南境には西より雁森嶽(九八七米)・小岳(一〇四三米)・冷水嶽(一〇四三米)・尻高森(九七七米)あり。西境には四兵衛森(六四二米)・高倉森(八二九米)あり。東北方に傾斜す。南境よりは大川・大澤川・湯ノ澤、西境よりは時門川各發源し、合して岩木川となり東北に流る。全村概ね山地

にして耕地少し。米・木炭を産す。道路は岩木川に沿ひて東北方に向ひ弘前市へは定期車馬の便あり。人口密度は一方軒につき一四人なり。村内に時門の遺(高さ六八米、巾八米)及び湯殿の遺(高さ六三米、巾五米)あり。本村内には後記津輕鐵道の外に瀬ノ澤(瀬ノ大太(瀬ノ原・瀬ノ原)・日映(瀬ノ原)・三澤(金・銀・亞鉛)・八光(金・銀・銅・鉛・亞鉛)・陳奥(金・銀・銅・鉛・亞鉛)・河原深(金)等の諸嶽山あり(津輕鐵道)・鐵道は四十五萬餘坪に亘り鐵道は金・銀・銅・鉛・亞鉛にて重要嶺山たり。昭和九年には金銀五百餘を出し現在津輕金山株式會社の經營とす。
ニシメラ 西米良村 宮崎縣日向國兒湯郡の西部。日向山脈の東斜面に位置し一ツ瀬川の上流域を占む。北は西日村に隣り南は東諸縣郡及び西諸縣郡に接し西は熊本縣球磨郡に界す。面積二七二・三八方軒を有する山村。西境には市房山(一七二二米)・牧良山(九九六米)等の高峰聳えて村界をなし、北境の石堂山(一五四七米)より山嶺東南方へ連り鳥帽子嶽・赤嶺山等を起し次第に高さを減じて東北境を限り、南境にも掃部嶽(一二二二米)・岡見山等聳えて、村内峻嶺重疊す。一ツ瀬川は北方僅かの地點に發して市房山と石堂山との間の急角度の隘谷を南下し村を東南に貫きて迂曲曲折す。西境に發する一支流流下して中央にて之に合し東部には石堂山に源流する小川川東

の北部を東流して最上川に合す。兩河の中間には月布川東流し最上川に合す。寒河江・月布・最上の三河谷には各耕地拓く。全部に亘り米・蕎麥の産多し、東北部寒河江川の扇狀地には草履表の産多し。道路には最上・月布・寒河江の三河谷を通ずるもの及び西北部を南北に通ずるものあり。左澤町・寒河江町・谷地町は此等道路の會點に當る。東北部に省線左澤線通じ寒河江・羽前高松・左澤等の諸驛あり。羽前高松驛より社線三山電氣鐵道分岐し、寒河江川に沿ひて、羽前宮田・海味・間澤等の諸驛あり。郡の東北端谷地町へは省線奥羽本線神町驛より社線各地鐵道通す。本郡は明治十三年五月村山郡を東西南北の四郡に分ちて置けるもの。
ニシムロ 西牟婁郡 和歌山縣(紀伊國)七郡の一。紀伊半島南端の西岸を占め東北部は僅に奈良縣吉野郡に接す。全部略東北より西南に走れる紀伊山系に屬する山岳連なり、北境には果無山脈ありて東より千丈山・安堵山・和田山・笠塔山(以上一〇〇〇米以上)・持平山・虎ヶ崎等の峻嶺聳ゆ。此等の山地より發する河川は峡谷をなして西南に向つて流れ海に入る。即ち西北部には今津川ありて田邊灣に入り、富田川は東北隅安堵山に源流して果無山脈の南を西南流し、其南の分水嶺(千丈山・大塔山・冠四郎山・城山・分嶺山・大尾嶽・夢野森山・城ノ森山・行徳山・鹽津山等東北より西南に

四六五

南流して一ツ瀬川に合す。從來地帯を以て耕地とせしが明治中期以來、木材の値生すると共に愛山の念起り植林思想普及するに及び焼畑作自に減少し、河岸其他に帶廣程の平地あれば之を開き田畑とし以て食料の自給を計る。然し、村中約五分の一は今尙造林を目的とし焼畑作をなす者あり。氣風一般に放漫なる點あり。舊藩時代は菊池氏の領なりしが山民一千戸悉く士族を以て選べし所なるを以て山知行其ま、今日に及び村内に官山なし。山民、昔山よりの収入によりて生活し比較的治安安定なり。特産には茶・椎茸・楮皮・コンニャク・木炭・木材等あり。中央を東西に横斷する縣道西は山地を越えて熊本縣に及び東は省線妻籠杉安驛方面に通じバスの便あり。もと米良村と稱せしが、いま東西二村に分る。尊嶺の志士、甲斐右膳(贈正五位)・同大藏(贈正五位)は共に本村の人。〔天(包嶽山)海拔七五四米のところに位す。硫化アソチモニウムを出す。〔米良神社〕大字小川に鎮座。郷社。祭神、大山祇命・岩長姫命。社傳に磐長姫この地の御遺蹟に投じて死し給ひしを以て、之をこの地に祀る。往時神寶として毛髮を存せしが、元祿十六年大水の際流失せりといふ。例祭、陰曆十一月二十五日。
ニシモス 西百舌鳥 大阪府泉北郡にありし村。大正八年本村及び中百舌鳥村を廢し百舌鳥村を建つ。

ニシモ——ニシヤ

ニシモナイ 西馬音内町

秋田縣羽後國雄勝郡の西北部。湯澤町の西方約八軒。地勢南部に高く北方に傾斜し、南半部は山地をなすも、北半部は横手盆地の一部をなして平坦なり。西馬音内川は北部を東北に流る。町民の六割餘は農業にて、米・蕎麦を産し、酒の醸造行はる。道路は町の北部より北方及び東方に通じ、東南方の湯澤町へはバス頻りに通ふ。奥羽本線湯澤驛へは約九軒あり。社線雄勝鐵道西馬音内驛(昭和三年設置)を置く。この地は和名抄、雄勝郡雄勝郷の内にして、明治三十三年町制を布く。富町と山田村とに跨りて重要嶺山なる松岡嶺山あり、嶺は金・銀・銅・鉛・亜鉛なるが、昭和十年には金銀三一、一〇一兩を産す(松岡嶺山参照)。(佐藤信實) 本村の人。農政學者。字は元海。信季の子。學古今東西に渉り經濟民衆を説き、航海貿易の大利、海防外交を論じて一世の耳目を驚かす。のち幕府の忌諱に觸れて江戸を退放せらる。著書三百種に及ぶ。嘉永三年八十二歳にて歿す。(佐藤信實) 本村の人。農政學者。信濃の祖父。農政・博物究理を修む。専ら心を經世にひそめ利用厚生之道を説く。享保十七年歿、年五十九。贈從五位。主著、土性論・山相學。

ニシモロカ 西諸郡

宮崎縣日向國の西南部。國見山脈の東南及南斜面より霧島火山群に亘る一帯の地域を占め北は熊本縣球磨郡に接し西は鹿児島縣

伊佐郡及給良郡に界す。國見山脈に屬する小白髮岳(一一八三米)・國見山(一一一七米)・ジョーゴ岳(九八〇米)・萬年青ノ平(九四七米)・國見山(八六一米)・百貫山(六九三米)・瀧下山(七九〇米)等の峻嶺々々東北より西南に連りて北部山地をなし、東部には其山地が東南方へ廣がりて西ノ俣山・國見山・大森岳・七熊山等の峻嶺多く、その間に大淀川支流綾南川・楢川等東南流す。西部には國見山連嶺の南に東西に稍細長き廣潤な盆地開け、こゝに川内川西流す。西南部は霧島火山一帯の地にして高千穂峰(一五七四米)・神岡嶽(七〇〇米)・獅子戸嶽・白鳥山・矢岳・夷守嶽・飯岳・栗野岳等群居し、火山には火口湖多し。その裾野高原北方及東方に廣がりて東北山麓(村の中央)に小林町の盆地ありて岩瀬川北流より南下する支流を入れて東南流し、東南境に出でて大淀川に合し東に下り東方宮崎市を流れて日向灘に注ぐ。霧島火山には白鳥官林、東部山地には内山官林・楢川官林・重水官林等ありて村内森林に恵まれ林業發達す。盆地は農産物多し。又原野廣き爲牧畜も發達す。其他礦物・水産物等もあり資源豊富なり。郡内小林町・高原町の二町外五ヶ村を合し、小林町の如く人口密度一四五人を算する所もあれば多く山村なれば平均密度は八八人にして、東北部の須木村の如きは一四人に過ぎず。鐵道は中央盆地を流れて横斷し東方宮崎

市と西北方熊本縣人吉盆地を結び、又南方へ分れて鹿児島縣へ出づるものも數條あり。省線吉都線霧島火山の北を繞りて西南部に走り南方都城山と西方肥後縣吉松驛とを結ぶ。諸郡は二分して一は鹿児島縣に入り南諸郡と稱し、一は宮崎縣に入り北諸郡と稱す。明治十七年一月北諸郡を北西東の三部に分けし時本郡を新置して今日に至る。※諸郡(郡)ニシヤ 西谷 神奈川縣都築郡にありし村。昭和二年横濱市に編入さる。ニシヤ 西八田村 京都府丹波國何鹿郡の中部。綾部町の東北に接し南北に細長き村にして中部は東西の約一軒に狭まり北部及び南部にて巾を増す。全村丘陵地々に横ばり其間處處に小低地あり。北部に發する小河南へ貫流し南部にて西南折し西約二軒にて山良川に合す。田畑よく拓け米・蕎麦を産し蕎麦また盛にして蕎麦を出し外に鶏及卵、飲食器其他の工産品及び薪木材・畜産・水産あり。南部に鐵道走りて綾部町と北方舞鶴市方面へ通じ北部にも四方へ通ずる鐵道あり。省線舞鶴線南部を走りて綾部驛(西南方約二・五軒)に近し。和名抄に何鹿郡八田郷とあるは本村及び東八田村に當る。(鳥萬神社) 大字中筋に鎮座。郷社。祭神、素戔鳴命。相殿、大那牟遲命・少彥命。式内の鳥萬神社に充てらる。例祭、十月十一日。(岩玉寺) 大字七百石にあり。古義高野宮。高野山寶城院末。

ニシヤ 西谷

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

ニシヤ 西八田村

を出し重要嶺山に屬す。また村内に嶺區二十二萬餘坪を有する小山嶺山あり、嶺は金銀銅にて昭和十年には金銀八四八兩、この價額三萬六千餘圓を出し重要嶺山たり。なほ本村と白岩町とに跨り嶺區九十一萬餘坪を有する半生嶺山あり、嶺は金銀銅を産す。本嶺山また重要嶺山に屬し、白岩町と最上郡八藏村とに跨る水松嶺山と合併築せらる。ニシヤ 西山 越後(新潟)油田五區の内最も大規模なる油田。名前は信濃川を中心とし、その東方にある諸山丘を東山といふに對し、西方の諸山丘を西山と稱すといひ、東なるを東山と稱すといふ。油田は凡そ北方、三島郡出雲崎町附近より南方、刈羽郡柏崎町附近に至る日本海に近き地域にて、之を系統上更に長嶺・宮川・尼瀨・高町・中央・七日市の六油田に區分せらる。現在産油せらるゝ地域は、省線越後線の石地驛より西山驛に至る線路と略並行しその西方に横ばる。即ち此處に二條の並行する油田ありて、その東方なるを鎌田長嶺油田、西方なるを後谷宮川油田と云ひ、前者を更に便宜上、灰爪・伊毛・鎌田・長嶺・入和田・瀧谷の六油田にわかつ、後者を西ヶ崎・後谷・宮川の三油田に分つ。地質は第三紀にて鎌田長嶺油田の地層は西方に下降し、油井の深度は一五〇—一、七〇〇米、後谷宮川油田の

地層は東方に傾斜し油井の深度は二〇〇—七〇〇米なり。古へより土地の人々は幾度か手掘りて鑿井を試みしも成功の域に達せず、明治二十三年日本石油會社が米岡式機械鑿井を尼瀨に試み翌年春一大噴油を見るに及んで發展の曙光を見たり。次で同二十七年宮川の機械井に成功し、また同二十九年には長嶺に於て、三十一年には鎌田に於て各々成功す。かくて三十七年に於ける全國の産油一〇七・四萬石のうち越後油田は實に一〇七萬石を産し、そのうちの二四％は西山油田にて産出す。産油の最盛時は大正四年の頃なるべく、多少の盛衰はあれど其後漸して衰へ、昭和十一年の産油は三四四、一〇七噸にして内地油田中の第五位を占む。刈羽嶺山を中野興業會社が、鎌田嶺山を小倉石油會社が經營する以外、西山油田の大部分は日本石油會社の經營に屬す。【西山嶺山】 ↓ 二田村(新潟縣) 【西山】 越後線の驛(大正元年の設置)。新潟縣刈羽郡二田村にあり。【西山村】 山梨縣甲斐國南巨摩郡の西北隅。富士川の一支早川上流に沿ふ。西は赤石山脈の主脈白根山諸峰を擁し静岡縣安倍郡に、北より東は一分脈を境に中互摩郡に隣接す。村内山岳重疊し地勢高峻、早川は中央を稍東寄りに南北に貫流し峡谷をなす。栗原谷沿に設けし線道を以て連絡す。古來外部との交通不便なりしため産業文化の發達遅々たりしも村の

地層は東方に傾斜し油井の深度は二〇〇—七〇〇米なり。古へより土地の人々は幾度か手掘りて鑿井を試みしも成功の域に達せず、明治二十三年日本石油會社が米岡式機械鑿井を尼瀨に試み翌年春一大噴油を見るに及んで發展の曙光を見たり。次で同二十七年宮川の機械井に成功し、また同二十九年には長嶺に於て、三十一年には鎌田に於て各々成功す。かくて三十七年に於ける全國の産油一〇七・四萬石のうち越後油田は實に一〇七萬石を産し、そのうちの二四％は西山油田にて産出す。産油の最盛時は大正四年の頃なるべく、多少の盛衰はあれど其後漸して衰へ、昭和十一年の産油は三四四、一〇七噸にして内地油田中の第五位を占む。刈羽嶺山を中野興業會社が、鎌田嶺山を小倉石油會社が經營する以外、西山油田の大部分は日本石油會社の經營に屬す。

地層は東方に傾斜し油井の深度は二〇〇—七〇〇米なり。古へより土地の人々は幾度か手掘りて鑿井を試みしも成功の域に達せず、明治二十三年日本石油會社が米岡式機械鑿井を尼瀨に試み翌年春一大噴油を見るに及んで發展の曙光を見たり。次で同二十七年宮川の機械井に成功し、また同二十九年には長嶺に於て、三十一年には鎌田に於て各々成功す。かくて三十七年に於ける全國の産油一〇七・四萬石のうち越後油田は實に一〇七萬石を産し、そのうちの二四％は西山油田にて産出す。産油の最盛時は大正四年の頃なるべく、多少の盛衰はあれど其後漸して衰へ、昭和十一年の産油は三四四、一〇七噸にして内地油田中の第五位を占む。刈羽嶺山を中野興業會社が、鎌田嶺山を小倉石油會社が經營する以外、西山油田の大部分は日本石油會社の經營に屬す。

地層は東方に傾斜し油井の深度は二〇〇—七〇〇米なり。古へより土地の人々は幾度か手掘りて鑿井を試みしも成功の域に達せず、明治二十三年日本石油會社が米岡式機械鑿井を尼瀨に試み翌年春一大噴油を見るに及んで發展の曙光を見たり。次で同二十七年宮川の機械井に成功し、また同二十九年には長嶺に於て、三十一年には鎌田に於て各々成功す。かくて三十七年に於ける全國の産油一〇七・四萬石のうち越後油田は實に一〇七萬石を産し、そのうちの二四％は西山油田にて産出す。産油の最盛時は大正四年の頃なるべく、多少の盛衰はあれど其後漸して衰へ、昭和十一年の産油は三四四、一〇七噸にして内地油田中の第五位を占む。刈羽嶺山を中野興業會社が、鎌田嶺山を小倉石油會社が經營する以外、西山油田の大部分は日本石油會社の經營に屬す。

地層は東方に傾斜し油井の深度は二〇〇—七〇〇米なり。古へより土地の人々は幾度か手掘りて鑿井を試みしも成功の域に達せず、明治二十三年日本石油會社が米岡式機械鑿井を尼瀨に試み翌年春一大噴油を見るに及んで發展の曙光を見たり。次で同二十七年宮川の機械井に成功し、また同二十九年には長嶺に於て、三十一年には鎌田に於て各々成功す。かくて三十七年に於ける全國の産油一〇七・四萬石のうち越後油田は實に一〇七萬石を産し、そのうちの二四％は西山油田にて産出す。産油の最盛時は大正四年の頃なるべく、多少の盛衰はあれど其後漸して衰へ、昭和十一年の産油は三四四、一〇七噸にして内地油田中の第五位を占む。刈羽嶺山を中野興業會社が、鎌田嶺山を小倉石油會社が經營する以外、西山油田の大部分は日本石油會社の經營に屬す。

ニシヤ——ニシヤ

ニシヤ——ニシヤ

ニシヤ——ニシヤ

ニシヤ——ニシヤ

ニシヤ——ニシヤ

ニシヤ——ニシヤ

ニシヤ——ニシヤ

ニシヤ——ニシヤ

ニシヤマナ

中部にある西山温泉発見さるゝに及び次第に開發せらる。差置・農耕・製炭等僅かに行はる。社線富士身延鐵道下山波高鳥驛にて下車、富士川を渡船にて渡りその上流原村まで自動車あり、それより早川に沿ひ廿三軒、隣村三里村まで工場用軌道あり、更に七八軒は徒歩による。交通今なほ不便なり。この地はもと奈良田村と稱せしが明治二十五年西山村と改稱す。(西山温泉) 泉質、弱食鹽泉。療養向。古くは山梨縣第一の温泉にして古湯・新湯の二泉に分れ、日本南アルプス白根三山への登山口に當る。

四五六

より西國街道へ出づる道を西山街道といふにて知らる。粟生にある光明寺を眞宗西山派といひ、善峯寺の山號を西山といひ、眞宗久遠寺を西山御坊と稱する類はこれより起りしものなり。世傳西山巡りと稱するはこれ等乙訓郡にある名刹青龍を訪ねることにて、即ち大原野・花の寺・小聖・善峯・三鈴寺・粟生光明寺・楳谷・長岡より山崎の天王山に至る間をいふ。

ニシヤマナ

あり。(片庭藤春傳生地) 指定天然記念物。古來藤春傳の發生地として著名なり。藤春傳は太郎とも稱し東洋區系に屬するものにして本邦に於ては極めて稀なり。毎年七月上旬より下旬に互り多數發見し推の老樹に集りて合唱す。(稻田神社) 大字稻田に鎮座。主祭神、奇稻田命。相殿神、經津主命外四神。俗に飯宮といひ、古くは稻田神社、井上神、御神、國主祖神とも稱す。往昔新治國造某その祖の祭れる奇稻田命を遷祀せるをその創建と傳ふ。式内大社に列し、往昔は社領多く社屋隆昌たりしも、中世兵火に罹りてより稍々衰頹、元禄年中に至りて徳川光圀は本社を崇敬せられ除地四石餘のほかに種々奉納する所ありしと傳ふ。例祭、十一月十七日。(四念寺) 稻田(禪房) 大字稻田にあり。眞宗大谷派。稻田御坊・稻田草庵ともいひ、古來親覺東國教化の根本地として著名なり。稻田の領主たりし稻田親重が從弟實從法師を遣はして越後國分寺に配流されし親覺を招じて、吹雪谷に黒木の草庵を作りて住せしむ。これより嘉禎元年歸洛の時まで親覺ここに住すること十數年、その間「教行信證」の著述に従ひ、元仁元年脱稿するや謂ゆる筆止めの名號を著く。親覺の歸洛後、妻惠信尼はここに留りて親重房(親重)の子、法興房(親重)と共に大いに教誨を振る。萬治三年東本願寺末となる。

ニシヤマナ

ニシヤマナシロ 西八代 佐賀縣肥前國西松浦郡にありし村。昭和十一年山代と改め同時に町制を布く。

ニシヤマナ

ニシヤマナシ 西山梨郡 山梨縣(甲斐國)九郡の一。縣の中部。荒川の左岸一帯の地にして、南は信吹川との合流點に及び、中に甲府市を包む。南北に細長く、東は國師を越えり分れる一條の山脈を以て東山梨郡に、西は荒川を境に中五郎郡に、南は信吹川を以て東八代郡に界す。面積僅か九八・三六方軒の小郡にして甲府市により南北に切斷さる。北部は山岳重疊し西境荒川の谷に迫り御嶽昇仙峽の勝景をなす。南部は荒川・信吹川の沖積により肥沃なる平野開け甲府盆地の略中央を占む。北部山地には森林繁茂し南部平地には水田多く山麓部には養蠶盛なり。省線中央本線は中央甲府市を東西に貫通し、南西へ社線富士身延鐵道を分岐す。國道は郡を東西に横切り、之に交錯し南北に走る國道は昇仙峽上流に

ニシヤマナ

ニシヤマナ 西山野 山梨縣第一の温泉にして古湯・新湯の二泉に分れ、日本南アルプス白根三山への登山口に當る。

ニシヤマナ

ニシヤマナ 西山内村 茨城縣常陸國茨城郡の中部。笠間町の西南隣にして南は新治郡の一部と隣す。八溝山脈の中の一部を占め、南境に吾国山(五一八米)、北境に鷹場山(二七七米)あり。中央部は兩山地の間に合して傾斜平地をなし、米・蕎麥を産す。また大理石の産地として有名なり。鐵道は東西に走りて笠間町及び西方岩瀬町に通じ、省線水戸線また之に沿ひ、福原(明治二十三年設置)・稻田(明治三十一年設置)の二驛を置く。この地は和名抄、新治郡石神郷の内にして村内に西念寺・玉日御廟・稻田神社等

ニシヤマナ

ニシヤマナ 西山内村 茨城縣常陸國茨城郡の中部。笠間町の西南隣にして南は新治郡の一部と隣す。八溝山脈の中の一部を占め、南境に吾国山(五一八米)、北境に鷹場山(二七七米)あり。中央部は兩山地の間に合して傾斜平地をなし、米・蕎麥を産す。また大理石の産地として有名なり。鐵道は東西に走りて笠間町及び西方岩瀬町に通じ、省線水戸線また之に沿ひ、福原(明治二十三年設置)・稻田(明治三十一年設置)の二驛を置く。この地は和名抄、新治郡石神郷の内にして村内に西念寺・玉日御廟・稻田神社等

ニシヤマナ

ニシヤマナ 西山内村 茨城縣常陸國茨城郡の中部。笠間町の西南隣にして南は新治郡の一部と隣す。八溝山脈の中の一部を占め、南境に吾国山(五一八米)、北境に鷹場山(二七七米)あり。中央部は兩山地の間に合して傾斜平地をなし、米・蕎麥を産す。また大理石の産地として有名なり。鐵道は東西に走りて笠間町及び西方岩瀬町に通じ、省線水戸線また之に沿ひ、福原(明治二十三年設置)・稻田(明治三十一年設置)の二驛を置く。この地は和名抄、新治郡石神郷の内にして村内に西念寺・玉日御廟・稻田神社等

ニシヤマナ

ニシヤマナ 西山野 山梨縣第一の温泉にして古湯・新湯の二泉に分れ、日本南アルプス白根三山への登山口に當る。

ニシヤマナ 西山内村 茨城縣常陸國茨城郡の中部。笠間町の西南隣にして南は新治郡の一部と隣す。八溝山脈の中の一部を占め、南境に吾国山(五一八米)、北境に鷹場山(二七七米)あり。中央部は兩山地の間に合して傾斜平地をなし、米・蕎麥を産す。また大理石の産地として有名なり。鐵道は東西に走りて笠間町及び西方岩瀬町に通じ、省線水戸線また之に沿ひ、福原(明治二十三年設置)・稻田(明治三十一年設置)の二驛を置く。この地は和名抄、新治郡石神郷の内にして村内に西念寺・玉日御廟・稻田神社等

ニシヤマナ 西山内村 茨城縣常陸國茨城郡の中部。笠間町の西南隣にして南は新治郡の一部と隣す。八溝山脈の中の一部を占め、南境に吾国山(五一八米)、北境に鷹場山(二七七米)あり。中央部は兩山地の間に合して傾斜平地をなし、米・蕎麥を産す。また大理石の産地として有名なり。鐵道は東西に走りて笠間町及び西方岩瀬町に通じ、省線水戸線また之に沿ひ、福原(明治二十三年設置)・稻田(明治三十一年設置)の二驛を置く。この地は和名抄、新治郡石神郷の内にして村内に西念寺・玉日御廟・稻田神社等

ニシヤマナ 西山内村 茨城縣常陸國茨城郡の中部。笠間町の西南隣にして南は新治郡の一部と隣す。八溝山脈の中の一部を占め、南境に吾国山(五一八米)、北境に鷹場山(二七七米)あり。中央部は兩山地の間に合して傾斜平地をなし、米・蕎麥を産す。また大理石の産地として有名なり。鐵道は東西に走りて笠間町及び西方岩瀬町に通じ、省線水戸線また之に沿ひ、福原(明治二十三年設置)・稻田(明治三十一年設置)の二驛を置く。この地は和名抄、新治郡石神郷の内にして村内に西念寺・玉日御廟・稻田神社等

ニシヤマナ 西山内村 茨城縣常陸國茨城郡の中部。笠間町の西南隣にして南は新治郡の一部と隣す。八溝山脈の中の一部を占め、南境に吾国山(五一八米)、北境に鷹場山(二七七米)あり。中央部は兩山地の間に合して傾斜平地をなし、米・蕎麥を産す。また大理石の産地として有名なり。鐵道は東西に走りて笠間町及び西方岩瀬町に通じ、省線水戸線また之に沿ひ、福原(明治二十三年設置)・稻田(明治三十一年設置)の二驛を置く。この地は和名抄、新治郡石神郷の内にして村内に西念寺・玉日御廟・稻田神社等

郡邊部内。大字人見の邊を人見原と稱し、この原より東南、礪波・甘樂・片岡の郡界に渉れる山野を横野原と稱し、和歌の名所なり。弘治三年武田信玄、礪波峠を越えて、上野に入る。北武蔵・西上野の諸將、長野信濃守を大將とし、四月、大に横野の地に戦ひ、遂に長野の軍敗北して箕輪に退けり。この横野の地或は横野原の地なるべし。

ニシヨコボリ 西横堀 大阪の川名。西横堀川の略。土佐堀川と道頓堀川とを南北に通じ、東横堀川と並行し、現今、東區、南區と西區とを繋ぎ、箕土の飛脚・上・金帳中に羽織の紐、結ぶ露夜の門の口、出馴れし足の跡になり、心は北へ行く思ひながらも身は南、西横堀をうか／＼と、氣に染み付きしよれが事、未屋町まで歩み來て。

ニシヨコヤマ 西横山 大阪府泉北郡にありし村。明治三十六年東横山村と合併して横山村を建つ。
ニシヨシタ 西吉田 省線越後線の一驛(大正元年設置)にして彌彦線の接続點。新潟縣西蒲原郡吉田町にあり。
ニシヨシトニ 西吉富村 福岡縣豊前國築上郡の東部。中津市の西南約一軒にありて東北より西南に細長し。西南部は西南方に聳ゆる鳳凰山(八〇七米)より延びる一山脚の北麓をなし、西南中に約四〇〇米の高度を有す。東北部は中津平野の一部を占めて地形平坦なり。西北

地に沿ひ佐井川の小流東北流し北隣東吉富村を流れて海に注ぐ。村内池沼多し。低地は田畑よく拓けて米・麥等の産多く外に林産あり。低地は交通開け社線宇ノ島鐵道東北線と西北より東南に横貫す。
ニシヨシタ 西吉見村 埼玉縣武蔵國比企郡の東北部。松山町の東隣にて、北は大里郡の一部と隣接す。大部分は低き丘陵地をなすも、東境附近より南部にかけては平地開け、南境には荒川の支流市ノ川東南方に流る。農業行はれて米・麥を産し、養蠶も盛んで繭を多産す。松山町及び北方の北足立郡吹上町に縣道を通じ、松山町には東武鐵道東上線の武州松山驛、吹上町には省線高崎線の吹上驛ありてバスを通ず。この地は和名抄、横見郡高生郷の内にして大字田甲は郷名の遺稱なるべし。村内に松山城址・吉見の百穴・百穴の光跡等あり。(松山城) 大字北吉見に地あり。いま其の地を根小屋と稱す。應永年中、扇谷の臣、上田左衛門尉の創築に係る。天文六年七月、上杉朝定、北條氏綱のために其の居城川越城陥り、逃れて當城に入る。當時、城には扇谷の被官たる藤田正勝等居る。同十四年十月より足利晴氏の上杉と合して川越城を圍む時、當城を根城とせしが、十五年四月、戦ひ敗れ上杉朝定・藤田正勝等討死す。北條氏康の移、勝に乘じて之を略し、扇和利部少輔を置く。時に太田實時、若殿城にあり、上田政廣と謀り、

四年八月夜襲して從、之を取り、政廣及び太田下總守・廣澤尾張守を置く。實時の殺後、上田は北條氏に通じ、再び北條氏の有に歸し上田を以て城代となす。永祿五年、太田實正、上杉輝虎に應じ、復た此城を略し、上杉靈勝を置く。同十二月、北條氏康・武田信玄と共に之を陥れ、また上田氏をして守備せしむ。小田原の役に、留守居の將士藤田木呂子等、前田利家・上杉景勝のために圍まれ、四月降る。次いで徳川家康、當城を松平家廣に與へしが、慶長六年、家廣の遠江預松城に移るに及び、城邊に廢城となる。城の屋壁に有名な吉見の百穴あり。(吉見百穴) 指定史蹟。松山城址の北方丘陵の西側面に二百餘箇の横穴、凝灰岩の岩肌を露出せし傾斜面の殆ど全面に互り相重なる如く密接して營まる。大きき何れも一米乃至三米四方、天井は多く穹窿型にして高さ二米を有し、上古の墓地なり。人骨の外、玉類・直刀・刀子・鐵鏝・竈等發見せらる。(吉見百穴光跡發生地) 指定天然記念物。光跡は百穴の一に發生し、盛に光輝を放つ。本植物は本郡中部以北の山地にのみ知らるが斯く關東平野に發生せるは分布上若しき事實に屬す。(横見神社) 大字御所に鎮座。郷社。祭神、健甕須佐男命・櫛田比賣命。式内小社に列し、當國四十四座の一。中世は附近七村の鎮守にして、假玉水川神社とも稱せり。例祭、四月二十日。(伊波比

四年八月夜襲して從、之を取り、政廣及び太田下總守・廣澤尾張守を置く。實時の殺後、上田は北條氏に通じ、再び北條氏の有に歸し上田を以て城代となす。永祿五年、太田實正、上杉輝虎に應じ、復た此城を略し、上杉靈勝を置く。同十二月、北條氏康・武田信玄と共に之を陥れ、また上田氏をして守備せしむ。小田原の役に、留守居の將士藤田木呂子等、前田利家・上杉景勝のために圍まれ、四月降る。次いで徳川家康、當城を松平家廣に與へしが、慶長六年、家廣の遠江預松城に移るに及び、城邊に廢城となる。城の屋壁に有名な吉見の百穴あり。(吉見百穴) 指定史蹟。松山城址の北方丘陵の西側面に二百餘箇の横穴、凝灰岩の岩肌を露出せし傾斜面の殆ど全面に互り相重なる如く密接して營まる。大きき何れも一米乃至三米四方、天井は多く穹窿型にして高さ二米を有し、上古の墓地なり。人骨の外、玉類・直刀・刀子・鐵鏝・竈等發見せらる。(吉見百穴光跡發生地) 指定天然記念物。光跡は百穴の一に發生し、盛に光輝を放つ。本植物は本郡中部以北の山地にのみ知らるが斯く關東平野に發生せるは分布上若しき事實に屬す。(横見神社) 大字御所に鎮座。郷社。祭神、健甕須佐男命・櫛田比賣命。式内小社に列し、當國四十四座の一。中世は附近七村の鎮守にして、假玉水川神社とも稱せり。例祭、四月二十日。(伊波比

式内の舊社なるも、創建年代おぼしき由緒等を詳にせず。明治十六年十一月郷社に列せらる。例祭、十月十七日。
ニシワキノ 西脇野村 和歌山縣紀伊國海草郡の西北部。和歌山市の西北方約八軒、南は紀伊水道に臨む。北境には和泉山脈連立し西方加太町に延びて加太の瀬戸に終り、西北隅に四國山、東北隅に甲山あり。東南部は平垣地をなし海岸は西北より東南に連りて平直なる砂灘をなし、東南海岸を二里ヶ濱と言ふ。藪を主として柑橘・米の産産及び綿織物等の工業あれど、水産類第一位を占め、畜産之に次ぐ。南部に加太町・和歌山市を結ぶ縣道走り其の南に社線加太電氣鐵道通じて西庄驛(昭和五年設置)・二里ヶ濱驛・磯ノ浦驛(共に明治四十五年設置)あり。附近町村と共に要塞地帯の一部なり。明治二十二年、西庄・本島・磯島・日野の四町村を合併して村制施行の際各一字を取り西脇野村と名付く。(本島八幡宮) 大字西庄に鎮座。縣社。祭神、應神天皇・神功皇后・日靈大神。創建年代を詳かにせず。日靈大神の鎮座は神武天皇御宇と云ふ。神功皇后三韓より御凱陣の御この海邊に鎮宮を造り暫く駐紮し給へる遺址に、飲明天皇の朝、詔に依り一祠を營みしを當社の草創と云ふ。或は南部大安寺八幡宮を勧請鎮座せるものならんと考へらる。天正十三年兵燹の災を蒙りて今その沿革を詳かにせず。文久元年幸

神社) 村社。祭神、天孫日命・崇田別尊。式内社。神位、嘉祥二年從五位下。例祭、九月十五日。(安樂寺) 大字黒岩にあり。新義真言宗智山派。岩殿山光明院。本尊は聖觀音にして坂東三十三所第十一番札所たり。行基の創建に係る。坂上田村麻呂、東夷征討新羅成敗の報捷として自ら開基となりて領内の總鎮守となす。爾來勸願所に準ず。源範頼の歸依また深く二十五間四面の大講堂、十六丈三重塔を建つ。これより寺運大いに振ひしが近世は往時の盛衰を失ふ。

ニシヨネサワ 西米澤 比叺郡 省線米坂東線の一驛(大正十五年設置)。山形縣米澤市吹屋敷町にあり。
ニシロクゴ 西六郷 比叺郡 大阪府中河内郡にありし村。昭和六年東六郷村・北江村と合併して扇津村を建つ。
ニシワカ 西和賀(郡) 陸中(國) 岩手縣にありし郡。明治十三年、和賀郡を東西二郡に分ちて本郡を置き、明治二十九年東和賀郡の大郡と共に再び和賀郡を建つ。今日に至る。※和賀
ニシワカマツ 西若松 省線會津線の一驛(大正十五年設置)。福島縣若松市村木町にあり。
ニシワカヤマ 西若山 石川縣珠洲郡にありし村。明治四十一年東若山村と合し若山村を置く。
ニシワキ 西脇町 兵庫縣播磨國多可郡の南部。加古川と杉原川の合流點に

ある河原平野に在り。西北端には三〇〇米程度の丘陵あれども其後に肥沃なる低地にして、加古川は東境及び南境に沿ひて流し、西南隅にて、西南境に沿ひて下し來れる杉原川を合す。産産物を主とし米・粟・小麦・蕎麥・花卉・養蠶草・果實・鶏卵等を産し、其他木製品・針・刃物・皮革製品・瓦・醬油・履物・疊・藪製品・製茶及び沿岸漁獲物あり、水産業殖行はれ、また古來播磨織を以て名高し。西南部に南北に通ずる縣道あり、それより分れて中部を東北に貫通する道路との分岐點に市街地發達す。社線播磨丹波道中部を東北に貫き新西脇驛(重村村)あり、また南方野村より一支出線にて西部を北上し西脇驛(大正二年設置)あり。本村は郡中面積最小なれども人口九、八四六人を擁して最も多く、人口密度一、二九七人にして、本郡平均(一、六四八)に比し甚だ稠密なり。大字津萬附近には播磨風土記に應神天皇の故事を傳へたる鈴瀬山あり。この地は播磨風土記に見ゆる都麻里にして、同書に播磨刀賣と丹波刀賣とが國を堺する時、播磨刀賣の地に至りて井水を汲みて之を飲み、云はく此水に味ありと故にこの地を都麻里(都麻は字麻に通ず)と名づく。明治二十二年町制施行の際、津萬村と云ひしが、大正六年町制施行の際、西脇町と改む。「大津神社」 津萬に鎮座。郷社。祭神、品陀別命・氣長足命・大津乃命。延喜

ある河原平野に在り。西北端には三〇〇米程度の丘陵あれども其後に肥沃なる低地にして、加古川は東境及び南境に沿ひて流し、西南隅にて、西南境に沿ひて下し來れる杉原川を合す。産産物を主とし米・粟・小麦・蕎麥・花卉・養蠶草・果實・鶏卵等を産し、其他木製品・針・刃物・皮革製品・瓦・醬油・履物・疊・藪製品・製茶及び沿岸漁獲物あり、水産業殖行はれ、また古來播磨織を以て名高し。西南部に南北に通ずる縣道あり、それより分れて中部を東北に貫通する道路との分岐點に市街地發達す。社線播磨丹波道中部を東北に貫き新西脇驛(重村村)あり、また南方野村より一支出線にて西部を北上し西脇驛(大正二年設置)あり。本村は郡中面積最小なれども人口九、八四六人を擁して最も多く、人口密度一、二九七人にして、本郡平均(一、六四八)に比し甚だ稠密なり。大字津萬附近には播磨風土記に應神天皇の故事を傳へたる鈴瀬山あり。この地は播磨風土記に見ゆる都麻里にして、同書に播磨刀賣と丹波刀賣とが國を堺する時、播磨刀賣の地に至りて井水を汲みて之を飲み、云はく此水に味ありと故にこの地を都麻里(都麻は字麻に通ず)と名づく。明治二十二年町制施行の際、津萬村と云ひしが、大正六年町制施行の際、西脇町と改む。「大津神社」 津萬に鎮座。郷社。祭神、品陀別命・氣長足命・大津乃命。延喜

式内の舊社なるも、創建年代おぼしき由緒等を詳にせず。明治十六年十一月郷社に列せらる。例祭、十月十七日。
ニシワキノ 西脇野村 和歌山縣紀伊國海草郡の西北部。和歌山市の西北方約八軒、南は紀伊水道に臨む。北境には和泉山脈連立し西方加太町に延びて加太の瀬戸に終り、西北隅に四國山、東北隅に甲山あり。東南部は平垣地をなし海岸は西北より東南に連りて平直なる砂灘をなし、東南海岸を二里ヶ濱と言ふ。藪を主として柑橘・米の産産及び綿織物等の工業あれど、水産類第一位を占め、畜産之に次ぐ。南部に加太町・和歌山市を結ぶ縣道走り其の南に社線加太電氣鐵道通じて西庄驛(昭和五年設置)・二里ヶ濱驛・磯ノ浦驛(共に明治四十五年設置)あり。附近町村と共に要塞地帯の一部なり。明治二十二年、西庄・本島・磯島・日野の四町村を合併して村制施行の際各一字を取り西脇野村と名付く。(本島八幡宮) 大字西庄に鎮座。縣社。祭神、應神天皇・神功皇后・日靈大神。創建年代を詳かにせず。日靈大神の鎮座は神武天皇御宇と云ふ。神功皇后三韓より御凱陣の御この海邊に鎮宮を造り暫く駐紮し給へる遺址に、飲明天皇の朝、詔に依り一祠を營みしを當社の草創と云ふ。或は南部大安寺八幡宮を勧請鎮座せるものならんと考へらる。天正十三年兵燹の災を蒙りて今その沿革を詳かにせず。文久元年幸

天明皇は御願の旨ありて正一位を授け寶鏡を奉進し給ふ。例祭、十月十五日。
ニシワサ 西和佐村 和歌山縣紀伊國海草郡の中部。和歌山市の東に隣り紀ノ川の左岸。南部に小丘陵ある外は凡て平坦なる沃地にして、紀ノ川東北部をかすめて西北流し紀伊村に入る。藪・米の産産物及び畜産・工業あり。外に特産として柑橘を出す。省線和歌山線は北部を通過して田井ノ瀬驛(明治三十一年設置)あり。北部を大阪街道・大和街道走り、南部には龍神街道あり、交通便なり。此の地は和佐村と共に中世の和佐荘の地なり。(岩橋千塚) 指定史蹟。大字岩瀬、前山にあり。山頂より北斜面に互りて約二軒の間に、大小の圓形古墳約五百基存す。石塔は畿内式・横穴式の二種あり、構造には往々複雑珍奇なるものあり、玉類・石製品・鏡・金環・銅鏡・甲冑・馬具・直刀・竈等、その他の副葬品を出土せり。
ニシワサタ 西植田 大分縣大分郡にありし村。明治四十年植田村と合し新たに植田村を置く。
ニシワタ 西和田 省線根室本線の一驛(大正九年設置)。北海道根室國根室郡和田村にあり。
ニシワツカ 西和東村 京都府山城國相樂郡の中部北端。加茂町の北に隣接し、北の一部は觀喜郡に界す。北部及び南部は山地をなし東南境に油屋ノ山(三

八二米) 聳ゆ。本津川の支流赤雲川は中部を西南流し西南部に僅少な低地あり。河成段丘上にも耕地よく發達す。米・麥・茶の産あり。川に沿ひて縣道走り、西南約三軒の省線關西線加茂驛へバスの連絡あり。此地は東和東・中和東と共に中世和東荘と總稱す。萬葉・卷三に安積皇子の薨じ給へる時、内舍人大伴宿禰家持の作れる歌「かけまくもあやにかしこし言はまくもゆゆしきかも…令人笑ひて和豆香山御興立して云々」の和豆香山は和東の地の山を總稱せるものといふ。
ニシワラ 西和良村 岐阜縣美濃國郡上郡の南部。八幡町の東方約三軒を隔つ山村にして南は武儀郡に界す。村内五〇〇—八〇〇米の山岳起伏し二川を源流す。一は東流して和良川に、一は南流して神保川に合流す。粟落はこの二川の谷沿に散在す。土壌は粘土質にして農耕に適し、米・麥の耕作、養蠶等行はれ、製炭を冬季副業とす。村内に大山根魚棲息地あり。八幡町より和良川上流に至る縣道東西に貫通し、省線越美南線菊安驛へバスの便あり。この地は和名抄、郡上郡安郡郷の内なるべく或は同郡和良郷の内かともいふ。いま村内に鬼谷スキー場あり、冬季スキー客多し。(大山根魚棲息地) 指定天然記念物。大山根魚は東亞特産にして、本邦には本土の西南地方即ち美濃より中國・九州の高地溪流中に棲息す。近時濫獲の結果その蓄積を害し

減少の傾向あり。和良川支流の水城は其の北限地なり。

ニスイーニ水庄

ニスイーニ水庄 濠洲臺中州具林郡二街七庄の一。郡の南端部、濁水溪流城に位置する面積三〇方軒余の小きき庄。西北より東南に延びたる狭長なる地形をなし、東北は南投郡名間庄、西南は北平郡淡河庄、西北は田中庄に接し、南は濁水溪を隔て竹山郡及び臺南州斗六郡に對す。東北部に八卦山脈の南端部横はり、西南部に平野を展開す。二水・大丘岡・鼻子頭・過羽・十五の五大字に區分し、庄役場を大字二水に置く。人口一萬二千七百餘。西部平野は地味肥沃にして水利の便に恵まれ、水田よく發達し、純農村を形成す。米・甘藷・烟草・芭蕉・甘蔗・蔬菜・落花生・柑橘・鳳梨・芭蕉等を主要農産物とし、副業に豚・鶏・鴨・鵝等の飼育行はる。工業は鳳梨罐頭製造の外見るべきものなし。縱貫線は中央部を縱走し、二水驛(明治三十八年設置)あり、同驛より東方新高部方面に入る集積線を分岐す。兩鐵道線路に沿ひ夫々指定道路開通し、共に乗合自動車の便を有す。管内はもと總て東郷東堡に屬し、開拓の端緒を開かれしは清の乾隆年間あり。二水は現行制度施行の際、二八水を改稱せしものにして、二條の川が八の字に流れるとの意に出で、濁水溪の一支流の名より庄名に稱せしものにして、同流の名は乾隆二十九年に成りし臺南府志(繪圖)に

見え、また道光十二年に成りし彰化縣志に、「二八水溪、一に香樟渡と名づく、沙連と往來通津す」とあれば、此頃より同地を起點として濁水溪に湧り、東方なる沙連の界に舟路を通せしもの、如し。明治二十八年帝國領臺以來數次行政上の變遷を経て大正九年十月に至り、地方制度の根本的大改革と共に、清領時代より存續し來りし堡を廢し、二八水を二水と改稱し、前記五大字(もと各々庄と稱す)を一括して二水庄となり、臺中州具林郡に編入せられたり。

ニセーニ西面

ニセーニ西面 朝鮮全羅南道和順郡の北部。同郡の西隣にて、北の一部は潭陽郡に、西は光山郡に接す。東西約二二軒、南北凡そ六軒。西境に無等山(一六七七米)、東境に樂城山(五七三米)屹然として對峙し、余脈城内に連互して平地に乏しく、その間に山間盆地あり。寶城江支流同福川は東部山地を穿入蛇曲流し、無等山に發して城内を東流する支谷を併せ南流す。その樂城山西麓の餘崖下を流るる處は時景揚子江の赤壁に懸壁たるを以て赤壁と稱し、朝鮮八景の一に推さる。その上流三軒には勿染の佳景あり。耕地及び果樹は同福川沿岸に多く集まる。産物に米・大麥・大豆・麻布・蜂蜜等あり。餘隙に位置するを以て道路沿りに交通便ならす。主邑野沙里の東、道石里には定期に開く市場あり。又無等山は嶺南の名山にて、西部の永坪里

より登路を通じ、頂に近く地蔵庵あり。ニセーカウシユベ 一山 大雪山の北方約一二軒、石狩川を距て對峙する山。北海道上川支隊上川郡愛別村に屬す。山容鋭し。ニセイはアイヌ語にて斷崖を云ひ、山名は斷崖を意味す。近年に於ては大正十五年、スキーにて登高試みられ、昭和四年夏、登頂に成功せり。登山は多く石狩川支流留邊蘆川の枝潭、茅刈別川を南東方に進行す。

ニセコアンヌプリ

ニセコアンヌプリ 一山 北海道、羊蹄山(蝦夷富士、一八九三米)の北西方約一三軒、尻別川を距て對峙する山。後志支隊虻田郡狩太村と倶知安町の境上に位置す。標高一三〇九米にして、北段はイカオプア山(硫黄山、一五五四米)に連る。尻別川は東・南麓を起りて西流し、流域に多くの開拓農場あり。全山皆山なれど、冬季は良好なるスキー地をなす。頂上には岩堆積山あり、硫黄を出す。山麓にニセコアンヌプリ温泉湧出す。

ニリコー

ニリコー 二層行溪 臺灣西岸の一河。源を鳳山山脈中に發し、高雄旗山郡内門庄の水を兼ね、西南流して高雄・臺南兩州界をなし、南部平野を貫流し、臺南市南方の海に入る。水源高峻ならざるを以て勾配緩やかに、河幅大ならず、水勢また穏かなり。和蘭時代はフエルト河(Vers Water)と稱せられ、又古く二寶行溪と云はれたり。河流も往時上下二流に分れ並行して海に入りし

が後ち合して一となり。河日また北方、現在の臺南州新豐郡永寧庄喜樹にありし如く、續修臺灣府志卷一に記して「合岡山、紅毛寮二溪、由喜樹港入海、臺風分界處、溪北屬臺南、溪南屬鳳山」と云へり。

ニタ 仁田

【仁田村】 長崎縣對馬國上縣郡の西部。西は朝鮮海峽に臨み、仁田灣を抱く。北境には御嶽・トウ坂等の山嶺連りて西岸に迫り、田原生時・伊奈時等西南方へ突出して仁田灣の北口を扼す。南境にも親木山・高野山・山田山・鹿ノ内山等の連嶺延びて西岸に唐ノ崎北方へ突出して仁田灣の南を擁す。東部には東北方よりつづく鳴瀧山・丸倉山等ありて村内の水を分ち、北麓の水は仁田川となりて西南流し、南麓の河川は西流し河口近くにて之と合して仁田灣に注ぐ。この山地の西麓は仁田灣頭にしてラップ状に灣口を西に開く。海岸は斷崖をなすも風曲に富み、仁田灣奥の仁田川河口に仁田港、仁田灣の南部には鹿見港あり。鹿見港は朝鮮貿易のための特別開港なり。林産・水産多し。村道多く通すれど陸上交通は不便なり。鹿見港より南方島根村及び北隣佐須奈村へ定期船の便あり。此地は和名抄、上縣郡伊奈郷の内。【仁田驛】 仁田村(長崎縣)【仁田島】 御嶽(長崎縣對馬島)の別名。ニタ 丹田 武藏國(埼玉縣)の古地名。

和名抄に後父郡丹田郷あり。その地いよ詳かならざるも後父郡野上村・白鳥村の境か。

ニタ 仁多郎

ニタ 仁多郎 鳥根縣出雲國の東端。鳥根縣十三郡の一。斐伊川源流地を占め東は鳥取縣と界し南は廣島縣に接す。郡形略々四角形を呈す。南境に中國山脈連りて毛無山・寶珠山(二六八米)・鳥帽子山・三國山等そびえ、三國山より北方へ連る山脈は船通山・玉峰山等を起して東境を限り更に西方へ延びて北境をなし三郡山等あり。西境にも銅ノ嶺山(一〇二六米)其他の山脈連り北方へ高さを減す。殆ど山地をなすも總じて西南部に低し。東南境に斐伊川上流原川發して中央を西北流し途中東北に發する支流を併せ中央西北偏に於て南境に發し西北流する馬木川を合し西北境に出でて北流す。河川流域の處々に僅少な低地あるも殆ど見るべき平地なし。稍々東部横田附近に盆地あり。米・藷・生牛の産あり。郡内一〇箇村を含み山地にある郡なる爲、人口密度も極めて小さく平均六八人にて最も多きも横田村の一四人を算するに過ぎず。道路は東部に横田村を過ぎてほぼ南北に通じ途中分れて西北方に走り大原郡大東町方面に出で、又西部を南北に走るもの等あれど、概して交通不便を免れず。和名抄に仁田と註し三處・布勢・津仁・三澤・阿位・横田の六郷を管す。後世ニと訓す。出雲風土記に見ゆる仁

多郎は現在仁多郎の地域及び龍義郡南西の一部を含みしもの如し。

ニタオ 仁田尾村

ニタオ 仁田尾村 熊本縣肥後國八代郡の東部。隔山村の別天地として有名な五家荘の一部。北は下益城郡那用町に接し、東は葉木村、東南は樺木村・推原村、西は梅迫村に隣る。千米以上の山地鑿立し、雁俣岳(一三二五米)・大金峰(一三九六米)・小金峰(一三三七米)ほど中部を南北に連互す。川邊川の上流は東南境を西南に流れ濁流を合せると、山深く平地に乏し。道路は龍川に沿うて通ずるも交通便ならず。人口は大正九年四二三人なりしも同十四年三七七人と減少し、以後やや増加し昭和五年には四二七人、同十年五三三人となり、一方新密度は僅に一六人とす。いま梅迫村・栗木村・久遠子村・推原村・葉木村・樺木村と共に組合町村をなし役場を梅迫村に置く。

ニタス 仁多須

ニタス 仁多須 神太郡岡支隊野田郡子能登呂村の大字。西海峯線の仁多須驛(大正十年設置)を置く。

ニタナイ 似内

ニタナイ 似内 省轄釜石縣の一驛(大正二年設置)。岩手縣神宮郡花巻町にあり。

ニチオ 日旺面

ニチオ 日旺面 朝鮮京畿道水原郡の東北隅。水原邑に北隣し、西北は始興郡、東は廣州・龍仁の二郡に隣接す。南北一八軒、東西五十八軒。北部及び東部は山地にて、清溪山(五四四米)・

光教山(五八二米)・兄弟峰など東境に連り、餘勢城内に延ぶるも、西部及び南部は一般に低平にして耕地發達す。米・麥・棉を始め果實・蔬菜の栽培盛なり。總督府鐵道京釜本線西南部を走り、水原驛(水原邑内)・軍浦驛(始興郡南面)に近く、鐵路の東方に釜山街道發走し、交通便なり。清溪山中に名刹普濟寺あり。

ニチク 二竹面

ニチク 二竹面 朝鮮京畿道安城郡の東部。郡邑安城の東約一五軒。大部分は低山性の山地にして、西境に徳成山(五七一七米)・七賢山・七長山、東境に白雲山・竹林山等連なり、北境には飛鳳山あり。余脈城内に及び、中部の毫味峯を分水嶺として北に清美川支流、南に美湖川上支流れ、特に清美川流域には肥沃なる耕地拓く。産物は米・麥・大豆・棉等を主とし、養蠶・果樹栽培行はる。北部には社線京南鐵道京釜線走り、竹山(昭和二年開業)・竹山邑内(昭和六年開業)・梅山(昭和二年開業)の三驛あり、竹山邑を中心として安城・長湖院・龍仁・慎安の各地へ何れもバスを通じ、交通至便なり。竹山邑は清美川支谷の盆地の中心をなし、米の集散を以て著る。此地は大正三年まで竹山郡廳の置かれし地。邑の北一軒に梅城あり城中に宋將軍の廟あり。附近を山城臺と稱し、將軍宋某が高麗高宗の時蒙古軍の來襲を防ぎ戦死せし地なり。七長山(四九二米)の中腹には僧慧昭の創建にかゝる名刹七長寺あり。

ニチゲツ 日月面

ニチゲツ 日月面 日南 臺灣鐵道縱貫線の一驛(大正十一年設置)。臺中州大甲郡大甲庄にあり。

ニチナン 日南

ニチナン 日南 鳥根縣石見國鹿足郡の北端。津和野町の東北約五軒。北は美濃郡高城村・豊川村・眞砂村・匹見下村に隣接す。面積一四・五一方軒にて本郡第二の大村。東部に安藏寺山(一六三三米)・燕嶽(一〇七九米)・香仙原(一〇五六米)ありて最も高く、北部には三子山(八〇〇米)・赤石山等あり。津和野川及び吉賀川は大甲日原にて合し高津川となり西北に流る。なほ中部の山脈は小分水嶺となり須川谷は北流し北境を西流する高津川の一支出見川に入る。概ね山地にして平地に乏しく、河川流域に僅に沖積地ありて田畑開け、木材・木炭も産す。國道山陰道は高津川・津和野川に沿うて走りバスを通ず。この地は和名抄、鹿足郡鹿足郷に屬せし地なりといふ。昭和十年日原村・須川村を合併して今日の日原村を建つ。(春日神社) 大字日原に鎮座。郷社。祭神、經津主神・武甕槌神外二神。古老の口傳に、古くより此地にありし古祠を、寛文十二年三好九郎右衛門なるもの神託を蒙りて社殿を造營すといふ。例祭、四月十三日。(八幡宮) 大字龍元に鎮座。郷社。祭神、多岐理思實命外五神。豊前國宇佐八幡宮よりの勸請と傳ふ。例祭、九月十五日。(八幡宮) 大

宇池に鎮座。神。祭神、應神天皇外二神。古老の石碑によれば、水津運興家祖...

ニツカ 日光

【日光町】栃木縣下野國上都賀郡の北部。東照宮の鳥居前町として發展せる一大觀...

原をなし、一部は温泉にして高山植物多し。南部には白樺原生林あり。戰場ヶ原...

省線日光線は大谷川に沿うて走り、熱湯日光驛(明治二十三年設置)を大字日...

八年勝道の徒教を以て座主職に任ず。これより先、下野國守伊公、任滿ちて京...

原秀吉寺領を再建、支院堂宇相次で復興せられ、家光三代將軍となるに及び天下...

家康發府に遷すや、その遺骸を駿河國久能山に葬りしが、遺命に従ひ更にその...

め、精巧なる彫刻を施し、金銀翠玉として觀を射る。一度は廟前に立てば兵馬の...

す。社地は東照宮に接し朱欄翠林の妙麗しく高野橋・三本杉等の瓦木その中に...

ニッコトニッコ

座主神堂、本坊光明院を建立す。元和三年徳川家康の遺骸を久能山より日光山に遷し東照大権現と稱してより一山の勢威大いに振ふに至る。承應三年後水尾天皇の第三皇子一品守禮法親王、公海の後を繼ぎてこれを管領し、詔によりて輪王寺宮を稱し給ひ、爾來本坊光明院を輪王寺と呼ぶに至る。堂宇中の一、立木觀音堂は中禪寺湖畔にあり、別に補陀落山中禪寺と號し坂東三十三所第十八番の札所たり。堂宇中、國寶に指定せらるるものには三佛堂・相輪塔あり。立木觀音堂本尊千手觀音像(木造)一軀は國寶、他の寺寶中、東照權現像八軀(紙本彩色)を初め十四點の國寶を藏す。輪王寺三佛堂の前には金剛櫻と呼ばるる櫻一株あり、根廻約五・七米根元より三大支幹に分る。黃芽白花芳香あり山櫻の珍しき品種にして天然記念物に指定さる。(華嚴湯及中禪寺湖) ↓華嚴湯・中禪寺湖。(金剛櫻) ↓日光町輪王寺。(湯元温泉) ↓日光國立公園。(日光並木街道) 指定史蹟。日光東照宮への參道は三方面に分たれ、北よりするものを會津街道(縣道今市若松線)、東よりするものを御成街道(縣道宇都宮今市線)、南よりするものを例幣使街道(縣道鹿沼今市線)と稱す。この三街道はいづれも日光の東約四軒なる今市にて會し、日光街道となりて日光町に入り山内に達す。この街道の並木はその起源相當古く、東照宮創建以前にして、そのうち

ちの或るものは恐らく二荒山神社參道の殘存物をも含めるもの如し。而し現在見る杉並木の大部分は東照宮建立後、寛永の初年に家康以來將軍の近臣なりし大河内正綱によりて植樹せられたるものなり。正綱幼少より家康に仕へ並々ならぬ恩顧を受けしを以て、その薨後には改葬改葬の際をばじめ、社參及び山内の事務に携はり、報恩的行爲を示せしむ、その最も顯著事例として杉並木寄進を思ひ立つに至り。かくして前記三街道の兩側並に山内に延長十里の植樹をなし、爾後二十餘年の風霜を経て成就するに至り。而して山内及び街道の起點三箇所各々正綱の名による奉納文を刻せる碑を立てたり。そのうち山内神社にあるもの全文次の如し。自下野國日光山菅橋至國郡都賀郡小倉村同河内郡大澤村同國郡大桑村歷二十餘年植杉於路邊左右并山中十餘里以奉寄進。東照宮 慶安元年戊子四月十七日 從五位下松平右衛門大夫源正綱 他の三碑もほぼ同文なり。街道の植樹は凡そ三間に互る路面の左右に並木敷を設け、その植樹各々一方に於て狭きは二間より廣きは十三間に及ぶ。その高き路面と等しきものあり、また高く堤防形をなして數町の長きに達するものもあり、そこに立つ杉木は殆ど全部杉樹なり。後年植樹のため若干の檜・松等も混在す。その數約一萬八千本を數へ今に美觀を呈するも、就中日光・今市間及び

例幣使街道に於て顯著なり。次に前述の寄進碑は俗に境石ともいひ、いはゞ多少高位置を移動す。山内のもの最も大にして、高さ九尺五寸・横一尺五寸・横二尺三寸五分、他の三碑はいづれも同形、高さ五尺一寸五分・横一尺三寸五分・横一尺五寸、共に臺石を添ふ。大正十一年三月、街道並びに寄進碑とも史蹟に指定せらる。(明治天皇馬返御小休所) 指定史蹟。明治天皇、明治九年、奥羽御巡行の際、六月九日ここに御小休あらせらる。(明治天皇日光行在所) 指定史蹟。明治天皇、明治九年奥羽御巡幸の際六月六・七・八日の三日間ここに御泊あらせられたり。(日光植物園) 日光野の西二軒半の地點にあり。東京帝國大學理學部に屬し、園内にアスナロ・シラベ・シラビソ・ハビキヤクシヤ・コメダガ・ツガ等の樹木を植ふ、その間にシヤクナゲ・ナナカマド・トウキョウシ・サハゲルミ等あり、凡べて名稱を記せるにより、日光附近の植物名を知るに便なり。五月一日より十一月末日まで觀覽を許す。園内に御用邸の御庭石を下賜せられて作れる大正天皇行幸記念碑あり。(日光御尾スクイト場) 日光野の西四軒にあり。總面積二〇〇アール、結水面積一三〇アール餘、夜間照明の設備あり。近年主なる

スケイト大會場など此處にて開かる。日光町にはこの外金谷ホテル内・清瀧精湖所構内等にスケイトリンクあり、スケイトの町と稱せらる。 【日光國立公園】 栃木・群馬・福島・新潟の四縣に跨り、面積約五六、九〇〇ヘクタール(約五七、四〇〇町歩)を占め、土地は大部分御料林・國有林・私有地、社寺有地にして一部に公有地を含む。昭和九年十二月四日、國立公園に指定せらる。本國立公園の區域は本邦有數なる山岳地帯たる謂ゆる日光火山群及び白根火山群の占むる領域にして、鬼怒川・只見川・片品川等諸川の水源地方を構成す。山岳に於ては白根山を始め男體山・女體山・太郎山・櫻岳・玉佛山等の高峯峻岳重疊し、その間中禪寺湖・湯ノ湖・菅沼・尾瀬沼等の堰塞湖は各々特色ある湖景を展開し、之等山峯を點綴して戰場ヶ原・尾瀬ヶ原・鬼怒沼・高瀬平等の湖原それぞれ特色を假へり。全區域に亘りて山腹・山麓を藪・森林に類する多種類におよび、山頂には高山植物の御花畑を散す。更に之等を飾るに那殿瀧・三條の瀧・霧降瀧を始め多數の名瀑を懸くる等優秀なる風景要素を具へ、且つ變化に富めるは本公園の一大特徴にして到底他國に得ざるゝところなりとす。而して自然美に加ふるに日光東照宮の建築物の如き世界的に著名なる人工美を以て、既に自然と人工の融和を發揮せり。更に斯々に整

日光

富なる温泉を湧出して利用の好根據地をなすは本公園の價値を尙一段と高むるものと謂ふべし。本公園の利用方面としては自動車觀光・史蹟社寺巡禮・ハイキング・登山野營・舟遊・釣魚・温泉浴の外動植物・地質等學術上貴重なる資料を藏する一大寶庫として自然研究に於て特に優れたる素質を有せり。尙ほ冬期はスキ・スケートの好適地として近年頗る名聲を高むるに至れり。本公園はかくの如く各方面に於て利用價値を有し而も帝都に近く交通亦至便なるは國立公園として最も重要な強味なりとす。

主なる勝地

〔日光山内一帯〕 大谷川の清流に朱色鮮に染する神橋一帯を以て本公園東部の入口とす。神橋の背景をなす蒼鬱たる老杉の森林に圍まれて東照宮・二荒山神社・輪王寺・大猷廟その他の建築物輪奐の美を假へり。 ↓日光町

〔女峯山・赤嶽山一帯〕 日光山内の北部には女峯山(二四六四米)・赤嶽山(二〇一〇米)の高峯聳立し、稻荷川・板穴川・荒澤等の水流を發し、霧降・裏見・寂光等の諸瀑布を懸く、一帯は登山・ハイキング地として近時多數の利用者を吸引するに至れり。

〔大谷川流域〕 神橋を後に大谷川左岸の縣道を西行すれば、日光西町の市街を経て日光御用邸・日光植物園に達す。附近の大谷川は含湯々潤なる溪谷美をなす。更

ニッコトニッコ

に潤れば昔の工場街を過りて馬返に至る。馬返は奥日光探勝の要衝に當り中禪寺湖畔に至るに二途あり。一は劍ヶ峯を攀づる羊腸たる自動車道により一はケイアルカーにて明智平に至り更に自動車専用道路により湖畔に至る。那殿瀧は本邦有數の名瀑にて直下約一〇〇米、瀧壺の深二五米、男體山岩の噴出により形成せらる。觀瀑には先づ瀧屋上の瀧見茶屋より俯瞰して後瀧壺を下り白雲瀧を経て瀧壺前の五郎平茶屋に至る。瀧見茶屋より五郎平茶屋まで地下ケイアルカーの便あり。

〔男體山と中禪寺湖〕 男體山(二四八四米)は本公園の東南部に位し、中禪寺湖の北に聳立す。湖面を抜くこと一二〇〇米、コニテ型の瀧壺なる火山にして頂上に略々圓形の火口壺を有す。山腹は全部森林を以て蔽はれ、所々に瀧と稱する放射谷發達せり。山頂より關東一帯の展望頗る雄大を極む。最も一般の登山道は南山麓より通ずるも他に志津小屋方面よりコースあり。北方に大眞名子山(二三七五米)・小眞名子山(二三二五米)および太郎山(二三六八米)の諸火山を從ふ。中禪寺湖(一名平ノ湖)は男體山と共に日光に於ける風景の核心をなす。本湖は男體山の熔岩により生じざる堰塞湖にて東西の長さ六・五軒、南北一・八軒、面積一二方軒、最深部一七二米を數ふ、水色濃藍色にして美觀を呈す。湖の東南部陸

に近く上野鳥の小島鴨浮ぶ。湖中湖を産す。湖邊一帯夏期清涼にして避暑に適し古くより外國使臣の別荘多し。東隅大尻川の落口に臨む中宮祠は交通・宿泊等觀光の一要地にして旅舎・賣店軒を並べ、舟遊・釣魚の設備あり。男體山登拜・湖上舟遊・華嚴瀧見物・スキ等々の根據地たり。東岸歇ヶ原には中禪寺(俗稱立木觀音)あり、延暦年間開闢上人の創建にかゝる。本堂に國寶千手觀音を安置す。湖畔の一勝地にて男體山を眺むる風景は風に入りに麗はる。湖畔の歩道を更に南すれば八町出島・阿世湯を経て阿世湯畔に至る。男體山・中禪寺湖の大觀に接するを得。二荒山神社は湖の北岸に位す、中宮を祀る。湖の北岸に沿ひ觀音たる瀧壺の樹間を西すれば高瀬ヶ原に達す、旅舎・賣店軒を並べ觀光の一要地たり。帝室林野局所屬の美觀場あり。附近に湯ノ湖より往く湯川の落口あり、高瀬ヶ原の西北の華嚴なる龍頭瀧を懸く。湖の西岸は千手ヶ原の平地地をなして湖邊を千手ヶ原と稱し、男體山を望む風光は絶佳なり。濱の南方に勝道上人建立の千手觀音安置せり。千手ヶ原の西端に西ノ湖あり原始林に圍繞せられ湧水を湛ふ。徑五〇〇米、水深一九米。中禪寺湖一帯は四季共に賞すべきも特に新緑・紅葉の候はそ

の勝景天下に著はれ旅客夥し。

〔戰場ヶ原・湯ノ湖・湯元温泉〕 戰場ヶ原は男體山の西方に展る廣大なる湖原にして一名赤(湖邊)沼原と稱し、中禪寺湖水面上一〇〇米の高さを有す。もと湖沼なりしも次第に湖原の特質を失ひて草原に移行しつゝあり。原上點生する落葉松を主景観となし、全域に亘りて高山植物・湖原植物を藏し植物學上貴重なる研究の地たると共に五・六月の候優美なるお花畑と化し一名所たり。原の西方に湯川貫流し水邊樹叢を以て採取られ植物のハイキングコースをなすのみならず、湖の好釣魚地たり。小田代原は戰場ヶ原の西南端に展りミヅナラの純美林を以て飾る。原の略中央の一名勝三本松より北すれば北端に光徳沼の仙鏡あり、一帯は放牧地にして附近は野營等自然生活に適す、尙ほ北すれば山王峠を経て金山として著名なる西澤金山に至る。戰場ヶ原を北行すれば前白根山の東麓に勝瀧地帯ノ湖一帯の風光に接すべし。湯ノ湖は南北一軒、東西半軒の小湖なるも、東岸兎島の半島をはじめ變化ある湖景に富む。湖中湖を産す。南方湖尻に湯壺を懸く、水は湯川となり中禪寺湖に注ぐ。湯元温泉は湯ノ湖の北岸に湧く純美泉にして、旅舎・賣店等諸施設最も完備し、白根山登山始め奥日光・尾瀬方面探勝の重要據點をなす。夏期の氣温頗る冷涼なるを以て絶好の避暑地をなし、冬期は良好なるスキー地となり、近年東京附近のスキー地として一躍名聲を騰するに至り、縣營スキー小屋・賣店等完備しつゝあり。湯元

日光

東州、委任統治地の南洋諸島あり。日本列島は北東部の千島、中央部の本州、南西部の琉球及び臺灣の三島列より成り、いづれも太平洋側に突出し、大陸との間にそれぞれオホシタツ海、日本海、東支那海の諸海を挟む。朝鮮半島は大陸の一部にして南方に突出すること約一〇〇軒、東は日本海を限り、西は中華民国との間に黄海を隔て、南は本州島の西端部と一帯帯水の朝鮮海峡を挟み、恰も大陸に向つて架せる橋梁たるの觀を呈す。關東州は黄海を隔て、朝鮮の西方に位し滿洲國南端の門戸に當り、南洋諸島は北太平洋の西南部に散在しマリヤナ、カロリンおよびマーシャルの三群島を含む。かくて日本の境界は樺太が北緯五〇度線によりて蘇聯領に、朝鮮が鴨綠・豆滿の兩江によりて滿洲及び蘇聯領と接する外は海洋によりて圍まる。試に帝國の四端を見るに、極東は南洋諸島、レ島の東經一七二度七分、極西は臺灣澎湖諸島花嶼の東經一九九度一分、極南は南洋諸島アニゲ島の北緯一度四分、極北は千島阿留度島の北緯五〇度五分にていづれも島嶼の先端なり。日本列島の大部分を占むる千島・北海道本島・本州・四國・九州・琉球及びその附屬島嶼は一に内地といひ實に帝國の本土たり。この内琉球は明治五年に、小笠原諸島は同八年に、千島列島も同年日露兩國間の千島樺太交換條約によりて我が版圖に入りし。

のなり。爾來産業の發達、人口の増加は國力の進展を助け、明治二十七八年(日清)戰役によりて臺灣を加へ、明治三十七八年(日露)戰役の結果樺太島南半を割かしめ、又關東州の租借權を繼承し、明治四十三年日韓併合の約成りて韓國を併せ、これを朝鮮と改稱し、更に大正十一年歐洲大戰參加の代價として舊ドイツ領たりし南洋諸島の統治を委任せられ、以て現在の領土を有するに至れり。帝國の面積は關東州・南洋諸島を除き約六七・五萬方軒あり、このうち内地(本土・本國)は三八二、五四五方軒ありて全土の五六・六%餘を、外地(植民地・屬國)は二九二、八〇五方軒にして全土の四三・三%餘を占め、しかして外地は内地の約七七%に當る。これを列強に比較するに本國面積に於ては蘇聯・米國・中華民國等に遙かに劣り、獨逸(五五・三萬方軒)・佛蘭西(四五・一萬方軒)・伊太利(三一・一萬方軒)・英吉利(二四・五萬方軒)等と相伯仲す。たゞ歐洲列強は我が國

Table with 3 columns: 地方 (Location), 面積(方軒) (Area in square fukuro), 千分比 (Percentage). Rows include 内地 (Inner Land), 北海道九州沖縄 (Hokkaido Kyushu Okinawa), 朝鮮 (Korea), 臺灣 (Taiwan), 帝國總計 (Empire Total), 東州 (Kanto), 南洋 (Nanyang).

時代に既に大いに植民地の擴大に努力せるため多くは本國に比して數倍乃至數十倍に達する海外領土を有す(獨逸はその全部を喪失せり)。然れども今や未開發の資源の多くを有する南洋滿洲國建設せられ、これと不可分の親善友交關係を確立するあり、また我が領土は廣範圍に點在する島嶼より成るもその間少くも他國領に中斷せらるることなく、更に物資之源の無盡蔵なるアジヤ大陸に近接する等の點に於て頗る有利の地位にありといふべし。

謂ゆる糸魚川—靜岡斷層線と稱せられ、この東側に沿ひて噴出せる妙高・墨敷・八ヶ岳・富士等の富士火山帯ありて南北兩帶即ち北日本(東北日本)・南日本(西日本)の兩山系に分たる。本州領南端即ち南日本は内外二帶の平行構造の最も顯著なる部分にて、その境界をなす中央斷層線は諏訪平にて糸魚川—靜岡線より岐れ、天龍川東側の支流三峯川・遠山川・水窪川の谷を經、豊川谷より濃美灣に出で、紀伊半島にては藤田川・紀ノ川、四國にては吉野川・佐野川に沿ひ高麗半島の南麓より松山に達し、更に九州にては大分より西南方の八代に至り、別にその北方には大分—伊萬里の斷層線ありてこの間に長崎三角地塊を挟む。以上の界線の前には横ばる外帯は濃美・伊勢の兩帶・紀伊水道・豊後水道の兩段によりて、糸魚川—伊萬里の斷層線に接し、石・紀伊・四國・九州の四山地に分かるも新舊の地層の整然たる帶狀配列を失はず。内外帯を分つ斷層線は直接片岩、その外側には御存群層(輝石片岩・千枚岩等)・秩父層(珪岩・角岩・石灰岩・凝灰岩・砂岩・粘板岩・千枚岩等)の古生層、更にその外側に三疊紀・侏羅紀・白堊紀に亘る中生層(砂岩・粘板岩・石灰岩等)、次に最外側に第三紀層(砂岩・礫岩・頁岩・凝灰岩等)順次に配列し、廣狹種々の傾斜をなす。かかる整然たる地層の配列は地形にも影響し、古生層の部分

最も高く中生層・第三紀層と次第に低下し、殊に第三紀層の部分には海成段丘の原形を遺存す。南野外帯の最東部は糸魚山系にて東は糸魚川—靜岡の斷層線によりて隔たれ、西は東北—西南の方向を走る中央斷層線に隔られ、諏訪湖を頂點とし遠州海・駿河灣岸を基底とする謂ゆる赤石横山塊をなし、その北部には高度三〇〇〇米内外の甲斐駒・白峰・赤石等の雄峯連立し、南日本アルプスと稱せらる。高山地帯をなすも、南部は次第に低下して太平洋に没し、駿・遠・三の三國沿岸には安倍・大井・天龍・豊川等の諸川の沖積平地と山麓臺地を始め諸名湖の如き湖谷をも有す。伊勢灣と紀伊水道の間は即ち紀伊山塊の地にて、他の外帯地塊と同しく中生代末には一旦波狀の準平原と化し、後再び隆起して現形を形成せるものにて大臺ヶ原山・高野山等に存する高原性波狀面はその準平原の殘存部と考へられ、この山塊の中央部を南流する熊野川の上流たる十津川・北山川等の蛇行谷はまた準平原面上に生ずる曲流が其まゝ、嵌入せるものなり。この二川の間にある大塚山脈は一七〇〇—一九〇〇米の高さを有する大天井・山上・彌山・群山ヶ岳等南北に連り、夙く役ノ行者によりて開かれて修驗道の靈場となり、近くは大和アルプスの名を以て聞ゆ。これら大塚・大臺ヶ原兩山より東西に進めば山地は次第に低夷し河流も亦柳田川・宮川・

有田川・日高川の如くに東西の流路をとる。東岸の二見浦・鳥羽・美濃灣・熊野浦の奥ヶ城・湖ノ浦・大島、西岸の田邊灣・和歌ノ浦等の海岸美、熊野川・古座川等の瀨谷美は紀伊山塊に於ける景勝地として著る。四國にては北部の讃岐・高麗兩半島を除く大部分は外帯に屬する四國山脈にして、地層の帶狀配列の最も整然たる部分をなし、地形は大體紀伊山塊に類し、最高峰は東の剣山(一九五五米)、西の石鎚山(一九二二米)なるも、後者は隆起準平原面上に噴起せる火山岩の峰頂なり。河流は概ね地層の走向に平行して東西に流るも吉野川はその中流に於て三波川層を横斷して謂ゆる大歩危・小歩危の深谷をつくり、仁淀川も上流にて古生層を横ざりて横谷をなし、四万十川・鮎川は縱谷或は横谷を流れて複雑なる流向をとる。西部豊後水道の沿岸は標式的沈降海岸をなし八幡濱・宇和島・宿毛等の良港地を擁す。九州の中部即ち大分—八代斷層線以南は明かに外帯に屬するもその九州山脈中にて三波川層は東北部の佐賀關半島に露はるのみなるに古生層・中生層は頗るよく發達して東北—西南の層向を示し中部に於て五家ノ莊の山地を包含す。祖母山(七五五米)・市房山(一七二二米)等を最高峯とするも共に石英斑岩の巖頭たり。また九州南部の宮崎—川内線以南の中生層は主として南北の層向を示し、地形もまた南北の方

向に走り、構造上は寧ろ琉球弧の一部なりが如し。四國の内帯、外帯の北側を略東西に連り全體に外帯より幅廣き地塊を占め、東部に於て最も廣く且つ高さも、西するに従ひ次第に狭く且つ低下す。外帯と同じく古生層・中生層より成るも第三紀以前に於ける剝離作用を受くること特に甚だかりしためその上層部は剝離し盡され、皆てその下底より進入礙固して岩盤となれる花崗岩質の處に露出し、特に中國山塊に於ては古生層・中生層は不規則なる輪廓をなして花崗岩類の間に殘存するに過ぎず、また外帯に於て少く第三紀層の分布多く、地層は頗る複雑を極め、東北より西南に貫く構造線は外帯に於けるよりも顯著に發達し塊狀或は板狀をなす幾多の地塊に分たる。内帯の東端をなせる飛騨山塊は南北に延びて東は飯川谷—松本平斷層線によりて隔たれ、西は飛騨高原に隣る。大部分は花崗岩より成り槍ヶ岳(三一八〇米)を主とし高度三千米内外の峻峯を連れて謂ゆる日本北アルプスと稱せられ、北部は我國第一の深峽墨部峽谷によりて立山・後立山二山脈に分けらる。この山塊の東南には木曾駒の連峯をなす地盤山脈、その西には高原性の木曾山塊ありて共に槍・樺等の良材を産するを以て聞ゆ。また飛騨山塊の西には主として古生層・中生層より成る飛騨(濃美)の高原あり、濃・飛・加・越の四國に互りて展開しまた良材を産す。

その北に富山平野、西北には加賀平野あり、また飛騨高原の南、木曾山塊の西には木曾・長良・揖斐三大川の沖積によりて成せる濃尾平野横ばる。飛騨高原・濃尾平野・伊勢灣以西の内帯は畿内(近畿)地塊・瀬戸内陸地帯・丹波高原・中國山塊・筑紫山塊となる。畿内地塊には東に鈴鹿、中部に笠置、西に金剛(葛城)の南北に延びし三地塊あり、その間には伊賀・奈良(大和)の二盆地を挟む。瀬戸内陸地帯は若狹灣に起りて琵琶湖(近江)盆地・山城(京都)盆地・大阪平野を経て大阪灣に出で、西方周防灘に達する瀬戸内海をつくり、その西端は九州北部におよぶ。この地帯は略東西—西南—西南—西北—東南等數々の方向に走る斷層線ありて大小多數の地塊に分れ、それらが斷層的に沈降せしために造られたるものにて、沈降度の大小により或は琵琶湖・大阪灣・播磨灘・備後灘・安藝灘・伊豫灘・周防灘等の海面となり、或は若狭山地・宇治靉靄丘陵・淡路島・小豆島・藝予群島・筑紫山塊等の山地・島嶼となれり。而して四國北部の讃岐・高麗兩半島も亦内帯の一部にしてこの瀬戸内地帯に屬するものなり。この階段地帯の北を東西に延びて大平島をなす部分の東端は丹波高原にて主として古生層より成り、殆ど第三紀末の水平のまゝに隆起せしため保津川・由良川等は曲折蛇行してその間に著しき分水嶺を認めず、川筋には龜

四・國部・徳部・福知山・篠山等の小盆地を有す。この高原の西に續く中國山塊は古生層とこれに進入せし花崗岩を主とし、中生層と第三紀層は層々に侵襲し更に第三紀末より第四紀に互りて噴出せし石英粗面岩・安山岩等またこれを被ふ。且つ地盤は東北—西南の斷層とこれに直交、若くは斜交する多くの斷層により多數の小地塊に分たれ、また大體は一旦準平原となりて後東西に走る北寄りの軸に沿ひ層形に隆起せるものにて河流は多くこの軸と直角に南若くは北に流る。これらの河流が堅硬なる花崗岩・石英粗面岩上を流るる處は三段峽・豪溪・長門峽・斷魚溪の如き、また石灰岩の地には奇麗峽・神代峽の如き峽谷をつくる。海岸は沈降海岸特有の島嶼・峽灣に富み、特に北岸に於ては日本海の波濤の侵襲をうけ若狭の蘇門・但馬の御火之浦・因幡の浦富海岸・出雲の美保ノ浦・日ノ御崎・石見の墨ヶ浦・長門の須佐浦・青海島等の洞門・斷崖の奇蹟をつくる。九州北部の筑紫山塊は地質上は中國山塊に續き、地形上は瀬戸内陸地帯の一部に屬す。その古生層・花崗岩より成る山地の中間には第三紀層發達し石炭の埋藏多く筑豊炭田を以て知らる。筑紫山塊の南、即ち大分—伊萬里線、大分—八代線の間には在する長崎の三角地塊はまた瀬戸内海に續く前陸地帯にして、第四紀に入りて兩子・由布・九重・阿蘇・金華等の諸火山

群噴出して陸地となり、また雲仙・多良の火山噴出して西彼杵島も半島となりしものなり。而して三池・唐津・佐世保・松島・高島等に炭田を有することは筑紫山塊に類す。曰北日本の外帯。本州山塊北帯、即ち北日本(東北日本)山系も亦南帯(南日本)山系の如く内外二帯より成るも、彼の層向のほぼ東西なるに比し、これは寧ろ南北の方向を辿り、しかも外形の比較的単純なるに似ず構造には甚だ複雑なるものあり。北日本外帯の南端をなすは關東山塊にして、糸魚川—靜岡斷層線を隔てて南日本外帯の東端をなす赤石山塊に對立し、地層の配列も同一なるも層向は大いに異り、赤石山塊の略南北なるに反し、これは西北西より東南東にて略東西に近き方向を示す。その東北即ち利根川斷層に接して三波川層の南に御狩層、更にその南に秩父層・中生層あり、また山塊の西南部に金峰山(二五九五米)を中心として花崗岩のかなり廣き露出あり、二千米以上の高峯群起し、河流これを解析し到るところ險谷をつく、東北に漸く低下しその險谷をなす、第三紀層の秩父盆地を擁す。關東山塊の南には、相模川の斷層谷を隔て、丹澤山塊あり、第三紀層とこれを貫きて噴出せる石英閃綠岩より成る。これらの山塊は寄居—飯能—八王子—厚木の線によりてその東端を斷たれ、その東に本州最大の關東平野展開す。この平野は武蔵野臺地・多

摩丘陵・相模野臺地等の洪積層とその東に續く利根・荒・多摩等の諸川の沖積地より成る。平野の南東には東京灣を隔て、房總半島あり。大部分は對岸の三浦半島と同じく第三紀層の丘陵にて北部は洪積層の兩麓臺地に續く。この臺地の東北端には鏡子の小半島あり、ここに關東山塊の延長と見るべき古生層・中生層の斷片再び露出す。外帯山系はここに一旦海中に没するも、更に九〇度以上の轉回をなし、再び北方の牡鹿半島より起りて北上山塊となり北方に連ること約二五〇科、南部には三〇〇米内外の準平原面をのこし、中部以北には早池原山(一九一六米)を最高とし、一〇〇〇—一二〇〇米の準平原面をなす。北上山塊の西方には北上用・馬淵川の斷層ありて内帯の奥羽山塊と接し、東岸は種々の方向の斷層によりて斷たれ沈降海岸の特相を示す。外帯の古生層の北端は再び津輕海峽に沈むも、三度及び北海道の南端の禮堂崎に現はれ、北方に走りて中軸山塊(日高山脈・北見山脈)となる。中軸山塊の西には夕雲山脈とその延長たる隆起帯、更にその西には豊平・増毛・留萌の山塊あり、前二者の間には富良野・旭川・名寄の三盆地をつなぐ凹地帯、後二者の間には千歳・石狩の二平野、石狩川支流の兩龍溪谷の凹地帯等あり、石狩平野の一部は西方の豊平・増毛兩山塊の中間に横がる。樺太島にては東南部の鈴谷山脈、北東部の東北

山脈(北樺太東岸山脈)は中間のタライカ湖によりて斷たるも北海道の中軸山脈に續くべきものにして、西の樺太山脈(樺太西岸山脈)との間には南に豊原、北に幌内の兩地溝帯をはさむ。曰北日本の内帯。關東山塊の北に主として古生層より成る足尾山塊、花崗岩多き帶嶺山塊あり。足尾山塊の東には鬼怒川平野と那須野原を隔て、また主として古生層より成る八溝山塊及び主として花崗岩に被はる筑後地塊あり、八溝山塊の東北には久慈川谷・阿武隈川流域の安藝盆地・福島盆地を狭めて阿武隈山塊南北に延び、阿武隈山塊は主として花崗岩及びその變成岩たる花崗片麻岩より成り、南部には古生層、北部には中生層の小露出あり、東西の縁邊に第三紀層の丘陵帯ありてその南部には常磐炭田の含炭層を有す。全體に高原性の準平原にして中央西側部は三—五百米、東するに従ひ次第に高く七—八百米の平均高度を有し、その一部に大瀧根山(一九三三米)・天王山(一〇五八米)・矢代區山(九六五米)等の高峯あるも、これらは岩質の粗硬或は環狀斷層等によりて特に隆起せる殘丘に過ぎず。阿武隈川より北上川に續く斷層谷を境としその西方には、西は日本海に連し、北は津輕海峽に至る廣大なる内帯地塊は第三紀層とこれを破りて噴出せる火山岩より成り、東の奥羽山塊、西の越後山塊・出羽丘陵の二條の隆起帯をなす。奥羽山塊

は南北約五〇科に達し、太平洋・日本海兩側面の分水界をなすも、火山の頂きを除けば一般に低く、最高の新寶岳も一四四〇米に過ぎず。出羽丘陵は隆起の程度更に少なく、緩漫に褶曲せる第三紀層の平行斷層を伴ひて隆起せるものにして、大部分は丘陵性を呈す。たゞ南端部は第三紀層の基底に横はる花崗岩・古生層等を各所に露出し、山勢峻険なる越後山脈となり合津駒ヶ岳(二二二二米)の高峯を起す。三國山脈も亦その延長と認めらる。奥羽山脈と出羽丘陵・越後山脈との中間には南北に一連の凹地帯ありて岩木・能代・御物・最上・阿賀等の諸川の主流地帯をなし弘前・大館・毛馬内・横手大曲・山形・米澤・會津等の諸盆地をなし、岩木川は北流し、その外は皆出羽丘陵・越後山脈を截り、西流若くは西北流して日本海に注ぐ。また關東山塊の西に發し三國山脈の西を繞り、北流して日本海に注ぐ信濃川の主流には佐久平・善光寺平の盆地、下流には越後平野あり。四千島嶼と琉球嶼。千島嶼はカムチャツカ半島をなす褶曲山脈の延長部にして、北海道本島の中央部に於て本州嶼の北帯(北日本山系)に結合するものなり。また内外二帯より成るも、外帯に屬する部分に鋼路附近より根室半島を経てその東北海上に存ぶ水島・志賀島・色丹島等の數小島にて絶え、他は全く海中に没す。その内側の西南より東北に連る國後島・

樺太島以下東北端の古守島に至る諸島をなす多數の島嶼は内帯に當り、主として第三紀層より成り、上に幾多の火山を戴けるものなり。從つて低地乏しく氣候また寒冷にて水産以外には産業上見るべきものなし。琉球嶼は南日本外帯の西南端と臺灣をつなぐものにて、また褶曲山脈の頂部が所々に海上に現はれ一連の島列をなすものなり。種子島・屋久島・大島(奄美大島)・徳之島・沖永良部・沖繩島・宮古島・石垣島・西表島等はその外帯に屬し、種子島の新第三紀層の段丘なるに比し、西南の屋久島は中生層を貫ける花崗岩より成り、中央部に時々八重岳の最高峰宮之浦岳は標高一九三五米に達す。大島と沖繩島の東北部國頭地方は古生層にして海拔五百米以下の高原性をなし、沖繩島西南部の島尻地方をはじめ、留儉の島嶼は隆起珊瑚礁に被はれて琉球嶼の特色を示す。以上諸島の内側に在する土噶喇諸島・鳥島・栗國島・久米島・尖閣諸島等は内帯にして何れも火山島なり。曰臺灣。臺灣も一箇の褶曲山脈にてまた内外の二帯より成るも、本州嶼・琉球嶼等とは反對に外帯は内側に、内帯は太平洋側に在す。その境界をなすは花蓮港—臺東間の凹地帯なり。外帯には始生層・古生層・中生層・第三紀層と舊より新の諸層が東より西に並び編みとなして略南北に走り、東西の分水界をなす脊梁(臺灣山脈)は係紐・白雲の中生層にして

我が國の最高峯新高山(三九五〇米)を始め、秀姑巒山(三三三三米)・丹大山(三三七一米)・能高山(三三九九米)・薯蕷山(三三六〇五米)・合歡山(三三九四米)・南湖大山(三三九七米)などの高峯を擁し、高度に於て帝國第一の大山脈をなす。西側には次高山脈・阿里山脈、更に岳麓段丘あり、その西には臺灣平野展げ主要産業地帯をなす。東岸に沿ふ臺東山脈は内帯にて、第三紀層と之を貫ける火山岩より成り、長さも短く幅も狭く、高度も亦低くして一千米に及ばず。内朝鮮。朝鮮は古く大陸の一部にて始生代末以來既に陸地たりし處、その後局部的には海面下に没せし處あるも大部分はたゞ隆起と削磨を繰り返せるのみなれば褶曲山脈の特徵たる隆々たる山容を示すもの少く、その一部に既に殆ど全く準平原と化せるを見る。是等の古き地盤も中生以後の大變動のため幾多の斷層によりて斷たれ今日の地形を呈するに至りしものにて、東岸に於ては東朝鮮灣の中部なる永興灣以南の北北西—南南東、以北の南西—北東東の二大斷層線ありて南北朝鮮の二大地域に分つ。北朝鮮の主要褶曲山脈は南西—北東東に走りて東に高く西に低し、略中部に高度千米以上の蓋馬高原あり、その南邊を限る赴戰嶺山脈の東南側は東朝鮮海岸に急下し、東には北境に時々靈峯白頭火山より延びし熔岩臺地の摩天嶺山脈南北に連る。摩天嶺山脈の東には、

小長白山脈略南北に走りて冠嶺山(二五四一米)の如き高山を擁し朝鮮第一の峻嶺をなす。北朝鮮の西部には豐原嶺・秋嶺・妙香等の低山脈南西に並走し、次第に低下して西朝鮮灣北東岸の平野に達す。その南方、即ち北朝鮮の西南部は古生代・中生代に海面下に没せし部分にて略東西の層向を有する石灰岩・石炭層等に覆はれ緩漫なる起伏面を有す。朝鮮に於ては東西の分水界をなして高度千五百米を有する大白山脈北北西—南南東の斷層線に沿ひ、日本海に偏して隆起し、東側は直に水深五百米以上の海底に急下し、西側は西南に向ひ緩く傾き、車嶺・盧嶺・小白等の數箇の支山脈を派生す。大白山脈の北部には花崗岩より成る金剛山(一六三八米)塊あり、奇峰・怪岩・溪谷・森林の美を兼ねし東洋第一の景勝地と稱せらる。大白山脈と小白山脈間には洛東江流域の低地、小白山脈と遼東山脈との間には榮山江・鏡津江上流の平地、遼東山脈と車嶺山脈の間には錦江流域の平地あり。山地は主として片麻岩・花崗岩等より成り、小白山脈の南部には智異山(一九一五米)の如き稜形的高峯あるも地勢一般に緩漫にして高山を認めず、低地帯にも波狀の丘陵地を見るのみ。南岸は山地の尖鋭沈降せる處にして牛島港灣の出入、島嶼の散布頗る多く朝鮮多島海の稱あり。西岸も沈降海岸にて島嶼出入に富み、且つ大河の河口には沙濱・砂洲發達

ニッホ——ニッホ

し、湖砂干満の差多きと相俟ちて淺淺の泥海廣き特色となす。西南海上に位置する濟州島は中央に聳ゆる漢拿山(一九五〇米)等の噴出によりて熔岩臺地性を呈し、北緯北緯の白頭山と共に全鮮中の二火山岩地帯をなす。(4)火山帯。我國は太平洋沿岸火山帯の一部に當り、世界有数の火山國にしてその數約三百座に上る。これら火山の殆ど全部は内帯にのみ噴起してその山脈に俾容を添ふるもの多し。いまその分布によりて分てば十數の火山帯に分つを得べし。(1)千島火山帯。東北端の占守島より北海道本島中央部の大雪山群に至る内帯諸島に噴出し、約六十餘座を數へ、その中、阿蘇山・千倉・計吐夷・新知・得志富士・茂世路・知床硫黃・十勝の諸山は活火山なり。(2)那須(磐梯)火山帯。北日本内帯に於ける最も著名のものにて、南西端なる信越國境の淺間山に起り、日光・高麗兩火山群を経て奥羽山脈に伴ひ、更に北海道西部の諸火山となり樺太の鶴城火山群に及び、その數約六十。淺間山(二五四二米)・日光白根山(二五七八米)・那須岳・安達太良山・磐梯山・吾妻山・藏王山(刈田岳)・岩手山(二〇四一米)・恐山(燒山)・駒ヶ岳・有珠山・樺前山等はその主なる活火山たり。中にはまた十和田湖・洞爺湖・支笏湖の如きカルデラ湖を伴ふものあり。磐梯山の如きは明治二十二年大爆發をなし山體の北部を破壊し、山谷を埋めて磐原

湖その他の堰塞湖を生成せるを以て著しる。(3)島海火山帯。越後山脈・出羽丘陵に伴ふものにして島海山(二二三〇米)を盟主とし、北方には月山・岩木山、南方には苗場山(二四四五米)・岩菅山(二二九五米)・草津白根山(二六二二米)等十數座に及び、島海・日光白根はともに活火山に屬す。(4)寒風火山帯。男鹿半島の寒風山(三五五米)、北海道の大島に至る小火山帯。(5)富士火山帯。本州島をなす南北兩山系接合部の中間に噴起し南方は太平洋中のマリヤナ群島に向ふ大火山帯なり。即ち日本海にちかき妙高山(二四四六米)・黒部山(二〇五三米)等に始まり、墨科山(二五三〇米)・八ヶ岳(二八九九米)・茅ヶ岳などを經て雲峰富士山(三七七六米)、二重式の塔式火山たる箱根山あり、天城より伊豆七島の諸火山、更に南方の青ヶ島・島島を過ぎ硫黃列島に及ぶ。富士山・三原山(大島)・雄山(三宅島)・西山(八丈島)・島および南硫黃島附近の海底火山等はこの火山帯中の活火山なり。(6)乘鞍(御嶽)火山帯。飛騨山脈に伴ひ南北に並ぶものにて御嶽(三〇六三米)・乘鞍岳(三〇二六米)・燒岳(硫黃ヶ岳)・四ノ宮(八八八米)・立山(二九二二米)などを數へ、多くは三千米内外の高度に聳ゆ。(7)白山(大山)火山帯。飛騨高原の西部より山陰道の中を東西に並び、更に九州北部に噴起せるもの。即ち白山(二七〇二米)、その南西方の大日

四六四

岳、若狭の青葉山(七三二米)、但馬の間嶺山、播磨境上の水ノ山、中國第一の高山たる伯耆の大山(二七一三米)、雲石境の三瓶山、石見の青野山、九州北東端國東半島の兩子山、別府西方の鶴見岳・山布岳、その西南の九重火山群、熊本西方にある金峯山、島原半島の雲仙岳、その北なる多良岳等をいふ。(8)瀬戸内火山帯。南日本内帯の南部に沿ふもの。三河の風來寺山(六八四米)、大和の室生火山群、金剛山脈中の二上山、讃岐の小豆島・五剣山・屋島、飯野山(四二二米)、伊豫の興居島等これに屬す。いづれも小型にて二上山以外には火口を有する成層火山なきも古銅輝石安山岩・石槽石・雲母安山岩・石英雲母安山岩の如き珍らしき熔岩を有するを特色とす。(9)霧島火山帯。九州中部以南より琉球島の内側を傳ふもの。阿蘇山に始り日隔境に跨る霧島火山群、鹿兒島灣内の櫻島、薩南火山群を経て琉球島に入り屋久島・吐噶喇諸島・島島・粟國島・久米島等をなす。北緯の阿蘇山に霧島・白山・瀬戸内三火山帯の交叉點に位置するもの、最高點は中央火口丘の最高峰高岳の一五九二米に過ぎざるも、内帯は東西一六軒、南北二三軒に達し世界最大のものなること、有史以來屢活動し、今なほ盛に噴煙せること等を以て著しる。その他霧島山・櫻島・日本長島島・諏訪之瀬島・島島等も近年

活活動せる火山なり。(10)大屯火山帯。霧島火山帯の西南部に近く、東支那海中の小嶼高尾嶼・彭化嶼、臺灣の北端の大屯山(二〇四五米)より澎湖島におよぶ。(11)臺東火山帯。臺灣の内帯にあたる臺東山脈中の無名火山より東南海上の火燒島・紅頭嶼となり、更にフィリッピン群島の火山帯に終るものなり。(温泉)我國は世界有数の温泉國にして既に知られたる温泉の數は千二十餘ヶ所の多數に上る。温泉は火山と密接の關係を有するを以てその分布も火山地方を主とし、關東・奥羽・北海道・中部・九州の地方に多く近畿・中國・四國・臺灣・朝鮮に少なく、樺太・琉球等には極めて稀なり。今その主なる温泉地方を舉ぐれば、關東地方には箱根・日光・鹽原・那須・吾妻の地方、奥羽地方には吾妻安達太良山・飯坂・會津・藏王山・玉造・花巻・十和田八甲田・大野の地方、北海道には定山溪・登別・湯川・層雲峯・弟子屈・川湯等、中部地方には諏訪・平穩・妙高・日本北アルプス・山中川代のほか熱海・伊東・谷津・下賀茂・狩野川一帯等の伊豆地方。近畿地方には熊野・田邊。九州には別府・山布院・久住・雲仙・阿蘇・霧島・指宿地方を主なるものとし、中國地方には山陰の各所に、四國地方には道後温泉あり。

(氣候)我が國は南北に長くその緯南は北緯二一度四五分(臺灣恆春郡七星岩南

緯)北緯は北緯五〇度五分(千島阿蘇間)に互るを以て、地域によりて亞熱帯・溫帯・亞寒帯の氣候を有す。従つて、氣温・降水量も概して南に高く多く、北するに従ひて低く且つ少きを普通とす。試みに南・中・北の三地につき平均氣温・降水量を表示すれば次の如し。

Table with columns for location (東京, 香港, 台北), highest temperature (最高), lowest temperature (最低), and average (平均). Data includes values for different months and locations.

た四月頃にはこれと反對に、北太平洋中部に大氣壓部を生ずるため、蒙古及び西蔵高原に流入する氣流起り、臺灣附近にては南西、九州以北にては南東の季節風となる。但しこの季節風は冬のものと比すれば風力甚だ微弱に且つ多量の濕氣を含むも既に陸地は若しく高温となるを以

平均 降水量(年) 地形的降雨の原因となること 日本近海の海流に太平洋側を北上する黒潮、日本海を流る、對馬海流あり。寒流に千島の東南岸を南西下する親潮、樺太東岸を南流する樺太海流あり。この中對馬海流は冬の季節風により日本海沿岸地域の氣温を高め降水量を多からしむるを以て著し、親潮は初夏北海道の太平洋岸に、樺太海流は夏季樺太東岸に作用して陰鬱の天候を起さしむ。また黒潮は夏季に、季節風と共に太平洋岸の氣温・降水量に多少の影響を及ぼすもの、如し。氣温。氣温に就て見れば冬季に於ては概ね緯度の高低に反比例をなすは當然なるも同緯度の地に於ては日本海岸は太平洋海岸よりも稍高温を示す。又十月には全國中未だ未點下に降る處なきも十一月には樺太と朝鮮北部の内陸部とは既に氷點下となり、更に十二月となれば北海道・朝鮮中部以北はみな氷點下に降り一月には奥羽も亦

零下となり、何れも二月まで持續し、三月各地月平均氣温

Table showing monthly average temperatures for various locations from October to March.

月には北海道以北と朝鮮のみとなる。よ

Table showing monthly average temperatures for various locations from April to September.

ニッホ——ニッホ

四六五

